

SAS Activity-Based Management 7.2

ユーザーガイド



The correct bibliographic citation for this manual is as follows: SAS Institute Inc 2010. *SAS Activity-Based Management 7.2: User's Guide*. Cary, NC: SAS Institute Inc.

SAS Activity-Based Management 7.2: User's Guide

Copyright 2012, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

ISBN 978-1-59994-904-8

All rights reserved. Produced in the United States of America.

For a hardcopy book: No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise, without the prior written permission of the publisher, SAS Institute Inc.

For a Web download or e-book: Your use of this publication shall be governed by the terms established by the vendor at the time you acquire this publication.

U.S. Government Restricted Rights Notice: Use, duplication, or disclosure of this software and related documentation by the U.S. government is subject to the Agreement with SAS Institute and the restrictions set forth in FAR 52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987).

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

Electronic book 1, 2010 年 7 月

SAS Publishing provides a complete selection of books and electronic products to help customers use SAS software to its fullest potential. For more information about our e-books, e-learning products, CDs, and hard-copy books, visit the SAS Publishing Web site at support.sas.com/publishing or call 1-800-727-3228.

SAS and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. indicates USA registration.

Other brand and product names are registered trademarks or trademarks of their respective companies.

目次

SAS Activity-Based Management 7.2 の新機能	xv
--	----

1 部 入門ガイド 1

1 章・エレメント	3
活動基準原価計算	3
SAS Activity-Based Management	4
リソースモジュール	4
アクティビティモジュール	5
コストオブジェクトモジュール	7
外部ユニットモジュール	8
Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデル	8
2 章・開発ガイドライン	11
モデル構造の作成ガイドライン	11
モジュールの作成ガイドライン	14
ディメンションの作成ガイドライン	14
アカウントの作成ガイドライン	17
ドライバの作成ガイドライン	19
割り当ての作成ガイドライン	19
モデル、設定、データの共有ガイドライン	20
3 章・ユーザーインターフェイス	23
ナビゲーションペイン	24
ワークスペースマネージャ	27
ワークスペースマネージャタスク	30
ショートカットキー	32
ボタンおよびアイコン	34
ヘルプのヒント	43
JAWS Graphics Labeler の使用	45
ショートカットの作成ダイアログボックス	45
新しいフォルダダイアログボックス	46
SAS Activity-Based Management についてダイアログボックス	46
SAS Activity-Based Management のシステム情報ウィンドウ	47
4 章・ユーザーの権限とグループ	49
概要	49
権限	49
グループ権限	50
グループのメンバへの読み取りアクセス権、または読み取り/書き込みアクセス権の許可	50
所有者の変更	51
ユーザーの選択ダイアログボックス	52
5 章・ワークフロー	53
ワークフロー	54
SAS Activity-Based Management の操作	55

ログオンダイアログボックス	58
アイテムのプロパティダイアログボックス	59
タスクの管理ダイアログボックス	60
作業の要約ダイアログボックス	60
監査ログウィンドウ	61

2 部 モデル 63

6 章・モデルの概念	65
モデル	65
モデルモード	67
モデルワークスペース	67
7 章・モデルの操作	69
モデルの作成	69
モデルを開く	75
モデルが開かれた状態からモデルを開く	75
モデルの削除	75
コストの計算	76
キューブの作成	76
Information Map の作成に必要なメタデータの登録	76
期間/シナリオ関連付けデータのコピー	77
モデルのプロパティの変更	77
モデルの要約の確認	77
モデルの検証	77
モデルのコピー	78
8 章・命名規則	81
命名規則	81
参照規則	86
9 章・モデルウィンドウ	89
モデルあるいはコンテキストの変更ダイアログボックス	89
モデルの要約ウィンドウ	90
モデルプロパティダイアログボックス	91
モデルの検証ダイアログボックス	95

3 部 期間とシナリオ 97

10 章・期間	99
期間とシナリオ	99
期間の作成	103
期間レベル名の管理	104
新しい期間ダイアログボックス	105
期間の管理ダイアログボックス	106
期間のプロパティダイアログボックス	107
期間レベル名ダイアログボックス	108
11 章・シナリオ	111
シナリオの作成	111
シナリオレベル名の管理	113

新しいシナリオダイアログボックス	114
シナリオの管理ダイアログボックス	114
シナリオプロパティダイアログボックス	115
シナリオレベル名ダイアログボックス	116
12 章・期間/シナリオの関連付け	117
期間とシナリオの関連付けビュー	117
期間/シナリオ関連付けを作成する	118
現在の期間/シナリオ関連付けの変更	120
期間/シナリオデータのコピー	120
期間/シナリオ関連付けのパブリッシュ/パブリッシュ解除	121
期間とシナリオの関連付けダイアログボックス	121
期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックス	122
 4 部 ディメンション	 125
13 章・ディメンションの操作	127
メジャーおよびディメンション	127
ディメンションビュー	131
ディメンションメンバの作成	132
ディメンションメンバの並べ替え	134
ディメンションメンバの親の変更	136
ディメンションレベル名の変更	139
14 章・ディメンションウィンドウ	141
新しいディメンションダイアログボックス	141
ディメンションの編集ダイアログボックス	142
ディメンションのプロパティダイアログボックス	143
新しいディメンションメンバダイアログボックス	143
ディメンションメンバ検索ダイアログボックス	145
ディメンションメンバのプロパティダイアログボックス	145
 5 部 モジュールとアカウント	 147
15 章・モジュールとアカウントの操作	149
モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウント	150
リソースモジュール、アクティビティモジュールおよびコストオブジェクトモジュール	154
外部ユニットモジュールビュー	158
アカウントの作成	160
アカウントの並べ替え	163
アカウントの検索	165
アカウント検索クエリの保存	165
アカウントへ移動	168
すべてのレベルの展開	168
16 章・アカウントウィンドウ	171
アカウント検索ダイアログボックス	171
アカウント検索結果ダイアログボックス	172

6 部 コストエレメント 177

17 章・コストエレメントの操作	179
コストエレメント	179
アカウント作成時のコストエレメントの作成	180
モジュールページでの入力コストエレメントの作成	181
新しい入力コストエレメントダイアログボックス	181

7 部 属性 183

18 章・属性の種類	185
はじめに	185
ディメンション属性、ディメンションメンバ属性、ディメンション値属性	186
数値属性	187
計算属性	188
タグ属性	188
テキスト属性	189
ステージ属性	189
19 章・方法	191
属性の作成	191
属性フォルダの作成	194
アカウントへの属性の追加	195
属性の値の指定	195
アカウントへのステージ属性の追加	196
属性が追加されたアカウントの表示	197
アカウントからの属性の削除	197
20 章・ディメンションメンバの属性	199
全般説明	199
ディメンションメンバへの属性の割り当て	209
ディメンションメンバからの属性の削除	213
アカウントへのディメンションメンバの属性の適用	215
21 章・属性ウィンドウ	217
属性ビュー	218
新しい属性ダイアログボックス	219
属性の管理ダイアログボックス	220
属性プロパティダイアログボックス	221
プロパティ/属性の検索ダイアログボックス	222
アイテムのプロパティと属性ダイアログボックス	223
プロパティと属性の検索ダイアログボックス	224
属性フォルダのプロパティダイアログボックス	224
新しい属性フォルダダイアログボックス	225

8 部 列のレイアウト 227

22 章・列のレイアウトの操作	229
列のレイアウト	229
列の追加	232
列の削除	234

列の並べ替え	234
列の形式設定	234
列のセルの条件による強調表示	238
列の参照期間の選択	243
列のレイアウトの保存	243
既存の列のレイアウトの適用	243
他のモジュールへの列のレイアウトのコピー	244
23 章・列のレイアウトウィンドウ	245
列のレイアウトダイアログボックス	245
列の形式設定ダイアログボックス	247
列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックス	248
列のコピーダイアログボックス	248
24 章・列のレイアウトへのプロパティの追加	251
概要	251
割り当てプロパティ	252
外向きプロパティ	254
内向きプロパティ	255
ドライバプロパティ	256
アカウントプロパティ	257
要約	258
 9 部 ドライバ 261	
25 章・割り当て	263
割り当て	263
アカウントへのドライバの関連付け	266
割り当て用アカウントを追加するダイアログボックス	266
26 章・ドライバの種類	269
概要	270
基本ドライバ	270
ビルオブコストドライバ	270
計算ドライバ	273
均等割り当てドライバ	275
パーセントドライバ	276
売上ドライバ	276
重み付きドライバ	278
ルールベースドライバ	280
ドライバの種類の比較	288
27 章・ドライブコスト	289
ユーザー入力のコスト分配	290
固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量	290
一意のドライバ量と一意でない(共有)ドライバ量	293
ドライバシーケンス	295
未使用量	298
独立した TDQ	300
相互配賦原価計算	303
ドライバビュー	304
新しいドライバダイアログボックス	305
ドライバプロパティダイアログボックス	307

28 章・方法	311
ドライバの作成	311
重み付きドライバの重みの指定	314
デフォルトドライバの指定	315
割り当ての作成	316
アカウントのアイテムのプロパティを使用したドライバの関連付け	317
モジュールのグリッドを使用したドライバの関連付け	319
ドライバの割り当て元アカウントのみの表示	319
ドライバの割り当て先アカウントのみの表示	319
ドライバの割り当て元アカウントと割り当て先アカウントの表示	320
 10 部 ドライバと計算済み属性の式の使用	 321
29 章・式	323
式	324
関数	325
式のコンテキスト	326
計算機能の拡張	331
式に数値属性を使用	334
式のトラブルシューティング	335
演算子の優先順位	337
式ビルダダイアログボックス	337
 30 章・ブール値関数	 341
はじめに	341
HasAttribute 関数	341
if 関数	342
IsChildOf 関数	342
IsClose 関数	343
IsNull 関数	344
Match 関数	344
 31 章・数値関数	 345
abs 関数	345
degrees 関数	345
exp 関数	346
max 関数	346
min 関数	346
pi 関数	346
power 関数	347
quotient 関数	347
radians 関数	347
round 関数	347
sign 関数	348
sqrt 関数	348
trunc 関数	348
 32 章・文字列関数	 349
&関数(文字列の連結)	349
find 関数	349
left 関数	350
len 関数	350
mid 関数	350
right 関数	351

str 関数	351
trim 関数	351
value 関数	351
33 章・式内で使用可能なプロパティ	353
式内で使用可能なプロパティ	353
 11 部 通貨	 357
34 章・通貨の操作	359
通貨	359
複数の通貨の設定	360
通貨の追加	361
為替レート表のコピー	362
為替レートの管理ダイアログボックス	362
通貨の追加/削除ダイアログボックス	363
レートを以下からコピーダイアログボックス	364
 12 部 キューブ設定	 367
35 章・キューブ設定の操作	369
キューブ設定の作成	369
キューブ設定: モデルと全般オプションの選択	370
キューブ設定: カスタム、マルチステージ貢献キューブのオプション	372
キューブ設定: 6.3 互換、マルチステージ貢献キューブのオプション	374
キューブ設定: キューブオプション	375
キューブ設定: 数値属性の選択	378
キューブ設定: 完了	379
他のモデルへのキューブ設定のコピー	380
キューブに含めるディメンションメンバの選択	381
 13 部 コストの計算	 385
36 章・計算	387
コストの計算	387
コスト計算ダイアログボックス	388
37 章・計算の例	391
はじめに	391
非重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用	392
重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用	399
重み付きドライバ量と固定ドライバ量の使用	404
重み付きドライバと固定ドライバ量、変動ドライバ量の使用	405
未使用フロー	405
38 章・計算の詳細例	409
はじめに	409
ステップ 1-ユーザーによるドライバ量(DQF、DQV、DWF、 DWV、DrvAllocCost)の入力	412

ステップ 2-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvQtyCalc	413
ステップ 3-アクティビティアカウントの TDQCalc	414
ステップ 4-アクティビティアカウントの TDQ	415
ステップ 5-アクティビティアカウントへのパスの DrvQtyCalc	416
ステップ 6-リソースアカウントの TDQCalc	417
ステップ 7-リソースアカウントの TDQ	418
ステップ 8-リソースアカウントの AllocCost	419
ステップ 9-リソースアカウントの DrvblCost	420
ステップ 10-リソースアカウントの DrvRate	421
ステップ 11-アクティビティアカウントへのパスの DrvDrvnCost	422
ステップ 12-アクティビティアカウントへのパスの DrvCost	423
ステップ 13-アクティビティアカウントの DrvblCost	424
ステップ 14-アクティビティアカウントからの外向きドライバの DrvRate	425
ステップ 15-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvDrvnCost	426
ステップ 16-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvCost	427
ステップ 17-コストオブジェクトアカウントの Cost	428

14 部 キューブの作成 429

39 章・キューブの操作	431
キューブ	431
キューブの作成	434
インクリメンタルキューブ作成	435
キューブへの数値属性の挿入	438
キューブの内部名の表示	439
キューブまたはファクトテーブルの削除	440
キューブの権限の管理	440

15 部 OLAP 分析 443

40 章・分析ワークスペースの使用	445
分析ワークスペース	445
OLAP モード	447
OLAP ビュー	448
OLAP Analyzer ビュー	449
OLAP ビューに名前を付けて保存ダイアログボックス	451
キューブコンテキストの変更ダイアログボックス	452
SAS OLAP の制約	452
41 章・方法	455
SAS OLAP Analyzer の使用	455
OLAP ビューの作成	456
OLAP ウィンドウの表示設定の変更	456
OLAP ビューを開く	456
OLAP ビューが開かれている状態から OLAP ビューを開く	457

16 部 貢献クエリ 459

42 章・貢献ワークスペース	461
-----------------------	------------

貢献ワークスペース	461
リソースからコストオブジェクトへの貢献に関するクエリ	463
アクティビティモジュール経由の貢献に関するクエリ	464
リソースからアクティビティモジュールへの貢献に関する貢献クエリ	465
下位レベルへのドリルダウン	466
PROC ABC ステートメントの取得	467

17 部 インポートとエクスポート 469

43 章・モデルデータ	471
モデルデータのインポート	471
データのインポートウィザードを使用した XML ファイルのインポート	472
モデルデータのエクスポート	475
エクスポートウィザードを使用した XML ファイルへのモデルのアーカイブ	476
44 章・サーベイデータ	479
サーベイデータのエクスポート	479
サーベイデータのインポート	484
45 章・キューブ設定	487
キューブ設定のインポート	487
キューブ設定のエクスポート	487
46 章・列のレイアウト	489
列のレイアウトのインポート	489
列のレイアウトのエクスポート	489
47 章・Excel へのモジュールビューのエクスポート	491
Excel へのモジュールビューのエクスポート	491
48 章・OLAP ビュー	501
OLAP ビューのインポート	501
OLAP ビューのエクスポート	502
Excel へのエクスポート	503
49 章・レポート	505
レポートのエクスポート	505
50 章・Easy API	507
Easy API の使用	507
51 章・Information Map のパブリッシュ	513
概要	513
Information Map の作成(メタデータの登録)	513
Metadata の登録/Metadata Server オプション	515
52 章・SAS Profitability Management へのビヘイビアのパブリッシュ	519
概要	519
SAS Profitability Management へのビヘイビアのパブリッシュ	519
53 章・SAS Strategy Management へのパフォーマンスメジャーのパブリッシュ	523
概要	523
SAS Strategy Management との統合のためのステップ	523
パフォーマンスメジャービュー	532

パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックス	533
------------------------------------	-----

18 部 モデルデータのレポート 535

54 章・レポートについて	537
レポート	538
レポートモード	540
レポートワークスペース	540
レポートページ	542
レポートテンプレート	545
レポートのパブリッシュダイアログボックス	545
新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックス	545
レポート設定ダイアログボックス	546
55 章・関連レポート	549
関連レポートについて	549
関連レポートの作成	553
レポート出力	555
レポートのエクスポート	559
56 章・方法	561
レポートの作成	561
レポートを開く	565
レポートが開かれた状態からレポートを開く	565
レポート設定の変更	566
レポート設定の保存	566
レポートのエクスポート	566
レポートのパブリッシュ	571
レポート設定の削除	572

19 部 インターフェイスのカスタマイズ 573

57 章・ユーザーオプション	575
インターフェイスのカスタマイズ: ユーザーオプション	575
背景色の印刷	579
ステータスバーの表示/非表示	579
サーバーから追加行を取得する	579
ユーザーオプションダイアログボックス	579

20 部 プロパティリファレンス 583

58 章・プロパティの関係ダイアグラム	585
非相互配賦システム	586
コストエレメントプロパティ	589
相互配賦システム-アカウントプロパティ	590
量	592
複合アカウントコストのプロパティ	595
コスト(経済的な世界)	597
ダイアグラムの見方	598

コストの種類	600
59 章・プロパティのアルファベット順表示	605
Allocated Cost (AllocCost)	607
Assigned Cost (AsgnCost)	608
Assigned Idle Cost (AsgnIdlCost)	609
Assigned Idle Quantity (AsgnIdlQty)	609
Assigned Non Reciprocal Cost (AsgnNRecipCost)	610
Assigned Reciprocal Cost (AsgnRecipCost)	610
Calculate Error (CalcError)	611
Cost (Cost)	611
Dimension Level Name (DimLevelName)	612
Dimension Level Number (DimLevelNum)	612
Dimension Member Name (DimMemName)	613
Dimension Member Reference (DimMemRef)	613
Dimension Name (DimName)	614
Dimension Reference (DimRef)	614
Display Name (Display Name)	615
Display Reference (Display Reference)	615
Drivable Cost (DrvblCost)	616
Driven Cost (DrvnCost)	616
Driven Quantity (DrvnQty)	617
Driver Allocated Cost (DrvAllocCost)	617
Driver Cost (DrvCost)	618
Driver Driven Cost (DrvDrvnCost)	618
Driver Driven Quantity (DrvDrvnQty)	619
Driver Formula (DrvFormula)	620
Driver Idle Cost (DrvIdlCost)	620
Driver Name (DrvName)	621
Driver Percentage (DrvPcnt)	621
Driver Quantity Basic (DrvQtyBasic)	621
Driver Quantity Calculated (DrvQtyCalc)	622
Driver Quantity Fixed (DQF)	623
Driver Quantity Variable (DQV)	623
Driver Rate (DrvRate)	624
Driver Sequence Number (DrvSeq)	624
Driver Type (DrvType)	625
Driver Used Cost (DrvUsedCost)	625
Driver Weight Fixed (DWF)	626
Driver Weight Variable (DWV)	626
Entered Cost (EntCost)	627
Fixed Driver Quantity Override	627
Formula	628
Has Assignments (HasAsgn)	628
Has Attributes (HasAttr)	628
Has BOC (HasBOC)	629
Has Entered Cost (HasEntCost)	629
Has Idle Cost (HasIdlCost)	630
Has Notes (HasNotes)	630
Has Used Cost (HasUsedCost)	630
Idle Cost (IdlCost)	631
Idle Driver Quantity (IdlDrvQty)	632
Idle Driver Quantity UE (IdlQtyEU)	632
Idle Flow Method (IdleFlow)	633
Idle Percentage (IdlPcnt)	634
Idle Quantity (IdlQty)	634

Intersection Name (IntsectnName)	635
Intersection Reference (IntsectnRef)	635
Module Type (ModType)	636
Name (Name)	636
Output Quantity (OutQty)	637
Output Quantity UE(OutQtyUE)	637
Periodic Note (PerNote)	637
Profit (Profit)	638
Received Allocated Cost (RcvAllocCost)	638
Received Assignment Cost (RcvAsgnCost)	639
Received BOC Cost (RcvBOCCost)	640
Received Cost (RcvCost)	641
Received Driven Cost (RcvDrvnCost)	642
Received Idle Cost (RcvIdlCost)	642
Received Non Reciprocal Cost (RcvNRecipCost)	643
Received Reciprocal Cost (RcvRecipCost)	643
Received Used Cost (RcvUcost)	643
Reference (Reference)	644
Revenue (Revenue)	644
Sold Quantity (SoldQty)	645
Total Driver Quantity (TDQ)	645
Total Driver Quantity Basic (TDQBasic)	646
Total Driver Quantity Calculated (TDQCalc)	646
Total Driver Quantity UE (TDQUE)	647
Type (Type)	647
Unassigned Cost (UnAsgnCost)	648
Unassigned Quantity (UnAsgnQty)	648
Unique Driver Quantities (UniqDvrQty)	649
Unit Cost (UnitCost)	649
Unit Of Measure (UoM)	649
Unit Profit (UnitProfit)	650
Unit Revenue (UnitRevenue)	650
Use Fixed Quantities (UseFixQty)	651
Use Variable Quantities (UseVarQty)	651
Use Weighted Quantities (UseWeightedQty)	652
Used Cost (UsedCost)	652
Used Quantity (UsedQty)	653
User-Entered Cost Allocation	653
Variable Driver Quantity Override	654
キーワード	657

SAS Activity-Based Management

7.2 の新機能

概要

- “サーベイ” (xv ページ)
- “ディメンションメンバの属性の設定” (xvi ページ)
- “キューブに含めるディメンションメンバの選択” (xvi ページ)
- “インクリメンタルキューブの作成” (xvii ページ)
- “Excel へのモジュールビューのエクスポート” (xvii ページ)
- “アカウント検索クエリの保存” (xviii ページ)
- “すべて展開/すべて折りたたみ” (xix ページ)
- “パブリックビューの拡張” (xx ページ)
- “デフォルトの列レイアウトの選択” (xx ページ)
- “関連レポート” (xxi ページ)
- “モジュールセルの条件による強調表示” (xxi ページ)
- “モジュールの名前変更” (xxii ページ)
- “SAS Strategy Management との統合” (xxiii ページ)
- “OLAP ビューの Excel へのエクスポートでの選択” (xxiii ページ)
- “独立した TDQ” (xxiv ページ)
- “Microsoft Office に対するインポートとエクスポート” (xxiv ページ)
- “すべての割り当ての削除” (xxiv ページ)
- “Easy API” (xxv ページ)

サーベイ

モデルの管理における最も難しいタスクの 1 つは、データを正確かつ最新の状態に保つことです。このリリースから、Web サーベイを作成し、モデルのアクティビティとアカウントを直接管理する担当者からデータを収集できるようになりました。サーベイのデータは、モデルからエクスポートされたステージングテーブルに直接書き込まれます。

次の表は、各モジュールに作成可能なサーベイの種類と、各種類のサーベイの参加者が更新可能なフィールドを示しています。

注: 各フィールド名は、そのフィールドを含むステージングテーブルで修飾されています。

モジュール	サーベイタイプ	更新可能なフィールド
外部ユニット	量: (アカウント)	Assignment.DriverQuantityFixed
	ユニットコスト	ExternalUnit.UnitCostEntered
リソース	リソースドライバ	Assignment.DriverQuantityFixed
	リソースコスト	EnteredCostElement.EnteredCost
	数値属性	ValueAttributeAssociation.NumericValue
アクティビティ	アクティビティドライバ	Assignment.DriverQuantityFixed
	数値属性	ValueAttributeAssociation.NumericValue
コストオブジェクト	コストオブジェクトドライバ	Assignment.DriverQuantityFixed
	収益量と売上量	Account.Revenue
		Account.SoldQuantity
	アウトプット量	Account.OutputQuantityUE
	数値属性	ValueAttributeAssociation.NumericValue

詳細については、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management 7.2: Data Administration Guide* の“Surveys”を参照してください。

ディメンションメンバの属性の設定

ディメンションメンバに属性を設定すると、複数のアカウントにその属性を自動的に設定されるようになります。ディメンションメンバの属性の設定は、そのディメンションメンバが共有されるすべてのアカウントにその属性を設定する間接的な方法です。ルールベースドライバの作成ではアカウントの属性の存在が特に重要なため、ディメンションメンバに属性を設定し、多くのアカウントに属性が迅速に設定されるようにします。

20 章, “ディメンションメンバの属性” (199 ページ)を参照してください。

キューブに含めるディメンションメンバの選択

任意のディメンション階層レベルで、作成したキューブにどのディメンションメンバを含めるかを選択できるようになりました。この機能によって、ディメンション階層は深くても小さいままのキューブを作成できます。

“キューブに含めるディメンションメンバの選択” (381 ページ)を参照してください。

インクリメンタルキューブの作成

キューブを作成する際、既存のキューブに含まれるすべての期間(期間とシナリオの関連付け)に対して、次の期間は再作成されないようになりました。

- キューブにすでにその期間が含まれており、
- キューブの過去の作成以降、その期間が変更されていない

したがって、作成済みの期間が再作成されないため、キューブの作成がより迅速になります。

以前作成されたモデルのキューブを作成する際、SAS Activity-Based Management によって、キューブ全体を再作成する必要があるのか、それとも、新規または変更された期間のみ作成する必要があるのかが判断されます。キューブの作成時に、インクリメンタル作成を行うかどうかを指定する必要はありません。SAS Activity-Based Management によって判断されます。

また、ディメンションはモデル間で共有されなくなりました。これまでは、ディメンションを共有していたため、1 つのモデルで(新しいディメンションメンバを得るなどして)ディメンションが変更されると、その変更がモデルに影響を及ぼさなくても、そのディメンションを共有するすべてのモデルでキューブの再作成が必要でした。ディメンションが共有されなくなったため、キューブ作成に必要な時間が削減されます。

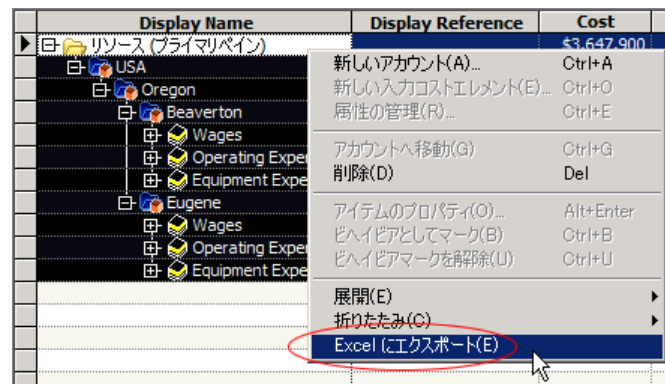
“インクリメンタルキューブ作成” (435 ページ)を参照してください。

注: インクリメンタルキューブ生成の実装により、キューブの作成に Microsoft Analysis Services を使用している場合、以前のリリースの SAS Activity-Based Management で保存された OLAP ビューは SAS Activity-Based Management 7.2 では使用できなくなりました。これは、保存ビューが MDX クエリで、クエリに埋め込まれている期間名が現在正しくないためです。

Excel へのモジュールビューのエクスポート

印刷可能な形式のモジュールの階層構造、およびモデルに影響せずに簡単に変更できるモジュールが必要な場合、モジュールを Excel にエクスポートできます。エクスポートするモジュールビューの特定の行を選択することも、モジュール全体をエクスポートすることもできます。エクスポートの実行時には展開行のみエクスポートされます。そのため、モジュールビューの表示内容がスプレッドシートの内容になります。

次の図では、部分的に展開されたリソースモジュールのプライマリペインで行を選択し、右クリックして、Excel にエクスポートを選択しています。



また、次の図は、結果の Excel スプレッドシートを示したものです。

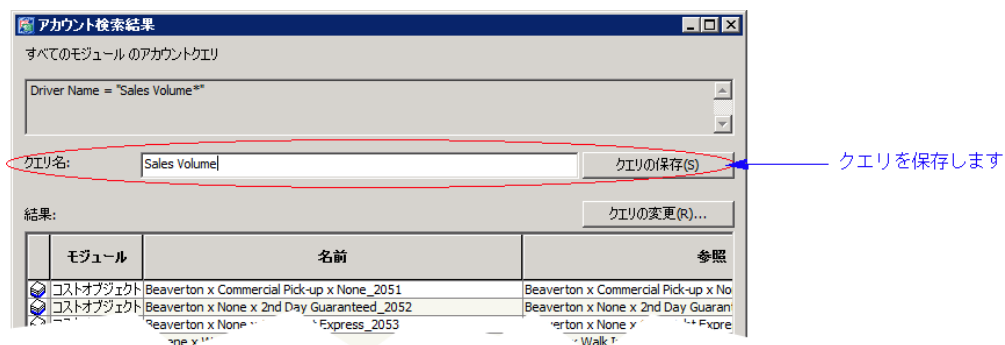
	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2					モデル名:	Parcel Express Tutorial (M1000)			
3					期間/シナリオ:	2008 Q1/Actual			
4					モジュール名:	リソース (プライマリペイン)			
5					列のレイアウト名:	既定			
6					モデルの基本通貨:	US Dollar (USD (\$))			
7									
8									
9									
10									
11					Display Name	(種類)	Display Reference	Cost (\$)	(アイテム表示順序)
12					USA	ロールアップアカウント	USA	3,647,900.	2
13					Oregon	ロールアップアカウント	Oregon	3,647,900.	3
14					Beaverton	ロールアップアカウント	Beaverton	1,930,900.	4
15					Wages	アカウント	Wages	1,638,600.	5
16					Operating Expenses	アカウント	Operating Expenses	238,000.	6
17					Equipment Expenses	アカウント	Equipment Expenses	54,300.	7
18					Eugene	ロールアップアカウント	Eugene	1,717,000.	8
19					Wages	アカウント	Wages	1,408,000.	9
20					Operating Expenses	アカウント	Operating Expenses	271,000.	10
21					Equipment Expenses	アカウント	Equipment Expenses	38,000.	11

47 章, “Excel へのモジュールビューのエクスポート” (491 ページ)を参照してください。

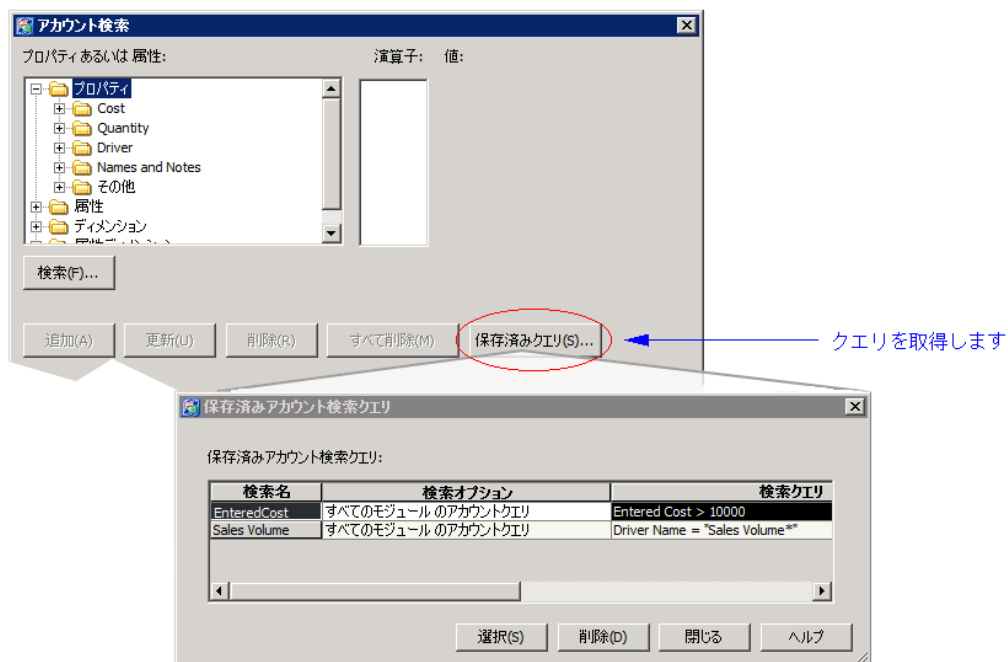
アカウント検索クエリの保存

アカウントを検索するためのクエリは長く、複雑で、その作成は単調な作業です。クエリの保存、取得して使用、エクスポート、インポートができるようになりました。

必要な結果がクエリによって返されたら、アカウント検索結果ダイアログボックスのクエリの保存をクリックして、クエリを保存します。クエリは、SAS Activity-Based Management のユーザー ID とともに保存されます。



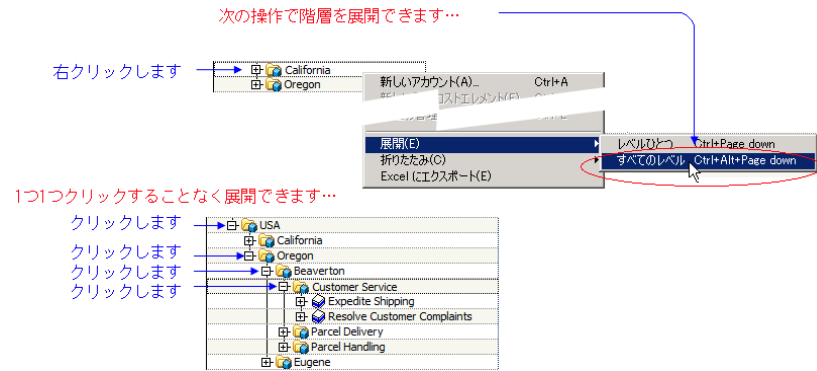
クエリを取得して使用するには、アカウント検索ダイアログボックスの保存済みクエリをクリックします。ユーザー ID とともに保存されたクエリのリストが表示され、選択して再利用できます。



“アカウント検索クエリの保存” (165 ページ)を参照してください。

すべて展開/すべて折りたたみ

モジュールビュー(リソース、アクティビティ、コストオブジェクト、外部オブジェクト)の階層のすべてのレベルを展開して、すべてのレベルに含まれるすべてのアカウントを表示できるメニュー項目が新たに提供されました。このメニュー項目により、階層を繰り返しクリックして展開する必要はなくなりました。



“すべてのレベルの展開” (168 ページ)を参照してください。

パブリックビューの拡張

以前のリリースのパブリックビューでは、モデル、ディメンションおよびキューブ設定を参照するには、内部作成された番号が使用されていました。そのため、番号の参照先がどのオブジェクトかが不明確だけでなく、モデルの再インポート時に番号が変更されると、変更された番号を参照するプロシジャがすべて無効化されていました。

今回のリリースでは、引き続き使用するユーザーのために元のパブリックビューも管理されていますが、完全に新しいパブリックビューのセットが用意されています。これらの新しいパブリックビューでは、古いパブリックビューと同じ列が管理されますが、内部作成された番号の代わりに、次のようなもっと意味のある識別子が使用されます。

モデル

モデル参照

注: モデル参照は、数値モデル識別子の代わりに、キューブ名の接頭辞としても使用されます。

ディメンション

ディメンション短縮参照

キューブ設定

キューブ設定参照

これらの識別子はモデルを再インポートしても変更されないもので、その識別子を参照して作成したプロシジャは有効なままです。

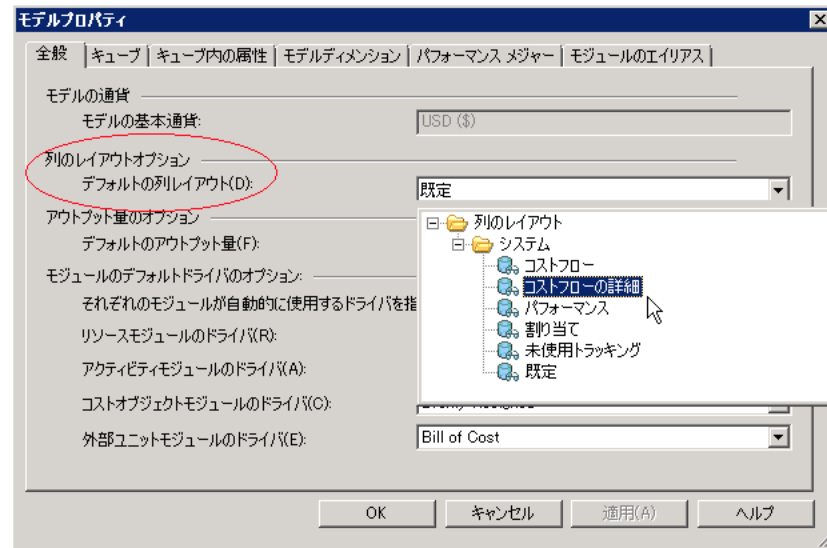
詳細については、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management 7.2: Data Administration Guide* の "Public Views" および "Information Maps" を参照してください。

デフォルトの列レイアウトの選択

以前のリリースでは、列のレイアウトのカスタマイズ、命名および保存はできましたが、すべてのモデルは常に同じデフォルトの列レイアウトで開かれていました。今回のリリースから、モデルごとに異なるデフォルトのレイアウトを選択できるようになりました。選択したレイアウトが、モデルを開くたびに使用されるレイアウトになります。1 つの列

のレイアウトに、すべてのモジュール(外部ユニット、リソース、アクティビティ、コストオブジェクト)に加えてディメンションビューの列指定も含まれます。

モデルのデフォルトの列レイアウトを選択するには、モデルプロパティダイアログを開き、次の図に示すように、**デフォルトの列レイアウトオプション**のドロップダウンリストからレイアウトを選択します。



関連レポート

関連レポートには、複数の期間における製品およびサービスの需要とそれらを作成するためのコストの間の相関が表示されます。
 関連レポートでは、需要の増減からコストをどのくらい確実な予測ができるのかという疑問への答えが提供されます。
 外向きの割り当てがある、または売上量がゼロではないすべてのアカウントに対し、
 関連レポートにはそのアカウントの需要とそのコストの間の相関の強さが示されます。

レポートでは、次のようにモデルを複数の期間において評価します。

- 売上とプロセスの調整時にドライバ量の変更が確かにコストに影響するかどうかを確認する
- 弱い相関(コストの割り当てに使用されるメジャーの単位の変更や、モデルを介した貨幣フローの再定義が必要)を特定する
- 予測とシミュレーションに信頼できる予測モデルの基盤を提供する

55 章、[“関連レポート” \(549 ページ\)](#)を参照してください。

モジュールセルの条件による強調表示

セルの条件による強調表示を使用すると、指定した条件を満たす列でセルのテキストの色と背景色を変更できます。たとえば、負の値を含むコストセルをすべて赤色で強調表示できます。または、特定の内容のテキストセルを強調表示することもできます。

“[列のセルの条件による強調表示](#)” (238 ページ)を参照してください。

列のレイアウト

既定: ABM モデルの既定のレイアウト

この列のレイアウトには、ビューに設定可能な列設定がすべて含まれています。以下からビューを選んで、ビューに表示する列を選択してください。

アクション(P): 表示列: ビュー(B): コストオブジェクトモジュール

列の名前	フィールド名	種類	期間/シナリオ	形式	条件
Cost	Cost	数値	<< 現在 >>		
Revenue	Revenue	数値	<< 現在 >>		
Profit	Profit	数値	<< 現在 >>		

条件付きフォーマット

条件(T): < 0

背景(B): [Red] テキスト(T):

OK(O) キャンセル ヘルプ

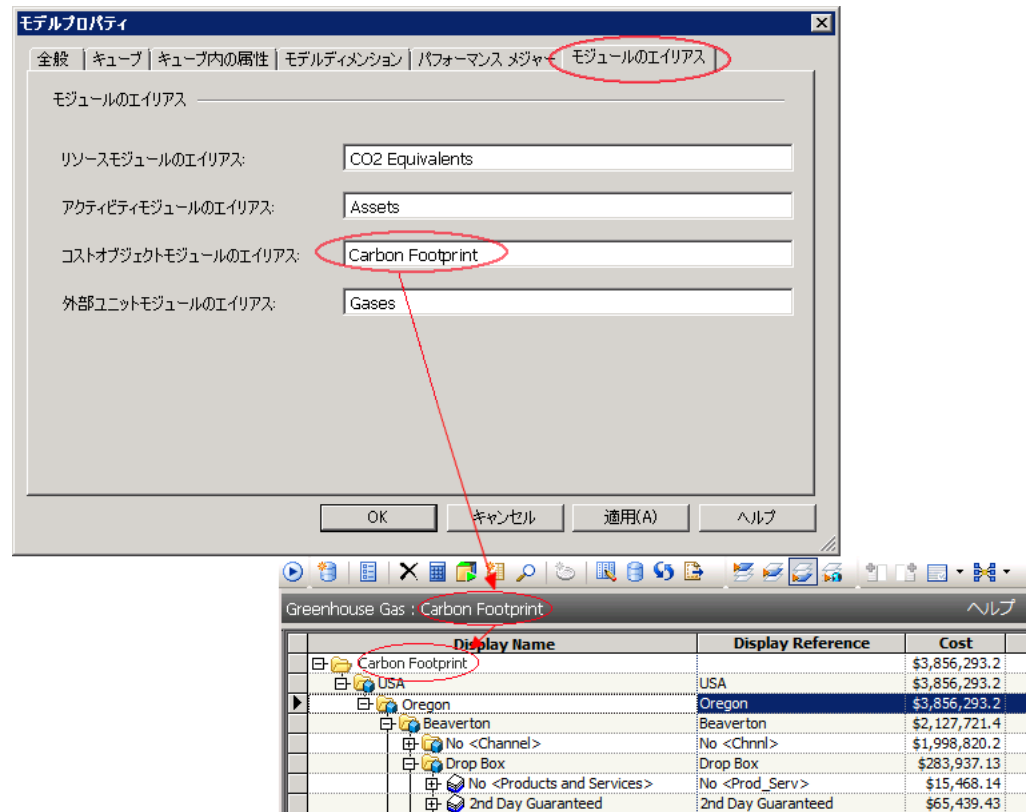
該当するセルが強調表示されます

Module Name	Cost	Revenue	Profit
No <Products and Services>	\$11,932.38		
2nd Day Guaranteed	\$69,662.17	\$48,525.75	(\$21,136.42)
Overnight Express	\$126,090.45	\$234,670.75	\$108,580.30
Standard Ground	\$105,491.87	\$231,250.00	\$125,758.13
Drop Box	\$151,144.33	\$237,820.00	\$86,675.67
No <Products and Services>	\$14,318.86		
2nd Day Guaranteed	\$49,362.46	\$32,390.00	(\$16,972.46)
Overnight Express	\$15,093.13	\$26,367.50	\$11,274.37
Standard Ground	\$86,688.74	\$179,062.50	\$92,373.76

モジュールの名前変更

リソース、アクティビティ、コストオブジェクトなどのモジュールの標準名を使用する代わりに、モデルのモジュールの名前を変更できます。これは、温室効果ガスなど、コスト以外のものをモデル化するために SAS Activity-Based Management を使用している場合に特に有用です。

モジュールの名前を変更するには、**モデル** ⇒ **プロパティ**を選択し、**モジュールのエイリアスタブ**をクリックします。



注: モジュール名に使用できるのは 64 文字までで、英数字、アンダースコアおよび埋め込み空白の文字を含められます。

注: エイリアスはモデルのエクスポート時とインポート時に保持されます。ただし、エイリアスはキューブやレポートに表示されず、メニュー項目などのユーザーインターフェイスの他の部分でも置き換えられません。

SAS Strategy Management との統合

SAS Activity-Based Management 7.2 では、SAS Strategy Management とのより簡易なインターフェイスがサポートされています。パフォーマンスメジャーのパブリッシュ時に、SAS Activity-Based Management でテーブルが作成され、メタデータに登録されるので、それを直接 SAS Strategy Management 5.3 にインポートできます。

53 章, “SAS Strategy Management へのパフォーマンスメジャーのパブリッシュ” (523 ページ)を参照してください。

OLAP ビューの Excel へのエクスポートでの選択

OLAP ビューを Excel にエクスポートする際、2 つのオプションのどちらかを選択できます。

フラット化されたディメンション

Excel テーブルに含まれる列は多くなり、行は少なくなります。このテーブルには、列ヘッダーを含む 1 行と、レベルごとに列が挿入されます。

フラット化されていないディメンション

Excel テーブルに含まれる列は少なくなり、行は多くなります。ディメンションごとに
行が挿入されます。

“Excel へのエクスポート” (503 ページ)を参照してください。

独立した TDQ

プロパティ TDQ (合計ドライバ量)が OutputQty から切り離されたので、TDQ のデフォルトは常に UsedQty です。したがって、OutputQtyUE の変更は、UnitCost には影響しますが、TDQ には影響しません。つまり、OutputQtyUE を変更しても DriverRate (TDQ に依存)に影響がないので、コストフローにも影響がありません。結果的に、コストフロー全体に影響を与えずに UnitCost を変更できます。

“独立した TDQ” (300 ページ)を参照してください。

Microsoft Office に対するインポートとエクスポート

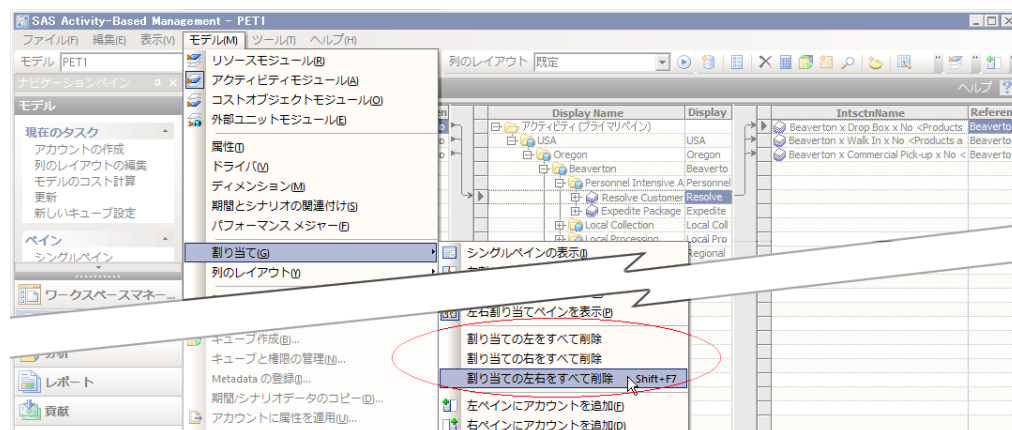
Microsoft Access または Microsoft Excel でのインポート時やエクスポート時に、SAS Activity-Based Management では、クライアントの Microsoft Office ドライバが使用されます。これにより、使用している SAS Activity-Based Management Server が、Microsoft Office ドライバが機能しない UNIX システム上にあっても、Microsoft Office のクライアントインストールでのインポートやエクスポートが行えます。

詳細については、15 章: “Connecting to a Database ” (*SAS Activity-Based Management: Data Administration Guide*)を参照してください。

すべての割り当ての削除

次のメニュー項目では、割り当てペインに見えている割り当てだけでなく、選択したアカウントの割り当てはすべて、見えていない割り当てを含めて、削除できるようになりました。

- 割り当ての左をすべて削除
- 割り当ての右をすべて削除
- 割り当ての左右をすべて削除 Shift+F7



これは以前のバージョンと動作が変更されたことを意味しています。以前のバージョンでは、見えている割り当てのみが削除されていました。

注: 選択したアカウントの割り当てをすべて削除するために、左割り当てペインや右割り当てペインを開く必要はありません。

Easy API

Easy API を使用すると、SAS Activity-Based Management 内で実行できる作業と同じ作業の多くをバッチ処理できます。Easy API では、次の作業を行えます。

- モデルデータのインポートとエクスポート
- モデルの計算
- キューブの作成
- レポートデータのエクスポート
- 期間/シナリオ間のモデルデータのコピー
- キューブ設定のインポートとエクスポート

また、Easy API を使用して、SAS Stored Process、外部の SAS Enterprise Guide プロジェクト、起動が必要な実行可能プログラムを実行できます。そのため、Easy API を使用して、モデルデータをエクスポートし、Stored Process を起動してエクスポートしたデータを更新し、最後に更新したデータをモデルにインポートして戻すことなどが可能です。

詳細については、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management 7.2: Data Administration Guide* の "Using the API" を参照してください。

1 部

入門ガイド

1 章	
エレメント	3
2 章	
開発ガイドライン	11
3 章	
ユーザーインターフェイス	23
4 章	
ユーザーの権限とグループ	49
5 章	
ワークフロー	53

1 章

エレメント

活動基準原価計算	3
SAS Activity-Based Management	4
リソースモジュール	4
概要	4
構造ディメンションの作成ガイドライン	4
アクティビティモジュール	5
概要	5
構造ディメンションの作成ガイドライン	6
コストオブジェクトモジュール	7
概要	7
構造ディメンションの作成ガイドライン	7
外部ユニットモジュール	8
Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデル	8

活動基準原価計算

活動基準原価計算は、活動基準原価管理の基本ツールです。従来の原価計算方式には、次の 2 つの重大な制限がありました。

- 個々の製品、顧客、サービス、加工のコストを妥当なレベルの精度でレポートできない。
- 経営陣に業務統制に有用なフィードバックを提供できない。

複雑な組織のマネージャが従来の原価計算システムを使用して重要な意思決定を行うと、不正確や不適切なコスト情報や利益率情報が原因で、誤った決定を下します。多くの場合、その決定が、価格設定、製品構成、リソース割り当て、予算策定などのエリアに影響を及ぼします。

活動基準原価計算では、従来の方法よりも正確にコストがトラッキングされます。これは、次の活動基準原価計算の前提に起因します。

- アクティビティをリソース消費の原因とする。
- コストオブジェクト(アクティビティの結果や生産された製品/サービス)がアクティビティの需要を生み出す。

SAS Activity-Based Management を使用すると、1 つ以上のモデルを作成して、直接組織コストと間接組織コストを特定のアクティビティやプロセスに適用できます。その結

果、マネージャは業務の観点から実際のコスト割り当てとその収益への影響を確認することができます。マネージャは、リソースやプロセスと結果との真の因果関係を把握することができます。したがって、ビジネスプランナは簡単に、リソース要件の予測、予算の作成、およびキャパシティ使用量の最適化ができます。

SAS Activity-Based Management

直接/間接ビジネスコストをアクティビティに適用することで、SAS Activity-Based Management を使用してマネージャは、製品、顧客、サービス、ビジネスプロセスに関連付けられたコストと利益について真の理解を得ることができます。SAS Activity-Based Management では、継続的利益率分析、コスト管理イニシアティブ、共有サービス管理、計画および予算策定活動、キャパシティ最適化がサポートされます。

Activity-Based Management システムでは、アクティビティが識別され、リソース(消費)とそのアクティビティが関連付けられ、アクティビティのコストがコストオブジェクトに渡されます。

SAS Activity-Based Management では、ビジネストレンドを分析し、その分析結果を組織全体のビジネスプロフェッショナルが利用できるようにします。プログラミングやデータベースツールの使用に関する知識は必要ありません。

SAS Activity-Based Management では、手順に従うだけで Web 対応のデータ分析やモデルのレポート作成が行えます。モデルの対話型ビュー、対話型の分析機能、カスタマイズ可能なレポートにインターネット経由でアクセスすることで、意思決定者は次のタスクを実行できます。

- 製品やサービスの真の生産および出荷原価を調べる。
- 利益増加の可能性のあるエリアを特定する。
- プロセスを調べ、改善行動を行う。

リソースモジュール

概要

リソースモジュールには、給与、資材、減価償却などのリソースに関する情報が含まれます。リソースは、新製品の企画導入、製品の販売促進など、アクティビティによって消費されるコストです。リソースを把握し、管理するには、アクティビティと、アクティビティによるリソースの消費に注意する必要があります。

構造ディメンションの作成ガイドライン

リソースモジュールの一般的な構造ディメンションは、GL 勘定科目と組織です。これらのディメンションは、GL 勘定科目 x 組織と書き表されます。

次の一般的なディメンション、提案されたディメンションレベル名、およびディメンションメンバの例の利用を検討してから、構造ディメンションを作成するようにします。

GL 勘定科目ディメンション

GL 勘定科目ディメンションには、一般的に、費用カテゴリおよび個々の費用に関する情報が含まれます。このディメンションの情報は、組織の総勘定元帳や取引財務システムで確認できます。

GL 勘定科目では費用が階層に分類されます。次の例は、この階層の例を示しています。

```

1xx Wages, Salaries, and Benefits
    10x Salaries and Wages
        101 Wages - Hourly
        102 Wages - Salary Non-Exempt
        103 Wages - Salary
        104 Overtime Premium
        105 Shift Differential
        106 Management Bonus

```

ここに示す最下層レベルの詳細(アイテム 101-106)は、通常、税、費用分析、調整、内部コントロールなどの目的で GL 勘定科目に収集されます。この詳細レベルは財務会計には必要ですが、通常、SAS Activity-Based Management モデルには詳細すぎます。この詳細レベルはコスト分類ですが、モデルの詳細レベルはコストビヘイビアである必要があります。

コストビヘイビアの詳細レベルを得るために、SAS Activity-Based Management モデルで使用する必要のある GL 勘定科目の詳細の最下層レベルは、この例では、2 番目に高いレベル(10x Salaries and Wages)になります。次に、例を示します。

ディメンションレベル名	例
GL Account Group	Wages, Salaries, and Benefits
GL Account	Salaries and Wages

モデル内に最も詳細なレベルの GL 勘定科目が必要な場合は、入力コストエレメントを使用してコストを保存できます。

組織ディメンション

アクティビティモジュールで作成された組織ディメンションがここで再利用されます。

関連項目:

- “メジャーおよびディメンション” (127 ページ)
- “モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウント” (150 ページ)

アクティビティモジュール

概要

アクティビティモジュールには、アクティビティに関する情報が含まれます。アクティビティとは、受注詳細入力、マシン操作、パレット積みなどの組織内で実行されるタスクです。

アクティビティでは、リソースアカウントや他のアクティビティアカウントからコストを受け取ります。

構造ディメンションの作成ガイドライン

アクティビティモジュールの一般的な構造ディメンションは、アクティビティと組織です。これらのディメンションは、アクティビティ x 組織と書き表されます。

次に提案するディメンションレベル名、およびディメンションメンバの例の利用を検討してから、構造ディメンションを作成するようにします。

アクティビティディメンション

アクティビティディメンションには、一般的に、ビジネスプロセスおよび個々のアクティビティに関する情報が含まれます。

ビジネスプロセスとは、共通の結果やアウトプットを持つアクティビティのグループです。アクティビティはビジネスプロセスの構成要素であるため、アクティビティとビジネスプロセスは 1 つの構造ディメンションにまとめられます。ビジネスプロセスは上位(より要約された)ディメンションメンバとして作成され、アクティビティは下位(より詳細な)ディメンションメンバとして作成されます。次に、例を示します。

ディメンションレベル名	例
Macro Process	Receive Packages
Process	Collect by Region
Activity	Unload Trucks

組織ディメンション

組織ディメンションには、一般的に、組織構造に関する情報が含まれます。このディメンションの情報は、所属する組織の組織図で確認できます。

各部門のマネージャは、その部門の費用の担当者です。ビジネスユーザーにとって最も有用な Activity-Based Management モデルでは、部門が保持されています。部門を保持することで、部門のマネージャは、部門内で実行されたアクティビティ、そのアクティビティのコスト、および各マネージャの担当リソースが管理対象のアクティビティに及ぼす影響を検証できます。

次に、例を示します。

ディメンションレベル名	例
Facility	North Carolina
Function	Manufacturing
Department	Inspection

関連項目:

[“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)

コストオブジェクトモジュール

概要

コストオブジェクトモジュールには、製品とサービスに関する情報が含まれます。さらに、製品とサービスを顧客、チャネル、地域ごとに構成できます。

コストオブジェクトでは、リソース、アクティビティ、その他のコストオブジェクト、またはこの3つの任意の組み合わせからコストを受け入れます。

構造ディメンションの作成ガイドライン

コストオブジェクトモジュールの一般的な構造ディメンションは、製品、顧客およびチャネルです。これらのディメンションは、製品 x 顧客 x チャネルと書き表されます。(公共団体の場合、一般的な構造ディメンションはサービスと地域です)。組織が複雑な場合は、その他のディメンションの作成が必要になる場合もあります。

(ビジネスユーザーによるさまざまなレベルでのデータの検証を可能にする)次に提案するディメンションレベル名の例の利用を検討してから、構造ディメンションを作成するようにします。

製品ディメンション

製品ディメンションには、一般的に、製品カテゴリおよび個々の製品に関する情報が含まれます。次に、例を示します。

ディメンションレベル名	例
Product Line	Shoes
Product Group	Summer Sandals
Product	Leather Weave
SKU (必要に応じて)	Tan576830

顧客ディメンション

顧客ディメンションには、一般的に、顧客カテゴリおよび個々の顧客に関する情報が含まれます。次に、例を示します。

ディメンションレベル名	例
Customer Group	Retail
Customer Category	Discount
Specific Customer	Big Mart
Location (必要に応じて)	Phoenix

チャネルディメンション

チャネルディメンションには、一般的に、流通チャネルカテゴリおよび個々のチャネルに関する情報が含まれます。次に、例を示します。

ディメンションレベル名	例
Channel Group	Traditional
Channel Category	Wholesale
Channel	Catalog
Channel Details (必要に応じて)	Targeted Mail

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [“モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウント” \(150 ページ\)](#)

外部ユニットモジュール

外部ユニットモジュールには、外部ユニットのコストエレメントに関する情報が含まれます。外部ユニットとは、SAS Activity-Based Management モデル内に含める必要があるコストが SAS Activity-Based Management モデル外で管理されているアイテムです(仕入先から購入する部品など)。

他のモジュールと同様に、外部ユニットモジュールには複数のディメンションを含められます。たとえば、複数の仕入先から部品を取得する場合、仕入先および部品のディメンションを作成できます。次に、部品の入手の可能性とコストに基づいて、部品を購入した仕入先のコスト情報を入力します。

組織が、居住者にゴミ収集サービスを提供する自治体だとします。この場合、ユニットコストを含む Tons of Garbage(ゴミのトン数)という外部ユニットを作成できます。このユニットコストは、組織によるゴミ処理 1 トン当たりにかかるコストです。総手数料を計算するには、収集ゴミのトン数を入力します。また、組織が、ゴミを入れるゴミ箱やカートを提供する場合は、各ゴミ箱やカートのコストの外部ユニットを作成できます。

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [“モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウント” \(150 ページ\)](#)

Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデル

Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)の完成モデルをインポートするには、次の操作を行います。

1. **ファイル** ⇒ **インポート** ⇒ **モデルデータ**を選択します。
2. インポートするデータの種類の **XML** あるいは **ZIP ファイル**を選択して、**次へ**をクリックします。

3. 次のファイルを参照して選択します: <install director>\Activity-Based Management Solution\Client\Samples\Models\Native\ParcelExpressTutorial.xml
4. チュートリアルモデル名を指定します。名前は任意です。**次へ**をクリックし選択内容を確認したら、**完了**をクリックします。

チュートリアルモデルがインポートされます。計算済みデータを表示するには、モデルを計算する必要があります。

2 章

開発ガイドライン

モデル構造の作成ガイドライン	11
ユーザーニーズの予測	11
紙の上のモデル作成	12
データの収集	13
モデル設計のガイドライン	13
モジュールの作成ガイドライン	14
ディメンションの作成ガイドライン	14
アカウントの作成ガイドライン	17
アカウントの作成ガイドライン	17
コストオブジェクトアカウントの作成ガイドライン	18
アクティビティアカウントの作成ガイドライン	18
リソースアカウントの作成ガイドライン	19
ドライバの作成ガイドライン	19
割り当ての作成ガイドライン	19
モデル、設定、データの共有ガイドライン	20
概要	20
アイテムの保存	20
アイテムの命名	20
アイテムの削除	21
データの共有	21

モデル構造の作成ガイドライン

ユーザーニーズの予測

モデルを作成する前に、モデルの目標を定義します。組織によって目標が異なり、目標はモデルの設計に影響します。モデルの設計に唯一無二の正しい方法はありません。

モデルを作成する前に、次の事項の検討が必要です。

- 必要なアウトプットを選定します(レポートやキューブなど)。

場合によっては、組織内のメンバに、製品やサービスのコスト、コストがかかる理由などの質問に答えてもらう必要があります。

モデルの作成後にユーザーが実行する分析の種類や詳細は、定義した構造によって決まります。

- 組織についてどの程度理解しているか見極めます。

モデルの作成を開始する前に、組織について十分に理解する必要があります。組織のシステム、製品やサービス、および顧客について検討します。

- 組織内のメンバに必要な情報の種類を選定します。

モデルが組織のニーズと目標に合致している必要があります。ニーズと目標をサポートする情報のみを含めます。

- 組織にとって重要な詳細レベルを見極めます。

詳細が多すぎる場合、分析が複雑になり、有益な情報が追加されません。詳細なモデルには、より多くのメンテナンスが今後必要になります。含める詳細が少ないと、改善点を明らかにすることができない可能性があります。必要なレポートを作成できる詳細を挿入します。

モデルの作成は反復処理です。最初から必要な情報をすべて含むモデルを作成できる人は少数です。多くの場合、モデルでは、情報過多でも情報不足でもない最高のバランスを決定するために複数回の反復処理が必要になります。

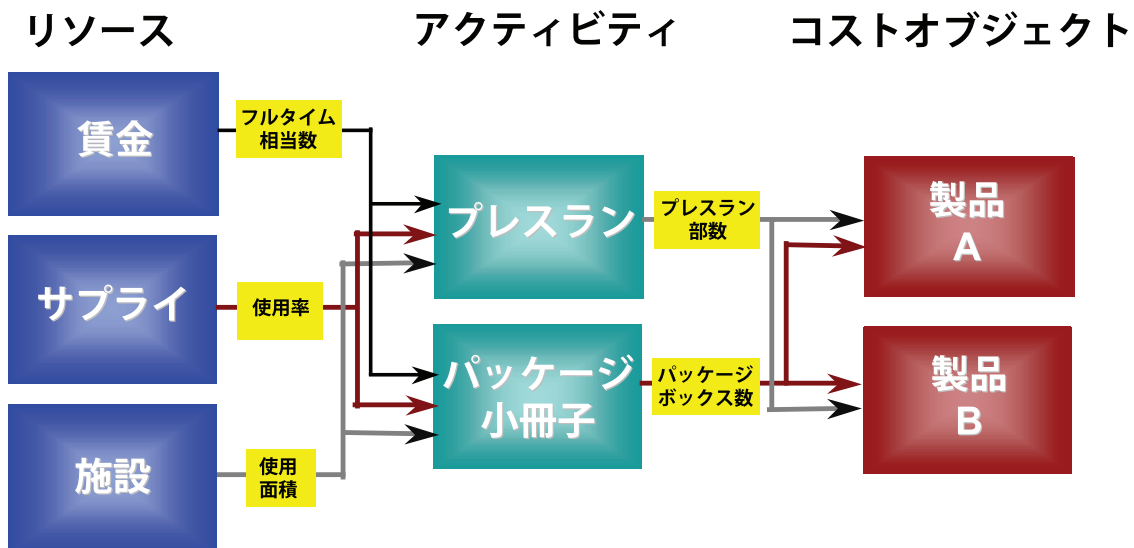
モデルによって提供される情報の使用者とは頻繁にコミュニケーションを取り、次の事柄を確認するようにします。ニーズを満たす情報を含めていますか？ 詳細度は十分ですか？ モデルで考慮されていない方法でデータを分析する必要はありませんか？

モデルの設計に最適な方法は、SAS Activity-Based Management でモデルの作成を試みる前に、紙の上でモデルを作成することです。

紙の上のモデル作成

紙の上のモデルは、データをモデルに入力する前に、モデル構造に集中するのに役立ちます。紙の上にモデル構造をスケッチして、組織階層で重要なレベルに注意します。次に、組織内の他のメンバと一緒に紙の上のモデルを見直して、ニーズに対する取り組みが正しいかどうか判断します。

紙の上のモデルの例を次に示します。



紙の上のモデルが組織内のメンバのニーズを満たしていると判断したら、モデルに必要なデータの収集を開始してください。

データの収集

紙の上のモデルを見直すと、収集の必要なデータが特定されます。モデルの品質と整合性は、データの特定とデータの収集によって決まります。

データの収集にはさまざまな方法があります。大部分の組織では、次のような技術や方法を組み合わせて使用します。

- インタビューを行う
- 質問表を配布する
- 履歴レコードとレポートを分析する
- 専門家集団やフォーカスグループを招集する
- メンバとワークフローを観察する

モデル設計のガイドライン

組織のリソース、アクティビティ、コストオブジェクトについて深く理解することで、優れたモデルを設計できます。モデルを作成する際、目標が定義されます。組織によって目標が異なり、目標はモデルの設計に影響します。モデルの設計に唯一無二の正しい方法はありません。

効率的に実行でき有益な情報を提供できるモデルを作成するためのガイドラインを次に示します。

- 目標を定義します。
目標とスコープを検討します。
- 必要な情報の種類を決定します。
経営陣に必要な情報の種類を選定します。モデルが組織のニーズと目標に合致している必要があります。
- データをモデルに入力する前に、モデル構造を設計します。
組織階層で重要なレベルに注意します。
- 挿入する詳細レベルを決定します。
組織にとって重要な詳細レベルを見極めます。詳細が多すぎる場合、分析が複雑になり、有益な情報が追加されません。詳細なモデルには、より多くのメンテナンスが今後必要になります。含める詳細が少ないと、改善点を明らかにすることができない可能性があります。必要なレポートを作成できる詳細を挿入します。
- 類似したアカウントをまとめます。
組織の GL 勘定科目に交通費、宿泊費、交際費などの出張費の詳細が記載されている場合、これらのアカウントを 1 つの旅費アカウントにまとめます。個々のコストをまとめて負担する場合や、同じ要因から複数のコストが発生する場合があります。このような場合、それらのアイテムを 1 つにまとめます。また、コストがわずかな詳細アカウントを、より上位のカテゴリを示すアカウントにまとめます。
- 関連アカウントを分類します。
役割が同じアカウントや、類似アクティビティに結び付いているアカウントをロールアップアカウントに分類します。
- コストを収集します。

コストの収集期間と、リソース値およびアクティビティドライバ値の収集期間との関係を検討します。

- ドライバデータを収集します。

アクティビティコストをコストオブジェクトに割り当てるドライバデータを収集する場合、データが最新、使用可能、正確でなければなりません。データの正確性を検証するには、組織メンバに確認します。

- 一意のドライバ量の使用は最小限にします。

一意のドライバ量は、大量のメモリを使用する可能性があります。処理時間が増加し、計算上の利点ははありません。

モジュールの作成ガイドライン

モジュールの作成前に、次の事項の検討が必要です。

- コストオブジェクトモジュールの作成から開始します。

予期される結果と、そこに至るまでの作業を特定します。サービス産業の組織の場合は、コストオブジェクトが不明なことがあります。その場合は、アクティビティモジュールの作成から開始します。

- 組織の部門(または支店)を特定します。

アクティビティモジュールとリソースモジュールの構造ディメンションは、この情報によって決まります。(アクティビティモジュールとリソースモジュールに関するセクションに詳細が記載されています。)

- コストの計算やキューブの作成をせずにモジュールを作成します。ただし、処理を進めながらモデルを検証します。

コストの計算やキューブの作成をしない方が、モデルを迅速に作成でき、コストの計算やキューブの作成に時間を費やすよりも、モデル設計の流れを確認しやすくなります。

ディメンションの作成ガイドライン

ディメンションの作成前に、次の事項の検討が必要です。

- モデルの作成を計画する際、利用者は誰かなどディメンションの条件を考えます。ディメンションの最上位レベルは、組織全体です。これを、オフィスの所在地別(全世界、国、州または省)、ビジネス領域別(販売、財務)、部門別(官公庁向け営業、買掛金)にさらに細分化します。

ディメンションシグネチャは、モデルのアカウントを一意に特定します。また、複数ディメンションのインターセクションです。そのため、アカウントの特定に必要なディメンションを考える必要があります。

- ディメンションは、ユーザーがモデルの情報を切り離す(分解する)際に役立ちます。ユーザーがレポートを必要としているかを考える必要があります。

OLAP 分析時にユーザーが情報の表示を望んでいるディメンションを指定します。

- モデル構造に変換する必要があるデータや、属性に変換するデータを決定します。

- 構造ディメンションを定義したら、各種ユーザーに複数のコスト集計をサポートできるように属性を使用した構造の拡張方法を検討する必要があります。

属性ディメンションは、レポートが必要なユーザー向けのディメンションです。レポートニーズをモデル構造ディメンションに反映すると、モデルデータの入力時やモデルの修正時に負荷が発生するため、避ける必要があります。

- パフォーマンスを向上させ、データ入力を簡単にするために、ディメンション数は最小限にする必要があります。

ディメンションのインターセクションに含めるディメンション数に制限はありませんが、数が少なければ(5 以下)管理しやすくなります。

- すべてのディメンションまたはディメンションレベルが正当なビジネスニーズに基づいている必要があります。

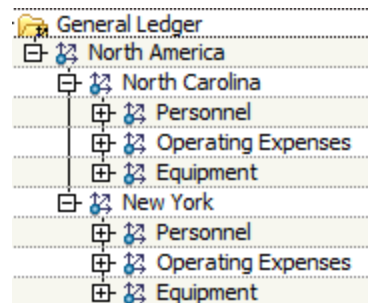
不要なディメンションやディメンションレベルを作成すると、OLAP キューブの情報が多くなり分りにくくなります。

- ディメンションかディメンションメンバかを判断する際、次の事項を考慮します。
- モデルの構成要素が 1 つのディメンション内に繰り返し使用されている場合(GL 勘定科目の Rent-North Carolina (賃料-ノースカロライナ、Rent-New York (賃料-ニューヨーク)、Rent-Kansas (賃料-カンザス)など)、その構成要素はディメンションであると考えられます。この例では、オフィス所在地のディメンションと GL 勘定科目経費のディメンションという 2 つのディメンションを作成すると、OLAP 分析の柔軟性を向上できます。
- ディメンションメンバであるかは、コストを受け渡するか(割り当ての一部)に基づき判断します。

例: 複数のディメンションを使用した分析の向上

組織で、North America (北米)地域の特に North Carolina 州と New York 州のオフィスのモデルを作成するとします。モデルには、これらの場所の各リソースコスト(人件費、運営費、設備費)を格納する必要があります。

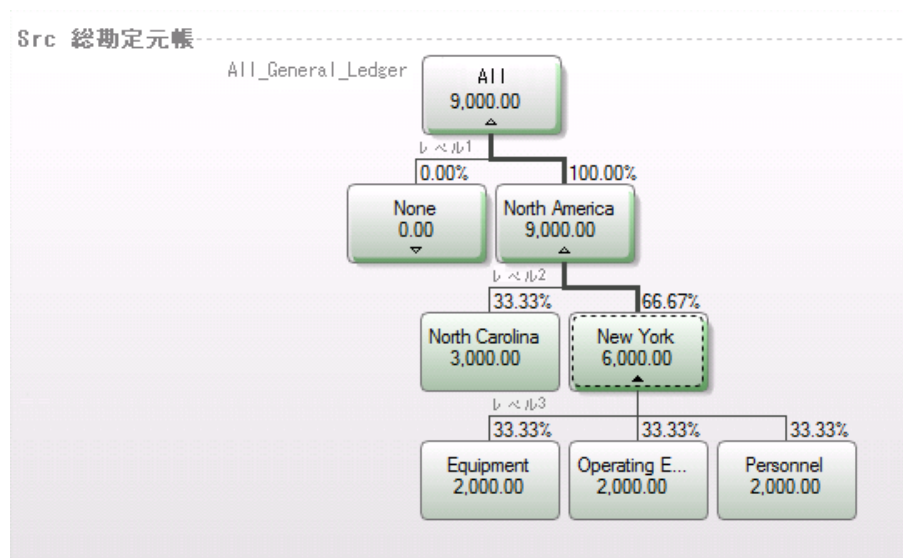
モデル作成者としての観点から、ディメンションビューで次の図のような 1 つの構造ディメンションを作成できます。



リソースモジュールの構造は、次の図のようになります(例の値が入力されています)。

Display Name	Cost
リソース (プライマリペイン)	\$9,000.00
North America	\$9,000.00
North Carolina	\$3,000.00
Personnel	\$1,000.00
Personnel_2020-1	\$1,000.00
Operating Expenses	\$1,000.00
Operating Expenses_2021-1	\$1,000.00
Equipment	\$1,000.00
Equipment_2022-1	\$1,000.00
New York	\$6,000.00
Personnel	\$2,000.00
Personnel_2023-1	\$2,000.00
Operating Expenses	\$2,000.00
Operating Expenses_2024-1	\$2,000.00
Equipment	\$2,000.00
Equipment_2025-1	\$2,000.00

この構造ディメンションを使用してモデルを作成すると、正確なコストが計算されます。次のキューブエクスプローラビューの図に示すように、ユーザーは OLAP Analyzer でコストデータを分析できます。

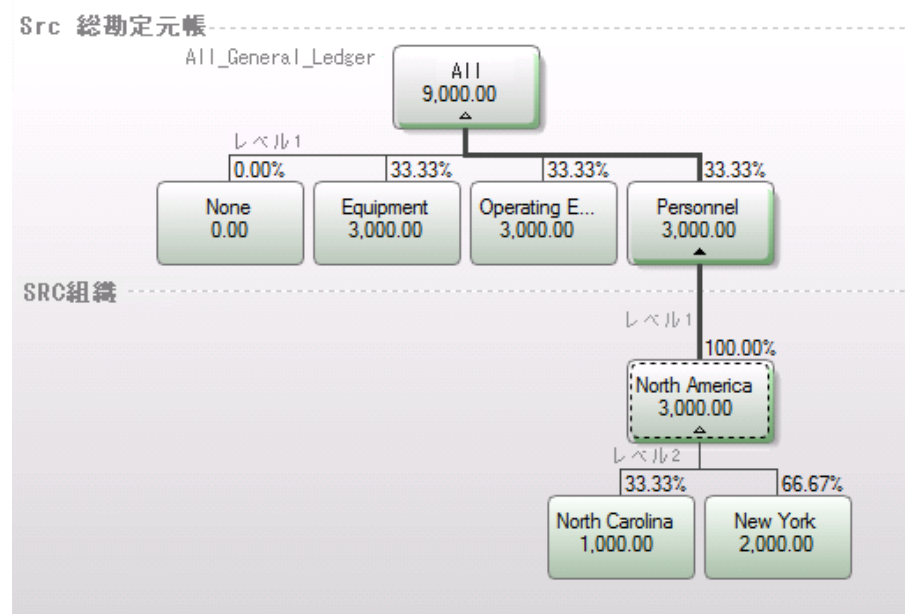


ユーザーは New York または North Carolina に関連付けられたコスト(この図では展開されていません)を検証できます。ただし、North Carolina と New York 両方の個々のアカウントのコストは合算できません。たとえば、North Carolina と New York それぞれの人件費の合計コストを検証することはできません。

次に、異なる場所にあるオフィスのアカウントを組み合わせ、より柔軟に OLAP 分析を行えるようにします。次のディメンションビューの図に示すように、前の 1 つの構造ディメンションを変更して 2 つのディメンションにします。

Organization
North America
North Carolina
New York
General Ledger
Personnel
Operating Expenses
Equipment

リソースモジュールの構造は、前の例と同じです。ただし、ユーザーは、前述の例で示した OLAP 分析に加えて、次の図に示すように、モデルデータを表示できるため、North Carolina と New York の両方を合算した合計人件費が明らかになります。



アカウントの作成ガイドライン

アカウントの作成ガイドライン

- 類似したアカウントをまとめます。

組織の GL 勘定科目に交通費、宿泊費、交際費などの出張費の詳細が記載されている場合、これらの費用を 1 つの旅費アカウントにまとめます。個々のコストをまとめて負担する場合や、同じ要因から複数のコストが発生する場合があります。このような場合、それらのコストを 1 つにまとめます。また、コストがわずかな詳細アカウントを、より上位のカテゴリを示すアカウントにまとめます。

複数のアカウントを 1 つのアカウントにまとめると、モデルの作成や管理が簡単になります。ただし、アカウントをまとめることで、ビジネスユーザーが必要な情報をレポートする際に支障が出ないか確認する必要があります。

- 関連アカウントを分類します。

役割が同じアカウントや、類似アクティビティに結び付いているアカウントをロールアップアカウントに分類します。たとえば、次に示すように、未分類アカウントを分類できます。

未分類アカウント	分類済みアカウント
Magazine Advertising Inserts	Advertising
Direct Mail Advertising	Print
In-Store Advertising Circulars	Magazine Inserts
Radio Advertising	Direct Mail
TV Advertising	In-Store Circulars
Yellow Pages Advertising	Radio
	TV
	Yellow Pages

アカウントの分類と、第 6 章のディメンションにおける複数のディメンションの使用に関するアドバイスはほぼ同じことです。グループ、およびグループ内のレベルを使用すると、ビジネスユーザーは、さまざまなレベルでより柔軟にコストを分析できます。前述の例では、ビジネスユーザーは、Magazine Inserts、Direct Mail および In-Store Circulars から、個々の広告のコストを検証できます。また、ビジネスユーザーは、Print レベルでのこれらの広告方法の合計コストや、広告方法は考慮せずに広告の合計コストを検証することもできます。

- OLAP 分析では、キューブで検証できる最下層のレベルがアカウントです。コストエレメントのコストはアカウントにロールアップされ、個々の検証はできません。したがって、ビジネスユーザーが使用できるようにする必要があるのは、コストエレメントではなくアカウントのコスト情報です。

コストオブジェクトアカウントの作成ガイドライン

コストオブジェクトアカウントの作成前に、次の事項の検討が必要です。

- ビジネスユーザーが使いやすいように、コストオブジェクトを命名、整理します。

アクティビティアカウントの作成ガイドライン

アクティビティアカウントの作成前に、次の事項の検討が必要です。

- ビジネスユーザーが使いやすいように、アクティビティアカウントを命名、整理します。
- アクティビティとタスク、プロセスとアクティビティを区別します。タスクから非常に細かい情報が提供され、プロセスからは大枠の情報が提供されます。

5-50 ルールに従います。

いずれかのメンバから消費する時間が 5%未満の場合、アクティビティではなく、タスクの可能性があります。タスクをまとめて 1 つまたは複数のアクティビティを作成します。たとえば、書簡の開封、書簡のタイピング、および切手貼りのタスクは、顧客との通信というアクティビティにまとめられます。

ただし、タスクレベルを理解することは重要です。それにより、アクティビティの範囲や、隣接するアクティビティ同士の境界が明確になるため、組織内のメンバをアクティビティに関連付けられます。

いずれかのメンバから消費する時間が 50%以上の場合、アクティビティではなく、ビジネスプロセス(またはビジネスマクロプロセス)の可能性があります。より細かく分割して、プロセスに関連するアクティビティを特定します。たとえば、施設警備のプロセスは、敷地巡回、通行車両監視およびセキュリティカード発行のアクティビティに分割できます。

- アクティビティアカウントはアクティブである必要があります。根拠のない会計バケットではありません。その内容を示すために、Process Order (発注)や Enter Invoices (インボイス入力)など、動詞と名詞の句を使用してアクティビティアカウントに名前を付けます。
- アクティビティアカウントは、経営陣の検討対象のコストカテゴリである必要があります。
- 必要なアクティビティアカウントがすべて定義される必要があります。
組織のアクティビティを決定するために、組織のメンバのサーベイが必要です。
- アクティビティアカウントの作成は、経営陣が意思決定するためにそのアクティビティの詳細が必要な場合のみ行います。
- アクティビティアカウントには、コストの割り当てに使用するドライバが 1 つ必要です。

リソースアカウントの作成ガイドライン

リソースアカウントの作成前に、次の事項の検討が必要です。

- ビジネスユーザーが使いやすいように、リソースアカウントを命名、整理します。リソースアカウントとコストエレメントの参照を作成する際は、参照が組織の勘定表の勘定科目番号に対応するようにします。

関連項目:

[“モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウント” \(150 ページ\)](#)

ドライバの作成ガイドライン

ドライバの作成前に、次の事項の検討が必要です。

- 一意のドライバ量の使用は最小限にします。一意のドライバ量は、大量のメモリを使用する可能性があります。処理時間が増加し、計算上の利点ははありません。
- ドライバ量がすでに収集されているか、測定するコストが少ないドライバを作成します。
- ドライバデータを収集する場合、そのデータが最新、使用可能、正確でなければなりません。データの正確性を検証するには、組織メンバに確認します。
- 一般的に、基本ドライバには固定ドライバ量を使用します。ビルオブコストドライバには、変動ドライバ量を使用します。

割り当ての作成ガイドライン

割り当ての作成前に、次の事項の検討が必要です。

- コストは、アカウント間に割り当てることができますが、ロールアップアカウントに割り当ててはできません。
- アカウントコストは、他のアカウントに 100 パーセント割り当てるようにします。

100 パーセント割り当てなければ、コストの計算時に SAS Activity-Based Management により警告が表示されます。

関連項目:

[“割り当て” \(263 ページ\)](#)

モデル、設定、データの共有ガイドライン

概要

モデルの作成と解析により得られるデータは、ビジネスに関する意思決定に役立てることができます。準備したビジネスデータを組織のメンバーが利用できるように、結果を共有できます。ただし、大量のデータが 1 つのサーバーに格納されるため、すべてのユーザーが正確な情報を簡単に検索できるように、命名規則などのガイドラインを制定する必要があります。

同一サーバー上に保存されたすべてのレポート設定が、ワークスペースマネージャに表示されます。

アイテムの保存

列のレイアウト、OLAP ビュー、パブリッシュされたレポート、レポート設定について、保存のタイミングと保存してはいけないタイミングのガイドラインを制定します。

アイテムの命名

概要

SAS Activity-Based Management Server にあるアイテムを管理するために、命名規則を制定します。名前に所有者のイニシャルを含めるかどうかを決定します。アイテム名は、Workspace Manager のフォルダ内のアイテムの並べ替え順に影響します。

インポート設定とモデルの命名

モデル名とインポート設定には、次の情報を含めることができます。

- モデルの目標
- モデル操作が許可されるユーザー
- データのインポート時に選択される構造、ディメンション、属性、メジャーの種類の簡単な参照
- 期間/シナリオ関連付け
- モデルのインポート日

列のレイアウトの命名

列のレイアウト名には、次の情報を含めることができます。

- 列のレイアウトを使用するユーザーまたはチーム
- 列のレイアウトを使用するモデルまたはモデルの種類

レポート設定の命名

デフォルトでは、レポートワークスペースの各説明に次の情報が含まれます。

- レポート設定の保存時に入力された説明
- レポート設定の保存日

OLAP ビューの命名

デフォルトでは、分析ワークスペースの各説明に次の情報が含まれます。

- OLAP ビューの保存時に入力された説明
- OLAP ビューの保存日
- モデル名
- 事前定義キューブの種類
- OLAP ビューを保存したユーザーのネットワークログイン

アイテムの削除

組織では、自動的に保存されたアイテムや、保存後に必要がなくなったアイテムを削除するようにユーザーに勧める必要があります。アイテム削除のタイミングについてガイドラインを制定できます。

データの共有

SAS Activity-Based Management を使用しないユーザーのために、Microsoft Excel スプレッドシートにキューブをエクスポートしたり、よく使用されるアプリケーション形式にレポートのエクスポートしたりできます。

3 章

ユーザーインターフェイス

ナビゲーションペイン	24
概要	24
ナビゲーションペインの表示	25
ナビゲーションペインの最小化	25
ナビゲーションペインの分割	26
ワークスペースマネージャ	27
概要	27
ワークスペースとワークスペースアイテム	27
ワークスペースマネージャの表示	27
ワークスペースマネージャのレイアウト	28
ワークスペースアイテムの命名規則ガイドライン	29
サーバーエリアのワークスペースアイテムの所有権と権限	29
ワークスペースマネージャタスク	30
概要	30
ワークスペースマネージャの表示	30
ワークスペースアイテムへのショートカットの作成	31
ワークスペースアイテムのプロパティの確認、変更	31
フォルダの作成	31
ワークスペースアイテムの移動	31
ワークスペースアイテムを開く	31
SAS を使用して作成されたレポートのパブリッシュ	32
ワークスペースマネージャの更新	32
ワークスペースアイテムの削除	32
特定ユーザー所有のアイテムの表示	32
ショートカットキー	32
ナビゲーションタスク	32
基本的な編集タスク	33
モデリングタスク	33
ボタンおよびアイコン	34
リソースモジュールビュー、アクティビティモジュールビュー、 コストオブジェクトモジュールビュー、外部ユニットモジュールビュー	34
属性ビューのボタンとアイコン	36
ドライバビューのボタンとアイコン	37
ディメンションビューのボタンとアイコン	38
期間とシナリオの関連付けビューのボタンとアイコン	39
パフォーマンスメジャービューのボタンとアイコン	40
分析ワークスペースのボタンとアイコン	40
OLAP Analyzer ビューのボタンとアイコン	41
レポートワークスペースのボタンとアイコン	42

レポートビューのボタン	43
ヘルプのヒント	43
ヘルプ情報の印刷	43
全文検索の使用	44
JAWS Graphics Labeler の使用	45
ショートカットの作成ダイアログボックス	45
ショートカットの作成ダイアログボックスについて	45
ショートカットの作成ダイアログボックスの表示	45
情報の指定	45
新しいフォルダダイアログボックス	46
新しいフォルダダイアログボックスについて	46
新しいフォルダダイアログボックスの表示	46
情報の指定	46
SAS Activity-Based Management についてダイアログボックス	46
ダイアログボックスについて	46
SAS Activity-Based Management についてダイアログボックスの表示	46
SAS Activity-Based Management のシステム情報ウィンドウ	47
SAS Activity-Based Management のシステム情報ウィンドウについて	47
SAS Activity-Based Management のシステム情報ウィンドウの表示	47

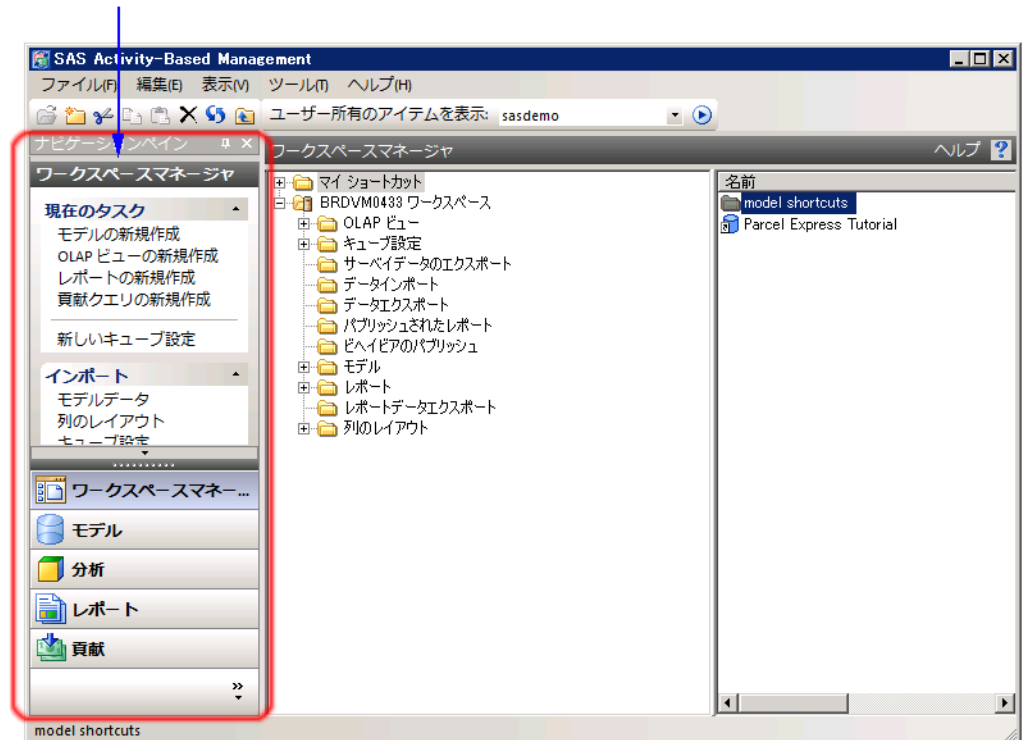
ナビゲーションペイン

概要

ナビゲーションフレームでは、SAS Activity-Based Management を構成する次のワークスペース間を移動できます。

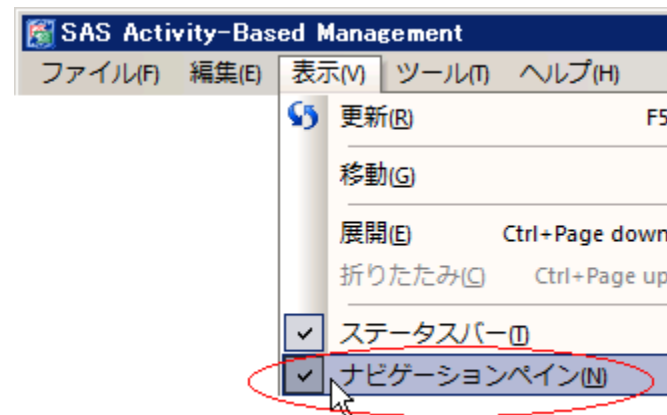
- ワークスペースマネージャ “[ワークスペースマネージャ](#)” (27 ページ)を参照してください。
- モデル “[モデルワークスペース](#)” (67 ページ)を参照してください。
- 分析 “[分析ワークスペース](#)” (445 ページ)を参照してください。
- レポート “[レポートワークスペース](#)” (540 ページ)を参照してください。
- 貢献 “[貢献ワークスペース](#)” (461 ページ)を参照してください。

ナビゲーションペイン



ナビゲーションペインの表示

ナビゲーションペインが表示されていない場合は、表示 ⇒ ナビゲーションペインを選択します。



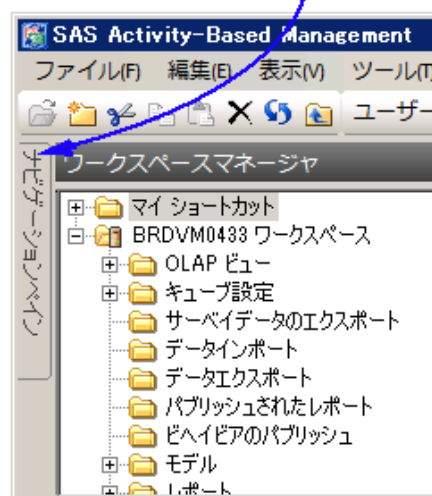
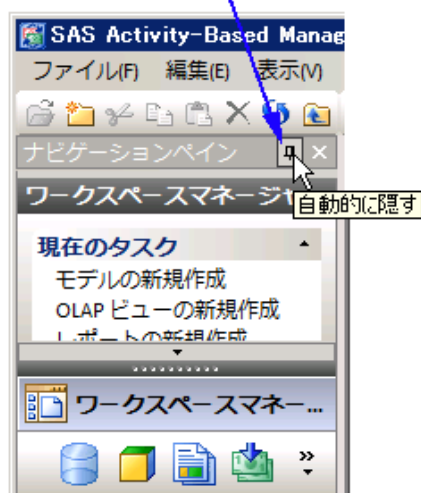
ナビゲーションペインの最小化

1. ナビゲーションペインを最小化するには、自動非表示アイコンをクリックします。
最小化されたタブにマウスポインタを移動すると、ナビゲーションペインが一時的に表示されます。

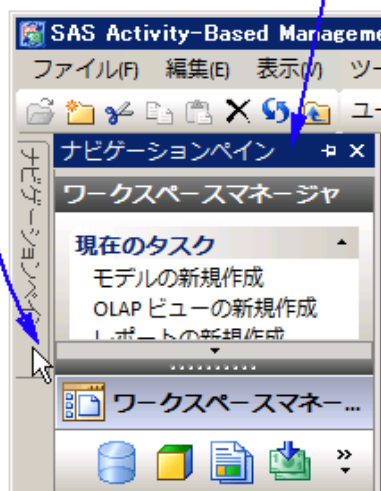
2. ナビゲーションペインを開いたままにするには、自動非表示アイコン(プッシュピン)を再度クリックします(または表示 ⇨ ナビゲーションペインを選択します)。

1. 自動非表示アイコンをクリックすると、

ナビゲーションペインが最小化されます。



2. タブにマウスポインタを移動すると、ナビゲーションペインが一時的に表示されます。



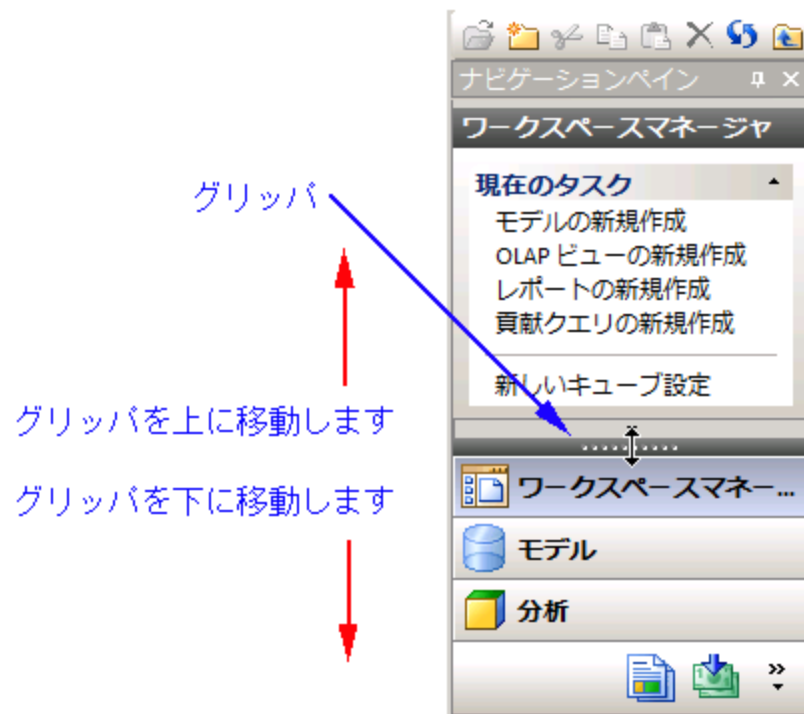
3. プッシュピンをクリックすると、ナビゲーションペインを開いたままにできます。



ナビゲーションペインの分割

ナビゲーションペインのタスク領域とボタン領域の相対サイズを変更するには、グリッパを上下に移動します。

注: グリッパは、ボタン領域にすべてのボタンが表示された状態から上には移動できません。



ワークスペースマネージャ

概要

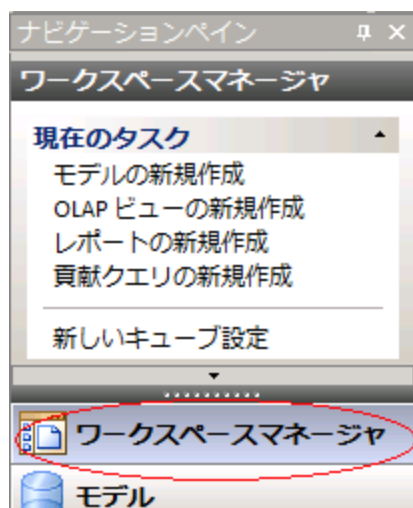
ワークスペースマネージャには、モデルからレポートのキューブ設定まで、SAS Activity-Based Management のすべての要素がツリービューで表示され、その要素すべてにアクセスできます。

ワークスペースとワークスペースアイテム

ワークスペースには、SAS Activity-Based Management で作成した列のレイアウトやモデルなどのアイテムが格納されます。ワークスペースは同一サーバー上のすべてのユーザーによって共有されるため、組織の標準アイテムを一度定義すると、必要に応じて別のモデルにその標準アイテムを適用できます。

ワークスペースマネージャの表示

1. ナビゲーションペインが表示されていない場合は、表示 ⇨ ナビゲーションペインをクリックします。
2. ワークスペースマネージャをクリックします。



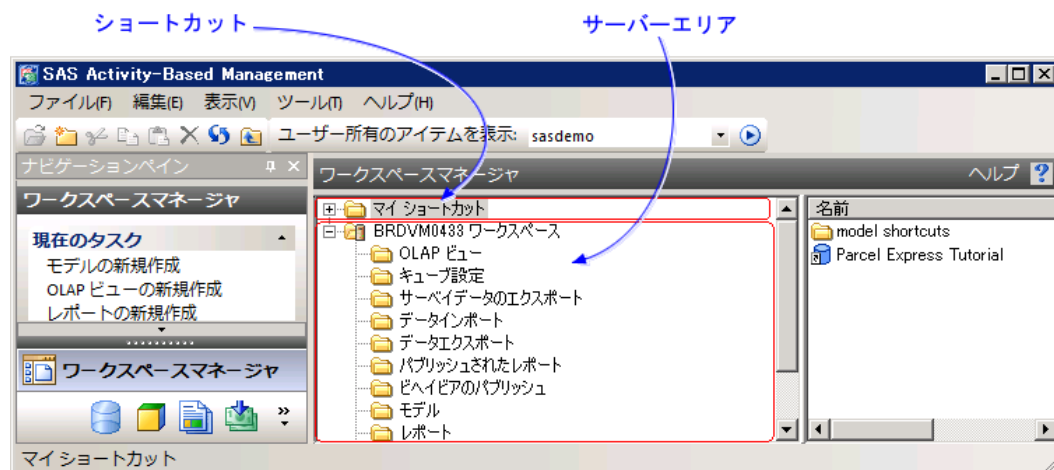
ワークスペースマネージャのレイアウト

ワークスペースマネージャのレイアウトについて

ワークスペースマネージャは、Windows Explorer と似ています。ドラッグアンドドロップを含め、Windows Explorer で使用するコマンドや操作の大部分は、ワークスペースマネージャでも同様に機能します。

ワークスペースマネージャでは、2 つのペインに情報が表示されます。左ペインでアイテムを選択すると、選択したアイテムのコンテンツが右ペインに表示されます。

左ペインには、サーバーエリアとマイ ショートカットの 2 つの主要なパートがあります。



サーバーエリア

サーバーエリアには、SAS Activity-Based Management Server のすべてのアイテムが表示されます。ワークスペースエリア名には、アイテムが格納されているサーバー名の後ろに Workspace が付けられた名前が使用されます。たとえば、サーバー名が ABCdata の場合、サーバーエリア名は ABCdata Workspace となります。この名前は変更できません。

サーバーエリアには、権限が許可されたアイテムのみが表示されます。また、フォルダのコンテンツを表示する必要がなくても、すべてのユーザーが作成したフォルダが表示されます。

システム管理者の場合、所有者に関係なくすべてのアイテムが表示され、すべてのアイテムを操作できます。

サーバーエリアのアイテムの作成と削除

サーバーエリアの最上位レベルのフォルダは、名前変更や削除ができません。ただし、必要な権限があれば、最上位レベルのフォルダ内でサブフォルダを作成、削除できます。

モデルを削除すると、そのモデルに依存するワークスペースアイテムが削除されます。そのため、ワークスペースアイテムを開くと、モデルの欠損に関するエラーメッセージが表示されることがあります。

注: アイテムに関連付けられているモデルは変更できません。エラーメッセージが表示されないようにするには、ワークスペースアイテムを削除し、別のモデルから同一のアイテムを作成します。

マイショートカット

マイショートカットを使用すると、作業に合わせてアイテムを構成できます。サーバーエリアにあるアイテムへのショートカットを作成できます。ショートカットを作成すると、ショートカットを使用してアイテムを開いて使用できます。

注: ショートカットが参照するアイテムの名前を変更や移動しても、アイテムが含まれるフォルダ名の変更を行っても、ショートカットは機能します。

マイショートカットには、フォルダとショートカットのみが配置されます。SAS Activity-Based Management のユーザーごとに、それぞれ別のショートカットエリアが用意されるため、各自が作成したフォルダとショートカットのみが表示されます。フォルダとショートカットを作成したサーバーに接続するコンピュータであれば、これらのフォルダとショートカットを使用できます。

サーバーエリアのアイテムは、種類別に整理されます。一方、マイショートカットでは、フォルダはタスクとプロジェクト別に整理され、各フォルダにさまざまな種類のアイテムへのショートカットを作成できます。

ワークスペースアイテムの命名規則ガイドライン

組織ごとに命名規則のガイドラインを作成できます。ただし、ガイドラインは SAS Activity-Based Management の命名規則に従って作成する必要があります。

サーバーエリアのワークスペースアイテムの所有権と権限

サーバーエリアにアイテムを作成する際、SAS Activity-Based Management により所有権がその作成ユーザーに割り当てられます。所有権を持つユーザーはアイテムの変更、名前変更、移動が行えます。自分がメンバであるグループの他のユーザーに権限を割り当てることができます。

SAS 管理コンソールで作成した各グループに、自分が所有するアイテムへの読み取り権限または読み取り/書き込み権限を割り当てられます。グループにこれらの権限を割り当てないと、そのグループのメンバユーザーはそのアイテムを表示できません。

注: 権限をグループに割り当てするには、そのグループのメンバである必要があります。このセキュリティにより、重要な組織のデータが不用意に流出するのを防ぎます。メンバでないグループに権限を割り当てて必要がある場合、システム管理者に、一時的にそのグループに割り当てるように依頼してください。

関連項目:

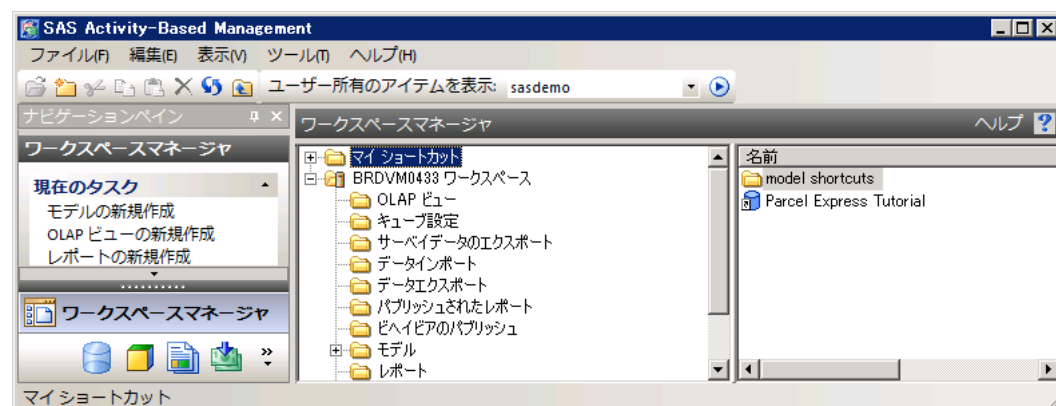
- “ワークスペースマネージャタスク” (30 ページ)
- 4 章, “ユーザーの権限とグループ” (49 ページ)

ワークスペースマネージャタスク

概要

ワークスペースマネージャを使用して、使用頻度が高いタスクを開始します。次のタスクは、最初にモデルを開くことなく、ワークスペースマネージャから実行できます。ワークスペースマネージャの詳細については、ワークスペースマネージャを参照してください。

注: 権限によっては、機能を使用できません。



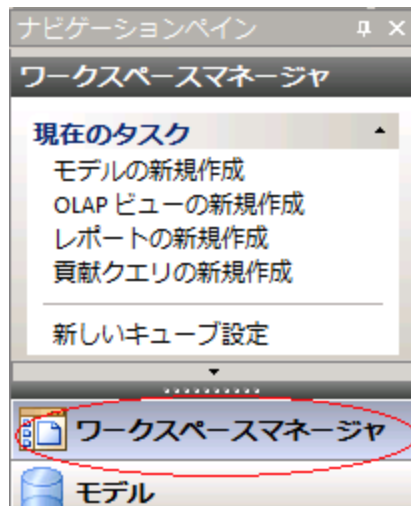
注: ユーザー所有のアイテムを表示ドロップダウンリストは、管理者のみ使用できます。

関連項目:

“ワークスペースマネージャ” (27 ページ)

ワークスペースマネージャの表示

1. ナビゲーションペインが表示されていない場合は、表示 ⇨ ナビゲーションペインをクリックします。
2. ワークスペースマネージャをクリックします。



ワークスペースアイテムへのショートカットの作成

1. ワークスペースマネージャのサーバーエリアで、アイテムを選択します。
2. **ファイル** ⇒ **ショートカットの作成**を選択します。
ショートカットの作成ダイアログボックスが表示されます。

ワークスペースアイテムのプロパティの確認、変更

1. ワークスペースマネージャで、アイテムを選択します。
2. **編集** ⇒ **アイテムのプロパティ**を選択します。
アイテムのプロパティダイアログボックスが表示されます。

フォルダの作成

1. ワークスペースマネージャで、新しいフォルダを作成するフォルダを選択します。
2. **編集** ⇒ **新しいフォルダ**を選択します。
新しいフォルダダイアログボックスが表示されます。

ワークスペースアイテムの移動

1. ワークスペースマネージャで、アイテムを選択します。
2. 新しい場所にアイテムをドラッグします。

注: アイテムは、アイテムと種類が同じ場所にのみドラッグできます。

ワークスペースアイテムを開く

1. ワークスペースマネージャで、アイテムを選択します。

2. **ファイル** ⇒ **ワークスペースアイテムを開く**を選択します。

SAS を使用して作成されたレポートのパブリッシュ

1. ワークスペースマネージャで、**パブリッシュされたレポート**を選択します。
2. **ファイル** ⇒ **パブリッシュされたレポートを挿入**を選択します。
新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックスが表示されます。

ワークスペースマネージャの更新

表示 ⇒ **更新**を選択します。

ワークスペースアイテムの削除

1. ワークスペースマネージャで、アイテムを選択します。
2. **編集** ⇒ **削除**を選択します。

特定ユーザー所有のアイテムの表示

注: この機能は、管理者のみ使用できます

ユーザー所有のアイテムを表示メニューから、ユーザーを選択します。

関連項目:

[“ワークスペースマネージャ” \(27 ページ\)](#)

ショートカットキー

次のショートカットキーを使用すると、簡単に操作を実行できます。

ナビゲーションタスク

ショートカットキー	実行される操作
Alt + 左矢印	戻る
Alt + 右矢印	進む
テンキーの(+)	階層を展開する 
テンキーの(-)	階層を折りたたむ 

基本的な編集タスク

ショートカットキー	実行される操作
Ctrl+X	選択したテキストを Windows クリップボードに切り取る
Ctrl+C	選択したテキストを Windows クリップボードにコピーする
Ctrl+V	Windows クリップボードからテキストを貼り付ける
Ctrl+Q	ワークスペースマネージャまたは属性ビューに新しいフォルダを作成する
F5	情報を更新する

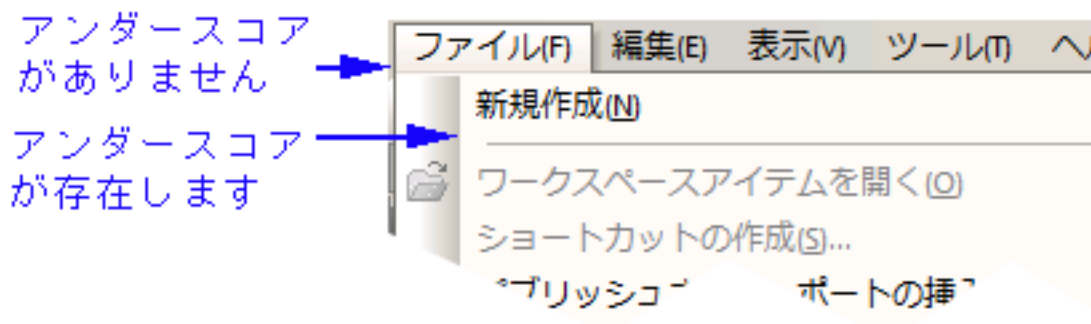
モデリングタスク

ショートカットキー	実行される操作
Ctrl+A	新しいアイテムを作成する(入力コストエレメント以外)
Ctrl+O	新しい入力コストエレメントを作成する
Ctrl+E	アカウントに追加された属性を管理する
Ctrl+G	選択したアカウントに移動する
Alt+Enter	アイテムのプロパティを表示する
F7	左右割り当てペインで、選択したアカウントとすべてのアカウント間に割り当てを作成する
Shift+F7	<p>選択したアカウントへの内向きの割り当てすべてと、選択したアカウントからの外向きの割り当てすべてを削除する</p> <p>注: 割り当てペインに、削除する割り当ての内向きのアカウントも外向きのアカウントも表示されている必要はありません。実際、割り当てペインの表示も必要ありません。</p>

注:

- JAWS スクリーンリーダープログラムにより HTML ページの入力フィールドがロックされ、データが入力できない場合があります。JAWS 使用中にこの問題が発生した場合、Alt+N を押してスクリーン入力を再度有効化してください。
- JAWS スクリーンリーダープログラムにより、ラベルの付いていないグラフィックに graphics というラベルと乱数が割り当てられます。JAWS Graphics Labeler を使用して、独自のラベルを割り当てることができます。

- Windows の不具合により、最上位メニューアイテムにアンダースコアが表示されません。たとえば、次の図では、ファイルにアンダースコアが表示されていません。Alt キーを使用して指定することは可能です。



ボタンおよびアイコン

リソースモジュールビュー、アクティビティモジュールビュー、コストオブジェクトモジュールビュー、外部ユニットモジュールビュー

次の表には、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールと外部ユニットモジュールのボタンとアイコンが記述されています。



ボタン	用途
	新しいモデルウィザードを開始します。
	選択したアイテムのプロパティを表示します。
	選択したアイテムを削除します。
	コスト計算ダイアログボックスを開きます。
	キューブ作成ダイアログボックスを開きます。
	アカウントを作成します。
	アカウント検索ダイアログボックスを開きます。
	新しい入力コストエレメントダイアログボックスを開きます。
	列のレイアウトダイアログボックスを開きます。

ボタン	用途
	現在のモデルを閉じて、モデルワークスペースを開きます。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。
	リソースモジュールを開きます。
	アクティビティモジュールを開きます。
	コストオブジェクトモジュールを開きます。
	外部ユニットモジュールを開きます。
	左割り当てペインにアカウントを追加します。
	右割り当てペインにアカウントを追加します。
	左または右割り当てペインを表示します。
	このボタンを使用して、選択したアカウントのすべての割り当てを表示します。割り当てを選択またはアカウントをクリアするメニューが表示されます。
アイコン	アイテムの種類
	閉じられた状態または開かれた状態のモジュール
	閉じられた状態または開かれた状態のロールアップアカウント
	リソースアカウント
	アクティビティアカウント
	コストオブジェクトアカウント
	入力コストエレメント
	リソースアカウントから割り当てられたコストエレメント
	アクティビティアカウントから割り当てられたコストエレメント
	コストオブジェクトアカウントから割り当てられたコストエレメント






ボタン	用途
	外部ユニットコストエレメント
	内部コストエレメント

属性ビューのボタンとアイコン

次の表には、属性ビュー内のボタンとアイコンが記述されています。



ボタン	用途
	リソースモジュールを開きます。
	アクティビティモジュールを開きます。
	コストオブジェクトモジュールを開きます。
	外部ユニットモジュールを開きます。
	新しい属性ダイアログボックスを開きます。
	選択したアイテムのプロパティを表示します。
	選択したアイテムを削除します。
	現在のモデルを閉じて、モデルワークスペースを開きます。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。
	このボタンを使用して、プライマリペインおよび右割り当てペインを表示します。特定のペインを選択するためのメニューが表示されます。
	このボタンを使用して、選択したアカウントのすべての割り当てを表示します。割り当てを選択またはアカウントをクリアするメニューが表示されます。
アイコン	アイテムの種類
	閉じられた状態または開かれた状態の属性フォルダ



ボタン	用途
	閉じられた状態または開かれた状態のディメンション属性
	タグ属性
	数値属性
	閉じられた状態または開かれた状態のディメンションメンバ属性
	ディメンション値属性
	テキスト属性

ドライバビューのボタンとアイコン

次の表には、ドライバビュー内のボタンとアイコンが記述されています。



ボタン	用途
	リソースモジュールを開きます。
	アクティビティモジュールを開きます。
	コストオブジェクトモジュールを開きます。
	外部ユニットモジュールを開きます。
	新しいドライバダイアログボックスを開きます。
	選択したドライバのプロパティを表示します。
	選択したドライバを削除します。
	現在のモデルを閉じて、モデルワークスペースを開きます。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。
アイコン	アイテムの種類



ボタン	用途
	閉じられた状態または開かれた状態のドライブフォルダ
	ドライブ

ディメンションビューのボタンとアイコン

次の表には、ディメンションビュー内のボタンとアイコンが記述されています。



ボタン	用途
	リソースモジュールを開きます。
	アクティビティモジュールを開きます。
	コストオブジェクトモジュールを開きます。
	外部ユニットモジュールを開きます。
	新しいディメンションメンバダイアログボックスを開きます。
	選択したアイテムのプロパティを表示します。
	選択したアイテムを削除します。
	現在のモデルを閉じて、モデルワークスペースを開きます。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。
	選択した(ディメンションメンバの属性の)関連付けを削除します。
	(ディメンションメンバの属性の)関連付けをすべて削除します。
	列を追加、削除します。
	属性をアカウントに適用します。
アイコン	アイテムの種類

ボタン	用途
	閉じられた状態または開かれた状態のディメンション
	ディメンションメンバ

期間とシナリオの関連付けビューのボタンとアイコン

次の表には、期間とシナリオの関連付けビュー内のボタンとアイコンが記述されています。



ボタン	用途
	リソースモジュールを開きます。
	アクティビティモジュールを開きます。
	コストオブジェクトモジュールを開きます。
	外部ユニットモジュールを開きます。
	期間とシナリオの関連付けダイアログボックスを開きます。
	期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックスを開きます。
	選択した関連付けを削除します。
	選択した関連付けをパブリッシュまたはパブリッシュ解除します。
	現在のモデルを閉じて、モデルワークスペースを開きます。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。
アイコン	アイテムの種類
	現在の関連付け

パフォーマンスメジャービューのボタンとアイコン

次の表には、パフォーマンスメジャービュー内のボタンとアイコンが記述されています。



ボタン	用途
	リソースモジュールを開きます。
	アクティビティモジュールを開きます。
	コストオブジェクトモジュールを開きます。
	外部ユニットモジュールを開きます。
	選択したアイテムのプロパティを表示します。
	選択したアイテムを削除します。
	現在のモデルを閉じて、モデルワークスペースを開きます。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。
アイコン	アイテムの種類
	閉じられた状態または開かれた状態のモジュール ロールアップ
	外部ユニットアカウント
	リソースアカウント
	アクティビティアカウント
	コストオブジェクトアカウント
	数値属性

分析ワークスペースのボタンとアイコン

次の表には、分析ワークスペース内のボタンとアイコンが記述されています。





ボタン	用途
	選択したワークスペースアイテムの表示
	新しいフォルダの作成
	切り取り
	コピー 注: OLAP ビューではコピーを使用できません。
	貼り付け
	選択したアイテムを削除します。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。
	1 レベル上に移動
	新しい OLAP ビューを作成します。
アイコン	アイテムの種類
	OLAP ビュー

OLAP Analyzer ビューのボタンとアイコン

次の表には、OLAP Analyzer ビューに含まれる SAS Activity-Based Management のボタンとアイコンが記述されています。OLAP Analyzer ビューには、キューブ探索に使用する SAS OLAP Analyzer が埋め込まれます。

注: OLAP 関連のヘルプ情報については、SAS OLAP Analyzer ヘルプを参照してください



ボタン	用途
	新しい OLAP ビューを作成します。
	現在の OLAP ビューを保存します。


ボタン	用途
	新しい OLAP ビューとして保存します。
	OLAP ビューを印刷します。
	印刷プレビュー
	分析ワークスペースに移動します。
	OLAP (キューブ)ビューを閉じます。
アイコン	アイテムの種類
	OLAP ビュー

レポートワークスペースのボタンとアイコン

次の表には、レポートワークスペース内のボタンとアイコンが記述されています。



ボタン	用途
	選択したワークスペースアイテムの表示
	新しいフォルダの作成
	切り取り
	コピー 注: OLAP ビューではコピーを使用できません。
	貼り付け
	選択したアイテムを削除します。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。
	1 レベル上に移動
	新しいレポートを作成します。

ボタン	用途
アイコン	アイテムの種類
	レポート

レポートビューのボタン

次の表には、レポートビュー内のボタンが記述されています。



ボタン	用途
	新しいレポートを作成します。
	レポート設定を保存します。
	レポートを設定します。
	レポートのパブリッシュウィザードを開始します。
	レポートワークスペースを開きます。
	サーバーのデータを最新の情報に更新します。

ヘルプのヒント

ヘルプ情報の印刷

ヘルプの情報を印刷する際、1つのトピックを印刷するか、またはすべてのサブトピックを印刷するかを選択できる場合があります。印刷ページが正しくフォーマットされているかどうかを確認するには、表示している1つのトピックのみを印刷します。

トピックの印刷時に、背景に色が付いた画像や陰影付きの表が印刷されない場合、背景色の印刷オプションを指定します。

全文検索の使用

全文検索について

ヘルプで全文検索機能を使用する際、次の方法で検索すると、より正確な結果を得られます。

ブール演算子

AND、OR、NOT、NEAR の演算子を使用して、検索用語の関係を指定します。演算子を指定しないと、AND が使用されます。たとえば、“water ski boat”は、“water AND ski AND boat”に相当します。

ワイルドカード表現

ワイルドカード表現を使用すると、一部の文字を指定せずに文字列を検索できます。疑問符とアスタリスクはワイルドカード文字です。

検索...	例	結果
1 語	sail	“sail”が含まれるトピック。 sailor や sailing などの文法的なバリエーションも検索されます。
句	“scuba dive”または scuba dive	“scuba dive”と、文法的なバリエーションも含むトピック。 引用符がない場合は“scuba AND dive”に相当するため、両方の語を含むトピックが検索されます。
ワイルドカード表現	water*または 90?10	“water”、“waterfall”、“waterproof”などが含まれるトピック。 “90110”、“90210”、“90310”などが含まれるトピック。 アスタリスクと疑問符は、単独では使用できません。

ネスト式

ネスト式を使用すると、複雑なクエリを作成できます。たとえば、ocean AND ((swim OR surf) NEAR Malibu)では、ocean が含まれ、swim と Malibu が近接しているトピックが検索されます。このクエリでは、ocean が含まれ、surf と Malibu が近接するトピックも検索されます。

ヘルプトピックの検索にネスト式を使用するには、次の基本的なルールがあります。

- 式のネストには、丸かっこを使用します。丸かっこに囲まれた式は、クエリの残りの個所よりも先に評価されます。
- クエリにネスト式が含まれない場合、左から右に評価されます。たとえば、scuba NOT Florida OR Bahamas では、scuba が含まれかつ Florida が含まれないトピックと、Bahamas が含まれるトピックが検索されます。一方、scuba NOT (Florida OR

Bahamas)では、scuba が含まれ、Florida または Bahamas のどちらかが含まれないトピックが検索されます。

- 式は、5 レベルまでネストできます。

JAWS Graphics Labeler の使用

SAS Activity-Based Management のグラフィックにラベルが割り当てられていない場合、JAWS は乱数を付けた graphic というラベルを割り当てます。Graphics Labeler を使用して、グラフィックにもっとわかりやすいラベルを割り当てられます。グラフィックに手動でラベルを割り当てることも、Auto-labeler を使用することもできます。

グラフィックに手動でラベル付けするには、次の操作を行います。

1. ラベルを付けるグラフィックを探します。
2. Insert キーと g キーを押して、Graphics Labeler を開きます。
3. 編集フィールドにラベルを入力します。
4. 次の編集フィールドにタブ移動し、Braille 表示のグラフィックラベルを入力します。

Tab キーを再度押すと、ラベルを付けたグラフィックを保存する場所を指定する 3 つのラジオボタンが表示されます。保存先を選択し、Enter キーを押してラベルを有効化します。

グラフィックに手動でラベル付けするには、JAWS Verbosity 設定で **All Graphics** が選択されている必要があります。

ショートカットの作成ダイアログボックス

ショートカットの作成ダイアログボックスについて

ショートカットの作成ダイアログボックスでは、ショートカットに名前を付けたり、マイショートカット内でのショートカットの場所を選択したりできます。

ショートカットの作成ダイアログボックスの表示

ワークスペースマネージャで、サーバーエリアのワークスペースアイテムを選択し、**ファイル ⇨ ショートカットの作成**を選択します。ショートカットの作成ダイアログボックスが表示されます。

情報の指定

1. ショートカットの名前を入力します。
名前は、命名規則ガイドラインに従って指定する必要があります。
2. **フォルダの作成**リストで、ショートカットを配置するフォルダを選択します。
3. ショートカットを配置するフォルダを新しく作成するには、**新しいフォルダ**をクリックします。

新しいフォルダダイアログボックスが表示されます。

ヒント サーバーエリアからマイショートカットにオブジェクトをドラッグすると、ショートカットを作成できます。

新しいフォルダダイアログボックス

新しいフォルダダイアログボックスについて

新しいフォルダダイアログボックスでは、ワークスペースマネージャの新しいフォルダに名前を付けることができます。

新しいフォルダダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- ワークスペースマネージャで、**編集** ⇒ **新しいフォルダ**を選択します。
- ショートカットの作成ダイアログボックスで、**新しいフォルダ**をクリックします。

情報の指定

フォルダ名を入力します。

SAS Activity-Based Management についてダイアログボックス

ダイアログボックスについて

SAS Activity-Based Management についてダイアログボックスで、SAS Activity-Based Management のバージョン情報を確認したり、システムの追加情報にアクセスしたりできます。

SAS Activity-Based Management についてダイアログボックスの表示

ヘルプ ⇒ SAS Activity-Based Management についてを選択します。

SAS Activity-Based Management のシステム情報ウィンドウ

SAS Activity-Based Management のシステム情報ウィンドウについて

SAS Activity-Based Management システム情報ウィンドウで、ご使用のコンピュータにインストールされている SAS Activity-Based Management アプリケーションの情報と接続先の SAS Activity-Based Management Server の情報を確認できます。

SAS Activity-Based Management のシステム情報ウィンドウの表示

ヘルプ ⇒ SAS Activity-Based Management についてを選択します。次に、システム情報をクリックします。

4 章

ユーザーの権限とグループ

概要	49
権限	49
グループ権限	50
グループのメンバへの読み取りアクセス権、または読み取り/書き込みアクセス権の許可	50
所有者の変更	51
ユーザーの選択ダイアログボックス	52
ユーザーの選択ダイアログボックスについて	52
ユーザーの選択ダイアログボックスの表示	52

概要

SAS Activity-Based Management ユーザーとして使用できる権限は、次の 2 つによって異なります。

- 所属するグループから継承した権限。
- 所属するグループに許可された権限。

権限

SAS Activity-Based Management 管理者が、SAS Activity-Based Management のユーザーアカウントを作成する際、所属グループに許可された権限によって、次の 1 つ以上がユーザーに継承されます。

- モデルの作成
- モデルの表示
- レポートの作成
- レポートの表示
- キューブの作成
- キューブの表示

- 貢献の表示
- 監査
- 管理
- サーベイの参加

おそらく、大部分のユーザーがモデルの作成権限またはモデルの表示権限のどちらかを継承します。モデルの作成権限には、SAS Activity-Based Management の以前のリリースのモデラの権限が含まれます。この権限は、モデルの作成と削除、キューブの作成と表示など、モデルへのフルアクセスを与えます。さらに、列のレイアウトの作成や為替レートの設定など、特定のモデルに関連しない権限もユーザーに与えます。

同様に、モデルの表示権限には、SAS Activity-Based Management のこれまでリリースのビジネスユーザーの権限が含まれます。この権限は、レポートの作成、表示、パブリッシュなどの権限をユーザーに与えます。

継承した権限がわからない場合、SAS Activity-Based Management 管理者に問い合わせてください。

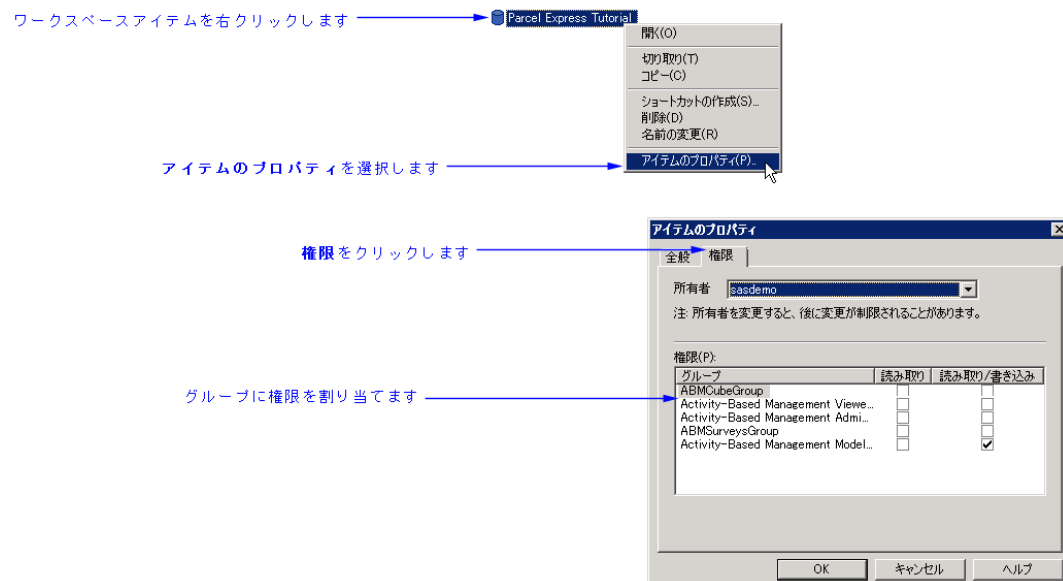
グループ権限

管理者は、組織のグループを作成し、グループにユーザーを割り当てます。ユーザーの権限は、所属するグループに読み取りアクセス権や読み取り/書き込みアクセス権が許可されているかによって異なります。

グループのメンバへの読み取りアクセス権、または読み取り/書き込みアクセス権の許可

モデルやその他のワークスペースアイテムの作成者は、デフォルトではその所有者に設定されています。所有者には、アイテムの読み取り/書き込みアクセス権が許可されます。所有者は、グループ内のユーザーにアイテムの読み取りまたは読み取り/書き込みアクセスを許可できます。モデルやその他のワークスペースアイテムへのアクセスが許可されたグループのメンバであれば、グループのメンバとしてそのアクセス権を所有します。

モデルやその他のアイテムの所有者(または管理者)は、ワークスペースマネージャでアイテムを選択し、**編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択して、グループのメンバにアイテムへのアクセスを許可します。所有者は、**読み取り**または**読み取り/書き込み**を選択して、選択したアクセスをグループのメンバに許可します。



注: アイテムの所有者(または管理者)のみが、そのアイテムへのアクセスを許可できます。アイテムの読み取り/書き込みアクセスを許可されたグループのメンバーは、その他のグループへのアクセスは許可できません。

所属するグループがわからない場合、SAS Activity-Based Management 管理者に問い合わせてください。

所有者の変更

モデルやその他のワークスペースアイテムの所有者(または管理者)は、別のユーザーに所有権を移せます。所有権を移すには、所有者(または管理者)がワークスペースマネージャでアイテムを選択し、**編集** ⇒ **アイテムのプロパティ**を選択します。次に、ユーザーのドロップダウンリストから新しい所有者を選択します。



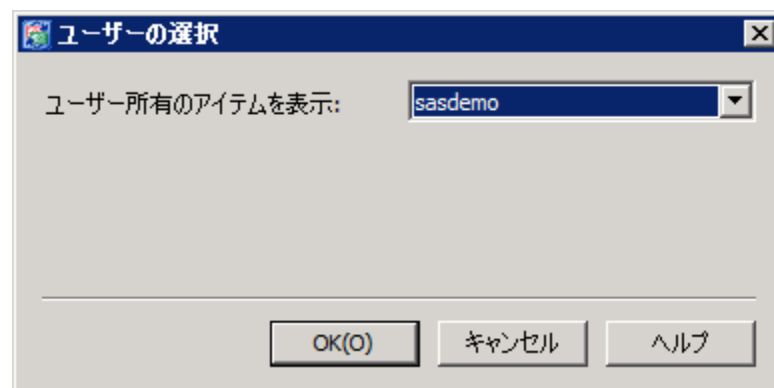
注: 選択できる所有者のドロップダウンリストには、アイテムの作成権限を持つユーザーが表示されます。たとえば、モデルの所有権は、モデルの作成権限を持つユーザーにのみ移すことができます。

ユーザーの選択ダイアログボックス

ユーザーの選択ダイアログボックスについて

このダイアログボックスを使用して、特定のユーザーが所有するアイテムを表示します。

注: このダイアログボックスは、管理者権限が許可されたユーザーのみ使用できます。



ユーザーの選択ダイアログボックスの表示

次の順序で選択します: ツール ⇒ ユーザーの選択

5 章

ワークフロー

ワークフロー	54
ワークフローについて	54
通常のワークフローの概要	54
SAS Activity-Based Management の操作	55
SAS 環境への接続	55
モデルの使用	55
モデルサイズとパフォーマンス	56
データの保存	56
機能の編成	56
タスクバー	57
右クリックの使用	57
ステータスバー	57
情報の更新	57
複数のセッション	58
サーバータスクのキャンセル	58
サーバーのタイムアウト	58
ログオンダイアログボックス	58
ログオンダイアログボックスについて	58
接続ダイアログボックスへのアクセス	58
タスク	58
アイテムのプロパティダイアログボックス	59
アイテムのプロパティダイアログボックスについて	59
アイテムのプロパティダイアログボックスの表示	59
情報の指定	59
権限の設定	59
タスクの管理ダイアログボックス	60
タスクの管理ダイアログボックスについて	60
タスクの管理ダイアログボックスの表示	60
タスクのキャンセル	60
作業の要約ダイアログボックス	60
作業の要約ダイアログボックスについて	60
作業の要約ダイアログボックスの表示	61
要約の削除	61
サーバー操作の詳細情報の表示	61
作業の要約のエクスポート	61
監査ログウィンドウ	61
監査ログウィンドウについて	61
監査ログウィンドウの表示	62

情報の並べ替え	62
情報の制限	62

ワークフロー

ワークフローについて

SAS Activity-Based Management では、分析に最適な構造でモデルデータを格納し、主要な傾向と関連性の分析を迅速かつ直感的に行います。SAS Activity-Based Management は、データ分析に特化して設計されています。次の設計特性により、SAS Activity-Based Management では大量のデータを伴う複雑なクエリに迅速に対応できます。

- データを多次元データ構造で格納します。
- 要約計算の一部を、要求される前に実行します。

通常のワークフローの概要

ビジネスデータの入力

1. 期間とシナリオを計画します。次に、各 SAS Activity-Based Management Server に、期間を設定し、シナリオを設定します。

サーバーごとに、すべての期間とシナリオがすべてのモデルで共有されます。すべてのモデルに一番効果的な期間階層を決定する必要があります。次に、期間とシナリオを設定します。

2. モデルを作成するか、またはモデルデータをインポートします。
3. コストを計算します。
4. キューブを作成します。

ビジネスデータの分析

- モジュール、キューブ、レポートを使用して、ビジネスデータを分析します。

ビジネス分析を他で利用できるようにする

- 列のレイアウト、OLAP ビュー、パブリッシュされたレポート、レポート設定を設定、保存します。
- (オプション) キューブをエクスポートしたり、レポートをエクスポートします。

SAS Activity-Based Management の操作

SAS 環境への接続

概要

SAS Activity-Based Management にログオンする際、ファイル `sassw.config` (デフォルトのインストール場所は `C:\Program Files\SASHome`) は、ファイル `sas-environments.xml` の URL を提供します。次に、例を示します。

```
SASENVIRONMENTSURL=http://rde01011.sas.com:8080/SASLogon/sas-environment.xml
```

ファイル `sas-environment.xml` は、**ログオンダイアログ** の SAS 環境ドロップダウンリストのエントリを SAS WIP Server (Web Infrastructure Platform) の URL に結び付けます。WIP Server はユーザーのログオン情報を認証し、SAS Activity-Based Management Metadata Server に接続するインターフェイスを提供します。ユーザーは、SAS Activity-Based Management Metadata Server に直接ログオンするのではなく、クライアントユーザーとして WIP Server にログオンするため、クライアントのログオン手順に影響を与えず、Metadata Server を変更できます。

現在の認証情報

SAS Activity-Based Management のユーザー名とパスワードは、ネットワークのユーザー名とパスワードと同じ場合も、異なる場合もあります。同じ場合は、SAS 環境に接続する際、ネットワークログイン情報(現在の認証情報)を使用できます。

現在の認証情報がサーバーに適用されない場合は、ドメインとユーザー名を指定する必要があります。

モデルの使用

モデルで特定のタスクを実行できない場合があります。たとえば、別のユーザーが編集しているモデルの一部を編集しようとしても、編集できません。ただし、モデルのデータは常に表示できます。

ユーザーの種別に関係なく、他にもモデルの使用に影響するタスクがあります。このようなタスクでは、一定の時間、モデルのデータが変化しない必要があります。たとえば、レポートを作成する場合、レポートにはある時点のコストが反映されます。レポートの生成中は、誰もアカウントのコストを変更しないようにする必要があります。同様に、SAS Activity-Based Management でモデルのコストを計算する際、誰もアカウントのコストを変更しないようにする必要があります。変更してしまうと、間違った最終計算コストを得ることになります。

SAS Activity-Based Management では、次のタスクの実行中には変更を加えられません。

- モデルの検証
- レポートの作成
- コストの計算
- キューブの作成
- データのエクスポート

モデルサイズとパフォーマンス

モデル内のアカウント、割り当て、ディメンション、ディメンションメンバの数に基づき、モデルを使用できない時間や、タスクの実行にかかる時間が決定されます。これらのアイテムが少ないモデル(小さいモデル)は、アイテムが多いモデル(大きいモデル)より早くタスクが終了します。

モデルサイズは、SAS Activity-Based Management を操作する際(リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールでのロールアップアカウントの展開時、期間/シナリオ関連付けデータのコピー時、アカウントの作成時など)のパフォーマンスに影響します。モデルサイズは、レポートの作成時にパフォーマンスに影響します。

データの保存

SAS Activity-Based Management では、複数のユーザーがサーバー上の 1 つのモデルを操作できます。このようなアプリケーションとデスクトップアプリケーションには、複数の相違点があります。

- データを自主的に保存する必要があるデスクトップアプリケーションとは異なり、データは自動的に保存されます。

自動保存によって、すべてのユーザーが最新のデータを即時に表示できます。(データの使用は、ユーザー種別と期間/シナリオ関連付けのステータスによって制御されます)

変更をキャンセルできるデスクトップアプリケーションとは異なり、変更はキャンセルできません。

複数のユーザーの変更が保存されるため、各自の変更が即時に他のユーザーの変更とマージされ、切り離されることがありません。ダイアログボックスやウィザードはキャンセルできますが、OK をクリックすると、変更はモデルに保存されます。

- デスクトップアプリケーションではメモリにデータのコピーを保存するため変更を元に戻すことができますが、SAS Activity-Based Management ではモデルに直接書き込まれます。

このため、すべてのユーザーが最新のデータを即時に表示できます。

前の値を再入力する場合を除き、変更を元に戻すことはできません。変更する前のモデルの状態を保存するには、モデルをエクスポートします。モデルをインポートすると、元の状態に戻すことができます。

機能の編成

概要

SAS Activity-Based Management では、次のカテゴリ別に機能が分類されます。

- ワークスペースマネージャ
- モデルモード
- OLAP モード
- レポートモード

注: それぞれのモードに、異なるモデルや異なる期間/シナリオ関連付けを表示できます。別のモードへの初回変更時、モデルと期間/シナリオ関連付けを選択できます。

モードの変更

モードを変更するには、ナビゲーションペインを使用します。

モードを変更すると、そのモードの新しいメニューが表示されます。新しいメニューは、表示メニューとツールメニューの間に表示されます。

モードワークスペース

各モードには、ワークスペースと 1 つ以上の関連ビューが含まれます。ワークスペースには、ワークスペースマネージャのブランチのサブセットが表示されます。

たとえば、モデルワークスペースには、ワークスペースのモデルブランチが表示されます。

ただし、モードビューはワークスペースマネージャとは異なります。モードビューでは、アイテムの情報の編集、左ペインでのフォルダ構造の再編成はできません。右ペインでアイテムを並べ替えることができます。

タスクバー

各ワークスペースには、そのワークスペースに関連した、使用頻度が高い操作項目を含むタスクバーが表示されます。

右クリックの使用


SAS Activity-Based Management では、タスクの実行時に、メニューからアイテムを選択する標準的な方法だけでなく右クリックも使用できます。そのため、多くの共通タスクを右クリックで実行できます。このヘルプドキュメントでは、SAS Activity-Based Management インターフェイスのメニューを使用してタスクを実行する方法のみ説明しています。


ステータスバー

ウィンドウ下部にあるステータスバーには、現在の期間/シナリオ関連付けがパブリッシュされているかどうかなどの情報メッセージが表示されます。ステータスバーには、現在実行しているタスクも表示されます。ステータスバーから、サーバータスクを管理できます。

情報の更新

SAS Activity-Based Management を操作すると、一部の情報は自動的に更新されます。ただし、即時更新されない場合もあります。更新アイコンが赤色になったときは新しい情報があるため、情報を更新できます。

 をクリックします。

情報を更新すると、アイコンが通常の状態  に戻ります。

注: 新しい情報が表示されるわけではありません。新しい情報は、別のビューか、折りたたまれた階層の中にある場合があります。

ユーザーには、SAS Activity-Based Management を再起動した場合のみ、為替レートや期間/シナリオ関連付けなどのグローバルアイテムに加えられた変更が表示されません。

複数のセッション

同時に複数の SAS Activity-Based Management セッションを作成できます。つまり、一度に SAS Activity-Based Management クライアントアプリケーションの複数のインスタンスを起動し、異なるアプリケーションかのように使用できます。これらのクライアントアプリケーションのセッションは、異なる SAS Activity-Based Management Server と通信することもできます。複数のセッションを作成すると、複数のモデルや 1 つのモデルの別の領域を簡単に比較できます。

サーバータスクのキャンセル

開始したサーバータスクをキャンセルできます。ただし、タスクをキャンセルするとモデルが使用できなくなる場合があります。

サーバータスクのキャンセルは、タスクの実行に長時間かかると判明した場合や、間違えてサーバータスクを開始した場合に必要なことがあります。

注: システム管理者は、開始したユーザーに関係なくタスクをキャンセルできます。システム管理者が、開始されているタスクをキャンセルした場合、そのタスクを開始したユーザーに通知されます。

サーバーのタイムアウト

セキュリティの観点から、SAS Activity-Based Management Server はタイムアウトが設定されています。SAS Activity-Based Management を使用する際、列のレイアウトや OLAP ビューなどのアイテムを頻繁に保存することで、操作結果の損失を防げます。タイムアウトは、Microsoft Internet Information Services (IIS) の設定で変更できます。

ログオンダイアログボックス

ログオンダイアログボックスについて

ログオンダイアログボックスで、SAS Activity-Based Management にアクセスできるようにセキュリティ情報を指定します。

接続ダイアログボックスへのアクセス

SAS Activity-Based Management を開始します。ログオンダイアログボックスが表示されます。

タスク

SAS 環境への接続

1. SAS 環境ドロップダウンリストから環境を選択するか、またはデフォルトを指定してデフォルトの環境を選択します。

2. ドメインとユーザー ID (HQ\AlexW など)を入力します。
3. パスワードを入力します。
4. ログオンをクリックします。

注: コンピュータに複数の言語がインストールされている場合、Windows の地域設定 (設定 ⇒ コントロールパネル ⇒ 地域と言語のオプションの順に選択)によって、使用される言語が決まります。

アイテムのプロパティダイアログボックス

アイテムのプロパティダイアログボックスについて

アイテムのプロパティダイアログボックスでは、ワークスペースアイテムに関する情報を確認、変更したり、ワークスペースアイテムに権限を設定したりできます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

アイテムのプロパティダイアログボックスの表示

ワークスペースマネージャでアイテムを選択し、編集 ⇒ アイテムのプロパティを選択します。アイテムのプロパティダイアログボックスが表示されます。

情報の指定

1. 全般タブをクリックします。
2. 名前を入力します。
名前は、命名規則ガイドラインに従って指定する必要があります。

ヒント アイテムの名前を変更したら、他のユーザーに通知する必要があります。通知しない場合、他のユーザーが存在しないアイテム名を検索する可能性があります。

3. 説明を入力します。

権限の設定

注: 権限は、ショートカットには適用できません。

1. 権限タブをクリックします。
2. 所有者を選択します。
3. 権限リストで、表示されている各役割の隣にあるチェックボックスを選択または選択解除します。

注: 権限をグループに割り当てるには、そのグループのメンバである必要があります。このセキュリティにより、重要な組織のデータが不用意に流出するのを防ぎます。メンバでないグループに権限を割り当てる必要がある場合、システム管理者に、一時的にそのグループに割り当てるように依頼してください。

タスクの管理ダイアログボックス

タスクの管理ダイアログボックスについて

タスクの管理ダイアログボックスでは、SAS Activity-Based Management Server で実行されているタスクのステータスをモニタリングできます。

注: 次のタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

タスクの管理ダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- ステータスバーの**タスク**をクリックします。

タスクボタンは、キャンセル可能な操作が実行され、ステータスバーが非表示でない場合のみ表示されます。

- ツール ⇨ **タスクの管理**を選択します。

タスクのキャンセル

1. **タスクリスト**から、タスクを選択します。

複数のタスクを選択できます。選択したタスクの横に、チェックマークが表示されます。

2. **タスクの終了**をクリックします。

操作がキャンセルされるまで時間がかかる場合があります。

作業の要約ダイアログボックス

作業の要約ダイアログボックスについて

作業の要約ダイアログボックスで、SAS Activity-Based Management Server で実行したすべての作業のリストを確認できます。たとえば、コスト計算やキューブ作成を行うと、このリストに作業エントリが追加されます。

注: 作業の要約ダイアログボックスには、特定ドメインの特定ユーザーアカウント (LOCALMACHINE/Alex など)の要約が表示されます。Alex がドメイン COMPANY にもアカウントを持ち、COMPANY/Alex でログインしている場合、アカウント LOCALMACHINE/Alex の要約は確認できません。

注: この情報は変更できません。

作業の要約ダイアログボックスの表示

ツール ⇨ 作業の要約を選択します。

要約の削除

1. 要約の隣のチェックボックスを選択します。
2. 削除をクリックします。

サーバー操作の詳細情報の表示

1. 要約の隣のチェックボックスを選択します。
2. 表示をクリックします。
操作の要約ウィンドウが表示されます。
3. 詳細の表示をクリックします。

作業の要約のエクスポート

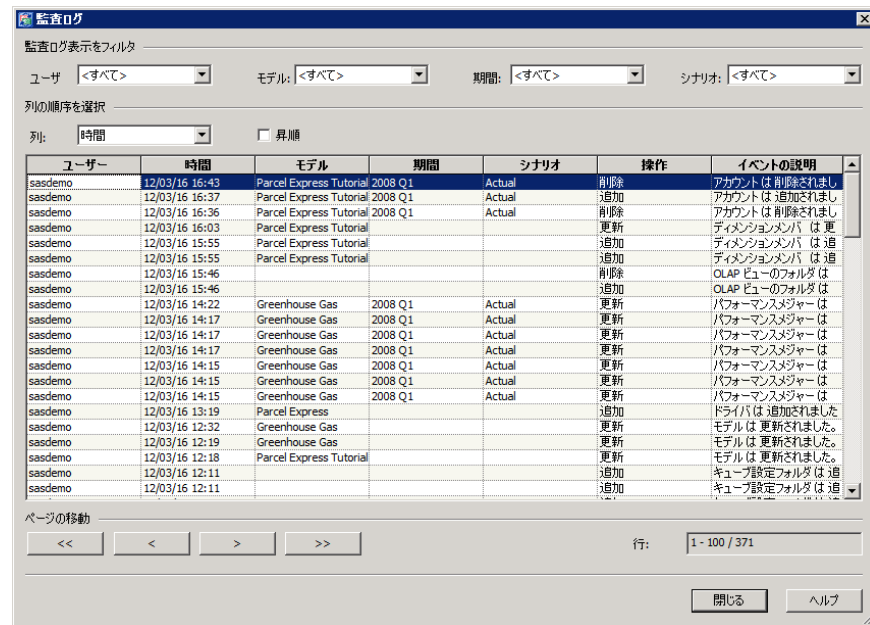
1. エクスポートをクリックします。
名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。
2. 場所に移動します。
3. ファイル名を入力します。

監査ログウィンドウ

監査ログウィンドウについて

権限によっては、機能を使用できません。

監査ログウィンドウで、SAS Activity-Based Management Server で実行された操作の履歴を確認できます。履歴には、実行された操作、操作の実行ユーザー、操作対象のアイテムなどの情報が含まれます。



監査ログウィンドウの表示

ツール ⇨ **監査ログ**を選択します。

情報の並べ替え

列ヘッダーをクリックします。

ログ情報の並べ替え順序が変更されます。時間順、昇順、降順の順に並べ替えられます。

情報の制限

ユーザー、名前、期間、シナリオのメニューから、情報制限に使用する値を選択します。

2 部

モデル

6 章	
モデルの概念	65
7 章	
モデルの操作	69
8 章	
命名規則	81
9 章	
モデルウィンドウ	89

6 章

モデルの概念

モデル	65
モデルについて	65
モデルの構造	66
特定の期間および特定の状況のデータ	66
モデルプロパティ	66
監査ログ	67
モデルモード	67
モデルモードについて	67
モデルモードの表示	67
モデルモードでの印刷	67
モデルワークスペース	67
モデルワークスペースについて	67
モデルワークスペースの表示	68
モデルワークスペースの情報の並べ替え	68

モデル

モデルについて

SAS Activity-Based Management の活動基準管理情報の基本コンテナが、モデルです。意味のある活動基準管理モデルにするには、組織(モデリング)を反映し、その組織で働く人が使い慣れた用語を使用する必要があります。そのため、組織のリソース、アクティビティ、コストオブジェクトについて深く理解することが必要です。

モデルには、モデルの構造、特定の時間(期間)と特定の状況(シナリオ)に関するデータという 2 種類の情報が含まれます。

関連項目:

- “モデルの作成” (69 ページ)
- “モデルワークスペース” (67 ページ)
- “モデルモード” (67 ページ)

モデルの構造

構造情報には、次の項目が含まれます。

- リソース、アクティビティ、製品に関連するコストと情報を含むアカウント
- リソースの費用をアクティビティに割り当て、アクティビティコストを製品に割り当てる割り当てパス
- リソースへのアクティビティの需要や、アクティビティへの製品の需要の頻度または強度を測るドライバ
- 構造の説明
- 分析用に構造に追加される語句
- 製品の構成要素のリスト

特定の期間および特定の状況のデータ

SAS Activity-Based Management には、特定の時間と特定の状況に関する情報が格納されます。この時間が期間、この状況がシナリオです。

期間ごとにモデル構造は変更できます。このため、季節性アクティビティや製品変更などの状況を反映したモデルが可能です。

モデルプロパティ

モデルプロパティについて

モデルをカスタマイズするには、モデルプロパティを指定します。モデルプロパティはモデルに関係があるため、プロパティを指定したユーザーだけでなく、モデルを使用するすべてのユーザーに影響します。モデルのカスタマイズは、モデリングインターフェイスのカスタマイズとは異なります。

注: モデルプロパティは、プロパティとは異なります(59 章, “[プロパティのアルファベット順表示](#)” (605 ページ)を参照)。

最も重要なモデルプロパティの一部を次に示します。

基準通貨

モデルの基準通貨は、モデルを作成する際に選択した通貨です。

デフォルトドライバ

デフォルトドライバは、割り当ての初回作成時に SAS Activity-Based Management により割り当てに関連付けられるドライバです。後でドライバを変更できます。

キューブ内の属性

数値属性を指定できます。この属性の値は、OLAP キューブにメジャーとして挿入されます。キューブにこれらの数値属性を挿入すると、さらに詳細な分析が実行できます。

指定した属性に現在のコストを含めるには、キューブを作成する前にコストを計算します。

関連項目: “[キューブへの数値属性の挿入](#)” (438 ページ)

監査ログ

監査ログでは、モデルに加えられた変更をトラッキングします(“[監査ログウィンドウ](#)”(61 ページ)を参照)。

モデルモード

モデルモードについて


モデルモードでは、次のタスクを実行できます。

- リソースモジュールビュー、アクティビティモジュールビュー、コストオブジェクトモジュールビューでのモデルの作成と編集
- 外部ユニットモジュールビューでの外部ユニットの管理
- 属性ビューでの属性の管理
- ドライバビューでのドライバの管理
- デイメンションビューでのデイメンションメンバの管理

注: 権限によっては、機能を使用できません。

モデルモードの表示

次のどちらかの操作を行います。

- モデルが開かれていない場合は、ナビゲーションペインの**モデル**をクリックします。
- モデルが開かれている場合は、ツールバーのモデルワークスペースへ移動アイコン  をクリックするか、**モデル** ⇄ **モデルあるいはコンテキストの変更**を選択して、異なるモデルを開きます。

モデルモードでの印刷

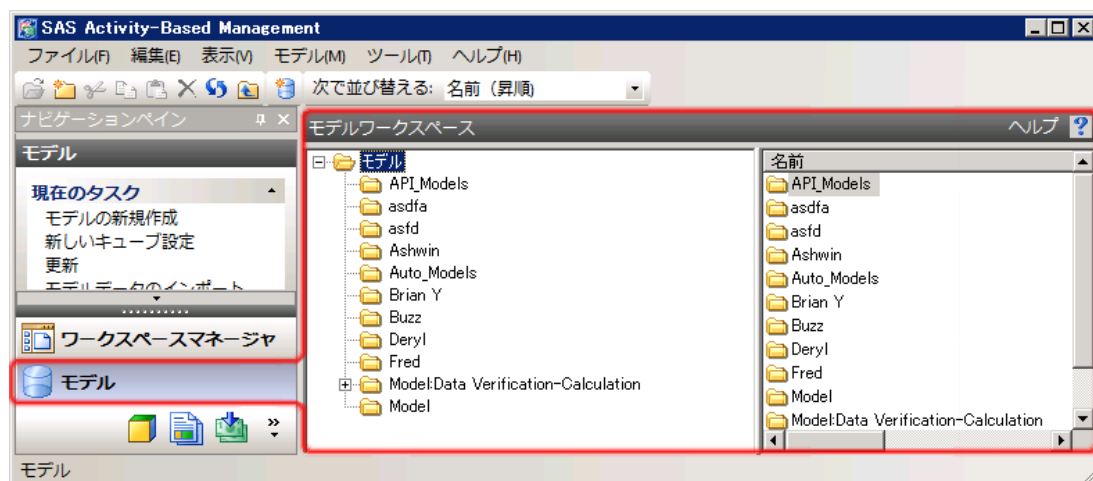
モデルモードでは、印刷できません。Windows 機能を利用して、スクリーンショットを作成し、別のプログラムに貼り付けて印刷します。

モデルワークスペース

モデルワークスペースについて

注: 権限によっては、機能を使用できません。


モデルワークスペースでは、モデルを開くことができます。



フォルダのリストとモデルのリストには、ワークスペースマネージャのサーバーエリアのモデルブランチが示されます。

モデルワークスペースの表示

次のどちらかの操作を行います。

- モデルが開かれていない場合は、ナビゲーションペインの**モデル**をクリックします。
- モデルが開かれている場合は、ツールバーの**モデルワークスペースへ移動アイコン**  をクリックするか、**モデル ⇄ モデル**あるいは**コンテキストの変更**を選択して、異なるモデルを開きます。

モデルワークスペースの情報の並べ替え

1. **次で並び替える**リンクをクリックします。
メニューが表示されます。
2. オプションを選択します。次のオプションの条件があります。

名前	モデルの名前
日付と時刻	モデルの作成日時

7 章

モデルの操作

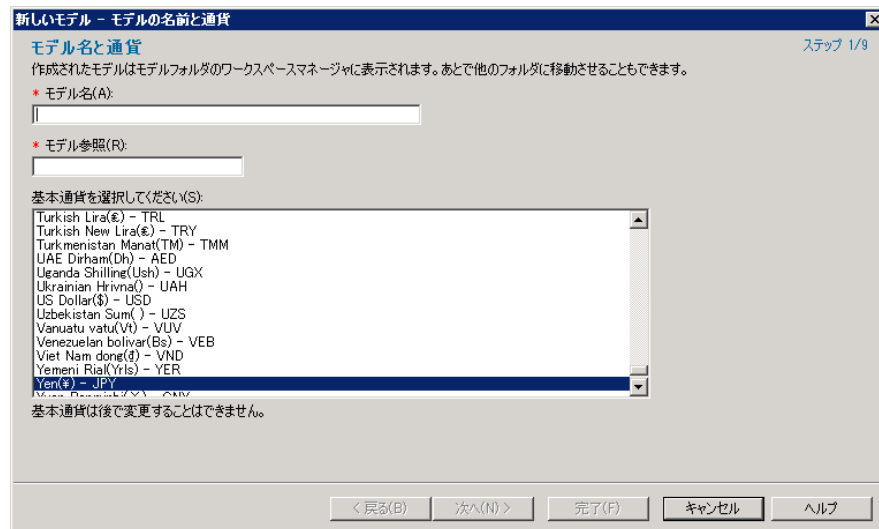
モデルの作成	69
モデルを開く	75
モデルが開かれた状態からモデルを開く	75
モデルの削除	75
コストの計算	76
キューブの作成	76
Information Map の作成に必要なメタデータの登録	76
期間/シナリオ関連付けデータのコピー	77
モデルのプロパティの変更	77
モデルの要約の確認	77
モデルの検証	77
モデルのコピー	78

モデルの作成

モデルを作成するには、まず、期間、シナリオ、ディメンション、モジュールの概念を理解しておく必要があります。

1. **ファイル** ⇒ **新規作成** ⇒ **モデル**を選択します。

新しいモデルウィザードが表示されます。

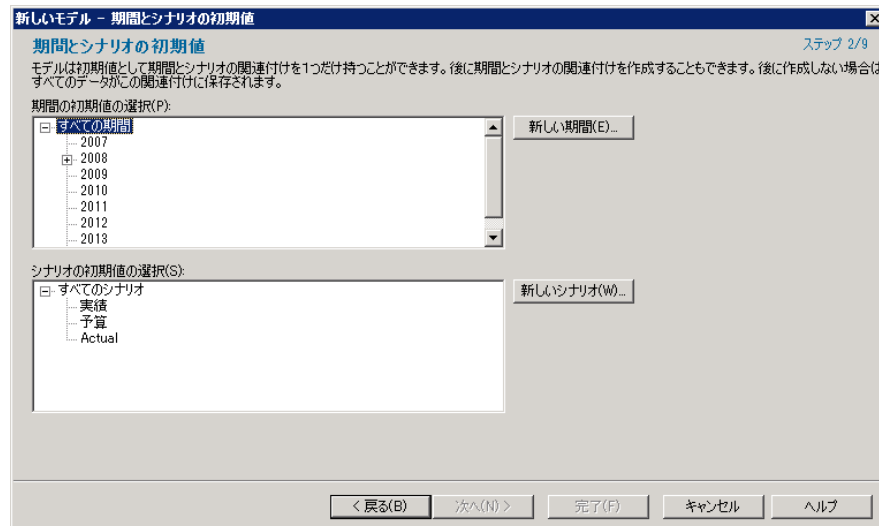


2. **モデル名**ボックスに名前を入力します。“**命名規則**” (81 ページ)を参照してください。
3. **参照フィールド**に 8 バイトの文字列を入力します。この短縮参照は、パブリックビューで使用されます。(SAS Activity-Based Management Data Administration Guide の“Public Views”の章を参照してください。)また、“**参照規則**” (86 ページ)も参照してください。
4. **基本通貨**を選択してくださいリストから、通貨を選択します。

基本通貨は一度設定すると後で変更できないことに注意してください。

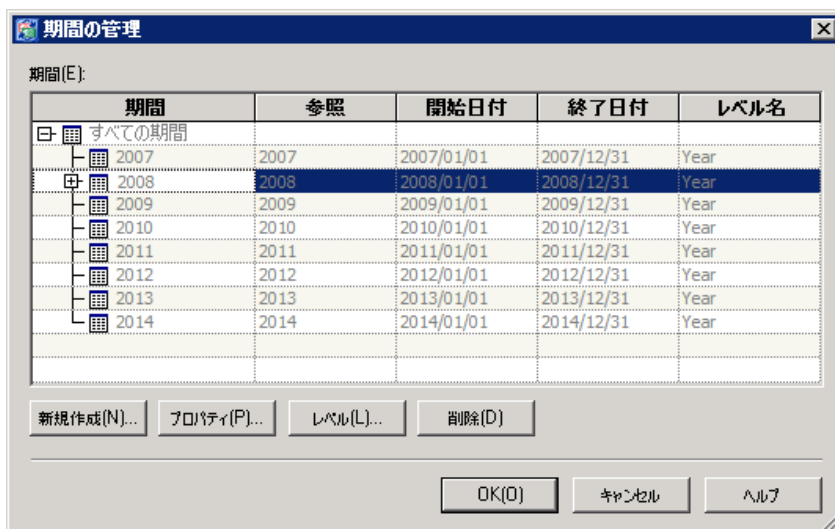
次に、期間/シナリオ関連付けの初期値を指定します。期間、シナリオ、および期間/シナリオ関連付けは後で追加作成できます。

5. **次へ**をクリックします。



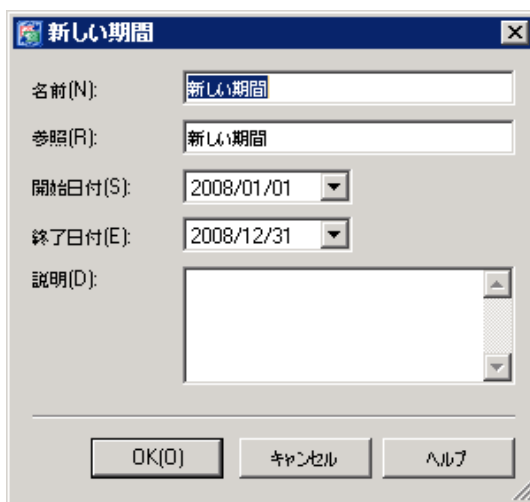
6. **期間の初期値の選択**リストから、期間を選択します。
7. 新しい期間を作成するには、次の操作を行います。
 - a. **新しい期間**をクリックします。

期間の管理ダイアログボックスが表示されます。



- b. 期間列から、その下に新しい期間を作成する期間を選択します。
- c. 新規作成をクリックします。

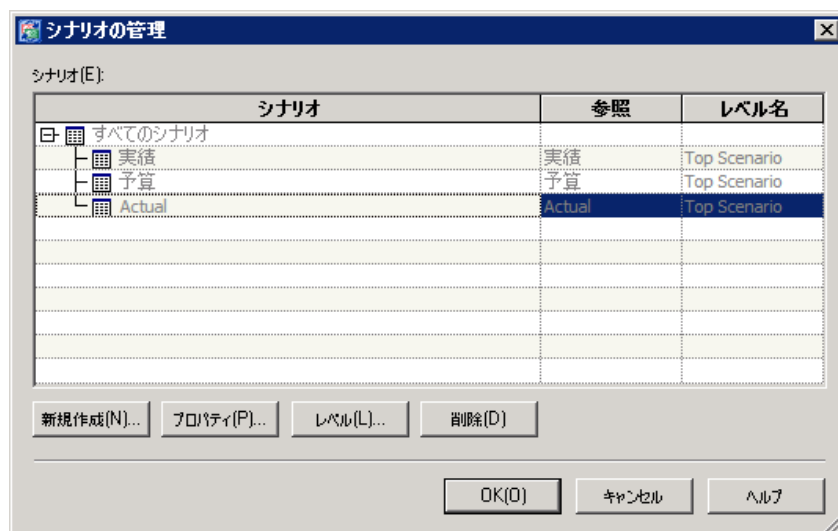
新しい期間ダイアログボックスが表示されます。



- d. 名前を入力します。
名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“命名規則” (81 ページ) を参照してください。
 - e. 参照を入力します。
デフォルトの参照は、期間名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。“参照規則” (86 ページ) を参照してください。
 - f. 開始日付と終了日付を入力するか、ドロップダウンカレンダーから日付を選択します。
 - g. 説明を入力します。
 - h. OK をクリックします。
8. シナリオの初期値の選択リストから、シナリオを選択します。
 9. 新しいシナリオを作成するには、次の操作を行います。

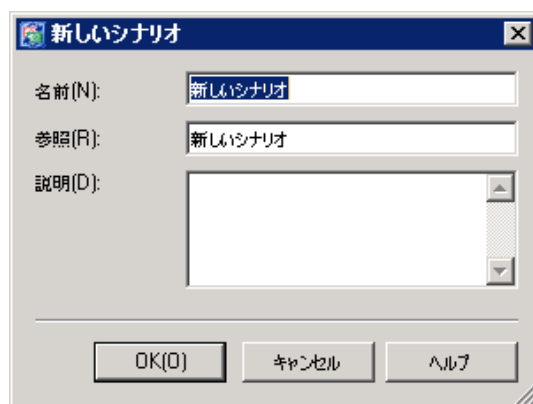
- a. 新しいシナリオをクリックします。

シナリオの管理ダイアログボックスが表示されます。



- b. シナリオ列から、その下に新しいシナリオを作成するシナリオを選択します。
 c. 新規作成をクリックします。

新しいシナリオダイアログボックスが表示されます。



- d. 名前を入力します。

名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“命名規則” (81 ページ)を参照してください。

- e. 参照を入力します。

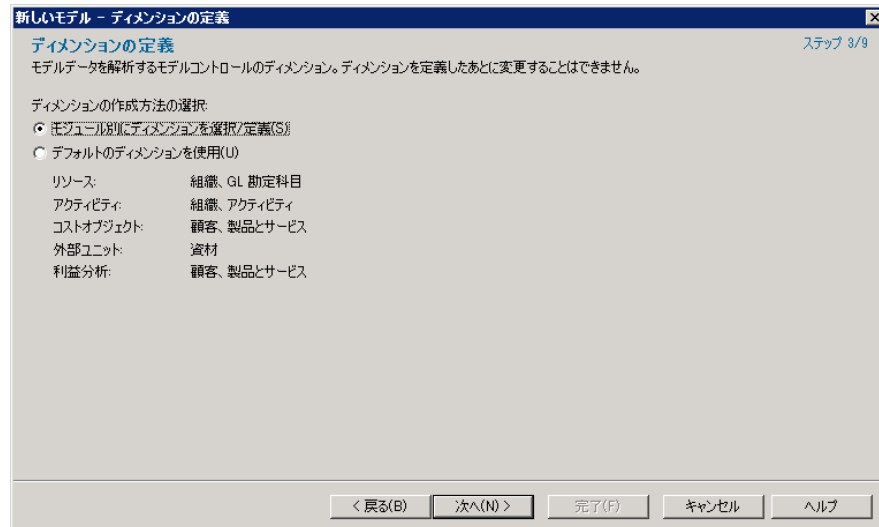
デフォルトの参照は、シナリオ名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。“参照規則” (86 ページ)を参照してください。

- f. 説明を入力します。

- g. OK をクリックします。

次に、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュール、外部ユニットモジュールのそれぞれにディメンションを指定します。さらに、利益分析のディメンションを指定します。

10. 次へをクリックします。

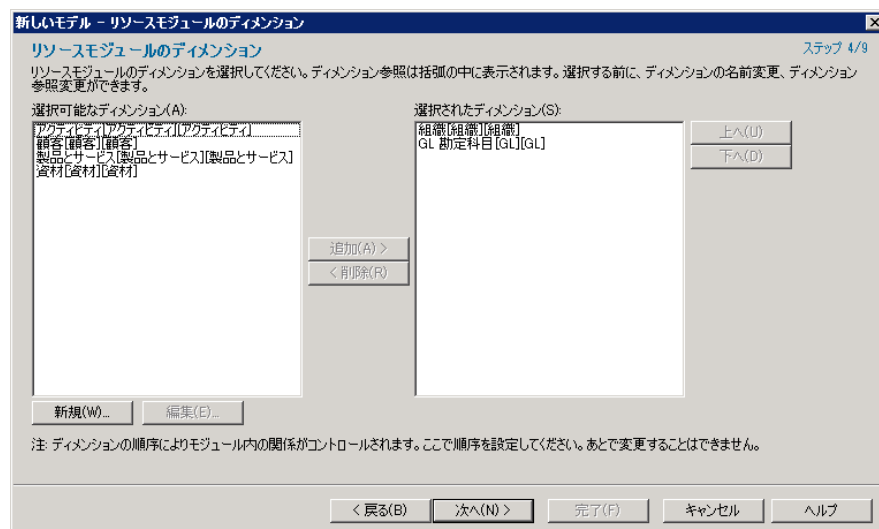



11. モジュール別にディメンションを選択/定義オプションかデフォルトのディメンションを使用オプションのどちらかを選択します。

各モジュールのデフォルトのディメンションが表示されます。これらのディメンションはさまざまな組織で日常的に使用されますが、所属する組織に適さない場合や、追加ディメンションが必要な場合もあります。

このタスクの残りでは、各モジュールに追加ディメンションを作成する必要があると想定しています。各モジュール(および利益分析)がウィザードに表示されます。

12. 次へをクリックします。



13. リソースモジュールの選択可能なディメンションリストからディメンションを選択して、をクリックします。

複数のディメンションを選択できますが、一度に選択できるディメンションは1つです。

14. 新しいディメンションを作成するには、次の操作を行います。

- a. 新規作成をクリックします。

新しいディメンションダイアログボックスが表示されます。

- b. **名前**を入力します。

名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“命名規則” (81 ページ)を参照してください。

- c. **参照**を入力します。

デフォルトの参照は、ディメンション名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。“参照規則” (86 ページ)を参照してください。

- d. **短縮参照**を入力します。短縮参照は、パブリックビューで使用されます。*SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の“Public Views”の章を参照してください。

ウィザードに残りの各モジュールと利益分析が表示され、ディメンションを指定できます。これらの各ページは、前述のページと同じです。

利益分析のディメンションを定義した後で、作成内容の要約を確認します。

15. **次へ**をクリックします。

16. 要約情報を確認します。

17. 変更が必要な情報がある場合は、**戻る**をクリックして、ウィザードの変更が必要なページまで戻ります。

指定した情報はすべて保存されます。**次へ**をクリックして、ウィザードを進めます。

18. **完了**をクリックします。

モデルが作成されて、ディメンションページが表示されます。次に、ディメンションを作成する必要があります。


モデルを開く

注: モデルを開いていない場合、モデルワークスペースからモデルを開きます。

1. **モデルメニュー**から、モデルを選択します。

使用するモデルが表示されない場合、そのモデルの表示権限が許可されていない可能性があります。


2. **期間/シナリオメニュー**から、期間/シナリオ関連付けを選択します。

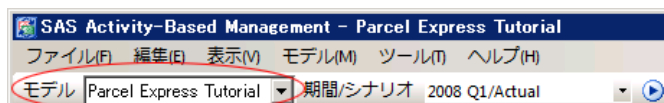
3. をクリックします。

モデルが開き、リソースモジュールが表示されます。

モデルが開かれた状態からモデルを開く

モデルが開いている場合に、別のモデルを開くには、次のうちいずれかの操作を行います。

- **モデルドロップダウンリスト**からモデルを選択し、**期間/シナリオドロップダウンリスト**からシナリオを選択して、矢印アイコンをクリックします。



使用するモデルが表示されない場合、そのモデルの表示権限が許可されていない可能性があります。

- ツールバーの**モデルワークスペースへ移動アイコン**をクリックしてから、開くモデルを選択します。

モデルワークスペースへ移動します



関連項目:

[“モデルあるいはコンテキストの変更ダイアログボックス” \(89 ページ\)](#)

モデルの削除

モデルワークスペースで、モデル横の削除リンクをクリックします。

注: 権限によっては、削除できません。

コストの計算

モデル ⇨ **コスト計算**を選択します。

コスト計算ダイアログボックスが表示されます。

関連項目:

- “コスト計算ダイアログボックス” (388 ページ)
- “コストの計算” (387 ページ)

キューブの作成

モデル ⇨ **キューブ作成**を選択します。

キューブ作成ダイアログボックスが表示されます。

関連項目:

- “キューブの作成” (434 ページ)
- “キューブ” (431 ページ)
- “インクリメンタルキューブ作成” (435 ページ)
- 35 章, “キューブ設定の操作” (369 ページ)

Information Map の作成に必要なメタデータの登録

SAS Activity-Based Management モデル固有の Information Map (アカウントマップや割り当てマップ)を作成すると、SAS Web Report Studio を使用して、アカウントを基準にしたレポートや割り当てを基準にしたレポートを作成できます。

ツール ⇨ **Metadata Server オプション**を選択します。

Metadata Server オプションダイアログボックスが表示されます。

関連項目:

- “Metadata の登録/Metadata Server オプション” (515 ページ)
- “Information Map の作成(メタデータの登録)” (513 ページ)

期間/シナリオ関連付けデータのコピー

1. **モデル** ⇨ **期間/シナリオデータのコピー**を選択します。
期間/シナリオデータのコピーウィザードが表示されます。
2. ウィザードの手順に従います。

関連項目:

[“期間/シナリオデータのコピー” \(120 ページ\)](#)

モデルのプロパティの変更

- モデル** ⇨ **プロパティ**を選択します。
モデルプロパティダイアログボックスが表示されます。

関連項目:

[“モデルプロパティダイアログボックス” \(91 ページ\)](#)

モデルの要約の確認

- モデル** ⇨ **要約**を選択します。
モデルの要約ウィンドウが表示されます。

モデルの検証

モデルを計算する際、SAS Activity-Based Management では、モデルが計算できる状態かどうかを確認するために検証を行います。大きなモデルの場合、計算の完了に時間がかかったり、エラーや警告メッセージによって完了前に計算が停止する場合があります。計算の実行がエラーなしで完了する可能性を高めるには、計算の開始前に手動でモデルを検証します。

1. モデルを開きます。
2. **モデル** ⇨ **検証**を選択します。
モデルの検証ダイアログボックスが表示されます。

また、検証では、計算時には実行されないチェックが実行されます。計算を続行するために必要なわけではありませんが、モデルについての関連情報を得られるためです。

次のようなモデルの状態を検証できます。

オーバードライブされたソースアカウントがないこと

他のアカウントに 100%を超えるコストを割り当てているアカウントがないかを確認します。

注: この検証チェックは概算にすぎません。完全な検証のためには、アカウントが 100%を超えるコストを渡そうとしていないかどうかを判断するには、モデルを計算する必要があります。

割り当てられていないアカウントがないこと

リソースモジュールとアクティビティモジュールのすべてのアカウントが割り当てられていることを確認します。通常、コストオブジェクトモジュールのアカウントは、割り当てパスの終端にあるため、他のアカウントに割り当てられません。

注: モデルにルールベースドライバが含まれる場合、この検証は不十分です。ルールベースドライバでは、計算が実行されなければ割り当てが作成されないためです。“[ルールベースドライバ](#)” (280 ページ)を参照してください。

コストが 0 のアカウントがないこと

すべてのアカウントのコストが 0 ではないことを確認します。

空の属性がないこと

アカウントに追加されたすべての属性に値があることを確認します。数値属性の場合、値が 0 でないことを確認します。テキスト属性の場合、値が空白でないことを確認します。

負のドライバ量がないこと

アカウントに負のドライバ量がないことを確認します。

注: このような状態が発生しても、モデルにエラーがあるわけではありません。検証によって作成されたメッセージが、予想どおりかどうかを確認します。たとえば、モデルで負のドライバ量を使用している場合、検証によりこの事実がレポートされます。

関連項目:

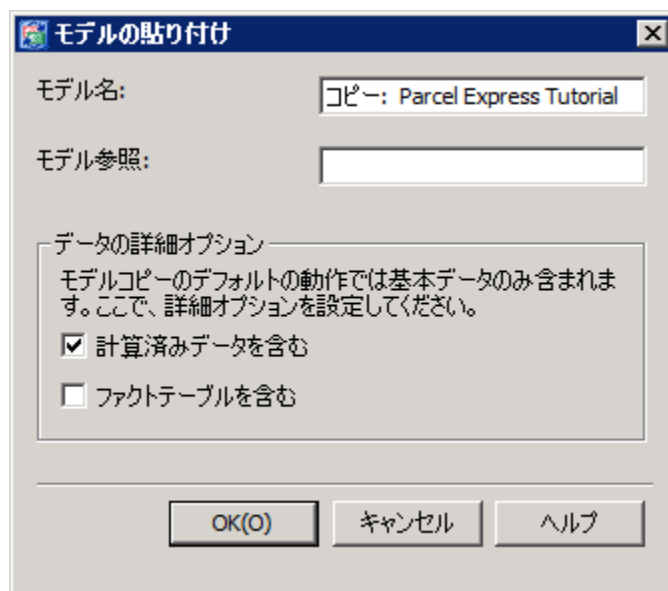
[“モデルの検証ダイアログボックス” \(95 ページ\)](#)

モデルのコピー

モデルに大幅な変更を加える前に、後で参照したり戻せるようにモデルのコピーを作成できます。

モデルをコピーするには、次の操作を行います。

1. ワークスペースマネージャに移動します。
2. コピーするモデルを選択し、**編集** ⇨ **コピー**を選択するか、またはモデルを右クリックして**コピー**を選択します。
3. モデルのコピー先のディレクトリを選択します。次に、**編集** ⇨ **貼り付け**を選択するか、またはディレクトリを右クリックして**貼り付け**を選択します。**モデルの貼り付け**ダイアログボックスが開きます。



4. コピーするモデルが計算済みで、ファクトテーブルが作成されている場合、モデルとともに計算済みデータとファクトテーブルもコピーできます。ファクトテーブルのコピーを選択すると、計算済みデータも自動的にコピーされます。次のオプションをどちらも選択しないか、どちらか 1 つまたは両方を選択します。

- 計算済みデータを含む
- ファクトテーブルを含む

モデルの再計算とそのファクトテーブルの再作成は、モデルのエクスポート時や再インポート時には必要ですが、モデルのコピー時には必要ありません。

8 章

命名規則

命名規則	81
共通の命名規則	81
属性の命名規則	82
ディメンションの命名規則	82
ディメンションレベルの命名規則	82
ディメンションメンバの命名規則	83
ドライバの命名規則	84
入力コストエレメントの命名規則	84
外部ユニットの命名規則	84
モジュール命名規則	84
期間の命名規則	84
期間レベルの命名規則	85
シナリオの命名規則	85
シナリオレベルの命名規則	85
ステージ属性の命名規則	85
ワークスペースアイテムの命名規則	86
参照規則	86
アカウント参照規則	86
属性参照規則	86
外部ユニット参照規則	86
ディメンション参照規則	86
ディメンションメンバ参照規則とディメンション属性参照規則	86
期間参照規則	86
シナリオ参照規則	86
入力コストエレメント参照規則	87

命名規則

共通の命名規則

すべてのアイテム名は、次の規則に従う必要があります。

- 名前に、| は使用できません。
- ディメンション、ドライバ、属性などのキューブのディメンションになる可能性のあるアイテムには、予約名である All および None は使用できません。
- 名前の大文字と小文字は区別されません。たとえば、My Model という名前は、my model や mY mODEL と同一とみなされます。

次のアイテムには共通の命名規則の他に、さらに命名規則が決められています。

属性の命名規則

共通の命名規則以外に、属性の名前は次の規則に従う必要があります。

- 属性名は、親の中で固有である必要があります。
- 属性名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、Microsoft Analysis Services のキューブが作成されるとき、50 文字を超える属性名は 50 文字に切り捨てられます。SAS OLAP では、属性名にはすべて 64 文字まで使用できます。
- 属性名を数値プロパティの名前にすることはできません。
- 属性名に、キューブでは無効な次の文字を使用できません。

. , ; ' ` : ? * & % \$! - + = () [] { } / /

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア()に置き換えられます。

ステージ属性に関する追加の注意事項については、“[ステージ属性](#)” (189 ページ)を参照してください。

ディメンションの命名規則

共通の命名規則以外に、ディメンションの名前は次の規則に従う必要があります。

- ディメンション名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、Microsoft Analysis Services のキューブが作成されるとき、32 文字を超えるディメンション名は 32 文字に切り捨てられます。SAS OLAP では、ディメンション名にはすべて 64 文字まで使用できます。
- ディメンション名は、すべてのディメンションとディメンション属性の中で固有である必要があります。
- ディメンション名は、親の中で固有である必要があります。
- ディメンション名に、キューブでは無効な次の文字を使用できません。

. , ; ' ` : ? * & % \$! - + = () [] { } / /

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア()に置き換えられます。

ディメンションレベルの命名規則

共通の命名規則以外に、ディメンションレベルの名前は次の規則に従う必要があります。

- ディメンションレベル名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、Microsoft Analysis Services のキューブが作成されるとき、50 文字を超えるディメンションレベル名は 50 文字に切り捨てられます。SAS OLAP では、ディメンションレベル名にはすべて 64 文字まで使用できます。
- ディメンションレベル名は、英文字で始まる必要があります。
- ディメンションレベル名には、次の文字は使用できません。

/ / |

- ディメンションレベル名に、キューブでは無効な次の文字を使用できません。

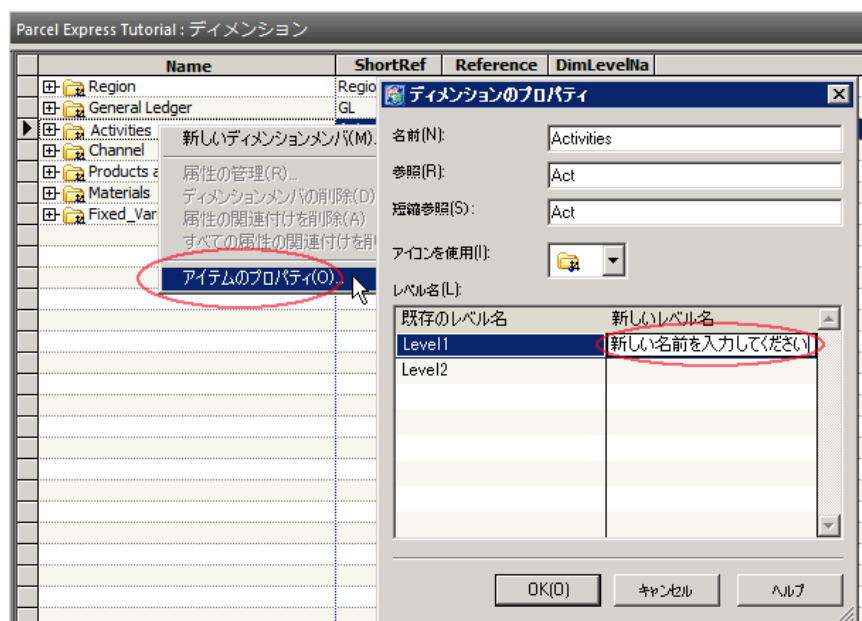
. []

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア()に置き換えられます。

- 注: SAS Activity-Based Management のディメンションレベル名の格納方法が原因で、Microsoft SQL Server を使用しているか Oracle を使用しているかにかかわらず、ユーザー定義名がデータベースと競合することがあります。競合した場合、モデルを計算する際に原因不明としてエラーメッセージが表示されます。競合の原因となるディメンションレベル名は、Microsoft SQL のクエリ言語の予約語です。通常の予約語には level、group、function、drop、join などがあります。たとえば、LeVeL という名前を使用するとエラーの原因になります。ディメンションレベル名の競合を避けるには、接頭辞や接尾辞を追加します。

ディメンションレベルの名前を変更するには、次の操作を行います。

1. モデルを開きます。
2. **モデル** ⇒ **ディメンション**を選択します。
3. ディメンションを右クリックして、**アイテムのプロパティ**を選択します。
ディメンションのプロパティウィンドウが開きます。
4. 新しい名前を入力してから、**OK** をクリックします。



ディメンションメンバの命名規則

共通の命名規則以外に、ディメンションメンバの名前は次の規則に従う必要があります。

- ディメンションメンバ名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、Microsoft Analysis Services のキューブが作成されるとき、50 文字を超えるディメンションメンバ名は 50 文字に切り捨てられます。SAS OLAP では、ディメンションメンバ名にはすべて 64 文字まで使用できます。
- ディメンションメンバ名に、キューブでは無効な次の文字を使用できます。

. []

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア()に置き換えられます。

ディメンションメンバ名は、親の中で固有である必要があります。

ドライバの命名規則

共通の命名規則以外に、ドライバの名前は次の規則に従う必要があります。

- ドライバ名は、すべてのドライバの中で固有である必要があります。
- ドライバ名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、キューブの作成時は、50 文字を超えるドライバ名は 50 文字に切り捨てられます。
- ドライバ名に、キューブでは無効な次の文字を使用できます。

. []

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア(_)に置き換えられます。

入力コストエレメントの命名規則

共通の命名規則以外に、入力コストエレメントの名前は次の規則に従う必要があります。

- 入力コストエレメント名には、64 文字までの英数字を使用します。
- 期間/シナリオ関連付けとアカウントが同じ入力コストエレメントの名前は、固有である必要があります。
- 入力コストエレメント名に、キューブでは無効な次の文字を使用できます。

. []

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア(_)に置き換えられます。

外部ユニットの命名規則

共通の命名規則以外に、外部ユニットの名前は次の規則に従う必要があります。

- 外部ユニット参照は、すべての外部ユニットの中で固有である必要があります。
- 外部ユニット名には、64 文字までの英数字を使用します。

モジュール命名規則

モジュール名の変更時は、次の規則に従う必要があります。

- モジュール名には、64 文字までの英数字を使用します。
- モジュール名には、英数字、アンダースコア、埋め込み空白を使用します。

期間の命名規則

共通の命名規則以外に、期間の名前は次の規則に従う必要があります。

- 期間名は、すべての期間の中で固有である必要があります。
- 期間名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、キューブの作成時は、50 文字を超える期間名は 50 文字に切り捨てられます。
- 期間名に、キューブでは無効な次の文字を使用できます。

. []

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア(_)に置き換えられます。

期間レベルの命名規則

共通の命名規則以外に、期間レベルの名前は次の規則に従う必要があります。

- 期間レベル名は、すべての期間レベルの中で固有である必要があります。
- 期間レベル名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、キューブの作成時は、50 文字を超える期間レベル名は 50 文字に切り捨てられます。
- 期間レベル名に、キューブでは無効な次の文字を使用できます。

. []

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア(_)に置き換えられます。

シナリオの命名規則

共通の命名規則以外に、シナリオの名前は次の規則に従う必要があります。

- シナリオ名は、すべてのシナリオの中で固有である必要があります。
- シナリオ名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、キューブの作成時は、50 文字を超えるシナリオ名は 50 文字に切り捨てられます。
- シナリオ名に、キューブでは無効な次の文字を使用できます。

. []

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア(_)に置き換えられます。

シナリオレベルの命名規則

共通の命名規則以外に、シナリオレベルの名前は次の規則に従う必要があります。

- シナリオレベル名は、すべてのシナリオレベルの中で固有である必要があります。
- シナリオレベル名には、64 文字までの英数字を使用します。ただし、キューブの作成時は、50 文字を超えるシナリオレベル名は 50 文字に切り捨てられます。
- シナリオレベル名に、キューブでは無効な次の文字を使用できます。

[]

これらの文字はそれぞれ、キューブの作成時にアンダースコア(_)に置き換えられます。

ステージ属性の命名規則

共通の命名規則と属性の命名規則以外に、ステージ属性の名前は次の規則に従う必要があります。

- ステージ名は、英文字で始まる必要があります。
- ステージ名を変更する際、並べ替え順序を変更しないように注意します。並べ替え順序により名前が変更された場合、モデルのすべての期間/シナリオのファクトテーブルを作成し直す必要があります。

ワークスペースアイテムの命名規則

共通の命名規則以外に、ワークスペースアイテムの名前は次の規則に従う必要があります。

- ワークスペースアイテム名には、次の文字は使用できません。
/ /または|
- ワークスペースアイテム名は、フォルダ内で固有である必要があります。
- ワークスペースアイテム名には、64 文字までの英数字を使用します。

参照規則

アカウント参照規則

- アカウント参照は、全期間/シナリオ関連付けのモジュールの中で固有である必要があります。

ステージ属性に関する追加の注意事項については、“[ステージ属性](#)” (189 ページ)を参照してください。

属性参照規則

- 属性参照は、すべての属性の中で固有である必要があります。

外部ユニット参照規則

- 外部ユニット参照は、すべての外部ユニットの中で固有である必要があります。

ディメンション参照規則

- ディメンション参照は、すべてのディメンションとディメンション属性の中で固有である必要があります。

ディメンションメンバ参照規則とディメンション属性参照規則

- ディメンションメンバ参照とディメンション属性参照は、1 つのディメンションの中で固有である必要があります。

期間参照規則

- 期間参照は、すべての期間の中で固有である必要があります。

シナリオ参照規則

- シナリオ参照は、すべてのシナリオの中で固有である必要があります。

入力コストエレメント参照規則

- 入力コストエレメント参照は、全期間/シナリオ関連付けのモジュールの中で固有である必要があります。

9 章

モデルウィンドウ

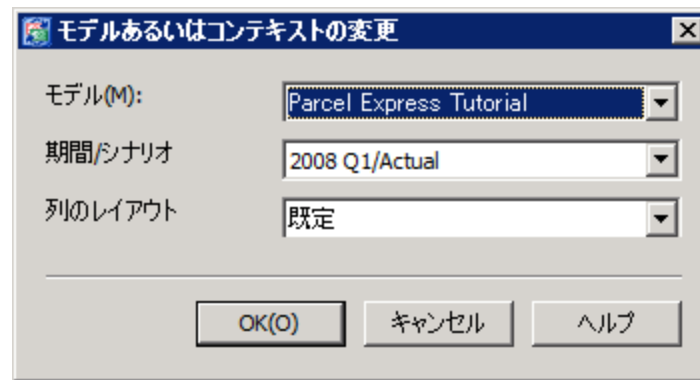
モデルあるいはコンテキストの変更ダイアログボックス	89
モデルあるいはコンテキストの変更ダイアログボックスについて	89
モデルあるいはコンテキストの変更ダイアログボックスの表示	90
モデルの要約ウィンドウ	90
モデルの要約ウィンドウについて	90
モデルの要約ウィンドウの表示	90
モデルの要約の印刷	91
モデルプロパティダイアログボックス	91
モデルプロパティダイアログボックスについて	91
モデルプロパティダイアログボックスの表示	92
タスク	92
全般プロパティの指定	92
マルチステージ貢献キューブのプロパティの指定	92
キューブに含める数値属性の指定	93
シングルステージ貢献キューブ	93
リソース貢献キューブとマルチステージ貢献キューブ	93
各モジュールに含まれるディメンションの表示	93
SAS Strategy Management にモデルデータをパブリッシュする際のオプションの指定	94
モジュールの名前変更	94
モデルの検証ダイアログボックス	95
モデルの検証ダイアログボックスについて	95
モデルの検証ダイアログボックスの表示	95
検証オプションの選択	96

モデルあるいはコンテキストの変更ダイアログボックス

モデルあるいはコンテキストの変更ダイアログボックスについて

このダイアログを使用して、次の操作を行うことができます。

- 期間/シナリオ関連付けと列のレイアウトを指定して、新しいモデルを開く
- 現在開いているモデルの期間/シナリオ関連付けを変更する
- 現在開いているモデルの列のレイアウトを変更する



モデルあるいはコンテキストの変更ダイアログボックスの表示

モデル ⇨ モデルあるいはコンテキストの変更を選択します。

注: このメニュー項目は、モデルワークスペースから使用できます。

モデルの要約ウィンドウ

モデルの要約ウィンドウについて

モデルの要約ウィンドウで、モデルの各モジュールの合計コストやサイクル(相互配賦コスト割り当て)数など、現在の期間/シナリオ関連付けに対するモデルの各種の要約情報を確認できます。

注: この情報は変更できません。

モデルの要約ウィンドウの表示

モデルモードで、モデル ⇨ 要約を選択します。

モデルの要約

名前: Parcel Express Tutorial
 説明:
 期間: 2008 Q1
 シナリオ: Actual
 基準通貨: USD (\$)

コストの要約

モジュール	入力されたコスト	受取コスト	合計コスト	割り当てられたコスト	割り当てられていないコスト
リソース	\$3,647,900.00	\$0.00	\$3,647,900.00	\$3,647,900.00	\$0.00
アクティビティ	\$0.00	\$3,647,900.00	\$3,647,900.00	\$3,647,900.00	\$0.00
コストオブジェクト	\$0.00	\$3,856,293.20	\$3,856,293.20	\$0.00	\$3,856,293.20
外部ユニット			\$208,393.20	\$208,393.20	

モデルの基準

名前	カウント
期間とシナリオの関連付け	4

モデルの要約の印刷

印刷をクリックします。

モデルプロパティダイアログボックス

モデルプロパティダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

モデルプロパティダイアログボックスでは、モデルの情報を確認、変更できます。

モデルプロパティ

全般 | キューブ | キューブ内の属性 | モデルディメンション | パフォーマンス メジャー | モジュールのエイリアス

モデルの通貨
 モデルの基本通貨: USD (\$)

列のレイアウトオプション
 デフォルトの列レイアウト(D): 既定

アウトプット量のオプション
 デフォルトのアウトプット量(F): 0.00

モジュールのデフォルトドライバのオプション:
 それぞれのモジュールが自動的に使用するドライバを指定できます。

リソースモジュールのドライバ(R): Evenly Assigned

アクティビティモジュールのドライバ(A): Evenly Assigned

コストオブジェクトモジュールのドライバ(C): Evenly Assigned

外部ユニットモジュールのドライバ(E): Bill of Cost

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

モデルプロパティダイアログボックスの表示

モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **プロパティ**を選択します。

タスク

- “全般プロパティの指定” (92 ページ)
- “マルチステージ貢献キューブのプロパティの指定” (92 ページ)
- “キューブに含める数値属性の指定” (93 ページ)
- “シングルステージ貢献キューブ” (93 ページ)
- “リソース貢献キューブとマルチステージ貢献キューブ” (93 ページ)
- “各モジュールに含まれるディメンションの表示” (93 ページ)
- “SAS Strategy Management にモデルデータをパブリッシュする際のオプションの指定” (94 ページ)
- “モジュールの名前変更” (94 ページ)

全般プロパティの指定

全般タブをクリックして、次のオプションの中から選択します。

モデルの通貨

モデルの通貨は編集できません。

列のレイアウトオプション

モデルを開いたときに表示するデフォルトの列レイアウトを選択します。

アウトプット量のオプション

デフォルトのアウトプット数量に次を使用ボックスに値を入力します。

モジュールのデフォルトドライバのオプション

モジュールごとにデフォルトドライバを選択します。

マルチステージ貢献キューブのプロパティの指定

ここで選択するオプションは、モデルの新しいキューブ設定を作成する際に自動的に選択されます。ただし、キューブ設定の作成時に異なるオプションを選択できます。ここで選択するオプションは、デフォルトとして選択されるだけであり、実際のキューブ設定では選択を変更できます。

1. キューブタブをクリックします。

マルチステージ貢献キューブについて

2. 次のどちらかのオプションを選択します。

- **モジュールごとにステージを定義。** 各モジュールによって、次の順で個々にステージ(1 つのモジュールにつき 1 つのステージ)が定義されます。

1. 外部ユニット
2. リソース
3. アクティビティ

4. コストオブジェクト

- **ステージと名付けられたディメンション属性によるステージの定義。**

各ステージは、ステージディメンション属性のディメンションメンバ属性によって定義されます。詳細については、ステージ属性とアカウントへのステージ属性の追加を参照してください。

3. それぞれのステージに出入りするコストを使用するリストで、各モジュールまたはステージの**コストフロー(内向きまたは外向き)**を選択します。

モジュールまたはステージのアカウントへのコストフローを選択するには、**内向き**を選択します。モジュールまたはステージのアカウントからのコストフローを選択するには、**外向き**を選択します。

キューブに含める数値属性の指定

属性を操作するには、モデルプロパティダイアログボックスの**キューブ内の属性**タブを使用します。ただし、このタブの機能は、**シングルステージ貢献キューブ**の場合と**リソース貢献キューブ**または**マルチステージ貢献キューブ**の場合では異なります。

シングルステージ貢献キューブ

シングルステージ貢献キューブに数値属性を挿入するには、次の操作を行います。

1. **キューブ内の属性**タブを選択します。
2. キューブに挿入する数値属性を選択します。

シングルステージ貢献キューブを作成すると、選択した数値属性がキューブに挿入されます。

リソース貢献キューブとマルチステージ貢献キューブ

キューブ内の属性タブで選択する数値属性は、モデルの新しいキューブ設定を作成する際に自動的に挿入が選択されます。ただし、キューブ設定の作成時にプロパティを含める必要がないと判断した場合、異なる属性を含めることができます。ここで選択する属性は、デフォルトとして選択されるだけであり、実際のキューブ設定では選択を変更できます。

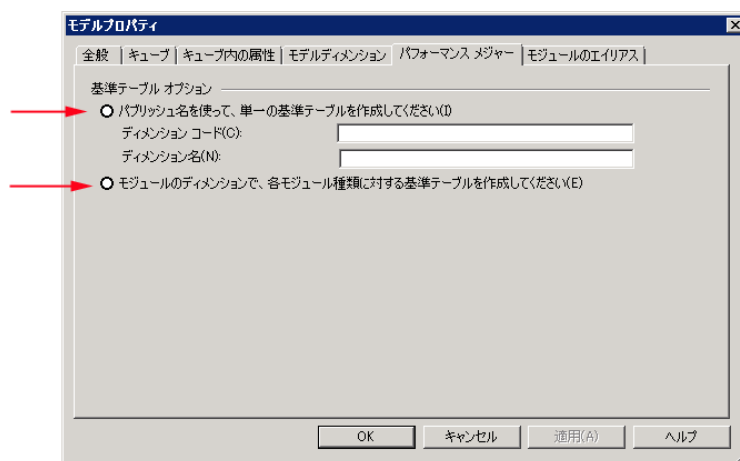
1. **キューブ内の属性**タブをクリックします。
2. 新しいキューブ設定でデフォルトとして選択される数値属性を選択します。

各モジュールに含まれるディメンションの表示

1. **モデルディメンション**タブをクリックします。
2. モジュールで使用されているディメンションリストで、モジュールを展開します。
モジュールで使用されているディメンションが表示されます。

SAS Strategy Management にモデルデータをパブリッシュする際のオプションの指定

パフォーマンスメジャーのパブリッシュ方法を指定できます。“[テーブルのパブリッシュ形式の選択](#)” (527 ページ)を参照してください。



SAS Strategy Management へのパブリッシュの詳細については、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の“Working with Other SAS Programs”のセクションを参照してください。

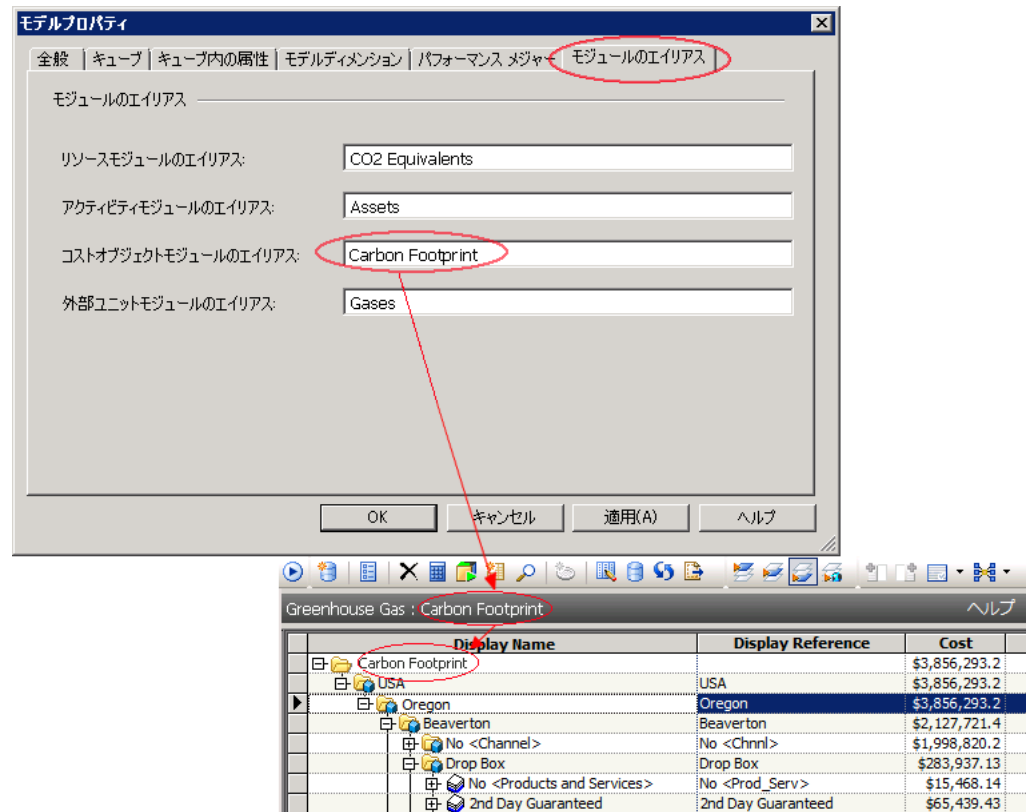
関連項目:

27 章: “SAS Strategy Management” (*SAS Activity-Based Management: Data Administration Guide*)

モジュールの名前変更

リソース、アクティビティ、コストオブジェクトなどのモジュールの標準名を使用する代わりに、モデルのモジュールの名前を変更できます。これは、温室効果ガスなど、コスト以外のものをモデル化するために SAS Activity-Based Management を使用する場合に特に有用です。

モジュールの名前を変更するには、**モデル** ⇨ **プロパティ**を選択し、**モジュールのエリアスタブ**をクリックします。



注: エイリアスはモデルのエクスポート時とインポート時に保持されます。ただし、エイリアスはキューブやレポートに表示されず、メニュー項目などのユーザーインターフェイスの他の部分でも置き換えられません。

モデルの検証ダイアログボックス

モデルの検証ダイアログボックスについて

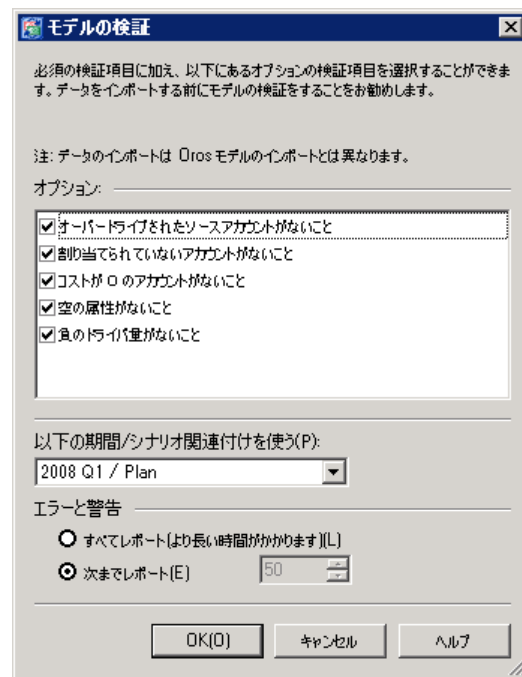
モデルの検証ダイアログボックスでは、モデルの検証のコントロールオプションを選択できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

モデルの検証ダイアログボックスの表示

モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **検証**を選択します。

モデルの検証ダイアログボックスが表示されます。



検証オプションの選択

1. オプションのリストで、オプションを選択または選択解除します。
2. 以下の期間/シナリオ関連付けを使うメニューから、期間/シナリオ関連付けを選択します。
3. エラーと警告セクションで、オプションを選択します。

関連項目:

[“モデルの検証” \(77 ページ\)](#)

3 部

期間とシナリオ

10 章	
期間	99
11 章	
シナリオ	111
12 章	
期間/シナリオの関連付け	117

10 章

期間

期間とシナリオ	99
期間とシナリオについて	100
期間	100
期間レベル	100
シナリオ	100
期間やシナリオの作成	101
期間とシナリオの設定	101
期間やシナリオの削除	101
期間/シナリオの関連付け	101
OLAP 分析の期間とシナリオ	102
期間の作成	103
期間レベル名の管理	104
新しい期間ダイアログボックス	105
新しい期間ダイアログボックスについて	106
新しい期間ダイアログボックスの表示	106
情報の指定	106
期間の管理ダイアログボックス	106
期間の管理ダイアログボックスについて	106
期間の管理ダイアログボックスの表示	107
期間の作成	107
期間のプロパティの管理	107
期間レベル名の管理	107
期間の削除	107
期間のプロパティダイアログボックス	107
期間のプロパティダイアログボックスについて	108
期間のプロパティダイアログボックスの表示	108
情報の指定	108
期間レベル名ダイアログボックス	108
期間レベル名ダイアログボックスについて	108
期間レベル名ダイアログボックスの表示	108
情報の指定	108

期間とシナリオ

期間とシナリオについて

SAS Activity-Based Management には、特定の時間(期間)と特定のデータ(シナリオ)に関する情報が格納されます。

注: モデルの構造は、期間に基づきます。そのため、モデルの期間/シナリオ関連付けを変更すると、モデル構造も変更される場合があります。実際、期間/シナリオ関連付けに構造データが含まれない場合、モデル構造全体が損失することもあります。

期間

期間について

期間は、月、四半期、年などの時間の単位を表します。たとえば、データを毎月入力することにした場合、マーケティングの給与コストは 1 か月の給与額になります。

期間レベル

2003 年度 > 第 1 四半期 > 1 月などの期間階層を作成できます。デフォルトで、各レベルに期間 L1 などの名前が指定されます。ただし、指定される名前は、キューブを作成する際には分かりにくい名前です。そのため、期間レベルに名前を付けることができます。

シナリオ

シナリオについて

シナリオは、期間内でデータの各種バリエーションを管理するために使用します。シナリオは、実績データ、予算データ、積極的な計画データ、消極的な計画データなどのデータの任意の組み合わせです。デフォルトのシナリオは、実績と予算です。

一部のシナリオを SAS Activity-Based Management の使用を開始する前に取り決めて設定し、残りのシナリオを必要に応じて作成することができます。つまり、すべてのシナリオがあらかじめ作成されることはありません。シナリオの命名規則および階層への編成規則のガイドラインを作成すると、サーバー上のシナリオリストが管理できなくなるという状態を防げます。

シナリオレベル

予算 > 積極的な計画などのシナリオの階層を作成できます。デフォルトで、各レベルにシナリオ L1 などの名前が指定されます。ただし、指定される名前は、キューブを作成する際には分かりにくい名前です。そのため、シナリオレベルに名前を付けることができます。

期間やシナリオの作成

期間やシナリオの作成について

期間を作成する際は、命名規則に従って名前を付ける必要があります。

期間の開始日付と終了日付

期間の定義時、期間の開始日と終了日を指定します。これらの日付は、組織内のメンバーが使用するものであり、データには影響しません。

期間は、次の条件を満たす必要があります。

- 期間の長さは、少なくとも 1 日必要です。
- 開始日付は、1980 年 1 月 1 日以降にします。
- 終了日付は、2029 年 12 月 31 日以前にします。

階層の同一レベルの期間は、次の条件を満たす必要があります。

- 期間の日付は、重ならず連続する必要があります。
- 各期間は、次の上位レベルの期間の日付範囲内に含まれる必要があります。

期間とシナリオの設定

期間とシナリオは、同じサーバー上のすべてのモデルによって共有されます。そのため、SAS Activity-Based Management を使用する前に、期間階層を設定し、シナリオ定義のガイドラインを公開する必要があります。

OLAP Analyzer ビューでは、SAS Activity-Based Management により、データが含まれる階層レベルより上位にある階層レベル階層の期間とシナリオに対して値が自動的にロールアップされます。このロールアップデータは、レポートには使用できません。

期間やシナリオの削除

期間/シナリオ関連付けで使用されている期間やシナリオは削除できません。最初に、各モデルの期間/シナリオ関連付けを削除する必要があります。次に、期間を削除またはシナリオを削除します。

期間/シナリオの関連付け

期間/シナリオの関連付けについて

期間/シナリオ関連付けにより、Q1 などの特定の期間と、予算などの特定のシナリオが特定されます。すべてのモデルデータはある 1 つの期間内に存在し、シナリオに関連付けられる必要があります。関連付けとは、期間とシナリオのペアを示します。

許可された権限によって異なりますが、SAS Activity-Based Management の期間/シナリオメニューのリストには、パブリッシュ済みの関連付けのみが表示されます。

関連付けの計算ステータス

期間/シナリオ関連付けの計算ステータスには、関連付けデータが完成したものであり正確であるかどうかを示されます。計算ステータスは、計算されていませんまたは計算のどちらかです。

関連付けのステータス

期間/シナリオ関連付けは、パブリッシュされていませんまたはパブリッシュ済みのどちらかです。

デフォルトでは、期間/シナリオ関連付けは、パブリッシュされていません。データの入力中のため、データを表示する準備ができていません。

期間/シナリオ関連付けのデータが入力され、計算されると、関連付けがパブリッシュされます。パブリッシュされると、一般ユーザーは期間/シナリオ関連付けのデータを表示、分析できます。

注: 期間/シナリオ関連付けのステータスがパブリッシュ済みの場合、関連付けに含まれるデータは編集できません。

通常、関連付けは、四半期の最終日など、レポート作成期間の最終日にパブリッシュされます。

ある関連付けから別の関連付けへのデータのコピー

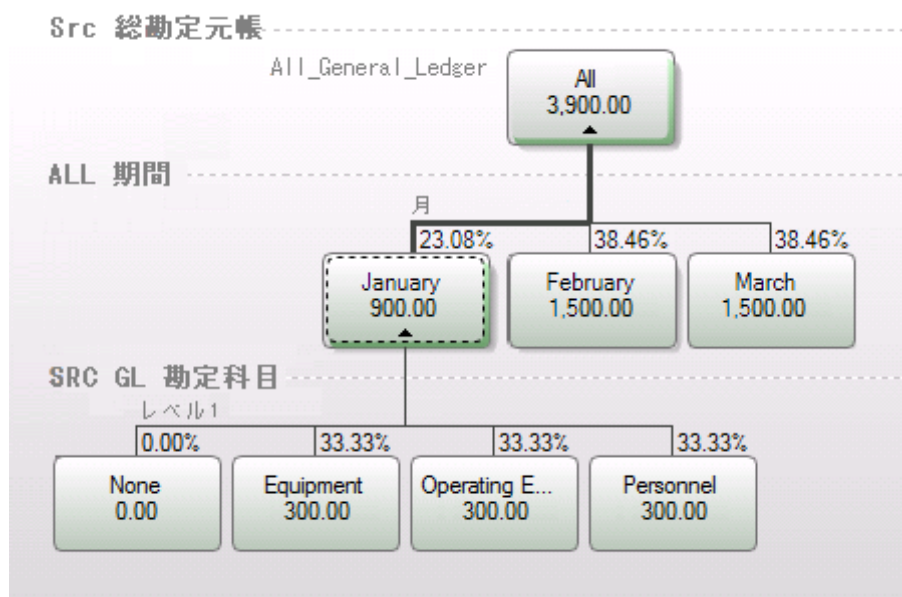
ある期間/シナリオ関連付けのデータを別の期間/シナリオ関連付けにコピーできます。データをコピーすると、関連付けデータを類似した期間や類似した期間/シナリオ関連付けにプロパゲートできます。

OLAP 分析の期間とシナリオ

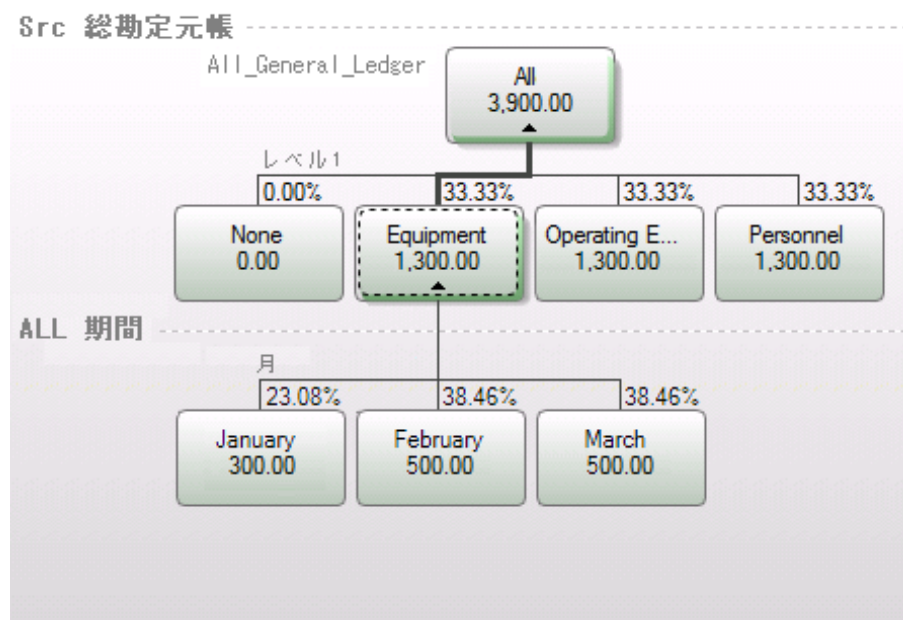
期間とシナリオはディメンションで、ビジネスユーザーが OLAP 分析の際に使用します。期間とシナリオによって、データの集計やデータの抽出ができます。

たとえば、モデルでは、期間/シナリオ関連付けの Jan 2005/ACTUAL、Feb 2005/ACTUAL および Mar 2005/ACTUAL に 2005 年の最初の 3 か月の実績コストデータが含まれているとします。

OLAP キューブが作成され、OLAP キューブにすべての期間/シナリオ関連付けが含まれている場合、ビジネスユーザーは、OLAP ビューで複数の方法を使用してデータを分析できます。たとえば、ビジネスユーザーは、次のキューブエクスプローラビューの図に示すように、月別、カテゴリ別の順にコストを集計できます。



または、ビジネスユーザーは、次の図に示すように、カテゴリ別、月別の順にコストを集計できます。



ビジネスユーザーは、期間とシナリオの組み合わせを使用することで、分析目標の多くを達成できます。

期間の作成

1. ツール ⇨ 期間の管理を選択します。

期間の管理ダイアログボックスが表示されます。



2. 期間列から、その下に新しい期間を作成する期間を選択します。
3. 新規作成をクリックします。

新しい期間ダイアログボックスが表示されます。

新しい期間

名前(N): 新しい期間

参照(R): 新しい期間

開始日付(S): 2008/01/01

終了日付(E): 2008/12/31

説明(D):

OK(O) キャンセル ヘルプ

- 名前を入力します。

名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“命名規則” (81 ページ)を参照してください。

- 参照を入力します。

デフォルトの参照は、期間名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。“参照規則” (86 ページ)を参照してください。

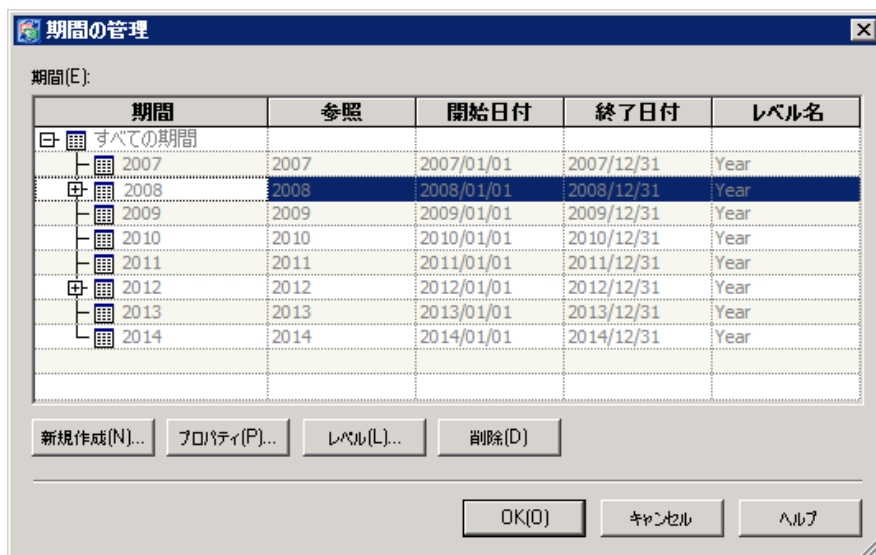
- 開始日付と終了日付を入力するか、ドロップダウンカレンダーから日付を選択します。
- 説明を入力します。

関連項目:

“新しい期間ダイアログボックス” (105 ページ)

期間レベル名の管理

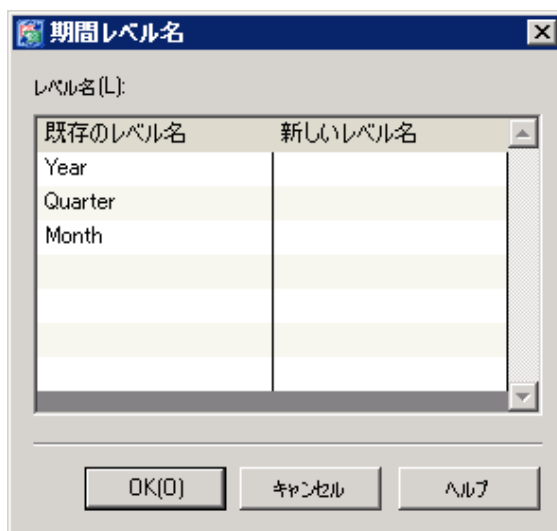
- ツール ⇒ 期間の管理を選択します。
期間の管理ダイアログボックスが表示されます。



2. 期間列から、期間を選択します。

3. レベルをクリックします。

期間レベル名ダイアログボックスが表示されます。



4. 新しいレベル名列の行をダブルクリックして名前を入力します。

名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“命名規則” (81 ページ) を参照してください。

関連項目:

[“期間レベル名ダイアログボックス” \(108 ページ\)](#)

新しい期間ダイアログボックス

新しい期間ダイアログボックスについて

新しい期間ダイアログボックスでは、新しい期間に名前を付けて、他の期間情報を指定できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

新しい期間ダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- 期間の管理ダイアログボックスで、**新規作成**をクリックします。
- 期間とシナリオの関連付けダイアログボックスで、**新規作成**をクリックします。

情報の指定

1. 名前を入力します。“命名規則”(81 ページ)を参照してください。
2. 参照を入力します。“参照規則”(86 ページ)を参照してください。

デフォルトの参照は、期間名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。

3. 開始日付と終了日付を入力するか、ドロップダウンカレンダーから日付を選択します。
4. (オプション)説明を入力します。

関連項目:

[“期間とシナリオ”\(99 ページ\)](#)

期間の管理ダイアログボックス

期間の管理ダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

期間の管理ダイアログボックスでは、期間を管理できます。

注: 次のタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

ヒント 日付が親期間の日付範囲にない期間の行は、強調表示されます。この状況は、データをインポートした場合に発生する可能性があります。強調表示されている期間の日付を修正します。

ヒント 列のセパレータをドラッグすると、列の幅を広げることができます。

期間の管理ダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- ツール ⇨ **期間の管理**を選択します。
- **期間とシナリオの関連付け**ダイアログボックスで、**新しい期間**をクリックします。

期間の作成

1. **期間列**から、その下に新しい期間を作成する期間を選択します。
2. **新規作成**をクリックします。

新しい期間ダイアログボックスが表示されます。

期間のプロパティの管理

1. **期間列**から、期間を選択します。
2. **プロパティ**をクリックします。

期間のプロパティダイアログボックスが表示されます。

期間レベル名の管理

1. **期間列**から、期間を選択します。
2. **レベル**をクリックします。

期間レベル名ダイアログボックスが表示されます。

期間の削除

1. 期間が期間/シナリオ関連付けに含まれる場合、すべてのモデルでその期間/シナリオ関連付けを削除します。
2. すべてのモデルから該当する期間/シナリオ関連付けを削除したら、**期間列**から期間を選択します。
3. **削除**をクリックします。

関連項目:

[“期間とシナリオ” \(99 ページ\)](#)

期間のプロパティダイアログボックス

期間のプロパティダイアログボックスについて

期間のプロパティダイアログボックスでは、期間のプロパティを確認、変更できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

期間のプロパティダイアログボックスの表示

期間の管理ダイアログボックスで期間を選択して、**プロパティ**をクリックします。

情報の指定

1. 名前を入力します。
2. 参照を入力します。
3. 開始日付と終了日付を入力するか、ドロップダウンカレンダーから日付を選択します。
4. 説明を入力します。
5. **関連付けられたモデルリスト**で、期間を使用するモデルを確認します。

関連項目:

[“期間とシナリオ” \(99 ページ\)](#)

期間レベル名ダイアログボックス

期間レベル名ダイアログボックスについて

期間レベル名ダイアログボックスでは、期間レベルに名前を付けることができます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

期間レベル名ダイアログボックスの表示

期間の管理ダイアログボックスで期間を選択して、**レベル**をクリックします。

情報の指定

(オプション)新しいレベル名列の行をダブルクリックして名前を入力します。

関連項目:

[“期間レベル名の管理” \(104 ページ\)](#)

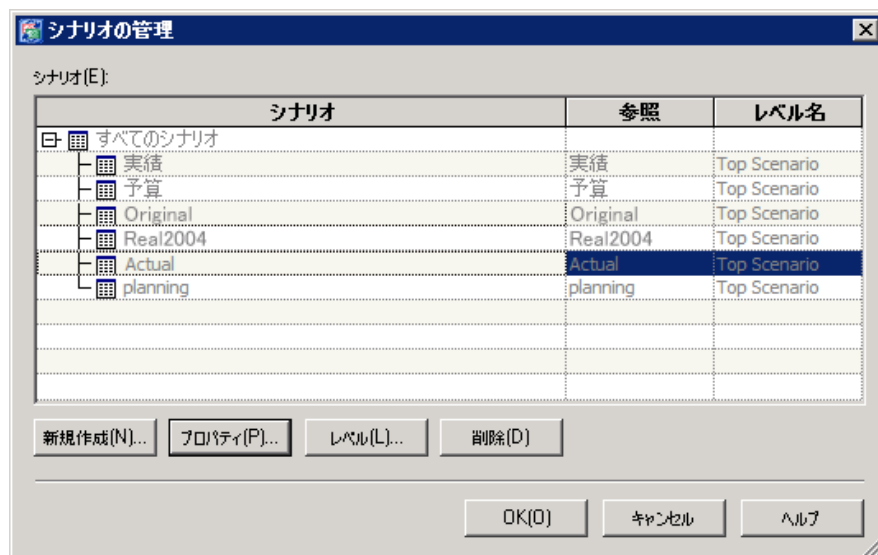
11 章

シナリオ

シナリオの作成	111
シナリオレベル名の管理	113
新しいシナリオダイアログボックス	114
新しいシナリオダイアログボックスについて	114
新しいシナリオダイアログボックスの表示	114
情報の指定	114
シナリオの管理ダイアログボックス	114
シナリオの管理ダイアログボックスについて	114
シナリオの管理ダイアログボックスの表示	115
シナリオの作成	115
シナリオのプロパティの管理	115
シナリオレベル名の管理	115
シナリオの削除	115
シナリオプロパティダイアログボックス	115
シナリオプロパティダイアログボックスについて	116
シナリオプロパティダイアログボックスの表示	116
情報の指定	116
シナリオレベル名ダイアログボックス	116
シナリオレベル名ダイアログボックスについて	116
シナリオレベル名ダイアログボックスの表示	116
情報の指定	116

シナリオの作成

1. ツール ⇨ シナリオの管理を選択します。
シナリオの管理ダイアログボックスが表示されます。



- シナリオ列から、その下に新しいシナリオを作成するシナリオを選択します。
- 新規作成をクリックします。

新しいシナリオダイアログボックスが表示されます。



- 名前を入力します。
名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“命名規則” (81 ページ)を参照してください。
- 参照を入力します。
デフォルトの参照は、シナリオ名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。“参照規則” (86 ページ)を参照してください。
- 説明を入力します。

関連項目:

- “期間とシナリオ” (99 ページ)
- “新しいシナリオダイアログボックス” (114 ページ)

シナリオレベル名の管理

1. ツール ⇒ シナリオの管理を選択します。

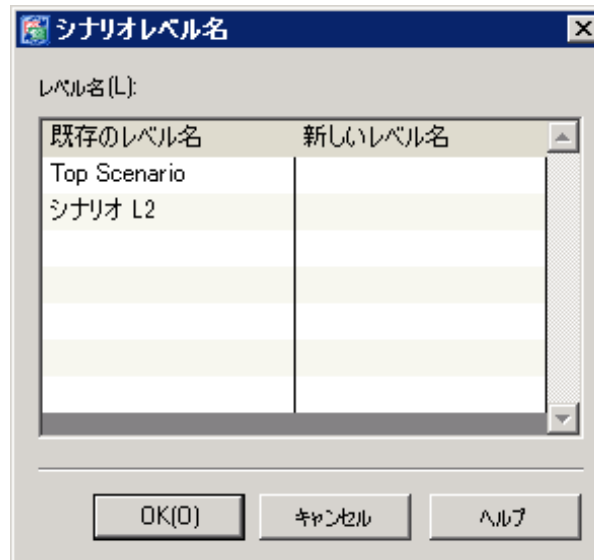
シナリオの管理ダイアログボックスが表示されます。



2. シナリオ列から、シナリオを選択します。

3. レベルをクリックします。

シナリオレベル名ダイアログボックスが表示されます。



4. 新しいレベル名列の行をダブルクリックして名前を入力します。

名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“命名規則” (81 ページ)を参照してください。

関連項目:

- [“シナリオレベル名ダイアログボックス” \(116 ページ\)](#)
- [“シナリオレベル名ダイアログボックス” \(116 ページ\)](#)

新しいシナリオダイアログボックス

新しいシナリオダイアログボックスについて

新しいシナリオダイアログボックスでは、新しいシナリオに名前を付けて、他のシナリオ情報を指定できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

新しいシナリオダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- シナリオの管理ダイアログボックスで、**新規作成**をクリックします。
- 期間とシナリオの関連付けダイアログボックスで、**新規作成**をクリックします。

情報の指定

1. 名前を入力します。
2. 参照を入力します。

デフォルトの参照は、シナリオ名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。

3. (オプション)説明を入力します。

関連項目:

[“期間とシナリオ” \(99 ページ\)](#)

シナリオの管理ダイアログボックス

シナリオの管理ダイアログボックスについて

シナリオの管理ダイアログボックスでは、シナリオを管理するための他のタスクを作成、実行できます。

注: 次のタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

シナリオの管理ダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- ツール ⇨ シナリオの管理を選択します。
- 期間とシナリオの関連付けダイアログボックスで、新しいシナリオをクリックします。

シナリオの作成

1. シナリオ列から、その下に新しいシナリオを作成するシナリオを選択します。
2. 新規作成をクリックします。

新しいシナリオダイアログボックスが表示されます。

シナリオのプロパティの管理

1. シナリオ列から、シナリオを選択します。
2. プロパティをクリックします。

シナリオプロパティダイアログボックスが表示されます。

シナリオレベル名の管理

1. シナリオ列から、シナリオを選択します。
2. レベルをクリックします。

シナリオレベル名ダイアログボックスが表示されます。

シナリオの削除

1. シナリオが期間/シナリオ関連付けに含まれる場合、すべてのモデルでその期間/シナリオ関連付けを削除します。
2. すべてのモデルから該当する期間/シナリオ関連付けを削除したら、シナリオ列からシナリオを選択します。
3. 削除をクリックします。

ヒント 列のセパレータをドラッグすると、列の幅を広げることができます。

関連項目:

[“期間とシナリオ” \(99 ページ\)](#)

シナリオプロパティダイアログボックス

シナリオプロパティダイアログボックスについて

シナリオプロパティダイアログボックスでは、シナリオのプロパティを確認、変更できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

シナリオプロパティダイアログボックスの表示

シナリオの管理ダイアログボックスでシナリオを選択して、**プロパティ**をクリックします。

情報の指定

1. 名前を入力します。
2. 参照を入力します。
3. 説明を入力します。
4. **関連付けられたモデルリスト**で、シナリオを使用するモデルを確認します。

関連項目:

[“期間とシナリオ” \(99 ページ\)](#)

シナリオレベル名ダイアログボックス

シナリオレベル名ダイアログボックスについて

シナリオレベル名ダイアログボックスでは、シナリオレベルに名前を付けることができます。

権限によっては、機能を使用できません。

シナリオレベル名ダイアログボックスの表示

シナリオの管理ダイアログボックスで、**レベル**をクリックします。

情報の指定

(オプション)新しいレベル名列の行をダブルクリックして名前を入力します。

関連項目:

[“シナリオレベル名の管理” \(113 ページ\)](#)

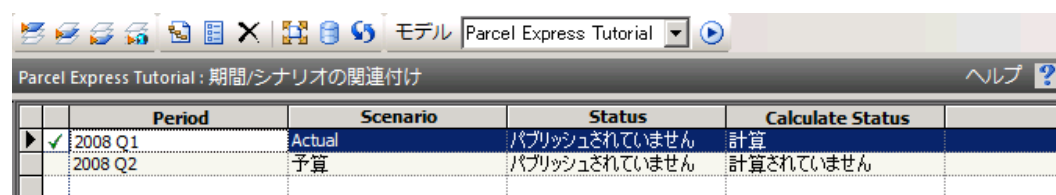
12 章

期間/シナリオの関連付け

期間とシナリオの関連付けビュー	117
期間とシナリオの関連付けビューについて	117
期間とシナリオの関連付けビューの表示	118
期間/シナリオ関連付けの作成	118
期間/シナリオ関連付けのプロパティの確認、変更	118
期間/シナリオ関連付けの削除	118
期間/シナリオ関連付けのパブリッシュ/パブリッシュ解除	118
期間/シナリオ関連付けを作成する	118
現在の期間/シナリオ関連付けの変更	120
期間/シナリオデータのコピー	120
期間/シナリオ関連付けのパブリッシュ/パブリッシュ解除	121
期間とシナリオの関連付けダイアログボックス	121
期間とシナリオの関連付けダイアログボックスについて	121
期間とシナリオの関連付けダイアログボックスの表示	122
新しい期間とシナリオの作成	122
期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックス	122
期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックスについて	122
期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックスの表示	122
情報の指定	122

期間とシナリオの関連付けビュー

期間とシナリオの関連付けビューについて



	Period	Scenario	Status	Calculate Status
▶	2008 Q1	Actual	パブリッシュされていません	計算
	2008 Q2	予算	パブリッシュされていません	計算されていません

権限によっては、機能を使用できません。

期間とシナリオの関連付けビューでは、期間/シナリオ関連付けを管理できます。

開かれている期間/シナリオ関連付けの先頭列には、チェックマークが表示されます。

注: 次のタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

注: 期間とシナリオの関連付けビューの情報は、直接編集できません。

期間とシナリオの関連付けビューの表示

モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **期間とシナリオの関連付けビュー**を選択します。

期間/シナリオ関連付けの作成

編集 ⇨ **新しい関連付け**を選択します。

期間とシナリオの関連付けダイアログボックスが表示されます。

期間/シナリオ関連付けのプロパティの確認、変更

1. 期間/シナリオ関連付けを選択します。
2. **編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。

期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックスが表示されます。

期間/シナリオ関連付けの削除

1. 期間/シナリオ関連付けを選択します。
2. **編集** ⇨ **削除**を選択します。

期間/シナリオ関連付けのパブリッシュ/パブリッシュ解除

1. 期間/シナリオ関連付けを選択します。
2. **編集** ⇨ **パブリッシュする/しない**を選択します。

関連付けのパブリッシュについて

関連項目:

- [“期間とシナリオ” \(99 ページ\)](#)
- [“期間とシナリオの関連付けダイアログボックス” \(121 ページ\)](#)
- [“期間/シナリオ関連付けを作成する” \(118 ページ\)](#)
- [“現在の期間/シナリオ関連付けの変更” \(120 ページ\)](#)

期間/シナリオ関連付けを作成する

1. **ツール** ⇨ **期間とシナリオの関連付け**を選択します。

期間とシナリオの関連付けページが表示されます。

2. **編集** ⇨ **新しい関連付け**を選択します。

期間とシナリオの関連付けダイアログボックスが表示されます。

3. **期間**を選択します。新しい期間を作成するには、次の操作を行います。
 - a. **新しい期間**をクリックします。
 期間の管理ダイアログボックスが表示されます。期間の作成セクションで説明されているように、新しい期間を作成します。
 - b. **期間**を選択します。
4. **シナリオ**を選択します。新しいシナリオを作成するには、次の操作を行います。
 - a. **新しいシナリオ**をクリックします。
 シナリオの管理ダイアログボックスが表示されます。シナリオの作成セクションで説明されているように、シナリオを作成します。
 - b. **シナリオ**を選択します。
5. 関連付けに関する**説明**を入力します。

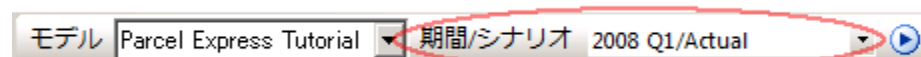
関連項目:

- “期間とシナリオの関連付けダイアログボックス” (121 ページ)
- “期間とシナリオ” (99 ページ)
- “現在の期間/シナリオ関連付けの変更” (120 ページ)

現在の期間/シナリオ関連付けの変更

現在の期間/シナリオ関連付けは、モデルにコストを追加する際、その期間とシナリオのコストに割り当てられます。

現在の期間/シナリオ関連付けを変更するには、開いているモデルのリソース、アクティビティ、コストオブジェクト、外部オブジェクトのビューの期間/シナリオドロップダウンリストから選択して矢印ボタンをクリックします。



期間とシナリオの関連付けビューでは、現在の期間にチェックマークが表示されます。

現在の期間/シナリオ関連付け →

	Period	Scenario	Status	Calculate Status
<input checked="" type="checkbox"/>	2008 Q1	Actual	パブリッシュされていません	計算
<input type="checkbox"/>	2008 Q2	Actual	パブリッシュされていません	計算されていません
<input type="checkbox"/>	2008 Q3	Actual	パブリッシュされていません	計算されていません
<input type="checkbox"/>	2008 Q4	Actual	パブリッシュされていません	計算されていません

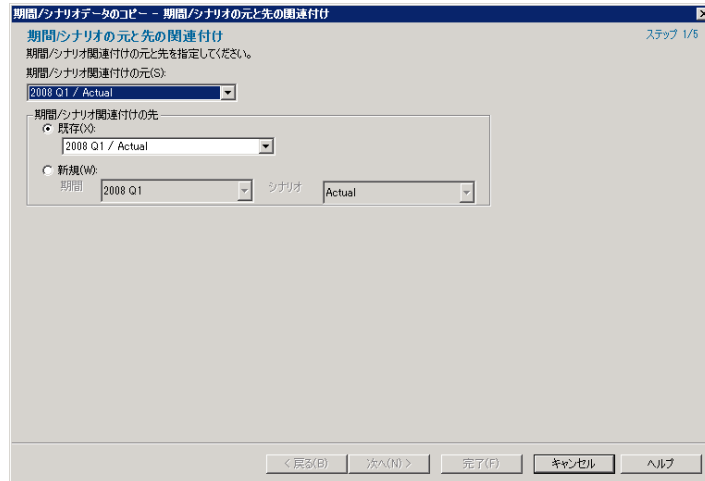
期間とシナリオの関連付けビューを開くには、モデルモードでモデルを開き、**モデル ⇨ 期間とシナリオの関連付けビュー**を選択します。

関連項目:

- “期間とシナリオ” (99 ページ)
- “期間とシナリオの関連付けダイアログボックス” (121 ページ)
- “期間とシナリオの関連付けビュー” (117 ページ)
- “期間とシナリオの関連付けビュー” (117 ページ)

期間/シナリオデータのコピー

1. モデルをモデルモードに開きます。
2. **モデル ⇨ 期間/シナリオデータのコピー**を選択します。
期間/シナリオデータのコピーダイアログボックスが表示されます。



3. **期間/シナリオ**を選択します。
4. データを既存の期間/シナリオの関連付けにコピーするには、次の操作を行います。
 - a. **既存の期間とシナリオの関連付けオプション**を選択します。
 - b. 右側のドロップダウンリストから、**期間/シナリオの関連付け**を選択します。
5. データを新しい期間/シナリオの関連付けにコピーするには、次の操作を行います。
 - a. **新しい期間とシナリオの関連付けオプション**を選択します。
 - b. **期間とシナリオ**を選択します。

期間/シナリオ関連付けのパブリッシュ/パブリッシュ解除

1. **モデル** ⇨ **期間とシナリオの関連付けページ**を選択します。
期間とシナリオの関連付けページが表示されます。
2. 期間/シナリオ関連付けを選択します。
3. **編集** ⇨ **パブリッシュする/しない**を選択します。

期間とシナリオの関連付けダイアログボックス

期間とシナリオの関連付けダイアログボックスについて

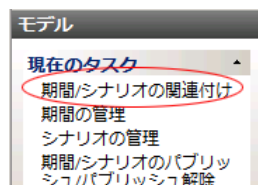
権限によっては、一部の機能を使用できません。

期間とシナリオの関連付けダイアログボックスで、期間とシナリオを関連付けます。

期間とシナリオの関連付けダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- 期間/シナリオの関連付けビューのタスクリストで、**期間/シナリオの関連付け** をクリックします。



- 期間/シナリオの関連付けビューで期間/シナリオの関連付けを選択し、**編集** ⇨ **新しい関連付け**を選択します。

新しい期間とシナリオの作成

1. 期間を選択するか、または新しい期間を作成します。
2. シナリオを選択するか、または新しいシナリオを作成します。
3. (オプション)関連付けの説明を入力します。

関連項目:

- “[期間とシナリオ](#)” (99 ページ)
- “[期間/シナリオ関連付けを作成する](#)” (118 ページ)
- “[現在の期間/シナリオ関連付けの変更](#)” (120 ページ)

期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックス

期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックスについて

期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックスでは、期間/シナリオ関連付けを作成できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

期間/シナリオ関連付けプロパティダイアログボックスの表示

期間とシナリオの関連付けビューで関連付けを選択して、**編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。

情報の指定

次の操作はオプションです。

1. ステータスを選択します。
2. 関連付けに関する説明を入力します。

4 部

ディメンション

13 章	
ディメンションの操作	127
14 章	
ディメンションウィンドウ	141

13 章

ディメンションの操作

メジャーおよびディメンション	127
メジャー	127
ディメンション	128
ディメンションレベル	128
ディメンションメンバ	129
構造ディメンション	131
属性ディメンション	131
ディメンションビュー	131
ディメンションビューについて	131
ディメンションビューの表示	132
ディメンションメンバの作成	132
アイテムのプロパティの確認、変更	132
ディメンションメンバの削除	132
ディメンションメンバの作成	132
ディメンションメンバの並べ替え	134
概要	134
マウスの使用	134
キーボードの使用	135
ステージングテーブルの使用	135
ディメンションメンバの親の変更	136
概要	136
マウスを使用	136
キーボードを使用	138
ステージングテーブルを使用	138
ディメンションレベル名の変更	139

メジャーおよびディメンション

メジャー

データは要約され、通貨値または数値として格納されます。メジャーは、集計および分析された値です。モデルには、コスト、売上量、収益などの値が含まれます。これらの値から、メジャーが形成されます。たとえば、モデルに製品の売り上げに関する情報（製品コスト、売上量、収益）が含まれるとします。特定の地域の成果を評価する場合、その地域の総収益を他の地域の総収益と比較します。

デイメンション

デイメンションは、データの分析カテゴリです。たとえば、販売額は地域別、顧客別、または製品別に分類します。各カテゴリが 1 つのデイメンションを表します。一般的なデイメンションには、製品、時間、地域、顧客、プロモーション、販売チャネルがあります。

さらに詳しく説明すると、ある部長が、データアイテム x, y, z を a, b, c に分類して確認する必要がある、と言ったとします。この発言にある x, y, z はメジャーを示し、 a, b, c はデイメンションを示します。一例として、この部長は、収益、コスト、利益を地域別、顧客別、製品別に確認する必要があると考えられます。

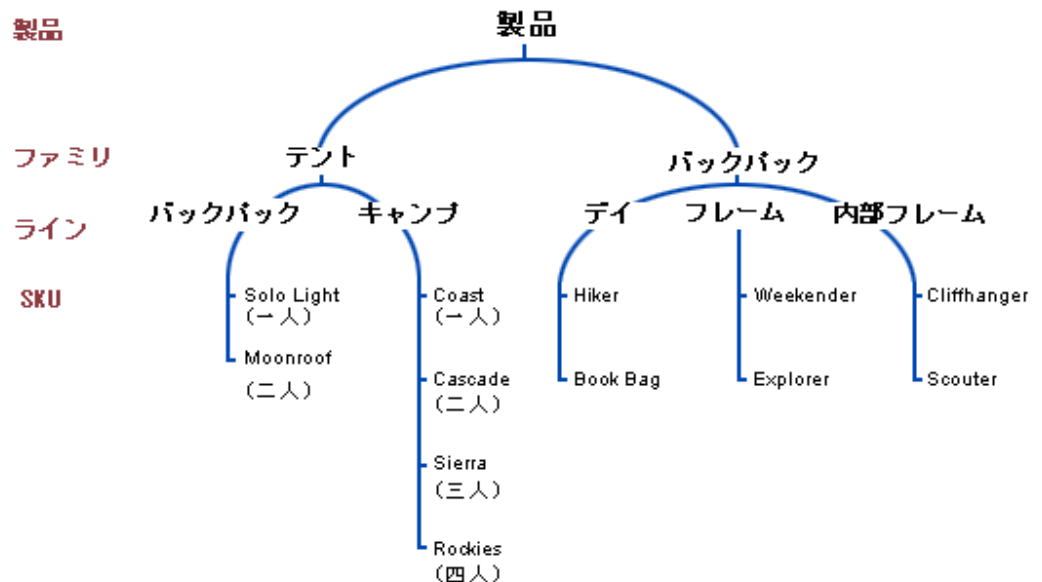
注: Microsoft Analysis Services のデイメンションの指定については、Microsoft のドキュメントを参照してください。

デイメンションレベル

データを整理され関心を引く形式で表示するには、デイメンション内のアイテムをグループにまとめます。各アイテムは階層の特定のレベルに属します。

デフォルトで、各デイメンションレベルに Level1 などの名前が指定されます。この名前を OLAP 分析時に分かりやすい名前にするために、デイメンションレベル名を変更します。詳細については、デイメンションレベルの命名規則を参照してください。

たとえば、製品デイメンションの始点を製品ファミリ(デイメンションレベル名: ファミリ)にします。製品ファミリをまず製品ライン(デイメンションレベル名: ライン)に分割し、次に最小在庫管理単位(デイメンションレベル名: SKU)に分割します。



この例では、製品デイメンションが 3 レベルから構成されます。レベルを使用することで、各情報レベルのメジャーを表示できます。

デイメンションレベルは強力なモデリングツールです。デイメンションレベルにより、疑問個所の確認や、デイメンションの展開による詳細情報の入手が可能です。たとえば、まず過去 3 会計年度の製品コストを確認するとします。2001 年度のコストが他年度に比べて高いことに気づきます。特定の製品ファミリ、製品ライン、または SKU のコストが

高くないか確かめるために、製品ディメンションのレベルを調べていきます。このような調査はドリルダウンと呼ばれます。

モデルを作成する際に、ディメンションレベルを選択します。

ディメンションメンバ

概要

ディメンションメンバは、ディメンションレベルで固有の要素です。図の例では、バックパック、フレーム、ハイカーがディメンションメンバです。

モジュールビューの All、No <ディメンション名>、None、(データ)

モデルビューの表示内容を把握するために、Intersection Name プロパティの列を追加します。インターセクション名には、ディメンションメンバがディメンション配置に沿って左から右に表示されます。

さらに詳しく説明すると、COST OBJECT モジュールのロールアップコストは、すべての製品コストと顧客コストの合計を表します。この場合、ディメンション配置は、製品ディメンション、次に顧客ディメンションであり、製品 X 顧客と表記されます。インターセクション名の All は、その位置のディメンション配置に含まれるすべてのディメンションメンバを示します。インターセクション名(IntsectnName 列)を見ると、Solo Light ロールアップアカウントは製品ディメンションの Solo Light ディメンションメンバと、顧客ディメンションのすべてのディメンションメンバのインターセクション(Solo Light x All)であることがわかります。つまり、Solo Light ロールアップアカウントは、すべての顧客のコストとその他のコストを含む、Solo Light のすべての製品コストを示します。

COST OBJECT モジュールロールアップをドリルダウンすると、コストの詳細を確認できます。Solo Light を展開してそのアカウントを調べると、No <Customer>アカウントに気が付きます。このアカウントは、Solo Light 製品の合計コストに影響しますが、特定の顧客に直接割り当てられない原料、製造、生産活動などのコスト(\$248,253.44)を示します。No <Customer>というインターセクション名が表示される場合、No <Customer>がこのディメンションメンバと非顧客ディメンションメンバのインターセクション(Solo Light x No <Customer>)であることがわかります。

No <dimension>は、特定されているインターセクション以外のコストを示します。たとえば、部門を示すモデルを作成するとします。すべての部門のコストを含む GL 勘定科目からコストをインポートする際、他部門のコストを No <dimension>に振り分け、他部門のコストが所属部門に影響しないようにします。

残りの Solo Light アカウントは、LLCorn (顧客)です。このアカウントのインターセクション名は、アカウントが製品 Solo Light と顧客 LLCorn (Solo Light X LLCorn)のインターセクションであることを示します。このアカウントのコストは、Solo Light の製品コストと LLCorn の顧客コストを示します。

Display Name	IntsctnName	Cost
コストオブジェクト (プライマリペイン)		\$1,751,735.000
Solo Light	Solo Light x All	\$256,308.859
No <Customer>	Solo Light x No <Customer>	\$248,253.447
LLCorn	Solo Light x LLCorn	\$256,308.859
Solo Light x No <Customer>	Solo Light x No <Customer>	\$248,253.447
No <Product> x LLCorn	No <Product> x LLCorn	\$8,055.412
Moonroof	Moonroof x All	\$173,873.182
Entryway	Entryway x All	\$226,634.782
Waterproof case	Waterproof case x All	\$292,481.457
pack book	pack book x All	\$181,986.542
Pack Week	Pack Week x All	\$389,447.014
Pack Expl	Pack Expl x All	\$47,052.759
Pack Clif	Pack Clif x All	\$183,950.406
No <Product>	No <Product> x All	\$122,349.124
LLCorn	No <Product> x LLCorn	\$80,554.116
Preliminary RFQ	Preliminary RFQ	\$4,634.809
Sales Call	Sales Call	\$12,122.997
Take Order	Take Order	\$8,738.214
Process Returns	Process Returns	\$5,871.718
Trade Show Activities	Trade Show Activities	\$35,343.803
Create BOM	Create BOM	\$6,397.260
Collecting Late Bills	Collecting Late Bills	\$1,341.667
Normal Recieving	Normal Recieving	\$3,226.935
Expedite Order	Expedite Order	\$972.603
Reviewing BOMs	Reviewing BOMs	\$1,904.110
Eddy Bear	No <Product> x Eddy Bear	\$14,863.730
Waters End	No <Product> x Waters End	\$26,931.278

グリッドビューの All、No <ディメンション名>、None、(データ)

OLAP グリッドビューでは、どのディメンションにも共通して含まれる値として、キューブの合計値が ALL フィールドに表示されます。ディメンションの ALL メンバは、特定の値に関連付けられているわけではありません。None 値を使用して、All 値とディメンションの他のメンバに関連付けられている値を調整します。

新規作成(N) ◀ ▶ 戻る(B) ▶ 前に進む(F) [?] [?] 合計(T) ▾ [?] ビューの編集(E) ▾ [?] ビューの同期解除(Y) [?]

表示 ▾

列: All 期間 > All 期間 > 01JAN2008:00:00:00 ▾ Cost ▾ Profit ▾ Revenue ▾ UnitCost ▾ UnitProfit ▾ Un

行: コストオブジェクト_Products_and_Services > All コス... ▾ コストオブジェクト_Channel > All コストオブジェクト_Channe... ▾

スライサ:

ハイライト: [Profit は 0 以下の値です] ▾

ビューグループ 1 (2) ▾ [?]

ビュー 1 ▾

Year		2008					
メジャー		Cost	Profit	Revenue	UnitCost	UnitProfit	UnitRevenue
Level1	Level1						
	All
	None
2nd Day Guaranteed	Drop Box	150,018.62	-16,193.62	133,825.00	11.11	-1.20	9.91
	Walk In	494,045.00	43,456.00	537,501.00	10.78	0.95	11.73
	Commercial Pick-up	309,187.34	-100,687.34	208,500.00	10.31	-3.36	6.95

構造ディメンション

構造ディメンションは、モデルのモジュールの構成要素です。たとえば、リソースモジュールの典型的な構造ディメンションは、地域、組織、GL 勘定科目です。アクティビティモジュールは、アクティビティディメンションに加え、地域または組織ディメンションに従って構成できます。モデルを特定するディメンションの組み合わせがディメンションシグネチャです。

構造ディメンションは基本的に、組織間のコストフローをモデル化するための“バケット”です。ただし、このような概念のコストは、組織内の他の人には細かすぎます。このような人々は、属性ディメンションや OLAP 分析から得られる程度のより大まかな詳細を必要としています。モデルデータをニーズに合わせて加工できるように、構造ディメンションを作成するようにします。

注: 構造ディメンションは、初めてモデルを作成する際に作成されます。構造ディメンションを後で削除することはできません。また、新しい構造ディメンションを作成することはできませんが、ディメンション属性は作成できます。ただし、各構造ディメンション内のディメンションメンバは追加、削除できます。

属性ディメンション

属性ディメンションは、ディメンション属性の作成時に必ず作成されるディメンションです。明示的に属性ディメンションを作成することはできません。SAS Activity-Based Management の OLAP ツールでは、属性ディメンションと構造ディメンションは区別されません。

“ディメンション属性、ディメンションメンバ属性、ディメンション値属性” (186 ページ)を参照してください。

ディメンションビュー

ディメンションビューについて

権限によっては、機能を使用できません。

ディメンションビューでは、モデルのディメンションとディメンションメンバの名前を管理できます。



Name	ShortRef	Reference	DimLevel
Activities	Act	Act	
Channel	Chnl	Chnl	
General Ledger	GL	GL	
External Units	Ext	Ext	
Organization	Org	Org	
Products and Services	Prod_Serv	Prod_Serv	
Region	Reg	Reg	
Stages	Stages	Stages	
Fixed_Variable	Fixed_Variable	Fixed_Variable	
Customer Value	Customer_Valu	Customer_Valu	
Importance	Importance	Importance	

注: ディメンションビューの情報は、直接編集できません。

デイメンションビューの表示

モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **デイメンション**を選択します。

デイメンションメンバの作成

1. デイメンションメンバを作成するアイテムを選択します。
2. **編集** ⇨ **新しいデイメンションメンバ**を選択します。
新しいデイメンションメンバダイアログボックスが表示されます。
3. (オプション)デイメンションメンバに対応するアカウントを作成します。

関連項目:

[“デイメンションメンバの作成” \(132 ページ\)](#)

アイテムのプロパティの確認、変更

1. アイテムを選択します。
2. **編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。
デイメンションを選択した場合、**デイメンションのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。
デイメンションメンバを選択した場合、**デイメンションメンバのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

デイメンションメンバの削除

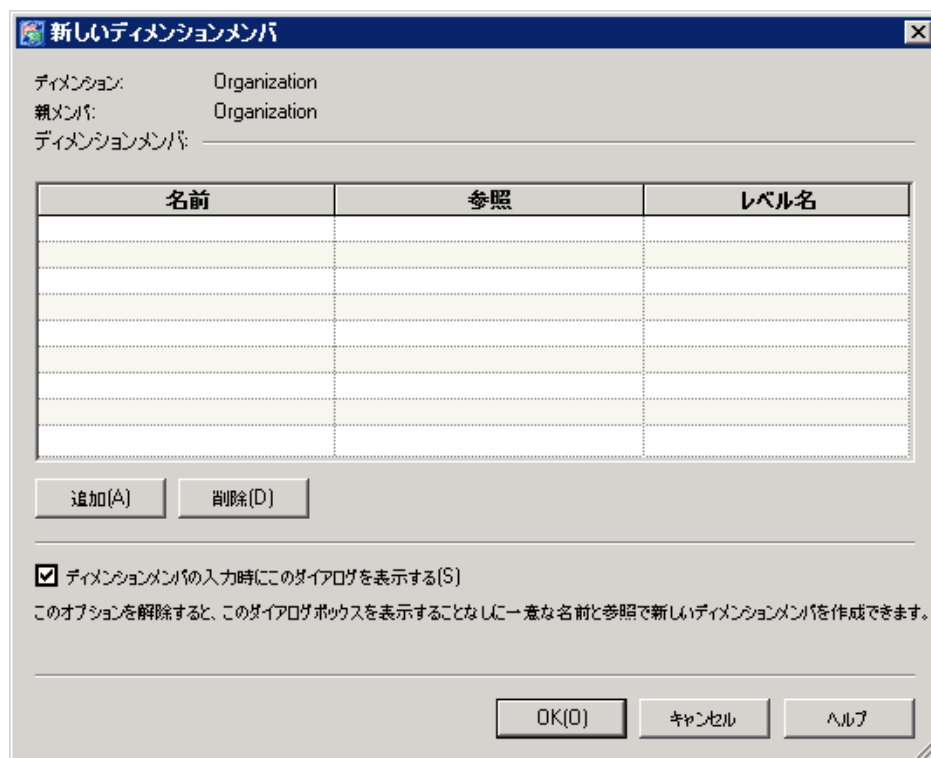
1. デイメンションメンバに対応するアカウントを削除します。
2. デイメンションメンバを選択します。
3. **編集** ⇨ **削除**を選択します。

関連項目:

[“メジャーおよびデイメンション” \(127 ページ\)](#)

デイメンションメンバの作成

1. デイメンションページで、新しいデイメンションメンバの作成場所のデイメンションまたはデイメンションメンバを選択します。
2. **編集** ⇨ **新しいデイメンションメンバ**を選択します。
新しいデイメンションメンバダイアログボックスが表示されます。



新しいディメンションメンバ

ディメンション: Organization

親メンバ: Organization

ディメンションメンバ:

名前	参照	レベル名

追加(A) 削除(D)

☒ ディメンションメンバの入力時にこのダイアログを表示する(S)

このオプションを解除すると、このダイアログボックスを表示することなしに一意な名前と参照で新しいディメンションメンバを作成できます。

OK(O) キャンセル ヘルプ

3. **追加**をクリックします。
新しい行が、**ディメンションメンバリスト**に追加されます。この行は、デフォルトの情報が挿入されています。
4. **名前**列をクリックして、新しいディメンションメンバの名前を入力します。
名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“[命名規則](#)” (81 ページ)を参照してください。
5. **参照**列をクリックして、参照を入力します。
デフォルトの参照は、ディメンションメンバ名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。“[参照規則](#)” (86 ページ)を参照してください。
6. **レベル名**列をクリックして、レベル名を選択します。
7. **ディメンションメンバの入力時にこのダイアログを表示する**オプションを選択または選択解除します。
8. **追加**をクリックします。
9. モジュールページで、ディメンションメンバに対応するアカウントを作成します。

関連項目:

- “[新しいディメンションメンバダイアログボックス](#)” (143 ページ)
- “[メジャーおよびディメンション](#)” (127 ページ)

デイメンションメンバの並べ替え

概要

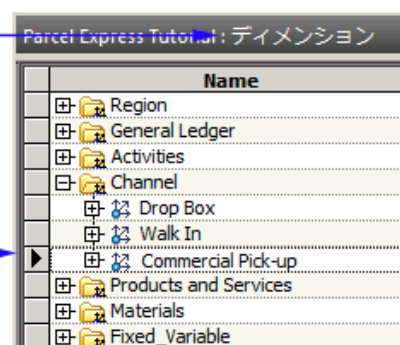
マウス、キーボードまたはステージングテーブルを使用して、デイメンションメンバの順序を変更できます。

マウスの使用

1. デイメンションビューに移動して、並べ替えるデイメンションメンバを選択します。

デイメンションビューを開きます

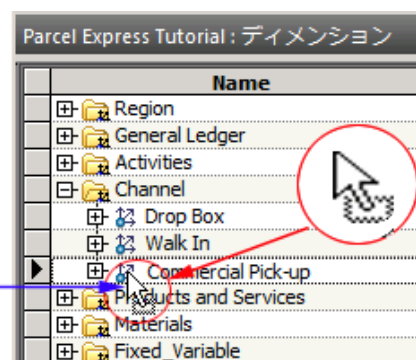
移動するアイテムを選択します



2. デイメンションメンバの上にカーソルを合わせて次の形にします:

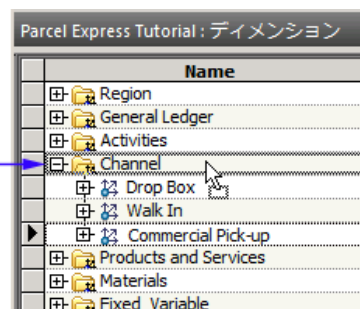


カーソルの形が変わるまでアイテムの上にカーソルを合わせます



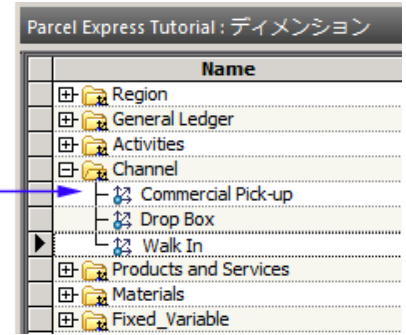
3. 選択したアイテムの移動先の上にあるデイメンションメンバにカーソルをドラッグします。

アイテムの移動先の1つ上のアイテムにカーソルをドラッグします



4. アイテムをドロップすると、ディメンションメンバが並べ替えられます。

アイテムをドロップすると
アイテムが並べ替えられます



注: ディメンションメンバを親フォルダの外にドラッグすると、ディメンションメンバの親を変更するものとみなされます。

キーボードの使用

キーボードを使用してディメンションメンバを並べ替えるには、次の操作を行います。

1. ディメンションビューに移動します。
2. 上向きまたは下向き矢印キーを使用して、並べ替えるディメンションメンバに移動します。
3. **Ctrl + D** を押して、ディメンションメンバを選択します。
4. 上向きまたは下向き矢印キーを使用して、移動先の上にあるディメンションメンバに移動します。
5. **Ctrl + R** を押して、アイテムをドロップします。

アイテムが新しい場所に移動します。

注: ディメンションメンバを親フォルダの外にドラッグすると、ディメンションメンバの親を変更するものとみなされます。

ステージングテーブルの使用

ステージングテーブルを使用してディメンションメンバの表示順序を指定するには、DimensionMember テーブルの DisplayOrder フィールドを使用します。

ディメンションメンバに 10 単位で番号を指定すると、ステージングテーブルに並べ替えるディメンションメンバ行を簡単に挿入できます。たとえば、次の図のディメンションメンバ Land Distribution は、DisplayOrder=15 を割り当てられているので、AirDistribution (DisplayOrder=10)のすぐ後で、Expedite Shipping (DisplayOrder=20)の前に表示されます。

DimRef	Reference	Name	ParentRefer	DisplayOrder
Act	Air Distribution	Air Distribution		10
Act	Expedite Shipping	Expedite Shipping		20
Act	Inspect Packaging	Inspect Packaging		30
Act	Land Distribution	Land Distribution		15
Chnl	Customer Pickup	Customer Pickup		10
Chnl	Drop Box	Drop Box		20
Chnl	Storefront	Storefront		30
GL	Equipment Expense	Equipment Expenses		10
GL	Operating Expense	Operating Expenses		20
GL	Wages	Wages		30

ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の“Importing and Exporting Using Staging Tables”の章を参照してください。

関連項目:

“デイメンションメンバの親の変更” (136 ページ)

デイメンションメンバの親の変更

概要

デイメンションメンバの親を変更するために、デイメンションメンバを別の親に移動する際、マウスまたはキーボードを使用できます。

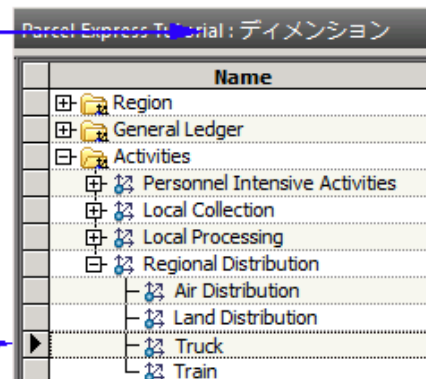
注: 同一デイメンションの別の親にのみ、デイメンションメンバを移動できます。

マウスを使用

1. デイメンションビューに移動して、親を変更するデイメンションメンバを選択します。

デイメンションビューを開きます

親を変更するアイテムを選択します

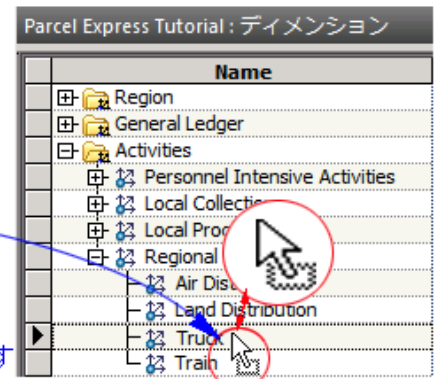


2. デイメンションメンバの上にカーソルを合わせて次の形にします:



3. Alt キーを押しながら、マウスボタン 1 をクリックしたままにします。

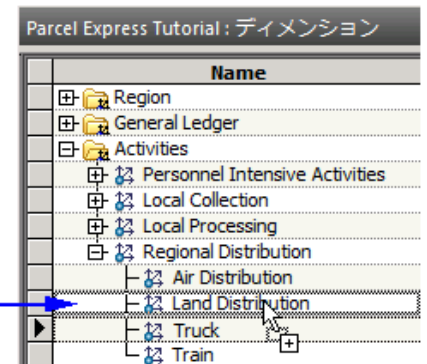
- A. カーソルの形が変わるまでアイテムの上にカーソルを合わせます
 B. Alt キーを押したままにします
 C. マウスボタン1をクリックしたままにします



注: Alt キーを押してからマウスボタンをクリックしてください。

4. カーソルを移動先の親にドラッグします(Alt キーは押したまま)。

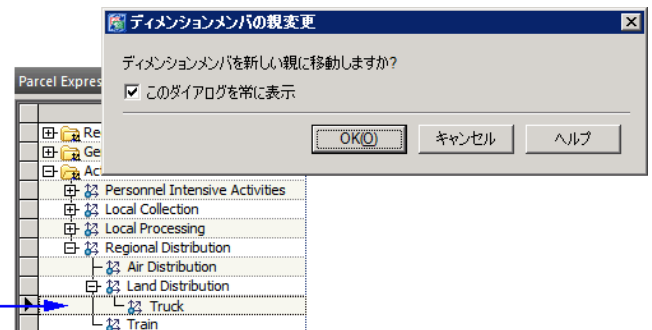
カーソルを移動先の親にドラッグします
 (Alt キーは押したまま)



5. アイテムをドロップします。

アイテムの親を変更するか確認メッセージが表示されます。確定すると、アイテムが新しい親の下に移動します。

アイテムをドロップするとアイテムが新しい親の下に移動します

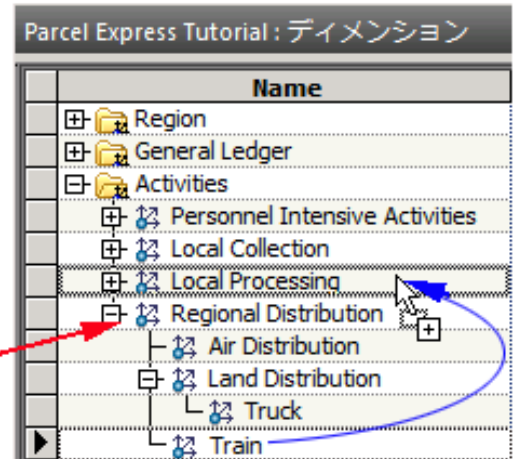


6. ディメンションメンバは、新しい親の最後の子として一番下に追加されます。この場合以外に移動するには、移動先の親のディメンションメンバを並べ替えます。

注: ディメンションメンバを現在の親フォルダの外にドラッグすると、ディメンションメンバの親を変更するものと見なされるため、Alt キーを押し続ける必要はありません。

メンバを現在の親フォルダの外にドラッグする場合は、Alt キーを押す必要はありません

現在の親



キーボードを使用

キーボードを使用してアカウントの親を変更するには、次の操作を行います。

1. デイメンションビューに移動します。
2. 上向きまたは下向き矢印キーを使用して、親を変更するデイメンションメンバに移動します。
3. **Ctrl + D** を押して、デイメンションメンバを選択します。
4. 上向きまたは下向き矢印キーを使用して、親にするデイメンションメンバに移動します。
5. **Ctrl + Shift + R** を押して、アイテムをドロップします。

アイテムの親を変更するか確認メッセージが表示されます。確定すると、アイテムが新しい親の下に移動します。

ステージングテーブルを使用

DimensionMember テーブルの ParentReference フィールドを使用して、デイメンションメンバの親を指定できます。

注: ただし、モデルがすでに存在する場合、ParentReference フィールドの値が異なるテーブルを再インポートしてデイメンションメンバの親を変更することはできません。値が異なる場合、インポートされた値は無視されます。

ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の“Importing and Exporting Using Staging Tables”の章を参照してください。

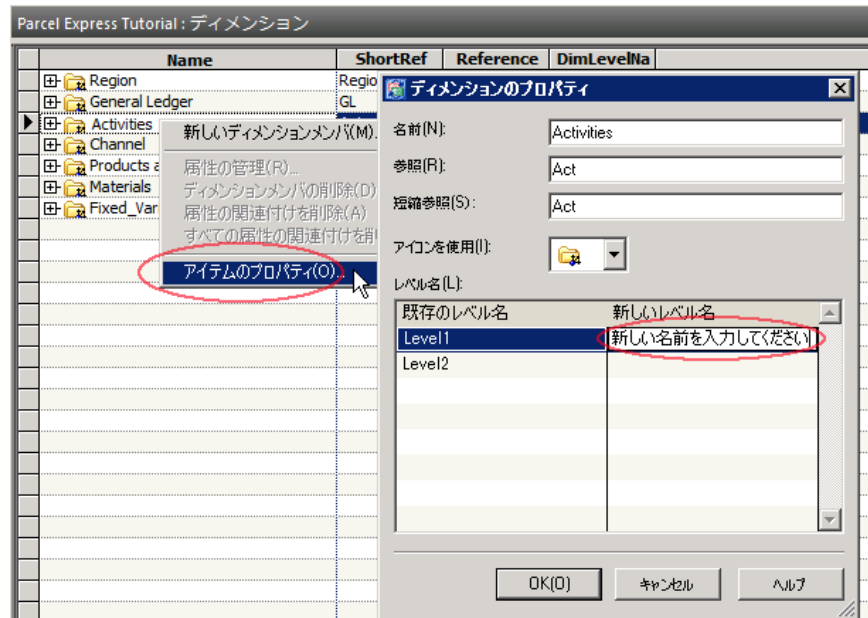
関連項目:

“デイメンションメンバの並べ替え” (134 ページ)

ディメンションレベル名の変更

ディメンションレベルの名前を変更するには、次の操作を行います。

1. モデルを開きます。
2. **モデル** ⇨ **ディメンション**を選択します。
3. ディメンションを右クリックして、**アイテムのプロパティ**を選択します。
ディメンションのプロパティウィンドウが開きます。
4. 新しい名前を入力してから、**OK** をクリックします。



関連項目:

[“ディメンションレベルの命名規則” \(82 ページ\)](#)

14 章

ディメンションウィンドウ

新しいディメンションダイアログボックス	141
新しいディメンションダイアログボックスについて	141
新しいディメンションダイアログボックスの表示	142
情報の指定	142
ディメンションの編集ダイアログボックス	142
ディメンションの編集ダイアログボックスについて	142
ディメンションの編集ダイアログボックスの表示	142
情報の指定	142
ディメンションのプロパティダイアログボックス	143
ディメンションのプロパティダイアログボックスについて	143
ディメンションのプロパティダイアログボックスの表示	143
情報の指定	143
新しいディメンションメンバダイアログボックス	143
新しいディメンションメンバダイアログボックスについて	144
新しいディメンションメンバダイアログボックスの表示	144
ディメンションメンバの追加	144
ディメンションメンバ検索ダイアログボックス	145
ディメンションメンバ検索ダイアログボックスの表示	145
ディメンションメンバの検索	145
ディメンションメンバのプロパティダイアログボックス	145
ディメンションメンバのプロパティダイアログボックスについて	146
ディメンションメンバのプロパティダイアログボックスの表示	146
情報の指定	146

新しいディメンションダイアログボックス

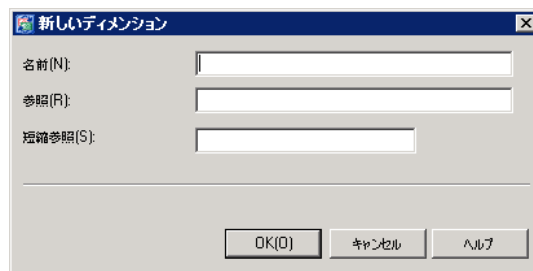
新しいディメンションダイアログボックスについて

新しいモデルを作成する際、新しいディメンションダイアログボックスでディメンションを新規作成できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

新しいデイメンションダイアログボックスの表示

新しいモデルウィザードでモデルのデイメンションを指定する際、**新規作成**をクリックします。



情報の指定

1. 名前を入力します。
2. (オプション)参照を入力します。
3. (オプション)短縮参照を入力します。

短縮参照は、Information Map とパブリックビューで使用されます。詳細については、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guid* の "Public Views" および "Information Maps" の章を参照してください。

関連項目:

[“メジャーおよびデイメンション” \(127 ページ\)](#)

デイメンションの編集ダイアログボックス

デイメンションの編集ダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

新しいモデルを作成する際、**デイメンションの編集**ダイアログボックスでデイメンションの情報を編集できます。

デイメンションの編集ダイアログボックスの表示

新しいモデルウィザードでモデルのデイメンションを指定する際、デイメンションを選択して**編集**をクリックします。

情報の指定

次の操作はオプションです。

1. 名前を入力します。詳細については、ディメンションの命名規則についてを参照してください。
2. 参照を入力します。詳細については、ディメンションの参照規則についてを参照してください。

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [“ディメンションのプロパティダイアログボックス” \(143 ページ\)](#)

ディメンションのプロパティダイアログボックス

ディメンションのプロパティダイアログボックスについて

ディメンションのプロパティダイアログボックスでは、ディメンションの情報を確認、変更できます。

ディメンションのプロパティダイアログボックスの表示

ディメンションビューで、ディメンションを選択し、**編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。

情報の指定

1. 名前を入力します。詳細については、命名規則についてを参照してください。
2. 参照を入力します。詳細については、参照規則についてを参照してください。
3. **アイコン**を使用メニューからアイコンを選択します。
このアイコンは、インターフェイスでのディメンションの表示に使用されます。
4. **新しいレベル名列**の行をダブルクリックして名前を入力します。
詳細については、ディメンションレベル名についておよび命名規則についてを参照してください。

関連項目:

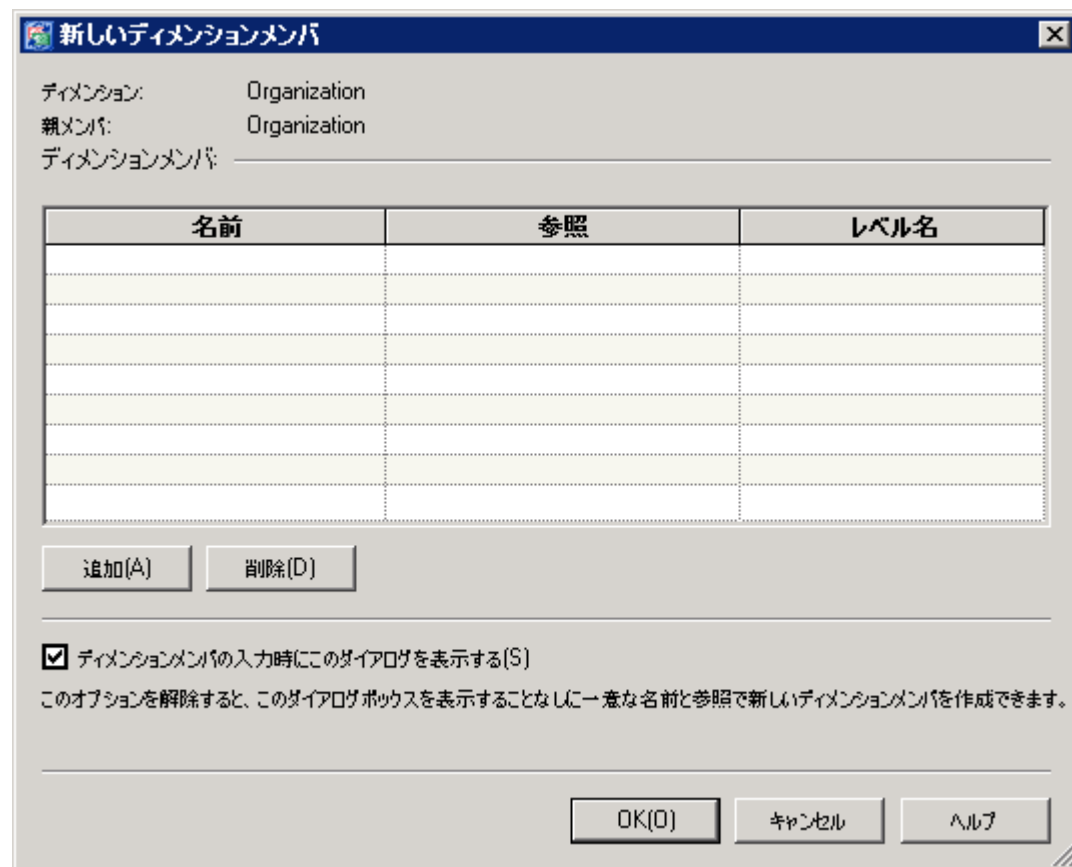
- [“ディメンションの編集ダイアログボックス” \(142 ページ\)](#)
- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)

新しいディメンションメンバダイアログボックス

新しいディメンションメンバダイアログボックスについて

新しいディメンションメンバダイアログボックスでは、新しいディメンションメンバに名前を付けて、他のディメンションメンバ情報を指定できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。



新しいディメンションメンバ

ディメンション: Organization

親メンバ: Organization

ディメンションメンバ:

名前	参照	レベル名

追加(A) 削除(D)

☒ ディメンションメンバの入力時にこのダイアログを表示する(S)

このオプションを解除すると、このダイアログボックスを表示することなしに一意な名前と参照で新しいディメンションメンバを作成できます。

OK(O) キャンセル ヘルプ

新しいディメンションメンバダイアログボックスの表示

ディメンションビューで、アイテムを選択し、編集 ⇨ 新しいディメンションメンバを選択します。

ディメンションメンバの追加

1. 追加をクリックします。

新しい行が、ディメンションメンバリストに追加されます。この行は、デフォルトの情報が挿入されています。

2. (オプション)名前列をクリックして、名前を入力します。

3. (オプション)参照列をクリックして、参照を入力します。デフォルトの参照は、ディメンションメンバ名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。
4. (オプション)レベル名列をクリックして、レベル名を選択します。
5. (オプション)ディメンションメンバの入力時にこのダイアログを表示するオプションを選択または選択解除します。

関連項目:

- “ディメンションメンバの作成” (132 ページ)
- “メジャーおよびディメンション” (127 ページ)

ディメンションメンバ検索ダイアログボックス

新しいアカウントを作成する際、ディメンションメンバ検索ダイアログボックスを使用して、ディメンションメンバを簡単に検索できます。

ディメンションメンバ検索ダイアログボックスの表示

モデルモードでモデルを開いて、編集 ⇨ 新しいアカウントを選択します。新しいアカウントウィザードが開いたら、検索をクリックします。

ディメンションメンバの検索

1. メンバ名を入力します。
 2. ディメンション名メニューからディメンションを選択します。
 3. (オプション)名前の完全一致を選択すると、入力したメンバ名と完全に一致するメンバ名のみが検索されます。
- 名前の完全一致を選択しない場合、0 文字以上の任意の文字を表すワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用できます。入力したメンバ名には、暗黙的にアスタリスクが加えられます。たとえば Equipment と入力すると、Equipment Depreciation や Equipment Expenses が検索され、Equipment*と入力した場合と同じ結果が得られます。
 - 名前の完全一致を選択すると、完全に一致する名前のみが検索され、ワイルドカードは適用されません。名前にアスタリスクを付けると、名前自体にアスタリスクが含まれるメンバのみが検索されます。入力した名前には、暗黙的にアスタリスクワイルドカードは加えられません。

デイメンションメンバのプロパティダイアログボックス

デイメンションメンバのプロパティダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

デイメンションメンバのプロパティダイアログボックスでは、デイメンションメンバの情報を確認、変更できます。

デイメンションメンバのプロパティダイアログボックスの表示

デイメンションビューで、デイメンションメンバを選択し、**編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。

情報の指定

1. **全般**タブをクリックします。
2. 名前を入力します。
3. 参照を入力します。

関連項目:

[“メジャーおよびデイメンション” \(127 ページ\)](#)

5 部

モジュールとアカウント

15 章	
モジュールとアカウントの操作	149
16 章	
アカウントウィンドウ	171

15 章

モジュールとアカウントの操作

モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウント	150
モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウントについて	150
リソースモジュール	151
アクティビティモジュール	151
コストオブジェクトモジュール	152
外部ユニットモジュール	152
利益分析モジュール	152
アカウントとロールアップアカウント	152
列	154
モジュールロールアップ	154
参照	154
リソースモジュール、アクティビティモジュールおよびコストオブジェクトモジュール	154
リソースモジュール、アクティビティモジュールおよびコストオブジェクトモジュールについて	154
リソースモジュール、アクティビティモジュールおよびコストオブジェクトモジュールの表示	155
アカウントの作成	155
入力コストエレメントの作成	155
アイテムの削除	156
割り当ての作成	156
割り当ての削除	156
割り当てペインの表示	156
アカウントの割り当て元アカウントのみ表示	157
アカウントの割り当て先アカウントのみ表示	157
アカウントの割り当て元アカウントと割り当て先アカウントの表示	157
アカウントへ移動	157
アカウント属性の管理	157
列のレイアウトの編集	158
アイテムのプロパティの確認、変更	158
外部ユニットモジュールビュー	158
外部ユニットモジュールビューについて	158
外部ユニットモジュールビューの表示	158
外部ユニットの作成	159
外部ユニットに追加された属性の管理	159
列のレイアウトの編集	159
アイテムのプロパティの確認、変更	159
アイテムの削除	159
アカウントの作成	160

アカウントの並べ替え	163
概要	163
マウスの使用	163
キーボードの使用	165
ステージングテーブルの使用	165
アカウントの検索	165
アカウント検索クエリの保存	165
クエリの保存	166
クエリの取得	166
アカウント検索クエリのエクスポート	167
アカウント検索クエリのインポート	167
アカウントへ移動	168
すべてのレベルの展開	168

モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウント

モジュール、モジュールロールアップ、アカウント、ロールアップアカウントについて

モジュールには、リソースやアクティビティに関する情報など、モデルの特定の種類のコスト情報が含まれます。モデルには、次のモジュールが含まれます。

- “リソースモジュール” (151 ページ)
- “アクティビティモジュール” (151 ページ)
- “コストオブジェクトモジュール” (152 ページ)
- “外部ユニットモジュール” (152 ページ)
- “利益分析モジュール” (152 ページ)

各モジュールは、そのモジュールのビューに表示されます。

モデル	Parcel Express Tutorial	期間/シナリオ	2008 Q1/Actual	列のレイアウト	既定
Parcel Express Tutorial: アクティビティモジュール					
	Display Name	Display Reference	Cost		
[-]	アクティビティ (プライマリペイン)		\$3,647,900.0		
[-]	USA	USA	\$3,647,900.0		
[-]	Oregon	Oregon	\$3,647,900.0		
[-]	Beaverton	Beaverton	\$1,930,900.0		
[+]	Personnel Intensive Activities	Personnel Intensive Activities	\$218,201.72		
[+]	Local Collection	Local Collection	\$338,040.02		
[+]	Local Processing	Local Processing	\$716,731.93		
[+]	Regional Distribution	Regional Distribution	\$1,682,395.5		
[-]	Eugene	Eugene	\$1,717,000.0		
[+]	Personnel Intensive Activities	Personnel Intensive Activities	\$187,783.21		
[+]	Local Collection	Local Collection	\$351,422.14		
[+]	Local Processing	Local Processing	\$743,326.79		

モデルに活動基準原価計算を完全実施しない場合、モデル作成時に使用可能なモジュールをすべて使用する必要はありません。たとえば、アクティビティモジュールのアクティビティにコストが直接入力され、それらのアクティビティからコストオブジェクトモジ

ジュールの製品に割り当てが作成され、コストが計算されるとします。この場合、リソースモジュールは必要ありません。

リソースモジュール

このモジュールには、リソースに関する情報が含まれます。リソースは、新製品の企画導入、製品の販売促進など、アクティビティによって消費されるコストです。リソースを把握し、管理するには、アクティビティと、アクティビティによるリソースの消費に注意する必要があります。

アクティビティモジュール

アクティビティモジュールについて

このモジュールには、アクティビティに関する情報が含まれます。

アクティビティの作成ガイドライン

アクティビティを作成する際、次のガイドラインの検討が必要です。

- アクティビティは、組織のコストの相当の割合を占める必要があります(合計コストの少なくとも 5%)。
- アクティビティは、同じ種類のプロセスから構成される必要があります。
- アクティビティには、製品コストの割り当てに使用するコストドライバが 1 つ必要です。
- アクティビティは、経営陣の検討対象のコストカテゴリである必要があります。
- アクティビティにはアクションが含まれる必要があります。アクティビティは根拠のない会計バケットではありません。
- 必要なアクティビティがすべて定義される必要があります。
- 組織のアクティビティを決定するために、組織のメンバの調査が必要です。
- アクティビティの作成は、経営陣が意思決定するためにそのアクティビティの詳細が必要な場合のみ行います。

アクティビティの編成方法

次のいずれか 1 つの方法を使用して、アクティビティモジュールを編成します。

- 部門に基づく階層

通常、この方法が最適です。

- プロセスに基づく

プロセスに基づきアクティビティを編成する場合、ロールアップアカウントのアイテムを処理する順序またはレポートする順序に基づき編成します。

コストをアクティビティにどのように割り当てるかを検討して、使用する方法を決定します。アクティビティコストをコストオブジェクトに割り当てる方法を決定します。ロールアップアカウント間でなく、アカウント間の割り当てを作成していることに注意してください。

ロールアップアカウントを使用すると、関連アクティビティのグループの合計コストを表示できます。たとえば、ロールアップアカウントを作成して、アクティビティを 1 つのプロセスにまとめたり、1 つの部門が実行するアクティビティをまとめたりできます。

コストオブジェクトモジュール

このモジュールには、製品とサービスに関する情報が含まれます。さらに、製品とサービスを顧客、チャネル、地域ごとに構成できます。

外部ユニットモジュール

このモジュールには、外部ユニットのコストエレメントに関する情報が含まれます。

利益分析モジュール

利益分析モジュールを直接操作することはできません。利益分析モジュールのディメンションを使用して、売上ドライバで行う割り当てを決めます。

注: 利益分析モジュールのディメンションは、コストオブジェクトモジュールのディメンションと同一にする必要があります。

アカウントとロールアップアカウント

アカウントとロールアップアカウントについて

アカウントは 2 つのディメンションのインターセクションであり、勘定表の科目に似ています。各アカウントにはコストエレメントが含まれます。

次の図では、アカウント 2nd Day Guaranteed が、ディメンションメンバ Beaverton x Drop Box x 2nd Day Guaranteed のインターセクションであることがわかります。これらのディメンションメンバは、それぞれ順に、ディメンション Region x Channel x Products and Services のメンバです。ディメンションメンバの順序がそのディメンション (Region、Channel、Products) の順序であるとき、アカウントの表示名 (2nd Day Guaranteed) がこれらのディメンションメンバのインターセクションの最後のメンバの名前になることがわかります。ディメンションの順序は、モデル作成時の定義順序です。

アカウントを削除しても、そのディメンションメンバは存在するため、作成するキューブに表示されます。ディメンションメンバをキューブから削除するには、ディメンションメンバを削除する必要があります。

注: アカウントを削除する際、そのアカウントが属するモデルを表示できますが、削除操作をしながら編集することはできません。

関連項目

[“アカウントの作成” \(160 ページ\)](#)

列

SAS Activity-Based Management では、グリッドのユーザー定義の列に各モジュールの情報が表示されます。グリッドに列を追加や削除し、列での情報の表示設定を指定できます。表示に納得したら、表示設定を保存(列のレイアウトを保存)します。後で、保存した列のレイアウトを表示できます。列は、列のレイアウトを保存したときと同じように表示されます。

注: 列のレイアウトの左端の列は必須の表示名列のため、列の削除、変更、並べ替えはできません。

関連項目:

[“列のレイアウト” \(229 ページ\)](#)

モジュールロールアップ

各モジュールには、モジュールロールアップが含まれます。モジュールロールアップは、モジュールの最上位レベルです。モジュールロールアップは、モジュールのすべてのアカウントとロールアップアカウントを表します。

参照

各モジュール内の参照は、アカウント、ディメンション、コストエレメントなど、アイテムの固有 ID です。

参照は、勘定表や総勘定元帳の勘定科目番号または勘定科目コードのようなものです。勘定科目番号により、科目は一意に識別されます。通常、リソースモジュールのアカウントとコストエレメントの参照は、組織の勘定表の勘定科目番号に対応します。

関連項目:

[“参照規則” \(86 ページ\)](#)

リソースモジュール、アクティビティモジュールおよびコストオブジェクトモジュール

リソースモジュール、アクティビティモジュールおよびコストオブジェクトモジュールについて

権限によっては、機能を使用できません。

リソースモジュール、アクティビティモジュールおよびコストオブジェクトモジュールでは、モデルのコスト関係を調査できます。

モデル	Parcel Express Tutorial	期間/シナリオ	2008 Q1/Actual	列のレイアウト	既定
Parcel Express Tutorial : アクティビティモジュール					
	Display Name	Display Reference	Cost		
[-] アクティビティ (プライマリペイン)					
[-] USA					
[-] Oregon					
[-] Beaverton					
[-] Personnel Intensive Activities					
[-] Local Collection					
[-] Local Processing					
[-] Regional Distribution					
[-] Eugene					
[-] Personnel Intensive Activities					
[-] Local Collection					
[-] Local Processing					

各モジュール(リソース、アクティビティ、コストオブジェクト)は、同じ方法で操作します。このため、このトピックでは、3つのモジュールが列挙されています。

関連項目:

“リソースモジュールビュー、アクティビティモジュールビュー、コストオブジェクトモジュールビュー、外部ユニットモジュールビュー” (34 ページ)

リソースモジュール、アクティビティモジュールおよびコストオブジェクトモジュールの表示

モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **<モジュール名>** を選択します。たとえば、**モデル** ⇨ **コストオブジェクトモジュール** を選択します。

アカウントの作成

1. 使用するディメンションメンバが存在しない場合、ディメンションメンバを作成します。
2. ロールアップアカウントまたはアカウントを選択します。
3. **編集** ⇨ **新しいアカウント** を選択します。
新しいアカウントウィザードが表示されます。
4. ウィザードの手順に従います。

ヒント ディメンションメンバを簡単に検索するには、**新しいアカウントウィザード**で検索をクリックします。ディメンションメンバ検索ダイアログボックスが表示されます。

入力コストエレメントの作成

1. アカウント(ロールアップアカウントを除く)を選択します。
2. **編集** ⇨ **新しい入力コストエレメント** を選択します。

入力コストエレメント作成のユーザーオプションに基づき、**新しい入力コストエレメント**ダイアログボックスまたは新しいコストエレメントのいずれかが表示されます。

アイテムの削除

1. アイテムを選択します。
2. **編集** ⇒ **削除**を選択します。

割り当ての作成

1. 表示する割り当てペインを決定します。
2. **モデル** ⇒ **割り当て** ⇒ **左ペインにアカウントを追加**(または**右ペインにアカウントを追加**)を選択します。
割り当て用にアカウントを追加するダイアログボックスが表示されます。
3. **割り当て先アカウント**を選択します。
4. 右割り当てペインのアカウントへのコストを割り当てるには、アカウントの左側にある矢印をクリックします。左割り当てペインのアカウントからのコストを割り当てるには、アカウントの右側にある矢印をクリックします。

2つのアカウントの結び付けには矢印が使用されています。

ヒント 多くのアカウントへの割り当てを簡単に作成するには、**モデル** ⇒ **割り当て** ⇒ **左のすべてを割り当てる**、**右のすべてを割り当てる**、**左右のすべてを割り当てる**のいずれかを選択します。

5. 左割り当てペインまたは右割り当てペインのアカウントを非表示にするには、**モデル** ⇒ **割り当て** ⇒ **左をクリア**(または**右をクリア**)を選択します。

アカウントは非表示になるだけであり、割り当てから削除されるわけではありません。

アカウントを表示するには、左割り当てペインまたは右割り当てペインのアカウントをクリックして、**モデル** ⇒ **割り当て** ⇒ **左を表示**(または**右を表示**)を選択します。

割り当ての削除

1. 表示する割り当てペインを決定します。
2. 割り当てを削除するには、割り当て元アカウントの右側にある矢印または割り当て先アカウントの左側にある矢印をクリックします。
2つのアカウントの結び付けには矢印が使用されています。

ヒント 多くのアカウントから割り当てを簡単に削除するには、**モデル** ⇒ **割り当て** ⇒ **割り当ての左をすべて削除**、**割り当ての右をすべて削除**、**割り当ての左右をすべて削除**のいずれかを選択します。

割り当てペインの表示

表示する割り当てペインを次から選択します。

関連項目:

[“割り当てペイン” \(264 ページ\)](#)

アカウントの割り当て元アカウントのみ表示

1. **モデル ⇨ 割り当て ⇨ 左割り当てペインを表示**を選択します。
ビューが分割され、空の左割り当てペインが表示されます。選択したモジュールは、右のプライマリペインに表示されます。
2. モジュール階層を展開して、アカウントを選択します。
3. **モデル ⇨ 割り当て ⇨ 左を表示**を選択します。
矢印から、表示されたアカウントが選択したアカウントの割り当て元アカウントであることがわかります。

アカウントの割り当て先アカウントのみ表示

1. **モデル ⇨ 割り当て ⇨ 右割り当てペインを表示**を選択します。
ビューが分割され、空の右割り当てペインが表示されます。選択したモジュールは、左のプライマリペインに表示されます。
2. モジュール階層を展開して、アカウントを選択します。
3. **モデル ⇨ 割り当て ⇨ 右を表示**を選択します。
矢印から、表示されたアカウントが選択したアカウントの割り当て先アカウントであることがわかります。

アカウントの割り当て元アカウントと割り当て先アカウントの表示

1. **モデル ⇨ 割り当て ⇨ 左右割り当てペインを表示**を選択します。
ビューが分割され、左と右に空の割り当てペインが表示されます。選択したモジュールは、中央のプライマリペインに表示されます。
2. モジュール階層を展開して、アカウントを選択します。
3. **モデル ⇨ 割り当て ⇨ 左右を表示**を選択します。
矢印から、アカウントが選択したアカウントの割り当て元アカウントであるのか、選択したアカウントの割り当て先アカウントであるのかがわかります。

アカウントへ移動

1. アカウントを選択します。
2. **編集 ⇨ アカウントへ移動**を選択します。

アカウント属性の管理

1. アカウントを選択します。
2. **編集 ⇨ 属性の管理**を選択します。
属性の管理ダイアログボックスが表示されます。

列のレイアウトの編集

1. **モデル** ⇒ **列のレイアウト** ⇒ **列の編集**を選択します。
列のレイアウトダイアログボックスが表示されます。
ヒント 列のヘッダーをダブルクリックして表示することもできます。
2. 列のレイアウトを保存するには、**モデル** ⇒ **列のレイアウト** ⇒ **名前を付けて保存**を選択します。
列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

アイテムのプロパティの確認、変更

1. アイテムを選択します。
2. **編集** ⇒ **アイテムのプロパティ**を選択します。
アイテムのプロパティダイアログボックスが表示されます。

外部ユニットモジュールビュー

外部ユニットモジュールビューについて

モデル	Parcel Express Tutorial	期間/シナリオ	2008 Q1/Actual	列のL						
Parcel Express Tutorial : 外部ユニットモジュール										ヘルプ ?
	Display Name	Display Reference	UnitCost	Cost						
▶	外部ユニット			\$208,393.20						
▶	Envelopes	ENV		\$1,560.60						
▶	Flats	FTS		\$30,707.60						
▶	Boxes	Boxes		\$176,125.00						

権限によっては、機能を使用できません。

外部ユニットモジュールビューでは、現在の期間/シナリオ関連付けに対するモデルのユニットを管理できます。

期間、シナリオ、プロパティの列を追加できます。たとえば、過去 2 か月間のユニット当たりの外部ユニットコストを表示できます。

注: 外部ユニットモジュールビューの情報は、直接編集できません。

外部ユニットモジュールビューの表示

モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇒ **外部ユニットモジュール**を選択します。

外部ユニットの作成

1. アイテムを選択します。
2. **編集** ⇨ **新しいアカウント**を作成します。
新しいアカウントウィザードが表示されます。
3. ウィザードの手順に従います。

外部ユニットに追加された属性の管理

1. アカウントを選択します。
2. **編集** ⇨ **属性の管理**を選択します。
属性の管理ダイアログボックスが表示されます。

列のレイアウトの編集

1. **モデル** ⇨ **列のレイアウト** ⇨ **列の編集**を選択します。
列のレイアウトダイアログボックスが表示されます。
ヒント 列のヘッダーをダブルクリックして表示することもできます。
2. 列のレイアウトを保存するには、**モデル** ⇨ **列のレイアウト** ⇨ **名前を付けて保存**を選択します。
列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

アイテムのプロパティの確認、変更

1. アイテムを選択します。
2. **編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。
アイテムのプロパティダイアログボックスが表示されます。

アイテムの削除

1. アイテムを選択します。
2. **編集** ⇨ **削除**を選択します。

アカウントの作成

最小情報の提供

このタスクでは、アカウントの作成に必要な最小限の情報について説明します。

1. 使用するディメンションメンバが存在しない場合、ディメンションメンバを作成します。
2. モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **<モジュール名>** を選択します。たとえば、**モデル** ⇨ **リソースモジュール** を選択します。
3. ロールアップアカウントまたはアカウントを選択します。
4. **編集** ⇨ **新しいアカウント** を選択します。

新しいアカウントウィザードが表示されます。

5. **ディメンション**リストから、ディメンションを少なくとも 2 つ選択します。
6. **以下を利用してアカウントを作成**ドロップダウンリストから、値を選択します。

各値から次のような影響を受けます。

リーフディメンションメンバのみを選択すると、次に示すように、各ディメンションの最下位のディメンションメンバを含むインターセクションのアカウントのみ作成されます。

以下を利用してアカウントを作成(O):

リーフディメンションメンバのみ

ディメンション(D):

- Region
 - USA
 - ☒ Oregon
 - ☒ Beaverton
 - ☒ Eugene
 - ☐ No <Region>
 - General Ledger
 - ☐ Wages
 - ☐ Operating Expenses
 - ☐ Equipment Expenses
 - ☒ No <General Ledger>

追加(A) >

< 削除(R)

アカウント(O):

Beaverton x No <General Ledger>
Eugene x No <General Ledger>

すべてのインターセクションを選択すると、次に示すように、各ディメンションのすべてのディメンションメンバを含むインターセクションのアカウントが作成されます。

以下を利用してアカウントを作成(O):

すべてのインターセクション

ディメンション(D):

- Region
 - USA
 - ☒ Oregon
 - ☒ Beaverton
 - ☒ Eugene
 - ☐ No <Region>
 - General Ledger
 - ☐ Wages
 - ☐ Operating Expenses
 - ☐ Equipment Expenses
 - ☒ No <General Ledger>

追加(A) >

< 削除(R)

アカウント(O):

Oregon x No <General Ledger>
Beaverton x No <General Ledger>
Eugene x No <General Ledger>

親ディメンションメンバのみを選択すると、次に示すように、最上位のディメンションメンバを含むインターセクションのアカウントのみ作成されます。

以下を利用してアカウントを作成(O):

親ディメンションメンバのみ

ディメンション(D):

- Region
 - USA
 - ☒ Oregon
 - ☒ Beaverton
 - ☒ Eugene
 - ☐ No <Region>
 - General Ledger
 - ☐ Wages
 - ☐ Operating Expenses
 - ☐ Equipment Expenses
 - ☒ No <General Ledger>

追加(A) >

< 削除(R)

アカウント(O):

Oregon x No <General Ledger>

注: アカウントリストに表示される名前が、モジュールの表示名列に表示されます。表示名はアイテムを一意に識別するもので、SAS Activity-Based Management で作成されます。表示名は変更できません。ただし、アカウント名

は変更できます。ウィザードの次のステップで、アカウント名を変更する機会があります。

この時点では、デフォルト情報を使用して、アカウントの作成に必要な最小限の情報が指定されています。

7. アカウント名の変更、アカウント参照の変更、コスト要素の作成のいずれも行わない場合は、**完了**をクリックします。

オプション情報の提供

8. **次へ**をクリックします(ステップ 7 で**完了**をクリックしなかったと仮定します)。

新しいアカウント - コスト要素 ステップ 2/3

コスト要素の定義

各アカウントに関連付けコストを追加してください。アカウントごとにコスト要素(複数可)を追加できます。

💡 アカウント名とアカウント参照を空白にはできません。システムにより、アカウント名とアカウント参照は自動的に作成されますが、変更することができます。それらの名前はレポートや計算処理などの要約に表示されます。

名前	参照	コスト
Oregon x No <General Ledger>	Oregon_3015	
Beaverton x No <General Ledger>	Beaverton_3016	
Eugene x No <General Ledger>	Eugene_3017	

コスト要素の追加(A) コスト要素の削除(D)

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル ヘルプ

9. アカウントの名前を変更するには、**名前列**をクリックして、新しい名前を入力します。名前は、命名規則に従って指定する必要があります。See “[命名規則](#)” (81 ページ)を参照してください。
10. アカウントの参照を変更するには、**参照列**をクリックして、新しい参照を入力します。

参照は、参照規則に従って指定する必要があります。“[参照規則](#)” (86 ページ)を参照してください。

注: 新しいアカウントウィザードでは、この時点でコスト要素を作成できます。
11. **完了**をクリックします。

関連項目:

“[アカウントとロールアップアカウント](#)” (152 ページ)

アカウントの並べ替え

概要

アカウントの表示順を変更するには、ディメンションビューでディメンションメンバを並べ替えます。並べ替えた順序は、モデルのエクスポートやインポート時に保持されます。

マウス、キーボードまたはステージングテーブルを使用して、アカウントを並べ替えられます。

マウスの使用

1. ディメンションビューに移動して、並べ替えるディメンションメンバを選択します。

ディメンションビューを開きます

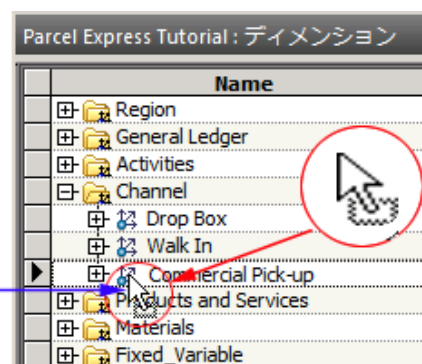
移動するアイテムを選択します



2. ディメンションメンバの上にカーソルを合わせて次の形にします。

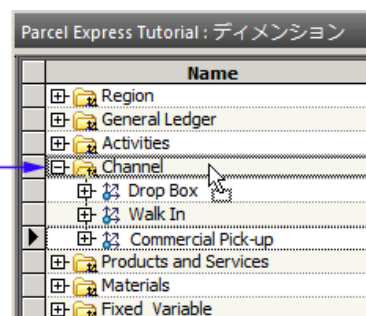


カーソルの形が変わるまでアイテムの上にカーソルを合わせます



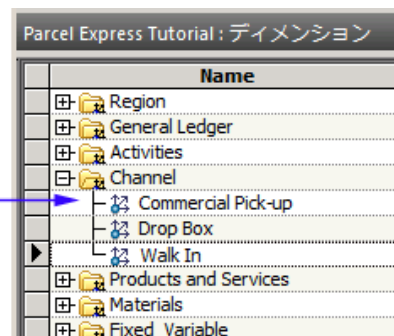
3. 選択したアイテムの移動先の上にあるディメンションメンバにカーソルをドラッグします。

アイテムの移動先の1つ上のアイテムに
カーソルをドラッグします



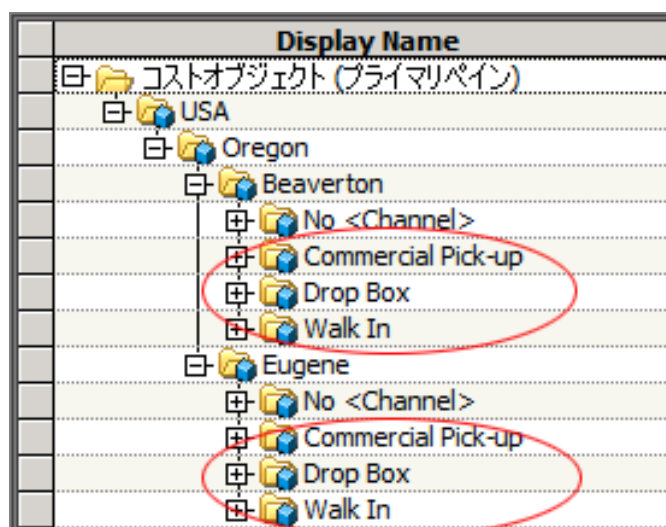
4. アイテムをドロップすると、ディメンションメンバが並べ替えられます。

アイテムをドロップすると
アイテムが並べ替えられます



注: ディメンションメンバを親フォルダの外にドラッグすると、ディメンションメンバの親を変更するものとみなされます。親の変更については、ディメンションメンバの親の変更を参照してください。

割り当てペインを開くと、アカウントが並べ替えられていることを確認できます。



変更された並べ替え順序は、次のようにキューブに反映されます。

2nd Day Guaranteed	All
	None
	Commercial Pick-up
	Drop Box
	Walk In

キーボードの使用

キーボードを使用してアカウントを並べ替えるには、次の操作を行います。

1. **ディメンションビュー**に移動します。
2. 上向きまたは下向き矢印キーを使用して、並べ替えるディメンションメンバに移動します。
3. **Ctrl + D** を押して、ディメンションメンバを選択します。
4. 上向きまたは下向き矢印キーを使用して、移動先の上にあるディメンションメンバに移動します。
5. **Ctrl + R** を押して、アイテムをドロップします。
アイテムが新しい場所に移動します。

関連項目:

[“ディメンションメンバの親の変更” \(136 ページ\)](#)


ステージングテーブルの使用

ステージングテーブルを使用してディメンションメンバの表示順序を指定するには、DimensionMember テーブルの DisplayOrder フィールドを使用します。

ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の“Importing and Exporting Using Staging Tables”の章を参照してください。

アカウントの検索

アカウントを検索するには、モデルモードでモデルを開いて、次のどちらかの操作を行います。

- **編集** ⇒ **アカウント検索**を選択します。
- アカウント検索アイコンをクリックします: 

注: ネットワークユーザーが(SAS Activity-Based Management クライアントマシンとは)異なるドメインからクライアントマシンにログインしてアカウントを検索する場合、作業を続行するにはそのユーザーに[ClientInstallpath]\bin フォルダへの書き込み権限を付与する必要があります。

関連項目:

- [“アカウント検索ダイアログボックス” \(171 ページ\)](#)
- [“アカウント検索結果ダイアログボックス” \(172 ページ\)](#)
- [“アカウント検索クエリの保存” \(165 ページ\)](#)

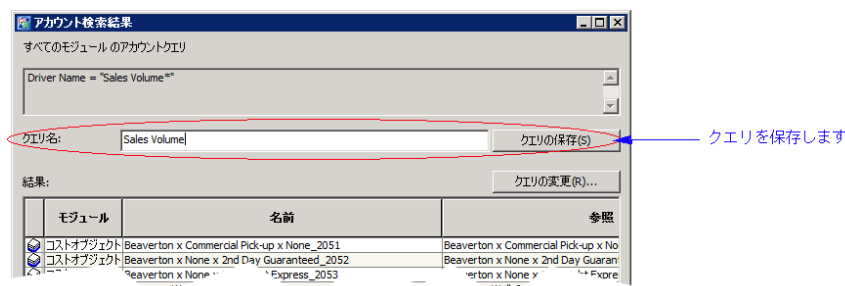
アカウント検索クエリの保存

アカウントを検索するためのクエリは長く、複雑で、その作成は単調な作業です。クエリの保存、取得して使用、エクスポート、インポートができるようになりました。

クエリの保存

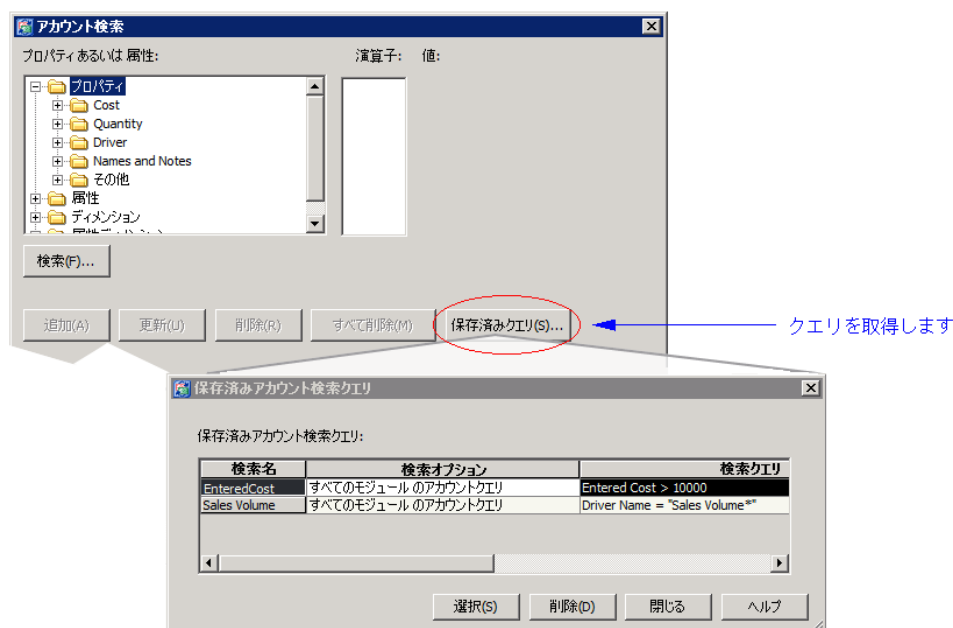
必要な結果がクエリによって返されたら、アカウント検索結果ダイアログボックスの**クエリの保存**をクリックして、クエリを保存します。

保存されたクエリは、特定のモデルや特定のユーザーではなく、保存されたマシンに関連付けられます。そのマシンを使用する SAS Activity-Based Management ユーザーは、そのマシンに保存されているすべてのクエリを表示できます。別のマシンのクエリを使用するために、クエリをエクスポートして他のマシンにインポートできます。



クエリの取得

クエリを取得して使用するには、アカウント検索ダイアログボックスの**保存済みクエリ**をクリックします。マシンに保存されているすべてのクエリが表示され、選択して再利用できます。

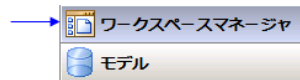


アカウント検索クエリのエクスポート

別のマシンのクエリを使用するために、クエリをエクスポートして他のマシンにインポートできます。エクスポート時、マシンに保存されているすべてのクエリが、保存したユーザーに関係なくエクスポートされます。エクスポートされたクエリは、どのユーザーでもインポートできます。

クエリをエクスポートするには、次の操作を行います。

1. ワークスペースマネージャに移動します。



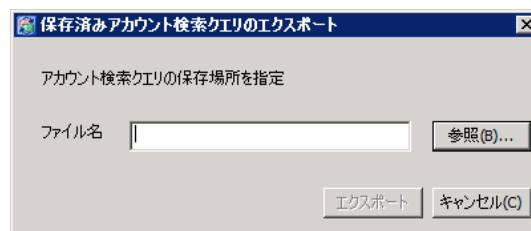
2. **ファイル** ⇒ **エクスポート** ⇒ **アカウントクエリ**を選択します。

保存済みアカウント検索クエリのエクスポートダイアログボックスが開きます。

3. クエリの保存先となるレジストリファイル名を指定して、**エクスポート**をクリックします。

注:

- ファイル拡張子は自動的に追加されるため、指定する必要はありません。デフォルトの拡張子は.reg です。
- ファイル名の前にパスを入力しない場合、ファイルは<installation directory>\SASActivityBasedManagementClient\7.2\bin に保存されます。
- 参照ボタンをクリックして、エクスポートファイルを保存するディレクトリを参照できます。ファイル拡張子は自動的に追加されるため、指定する必要はありません。デフォルトの拡張子は.reg です。

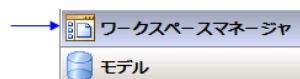


アカウント検索クエリのインポート

クエリをマシンにインポートすると、そのマシンを使用する SAS Activity-Based Management ユーザーはインポートされたクエリをすべて表示できます。すでに保存されているクエリをインポートする場合、インポートされたクエリがそのマシンに前回保存されたクエリと置き換えられます。

クエリをインポートするには、次の操作を行います。

1. ワークスペースマネージャに移動します。

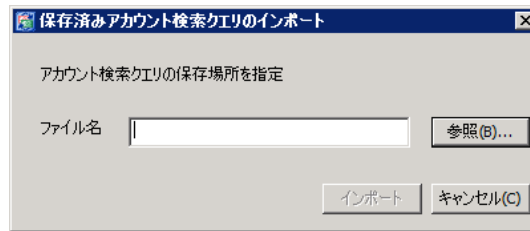


2. **ファイル** ⇒ **インポート** ⇒ **アカウントクエリ**を選択します。

保存済みアカウント検索クエリのインポートダイアログボックスが開きます。

3. インポートするファイル名を指定するか、参照して、**インポート**をクリックします。

注: すでに保存されているクエリをインポートする場合、インポートされたクエリがそのマシンに前回保存されたクエリと置き換えられます。



関連項目:

- “アカウント検索ダイアログボックス” (171 ページ)
- “アカウント検索結果ダイアログボックス” (172 ページ)

アカウントへ移動

左割り当てペインまたは右割り当てペインに表示されているアカウントに迅速に移動できます。

1. 左割り当てペインまたは右割り当てペインでアカウントを選択します。
2. **編集** ⇒ **アカウントへ移動**を選択します。

選択したアカウントは、プライマリペインに表示されます。選択したアカウントの割り当て元アカウントと割り当て先アカウントを表示できます。

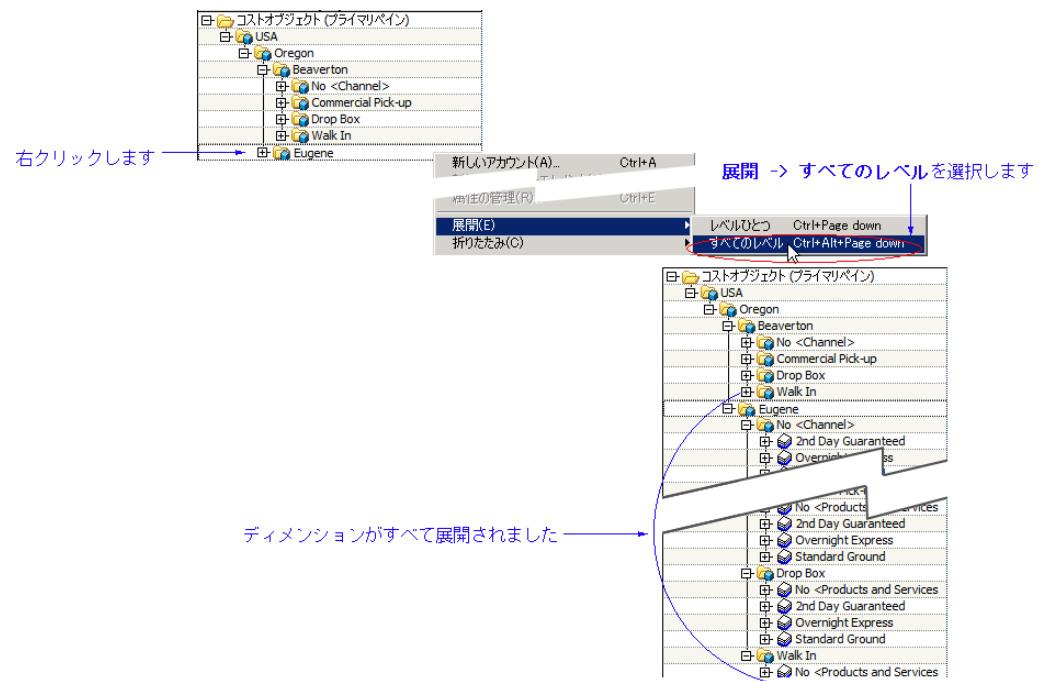
関連項目:

“割り当てペイン” (264 ページ)

すべてのレベルの展開

すべてのディメンションレベルを展開して、すべてのレベルのアカウントを参照するには、次のどちらかの操作を実行します。

- モジュール名(リソース、アクティビティ、コストオブジェクト、外部オブジェクト)、ディメンションまたはディメンションメンバを選択します。次に、メニューバーから**表示** ⇒ **展開** ⇒ **すべてのレベル**を選択します。
- モジュール、ディメンションまたはディメンションメンバを右クリックして、ポップアップメニューから**展開** ⇒ **すべてのレベル**を選択します。



すべて折りたたみ

すべてのディメンションレベルを折りたたんで、すべてのアカウントを非表示にするには、次のどちらかの操作を実行します。

- 全部または一部展開されているモジュール名、ディメンションまたはディメンションメンバを選択して、メニューバーから**表示 ⇨ 折りたたみ ⇨ すべてのレベル**を選択します。
- モジュール、ディメンションまたはディメンションメンバを右クリックして、ポップアップメニューから**折りたたみ ⇨ すべてのレベル**を選択します。

注:

- ビューでは、すべて展開は一度に1処理のみ可能です。すべて展開を実行中の場合、最初の処理が完了しなければ、別の対象をすべて展開する処理はできません。
- すべて展開機能の使用中にモデルを変更すると、展開はキャンセルされます。
- **展開 ⇨ すべてのレベル**を選択した際に、行数が**取得する最大の行数**ユーザーオプションの指定を超えた場合は、メッセージボックスが表示され、操作をキャンセルできます。

ユーザーオプション

データ | 表示 | 詳細 | Easy API 設定

表示される小数点以下の桁数

小数点以下の桁数 (0 - 9) の指定:

コストの値(C): 桁の小数

数値(N): 桁の小数

為替レート(R): 桁の小数

サーバーから取得するデータ量

サーバーからアカウントとコストエレメントを取得する際に

取得する最大の行数(M):

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

すべて展開

展開するアカウント数: 55

選択行の各レベルのアカウントをすべて展開します。
1000 アカウントを展開するのに、およそ 30 秒かかります。

展開(E) 検索(S)... キャンセル(C)

16 章

アカウントウィンドウ


アカウント検索ダイアログボックス	171
アカウント検索ダイアログボックスについて	171
アカウント検索ダイアログボックスの表示	171
アカウント検索クエリの作成	171
アカウント検索クエリの更新	172
アカウント検索結果ダイアログボックス	172
アカウント検索結果ダイアログボックスについて	172
アカウント検索結果ダイアログボックスの表示	172
検索結果の並べ替え	172
クエリ条件の変更	172
アカウントの操作の実行	173

アカウント検索ダイアログボックス

アカウント検索ダイアログボックスについて

アカウント検索ダイアログボックスでは、作成または更新するアカウント検索クエリの条件を指定できます。このダイアログボックスは、モデルを作成する際に使用します。

アカウント検索ダイアログボックスの表示

モデルモードでモデルを開いて、**編集** ⇨ **アカウント検索**を選択するか、アカウント検索アイコン  をクリックします。

アカウント検索クエリの作成

1. プロパティまたは属性を選択します。
2. 演算子を選択し、値(数値、ブール値、テキスト、列挙値、セット)を指定して、クエリに条件を追加します。
3. **追加**をクリックして、クエリに行を追加します。組み合わせた検索条件が**クエリボックス**に表示されます。
4. 必要に応じてステップ 1-ステップ 3 を繰り返し、クエリを作成します。

5. 検索結果にフィルタを適用するには、検索フィールドと検索先フィールドのオプションを選択します。*****をワイルドカードとして使用チェックボックスの選択や、50 単位での結果の表示数の制限ができます。
6. **検索**をクリックします。**アカウント検索結果**ダイアログボックスが表示されます。
アカウントを検索する既存のクエリを更新できます。

アカウント検索クエリの更新

1. 必要に応じて、条件を変更する**クエリ**ボックスの行を選択します。
2. **更新**をクリックすると、**クエリ**ボックスに更新された検索条件が表示されます。
3. クエリを 1 行削除するには、削除する行を**クエリ**ボックスで選択して**削除**をクリックします。クエリのすべての行を削除するには、**すべて削除**をクリックします。

ヒント 最後に使用したクエリを簡単に呼び出すには、**最後に**をクリックします。

関連項目:

- [“アカウント検索結果ダイアログボックス” \(172 ページ\)](#)
- [“アカウント検索クエリの保存” \(165 ページ\)](#)
- [“プロパティ/属性の検索ダイアログボックス” \(222 ページ\)](#)

アカウント検索結果ダイアログボックス

アカウント検索結果ダイアログボックスについて

アカウント検索結果ダイアログボックスでは、アカウント検索ダイアログボックスで作成したクエリの結果を確認できます。最終検索条件が、編集不可能なクエリボックスに表示されます。

アカウント検索結果ダイアログボックスの表示

アカウント検索ダイアログボックスで、**検索**をクリックします。

検索結果の並べ替え

列を基準に結果を並べ替えるには、列ヘッダーをクリックします。

クエリ条件の変更

検索条件を変更するには、**クエリの変更**をクリックします。**アカウント検索**ダイアログボックスが開きます。

アカウントの操作の実行

概要

次の操作を行うには、検索結果のリストからアカウントを 1 つ以上選択して操作をクリックします。

- “アカウントへ移動” (173 ページ)
- “アカウントの追加” (173 ページ)
- “アカウントの削除” (173 ページ)
- “属性と値の追加” (173 ページ)
- “属性の削除” (174 ページ)
- “アカウントを Profitability Management ビヘイビアとしてマーク” (175 ページ)
- “アカウントの Profitability Management ビヘイビアマークを解除” (175 ページ)
- “割り当ての削除” (175 ページ)

アカウントへ移動

1. 結果のリストからアカウントを選択します。
2. 選択したアカウントに移動するには、操作 ⇒ アカウントへ移動をクリックします。

アカウントの追加

1. 結果のリストからアカウントを選択します。
2. 次のいずれかをクリックします。

操作 ⇒ 左ペインにアカウントを追加

操作 ⇒ 右ペインにアカウントを追加

注: 該当するペインを開いていない場合、操作メニューではこれらの操作は無効化されています。

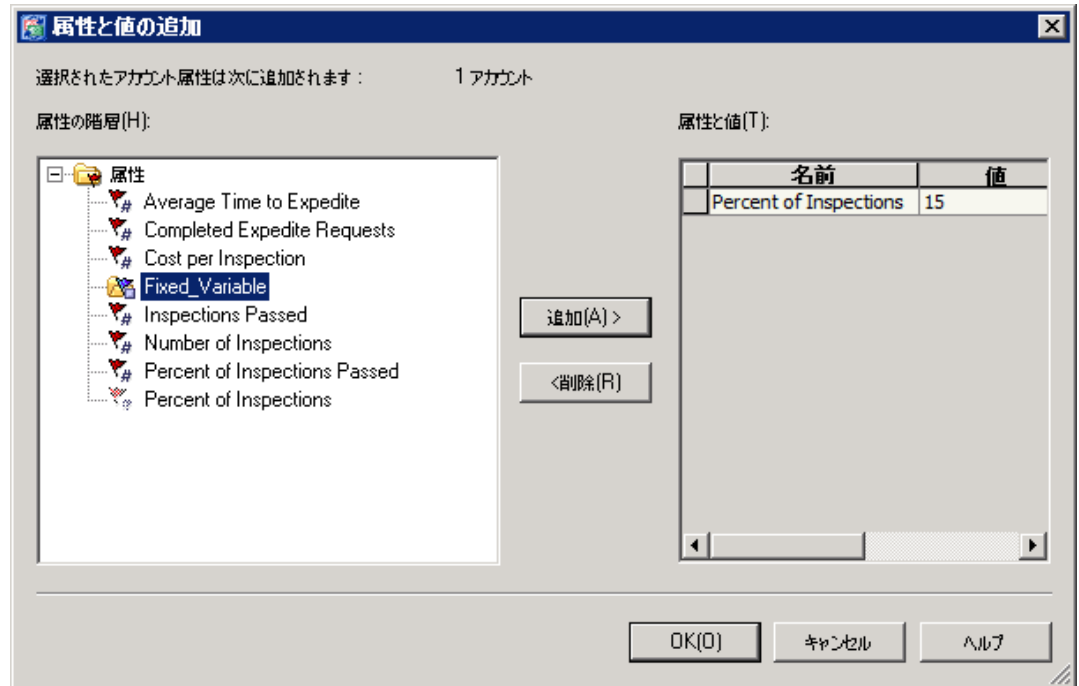
アカウントの削除

1. 結果のリストからアカウントを選択します。
2. 選択したアカウントを削除するには、操作 ⇒ アカウントの削除をクリックします。削除が実行される前に、削除の確認メッセージが表示されます。

注: アカウントを削除する際、そのアカウントが属するモデルを表示できますが、削除操作をしながら編集することはできません。

属性と値の追加

1. 結果のリストからアカウントを選択します。
2. 操作 ⇒ 属性と値の追加をクリックします。属性と値の追加ダイアログボックスが開きます。



3. 選択したアカウントに追加する属性を選択して、追加をクリックします。

4. 属性の値を変更する場合は、値列に新しい値を入力します。

注: アカウントにその属性がすでに存在している場合でも、値列には属性の現在の値ではなくデフォルト値が表示されます。既存する属性は、新しい値を指定しなければデフォルト値にリセットされます。

注: ブール値属性や計算属性は変更できません。計算属性は式を保持します。計算属性の式を変更するには、属性ビューを表示して、属性ビューで式を変更する必要があります。

5. OK をクリックします。属性がその値とともに、選択したアカウントに追加されます。

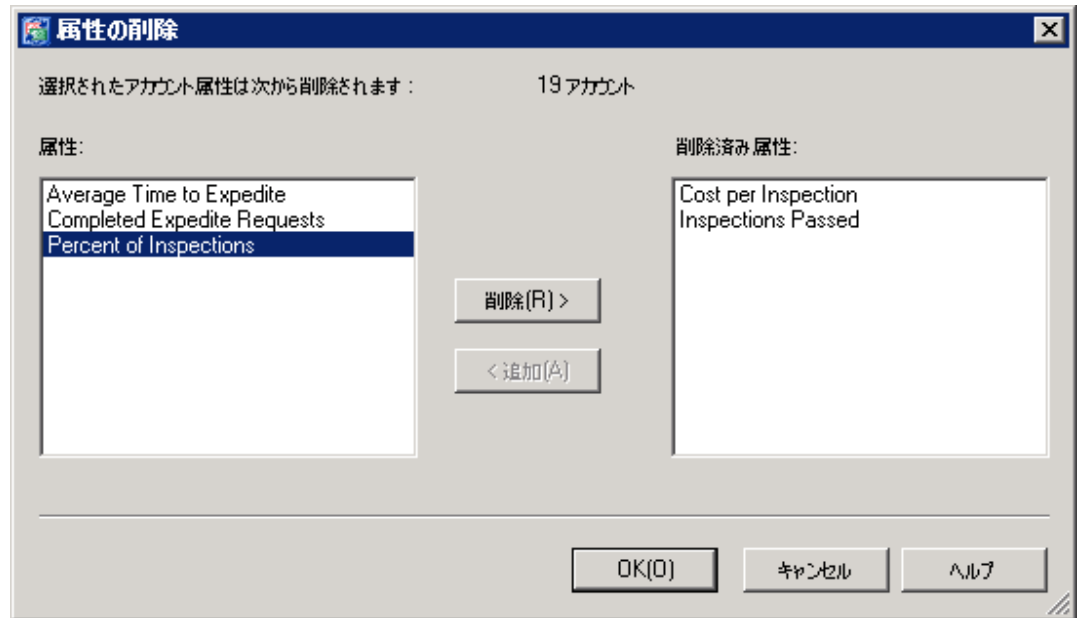
注: マルチステージ貢献キューブを作成するためにステージ属性を複数のアカウントに追加する際、この方法でアカウントに属性を追加すると効率的に行えます。

属性の削除

1. 結果のリストからアカウントを選択します。

2. 操作 ⇒ 属性の削除をクリックします。

属性の削除ダイアログボックスが開き、選択したすべてのアカウントの属性がすべて表示されます。



3. 選択したアカウントから削除する属性を選択して、**削除**をクリックします。
複数のアカウントを選択した場合、削除する属性が選択した複数のアカウントに含まれていると、それらすべてのアカウントから属性が削除されます。
4. **OK** をクリックします。選択したアカウントから属性が削除されます。

アカウントを *Profitability Management* ビヘイビアとしてマーク

1. 結果のリストからアカウントを選択します。
2. **操作** ⇨ **アカウントをビヘイビアとしてマーク**をクリックします。操作が正常に行われたかどうかを示すメッセージが表示されます。
注: ロールアップアカウントと外部ユニットアカウントは、ビヘイビアとしてマークできません。

アカウントをビヘイビアとしてマークすると、SAS Profitability Management にパブリッシュできます。

アカウントの *Profitability Management* ビヘイビーマークを解除

1. 結果のリストからアカウントを選択します。
2. **操作** ⇨ **アカウントのビヘイビーマークを解除**をクリックします。操作が正常に行われたかどうかを示すメッセージが表示されます。

割り当ての削除

1. 結果のリストからアカウントを選択します。
2. 次のいずれかをクリックします。
操作 ⇨ **内向きの割り当てを削除**をクリックすると、選択したアカウントへの内向きの割り当てが削除されます。
操作 ⇨ **外向きの割り当てを削除**をクリックすると、選択したアカウントからの外向きの割り当てが削除されます。
操作 ⇨ **内向きと外向きの割り当てを削除**をクリックすると、両方の種類の割り当てが削除されます。

注: ロールアップアカウントには、これらのオプションは使用できません。外部コストアカウントの場合、内向きの割り当てが存在しないため、内向きの割り当ての削除は使用できません。削除が実行される前に、削除の確認メッセージが表示されます。

関連項目:

- [“アカウント検索ダイアログボックス” \(171 ページ\)](#)
- [“アカウント検索クエリの保存” \(165 ページ\)](#)
- [“プロパティ/属性の検索ダイアログボックス” \(222 ページ\)](#)

6 部

コストエレメント

17 章

コストエレメントの操作..... 179

17 章

コストエレメントの操作

コストエレメント	179
概要	179
入力コストエレメント	179
割り当てられたコストエレメント	180
内部ユニットコストエレメント	180
外部ユニットコストエレメント	180
アカウント作成時のコストエレメントの作成	180
モジュールページでの入力コストエレメントの作成	181
新しい入力コストエレメントダイアログボックス	181
新しい入力コストエレメントダイアログボックスについて	182
新しい入力コストエレメントダイアログボックスの表示	182
コストエレメントの追加	182
コストエレメントの削除	182

コストエレメント

概要

アカウントのコストは、アカウントのコストエレメントの合計です。コストエレメントには、次の 4 種類があります。

- 入力コストエレメント
- 割り当てられたコストエレメント
- 内部ユニットコストエレメント
- 外部ユニットコストエレメント

入力コストエレメント



入力コストエレメントは、ユーザーが指定したコストです。対話形式で指定するか、コストをインポートします。入力コストエレメントの指定を制御するオプションを設定できます。

割り当てられたコストエレメント



割り当てられたコストエレメントは、アカウント間で受け渡しされるコストです。

内部ユニットコストエレメント



内部ユニットコストエレメントは、コストがすでにモデルに示されているユニットです(組織内で生産される部品など)。このコストは、1つのアカウントから別のアカウントのビルオブコストに渡されます。

外部ユニットコストエレメント



外部ユニットコストエレメントは、SAS Activity-Based Management モデル内での評価が必要なコストが SAS Activity-Based Management モデル外で管理されているユニットです(仕入先から購入する部品など)。

SAS Activity-Based Management では、外部ユニットコストエレメントはアカウントと同じように処理されます。外部ユニットコストエレメントのコストはアカウントに渡され、渡されたコストは外部ユニットコストエレメントとして示されます。外部ユニットコストエレメントは、常にコストを貢献しますが、コストを受け取りません。

関連項目:

[“コストの種類” \(600 ページ\)](#)

アカウント作成時のコストエレメントの作成

1. 新しいアカウントウィザードの 2 ページ目で、**コストエレメントの追加**をクリックします。

デフォルト情報の設定された新しい入力コストエレメントが表示されます。

名前	参照	コスト
Northeast x Salaries_1021	Northeast x Salaries_1021	
Salaries_1021-1	Salaries_1021_1021-1	

2. コストエレメントの名前を変更するには、**名前**列をクリックして、新しい名前を入力します。

名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“[命名規則](#)” (81 ページ)を参照してください。

3. コストエレメントの参照を変更するには、**参照**列をクリックして、新しい参照を入力します。

参照は、参照規則に従って指定する必要があります。“[参照規則](#)” (86 ページ)を参照してください。

4. コストエレメントのコストを入力するには、**コスト**列をクリックして、コストを入力します。

モジュールページでの入力コスト要素の作成

1. モジュールで、アカウント(ロールアップアカウントを除く)を選択します。
2. **編集** ⇒ **新しい入力コスト要素**を選択します。
新しい入力コスト要素ダイアログボックスが表示されます。

新しい入力コスト要素

アカウント: Beaverton x Wages_1037

入力コスト要素:

名前	参照	コスト

コスト要素の追加[A] コスト要素の削除[D]

☒ コスト要素の入力時にこのダイアログを表示する[S]

このオプションをオフにすると新しい入力コスト要素は一意の名前と参照で作成されます。またその際にこのダイアログボックスは表示されません。

OK(O) キャンセル ヘルプ

3. **コスト要素の追加**をクリックします。
新しい行が、**入力コスト要素リスト**に追加されます。この新しい行は、デフォルトの情報が挿入されています。
4. **名前列**をクリックして、名前を入力します。
名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“[命名規則](#)” (81 ページ)を参照してください。
5. **参照列**をクリックして、参照を入力します。
デフォルトの参照は、コスト要素名から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。“[参照規則](#)” (86 ページ)を参照してください。
6. **コスト列**をクリックして、コストを入力します。
7. コスト要素を削除するには、次の操作を行います。
 - a. **入力コスト要素リスト**から、要素を選択します。
 - b. **コスト要素の削除**をクリックします。

新しい入力コストエレメントダイアログボックス

新しい入力コストエレメントダイアログボックスについて

新しい入力コストエレメントダイアログボックスでは、入力コストエレメントを作成できます。

新しい入力コストエレメントダイアログボックスの表示

リソースモジュール、アクティビティモジュールまたはコストオブジェクトモジュールで、アカウントを選択して、編集 ⇨ 新しい入力コストエレメントを選択します。

コストエレメントの追加

1. コストエレメントの追加をクリックします。
新しい行が、入力コストエレメントリストに追加されます。この新しい行は、デフォルトの情報が挿入されています。
2. (オプション)名前列をクリックして、名前を入力します。
3. (オプション)参照列をクリックして、参照を入力します。
4. (オプション)コスト列をクリックして、コストを入力します。
5. (オプション)コストエレメントの入力時にこのダイアログを表示するオプションを選択または選択解除します。

コストエレメントの削除

1. 入力コストエレメントリストから、エレメントを選択します。
2. コストエレメントの削除をクリックします。

関連項目:

- [“コストエレメント” \(179 ページ\)](#)
- [“アカウント作成時のコストエレメントの作成” \(180 ページ\)](#)
- [“モジュールページでの入力コストエレメントの作成” \(181 ページ\)](#)

7 部

属性

18 章	
属性の種類	185
19 章	
方法	191
20 章	
ディメンションメンバの属性	199
21 章	
属性ウィンドウ	217

18 章

属性の種類

はじめに	185
属性について	185
属性フォルダ	185
ディメンション属性、ディメンションメンバ属性、ディメンション値属性	186
数値属性	187
計算属性	188
概要	188
例: 受注処理の平均コスト	188
例: 従業員当たりの平均積載ケース数	188
タグ属性	188
テキスト属性	189
ステージ属性	189
概要	189
アカウントへのステージ属性の追加ガイドライン	190

はじめに

属性について

属性とは、アカウントに追加されるラベルです。属性は、分析や、計算属性または計算ドライバの式などから計算される値に使用される特性です。属性には、その属性を追加したアイテムの情報が含まれます。

属性ビューで、属性を作成します。リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールでアカウントに属性を追加、追加した属性を削除(管理)します。

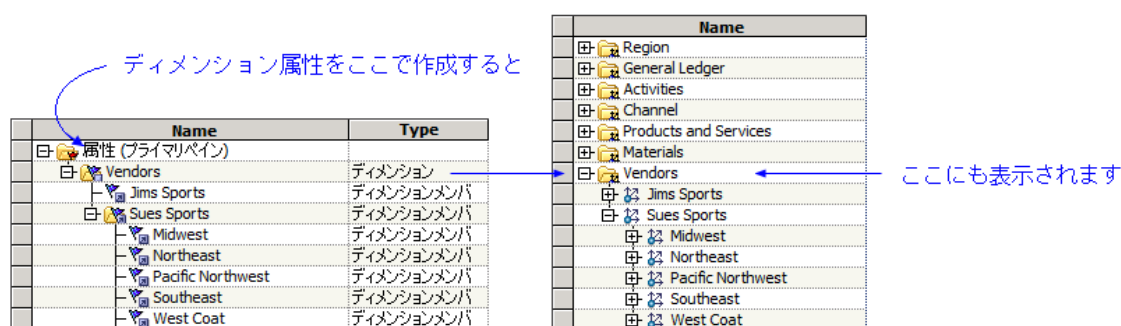
属性フォルダ

属性フォルダを使用して、属性を分類します。通常、属性フォルダにはどの種類の属性も含められます。フォルダ自体には種類がないため、複数の種類の属性を挿入できます。ただし、ディメンション属性フォルダには、ディメンションメンバ属性のみか、他にディメンション値属性も分類できます。また、ディメンションメンバ属性は、ディメンション属性フォルダに属する必要があります。

明示的にディメンション属性フォルダを作成することはできません。新しいディメンション属性を明示的に作成する場合、SAS Activity-Based Management により、ディメンションメンバ属性を挿入するためのディメンション属性フォルダが自動的に作成されます。ディメンション属性フォルダを選択して、新しいディメンション属性を作成する場合、新しいディメンション属性は自動的に選択したディメンションメンバ属性として作成されます。この属性の種類は変更できません。

ディメンション属性、ディメンションメンバ属性、ディメンション値属性

ディメンション属性はディメンションの一種で、キューブに含まれ、表示されます。属性ビューでディメンション属性を作成すると、次のように、ディメンションビューに自動的に表示されます。



ディメンション属性のリーフノードは、ディメンション値属性と呼ばれます。アカウントには、ディメンション値属性が適用されます。ディメンションメンバ属性にディメンション値属性が含まれているのに対して、ディメンション値属性に他の属性を含めることはできません。

ディメンション値属性内に別の属性を作成すると、そのディメンション値属性は自動的にディメンションメンバ属性になります。たとえば、次の図では、Ohio 属性を Midwest 属性内に作成すると、Midwest 属性が自動的にディメンションメンバ属性になります。

Vendors	Vendors	ディメンション	← ディメンション属性
Jims Sports	Jims Sports	ディメンションメンバ	← ディメンションメンバ属性
Sues Sports	Sues Sports	ディメンションメンバ	← ディメンションメンバ属性
Midwest	Midwest	ディメンションメンバ	← ディメンションメンバ属性
Ohio	Ohio	ディメンションメンバ	← ディメンション値属性

ディメンション値属性を使用すると、インターフェイスに選択可能な属性値のドロップダウンリストが表示されるため、データエントリを簡単に行えます。たとえば、前の図でユーザーが Vendors (仕入先)属性の値を設定した場合、次のドロップダウンリストが表示されます。

Display Name	Cost	Vendors
コストオブジェクト (プライマリペイン)	\$3,856,293.2	
USA	\$3,856,293.2	
Oregon	\$3,856,293.2	
Beaverton	\$2,127,721.4	
No <Channel>	\$1,998,820.2	
Commercial Pick-up	\$652,520.38	
Drop Box	\$283,937.13	
No <Products and Services>	\$15,468.14	
2nd Day Guaranteed	\$65,439.43	Southeast
Overnight Express	\$35,315.67	
Standard Ground	\$183,182.03	
Walk In	\$1,111.11	

Vendors

- Jims Sports
- Sues Sports
 - Midwest
 - Northeast
 - Pacific Northwest
 - Southeast**
 - West Coast

ディメンション属性、ディメンションメンバ属性、ディメンション値属性を使用することで、ビジネスユーザーは、構造ディメンションから得られる値とは異なる、OLAP 分析のロールアップ値を得られます。ビジネスユーザーによるモデル結果の分析を支援できるように、ディメンション属性を使用して情報を分類、整理して、モデルを拡張します。

たとえば、ディメンション属性を使用して、リソースが固定か変動であるかや、価値を追加するアクティビティかどうかを示します。その他の一般的なディメンション属性として、主力、維持、任意、戦略、非戦略、プライマリ、セカンダリなどがあります。

数値属性

数値属性は、数値を保存します。数値が何を表すのかは、メジャーの単位から特定されます。メジャーの単位は、単位を定義するテキストです。たとえば、メジャーの単位として、文字、ポンド、キログラムなどを設定できます。数値属性は、メジャーの単位を組み合わせてることによって意味を持ちます。また、数値属性名に Miles Shipped (輸送距離-マイル)や Number of Pallets (パレット数)など、メジャーの単位を示す名前を付けることもできます。

数値属性には、次の用途があります。

- 数値属性は、モデルの財務メジャーまたは非財務メジャーをトラッキングできます。
- 数値属性は、アクティビティパフォーマンスを時系列にトラッキングできます。
- 数値属性を、特殊なレポートのパフォーマンスメジャーにできます。

数値属性に含まれるデータは、計算ドライバと計算属性で使用されます。

関連項目:

- “式に数値属性を使用” (334 ページ)
- “式内で使用可能なプロパティ” (353 ページ)

計算属性

概要

計算属性は、式の定義に基づいて、モデルの数値プロパティや他の計算属性から計算される数値を保存します。(計算属性の例)

プロパティ値と属性値は、属性が追加されたアイテムから派生します。たとえば、アイテムごとにコストが異なるため、プロパティ Cost に基づく計算数値属性の値は属性が追加されたアイテムによって異なります。

すべての期間で式が同じ計算ドライバとは異なり、計算属性の式は期間ごとに変更できます。

例: 受注処理の平均コスト

ここでは、モデルへの計算属性の使用例を紹介します。式の多くには、数値プロパティと数値属性が含まれます。

他社に受注処理サービスを提供する企業があるとします。受注処理の平均コストを決定するには、次のようにコスト(プロパティ Cost)を、受注処理数(ユーザー定義の数値属性 Orders Processed)で除算します。

$\text{Cost/Orders Processed}$

例: 従業員当たりの平均積載ケース数

トラックに製品を積載して出荷する企業があり、経営陣が正社員当たりの積載ケース数を知りたいとします。次のように、積載ケース数(ユーザー定義の数値属性 Cases Loaded)を、ケースを積載する正社員数(ユーザー定義の数値属性 FTE)で除算します。

Cases Loaded/FTE

関連項目:

- [29 章, “式” \(323 ページ\)](#)
- [“式に数値属性を使用” \(334 ページ\)](#)
- [“式内で使用可能なプロパティ” \(353 ページ\)](#)

タグ属性

タグ属性は、アカウントに追加済みまたは未追加のいずれかです。タグ属性には値は保存されません。

計算ドライバ、ルールベースドライバ、計算属性に HasAttribute 関数を使用して、アカウントに特定のタグ属性が存在するかどうかを検証します。

注: SAS Activity-Based Management のこれまでのリリースでは、タグ属性はブール値属性と呼ばれていました。

テキスト属性の最大長は 2048 文字です。

テキスト属性

テキスト属性は、英数字を保存します。テキスト属性は、属性が追加されたアイテムの情報を示します。たとえば、テキスト属性"Cost Analysis" (コスト分析)は、リソースアカウントが固定コストか変動コストかを示します。また、テキスト属性"Life Cycle" (ライフサイクル)は、コストオブジェクトアカウントが属するライフサイクルの段階(分析、スタートアップ、エントリ、構築、成熟、低下、中止)を示すことができます。

テキスト属性の最大長は 2048 文字です。

ステージ属性

概要

ステージは、マルチステージ貢献キューブの作成に使用されます。ステージを定義するには、ステージごとにディメンション値属性を作成してから、作成した属性をアカウントに割り当てます。これらのディメンション値属性は、ディメンション属性"Stage"内に作成する必要があります。ディメンション値属性には任意の名前を付けることができますが、名前はステージ属性の命名規則に従う必要があります。

詳細については、アカウントへのステージ属性の追加を参照してください。

注: ある 1 つのステージのすべてのアカウントは、同一のモジュール(リソース、アクティビティ、コストオブジェクト、外部ユニット)に属する必要があります。

注:

- ステージ名と参照は、英文字で始まる必要があります。

注: SAS Activity-Based Management のこれまでのリリースでは、ステージ名や参照を数字で始めることができました。SAS Activity-Based Management 7.2 では、これできません。数字で始まるステージ名や参照がある場合は、英文字で始まるように変更する必要があります。モデルで使用しているステージの名前が変更された場合は、キューブ設定を更新して、キューブに含まれるディメンションを再選択し、マルチステージ貢献キューブをすべて再作成します。(Microsoft Analysis Services をキューブに使用している場合、キューブの再作成は必要ありません。)

- ステージ名を使用して、キューブにディメンション名が定義されます。ステージ名とユーザー定義のディメンション名を連結した名前が、キューブの実際のディメンション名になります。
- たとえば、ステージ属性のキューブディメンション Stage2 Activity では、Stage2 がステージ名、Activity がユーザー定義のディメンションです。2 が Stage2 の代わりに使用される場合、キューブディメンション 2 Activity が作成されます。

マルチステージ貢献キューブのステージを参照するには、キューブのプロパティを指定する必要があります。ステージ属性の作成に使用する方法に関わらず、指定が必要です。

アカウントへのステージ属性の追加ガイドライン

ステージ属性をアカウントに追加する場合、次のガイドラインに従ってください。

- ステージ属性を 1 つ(またはステージ属性の 1 メンバ)のみ、アカウントに追加します。
- 分析に必要なアカウントへの追加は省略できません。

たとえば、IT Salaries (IT 部門給与)アカウントが IT Help Desk(IT ヘルプデスク)アカウントに割り当てられ、この IT Help Desk アカウントが Design Products (製品デザイン)アカウントに割り当てられるとします。アカウントごとに異なるステージ属性が追加されます。IT Help Desk アカウントへの追加は省略できません。

- 分析に必要ないアカウントには、ステージ属性を追加しません。

ステージ属性が割り当てられたアカウントはすべて、マルチステージ貢献キューブに挿入されます。不必要なアカウントを除外すると、より迅速にキューブを生成できます。

- パフォーマンスの問題を回避するには、6 から 8 ステージを超えないようにします。

関連項目:

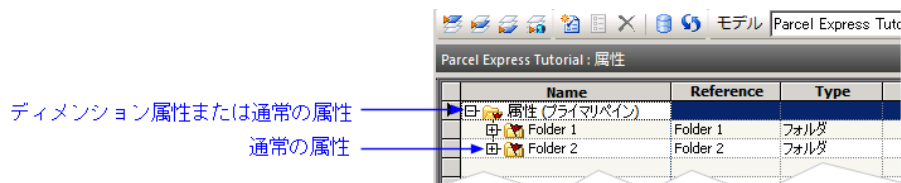
[“アカウントへのステージ属性の追加” \(196 ページ\)](#)

19 章 方法

属性の作成	191
属性フォルダの作成	194
アカウントへの属性の追加	195
属性の値の指定	195
アカウントへのステージ属性の追加	196
概要	196
ステージ属性を作成するには、次の操作を行います。	196
アカウントにステージ属性を追加するには、次のどちらかの操作を行います。 ..	196
属性が追加されたアカウントの表示	197
アカウントからの属性の削除	197

属性の作成

1. モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **属性ページ**を選択します。
属性ページが表示されます。
2. 属性の作成先のフォルダを選択します。
ディメンション属性は、ATTRIBUTES フォルダかまたは既存のディメンション属性に作成できます。
その他の属性は、ATTRIBUTES フォルダかまたは別の属性フォルダに作成できます。



3. **編集** ⇨ **新しい属性**を選択します。
新しい属性ダイアログボックスが表示されます。

新しい属性

全般

モデル内のすべての期間/シナリオ関連付けで共通に使われる基本設定を定義してください。

名前(N):

参照(R):

短縮参照(S):

属性の種類(A):

ディメンションメンバ

メジャーの単位(U):

OK キャンセル 作成 ヘルプ

4. **名前**を入力します。

名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“[命名規則](#)” (81 ページ)を参照してください。

5. **参照**を入力します。

属性参照は、ディメンション属性にのみ必要で、パブリックビューで使用されます。*SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の“Public Views”の章を参照してください。参照は、参照規則に従って指定する必要があります。“[参照規則](#)” (86 ページ)を参照してください。

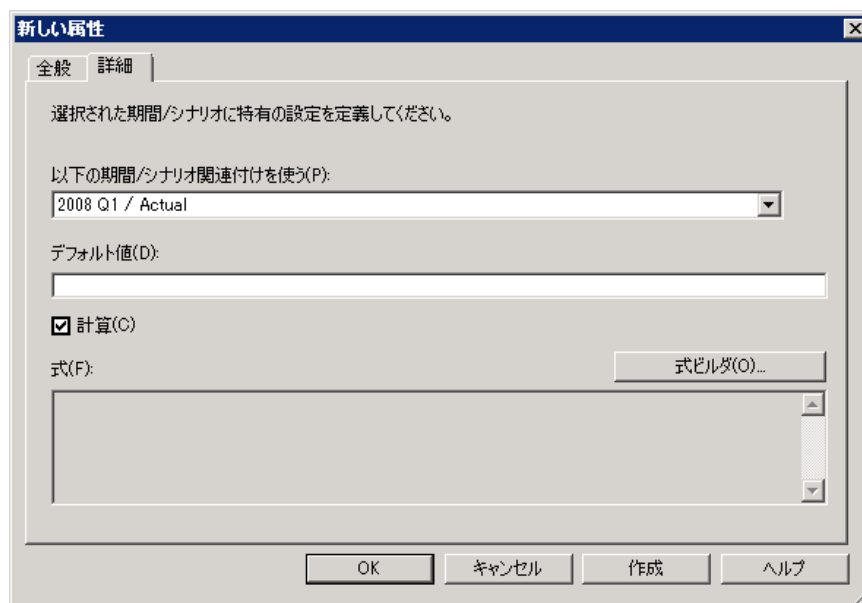
6. **属性の種類**を選択します。

注: ATTRIBUTES または既存のディメンション属性を選択して、**ディメンション**を選択すると、ディメンション属性ではなく、ディメンション属性フォルダが作成されます。

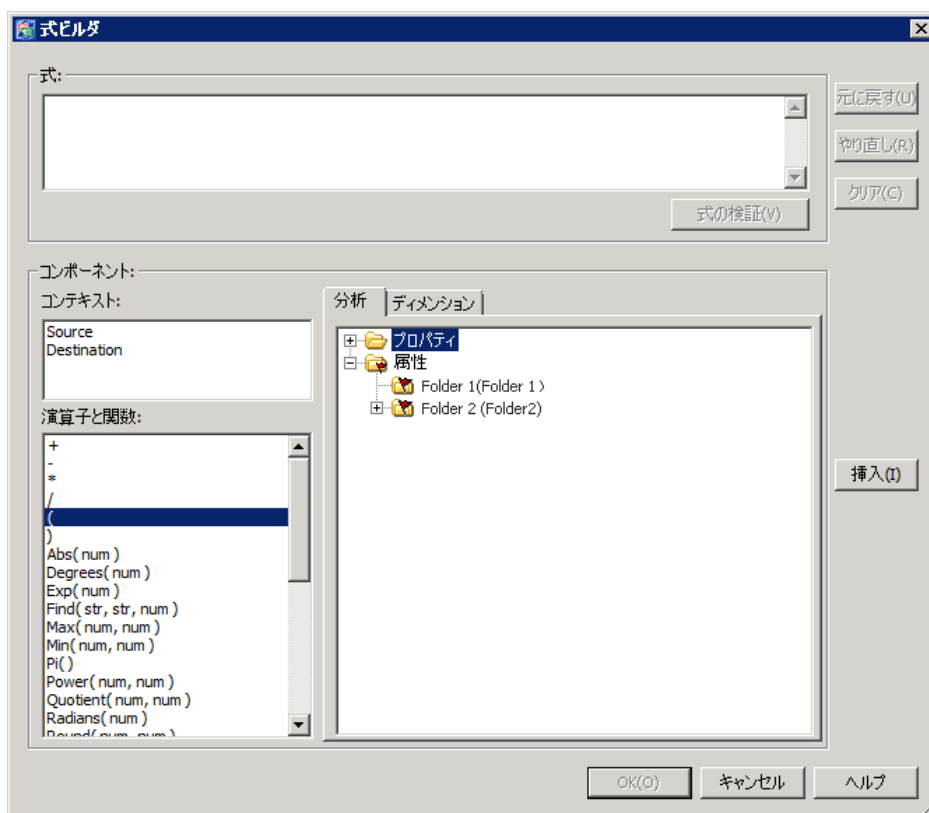
数値属性の場合のみ、次の操作を行います。

7. **メジャーの単位**を入力します。

8. **詳細タブ**をクリックします。



9. 以下の期間/シナリオ関連付けを使うドロップダウンリストから、期間/シナリオ関連付けを選択します。
10. デフォルト値を入力します。
11. この属性が計算属性の場合、次の操作を行います。
 - a. 計算オプションを選択します。
 - b. 式ビルダをクリックします。
式ビルダダイアログボックスが表示されます。



ヒント 式ボックスで式を変更することもできます。

- c. 数値プロパティ、演算子、属性のリストから、アイテムを選択します。
- d. 挿入をクリックします。

アイテムが式に追加されます。

ヒント 式を入力することもできます。

- e. アイテムの挿入を繰り返して、式全体を作成します。
- f. 最後に挿入したアイテムを削除するには、**元に戻す**をクリックします。
- g. 式全体を削除するには、**クリア**をクリックします。
- h. **テスト**をクリックします。

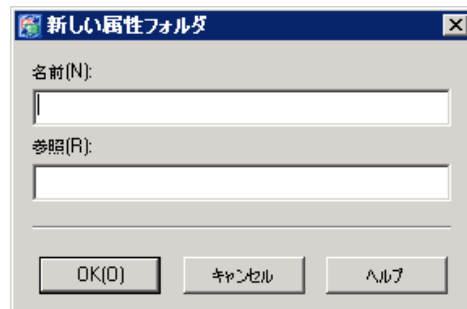
エラーが表示されなければ、式の構文は有効です。

関連項目:

- 18 章, “属性の種類” (185 ページ)
- “アカウントへの属性の追加” (195 ページ)
- “属性の値の指定” (195 ページ)
- “属性が追加されたアカウントの表示” (197 ページ)
- “アカウントからの属性の削除” (197 ページ)

属性フォルダの作成

1. モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **属性ページ**を選択します。
属性ページが表示されます。
2. 新しいフォルダを作成する属性フォルダ(ディメンション属性フォルダ以外)を選択します。
3. **編集** ⇨ **新しいフォルダ**を選択します。
新しい属性フォルダダイアログボックスが表示されます。

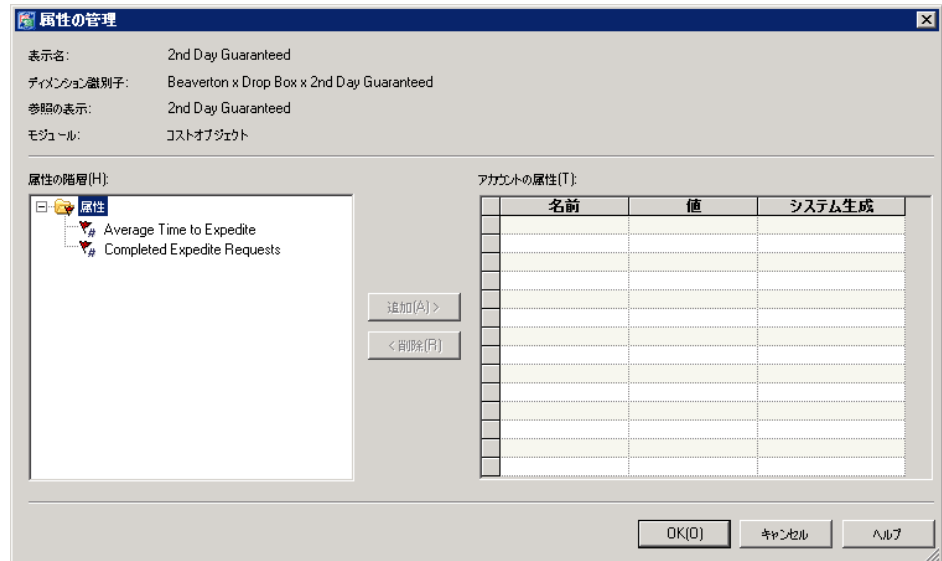


4. **名前**を入力します。
名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“**命名規則**” (81 ページ)を参照してください。
5. **参照**を入力します。

デフォルトの参照は、名前から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。“[参照規則](#)” (86 ページ)を参照してください。

アカウントへの属性の追加

1. モジュールページで、アカウントを選択して、**編集** ⇨ **属性の管理**を選択します。
属性の管理ダイアログボックスが表示されます。



2. **属性の階層**リストから、属性を選択します。
3. **追加>**をクリックします。
属性が**アカウントの属性**リストに追加されます。

関連項目:

“[属性の値の指定](#)” (195 ページ)

属性の値の指定

1. モジュールページで、アカウントを選択して、**編集** ⇨ **属性の管理**を選択します。
属性の管理ダイアログボックスが表示されます。
2. **アカウントの属性**リストから、属性を選択します。
3. **値**を設定します。
指定できる値の種類は、属性の種類によって異なります。

関連項目:

“[属性が追加されたアカウントの表示](#)” (197 ページ)

アカウントへのステージ属性の追加






概要

ステージ属性をアカウントに追加するには、次の 2 つのステップを実行する必要があります。

1. ステージ属性の作成
2. アカウントへのステージ属性の追加

ステージ属性を作成するには、次の操作を行います。

1. モデルモードで、**モデル** ⇨ **属性ビュー**を選択します。属性ビューが開きます。
2. 属性ビューで、**編集** ⇨ **新しい属性**を選択するか、または**新しい属性**ボタンをクリックします。新しい属性ダイアログボックスが開きます。
3. 新しい属性ダイアログボックスで、新しい属性の名前に Stages と指定し、その属性の種類として**ディメンション**を選択して、**OK** をクリックします。
4. 属性ビューで、ステップ 3 で作成した Stages ディメンションを選択し、**編集** ⇨ **新しい属性**を選択するか、または**新しい属性**ボタンをクリックします。新しい属性ダイアログボックスが再度開きます。
5. 新しい属性ダイアログボックスで、各ステージを示す新しい属性の名前を指定し、属性の種類として**ディメンションメンバ**を選択します。
6. ステップ 4 と 5 を必要なステージ数だけ繰り返して、1 つのステージにつき 1 つのディメンションメンバ属性を作成します。次のような属性が作成されます。

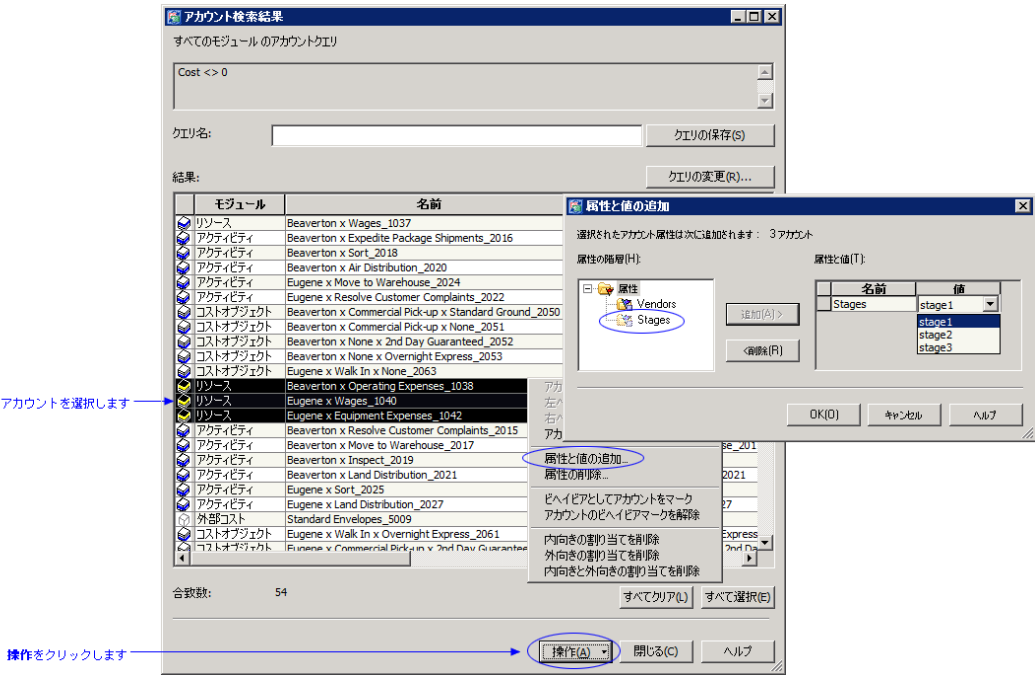
	Name	Reference	Type
	属性 (プライマリペイン)		
	Stages	Stages	Dimension
	stage1	stage1	ディメンションメン
	stage2	stage2	ディメンションメン
	stage3	stage3	ディメンションメン

注: ディメンション属性は Stages にする必要があります。ディメンションメンバ属性の名前(ステージ 1、ステージ 2 など)は任意ですが、名前と参照は同一にする必要があります。

アカウントにステージ属性を追加するには、次のどちらかの操作を行います。

- 属性の管理ダイアログボックスから属性を追加します。
- アカウントを検索し、該当したアカウントに属性を追加します。

注: ある 1 つのステージのすべてのアカウントは、同一のモジュール(リソース、アクティビティ、コストオブジェクト、外部ユニット)に属する必要があります。次に、アカウントを検索し、該当したアカウントにステージ 1 属性を追加する画面を示します。



関連項目:

“ステージ属性” (189 ページ)

属性が追加されたアカウントの表示

属性ページを分割して、属性が追加されたアカウントを表示できます。

- 1. モデル ⇒ 属性ページを選択します。
属性ページが表示されます。
- 2. モデル ⇒ 割り当て ⇒ 右割り当てペインを表示を選択します。
右割り当てペインが表示されます。
- 3. 属性を選択します。
- 4. モデル ⇒ 割り当て ⇒ 右を表示を選択します。

この属性がアカウントに追加されている場合、該当するアカウントが表示されます。

Name			Reference	Type	Name		
日	属性 (プライマリペイン)				Beaverton x Drop Box x Standard Ground_2042		
▶	Value Added		Value Added	テキスト	Beaverton x Drop Box x Overnight Express_2041		
▶	Non Value Added		Non Value Added	テキスト			

アカウントからの属性の削除

- 1. モジュールページで、アカウントを選択して、編集 ⇒ 属性の管理を選択します。

属性の管理ダイアログボックスが表示されます。

2. **アカウントの属性**リストから、属性を選択します。
3. **削除**をクリックします。

属性が**属性の階層**リストから削除されます。

20 章

ディメンションメンバの属性

全般説明	199
はじめに	199
例	200
FAQ	202
ディメンションメンバへの属性の割り当て	209
はじめに	209
ディメンションビューに表示される属性列の定義	209
ディメンションメンバへの属性の割り当て	212
ディメンションメンバからの属性の削除	213
アカウントへのディメンションメンバの属性の適用	215

全般説明

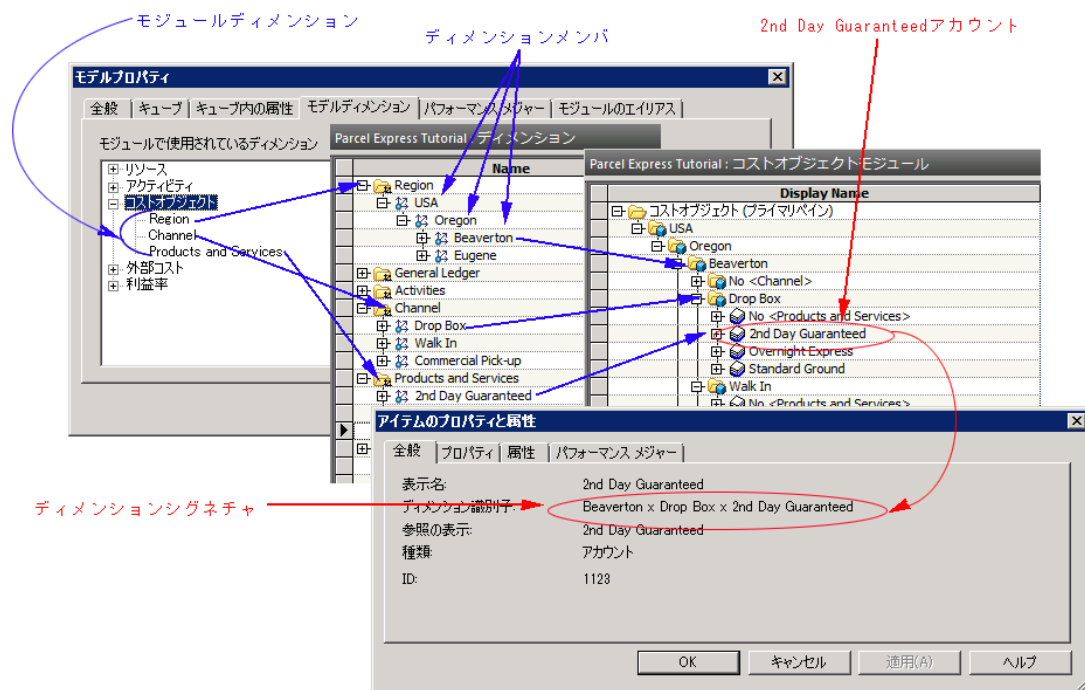
はじめに

ディメンションメンバの属性を設定すると、複数のアカウントの属性が自動的に設定されるようになります。

ディメンションメンバの属性の設定は、ディメンシングネチャにそのディメンションメンバを含むすべてのアカウントに属性を設定する間接的な方法です。アカウントの属性を簡単に設定できることが重要であることの理由の 1 つに、ルールベースドライバを作成するにはアカウントの属性の存在が特に重要だからです。ディメンションメンバに属性を設定すると、多くのアカウントにその属性が迅速に設定されるようになります。

ディメンションメンバの属性の設定による影響を理解するには、まずアカウントがディメンションメンバのインターセクションである点を思い出す必要があります。アカウントはそのインターセクションによって定義されます。このインターセクションは、ディメンシングネチャ(またはディメンション識別子)と呼ばれます。たとえば、次の図では、アカウント 2nd Day Guaranteed が、ディメンションメンバ Beaverton x Drop Box x 2nd Day Guaranteed のインターセクションであることがわかります。そのディメンションメンバは、それぞれ順に、ディメンション Region x Channel x Products and Services のメンバです。

注: ディメンションメンバの順序がそのディメンション(Region、Channel、Products)の順序であるとき、アカウントの表示名(2nd Day Guaranteed)はディメンションメンバのインターセクションの最後のメンバの名前になります。ディメンションの順序は、モデル作成時の定義順序です。



このリリースでは、ディメンションメンバ Beaverton に属性を設定すると、2nd Day Guaranteed アカウントは、ディメンションシグネチャが Beaverton x Drop Box x 2nd Day Guaranteed のため、自動的にこの属性が設定されるようになりました。また、それだけでなく、ディメンションシグネチャに Beaverton が含まれるすべてのアカウントにこの属性が自動的に設定されます。

例

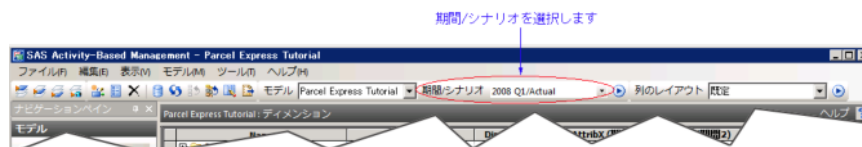
次に例を示します。

1. 属性を作成します。

既存の属性はどれでも使用できますが、この例では、次の図に示すように、AttributeOnADimensionMember という名前でデフォルト値が 100 の数値属性を作成するとします。

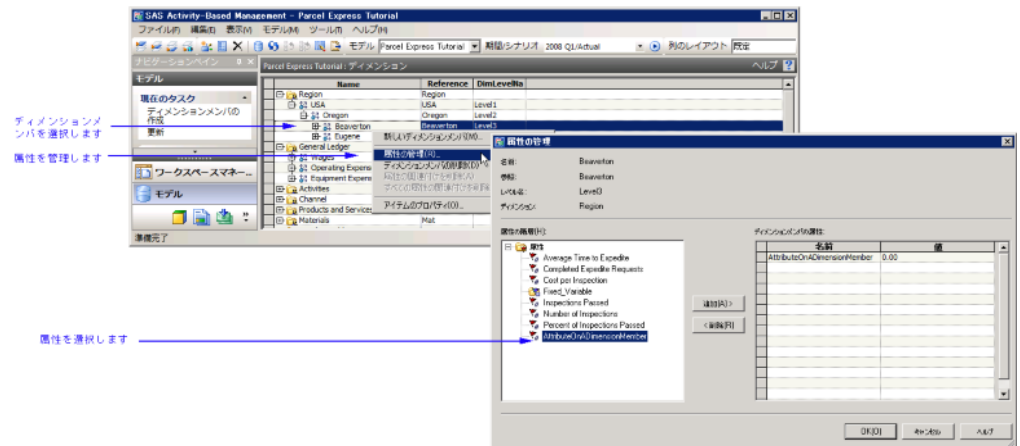
Name	Reference	Type	UoM	DefaultValue
属性 (プライマリペイン)				
Average Time to Expedite	Average Time to Expedite	数値	Hours	
Completed Expedite Requests	Completed Expedite Requests	数値	Completed Requests	
Cost per Inspection	Cost per Inspection	数値	Dollars	
Fixed Variable	FV	ディメンション		
Inspections Passed	I_P	数値	Units Passed	
Number of Inspections	Num of Ins	数値	Inspections	
Percent of Inspection Passed	Percent of Inspection Passed	数値	Percentage	
AttributeOnADimensionMember	AttributeOnADimensionMember	数値	Credits	100.00

2. モデルのディメンションビューに移動して、属性を適用する期間を選択します。



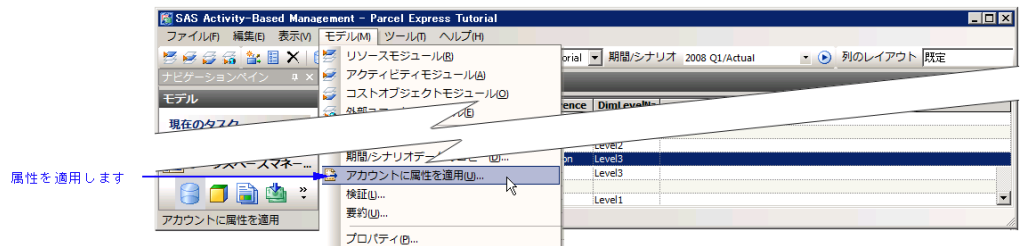
3. ディメンションメンバを選択し、属性の管理を選択して、属性をディメンションメンバに割り当てます。

この例では、属性 AttributeOnADimensionMember を、Region ディメンションの Beaverton ディメンションメンバに割り当てます。



実際は、ディメンションメンバへの属性の割り当てには 2 つの方法があります。また、属性を表示するように、ディメンションビューの列を変更できます。詳細については、“ディメンションメンバへの属性の割り当て” (209 ページ) を参照してください。

4. モデル ⇨ アカウントに属性を適用を選択して、ディメンションメンバの属性をアカウントに適用します。



“アカウントへのディメンションメンバの属性の適用” (215 ページ) を参照してください。

5. その結果、次の図に示すように、ディメンションシグネチャに Beaverton を含むすべてのアカウントに属性 AttributeOnADimensionMember が適用されます。

Parcel Express Tutorial : コストオブジェクトモジュール	
Display Name	AttributeOnADimensionMember
[-] コストオブジェクト (プライマリペイン)	
[-] USA	
[-] Oregon	
[-] Beaverton	
[-] No <Channel>	
[-] 2nd Day Guaranteed	100.00
[-] Overnight Express	100.00
[-] Standard Ground	100.00
[-] Drop Box	
[-] No <Products and Services>	100.00
[-] 2nd Day Guaranteed	100.00
[-] Overnight Express	100.00
[-] Standard Ground	100.00
[-] Walk In	
[-] No <Products and Services>	100.00
[-] 2nd Day Guaranteed	100.00
[-] Overnight Express	100.00
[-] Standard Ground	100.00
[-] Commercial Pick-up	
[-] No <Products and Services>	100.00
[-] 2nd Day Guaranteed	100.00
[-] Overnight Express	100.00
[-] Standard Ground	100.00
[-] Eugene	
[-] No <Channel>	
[-] 2nd Day Guaranteed	
[-] Overnight Express	
[-] Standard Ground	
[-] Drop Box	
[-] No <Products and Services>	
[-] 2nd Day Guaranteed	
[-] Overnight Express	
[-] Standard Ground	
[-] Walk In	
[-] Commercial Pick-up	

ここでは、ディメンションメンバ Beaverton を含むすべてのアカウントにはこの属性のデフォルト値がありますが、ディメンションメンバ Eugene を含むアカウントにはありません。そしてまた、前述の図では、コストオブジェクトモジュールしか示されていない点に注意します。ディメンション属性をアカウントに適用すると、結果として、ディメンションシグネチャに Beaverton を含むアカウントがある他のモジュールでも、この属性がアカウントに適用されます。つまり、最初に 1 つのディメンションメンバに割り当てた属性が、複数のアカウントに割り当てられています。

FAQ

FAQ

- “ディメンションメンバに割り当てられる属性の種類” (203 ページ)
- “属性の割り当て先の詳細” (203 ページ)
- “期間ベースの属性関連付け” (205 ページ)
- “ディメンションメンバからの属性の継承” (206 ページ)
- “属性のデフォルト値” (206 ページ)
- “システム生成による属性値とユーザー入力による属性値” (207 ページ)
- “ディメンションメンバの親の再指定時の処理” (207 ページ)
- “ディメンションの属性のインポートとエクスポート” (208 ページ)

ディメンションメンバに割り当てられる属性の種類

ディメンションメンバには、ディメンション属性や計算属性など、任意の種類の属性を割り当てられます。

Name	Reference	Type
属性 (プライマリペイン)		
テキスト属性	テキスト属性	テキスト
タグ属性	タグ属性	タグ
数値属性	数値属性	数値
計算数値属性	計算数値属性	数値
ディメンション属性	ディメンション属性	ディメンション

次の種類の属性をディメンションメンバに割り当てられます。

- テキスト
- タグ(ブール値)
- 数値(計算数値も含む)
- ディメンション

属性の割り当て先の詳細

- 属性は任意のディメンションメンバに割り当てられます。
- 属性はディメンションには割り当てられません。

たとえば、次の図では、ディメンションメンバ Personnel Intensive Activities (Level1) と Resolve Customer Complaints (Level2)には属性を割り当てられますが、Activities ディメンションには属性を割り当てられません。

属性をこれらのディメンションメンバのいずれかに割り当てられます

Name	DimLevelName
Region	
General Ledger	
Activities	
Personnel Intensive Activities	Level1
Resolve Customer Complaints	Level2
Expedite Package Shipments	Level2
Local Collection	Level1
Move to Warehouse	Level2
Local Processing	Level1
Sort	Level2
Inspect	Level2
Regional Distribution	Level1
Channel	
Products and Services	
Materials	

しかし、これらのディメンションには割り当てられません

- 属性はディメンション属性には割り当てられません。

属性は構造ディメンションにのみ割り当てられます。そのため、たとえば、Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデルの FixedVariable ディメンション属性に属性を割り当てることはできません。

属性をディメンション属性に割り当てられません

Name	Reference
属性 (プライマリペイン)	
Average Time to Expedite	Average Time to Expedite
Completed Expedite Requests	Completed Expedite Requests
Cost per Inspection	Cost per Inspection
Fixed_Variable	FV
Fixed	F
Variable	V
Inspections Passed	I_P
Number of Inspections	Num of Ins
Percent of Inspections Passed	Percent of Inspections Passed

Parcel Express Tutorial: デイメンション	
Name	
Region	
General Ledger	
Activities	
Channel	
Products and Services	
Materials	
Fixed_Variable	
Fixed	
Variable	
ディメンション属性	

用語を混同しないように注意します。ディメンション属性が"ディメンション属性"と呼ばれるのは、OLAP キューブの元素という点で、通常の(構造)ディメンションに類似しているためです。OLAP キューブ内では、ディメンション属性と構造ディメンションに区別はありません。両方ともメジャーのディメンションです。

ディメンション属性に属性を割り当てることはできませんが、ディメンションメンバにディメンション属性 Variable が次のディメンションメンバに割り当てられています。

- Personnel Intensive Activities (Variable が値として指定)
- Air Distribution (Variable が値として指定)
- Land Distribution (Fixed が値として指定)

また、この図には、属性 Fixed Variable がアカウントに適用された結果も表示されています。Beaverton 地域の4つの異なるアカウント

ディメンション →

Name	Fixed_Variable
Region	
General Ledger	
Activities	
Personnel Intensive Activities	Variable
Local Collection	
Local Processing	
Regional Distribution	
Air Distribution	Variable
Land Distribution	Fixed
Channel	
Products and Services	
Materials	
Fixed_Variable	

アカウント →

Display Name	Fixed_Variable
アクティビティ (プライマリペイン)	
USA	
Oregon	
Beaverton	
Personnel Intensive Activities	
Resolve Customer Complaints	Variable
Expedite Package Shipments	Variable
Local Collection	
Local Processing	
Regional Distribution	
Air Distribution	Variable
Land Distribution	Fixed
Eugene	

- ある1つの属性は、モデル内の1ディメンションのディメンションメンバにのみ割り当てられます。

たとえば、次の図では、Beaverton ディメンションメンバ(Region ディメンション内)にある1つの属性を割り当てた場合、それと同じ属性を Drop Box ディメンションメンバに割り当てることはできません。これは Drop Box が Channel ディメンション内にあるためです。

ここで属性をすでに割り当てている場合

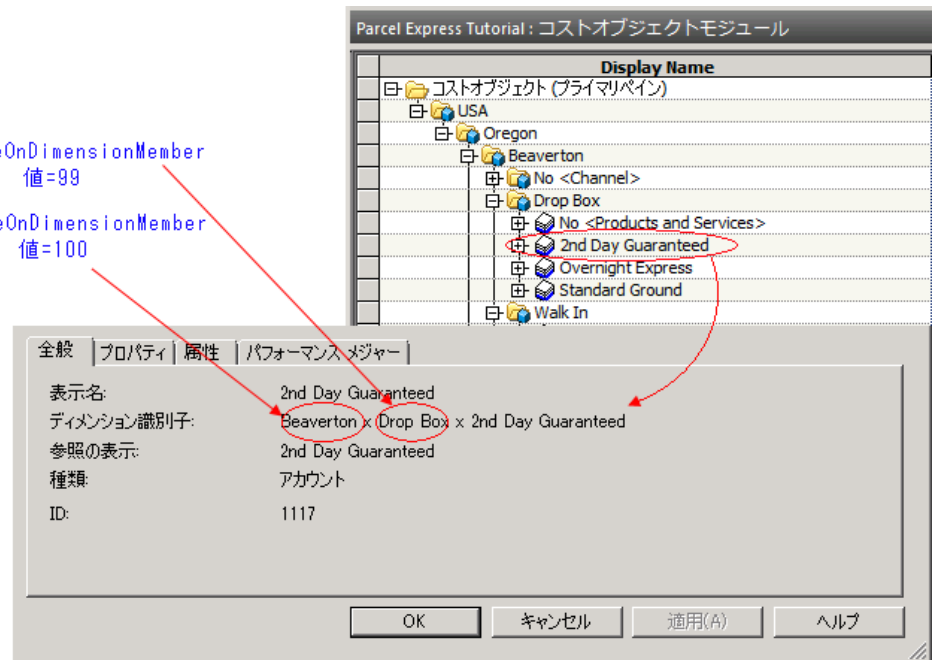
ここで同じ属性を割り当てられません

Name
Region
USA
Oregon
Beaverton
Eugene
General Ledger
Activities
Channel
Drop Box
Walk In
Commercial Pick-up
Products and Services
Materials

この制限の理由は、属性割り当ての矛盾を回避するためです。ディメンションが異なるディメンションメンバに同じ属性を割り当てられるとします。ディメンションシングネチャが Beaverton x Drop Box x 2nd Day Guaranteed の 2nd Day Guaranteed アカウントという前述の例を取り上げます。属性 AttributeOnDimensionMember が Beaverton ディメンションメンバに割り当てられたときの値が 100 だとします。また、Drop Box ディメンションメンバに割り当てられたときは、同じ属性の値が 99 だったとします。次に、属性をアカウントに適用すると、2nd Day Guaranteed アカウントでは、Beaverton ディメンションメンバと Drop Box ディメンションメンバの両方から AttributeOnDimensionMember 属性が取得されます。しかし、その場合、値はどうなるかの問題が発生します。つまり、100 (Beaverton)と 99 (Drop Box)のどちらになるのかの問題が発生します。

AttributeOnDimensionMember
値=99

AttributeOnDimensionMember
値=100



期間ベースの属性関連付け

ディメンションメンバに属性を割り当てる際は、特定の期間に割り当てます。したがって、ディメンションメンバでは、特定の属性が、ある期間には存在して別の期間には存在しない場合もあります。また、特定の期間にはある値、別の期間には異なる値が存在する場合もあります。

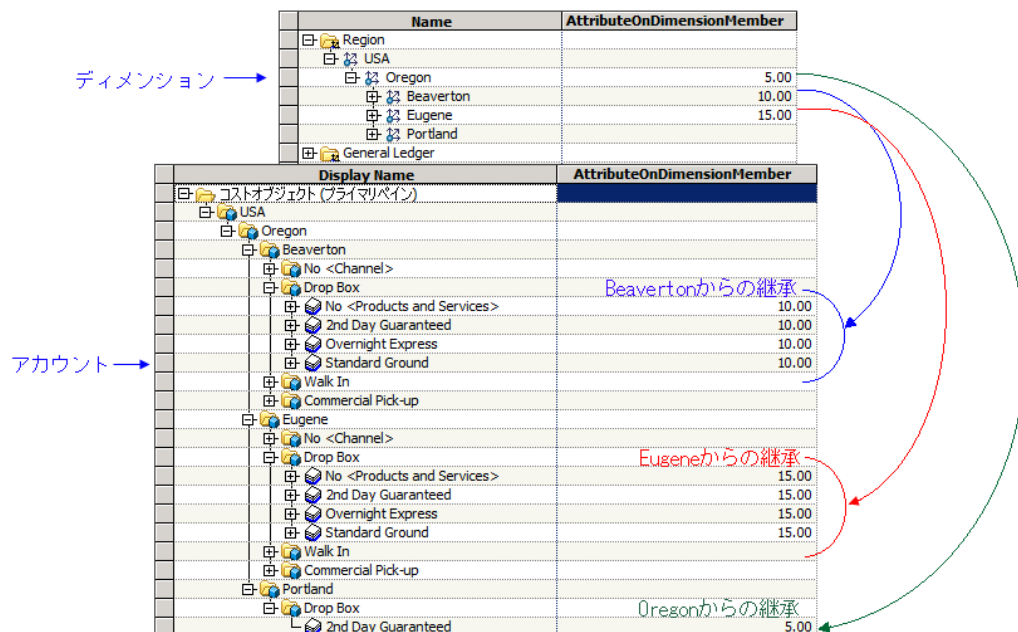
デイメンションメンバからの属性の継承

デイメンションメンバの属性をアカウントに適用する際、同じデイメンション階層のデイメンションメンバに追加属性があると、アカウントのすぐ上の階層のデイメンションメンバが使用されます。

たとえば、次の図では、アカウント Portland x Drop Box x 2nd Day Guaranteed の属性 AttributeOnDimensionMember の値は 5 です。5 が指定されているのは、Portland デイメンションメンバに属性が指定されていないため、アカウントが、親デイメンションメンバ Oregon の属性 AttributeOnDimensionMember から値 5 を継承したためです。

Beaverton デイメンションメンバから継承を受けるアカウントの属性

AttributeOnDimensionMember の値は 10 です。Eugene デイメンションメンバから継承を受けるアカウントの値は 15 です。



属性のデフォルト値

デイメンションメンバの属性は通常の属性であるため、アカウントへの適用後、通常の属性と同じデフォルト値を持つようになります。

- アクティブな期間/シナリオにユーザー定義のデフォルト値がある属性の場合、その属性はユーザー定義のデフォルト値で初期化されます。
- ユーザー定義のデフォルト値がない数値属性はゼロで初期化されます。計算数値属性は、式の結果で初期化されます。
- テキスト属性は空の文字列で初期化されます。
- タグ属性とデイメンション属性には値がないため、デフォルト値で初期化されません。

デフォルト値の存在にもかかわらず、属性を式で参照する際に次の両方の条件に当てはまる場合はエラーが発生します。

- 属性にユーザー定義のデフォルト値がない。
- 属性の割り当て先のアカウントで(計算対象期間の)式が評価されていない。

前述の条件のどちらかに当てはまらない場合、計算中にエラーは発生しません。したがって、次の条件のどちらかに当てはまる(つまり、前述の条件のいずれかが当てはまらない)場合、エラーは発生しません。

- (割り当て先のアカウントで式が評価されていなくても)属性にユーザー定義のデフォルト値がある。
- (ユーザー定義のデフォルト値がなくても)属性の割り当て先のアカウントで式が評価されている。

システム生成による属性値とユーザー入力による属性値

ディメンションメンバの属性をアカウントに適用する際、その期間/シナリオにデフォルト値が定義されていると、アカウントは属性と一緒にそのデフォルト値を受け取ります。この場合、次の疑問が生じます。

- そのアカウントの属性を編集して値を変更し、その後で、ディメンションメンバの属性をアカウントに再適用すると、どうなるのか。アカウントの属性は、もう一度デフォルト値を受け取るのか、それとも、変更後の値を保持するのか。
- 答えは、変更後の値を保持する、です。

SAS Activity-Based Management では、システム生成による属性値とユーザー入力による属性値が区別されます。

- システム生成による属性値は、属性をアカウントに適用する際、ディメンションメンバへの割り当てに基づいて、アカウントの属性が受け取る値です。
- ユーザー入力による属性値は、ユーザーが属性値を変更した際にアカウントの属性が受け取る値です。

注: 属性値は、まったく同じ値で上書きした場合でも、ユーザー入力とみなされません。入力内容に関わらず、属性値フィールドに入力をするだけでユーザー入力となります。

属性値がいったんユーザー入力としてマークされると、システム生成に戻す(デフォルト値の使用に戻す)唯一の方法は、次の操作を実行することです。

1. ディメンションメンバから属性を削除します。(すなわち、属性とディメンションメンバの関連付けを削除します。属性自体を削除するという意味ではありません)。
2. 必要なデフォルト値を指定して、属性をディメンションメンバに再割り当てします。
3. ディメンションメンバの属性をアカウントに再適用します(または、計算を実行して、ディメンションメンバの属性を自動的に再適用します)。

注: タグ属性とディメンション属性には値がないため、デフォルト値に関する疑問は生じません。

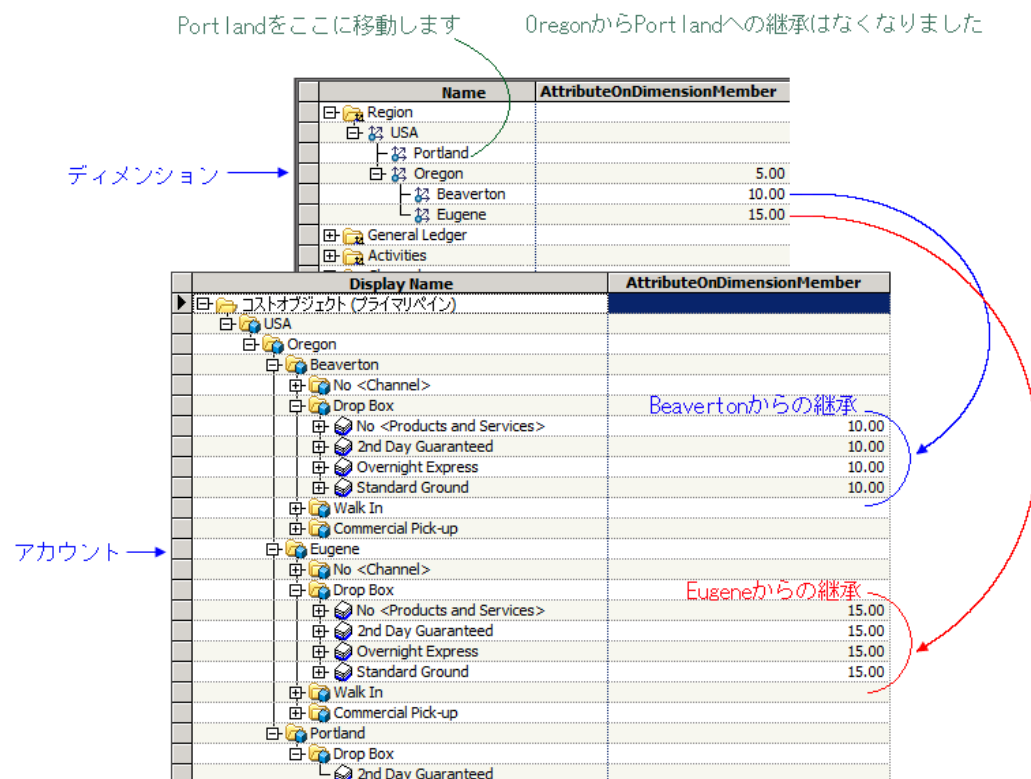
ディメンションメンバの親の再指定時の処理

ディメンションメンバの親を指定し直すと、シグネチャにそのディメンションメンバが含まれるアカウントでは、そのディメンションメンバの古い親から属性を継承できなくなります(古い親は別のディメンションメンバだと仮定します)。属性は新しい親から継承されるようになります(新しい親も別のディメンションメンバだと仮定します)。

注: 次のどちらかを行うまでは、新しい継承も古い継承の終了も行われません。

- ディメンションメンバの属性をアカウントに適用する。
- モデルの計算をする(ディメンションメンバの属性が自動的にアカウントに適用されます)。

たとえば、次の図では、Portland を Oregon の下から USA の直下に移動しています。したがって、ディメンションシグネチャに Portland を含むアカウントでは、Oregon ディメンションメンバのどの属性からも継承ができなくなります。



ディメンションの属性のインポートとエクスポート

モデルをエクスポートすると、属性とディメンションメンバの関連付けがエクスポートされます。その後で同じモデルをインポートした場合、ディメンションメンバは、モデルのエクスポート時と同じ属性を保有します。

ただし、モデルのエクスポート前に、ディメンションメンバの属性をアカウントに適用するか、または、モデルの計算を行った(これにより、ディメンションメンバの属性が自動的にアカウントに適用された)場合は、次の事柄が発生します。

- システム生成による属性値は XML エクスポートファイルにエクスポートされません。ただし、ユーザー入力による属性値は XML エクスポートファイルにエクスポートされます。

後でその XML ファイルをインポートする場合は、属性関連付けを再作成するために、ディメンションメンバの属性をアカウントに適用するか、またはモデルの計算を行う必要があります。

- システム生成による属性値とユーザー入力による属性値が両方ともデータベースのステージングテーブルエクスポートファイルにエクスポートされます。

後でそのステージングテーブルをインポートする場合は、属性関連付けを再作成する必要はありません。ステージングテーブルに保存されている、システム生成による属性値とユーザー入力による属性値が両方ともモデルで復元されます。

関連項目:

- “ディメンションメンバへの属性の割り当て” (209 ページ)
- “ディメンションメンバからの属性の削除” (213 ページ)
- “アカウントへのディメンションメンバの属性の適用” (215 ページ)

ディメンションメンバへの属性の割り当て

はじめに

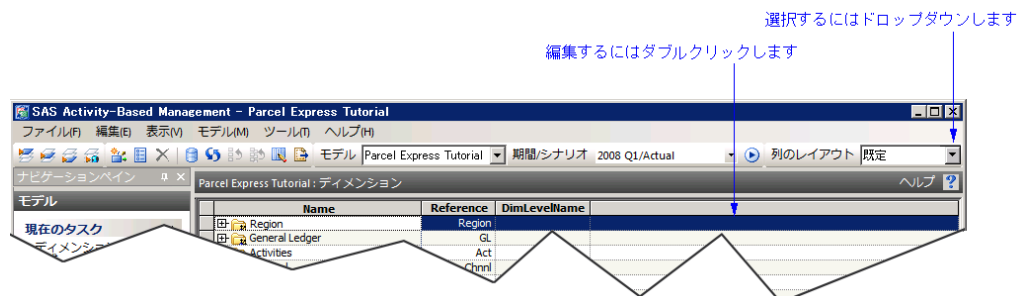
ディメンションメンバへの属性の割り当ては 2 段階で行われます。

- “ディメンションビューに表示される属性列の定義” (209 ページ)
- “ディメンションメンバへの属性の割り当て” (212 ページ)

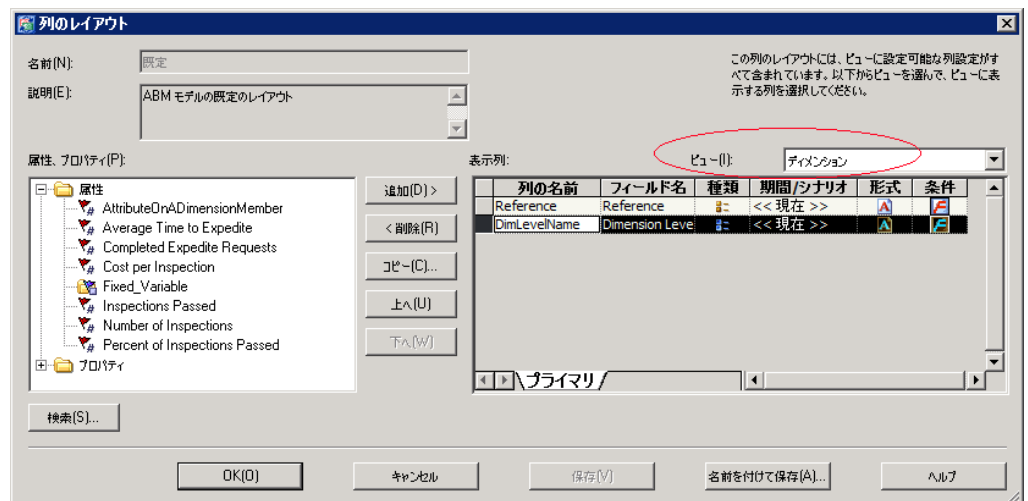
ディメンションビューに表示される属性列の定義

1. **モデル** ⇒ **ディメンション**を選択して、属性を適用するモデルのディメンションビューを開きます。
2. **モデル** ⇒ **列のレイアウト** ⇒ **列の編集**を選択して、列のレイアウトダイアログボックスを開きます。

注: 列のヘッダーをダブルクリックして開くこともできます。



列のレイアウトダイアログが開き、ディメンションビューのレイアウトが表示されます。



3. 列のレイアウトに表示する属性を選択して追加すると、ディメンションメンバに属性を割り当てられます。

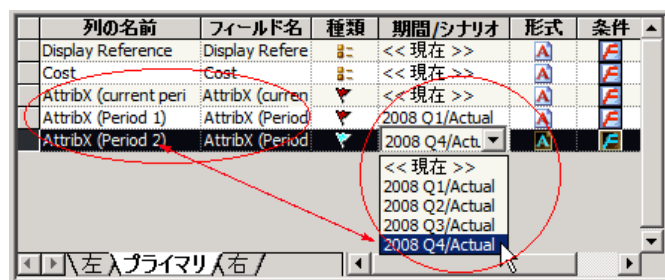
選択した各属性に、次を指定します。

列の名前


列の名前は、ディメンションメンバの属性を示すためにディメンションビューに表示される名前です。これは任意の名前で、属性を識別できるように割り当てられます。属性が割り当てられている期間とシナリオを示す場合もあります。これにより、異なる期間とシナリオに適用された、同じ属性の異なるインスタンス同士を区別できます。

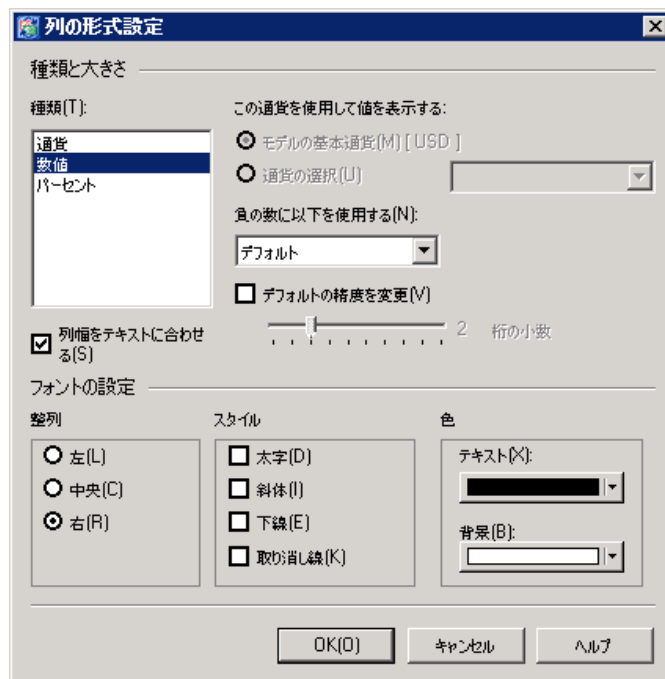
期間/シナリオ

この属性がアカウントに適用される際の期間とシナリオです。ディメンションメンバの属性には期間が指定されます。さまざまな期間とシナリオに異なる値を指定できます。



形式

形式アイコン  をクリックして、列の形式設定ダイアログを開き、属性の列表示の形式を設定します。







注: 列のレイアウトダイアログの次のフィールドは変更できません。情報として表示されます。
















フィールド名

フィールド名は、作成時に割り当てた属性の名前です。

種類

	タグ属性(ブール値)
	ディメンション属性
	数値属性
	テキスト属性

これらのフィールドは変更できません

列の名前	フィールド名	種類	期間/シナリオ	形式	条件
Reference	Reference		<< 現在 >>		
DimLevelName	Dimension Lev		<< 現在 >>		
AttribX (current period)	AttribX (curre		<< 現在 >>		
AttribX (Period 1)	AttribX (Period		<< 現在 >>		
AttribX (Period 2)	AttribX (Period		<< 現在 >>		

- 列のレイアウトを保存する場合は、名前を付けて保存をクリックします。

列のレイアウトを名前を付けて保存

☐ 既存の列のレイアウト(X): 列のレイアウト

☒ 新しい列のレイアウト(N):

説明(C):

OK(O) キャンセル ヘルプ

- OK をクリックします。

属性レイアウトダイアログが閉じて、ディメンションビューに戻ると、先ほど定義した属性列が表示されます。

属性列が表示されます

SAS Activity-Based Management - Parcel Express Tutorial

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) モデル(M) ツール(T) ヘルプ(H)

モデル Parcel Express Tutorial 期間/シナリオ 2008 Q1/Actual 列のレイアウト 既定

Name	Reference	DimLevelName	Fixed_Variable	Average Time to Expedite	Inspections Passed
Region	Region				
General Ledger	GL				
Wages	Wages	Level1			
Operating Expenses	Operating Expen	Level1			
Equipment Expenses	Equipment Expen	Level1			
Activities	Act				
Channel	Chnnl				
Products and Services	Prod_Serv				
Materials	Mat				
Fixed_Variable	FV				

注: 属性はまだ、どのディメンションメンバにも割り当てられていません。表示する属性列のみが設定されました。

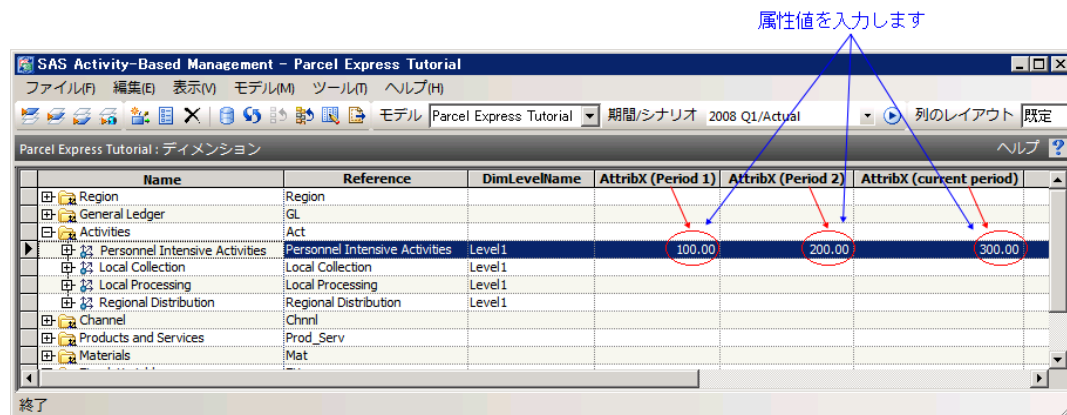
デイメンションメンバへの属性の割り当て

デイメンションメンバに属性を割り当てるには 2 つの方法があります。

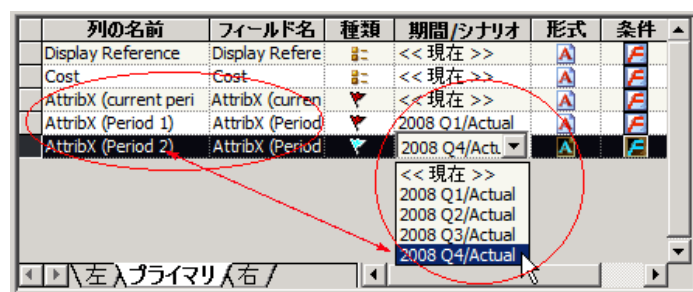
- デイメンションビューによる属性の割り当て
- 属性の管理ダイアログによる属性の割り当て

デイメンションビューによる属性の割り当て

デイメンションビューに表示する属性列を定義してから、デイメンションメンバの列のセルに属性値を入力します(またはデイメンション属性の値を選択します)。



注: 次の図が示すように、入力した値の適用先の期間は、列のレイアウトダイアログの期間列に指定された期間です。



注: デイメンションビューを使用すると、次の種類の属性を割り当てられます。

- テキスト
- 数値(計算数値以外)
- デイメンション

この方法では、次の種類の属性は割り当てられません。

- 計算数値(この値はユーザーが入力するのではなく、計算されるため)
- タグ(入力できる値がないため)

属性の管理ダイアログによる属性の割り当て

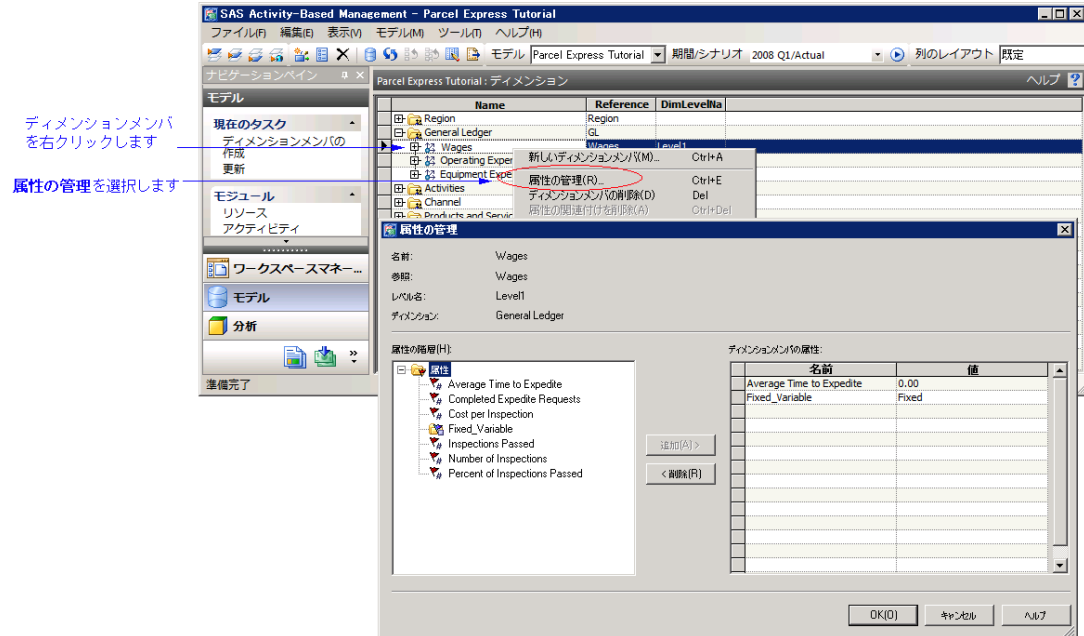
属性の管理ダイアログを使用するには、次の操作を行います。

1. **モデル** ⇨ **デイメンション**を選択して、属性を適用するモデルのデイメンションビューを開きます。

2. 期間/シナリオ関連付けを選択します。選択した期間/シナリオは、追加した属性が適用される期間/シナリオです。



3. ディメンションメンバを選択し、右クリックして、属性の管理を選択します。
属性の管理ダイアログが開きます。



4. ディメンションメンバに割り当てる属性を選択します。
5. OK をクリックします。

関連項目:

“ディメンションメンバからの属性の削除” (213 ページ)

ディメンションメンバからの属性の削除

属性とディメンションメンバの関連付けを削除するには、3 つの方法があります。

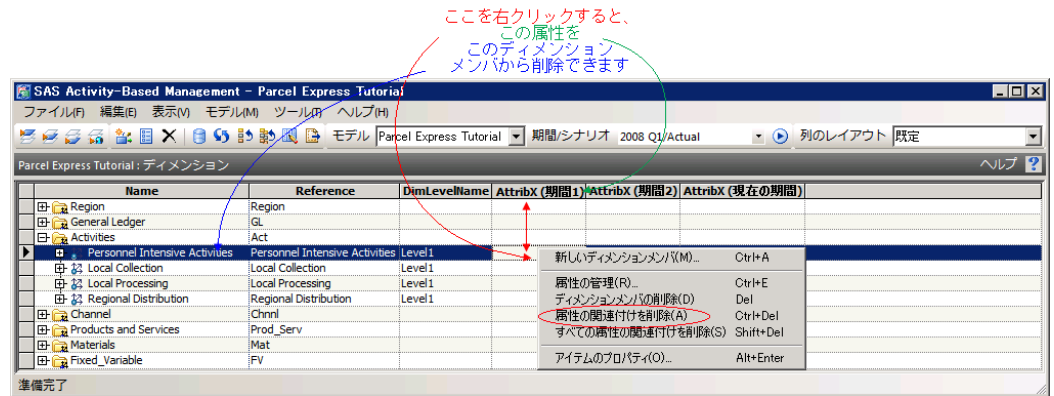
- ディメンションメンバから特定の属性を削除
- ディメンションメンバからすべての属性を削除
- 属性の管理ダイアログを使用して属性を削除

ディメンションメンバから特定の属性を削除

ディメンションメンバから特定の属性を削除するには、次の操作を行います。

1. モデル ⇨ ディメンションを選択して、ディメンションビューを開きます。

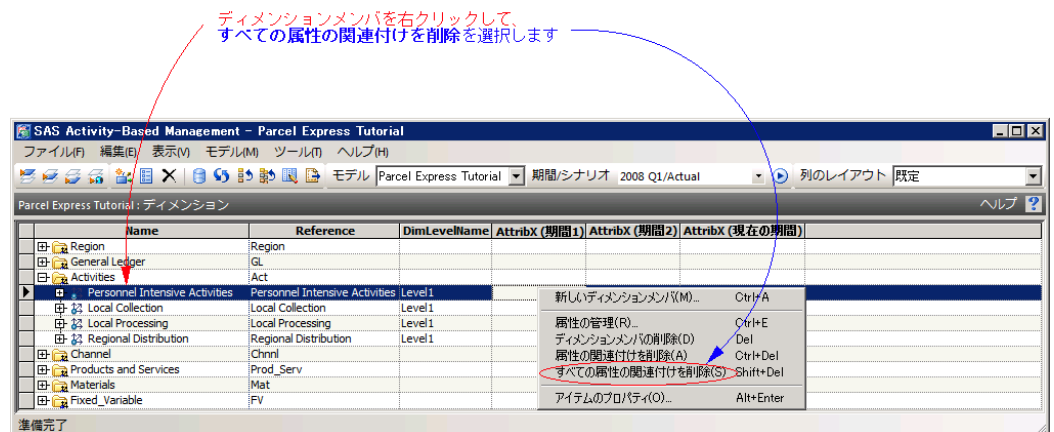
2. 削除する属性の列と、属性を削除するディメンションメンバの行が交わるセルを右クリックして(次の図を参照)、属性の関連付けを削除を選択します。



ディメンションメンバからすべての属性を削除

ディメンションメンバからすべての属性を削除するには、次の操作を行います。

1. モデル ⇨ ディメンションを選択して、ディメンションビューを開きます。
2. すべての属性を削除するディメンションメンバを右クリックして、すべての属性の関連付けを削除を選択します。

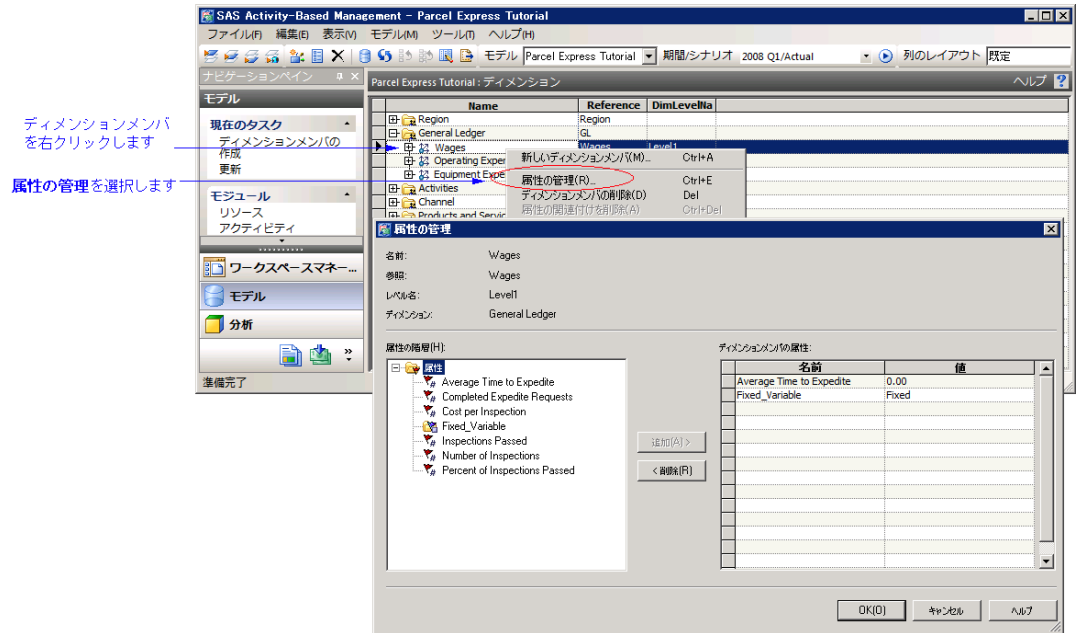


属性の管理ダイアログを使用して属性を削除

属性の管理ダイアログを使用するには、次の操作を行います。

1. モデル ⇨ ディメンションを選択して、ディメンションビューを開きます。
2. ディメンションメンバを選択し、右クリックして、属性の管理を選択します。

属性の管理ダイアログが開きます。



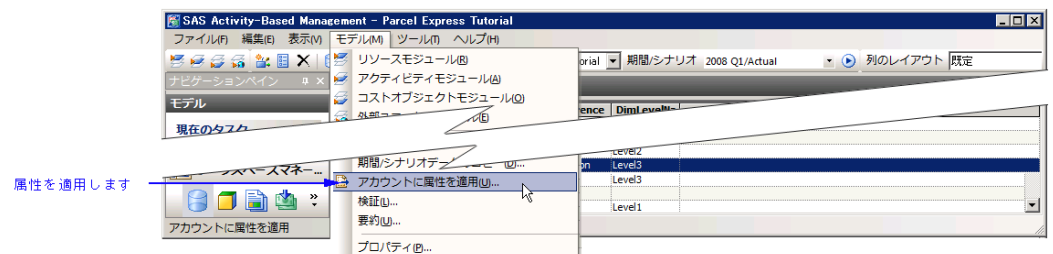
3. ディメンションメンバから削除する属性を選択して、**削除**をクリックします。
4. **OK** をクリックして、属性の管理ダイアログを閉じます。

アカウントへのディメンションメンバの属性の適用

属性をディメンションメンバに割り当てた後は、その属性を個々のアカウントに適用できます。ディメンションメンバの属性ごとに、ディメンシングネチャにそのディメンションメンバが含まれるすべてのアカウントに追加されます。

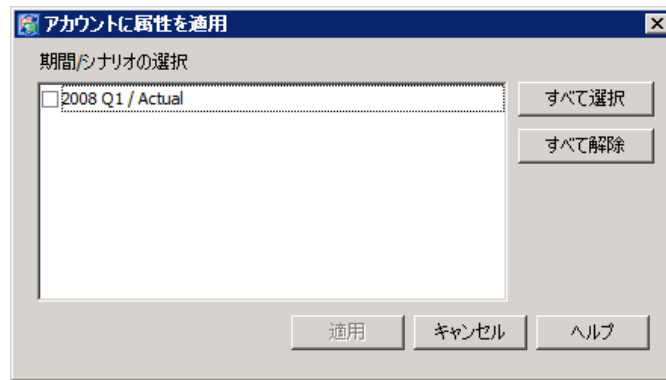
注: この操作は、モデルの計算時に常に自動的に実行されるため、実行する必要はありません。ただし、アカウントに適用された属性を表示する場合は、この操作を計算実行前に実行できます。

1. ディメンションビューから**モデル** ⇒ **属性をアカウントに適用**を選択します。



属性をアカウントに適用ダイアログボックスが開きます。

2. アカウントに適用するディメンションメンバの属性の期間/シナリオの関連付けを選択します。



3. **OK** をクリックします。

関連項目:

- “ディメンションメンバの属性” (199 ページ)
- 20 章, “ディメンションメンバの属性” (199 ページ)
- “ディメンションメンバへの属性の割り当て” (209 ページ)

21 章

属性ウィンドウ

属性ビュー	218
属性ビューについて	218
属性ビューの表示	218
属性フォルダの作成	218
ディメンション属性の作成	218
属性の作成	219
属性の削除	219
アイテムのプロパティの確認、変更	219
属性が追加されたアカウントの表示	219
新しい属性ダイアログボックス	219
新しい属性ダイアログボックスについて	219
新しい属性ダイアログボックスの表示	220
情報の指定	220
数値属性の詳細情報の指定	220
属性の管理ダイアログボックス	220
属性の管理ダイアログボックスについて	220
属性の管理ダイアログボックスの表示	221
属性の追加	221
属性の削除	221
属性の値の指定	221
属性プロパティダイアログボックス	221
属性プロパティダイアログボックスについて	221
属性プロパティダイアログボックスの表示	221
情報の指定	221
数値属性の詳細情報の指定	222
プロパティ/属性の検索ダイアログボックス	222
プロパティ/属性の検索ダイアログボックスの表示	222
プロパティまたは属性の検索	222
アイテムのプロパティと属性ダイアログボックス	223
アイテムのプロパティと属性ダイアログボックスについて	223
アイテムのプロパティと属性ダイアログボックスの表示	223
情報の確認	223
プロパティと属性の確認、変更	223
SAS Strategy Management で使用するメジャーの指定	223
プロパティと属性の検索ダイアログボックス	224
プロパティと属性の検索ダイアログボックスについて	224
プロパティと属性の検索ダイアログボックスの表示	224
アイテムの選択	224

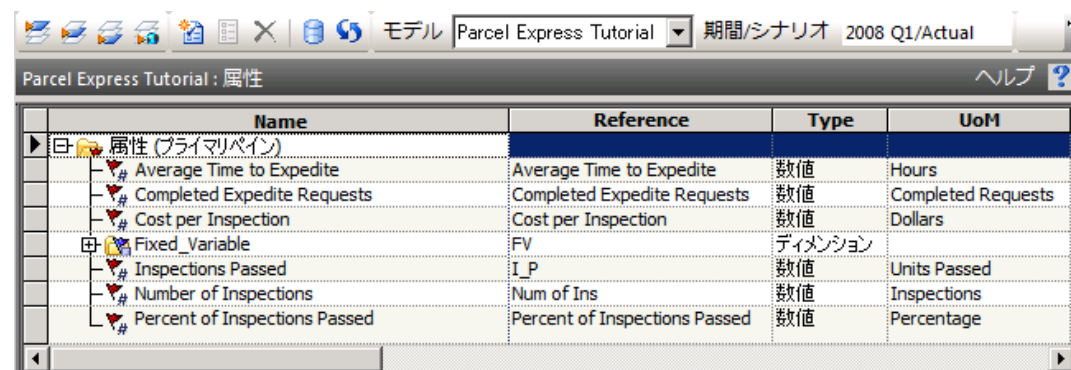
属性フォルダのプロパティダイアログボックス	224
属性フォルダのプロパティダイアログボックスについて	225
属性フォルダのプロパティダイアログボックスの表示	225
情報の指定	225
新しい属性フォルダダイアログボックス	225
新しい属性フォルダダイアログボックスについて	225
新しい属性フォルダダイアログボックスの表示	225
情報の指定	225

属性ビュー

属性ビューについて

権限によっては、機能を使用できません。

属性ビューでは、モデルの属性を管理できます。



Name	Reference	Type	UoM
属性 (プライマリペイン)			
Average Time to Expedite	Average Time to Expedite	数値	Hours
Completed Expedite Requests	Completed Expedite Requests	数値	Completed Requests
Cost per Inspection	Cost per Inspection	数値	Dollars
Fixed_Variable	FV	ディメンション	
Inspections Passed	I_P	数値	Units Passed
Number of Inspections	Num of Ins	数値	Inspections
Percent of Inspections Passed	Percent of Inspections Passed	数値	Percentage

注: 属性ビューの情報は、直接編集できません。

属性ビューの表示

モデルモードでモデルを開いて、モデル ⇒ 属性ビューを選択します。

属性フォルダの作成

1. その下に新しいフォルダを作成する属性フォルダ(ディメンション属性フォルダ以外)を選択します。
2. 編集 ⇒ 新しいフォルダを選択します。

新しい属性フォルダダイアログボックスが表示されます。

注: ディメンション属性を作成するには、次の手順に従ってください。

ディメンション属性の作成

1. ATTRIBUTES または既存のディメンション属性を選択します。

2. **編集** ⇨ **新しい属性**を選択します。
新しい属性ダイアログボックスが表示されます。

属性の作成

1. その下に新しい属性を作成する**属性フォルダ**を選択します。
2. **編集** ⇨ **新しい属性**を選択します。
新しい属性ダイアログボックスが表示されます。

属性の削除

1. 属性を選択します。
2. **編集** ⇨ **削除**を選択します。

アイテムのプロパティの確認、変更

1. アイテムを選択します。
2. **編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。
属性フォルダを選択した場合、**属性フォルダのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。
属性を選択した場合、**属性プロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

属性が追加されたアカウントの表示

1. **モデル** ⇨ **割り当て** ⇨ **右割り当てペインを表示**を選択します。
右割り当てペインが表示されます。
2. 属性を選択します。
3. **モデル** ⇨ **割り当て** ⇨ **右を表示**を選択します。
この属性がアカウントに追加されている場合、該当するアカウントが表示されます。

新しい属性ダイアログボックス

新しい属性ダイアログボックスについて

新しい属性ダイアログボックスでは、新しい属性に名前を付けて、他の属性情報を指定できます。ディメンション属性フォルダを作成できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

新しい属性ダイアログボックスの表示

属性ビューで、属性フォルダまたは ATTRIBUTES のいずれかを選択して、**編集** ⇨ **新しい属性**を選択します。

情報の指定

1. 名前を入力します。
2. 参照を入力します。

デフォルトの参照は、名前から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。

3. 属性の種類を選択します。

注: ATTRIBUTES または既存のディメンション属性を選択して、**ディメンション**を選択した場合、ディメンション属性ではなく、ディメンション属性フォルダが作成されます。

種類に数値を選択した場合、次の操作を行います。

1. (オプション)メジャーの単位を入力します。
2. 詳細情報を指定します。

数値属性の詳細情報の指定

1. **詳細タブ**をクリックします。
2. **以下の期間/シナリオ関連付けを使うメニュー**から、期間/シナリオ関連付けを選択します。
3. (オプション)デフォルト値を入力します。
4. この属性が計算属性の場合、次の操作を行います。
 - a. **計算オプション**を選択します。
 - b. **式ビルダ**をクリックします。

式ビルダダイアログボックスが表示されます。

ヒント 式ダイアログボックスで、式を変更することもできます。

属性の管理ダイアログボックス

属性の管理ダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

属性の管理ダイアログボックスでは、アカウントに追加された属性を管理できます。

属性の管理ダイアログボックスの表示

リソースモジュールビュー、アクティビティモジュールビュー、コストオブジェクトモジュールビュー、外部ユニットモジュールビューのいずれかでアカウントを選択し、**編集** ⇨ **属性の管理**を選択します。

属性の追加

1. **属性の階層**リストから、属性を選択します。
2. **追加**>をクリックします。
属性は、**アカウントの属性**リストに移動します。

属性の削除

1. **アカウントの属性**リストから、属性を選択します。
2. <**削除**をクリックします。
属性は、**属性の階層**リストに移動します。

属性の値の指定

1. **アカウントの属性**リストから、属性を選択します。
2. **値**を設定します。
指定できる値の種類は、属性の種類によって異なります。

属性プロパティダイアログボックス

属性プロパティダイアログボックスについて

属性プロパティダイアログボックスでは、属性の情報を確認、変更できます。
権限によっては、機能を使用できません。

属性プロパティダイアログボックスの表示

属性ビューで、属性を選択し、**編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。

情報の指定

1. **全般**タブをクリックします。
2. 名前を入力します。“**命名規則**” (81 ページ)を参照してください。
3. 参照を入力します。“**参照規則**” (86 ページ)を参照してください。

注: 属性の種類は、読み取り専用です。

4. 属性の種類が数値の場合、次の操作を行います。
 - a. (オプション)メジャーの単位を入力します。
 - b. 詳細情報を指定します。

数値属性の詳細情報の指定

1. 詳細タブをクリックします。
2. 以下の期間/シナリオ関連付けを使うメニューから、期間/シナリオ関連付けを選択します。
3. デフォルト値を入力します。
4. この属性が計算属性の場合、次の操作を行います。
 - a. 計算オプションを選択します。
 - b. 式ビルダをクリックします。式ビルダダイアログボックスが表示されます。

ヒント 式ボックスで、式を変更することもできます。

関連項目:

- “数値属性” (187 ページ)
- “計算属性” (188 ページ)

プロパティ/属性の検索ダイアログボックス

アカウント検索クエリを作成する際、**プロパティ/属性の検索**ダイアログボックスを使用して、アカウントを検索するための**プロパティ**または**属性**を簡単に検索できます。

プロパティ/属性の検索ダイアログボックスの表示

アカウント検索ダイアログボックスで、**検索**をクリックします。

プロパティまたは属性の検索

1. 表示メニューで、プロパティ、属性、両方のいずれを検索するかを指定します。
2. リストを迅速に検索するには、**検索**ボックスに句を入力します。

テキストを入力すると、そのテキストと最も一致するアイテムが選択されます。
3. リストからアイテムを選択します。

リスト下部にアイテムの説明が表示されます。

注: 属性などの一部のアイテムには、説明が表示されない場合があります。

関連項目:

- “アカウント検索ダイアログボックス” (171 ページ)
- “アカウント検索結果ダイアログボックス” (172 ページ)

アイテムのプロパティと属性ダイアログボックス

アイテムのプロパティと属性ダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

アイテムのプロパティと属性ダイアログボックスでは、ドライバビュー以外のモデルモードビューで選択したアイテムのプロパティや属性を確認できます。

アイテムのプロパティと属性ダイアログボックスの表示

ドライバビュー以外のモデルモードビューで、アイテムを選択して、**編集** ⇒ **アイテムのプロパティ**を選択します。

情報の確認

情報を確認するには、次の操作を行います。

- **全般**タブをクリックします。

全般タブには、表示名、ディメンション識別子、参照の表示、種類など、選択したアイテムに関する情報が表示されます。

プロパティと属性の確認、変更

1. **プロパティ**タブまたは**属性**タブをクリックします。

アイテムに属性がある場合のみ、**属性**タブが表示されます。

2. プロパティを検索するには、**検索**をクリックします。

プロパティと属性の検索ダイアログボックスが表示されます。

注: 探しているプロパティが見つかった場合、そのプロパティは**アイテムのプロパティと属性**ダイアログボックスに選択されます。プロパティが選択されない場合、アイテムにそのプロパティは含まれていません。

3. 名前リストのアイテムを編集するには、値を入力するか、選択します。

SAS Strategy Management で使用するメジャーの指定

パフォーマンスメジャーとしてパブリッシュする SAS Activity-Based Management モデルのプロパティと属性を指定できます。詳細については、SAS Strategy Management との統合ステップを参照してください。

1. **パフォーマンス** メジャータブをクリックします。

パフォーマンス メジャータブには、SAS Strategy Management にパブリッシュする際に使用できるパフォーマンスメジャー(数値プロパティと属性)のリストが表示されます。

2. **パブリッシュ名**フィールドに、選択したプロパティと属性のセット名を入力します。

注: **パブリッシュ名**フィールドに指定できるのは 32 文字までです。デフォルトの**パブリッシュ名**は、選択したアイテムの参照の表示です。(パブリッシュ名を変更しても、参照の表示は変更されません。)パブリッシュ名が 32 文字を超えると、SAS Strategy Management へのパブリッシュ時に次のエラーメッセージが表示されます:このコードの階層が見つかりません...またはこのコードのメンバが見つかりません...これはパブリッシュ中に名前が 32 文字に切り捨てられるためです。大文字小文字の区別など、パブリッシュ名が完全に一致しない場合にも、これらのメッセージが表示されます。

3. SAS Strategy Management にパフォーマンスメジャーとしてパブリッシュする数値プロパティと属性の横にあるチェックボックスを選択します。

注: SAS Strategy Management には、数値プロパティと属性のみをパブリッシュできます。

プロパティと属性の検索ダイアログボックス

プロパティと属性の検索ダイアログボックスについて

プロパティと属性の検索ダイアログボックスでは、列を追加する際に表示するデータを検索したり、アイテムのプロパティや属性を確認する際にプロパティを検索したりできます。

プロパティと属性の検索ダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- **列のレイアウト**ダイアログボックスで、**検索**をクリックします。
- **アイテムのプロパティ**ダイアログボックスで、**検索**をクリックします。

アイテムの選択

1. **表示メニュー**から、表示するアイテムを選択します。
2. リストを迅速に検索するには、**検索**ボックスに句を入力します。
テキストを入力すると、そのテキストと最も一致するアイテムが選択されます。
3. リストからアイテムを選択します。

リスト下部にアイテムの説明が表示されます。

注: 属性などの一部のアイテムには、説明が表示されない場合があります。

属性フォルダのプロパティダイアログボックス

属性フォルダのプロパティダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

属性フォルダのプロパティダイアログボックスでは、属性フォルダの情報を確認、変更できます。

属性フォルダのプロパティダイアログボックスの表示

属性ビューで、フォルダを選択し、**編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。

情報の指定

1. 全般タブをクリックします。
2. 名前を入力します。“[命名規則](#)” (81 ページ)を参照してください。
3. 参照を入力します。“[参照規則](#)” (86 ページ)を参照してください。

新しい属性フォルダダイアログボックス

新しい属性フォルダダイアログボックスについて

新しい属性フォルダダイアログボックスでは、新しいフォルダに名前を付けて、フォルダの参照を指定できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

注: デイメンション属性を作成するには、次の手順に従ってください。

新しい属性フォルダダイアログボックスの表示

属性ビューで、アイテムを選択し、**編集** ⇨ **新しいフォルダ**を選択します。

情報の指定

1. 名前を入力します。
 2. 参照を入力します。
- デフォルトの参照は、名前から作成されます。参照を変更する場合、新しい参照は参照規則に従う必要があります。

8 部

列のレイアウト

22 章	
列のレイアウトの操作	229
23 章	
列のレイアウトウィンドウ	245
24 章	
列のレイアウトへのプロパティの追加	251

22 章

列のレイアウトの操作

列のレイアウト	229
列のレイアウトについて	230
複数の期間/シナリオの関連付けの表示	231
列のレイアウトの保存	231
列のレイアウトのインポートとエクスポート	231
事前定義の列のレイアウト	231
デフォルトの列レイアウト	232
列の追加	232
列の削除	234
列の並べ替え	234
列の形式設定	234
概要	234
形式の設定方法	235
色、スタイル、配置	236
通貨	236
数値	237
パーセント	237
テキスト	237
チェックボックス	237
選択可能な形式の種類	237
負の数	237
精度	238
通貨の形式設定	238
通貨記号の表示	238
列のセルの条件による強調表示	238
概要	239
追加セルの強調表示	240
強調表示の削除	241
強調表示の保存	241
条件	242
列の参照期間の選択	243
列のレイアウトの保存	243
既存の列のレイアウトの適用	243
他のモジュールへの列のレイアウトのコピー	244

列のレイアウト

列のレイアウトについて

SAS Activity-Based Management では、グリッドのユーザー定義の列に情報が表示されます。列での情報の表示設定を指定できます。表示に納得したら、表示設定を保存(列のレイアウトを保存)します。後で、保存した列のレイアウトを表示できます。列は、列のレイアウトを保存したときと同じように表示されます。列のレイアウトのインポートと列のレイアウトのエクスポートが可能です。



注: グリッドの列を追加または削除することで、テーブルのビューが提供されます。この場合、テーブルのデータに影響はありません。列を追加または削除するには、**モデル** ⇒ **列のレイアウト** ⇒ **列の編集**を選択します。または、列のヘッダーをダブルクリックして、列のレイアウトダイアログボックスを開きます。

注: 列のレイアウトの左端の列は常に必須の**表示名列**のため、列の削除、変更、並べ替えはできません。

また、SAS Activity-Based Management に複数用意されている事前定義の列のレイアウトをモデルに適用できます。

SAS Activity-Based Management のグリッドの各列には、プロパティが表示されます。プロパティは、ユーザーが入力した値、または SAS Activity-Based Management によって計算された値を含むモデルアイテムを表します。

列のレイアウトは、表示列、列の形式、列の順序から構成されます。各種情報(プロパティ、属性、期間、シナリオなど)を表示するように、次のビューの列のレイアウトをカスタマイズできます。

- リソースモジュール
- アクティビティモジュール
- コストオブジェクトモジュール
- 外部ユニットモジュール

注: 列のレイアウトの左端の列は必須の**表示名列**のため、列の削除、変更、並べ替えはできません。

カスタマイズした列のレイアウトを保存する際、後でできるようにレイアウトに名前を割り当てます。モデルが開かれている場合、列のレイアウトはそのモデルに適用されます。モデルが開かれていない場合にワークスペースマネージャから列のレイアウト

トを選択すると、その列のレイアウトが保存された元のモデルが開かれます。選択した列のレイアウトはそのモデルに適用され、リソースモジュールが開かれます。

名前付きの列のレイアウトには、モジュール別に 4 つの表示が含まれます。たとえば、リソースモジュールのお気に入りやアクティビティモジュールのお気に入りなど、モジュールごとに異なる名前の列のレイアウトを作成するのではなく、表示モジュールによって変化するお気に入りという名前の列のレイアウトを 1 つ作成できます。

同一サーバー上のすべてのユーザーによって保存されたすべての列のレイアウトが、ワークスペースマネージャに表示されます。そのため、組織内で列のレイアウトの保存と命名のガイドラインを用意する必要があります。

複数の期間/シナリオの関連付けの表示

デフォルトでは、新しい列にはモデルの現在の期間/シナリオ関連付けの値が表示されます。期間/シナリオ関連付けのメジャーを比較する場合、期間/シナリオ関連付けが異なる列を複数作成します。

列のレイアウトの保存

SAS Activity-Based Management では、ワークスペースマネージャの列のレイアウトフォルダに列のレイアウトが格納されます。列のレイアウトを保存する際、次の情報が保存されます。

- 説明
- 列ヘッダー
- 各列に表示される情報と、その情報が関連付けられた期間/シナリオ関連付け
- 各列の形式、列の順序(左から右)
- モデル
- 列の幅
- 開かれているモジュール

次に情報は保存されません。

- 割り当てペインの表示数

列のレイアウトのインポートとエクスポート

SAS Activity-Based Management では、作成済みの列のレイアウトを操作できます。列のレイアウトをインポートまたは列のレイアウトをエクスポートして、モデルに適用できます。

事前定義の列のレイアウト

SAS Activity-Based Management には、ビジネス用に設計された事前定義の列のレイアウト(デフォルトの列のレイアウトを含む)が複数用意されています。事前定義の列のレイアウトは、ワークスペースマネージャの列のレイアウト ⇒ システムフォルダに配置されています。

注: 事前定義の列のレイアウトは変更できません。

デフォルトの列レイアウト

デフォルトの列レイアウトは、列の追加や削除、および列の形式設定の前に、デフォルトですべてのユーザーに表示される列のレイアウトです。そこに含まれる列は、**表示名**、**参照の表示**および**コスト**です。

デフォルトの列レイアウトの変更後に、列のレイアウトを保存しないようにします。デフォルトの列レイアウトの変更を保存すると、すべてのユーザーのデフォルトの列レイアウトが変更されます。デフォルトの列レイアウトに対する各自の変更は、それぞれの列のレイアウトに保存します。

注: 列**表示名**はアイテムのシステム生成名で、選択や編集ができる名前ではありません。編集可能な名前を表示するには、プロパティ名を表示する列をグリッドに追加します。

関連項目:

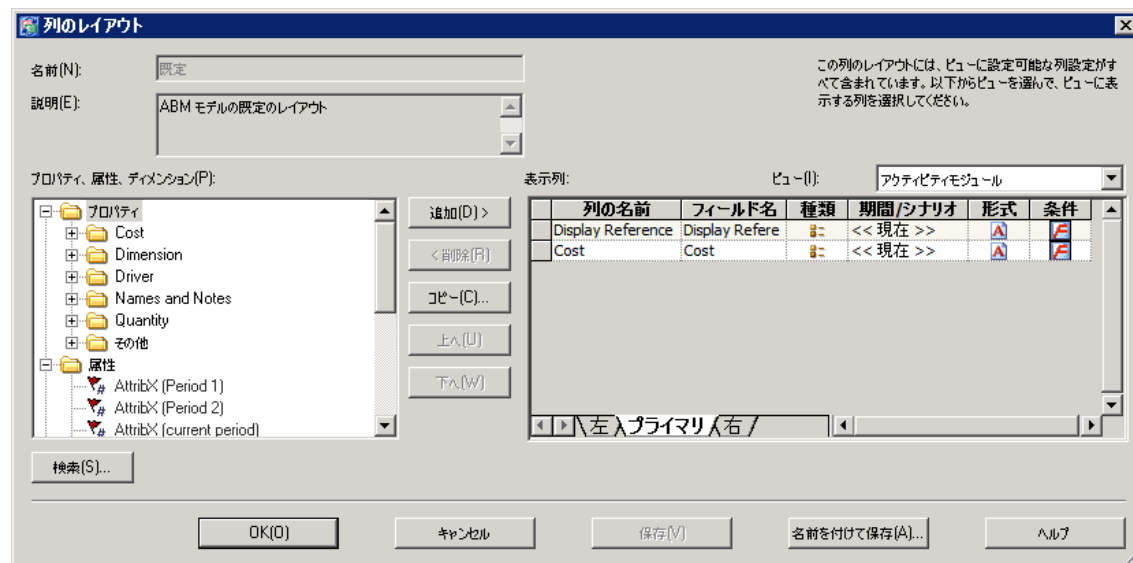
- “列の追加” (232 ページ)
- “列の形式設定” (234 ページ)

列の追加

1. モジュールページで、**モデル** ⇒ **列のレイアウト** ⇒ **列の編集**を選択します。

ヒント 列のヘッダーをダブルクリックして表示することもできます。

列のレイアウトダイアログボックスが表示されます。



2. この列のレイアウトを適用する**モジュール**を選択します。
3. **表示列**のリストで、列を追加するペインに該当するタブ(**左**、**プライマリ**、**右**)を選択します。
4. **プロパティ**、**属性**、**ディメンション**のリストから、アイテムを選択します。
5. アイテムを検索するには、次の操作を行います。

- a. **検索**をクリックします。

プロパティと属性の検索ダイアログボックスが表示されます。



- b. **表示**ドロップダウンリストから、表示するアイテムを選択します。

- c. アイテムのリストを迅速に検索するには、**検索**ボックスに句を入力します。
テキストを入力すると、そのテキストと最も一致するアイテムが選択されます。

- d. リストからアイテムを選択します。

アイテムの**説明**が表示されます。

注: 属性などの一部のアイテムには、説明が表示されない場合があります。

- e. **OK** をクリックします。

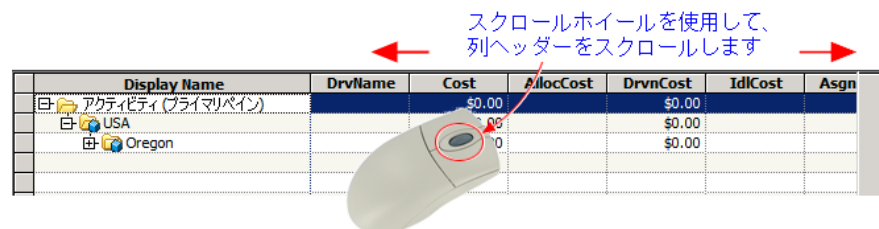
6. **追加>**をクリックします。

7. 列の名前を変更するには、新しい行の**列の名前**をクリックして、新しい名前を入力します。

入力した名前は、列のレイアウトの列ヘッダーに表示されます。

8. 他の期間/シナリオ関連付けを選択するには、**期間/シナリオ**列をクリックして期間/シナリオ関連付けを選択します。

注: 列のレイアウトで列のヘッダーが多すぎてウィンドウに一度に表示できない場合は、マウスのスクロールホイールを使用すると、列のヘッダーをスクロールできます。



列の削除

1. モジュールページで、**モデル** ⇨ **列のレイアウト** ⇨ **列の編集**を選択します。
列のレイアウトダイアログボックスが表示されます。
2. この列のレイアウトを適用する**モジュール**を選択します。
3. **表示列**のリストで、列を削除するペインに該当するタブ(**左**、**プライマリ**、**右**)を選択します。
4. 行(ビューの列)を選択します。
5. < **削除**をクリックします。
行(列)が**表示列**のリストから削除されます。

列の並べ替え

1. モジュールページで、**モデル** ⇨ **列のレイアウト** ⇨ **列の編集**を選択します。
列のレイアウトダイアログボックスが表示されます。
2. この列のレイアウトを適用する**モジュール**を選択します。
3. **表示列**のリストで、並べ替えるペインに該当するタブ(**左**、**プライマリ**、**右**)を選択します。
4. 行(ビューの列)を選択します。
5. 行を上に移動するには、**上へ**をクリックします。
この行が示す列は、左に移動して表示されます。
6. 行を下に移動するには、**下へ**をクリックします。
この行が示す列は、右に移動して表示されます。

ヒント リソースモジュールページ、アクティビティモジュールページ、コストオブジェクトモジュールページ、外部ユニットモジュールページでは、列をドラッグできません。

列の形式設定

概要

次のページに列を追加する際、SAS Activity-Based Management では、列にデフォルトの形式を割り当てます。

- リソースモジュール
- アクティビティモジュール

- コストオブジェクトモジュール
- 外部ユニットモジュール
- ディメンションビュー

デフォルトの形式は、次の要素に基づきます。

- データの種類
- 各自の Windows の地域オプション
- デフォルトの通貨
- オプションで指定した表示精度

個々の列について形式の一部を変更できます。テキストの色、背景色、セルの配置、フォントスタイルなどの列の一般的な表示設定を指定できます。通貨や形式の種類も指定できます。通貨や形式の種類を変更すると、データの画面表示に影響します。データ自体の通貨や形式の種類は変更されません。


形式の設定は、グリッドでの情報の表示に影響します。OLAP ビューのキューブのビューのタイトルバーには、モデルの基準通貨が表示されます。メジャーは、数値として形式が設定されます。

一部のレポートには、為替レートテーブルで指定した 2 種類の通貨を表示できます。さらに、別のアプリケーションにレポートをエクスポートして、形式を変更できます。

形式の設定方法

1. リソースモジュールページ、アクティビティモジュールページ、コストオブジェクトモジュールページ、外部ユニットモジュールページで、**モデル** ⇨ **列のレイアウト** ⇨ **列の編集**を選択します。

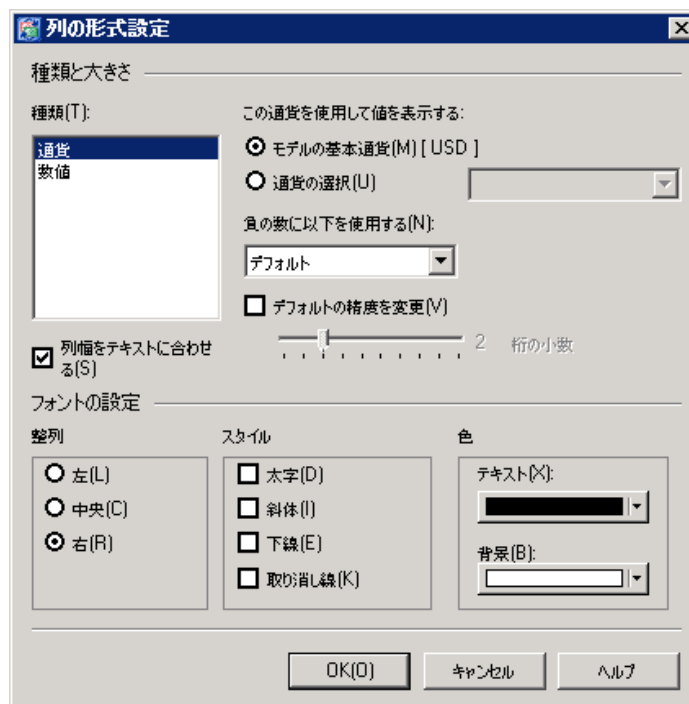
列のレイアウトダイアログボックスが表示されます。

2. 形式を設定する列を示す行で、をクリックします。

列の形式を設定します

列の名前	フィールド名	種類	期間/シナリオ	形式	条件
Display Reference	Display Refere		<< 現在 >>		
Cost	Cost		<< 現在 >>		

列の形式設定ダイアログボックスが表示されます。



3. **種類と大きさ**セクションで、データの**種類**を選択します。
4. **この通貨を使用して値を表示する**のオプションを選択または選択解除します。
5. **負の数に以下を使用する**ドロップダウンリストのオプションを選択または選択解除します。
6. 精度を指定します。
デフォルトの精度を変更オプションを選択または選択解除します。
桁の小数に数値を設定します。
7. すべてのデータを表示できるように列の幅を簡単に設定するには、**列幅をテキストに合わせる**オプションを選択します。
8. **フォントの設定**セクションでは、**整列**、**スタイル**、**色**のオプションを選択または選択解除します。

色、スタイル、配置

重要な情報を強調表示するために、列に前景色と背景色を指定できます。太字や斜体などのフォントスタイル、右揃えや左揃えなどの列内のデータの配置も指定できます。

列の内容に対して列の幅が広すぎたり狭すぎたりしないように、各列の内容に従って列の幅を調整するように指定できます。

通貨

形式の種類が通貨の場合、列の値が通貨として表示されます。列には、モデルの基準通貨または為替レートテーブルで指定した通貨を表示できます。為替レートテーブルに指定されていない通貨を含めて、使用可能な通貨から選択できます。為替レートが設定されていない通貨を選択した場合、列の値すべてに 0 が表示されます。

数値

形式の種類が数値の場合、列の値が数値として表示されます。

パーセント

形式の種類がパーセントの場合、各値に 100 を掛けて、パーセント記号(%)を付けた値が列に表示されます。

注: パーセントは、個々の列の値にのみ適用されます。列の合計に対する各値の寄与率が計算されるわけではありません。

テキスト

形式の種類がテキストの場合、列の値がテキストとして表示されます。

チェックボックス

形式の種類がチェックボックスの場合、列の値がチェックボックスとして表示されます。セルは選択された状態か、選択されていない状態のいずれかになります。

選択可能な形式の種類

列に選択できる形式の種類は、列のデータによって異なります。たとえば、テキストを含む列はデータが数値ではないため、パーセントや数値として表示するように設定できません。次の表に、データに対応する形式の種類を示します。

データ	選択可能な形式の種類
テキスト	テキスト
コストまたはレート	通貨(デフォルト) 数値
数値または数量	数値(デフォルト) 通貨 パーセント
パーセント	パーセント(デフォルト) 数値
ブール値	チェックボックス

負の数

負の数値の表示方法を指定できます。負の数値のデフォルトの表示設定は、各自の Windows の地域設定に基づいて決められます。

精度

精度は、列の数値に表示される小数点以下の桁数です。ユーザーオプションの設定が精度に適用されます。

ヒント ユーザーオプションでデフォルトの精度を設定してから新しい列を追加します。その後で、デフォルトの精度と異なる精度を表示する列に精度を設定します。

注: 次のプロパティでは、パーセントを選択した場合、各列の値の小数は 2 桁のみ表示されます。

- Driver Percentage
- Idle Percentage

通貨の形式設定

オプションで指定した小数点以下の桁数は、Windows の地域オプションの小数点以下の桁数より優先されます。

変更される形式設定	変更される形式を設定した ダイアログボックス	例
正の値の通貨形式	地域オプションの カスタマイズ	1, 1 F
負の値の通貨形式	地域オプションの カスタマイズ	-1, 1 F
小数点の記号	地域オプションの カスタマイズ	,
小数点以下の桁数	地域オプションの カスタマイズ	2
桁区切り記号	地域オプションの カスタマイズ	スペース
桁区切り	地域オプションの カスタマイズ	123 456 789

通貨記号の表示

リソースモジュールビュー、アクティビティモジュールビュー、コストオブジェクトモジュールビューで列を追加し、1 つの表示画面に複数の通貨を表示できます。

数値形式の一部として、または列ヘッダーに通貨記号を表示するように選択できます。列ヘッダーに通貨記号を表示するように選択する際、通貨記号と通貨コードのどちらかを表示することも、両方を表示することも、両方とも表示しないことも選択できます。コンピュータのフォントで通貨記号がサポートされていない場合、通貨コードのみを表示できます。

列のセルの条件による強調表示

概要

セルの条件による強調表示を使用すると、指定した条件を満たす列のセルのテキストの色と背景色を変更できます。たとえば、負の値を含むコスト列をすべて赤色で強調表示できます。または、特定の内容のテキストセルを強調表示することもできます。

列のセルを条件により強調表示するには、次の操作を行います。

1. 列のレイアウトダイアログを開きます。“列のレイアウトダイアログボックス” (245 ページ)を参照してください。
2. 強調表示するセルを含む列を選択します。
3. 条件アイコンをクリックします。

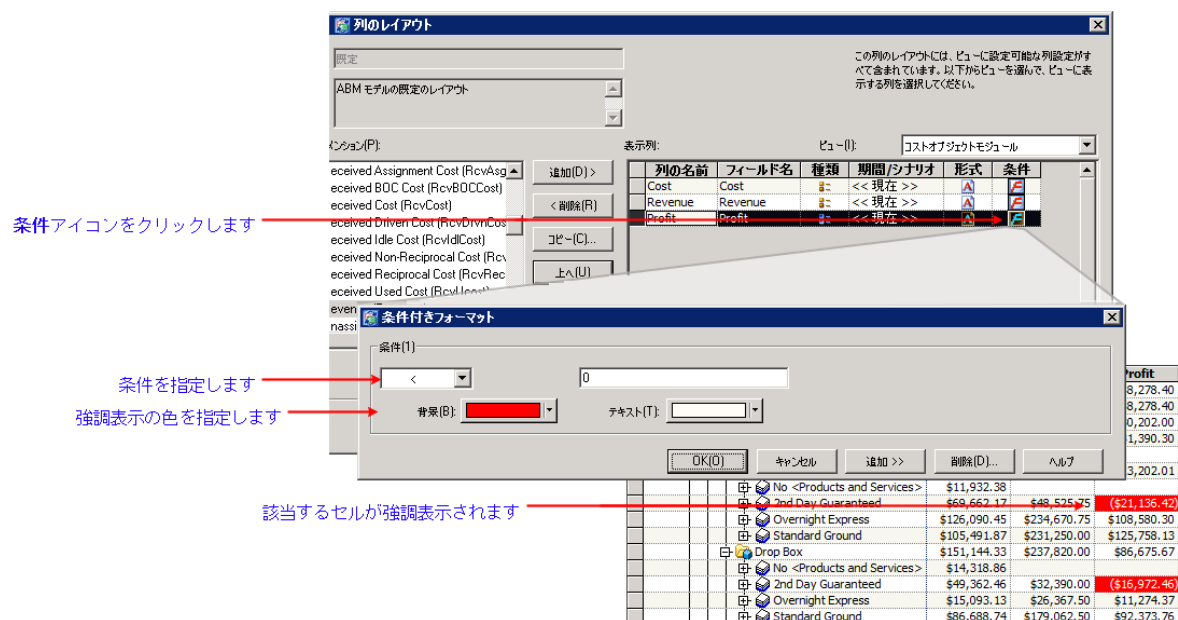
列を条件付きで強調表示します



列の名前	フィールド名	種類	期間/シナリオ	形式	条件
Display Reference	Display Refere	金	<< 現在 >>	A	F
Cost	Cost	金	<< 現在 >>	A	F

条件付きフォーマットダイアログが開きます。

4. 強調表示するセルを決定するための条件を指定します。許可された条件については、“条件” (242 ページ)を参照してください。
5. 指定条件を満たすデータを含む各セルに適用する強調表示を指定します。次を指定できます。
 - 背景色
 - テキストの色
6. **追加**をクリックして、強調表示する追加セルを選択します。選択した追加セルのセットごとに、異なる強調表示を指定できます。“追加セルの強調表示” (240 ページ)を参照してください。



追加セルの強調表示

列ごとに、強調表示するセルのセットを複数選択できます。選択したセルのセットごとに、異なる強調表示を指定できます。

強調表示する列のセルのセットを複数選択するには、次の操作を行います。

1. 列のレイアウトダイアログボックスで、条件アイコンをクリックします。

列を条件付きで強調表示します

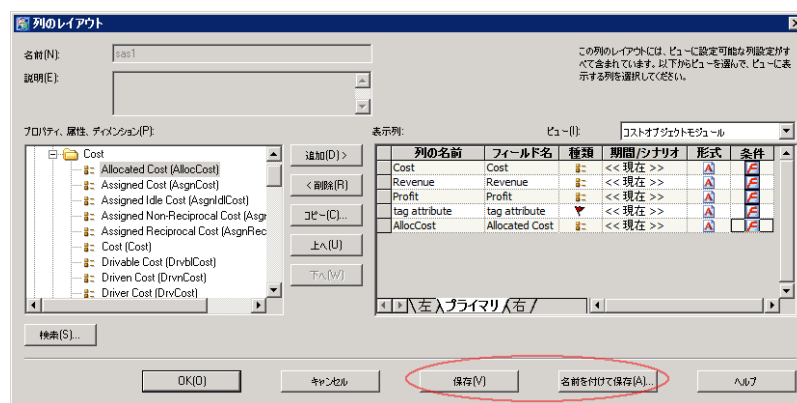
列の名前	フィールド名	種類	期間/シナリオ	形式	条件
Display Reference	Display Refere	数値	<< 現在 >>	A	F
Cost	Cost	数値	<< 現在 >>	A	F

条件付きフォーマットダイアログが開きます。

2. 強調表示するセルを決定するための条件を指定します。
3. 指定条件を満たすデータを含む各セルに適用する強調表示を指定します。
4. **追加**をクリックして、強調表示する追加セルを選択します。選択した追加セルのセットごとに、異なる強調表示を指定できます。

次の図では、次のとおりに利益列のセルを強調表示しています。

セル	条件	強調表示
セット 1	0 未満	背景: 赤 テキスト: 白
セット 2	500,000 より大きい	背景: 緑 テキスト: 黒



条件

強調表示するセルを選択するために指定できる条件は、選択した列の種類によって異なります。条件は次のとおりです。

数値列

数値データ列では、次の条件を使用してセルを選択できます。

- 次の値に等しい
- 次の値に等しくない
- 値の範囲内
- 次の値より大きい
- 次の値以上
- 次の値より小さい
- 次の値以下

テキスト列

テキストデータ列では、次の条件を使用してセルを選択できます。

- 次の値に等しい
- 次の値に等しくない

ブール値プロパティ列

ブール値プロパティ列(HasAttribute など)では、次の条件を使用してセルを選択できます。

- チェック済み
- 未チェック

タグ属性列

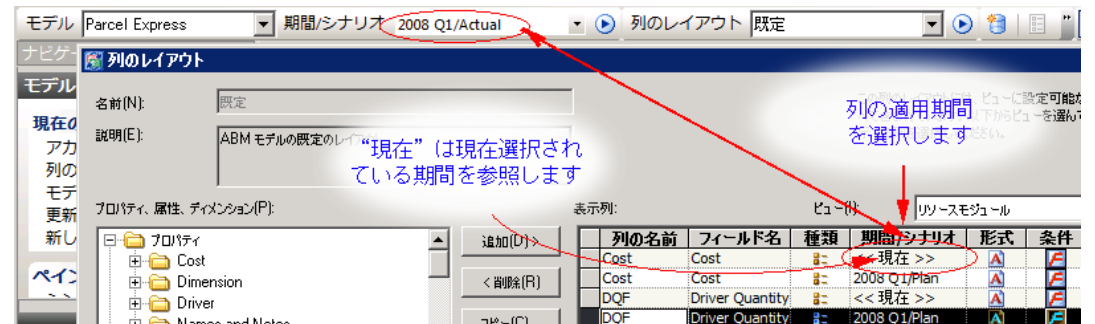
タグ属性列では、次の条件を使用してセルを選択できます。

- チェック済み

列の参照期間の選択

期間/シナリオドロップダウンメニューから、列のデータが参照する期間/シナリオを選択します。

注: << 現在 >>では、列のレイアウトが適用されているモジュールビューやディメンションビューに現在表示されている期間/シナリオ関連付けが参照されます。



列のレイアウトの保存

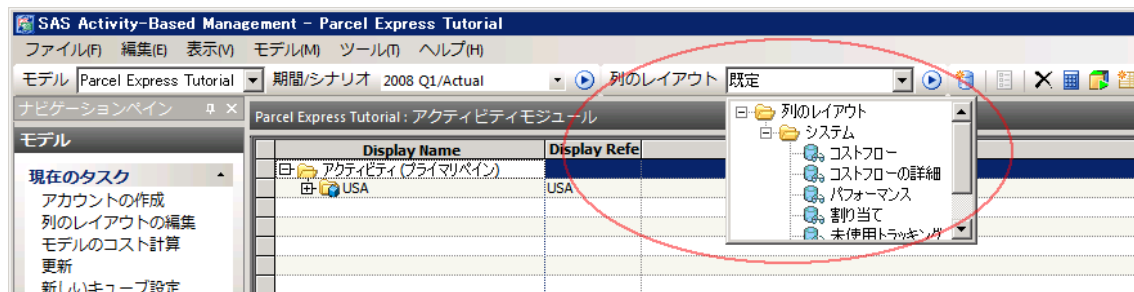
モデル ⇨ 列のレイアウト ⇨ 保存を選択します。

列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

既存の列のレイアウトの適用

注: リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュール、外部ユニットモジュール、ディメンションビューのビューに、既存の列のレイアウトを適用できます。

1. 列のレイアウトドロップダウンリストから列のレイアウトを選択します。



2. [Apply] をクリックします。

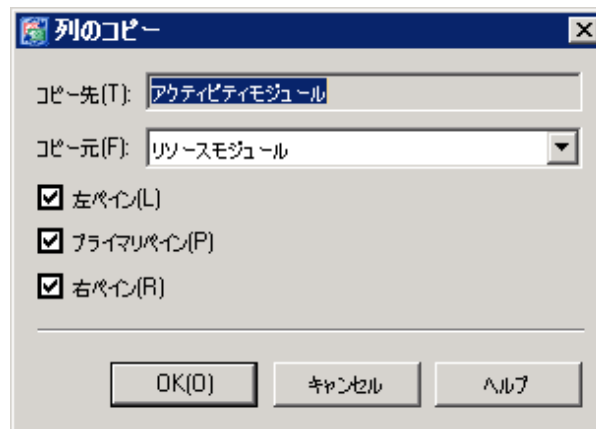
他のモジュールへの列のレイアウトのコピー

1. 列のレイアウトのコピー先ページ(リソースモジュールページ、アクティビティモジュールページ、コストオブジェクトモジュールページ、外部ユニットモジュールページ)で、**モデル** ⇒ **列のレイアウト** ⇒ **列の編集**を選択します。

列のレイアウトダイアログボックスが表示されます。

2. **コピー**をクリックします。

列のコピーダイアログボックスが表示されます。



3. **コピー元**のモジュールを選択します。
4. コピー元の割り当てペインを選択します。

23 章

列のレイアウトウィンドウ

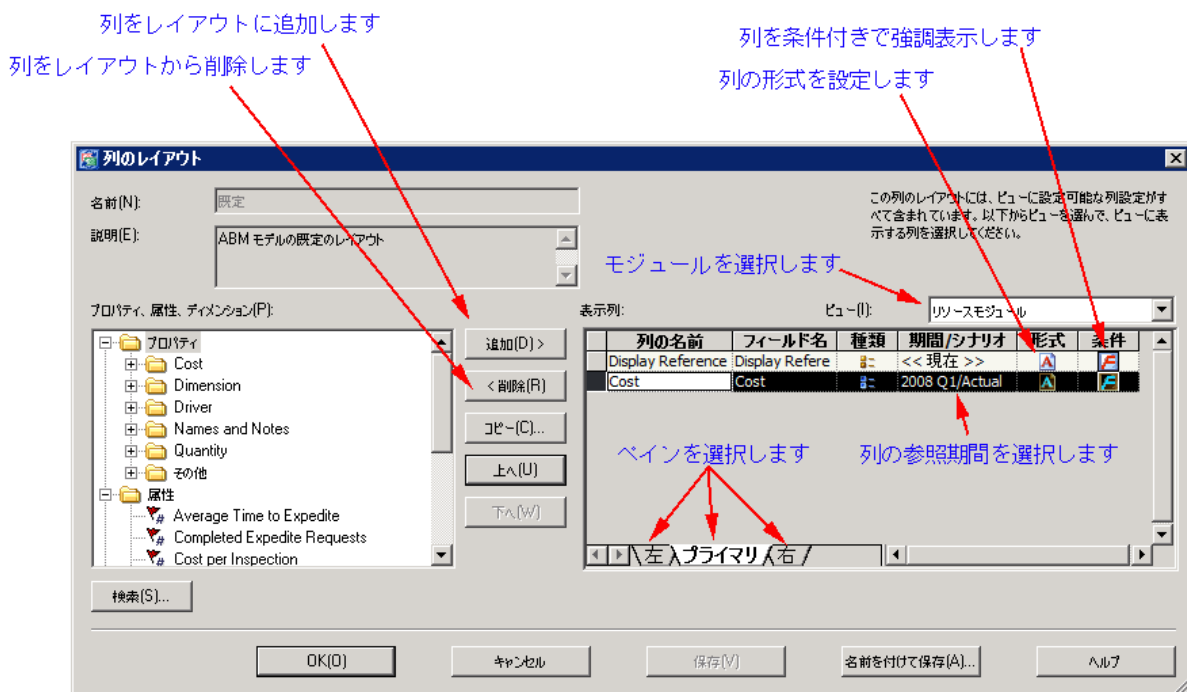
列のレイアウトダイアログボックス	245
列のレイアウトダイアログボックスについて	245
アイコン	246
列のレイアウトダイアログボックスの表示	246
列の形式設定ダイアログボックス	247
列の形式設定ダイアログボックスの表示	247
形式の指定	247
列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックス	248
列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックスについて	248
列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックスの表示	248
情報の指定	248
既存の列のレイアウトの置換	248
列のコピーダイアログボックス	248
列のコピーダイアログボックスについて	249
列のコピーダイアログボックスの表示	249
コピー内容の指定	249

列のレイアウトダイアログボックス

列のレイアウトダイアログボックスについて

列のレイアウトダイアログボックスでは、ビューの列を調整したり、列の形式を設定することで、列のレイアウトをカスタマイズできます。

各行は、列のレイアウトの列を表します。行は上から下の順で、列レイアウトの左から右への列を表します。



注: 列のレイアウトの左端の列は表示名列ですが、このダイアログボックスには表示されません。表示名は必須列であるため、削除、変更、並べ替えはできません。

アイコン

アイコンは、列の各アイテムがプロパティ、属性、ディメンションのいずれであるかを示します。

アイコン	アイテムの種類
	プロパティ
	属性
	ディメンション

列のレイアウトダイアログボックスの表示

- リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュール、外部ユニットモジュール、ディメンションビューのいずれかで、モデル ⇨ 列のレイアウト ⇨ 列の編集を選択するか、列のヘッダーをダブルクリックします。

ここをダブルクリックします




関連項目:

- 22 章, “列のレイアウトの操作” (229 ページ)
- 23 章, “列のレイアウトウィンドウ” (245 ページ)
- 24 章, “列のレイアウトへのプロパティの追加” (251 ページ)

列の形式設定ダイアログボックス

列の形式設定ダイアログボックスでは、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュール、外部ユニットモジュール、およびディメンションビューの列に表示される情報の形式を設定できます。

列の形式設定ダイアログボックスの表示

列のレイアウトダイアログボックスで行を選択して、をクリックします。

列の形式設定ダイアログボックスが表示されます。



形式の指定

次の操作はオプションです。

1. 種類と大きさセクションで、データの種類を選択します。
詳細については、種類についてを参照してください。
2. この通貨を使用して値を表示するのオプションを選択または選択解除します。
3. 負の数に以下を使用するメニューのオプションを選択または選択解除します。

4. **精度**を指定します。
 - a. **デフォルトの精度を変更**オプションを選択または選択解除します。
 - b. 桁の小数に数値を設定します。
1. すべてのデータを表示できるように列の幅を迅速に設定するには、**列幅をテキストに合わせる**オプションを選択します。
2. フォントの設定セクションでは、**整列**、**スタイル**、**色**のオプションを選択または選択解除します。

関連項目:

[“列の形式設定” \(234 ページ\)](#)

列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックス

列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックスについて

列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックスでは、列のレイアウトに名前を付けることができます。

列のレイアウトを名前を付けて保存ダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- リソースモジュールビュー、アクティビティモジュールビュー、コストオブジェクトモジュールビュー、外部ユニットモジュールビューのいずれかで、**モデル** ⇨ **列のレイアウト** ⇨ **名前を付けて保存**を選択します。
- **列のレイアウト**ダイアログボックスで、**名前を付けて保存**をクリックします。

情報の指定

1. **新しい列のレイアウト**オプションを選択します。
2. 右側のボックスに、新しい列のレイアウト名を入力します。
3. (オプション)説明を入力します。

既存の列のレイアウトの置換

1. **既存の列のレイアウト**オプションを選択します。
2. 右側のメニューから、列のレイアウトを選択します。

列のコピーダイアログボックス

列のコピーダイアログボックスについて

列のコピーダイアログボックスでは、あるモジュールから別のモジュールに列のレイアウトをコピーできます。

列のコピーダイアログボックスの表示

列のレイアウトダイアログボックスで、コピーをクリックします。

コピー内容の指定

1. コピー元のモジュールを選択します。
2. コピー元の割り当てペインを選択します。

24 章

列のレイアウトへのプロパティの追加

概要	251
割り当てプロパティ	252
外向きプロパティ	254
内向きプロパティ	255
ドライバプロパティ	256
アカウントプロパティ	257
要約	258

概要

この章では、割り当てペインの列のレイアウトへのプロパティの追加について説明します。

注: ディメンションメンバへの属性の追加機能を使用して、ディメンションビューの列のレイアウトにプロパティを追加することもできます(20 章, “ディメンションメンバの属性” (199 ページ)を参照)。ただし、この章では、割り当てペインの列のレイアウトへのプロパティの追加のみを扱います。

割り当てペインは、アカウントにウィンドウを提供します。プライマリ割り当てペインには、ペインが割り当てられたモジュールのアカウントがすべて表示されます。左右割り当てペインでは、アカウントの表示が制限(フィルタ)されます。

- 左割り当てペインには、プライマリペインへの割り当てを行うアカウントが表示されます。
- 右割り当てペインには、プライマリペインからの割り当てを受け取るアカウントが表示されます。

プライマリ割り当てペインには、1 モジュール内のアカウントのみが表示されます。このモジュール内の割り当てにモジュール間の割り当てが存在する場合、左右割り当てペインには複数のモジュールのアカウントが表示されます。

プロパティは、次のカテゴリに分類されます。

割り当てプロパティ

アカウント間の特定の割り当てを示します。次の図に示すように、割り当ては割り当てペイン間の狭い領域に表示されます。

IntsctnName	Display Name	IntsctnName
Beaverton x Wages	アクティビティ (プライマリペイン)	Beaverton x Sort
Beaverton x Operating Expenses	USA	Beaverton x Inspect
Beaverton x Equipment Expenses	Oregon	
	Beaverton	
	Personnel Intensive Activities	
	Local Collection	
	Move to Warehouse	
	Local Processing	

列のレイアウトでは、割り当てペイン間にプロパティを追加できないことを考慮すると、割り当てプロパティを 1 つの割り当てペインに割り当てるとき、それがペインの左右どちら側への割り当てを示すのかという疑問が生じます。詳細は後述しますが、その答えは左側です。

外向きプロパティ

あるアカウントから、割り当てパスを通して、1 つ以上の割り当て先アカウントに渡されるコストを示します。外向きプロパティは関係を表します。これはアカウントに割り当てられますが、他のアカウントへのコストフローを示していません。

内向きプロパティ

あるアカウントに、割り当てパスを通して、1 つ以上の割り当て元アカウントから渡されるコストを示します。内向きプロパティも関係を表します。他のアカウントからのコストフローを示します。

アカウントプロパティ

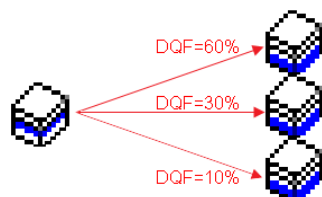
アカウントを示します。アカウント間のフローを示しません。

ドライバプロパティ

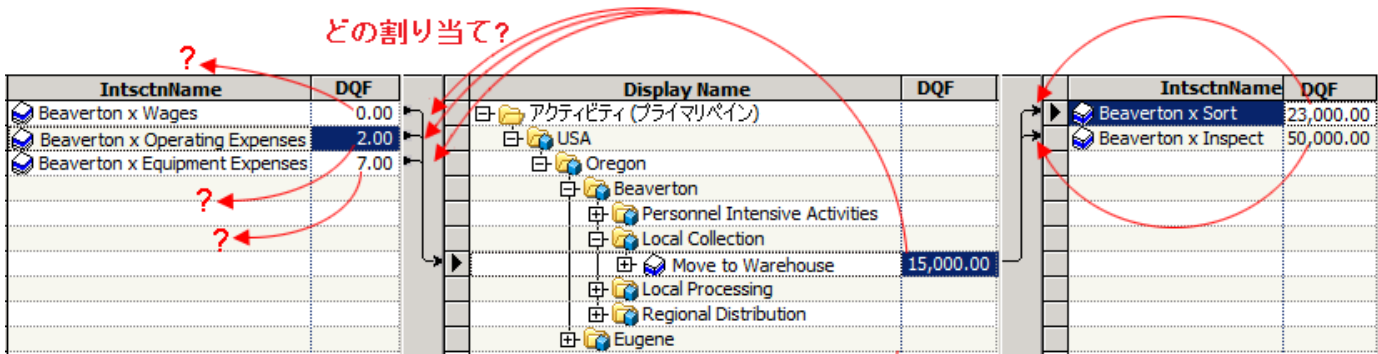
ドライバを示します。アカウント間の特定の割り当ては示しません。

割り当てプロパティ

割り当てプロパティは、アカウント間のフローを表します。パーセントドライバなどの Driver Quantity Fixed (DQF) は、アカウントのコストが各割り当て先アカウントに渡される割合を示します。ある割り当て先アカウントの DQF を 60% として、別のアカウントでは 30%、また別のアカウントでは 10% を指定できます。



プロパティを割り当てペインにのみ割り当てて、ペイン間のフローには割り当てないことを考慮すると、割り当てプロパティを右割り当てペインに割り当てるのが、最も理にかなっています。次に示す図では、その理由がわかります。右割り当てペインでは、23,000 と 50,000 の各 DQF がそれぞれ適用される割り当てパスが明確にわかることに注意します。それとは対照的に、プライマリペインでは、DQF が 15,000 であることはわかりますが、適用する内向きの割り当てがわかりません。内向きの割り当てが複数 (この場合は 3 つ) 存在する場合、どの割り当てに適用するかをプライマリ割り当てペインから判断することはできません。左割り当てペインでは、内向きの割り当てをまったく参照できないので、状況がさらに悪化します。要するに、割り当てプロパティは右割り当てペインに割り当てます。



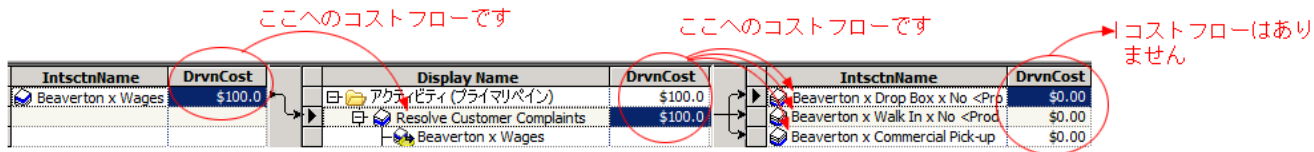
次の表には、割り当てプロパティが記述されています。2 列目は、割り当てペインで値を設定できるプロパティを示しています。

表 24.1 割り当てプロパティ

プロパティ	ユーザーによる設定
Driver Allocated Cost	はい
Driver Cost	
Driver Driven Cost	
Driver Driven Quantity	
Driver Idle Cost	
Driver Percentage	
Driver Quantity Basic	
Driver Quantity Calculated	
Driver Quantity Fixed (DQF)	はい
Driver Quantity Variable (DQV)	はい
Driver Used Cost	
Driver Weight Fixed (DWF)	はい
Driver Weight Variable (DWV)	はい
Idle Driver Quantity	
Idle Driver Quantity UE	はい
Idle Percentage	

外向きプロパティ

外向きプロパティは、アカウントから割り当てパス経由で割り当て先アカウントに渡されるコストフローを示します。次の図は、左割り当てペイン、プライマリ割り当てペインおよび右割り当てペインに割り当てられた DrvnCost プロパティを示しています。いずれの場合も、プロパティがどのペインに割り当てられているかは関係なく、アカウントから割り当て先アカウントまでのフローを示しています。



次の表には、外向きプロパティが記述されています。2 列目は、割り当てペインで値を設定できるプロパティを示しています。2 つの例外を除いて、外向きプロパティの設定はできません。

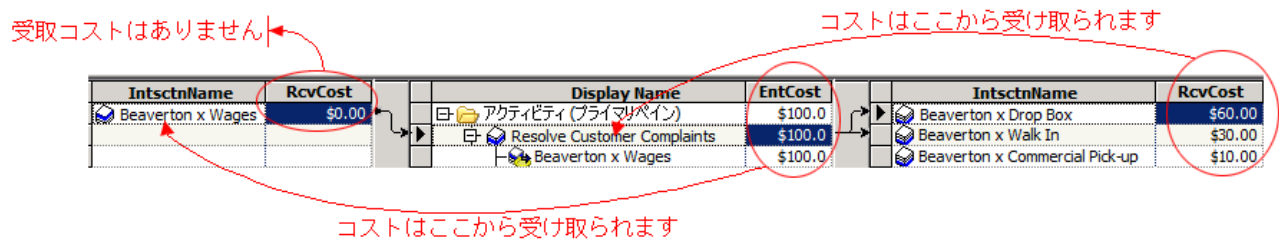
表 24.2 外向きプロパティ

プロパティ	ユーザーによる設定
Allocated Cost	
Assigned Cost	
Assigned Idle Cost	
Assigned Idle Quantity	
Assigned Non-Reciprocal Cost	
Assigned Reciprocal Cost	
Calculate Error	
Drivable Cost	
Driven Cost	
Driven Quantity	
Driver Rate	
Has Idle Cost	
Has Used Cost	
Idle Cost	
Idle Quantity	
Total Driver Quantity (TDQ)	

プロパティ	ユーザーによる設定
Total Driver Quantity Basic (TDQBasic)	
Total Driver Quantity Calculated (TDQCalc)	
Total Driver Quantity UE (TDQUE)	はい
Unassigned Cost	
Unassigned Quantity	
Unit Cost	はい(ただし外部ユニットの場合のみ)
Used Cost	
Used Quantity	

内向きプロパティ

内向きプロパティは、割り当て元アカウントから割り当てパス経由でアカウントに渡されるコストフローを示します。次の図は、左割り当てペイン、プライマリ割り当てペインおよび右割り当てペインに割り当てられた Received Cost を示しています。プロパティは、いずれの場合も、プロパティがどのペインに割り当てられているかは関係なく、割り当て元アカウントからアカウントに渡されるコストを示しています。



次の表には、内向きプロパティが記述されています。Sold Quantity は、値が自動計算されない唯一の内向きプロパティです。

表 24.3 内向きプロパティ

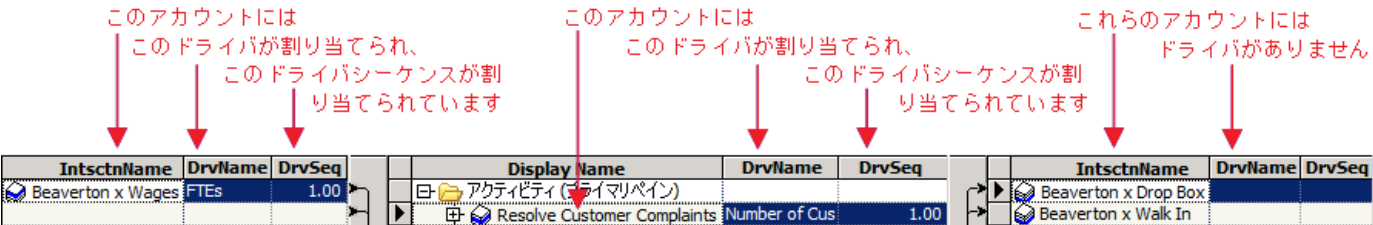
プロパティ	ユーザーによる設定
Has Assignments	
Has BOC	
Received Allocated Cost	
Received Assignment Cost	

プロパティ	ユーザーによる設定
Received BOC Cost	
Received Cost	
Received Driven Cost	
Received Idle Cost	
Received Non-Reciprocal Cost	
Received Reciprocal Cost	
Received Used Cost	
Sold Quantity	はい

ドライバプロパティ

ドライバプロパティは、割り当てに依存しない、ドライバのプロパティです。たとえば、指定ドライバの Driver Name は、すべての割り当てパスで同一です。

次の図は、3 つの割り当てペインすべてに割り当てられた 2 つのドライバプロパティ (DrvName と DrvSeq)を示しています。



次の表には、ドライバプロパティが記述されています。ドライバプロパティは、割り当てペインではなく、ドライバダイアログでのみ設定可能です。

表 24.4 ドライバプロパティ

プロパティ
Driver Formula
Driver Name
Driver Sequence Number
Driver Type
Idle Flow Method
Unique Driver Quantities

プロパティ

Use Fixed Quantities

Use Variable Quantities

Use Weighted Quantities

アカウントプロパティ

アカウントプロパティは、アカウント間のフローとは別に、それ自身で考慮されるアカウントのプロパティです。たとえば、Entered Cost は、割り当て先のアカウントから渡される場合もそうでない場合もあるので、アカウントプロパティであって、外向きプロパティではありません。次の図は、3つの割り当てペインすべてに割り当てられてたアカウントプロパティ(EntCost)を示しています。

The diagram illustrates three account property tables. Red arrows point from the 'EntCost' column of each table to a central text box that says 'このアカウントにはこの入力されたコストが含まれます' (This account contains this entered cost). The tables are as follows:

IntsctnName	EntCost
Beaverton x Wages	\$100.0
Beaverton x Operating Expenses	
Beaverton x Equipment Expenses	

Display Name	EntCost
アクティビティ (プライマリペイン)	
USA	
Oregon	
Beaverton	
Personnel Intensive Activities	
Resolve Customer Complaint	\$0.00

IntsctnName	EntCost
Beaverton x Drop Box x No <Pro	\$0.00
Beaverton x Walk In x No <Produ	\$0.00
Beaverton x Commercial Pick-up x	

次の表には、アカウントプロパティが記述されています。

表 24.5 アカウントプロパティ

プロパティ	ユーザーによる設定
Cost	
Entered Cost	はい
Has Attributes	
Has Entered Cost	
Has Notes	
Profit	
Output Quantity	
Output Quantity UE	はい
Revenue	はい
Unit Profit	
Unit Revenue	

要約

プロパティについて考慮する場合は、次の経験則が有用です。プロパティの接頭辞が“Driver”の場合は、割り当てプロパティかドライバプロパティです。接頭辞が“Received”の場合は、内向きプロパティです。また、接頭辞が“Driver”でも“Received”でもない場合は、外向きプロパティかアカウントプロパティのどちらかです。

次の表では、プロパティをアルファベット順に記載し、それぞれのプロパティの種類を示しています。

表 24.6 プロパティの種類

プロパティ	外向き	内向き	割り当て	アカウント	ドライバ
Allocated Cost	✓				
Assigned Cost	✓				
Assigned Idle Cost	✓				
Assigned Idle Quantity	✓				
Assigned Non-Reciprocal Cost	✓				
Assigned Reciprocal Cost	✓				
Calculate Error	✓				
Cost				✓	
Drivable Cost	✓				
Driven Cost	✓				
Driven Quantity	✓				
Driver Allocated Cost			✓		
Driver Cost			✓		
Driver Driven Cost			✓		
Driver Driven Quantity			✓		
Driver Formula					✓
Driver Idle Cost			✓		
Driver Name					✓
Driver Percentage			✓		
Driver Quantity Basic			✓		
Driver Quantity Calculated			✓		

プロパティ	外向き	内向き	割り当て	アカウント	ドライバ
Driver Quantity Fixed (DQF)			✓		
Driver Quantity Variable (DQV)			✓		
Driver Rate	✓				
Driver Sequence Number					✓
Driver Type					✓
Driver Used Cost			✓		
Driver Weight Fixed (DWF)			✓		
Driver Weight Variable (DWV)			✓		
Entered Cost				✓	
Has Assignments		✓			
Has Attributes				✓	
Has BOC		✓			
Has Entered Cost				✓	
Has Idle Cost	✓				
Has Notes				✓	
Has Used Cost	✓				
Idle Cost	✓				
Idle Driver Quantity			✓		
Idle Driver Quantity UE			✓		
Idle Flow Method					✓
Idle Percentage			✓		
Idle Quantity	✓				
Output Quantity				✓	
Output Quantity UE				✓	
Profit				✓	
Received Allocated Cost		✓			
Received Assignment Cost		✓			
Received BOC Cost		✓			
Received Cost		✓			

プロパティ	外向き	内向き	割り当て	アカウント	ドライバ
Received Driven Cost		✓			
Received Idle Cost		✓			
Received Non-Reciprocal Cost		✓			
Received Reciprocal Cost		✓			
Received Used Cost		✓			
Revenue				✓	
Sold Quantity		✓			
Total Driver Quantity (TDQ)	✓				
Total Driver Quantity Basic (TDQBasic)	✓				
Total Driver Quantity Calculated (TDQCalc)	✓				
Total Driver Quantity UE (TDQUE)	✓				
Unassigned Cost	✓				
Unassigned Quantity	✓				
Unique Driver Quantities					✓
Unit Cost	✓				
Unit Profit				✓	
Unit Revenue				✓	
Use Fixed Quantities					✓
Use Variable Quantities					✓
Use Weighted Quantities					✓
Used Cost	✓				
Used Quantity	✓				

9 部

ドライバ

25 章	
割り当て	263
26 章	
ドライバの種類	269
27 章	
ドライブコスト	289
28 章	
方法	311

25 章

割り当て

割り当て	263
概要	263
割り当てパス	263
割り当てペイン	264
割り当てとモジュール	265
割り当てのガイドライン	265
アカウントへのドライバの関連付け	266
割り当て用にアカウントを追加するダイアログボックス	266
概要	266
割り当て用にアカウントを追加するダイアログボックスの表示	266
アカウントの追加	267

割り当て

概要

割り当ては、アカウント間にコストを分配する方法です。同じモジュールのアカウント間に割り当てられるコストを内部モジュール割り当てと呼びます。異なるモジュールのアカウント間に割り当てられるコストをクロスモジュール割り当てと呼びます。

アカウント間にコストを割り当てる場合、1 番目のアカウントから 2 番目のアカウントにコストが受け渡しされるといいます。1 番目のアカウントは、2 番目のアカウントのコストの受け渡し元であるため、割り当て元アカウントと呼びます。2 番目のアカウントは、1 番目のアカウントのコストの受け渡し先であるため、割り当て先アカウントと呼びます。

コスト受け渡しの制御方法は、ドライバで指定します。1 つの割り当て元アカウントから任意の数の割り当て先アカウントにコストを渡すことができますが、1 つの割り当て元アカウントに付き 1 つのドライバのみ指定できます。

割り当てを作成する前に、割り当てに追加するアカウントを選択する必要があります。

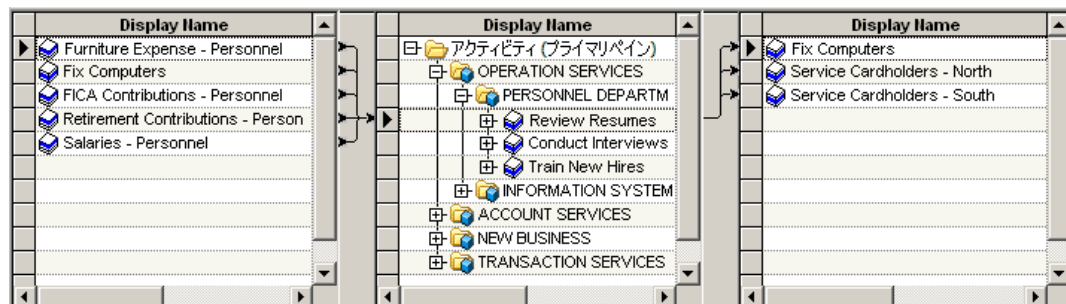
割り当てパス

リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールでアカウント間の割り当てを作成する際、コストが受け渡されるアカウントのシーケンスを作成します。このシーケンスを割り当てパスと呼びます。たとえば、コストが、最初にアカウント A からアカウント B に割り当てられ、次にアカウント B からアカウント C に割り当

てられるとします。このプロセスでは、アカウント A からアカウント C の割り当てパスが作成されます。

割り当てペイン

リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールは、3 ペインまで分割できます。この機能を使用して、簡単に割り当てを作成したり、アカウント間の割り当てを表示したりできます。



次に、例を示します。

• 1 ペイン

プライマリペインには、一度に 1 モジュールが表示されます。プライマリペインには、表示しているモジュールの階層が常に表示されます。左ペインと右ペインにはアカウントのみ表示され、モジュール階層は表示されません。

• 2 ペイン

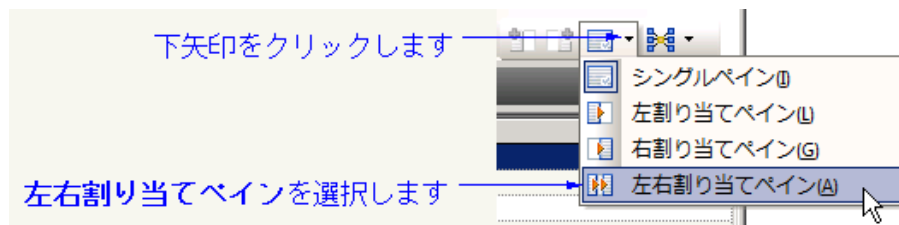
プライマリペインと左(右)ペインには、モジュール間の割り当てと、同じモジュール内の割り当てが表示されます。

• 3 ペイン

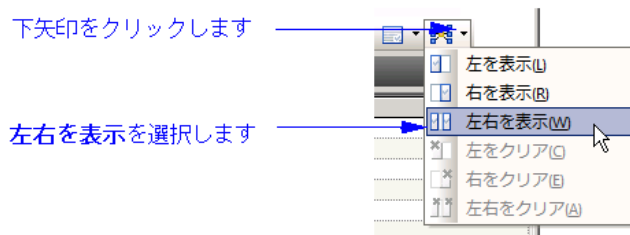
左ペイン、プライマリペイン、右ペインには、リソースからアクティビティを介してコストオブジェクトにコストを受け渡す割り当てが表示されます。

2 ペインと 3 ペインのビューではいずれも、コストは左から右に受け渡されます。ペインとペインの間のスペースをスプリッターバーと呼びます。スプリッターバーの線と矢印が、アカウント間の割り当てを示します。

1. 割り当てペインの表示アイコンから**左右割り当てペイン**を選択します。



2. 割り当ての表示アイコンから**左右を表示**を選択します。



割り当てコストがない場合、割り当ての表示時に何も追加表示されません。

ヒント 属性ビューを分割して、属性が割り当てられたアカウントを表示することもできます。

Name	Reference	Type	Name	Reference
属性 (プライマリペイン)			Beaverton x None x 2nd Day Guaranteed_2052	Beaverton x Non
AttribX (current period)	AttribX (current perio	数値	Beaverton x None x Overnight Express_2053	Beaverton x Non
AttribX (Period 1)	AttribX (Period 1)	数値	Beaverton x None x Standard Ground_2054	Beaverton x Non
AttribX (Period 2)	AttribX (Period 2)	数値	Eugene x None x 2nd Day Guaranteed_2068	Eugene x None x
Average Time to Expedite	Average Time to Exp	数値	Eugene x None x Overnight Express_2069	Eugene x None x
Completed Expedite Requests	Completed Expedite	数値	Eugene x None x Standard Ground_2070	Eugene x None x
Cost per Inspection	Cost per Inspection	数値		
Fixed_Variable	FV	ディメンション		

割り当てとモジュール

次の表に、割り当ての作成に利用できるモジュールを示します。

左ペインで使用可能なモジュール	プライマリペインのモジュール	右ペインで使用可能なモジュール
リソース 外部ユニット	リソース	リソース アクティビティ コストオブジェクト
リソース アクティビティ 外部ユニット	アクティビティ	アクティビティ コストオブジェクト
リソース アクティビティ コストオブジェクト 外部ユニット	コストオブジェクト	コストオブジェクト
(なし)	外部ユニット	リソース アクティビティ コストオブジェクト

割り当てのガイドライン

次のガイドラインを参考にして、割り当てを作成します。

- コストは、アカウント間に割り当てることができますが、ロールアップアカウントに割り当てることはできません。

- アカウントコストは、他のアカウントに 100 パーセント割り当てるようにします。
すべてのコストを割り当てない場合、コストの計算時に SAS Activity-Based Management により警告が表示されます。

関連項目:

[“アカウントへのドライバの関連付け” \(266 ページ\)](#)

アカウントへのドライバの関連付け

アカウントにドライバを関連付けするには、アカウントのドライバ名プロパティを設定します。

Display Name	Cost	DrvName
[-] アクティビティ (プライマリペイン)	\$0.00	
[-] USA	\$0.00	
[-] California	\$0.00	
[-] Los Angeles	\$0.00	
[-] Customer Service	\$0.00	
[-] Expedite Shipping	\$0.00	# of Expedite Requests
[-] Resolve Customer	\$0.00	# of Complaints
[-] Parcel Delivery	\$0.00	# of Complaints
[-] Parcel Handling	\$0.00	# of Expedite Requests
[-] Oakland	\$0.00	# of Packages
[-] Oregon	\$0.00	Allocated Cost
		Bill of Cost
		Consumption Driver
		Evenly Assigned
		FTE
		Percentage
		Sales Volume
		パーセント
		ビルオブコスト

割り当て用アカウントを追加するダイアログボックス

概要

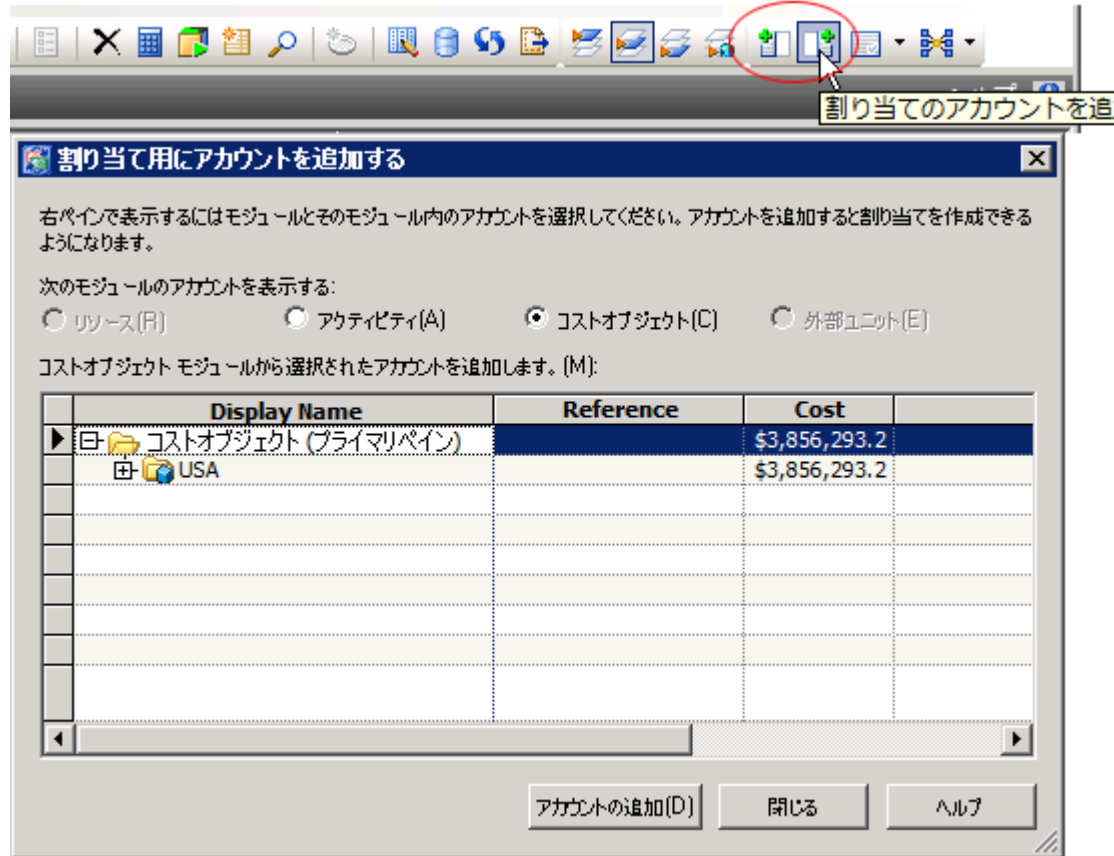
割り当て用アカウントを追加するダイアログボックスで、割り当てペインに表示するアカウントを選択し、割り当ての作成準備をします。

注: 権限によっては、一部の機能を使用できません。

割り当て用アカウントを追加するダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- リソースモジュールビュー、アクティビティモジュールビューまたはコストオブジェクトモジュールビューで、左割り当てペインまたは右割り当てペインを開き、モデル ⇨ 割り当て ⇨ 左ペインにアカウントを追加(または>右ペインにアカウントを追加)を選択します。
- ツールバーの割り当て用にアカウントを追加するボタンをクリックします。



アカウントの追加

- 次のモジュールのアカウントを表示するから、オプションを選択します。
- リストからアカウントを選択します。

Windows の標準的な選択方法を使用して、複数のアカウントを選択できます。

ロールアップアカウントを選択すると、そのロールアップアカウント内のすべてのアカウントが追加されます。

注: モジュールロールアップを選択して、そのモジュールロールアップに含まれるすべてのアカウントを追加することはできません。

- アカウントの追加をクリックします。

アカウントがグリッドに追加されます。

注: さらにアカウントを個々に追加できるように、このダイアログボックスを開いたままにできます。

関連項目:

[“割り当て” \(263 ページ\)](#)

26 章

ドライバの種類

概要	270
基本ドライバ	270
ビルオブコストドライバ	270
概要	270
概要	271
個別生産環境	271
プロセス生産環境	271
変動量	271
固定量	272
変動量と固定量	272
ビルオブコストの作成	273
計算ドライバ	273
概要	273
計算ドライバの例	273
例: 製品の出荷	274
例: 顧客への製品の配送	274
例: 完成品の在庫保管コスト	274
例: 完成品の在庫保有コスト	274
例: 受注処理	274
均等割り当てドライバ	275
概要	275
均等割り当て量	275
パーセントドライバ	276
概要	276
パーセントドライバの例: 業務の所要時間	276
売上ドライバ	276
重み付きドライバ	278
概要	278
例: 受注処理	279
例: 製品のサポート	280
ルールベースドライバ	280
ルールベースドライバについて	280
ルールベースドライバのサンプル	281
別の2つのルールベースドライバ	284
詳細なルール式	286
制限	286
推奨	287

概要

ドライバは、アカウントからコストをどのように渡すのかを指定して、アカウント間のコストの受け渡しを制御します。ドライバにより、アカウントの消費量の正確な測定や、アカウントへのコストの割り当てが行われます。ドライバの例として、正社員(FTE)数、使用済み備品のパーセント、包装済みの箱数などがあります。

ドライバビューに、開いているモデルのドライバが開きます。

ドライバを作成する際、次のドライバの種類から選択できます。

- “基本ドライバ” (270 ページ)
- “ビルオブコストドライバ” (270 ページ)
- “計算ドライバ” (273 ページ)
- “均等割り当てドライバ” (275 ページ)
- “パーセントドライバ” (276 ページ)
- “売上ドライバ” (276 ページ)
- “重み付きドライバ” (278 ページ)
- “ルールベースドライバ” (280 ページ)

関連項目:

- “ドライバの種類の比較” (288 ページ)
- “固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量” (290 ページ)

基本ドライバ

基本ドライバ(Basic)は、アカウント間の関係を表す係数を 1 つのみ含みます。たとえば、マシン稼働時間数や、製品製造に必要な専用のマシン数が基本ドライバです。

関連項目:

- “固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量” (290 ページ)

ビルオブコストドライバ

概要

ビルオブコストドライバ(Bill of Cost)は、ビルオブコストアカウントを表します。

注: 外部ユニットアカウントのドライバはすべて、明示的な BOC ドライバまたは計算ドライバであるかどうかに関わらず、BOC ドライバであるとみなされます。その他の

アカウントでは、明示的な BOC ドライバのみが BOC ドライバであるとみなされます。外部ユニットアカウント以外のアカウントの計算ドライバは、BOC ドライバであるとはみなされません。

概要

ビルオブコスト(BOC)ドライバによって、アカウントに資材コストと内部コストを簡単に直接追加できます。

次の場合に、ビルオブコストドライバを使用します。

- モデルに外部ユニットコストエレメントを含める必要がある。

モデルで割り当てるコストには、GL 勘定科目以外から取り込まれるコストもあります。たとえば、Materials Requirements Planning (MRP) システムから受け取ることが多い資材コスト(購入した構成品のコスト)を製品コスト情報に追加できます。

- 製品ファミリに関連付けられたモデルの内部コストエレメントをトラッキングする必要がある。

外部ユニットからの割り当てを作成する場合、自動的にビルオブコストドライバが指定されます。内部ユニットからの割り当てを作成する場合、ドライバを指定する必要があります。

ビルオブコストドライバ量には、変動量、固定量、または両方を含めることができます。

個別生産環境

個別生産環境でよく使用される概念の 1 つに、部品表があります。通常、各製品に部品表が作成され、製品の構成品とそのコストのすべてが記載されます。最も単純なケースでは、部品表には製品の構成品、製品に含まれる各構成品のユニット数、各構成品のユニットコストが記載されます。部品表は多くの環境に存在するため、ビルオブコストはある程度まで部品表に対応します。

個別生産環境では、他の製品の構成品である製品を、内部ユニットコストエレメントと呼びます。これらの製品ごとに固有のビルオブコストを作成できます。

プロセス生産環境

プロセス生産環境では、アクティビティにビルオブコストが作成されます。アクティビティのビルオブコストには、プロセスのアクティビティ中に追加されたすべての資材が示されます。資材コストはそのコストを消費する特定のアクティビティに追加されるため、完成した製品のコストをより正確にトレースできます。

変動量

ビルオブコスト量には、変動量、固定量、または両方を含めることができます。

変動量では、ビルオブコストからアカウントに渡されるコストは、アウトプット量に依存します。ビルオブコストのユニットコストには、ドライバ量(プロパティ Driver Quantity Variable; 列 DQV)とアウトプット量(プロパティ Output Quantity またはプロパティ Output Quantity UE; 列 OutQtyUE)が乗算されます。

たとえば、自転車メーカーが別の会社から 1 本 \$5 のゴムタイヤを購入すると仮定します。(この値は、外部ユニットの作成時に指定しています)。自転車 1 台に 2 本のタイヤが必要なため、ビルオブコストのユニットコストは \$10 です。100 台生産する場合、合計コストは \$1,000 (100.00 X \$5.00 X 2.00) です。

(ビルオブコストをわかりやすく図示するために、その他のコストエレメントはすべて削除されています。)

Display Name	Cost	OutQtyUE	DQF	DQV
[-] コストオブジェクト (プライマリペイン)	\$1,000.00			
[-] North America	\$1,000.00			
[-] Bicycle	\$1,000.00	100.00		
[-] Tire	\$1,000.00		0.00	2.00

$\$1000.00 = 100.00 \times \5.00×2.00

1タイヤ当たりのユニットコスト

固定量

固定量では、ビルオブコストからアカウントに渡されるコストは、アウトプット量に依存しません。ビルオブコストのユニットコストには、ドライバ量(プロパティ Driver Quantity Fixed; 列 DQF)が乗算されます。

たとえば、前述の自転車メーカーが、毎年初めに潤滑油ドラム 1 缶を購入すると仮定します。ビルオブコストのユニットコストは、自転車の生産台数に関わらず、潤滑油のドラム缶の現在の価格です。

Display Name	Cost	OutQtyUE	DQF	DQV
[-] コストオブジェクト (プライマリペイン)	\$425.00			
[-] North America	\$425.00	(無視されます)		
[-] Bicycle	\$425.00	100.00	1.00	
[-] Grease	\$425.00		1.00	

$\$425.00 = \425.00×1.00

一缶当たりのユニットコスト

変動量と固定量

1 つのビルオブコストに変動量と固定量の両方を使用できます。

Display Name	Cost	OutQtyUE	DQF	DQV
[-] コストオブジェクト (プライマリペイン)	\$1,425.00			
[-] North America	\$1,425.00			
[-] Bicycle	\$1,425.00	100.00	1.00	
Tire	\$1,000.00		0.00	2.00
Grease	\$425.00		1.00	

(ビルオブコストをわかりやすく図示するために、その他のコストエレメントはすべて削除されています。)

ビルオブコストの作成

ビルオブコストドライバを使用してアカウント間の割り当てを作成する際に、アカウント間のビルオブコストを作成します。

外部ユニットからの割り当てを作成する場合、自動的にビルオブコストドライバが指定されます。内部ユニットからの割り当てを作成する場合、ドライバを指定する必要があります。

計算ドライバ

概要

計算ドライバ(Calculated)には式が含まれ、その式を評価して、割り当ての Driver Quantity Calculated (DrvQtyCalc)を決定します。計算ドライバの式は、期間によって変化しません。式は、すべての期間で同じです。

デフォルトで、計算ドライバの式に割り当て元アカウントに属する名前が見つからない場合、割り当て先アカウントに属する名前だとみなされます。次に、さらに詳細に、計算ドライバの式での参照(“Foo”など)を解決する優先順位を示します。

1. 割り当てパス
2. 割り当て先アカウント
3. 割り当て元アカウント
4. ディメンション参照
5. 属性参照

次のプロパティは計算ドライバの式で使用できないため、式ビルダドロップダウンリストに表示されません。

- DriverQuantityBasic
- IdleDriverQuantity

割り当てでは、これらの量は DrvQtyCalc に依存します。このため、式で DrvQtyCalc がこれらの量に依存すると、DrvQtyCalc はこれらのプロパティの量が決まらなと決定できず、これらの量は DrvQtyCalc が決まらなと決定できないという悪循環に陥ります。

計算ドライバの例

ここでは、モデルへの計算ドライバの使用例を紹介します。これらの式の多くには、数値プロパティと数値属性が含まれます。

注: 計算ドライバのドライバ式にコストプロパティを使用できますが、ドライバシーケンスを使用してコストプロパティを非ゼロにする必要があります。デフォルトのシーケンス 1 を使用すると、入力されたコスト以外のすべてのコストの値がゼロになります。

例: 製品の出荷

パレットで出荷される製品の出荷コストを計算するとします。出荷業者のコストは、生産ユニット数ではなく、出荷パレット数に基づきます。出荷コストを決定するには、次のように、アウトプット量(プロパティ OutputQuantity)を、パレットの最大載積製品数(ユーザー定義の数値属性 UnitsPerPallet)で除算します。

$$\text{OutputQuantity} / \text{UnitsPerPallet}$$

製品の大きさが変化すると、パレットに載積可能なユニット数が変化します。その結果、UnitsPerPallet の値が変化します。また、製品ごとに UnitsPerPallet の値が異なっても、同じ式を複数の製品に使用できます。

例: 顧客への製品の配送

製品の配送コストを計算するとします。配送コストを決定するには、各顧客の月当たりの配送回数に平均配送時間を乗算します。いずれの属性もユーザー定義の数値属性です。

$$\text{DeliveriesPerMonth} * \text{AvgTimePerDelivery}$$

月当たりの配送回数が多い顧客と回数が少ない顧客では、支払う配送コストが異なります。同様に、配送距離が長い顧客と短い顧客も、支払う配送コストは異なります。

例: 完成品の在庫保管コスト

死に筋の製品の保管コストを計算するとします。保管コストを決定するには、アウトプット量(プロパティ OutputQuantity)を、製品の販売速度(ユーザー定義の数値属性 InventoryTurns)で除算します。この計算結果に、次のように製品の保管に必要な容積(数値属性 CuFtPerUnit)を乗算します。

$$(\text{OutputQuantity} / \text{InventoryTurns}) * \text{CuFtPerUnit}$$

OutputQuantity を InventoryTurns で除算すると、ユニットの平均在庫レベルが求められます。CuFtPerUnit を使用するには、モデルのリソースモジュールに立方フィート当たりの値に基づくコスト(光熱料や賃料など)が含まれる必要があります。

例: 完成品の在庫保有コスト

モデルにコストを追加して、金銭的な在庫保有コストを計算するとします。前述の式を、物理的な保管コストでなく金銭的な在庫保有コストを計算するように変更できます。

$$(\text{OutputQuantity} / \text{InventoryTurns}) * \text{Cost}$$

例: 受注処理

他社の受注を処理する企業があるとします。受注処理数は、重要データの一部にすぎません。各受注の複雑さを考慮する必要があります。

受注処理コストを決定するには、次のように、受注処理数(ユーザー定義の数値属性 NumberOfOrdersProcessed)に各受注の複雑さ(ユーザー定義の数値属性 OrderComplexityByCustomer)を乗算します。

$$\text{NumberOfOrdersProcessed} * \text{OrderComplexityByCustomer}$$

OrderComplexityByCustomer は、顧客ごとに異なる値が割り当てられ、同じ式をすべての顧客に使用できます。

関連項目:

- [29 章, “式” \(323 ページ\)](#)
- [“式に数値属性を使用” \(334 ページ\)](#)
- [“式内で使用可能なプロパティ” \(353 ページ\)](#)

均等割り当てドライバ

概要



均等割り当てドライバ(Evenly Assigned)は、コストを受け取る各アカウントに、同一パーセントでアカウントコストを割り当てます。たとえば、均等割り当てドライバを使用して、アカウントコストを 2 つのアカウントに割り当てる場合、各アカウントは自動的に 50 パーセントのコストを受け取ります。

多くの場合、均等割り当てドライバは、実績ドライバ量が不明なアカウント間での受け渡しコストを初めて概算する際に使用されます。実績ドライバ量が判明すると、このドライバはより正確なドライバに置き換えられます。

注: ドライバ量の種類が、均等割り当てドライバに事前に設定されている場合、変更できません。

均等割り当て量

均等割り当て量を使用して未使用量を分配する場合、未使用量は割り当て先アカウント間で均等に分配されます。たとえば、割り当て先アカウントの各未使用量は 1.00 です。これは、割り当て元アカウントの未使用量 2.00 の 1/2 です。

IntsctnName	DQF	IdlQtyUE	IdlDrvQty	DrvIdlCost
 North America x Front Fender	5.00		1.00	\$100.00
 North America x Rear Fender	3.00		1.00	\$100.00

コストが計算されると、Front Fender と Rear Fender 両方のドライバ未使用コスト (DrvIdlCost 列)は\$100.00 (1.00 x \$100.00)となります。

パーセントドライバ

概要

パーセントドライバ(Percentage)は、コストを受け取る各アカウントに、指定パーセントでアカウントコストを割り当てます。パーセントドライバではパーセントの合計をトラッキングして、コストが 100 パーセントを超えたり、100 パーセントに満たないコストが使用されている場合に警告を表示します。

多くの場合、パーセントドライバは、実績ドライバ量が不明なアカウント間での受け渡しコストを初めて概算する際に使用されます。コストを受け取る各アカウントに同一パーセントを割り当てる均等割り当てドライバとは異なり、パーセントドライバでは、各アカウントにパーセントを割り当てることができます。実績ドライバ量が判明すると、このドライバはより正確なドライバに置き換えられます。実績ドライバ量の特定が難しい場合は、妥当なパーセントになるようにします。(パーセントドライバの例)

注: ドライバ量の種類が、パーセントドライバに事前に設定されている場合、変更できません。

パーセントドライバの例: 業務の所要時間

ここでは、モデルへのパーセントドライバの使用例を紹介します。これらの式の多くには、数値プロパティと数値属性が含まれます。

事務職員の年ベースの業務所要時間を確定することは現実的ではないと判断した組織があるとして、実績時間数を確定するコストが、そのメリットを上回ってしまいます。年間の時間数を概算するために、経営陣は事務職員に 1 週間の実績時間を記録するように依頼します。これらの記録から、各業務にパーセントを割り当てます。この組織の場合、このパーセントはほぼ正確であり問題ありません。

売上ドライバ

売上ドライバは、コストフローを作成します。コストフローの大きさは、販売されたアイテムの量によって決まります。売上ドライバを使用するには、次の 2 つの準備を行います。

1. 売上ドライバをアカウントに割り当てます。割り当てるアカウントは、アイテムの販売に関連付けられたコストの割り当て元です。通常、このアカウントはコストオブジェクトモジュールにあります。

注: 売上ドライバの場合、割り当てられるアカウントのディメンションは、利益分析モジュールのディメンションと同一にする必要があります。コストオブジェクトモジュールのディメンションは、利益分析モジュールのディメンションと同一にする必要があります。

2. 販売前のアイテムの最終割り当て先である 1 つ以上のアカウント(おそらくコストオブジェクトアカウント)の Sold Quantity (SoldQty)プロパティに値を割り当てます。

システムでは、計算時に次の 2 つの処理が行われます。

1. 売上ドライバが割り当てられた各アカウントと、適切なすべての割り当て先アカウント間に割り当てが生成されます。

注: Sold Quantity (SoldQty)が非ゼロの場合や、インターセクションディメンションメンバが割り当て元アカウントのインターセクションディメンションメンバと同一である場合(None は、インターセクションディメンションメンバとみなされる)、適切なアカウントに割り当てられていると言えます。割り当て先アカウントのインターセクションディメンションメンバは、利益分析モジュールのディメンションによって決まります。

売上ドライバが次の割り当て元アカウントに割り当てられた例を示します。

Beaverton x Drop Box x No <Products and Services>

計算時に SoldQty が非ゼロとなる、次の割り当て先アカウントへの割り当てが自動的に生成されます。

Beaverton x Drop Box x 2nd Day Guaranteed

Beaverton x Drop Box x Overnight Express

Beaverton x Drop Box x Standard Ground

割り当て元アカウントの"None"インターセクション(No <Products and Services>)が、3つの割り当て先アカウントのインターセクションに一致していることがわかります。None は、割り当て元アカウントまたは割り当て先アカウントに使用されて、ワイルドカードのような役割を果たします。

Display Name	DrvName	IntsctnName	SoldQty
Beaverton x Drop Box x 2nd Day Guaranteed		Beaverton x Drop Box x 2nd Day Guaranteed	9,000.00
Beaverton x Drop Box x Overnight Express		Beaverton x Drop Box x Overnight Express	4,000.00
Beaverton x Drop Box x Standard Ground		Beaverton x Drop Box x Standard Ground	21,666.00

2. ドライバの Driver Quantity Calculated (DrvQtyCalc)が計算されます。DrvQtyCalc は、割り当て先アカウントの SoldQty と同じです。システムでは、DrvQtyCalc の値を使用してコストフローの大きさが計算されます。

売上ドライバは、ルールベースドライバの一種です(“ルールベースドライバ”(280 ページ)を参照)。売上ドライバをアカウントに割り当てると、次のルールを満たす割り当て先アカウントへの割り当てが計算によって自動的に作成されます。

1. 割り当て先アカウントの SoldQuantity プロパティの値が非ゼロ値である。
2. 割り当て先アカウントのディメンションシグネチャ(ディメンションメンバのインターセクション)は、(売上ドライバが割り当てられた)割り当て元アカウントのディメンションシグネチャと同一です。

注: null ディメンションはワイルドカードとしてみなされ、どのディメンションにも一致します。

たとえば、次の画面について考えます。

IntsctnName		SoldQty
Eugene x Drop Box x 2nd Day Guaranteed		4,500.00
Eugene x Walk In x 2nd Day Guaranteed		16,000.00
Eugene x Commercial Pick-up x 2nd Day Guarant		10,000.00
Eugene		
No <Channel>		
2nd Day Guaranteed	Sales volume	
Overnight Express	Sales volume	
Standard Ground	Sales volume	
Drop Box		
Walk In		
Commercial Pick-up		

次のディメンションシグネチャのペアが一致することがわかります。

- Eugene x No <Channel> x 2nd Day Guaranteed (割り当て元アカウント)は、Eugene x Drop Box x 2nd Day Guaranteed (割り当て先アカウント)に一致します。
- Eugene x No <Channel> x Overnight Express (割り当て元アカウント)は、Eugene x Walk In x Overnight Express (割り当て先アカウント)に一致します。
- Eugene x No <Channel> x Standard Ground (割り当て元アカウント)は、Eugene x Commercial Pick-Up x Standard Ground (割り当て先アカウント)に一致します。

null ディメンションである No <Channel>は、Drop Box、Walk In、Commercial Pick-Up のディメンションに一致します。

3. 売上ドライバが割り当てられるモジュールの構造ディメンションは、利益率モジュールの構造ディメンションと同じです。

実際には、売上ドライバは常にコストオブジェクトモジュールのアカウントに割り当てられ、コストオブジェクトモジュールの構造ディメンションは、利益率モジュールと同じです。

実際、売上ドライバはルールベースドライバの一種であるため、売上ドライバの使用時と同じ割り当てを適切に定義されたルールベースドライバを使用して行えます。これを行うには、ルールベースドライバに対し次の操作を行います。

- 式が SoldQuantity の計算ドライバを使用します。つまり、この計算ドライバでは、一般的な式 $\text{DrvQtyCalc} = (\text{DQF} \times \text{DWF}) + (\text{DQV} \times \text{DWV} \times \text{Dest.TDQ})$ ではなく、式 $\text{DrvQtyCalc} = \text{SoldQuantity}$ を使用します。
- ドライバのルール式は、次のとおりです。

```
(Destination.Region.DimMemName=Source.Region.DimMemName)
AND (Destination.Chnnl.DimMemName=Source.Chnnl.DimMemName)
AND SoldQuantity > 0
```

注: 式にはディメンション名ではなく、ディメンション参照が使用されていることに注意してください。

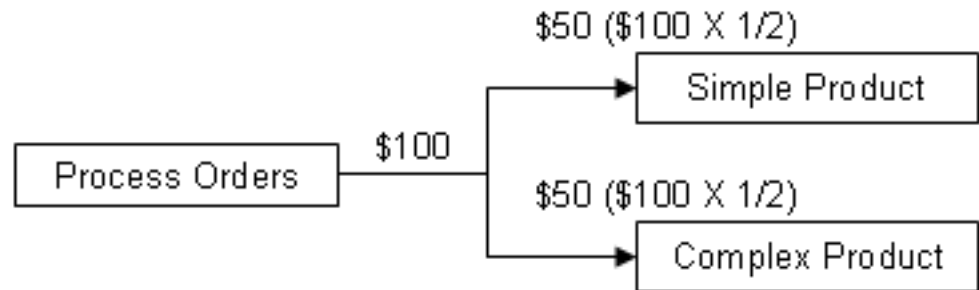
重み付きドライバ

概要

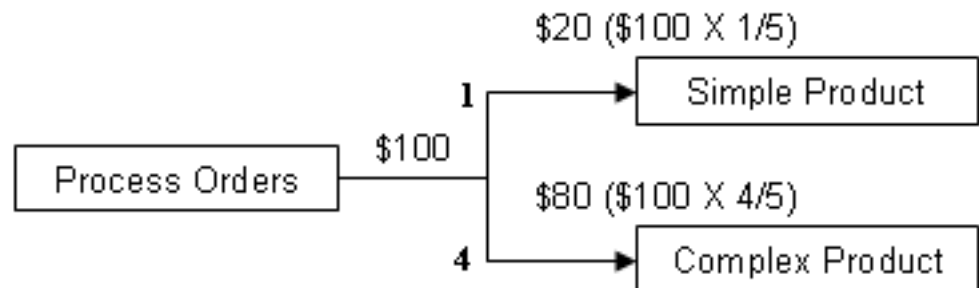
重み付きドライバ(Weighted)は、アカウント間の関係を表す 2 つの係数を含みます。1 つの係数は量(または頻度)を示し、もう 1 つの係数は集約(または複雑さ)を示します。2 つの係数を乗算して、コスト分配に使用される計算値が作成されます。この重みに

基づいた計算値が必要とされるのは、割り当て元アカウントのコストが各割り当て先アカウントにそのまま渡された場合、各割り当て先アカウントの複雑さに起因するコストが考慮されないためです。この場合、各割り当て先アカウントのコストは正確ではありません。各割り当て先アカウントの集約または複雑さを補正するために、割り当て先アカウントごとに相対的な重みを指定します。

たとえば、次の図では、アクティビティ Process Orders (発注)のコスト(\$100)は、コストオブジェクト Simple Product (簡単な製品)と Complex Product (複雑な製品)に均等に割り当てられます。しかし、製品の複雑さに差があるため、このコストは正確ではありません。



Complex Product は Simple Product の 4 倍複雑であるとして、異なる複雑さを考慮するには、Process Orders に重み付きドライバを割り当てます。ドライバの重みとして、Simple Product に 1、Complex Product に 4 を指定します。計算後、製品のコストに顕著な差が発生し、より正確になります。



ドライバが固定量、変動量、または両方をサポートするかどうかによって、固定ドライバ量の重みと変動ドライバ量の重みプロパティを使用して、ドライバの重みを指定します。(重み付きドライバの例)

例: 受注処理

ここでは、モデルへの重み付きドライバの使用例を紹介します。これらの式の多くには、数値プロパティと数値属性が含まれます。

オプション数異なる製品を販売するとして、オプションがない製品やオプションが多数ある製品があります。受注処理コストは、受注処理数(頻度)に受注の平均ライン数(複雑さ、つまり製品のオプション数)を乗算した値です。オプションが最も多い製品は、オプションが少ない(または 0 個の)製品より重みが大きくなります。

例: 製品のサポート

複雑さの異なる製品を販売するとします。単純な製品は、顧客との通話時間はほとんど必要ありません。複雑な製品は、顧客と長時間の通話が必要です。顧客との平均的な通話所要時間を基準にして、製品ごとに重みを割り当てます。

関連項目:

- “重み付きドライバの重みの指定” (314 ページ)
- “固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量” (290 ページ)

ルールベースドライバ

ルールベースドライバについて

ルールベースドライバを使用すると、コスト割り当てを自動的に生成できます。ルールベースドライバは、通常のドライバにルール式が関連付けられます。式は、ドライバが割り当てられたすべての割り当て元アカウントからどの割り当て先アカウントに割り当てを自動的に生成するかを指定します。

ルールベースドライバを作成し、使用するには、次の 4 つのステップを行います。

1. 式をドライバに割り当てます。

式を割り当てるには、ドライバプロパティダイアログで**ルール式の使用**を選択し、**式ビルダ**をクリックします。



- 売上以外のドライバ(計算、ビルオブコスト、パーセントなど)に式(ルール式)を作成できます。
- 式ビルダを使用してルール式を作成します。次に、式のサンプルを示します。

```
Module="CostObject" AND Destination.HasAttribute("SuppHours") AND SuppHours > 5
```

この式では、属性"SuppHours"が含まれ、かつその値が 5 より大きい CostObject モジュールの割り当て先アカウントすべてに true が返されます。

2. 割り当て元アカウントにドライバを割り当てます。

割り当て元アカウントは、外部ユニットなど、どのモジュールでも使用できます (ただし、外部ユニットの未使用フローはサポートされません)。

3. モデルを計算します。

計算時に、ルールベースドライバ(ルール式が割り当てられたドライバ)が割り当てられたすべての割り当て元アカウントで、次の処理を行います。

- 割り当て元アカウントのダウストリームにあるすべての割り当て先アカウントは、ルール式で求められます。(割り当て先アカウントが割り当て元アカウントと同じモジュールにある場合、またはモジュールが外部ユニット、リソース、アクティビティ、コストオブジェクトの順序であるとして割り当て先アカウントの方が

後のモジュールにある場合、割り当て先アカウントは、割り当て元アカウントのダウストリームになります)

- 割り当て先アカウントでルール式の結果が true の場合、検討している割り当て元アカウントと、その割り当て先アカウント間に割り当てが作成されます。
- 割り当て先アカウントでルール式の結果が false で、検討している割り当て元アカウントと、その割り当て先アカウント間に割り当てが存在する場合、割り当ては削除されます。
- 割り当て先アカウントでルール式の結果が false で、検討している割り当て元アカウントと、その割り当て先アカウント間に割り当てが存在しない場合、割り当ては作成されません。

4. 作成された割り当てをクリーンアップします。

このステップは任意です。早急にプロトタイプを作成する場合にのみ行います。

- 必要のない作成済みの割り当てを手動で削除します。
- ルールベースドライバがある割り当て元アカウントと、ルール式の結果が false の割り当て先アカウント間に必要な割り当てを手動で作成して追加します。

注: このように手動でクリーンアップを行うと、クリーンアップ後の計算により、削除した割り当てが元に戻され、新しく作成した割り当てが削除されるため、注意が必要です。次の 2 つの方法のどちらかを行うと、回避できます。

- 計算する際にドライバのルールを無効化を選択して、すべてのルールベースドライバを無効化します。
- ドライバプロパティダイアログボックスのルール式の使用の選択を解除して、個々のドライバのルール式を無効化します。

ルールベースドライバのサンプル

次のディメンションが存在するモデルがあるとします。

	Name	Reference
リソース	General Ledger	GL
アクティビティ	Activities	Act
	Stock	Stock
	Sell	Sell
	CustSupport	CustSupport
	Customers	Cust
	Retail	Retail
	Sears	Sears
	Kmart	Kmart
	Wholesale	Wholesale
	Passthru	Passthru
	Products	Prod
	Recreation	Recreation
	Bike	Bike
	Lawn & Garden	Lawn & Garden
	Mower	Mower
外部ユニット	Materials	Mat

SuppHours という数値属性があるとしてします。

Name	Reference	Type	UoM
属性 (プライマリペイン)	ATTRIBUTES		
SuppHours	SuppHours	数値	hours

属性は、2 つのコストオブジェクトアカウントに割り当てられます。

Display Name	SuppHours
コストオブジェクト (プライマリペイン)	
No <Customers>	
Retail	
Sears	
No <Products>	
Recreation	
Bike	5.00
Lawn & Garden	
Kmart	
No <Products>	
Recreation	
Bike	15.00
Lawn & Garden	
Wholesale	
Passthru	

最後に、次の表に示すルール式を含む 3 つのルールベースドライバを定義したとします。

ドライバ名	ドライバの種類	ルール式
CustSupp	基本	SuppHours<>0
Sell	計算	Prod.DimMemRef="None" AND Cust.DimMemRef<>"None" 注: 式のコーディングの詳細については、式のコンテキストを参照してください。
Stock	ビルオブコスト	Cust.DimMemRef="None" AND Prod.DimMemRef<>"None" 注: 式のコーディングの詳細については、式のコンテキストを参照してください。

ルールベースドライバには、売上以外の種類(計算、ビルオブコスト、パーセントなど)を使用できます。そのため、計算ルールベースドライバには、割り当てを指定するルール式と、各割り当ての計算を指定するドライバ式の 2 つの式が含まれます。次に、サンプルモデルのドライバを示します。

DrvName	DrvType	UniqDvrQty	UseFixQty	UseVarQty	UseWeighted	UECostAllocation	RuleFormula
ドライバ							
Evenly Assigned	均等割り当て	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Bill of Cost	ビルオブコスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Percentage	パーセント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Sales volume	売上	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
CustSupp	基本	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SuppHours<>0
Sell	計算	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Prod.DimMemRef="None" AND Cust.DimMemRef<>"None"
Stock	ビルオブコスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Cust.DimMemRef="None" AND Prod.DimMemRef<>"None"

次に、ルール式が SuppHours<>0 のドライバ CustSupp で生成された割り当てを 2 つ示します。

- Kmart x Bike (アカウントの SuppHours=15)
- Sears x Bike (アカウントの SuppHours=5)

Display Name	DrvName	RuleFormula	IntsctnName	DimRef	DimMemRef	SuppHours
アクティビティ (プライマリペイン)			Kmart x Mower	Prod	Mower	
Stock	Stock	Cust.DimMemRef="None" AND F	Kmart x Bike	Prod	Bike	15.00
Sell	Sell	Prod.DimMemRef="None" AND C	Sears x No <Products>	Prod	No <Prod>	
CustSupport	CustSupp	SuppHours<>0	Sears x Mower	Prod	Mower	
No <Activities>			Sears x Bike	Prod	Bike	5.00
			Kmart x No <Products>	Prod	No <Prod>	
			Passthru x No <Products>	Prod	No <Prod>	
			Passthru x Mower	Prod	Mower	
			Passthru x Bike	Prod	Bike	
			No <Customers> x Mower	Prod	Mower	
			No <Customers> x Bike	Prod	Bike	

次

に、ルール式が **Cust.DimMemRef="None" AND Prod.DimMemRef<>"None"** のドライバ Stock で生成された割り当てを 2 つ示します。

- No <Customers> x Mower
- No <Customers> x Bike

注: 次の画面には、インターセクション名の列に "No <Customers>" と表示されていますが、式には内部名 "None" を使用してください。

Display Name	DrvName	RuleFormula	IntsctnName	DimRef	DimMemRef	SuppHours
アクティビティ (プライマリペイン)			Kmart x Mower	Prod	Mower	
Stock	Stock	Cust.DimMemRef="None" AND F	Kmart x Bike	Prod	Bike	15.00
Sell	Sell	Prod.DimMemRef="None" AND C	Sears x No <Products>	Prod	No <Prod>	
CustSupport	CustSupp	SuppHours<>0	Sears x Mower	Prod	Mower	
No <Activities>			Sears x Bike	Prod	Bike	5.00
			Kmart x No <Products>	Prod	No <Prod>	
			Passthru x No <Products>	Prod	No <Prod>	
			Passthru x Mower	Prod	Mower	
			Passthru x Bike	Prod	Bike	
			No <Customers> x Mower	Prod	Mower	
			No <Customers> x Bike	Prod	Bike	

次に、ルール式が **Prod.DimMemRef="None" AND Cust.DimMemRef<>"None"** のドライバ Sell で生成された割り当てを 3 つ示します。

- Sears x No <Products>
- Kmart x No <Products>
- Passthru x No <Products>

注: 割り当てペインの列に "No <Prod>" と表示されていても、式には、null インターセクションに "None" を使用します。

Display Name	DrvName	RuleFormula	IntsctnName	DimRef	DimMemRef	SuppHours
アクティビティ (プライマリペイン)			Kmart x Mower	Prod	Mower	
Stock	Stock	Cust.DimMemRef="None" AND F	Kmart x Bike	Prod	Bike	15.00
Sell	Sell	Prod.DimMemRef="None" AND C	Sears x No <Products>	Prod	No <Prod>	
CustSupport	CustSupp	SuppHours<>0	Sears x Mower	Prod	Mower	
No <Activities>			Sears x Bike	Prod	Bike	5.00
			Kmart x No <Products>	Prod	No <Prod>	
			Passthru x No <Products>	Prod	No <Prod>	
			Passthru x Mower	Prod	Mower	
			Passthru x Bike	Prod	Bike	
			No <Customers> x Mower	Prod	Mower	
			No <Customers> x Bike	Prod	Bike	

別の 2 つのルールベースドライバ

コストオブジェクトアカウントから別のコストオブジェクトアカウントに割り当てを作成するルールベースドライバを、さらに 2 つ示します。

ドライバ名	ドライバ式
Product	Prod.DimMemRef<>"None" AND Cust.DimMemRef<>"None" AND Source.Prod.DimMemRef=Destination.Prod.DimMemRef AND Source.Cust.DimMemRef="None"
Customer	Prod.DimMemRef<>"None" AND Cust.DimMemRef<>"None" AND Source.Prod.DimMemRef="None" AND Source.Cust.DimMemRef=Destination.Cust.DimMemRef

次のルール式が作成されたドライバ Product で生成された割り当てを 3 つ示します。

```

Prod.DimMemRef<>"None"
AND Cust.DimMemRef<>"None"
AND Source.Prod.DimMemRef=Destination.Prod.DimMemRef
AND Source.Cust.DimMemRef="None"

```

Display Name	DrvName	RuleFormula	IntsctnName	DimMemRef	DimName	DimRef
コストオブジェクト (プライマリペイン)			Kmart x Mower	Mower	Products	Prod
Retail			Kmart x Bike	Bike	Products	Prod
Sears			Sears x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Kmart			Sears x Mower	Mower	Products	Prod
Wholesale			Sears x Bike	Bike	Products	Prod
Passthu			Kmart x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
No <Customers>			Passthu x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Recreation			Passthu x Mower	Mower	Products	Prod
Bike	Product	Prod<>"None" AND Cust	Passthu x Bike	Bike	Products	Prod
Lawn & Garden			No <Customers> x Mower	Mower	Products	Prod
Mower	Product	Prod<>"None" AND Cust	No <Customers> x Bike	Bike	Products	Prod

次に、ドライバ Product で生成された割り当てをさらに 3 つ示します。

Display Name	DrvName	RuleFormula	IntsctnName	DimMemRef	DimName	DimRef
コストオブジェクト (プライマリペイン)			Kmart x Mower	Mower	Products	Prod
Retail			Kmart x Bike	Bike	Products	Prod
Sears			Sears x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Kmart			Sears x Mower	Mower	Products	Prod
Wholesale			Sears x Bike	Bike	Products	Prod
Passthu			Kmart x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
No <Customers>			Passthu x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Recreation			Passthu x Mower	Mower	Products	Prod
Bike	Product	Prod<>"None" AND Cust	Passthu x Bike	Bike	Products	Prod
Lawn & Garden			No <Customers> x Mower	Mower	Products	Prod
Mower	Product	Prod<>"None" AND Cust	No <Customers> x Bike	Bike	Products	Prod

次のルール式が作成されたドライバ Customer で生成された割り当てを 2 つ示します。

```

Prod.DimMemRef<>"None"
AND Cust.DimMemRef<>"None"
AND Source.Prod.DimMemRef="None"
AND Source.Cust.DimMemRef=Destination.Cust.DimMemRef

```

Display Name	DrvName	RuleFormula	IntsctnName	DimMemRef	DimName	DimRef
コストオブジェクト (プライマリペイン)			Kmart x Mower	Mower	Products	Prod
Retail			Kmart x Bike	Bike	Products	Prod
Sears			Sears x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Recreation			Sears x Mower	Mower	Products	Prod
Lawn & Garden			Sears x Bike	Bike	Products	Prod
No <Products>	Customer	Prod.DimMem	Kmart x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Kmart			Passthru x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Recreation			Passthru x Mower	Mower	Products	Prod
Lawn & Garden			Passthru x Bike	Bike	Products	Prod
No <Products>	Customer	Prod.DimMem	No <Customers> x Mower	Mower	Products	Prod
Wholesale			No <Customers> x Bike	Bike	Products	Prod
Passthru						
Recreation						
Lawn & Garden						
No <Products>	Customer	Prod.DimMem				
No <Customers>						

次のルール式が作成されたドライバ Customer で生成された割り当てをさらに 2 つ示します。

```
Prod.DimMemRef<>"None"
AND Cust.DimMemRef<>"None"
AND Source.Prod.DimMemRef="None"
AND Source.Cust.DimMemRef=Destination.Cust.DimMemRef
```

Display Name	DrvName	RuleFormula	IntsctnName	DimMemRef	DimName	DimRef
コストオブジェクト (プライマリペイン)			Kmart x Mower	Mower	Products	Prod
Retail			Kmart x Bike	Bike	Products	Prod
Sears			Sears x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Recreation			Sears x Mower	Mower	Products	Prod
Lawn & Garden			Sears x Bike	Bike	Products	Prod
No <Products>	Customer	Prod.DimMem	Kmart x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Kmart			Passthru x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Recreation			Passthru x Mower	Mower	Products	Prod
Lawn & Garden			Passthru x Bike	Bike	Products	Prod
No <Products>	Customer	Prod.DimMem	No <Customers> x Mower	Mower	Products	Prod
Wholesale			No <Customers> x Bike	Bike	Products	Prod
Passthru						
Recreation						
Lawn & Garden						
No <Products>	Customer	Prod.DimMem				
No <Customers>						

最後に、次のルール式が作成されたドライバ Customer で生成された割り当てを 2 つ示します。

```
Prod.DimMemRef<>"None"
AND Cust.DimMemRef<>"None"
AND Source.Prod.DimMemRef="None"
AND Source.Cust.DimMemRef=Destination.Cust.DimMemRef
```

Display Name	DrvName	RuleFormula	IntscnName	DimMemRef	DimName	DimRef
コストオブジェクト (プライマリペイン)			Kmart x Mower	Mower	Products	Prod
Retail			Kmart x Bike	Bike	Products	Prod
Sears			Sears x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Recreation			Sears x Mower	Mower	Products	Prod
Lawn & Garden			Sears x Bike	Bike	Products	Prod
No <Products>	Customer	Prod.DimMem	Kmart x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Kmart			Passthru x No <Products>	No <Prod>	Products	Prod
Recreation			Passthru x Mower	Mower	Products	Prod
Lawn & Garden			Passthru x Bike	Bike	Products	Prod
No <Products>	Customer	Prod.DimMem	No <Customers> x Mower	Mower	Products	Prod
Wholesale			No <Customers> x Bike	Bike	Products	Prod
Passthru						
Recreation						
Lawn & Garden						
No <Products>	Customer	Prod.DimMem				
No <Customers>						

詳細なルール式

次に、ルールベースドライバで利用できる式の例をいくつか示します。関数の全リストについては、関数を参照してください。

ルール式:	説明:
Match(Name, "*"Salary")	割り当て先アカウント名が、"*Salary" (例: "Wages & Salary")。
TDQ > 0 and TDQ <= 100	割り当て先アカウントの TDQ が、0 から 100 の間。
Cost > 0 and Source.Cost < 0	割り当て先アカウントのコストが 0 より大きく、割り当て元アカウントのコストが 0 より小さい。
(NumberOfCalls > 0) OR (NumberOfReturns > 0)	割り当て先アカウントの属性 NumberOfCalls の値が 0 より大きい、または割り当て先アカウントの属性 NumberOfReturns の値が 0 より大きい。
if(not IsNull(SoldQuantity), SoldQuantity	条件は次のように評価されます。 <ol style="list-style-type: none"> SoldQuantity が null 以外の場合、SoldQuantity が返される。 SoldQuantity が null の場合、OutputQuantity が返される。 返された量(SoldQuantity または OutputQuantity)が 0 より大きい場合、条件は true であるため、割り当てが作成される。

制限

- 外向きの割り当てに関連する割り当て元アカウントのプロパティにアクセスすることはできませんが、ルール式には使用しないでください。外向きの割り当てはまだ作成されていないため、すべてのケースでプロパティが 0 になります。該当するプロパティは、TotalDriverQuantity、IdleQuantity、AssignedIdleQuantity、

OutputQuantity、UsedQuantity、TotalDriverQuantityCalculated、TotalDriverQuantityBasic、DrivenQuantity、DrivableCost、IdleCost、AssignedIdleCost、UsedCost、AllocatedCost、DrivenCost、UnassignedCost、AssignedCost、AssignedReciprocalCost、AssignedNonReciprocalCost です。

- ルール評価のコンテキストに存在しない割り当てのプロパティをルール式で使用する、構文エラーが発生します。該当するプロパティは、AllocatedCost、Cost、DrivenCost、DriverQuantityCalculated、DriverQuantityFixed、DriverQuantityVariable、DriverRate、DriverWeightFixed、DriverWeightVariable、IdleCost、IdleDriverQuantityUE、UsedCost です。
- ドライバの**ルール式の使用チェックボックス**を選択しても、ルール式が定義されていない場合、すべての外向きの割り当てがそのドライバを使用するアカウントから削除されます。既存の割り当てを保持するには、ルール式が空の場合、**ルール式の使用チェックボックス**の選択を解除します。
- 式が、存在するディメンションを実際とは異なる順序で参照しても、警告は表示されません。たとえば、式が、アクティビティモジュールアカウントからリソースモジュールアカウントに割り当てられる場合、警告は表示されません。割り当ては逆方向(アクティビティモジュールからリソースモジュールなど)にはならないため、このような割り当ては存在しません。
- ルール式を定義する際、またはルールベースドライバを使用してモデルをインポートする際、割り当ては生成されません。モデルを計算する場合にのみ、割り当てが生成されます。

推奨

ルールベースドライバを使用する際、次のことに注意してください。

不要な割り当ては作成しない

ルールベースドライバを使用すると割り当てを簡単に作成できるため、無数の不要な割り当てが生成されることがあります。不要な割り当てが作成されると、メモリの消費量が増え、計算にも時間がかかります。ルールベースドライバを使用するアカウントが増えると、コストの受け渡し以上に計算処理が増えます。

不要な割り当ての作成を回避するには、ルール式に条件を加えて、コストフローがゼロの割り当てを除くことも一つの方法です。たとえば、属性 NumberOfCalls を使用してコストを計算する計算ドライバがあるとします。ルール式に条件 $\text{NumberOfCalls} > 0$ を加えて、コストフローがゼロの割り当てが作成されないようにすることができます。

数値関数は文字関数より処理速度が速い

文字列連結を使用する式や文字列を返す関数は、数値式やブール式より結果を求めるまでに時間がかかります。ルール式またはルール式によって参照される計算属性で使用する場合、処理速度を考慮してください。

相互配賦割り当てには注意する

ルールベースドライバにより、あるモジュールのアカウントから同じモジュールの割り当て先アカウントに割り当てが作成されることがあります。その結果、意図しない相互配賦割り当てコストになる可能性があります。条件 $\text{Module.DimMemRef} =$ を使用して割り当て先モジュールを指定すると、相互配賦割り当てコストを回避できます。次に、例を示します。

- `"Module".DimMemRef="ExternalUnit"`
- `"Module".DimMemRef="Resource"`
- `"Module".DimMemRef="Activity"`
- `"Module".DimMemRef="CostObject"`

関連項目:

- “計算機能の拡張” (331 ページ)
- “式” (324 ページ)
- “式のコンテキスト” (326 ページ)
- “関数” (325 ページ)
- “式のトラブルシューティング” (335 ページ)
- “式に数値属性を使用” (334 ページ)

ドライバの種類の比較

次の表は、ドライバごとに、割り当てパスの DrvQtyCalc の計算に使用されるプロパティと計算に使用される式を示したものです。

ドライバの種類	使用されるプロパティ	DrvQtyCalc の計算方法
均等割り当て	DQF	$\text{DrvQtyCalc} = \text{DQF} = 1$ ドライバのすべての割り当てパスに対して、DQF として値 1 が自動的に割り当てられます。ユーザーはこのドライバの DQF を変更できません。
パーセント	DQF	$\text{DrvQtyCalc} = \text{DQF}$
基本	DQF DQV	$\text{DrvQtyCalc} = \text{DQF} + (\text{DQV} \times \text{Dest.TDQ})$
重み付き	DQF, DWF DQV, DWV	$\text{DrvQtyCalc} = (\text{DQF} \times \text{DWF}) + (\text{DQV} \times \text{DWV} \times \text{Dest.TDQ})$
BOC	DQF, DWF DQV, DWV	$\text{DrvQtyCalc} = (\text{DQF} \times \text{DWF}) + (\text{DQV} \times \text{DWV} \times \text{Dest.TDQ})$
売上	SoldQty	$\text{DrvQtyCalc} = \text{SoldQty}$
計算	33 章, “式内で使用可能なプロパティ” on page 353 を参照してください。	$\text{DrvQtyCalc} = \text{ドライバ式の値}$

27 章

ドライブコスト

ユーザー入力のコスト分配	290
固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量	290
概要	290
固定ドライバ量	291
変動ドライバ量	291
変動ドライバ量と固定ドライバ量	292
重み付きドライバ量	293
一意のドライバ量と一意でない(共有)ドライバ量	293
一意のドライバ量	293
一意でない(共有)ドライバ量	293
一意のドライバ量と一意でないドライバ量の間の変更	294
ドライバシーケンス	295
概要	295
ドライバシーケンスについての注意点	298
未使用量	298
概要	298
ユーザー入力量	299
ユーザー割合量	299
ドライバ量の使用	299
均等割り当て量	300
独立した TDQ	300
相互配賦原価計算	303
概要	303
相互配賦コストの作成	303
相互配賦原価計算のガイドライン	303
相互配賦コストの計算	303
ドライバビュー	304
ドライバビューについて	304
ドライバビューの表示	304
ドライバの作成	304
ドライバのプロパティの確認、変更	305
新しいドライバダイアログボックス	305
新しいドライバダイアログボックスについて	305
新しいドライバダイアログボックスの表示	306
情報の指定	306
詳細情報の指定	307
ドライバプロパティダイアログボックス	307

ドライバプロパティダイアログボックスについて	307
ドライバプロパティダイアログボックスの表示	308
情報の指定	308
詳細情報の指定	309

ユーザー入力のコスト分配

The screenshot shows the '新しいドライバ' (New Driver) dialog box with the '全般' (General) tab selected. The 'ユーザーコスト分配' (User Cost Allocation) section is circled in red, indicating that the checkbox 'ユーザー入力のコスト分配を許可する(U)' (Allow user input cost allocation (U)) is checked. Other options like '未使用コスト割り当て' (Unused cost allocation) and 'ドライバシーケンス' (Driver sequence) are also visible but not highlighted.

ユーザー入力のコスト分配では、Driver Allocated Cost (DrvAllocCost)プロパティを設定すると、割り当てパスに特定のコストを割り当てられます。

組織によっては、予算期間の開始時にアカウントまたは部門に特定のコストを割り当てます。このコストは、予算期間中に消化されます。このような割り当ては、従来の原価計算で使用され、通常、活動基準原価計算では使用されません。ただし、組織メンバーがこのコスト割り当て法に慣れている場合、ユーザー入力のコスト分配を実施してシミュレートできます。

固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量

概要

ドライバに入力できるドライバ量の種類を指定できます。不適切なデータがモデルに入力されないようにできます。

たとえば、固定量のみ許可するドライバを作成した場合、SAS Activity-Based Management では次のように変動量と重み付き量の割り当てを防ぎます。

- インターフェイスから変動量と重み付き量が入力できなくなります。

- モデルデータをインポートする場合、変動量と重み付き量は警告としてレポートされ、無視されます。

固定ドライバ量

固定ドライバ量では、割り当て元アカウントから割り当て先アカウントに渡されるコストは、割り当て先アカウントのプロパティに依存しません。割り当て元アカウントのユニットコストに、固定ドライバ量(プロパティ DQF で表される)が乗算されます。

たとえば、リソースアカウント Salary (給与)の\$100.00 が2つのアクティビティアカунツ(Take Orders と Process Orders)に渡されると仮定します。基本の固定量ドライバを使用して渡されるコストを次の図に示します。

Display Name	Cost		IntsctnName	Cost	DQF
リソース (プライマ)	\$100.00		New York x Take Orders	\$66.67	2.00
New York	\$100.00		New York x Process Orders	\$33.33	1.00
Salary	\$100.00				

Salary のドライバ量は 3.00 (Take Orders の 2.00 と Process Orders の 1.00)です。

Salary から渡されるユニットコストは、Salary の合計コストを Salary のドライバ量で除算して計算されます($\$100.00/3.00 = \33.33)。

各アカウントのコストは、次のように計算されます。

アカウント	UnitCost x DQF	コスト
Take Orders	$\$33.33 \times 2.00$	\$66.67
Process Orders	$\$33.33 \times 1.00$	\$33.33

注: 値はすべて丸められます。

変動ドライバ量

変動ドライバ量では、割り当て元アカウントから割り当て先アカウントに渡されるコストは、割り当て先アカウントの合計ドライバ量に依存します。割り当て元アカウントのユニットコストに、変動ドライバ量(DQV)と Destination.TDQ が乗算されます。

たとえば、リソースアカウント Salary (給与)の\$100.00 が2つのアクティビティアカунツ(Take Orders と Process Orders)に渡されると仮定します。基本の変動量ドライバを使用して渡されるコストを次の図に示します。

Display Name	Cost		IntsctnName	Cost	DQF	DQV	TDQ
リソース (プライマリペイン)	\$100.00		New York x Take Orders	\$76.92		10.00	10.00
New York	\$100.00		New York x Process Orders	\$23.08		3.00	10.00
Salary	\$100.00						

Salary のドライバ量(DrvQtyCalc)は 130.00 です。次のように計算されます。

アカウント	DQV x Dest.TDQ	合計
Take Orders	10.00 X 10.00	100.00
Process Orders	3.00 X 10.00	30.00
		130.00

Salary から渡されるユニットコストは、Salary の合計コストを Salary のドライバ量で除算して計算されます($\$100.00/130.00 = \0.7692)。

各アカウントのコストは、次のように計算されます。

アカウント	Unit Cost x DQV x Dest.TDQ	コスト
Take Orders	$\$00.7692 \times 10.00 \times 10.00$	\$76.92
Process Orders	$\$00.7692 \times 3.00 \times 10.00$	\$23.08

注: 値はすべて丸められます。

変動ドライバ量と固定ドライバ量

1 つのドライバに変動量と固定量の両方を使用できます。

たとえば、リソースアカウント Salary (給与)の\$100.00 が 2 つのアクティビティアカунツ(Take Orders と Process Orders)に渡されると仮定します。基本の固定量および変動量ドライバを使用して渡されるコストを次の図に示します。

Display Name	Cost		IntsctnName	Cost	DQF	DQV	TDQ
リソース (プライマ)	\$100.00		New York x Take Orders	\$76.69	2.00	10.00	10.00
New York	\$100.00		New York x Process Orders	\$23.31	1.00	3.00	10.00
Salary	\$100.00						

Salary のドライバ量(DrvQtyCalc)は 133.00 です。次のように計算されます。

アカウント	(DQF) +	(DQV x Dest.TDQ)	合計
Take Orders	2.00	10.00 X 10.00	102.00
Process Orders	1.00	3.00 X 10.00	31.00
			133.00

Salary から渡されるユニットコストは、Salary の合計コストを Salary のドライバ量で除算して計算されます($\$100.00/133.00 = \0.7519)。

各アカウントのコストは、次のように計算されます。

アカウント	(Unit Cost x DQF) + (UnitCost x DQV x Dest.TDQ	コスト
Take Orders	\$00.7519 X 2.00	\$00.7519 X 10.00 X 10.00
Process Orders	\$00.7519 X 1.00	\$00.7519 X 3.00 X 10.00

注: 値はすべて丸められます。

重み付きドライバ量

重み付きドライバ量は、重み付きドライバで使用されます。

一意のドライバ量と一意でない(共有)ドライバ量

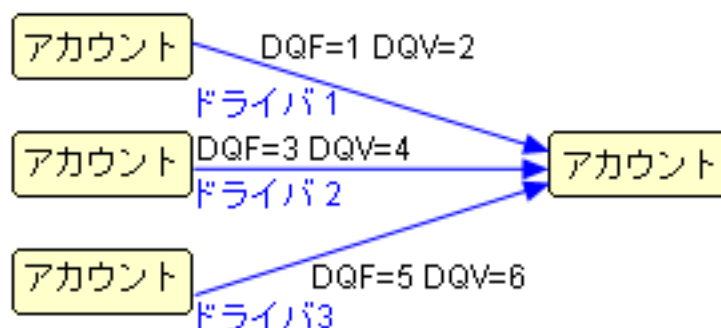
一意のドライバ量

ドライバ量は、割り当て元アカウントから割り当て先アカウントに分配するコスト額を決定します。ドライバ量には、一意のドライバ量と一意でないドライバ量があります。

一意のドライバ量では、同じドライバを使用した割り当て先アカウントへのすべての割り当てで、割り当て先アカウントへの量が異なります。コストを受け取るアカウントごとに、ドライバ量を指定する必要があります。

一意のドライバ量

ドライバのインスタンスには、それぞれに一意の量を指定できます。

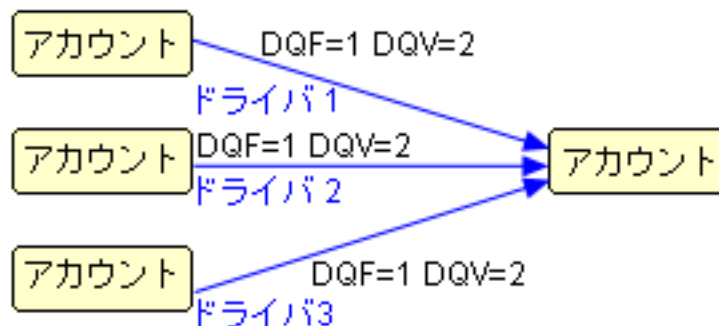


一意でない(共有)ドライバ量

一意でないドライバ量では、同じドライバを使用した割り当て先アカウントへのすべての割り当てで、割り当て先アカウントへの量が同じです。割り当て先アカウントのドライバ量を1回指定すると、そのドライバ量がすべての割り当てに適用されます。同じドライバを使用して複数の割り当て先アカウントに同じドライバ量を適用する場合、ドライバのドライバ量は一意にしない必要があります。

一意でないドライバ量

同一アカウントのドライバのインスタンスの量はすべて、同一である必要があります。インスタンスごとに量を指定することはできません。



一意のドライバ量と一意でないドライバ量の間の変更

ドライバ量は、いつでも(ドライバ量の計算後でも)、一意から一意でない、またはその逆に変更できます。一意でないドライバ量を一意のドライバ量に変更する場合、ドライバ量が各割り当て先アカウントにコピーされます。一意のドライバ量を一意でないドライバ量に変更する場合、最初に検出されたドライバ量が各割り当て先アカウントにコピーされます。

次の図のように、アクティビティ Take Orders (受注)と Process Orders (発注)からコストオブジェクト Simple Product (簡単な製品)と Complex Product (複雑な製品)にコストが渡されるとします。

Display Name	Cost	DrvName	IntsctnName	DQF
[-] アクティビティ (プライマリペイン)	\$100.00		[-] No <Customers> x Simple Product	7.00
[-] New York	\$100.00		[-] No <Customers> x Complex Product	10.00
[-] Take Orders	\$76.34	Basic Non-Unique		
[-] Process Orders	\$23.66	Basic Unique		

Display Name	Cost	DrvName	IntsctnName	DQF
[-] アクティビティ (プライマリペイン)	\$100.00		[-] No <Customers> x Simple Product	1.00
[-] New York	\$100.00		[-] No <Customers> x Complex Product	2.00
[-] Take Orders	\$76.34	Basic Non-Unique		
[-] Process Orders	\$23.66	Basic Unique		

Take Orders のドライバは、ドライバ量が一意でない基本ドライバ(Basic Non-Unique)です。Process Orders のドライバは、ドライバ量が一意の基本ドライバ(Basic Unique)です。両方のアクティビティから同じコストオブジェクトにコストは渡されますが、各コストオブジェクトに対するドライバ量は異なります(DQF 列)。

このとき、アクティビティ Process Orders のドライバ Basic Unique を、ドライバ Basic Non-Unique に変更するとします。ドライバ量は一意でないため、Take Orders の割り当てでコストオブジェクトに指定されたドライバ量が、アクティビティ Process Orders の割り当てにコピーされます。次の図を参照してください。

Display Name	Cost	DrvName	IntsctnName	DQF
アクティビティ (プライマリペイン)	\$100.00		No <Customers> x Simple Product	7.00
New York	\$100.00		No <Customers> x Complex Product	10.00
Take Orders	\$76.34	Basic Non-Unique		
Process Orders	\$23.66	Basic Unique		

Display Name	Cost	DrvName	IntsctnName	DQF
アクティビティ (プライマリペイン)	\$100.00		No <Customers> x Simple Product	7.00
New York	\$100.00		No <Customers> x Complex Product	10.00
Take Orders	\$76.34	Basic Non-Unique		
Process Orders	\$23.66	Basic Non-Unique		

この例では、各製品の注文処理数が注文受付数と同じため、一意でないドライバの使用が適切です。

ドライバシーケンス

概要

ドライバシーケンスを使用して、割り当てに複合計算を定義すると、前の受け渡しで実行されたドライバ計算結果のコストを、次の受け渡しでシーケンスドライバのドライバ量(DQF または DQV)に使用できます。

シーケンスドライバを作成するには、次の操作を行います。

1. ドライバプロパティダイアログの詳細タブをクリックして、次のシーケンス番号を使用するを選択します。
2. 1 より大きいシーケンス番号を選択します。
シーケンスドライバ以外のシーケンス番号は、1 にデフォルト設定されます。
3. 固定量を次で置き換えるまたは変動量を次で置き換える(あるいは両方)を選択し、ドロップダウンリストからコストを選択します。

選択したコストは、ドライバの Driver Quantify Fixed (DQF)または Driver Quantity Variable (DQV)に使用されます。

次に、2 名の Worker (従業員)と 1 名の Manager (マネージャ)の例を示します。次の表に示すように、従業員 2 名の給与の固定量(DQF)は、Basic ドライバを使用して 2 つのアクティビティ(Activity 1 と Activity 2)に貢献します。マネージャにシーケンスドライバを使用することによって、マネージャが管理する従業員 2 名の相対的な貢献で 2 つのアクティビティにマネージャのコスト貢献を使用できます。

	DQF Activity 1	DQF Activity 2
Worker 1	1	5
Worker 2	1	2
Manager	未定	未定

次に示すように、ドライバ 2 (シーケンス 2 でマネージャに対して実行するドライバ)に使用されているドライバ量は、シーケンス 1 で実行されたドライバのコストに基づきます。

ドライバ1
シーケンス1

Display Name	Cost	DrvName	IntsctnName	DQF	DrvDrvnCost	Cost
RESOURCE (PRI)	\$8,325.00		Activity 2	5.00	\$1,000.00	\$3,000.00
Worker 1	\$1,200.00	Driver 1	Activity 1	1.00	\$200.00	\$1,000.00
Salary	\$1,200.00					
Worker 2	\$1,200.00	Driver 1				
Salary	\$1,200.00					
Manager	\$1,600.00	Driver 2				
Salary	\$1,600.00					

ドライバ1
シーケンス1

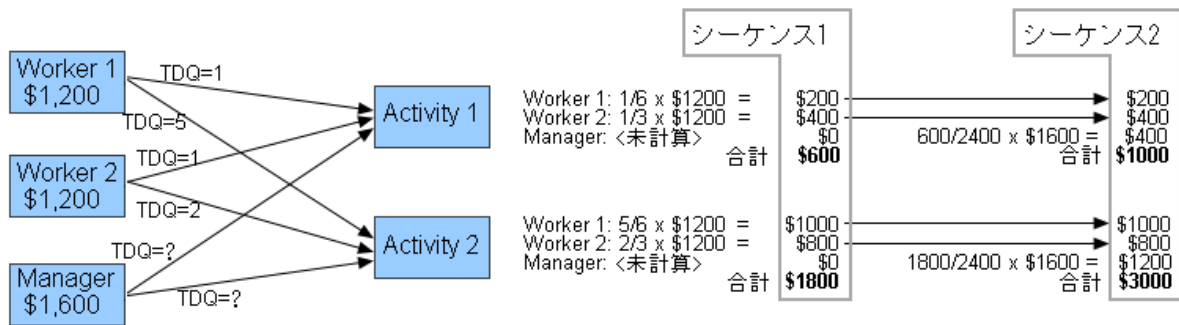
Display Name	Cost	DrvName	IntsctnName	DQF	DrvDrvnCost	Cost
RESOURCE (PRI)	\$8,325.00		Activity 2	2.00	\$800.00	\$3,000.00
Worker 1	\$1,200.00	Driver 1	Activity 1	1.00	\$400.00	\$1,000.00
Salary	\$1,200.00					
Worker 2	\$1,200.00	Driver 1				
Salary	\$1,200.00					
Manager	\$1,600.00	Driver 2				
Salary	\$1,600.00					

\$1,000.00 \$200.00
+ \$800.00 + \$400.00
\$1,800.00 \$600.00

ドライバ2
シーケンス2

Display Name	Cost	DrvName	IntsctnName	DQF	DrvDrvnCost	Cost
RESOURCE (PRI)	\$8,325.00		Activity 2	1,800.00	\$1,200.00	\$3,000.00
Worker 1	\$1,200.00	Driver 1	Activity 1	600.00	\$400.00	\$1,000.00
Salary	\$1,200.00					
Worker 2	\$1,200.00	Driver 1				
Salary	\$1,200.00					
Manager	\$1,600.00	Driver 2				
Salary	\$1,600.00					

次の図には、この例の処理シーケンスがより分かりやすく示されています。1 回目の受け渡しで、シーケンス 1 のすべてのドライバが計算されます。この 1 回目の受け渡しでは、Activity 1 と Activity 2 のマネージャのコストの計算結果は\$0 です。2 回目の受け渡しで、マネージャのコストが 1 回目の受け渡し結果のコストに基づいて計算されます。



次の表には、前出の図に示されている値がまとめられています。

	Src. Cost (Salary)	DQF Activity 1	DQF Activity 2	Dst. Cost Activity 1	Dst. Cost Activity 2
Worker 1	\$1200	1	5	\$200	\$1000
Worker 2	\$1200	1	2	\$400	\$800
Manager	\$1600	200+400=600	1000+800=1800	\$400	\$1200

注: 上書きされた値は、ドライバのドライバシーケンスを削除しても変更されません。ドライバ量を変更するには、手動で変更する必要があります。モデルデータに大きな影響を及ぼす可能性があるため、SAS では、新しいドライバを定義してドライバシ

ークセスに使用するすることをお勧めします。ドライバシーケンスを試行する場合、既存ドライバは使用しないでください。

ドライバシーケンスについての注意点

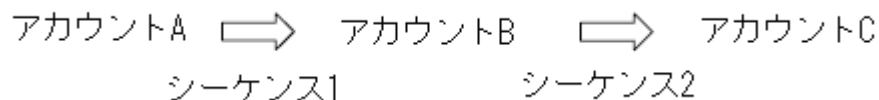
ドライバシーケンスでよく誤解される点を次にあげます。

- すべてのドライバは、シーケンス番号が必要である。

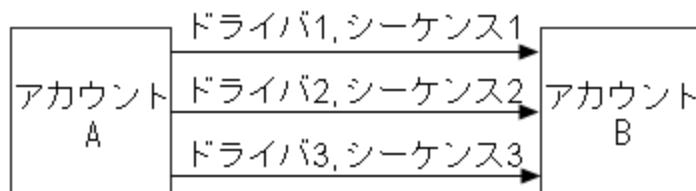
割り当て先アカウントのドライバ量の置換が必要な場合のみ、ドライバのシーケンス番号を指定します。ドライバシーケンスは、置換機能にすぎません。

- 割り当てパスのすべてのドライバは、シーケンス番号が必要である。

割り当てパスのアカウント間の計算シーケンスを示すために、ドライバシーケンスは指定しません。次に示すシーケンスは、指定する必要はありません。アカウント A とアカウント B 間のドライバは、アカウント B とアカウント C 間のドライバの前に自動的に実行されます。



- シーケンスドライバは、特定の前のドライバと組み合わせられることはない。シーケンスドライバの DQF または DQV を置き換えるコストは、シーケンスドライバの実行時のアカウントのコストです。ドライバがそのコストに貢献したかどうかは関係ありません。たとえば、次の図のドライバ 3 の DQF は、ドライバ 2 からのコストだけではなく、ドライバ 1 とドライバ 2 の両方からのコストです。通常、シーケンスドライバのコストは前のシーケンスのすべてのドライバからのコストになります。



未使用量

概要

未使用量とは、モデルで使用されないリソースや時間です。たとえば、1 日 10 時間稼動可能なマシンが 8 時間しか使用されない場合、そのマシンの未使用量は 2 時間です。未使用量は、次のように割り当て先アカウントに割り当てることができます。

Display Name	IdQty	TDQUE	IntscnName	DQF	IdQtyUE	IdDrvQty	DrvidCost
アクティビティ (プライマリ)			North America x Front Fender	5.00			\$0.00
Production			North America x Rear Fender	3.00			\$0.00
Stamping Parts	2.00	10.00					



マシン稼働可能な 10 時間は、ユーザー入力ドライバ量の合計(TDQUE 列)に指定します。マシン使用の 8 時間は、固定ドライバ量(DQF 列)に Front Fender (フロントフェンダー)の 5 時間と Rear Fender (リアフェンダー)の 3 時間に分けて指定します。SAS Activity-Based Management により、未使用量の 2 時間が計算されます(IdlQty 列)。割り当て元アカウントの TDQUE 10 から割り当て先アカウント DQF 8 が減算されました。

ドライバに未使用量を分配する方法を指定できます。この機能を非アクティブにした場合、未使用量はアカウントの階層に表示されません。また、アカウントのコストが計算される際、未使用量は使用されません。

割り当てに未使用量を分配する方法を指定するには、次のいずれかの指定方法を使用できます。前の例に対するそれぞれの指定方法の結果は、プレスマシンの時間単位コスト(\$100.00)に基づき表示されています。

ユーザー入力量



ユーザー入力量を使用して未使用量を分配する場合、未使用コンポーネントに割り当てられた未使用量を指定します(ユーザー入力の未使用量プロパティ: IdlQtyUE 列)。たとえば、Rear Fender に 2 時間を入力します。

IntsctnName	DQF	IdlQtyUE	IdlDrvQty	DrvIdlCost
 North America x Front Fender	5.00			\$0.00
 North America x Rear Fender	3.00	2.00	2.00	\$200.00

未使用ドライバ量のシステム生成値(IdlDrvQty 列)は、入力値に一致します。コストが計算されると、ドライバ未使用コスト(DrvIdlCost 列)は\$200.00 (2.00 × \$100.00)となります。

ユーザー割合量

ユーザー割合量を使用して未使用量を分配する場合、未使用量の割合を指定します(ユーザー入力の未使用量プロパティ:IdlQtyUE 列)。たとえば、Front Fender に 1、Rear Fender に 3 を入力します。

IntsctnName	DQF	IdlQtyUE	IdlDrvQty	DrvIdlCost
 North America x Front Fender	5.00	1.00	0.50	\$50.00
 North America x Rear Fender	3.00	3.00	1.50	\$150.00

ユーザー入力の未使用量合計は、4.00 (1.00 + 3.00)です。コストが計算されると、Front Fender の未使用ドライバ量(IdlDrvQty 列)は 0.50 (1/4 × 2.00)、Rear Fender の未使用ドライバ量は 1.50 (3/4 × 2.00)となります。

この結果、Front Fender のドライバ未使用コスト(DrvIdlCost 列)は\$50.00 (0.50 × \$100.00)となります。Rear Fender のドライバ未使用コストは\$150.00 (1.50 × \$100.00)となります。

ドライバ量の使用

ドライバ量を使用して未使用量を分配する場合、ドライバ量の割合が未使用量の割り当てに使用されます。たとえば、Front Fender のドライバ量の割合は 5/8 (5.00/(5.00+3.00))です。Rear Fender ドライバ量の割合は 3/8 (3.00/(5.00+3.00))です。

IntsctnName	DQF	IdlQtyUE	IdlDrvQty	DrvIdlCost
North America x Front Fender	5.00		1.25	\$125.00
North America x Rear Fender	3.00		0.75	\$75.00

コストが計算されると、Front Fender の未使用ドライバ量(IdlDrvQty 列)は 1.25 ($5/8 \times 2.00$)、Rear Fender の未使用ドライバ量は 0.75 ($3/8 \times 2.00$)となります。

IntsctnName	DQF	IdlQtyUE	IdlDrvQty	DrvIdlCost
North America x Front Fender	5.00		1.00	\$100.00
North America x Rear Fender	3.00		1.00	\$100.00

この結果、Front Fender のドライバ未使用コスト(DrvIdlCost 列)は\$125.00 ($1.25 \times \100.00)となります。Rear Fender のドライバ未使用コストは\$75.00 ($0.75 \times \100.00)となります。

均等割り当て量

均等割り当て量を使用して未使用量を分配する場合、未使用量は割り当て先アカウント間で均等に分配されます。たとえば、割り当て先アカウントの各未使用量は 1.00 です。これは、割り当て元アカウントの未使用量 2.00 の 1/2 です。

均等割り当て量を使用して未使用量を分配する場合、未使用量は割り当て先アカウント間で均等に分配されます。たとえば、割り当て先アカウントの各未使用量は 1.00 です。これは、割り当て元アカウントの未使用量 2.00 の 1/2 です。

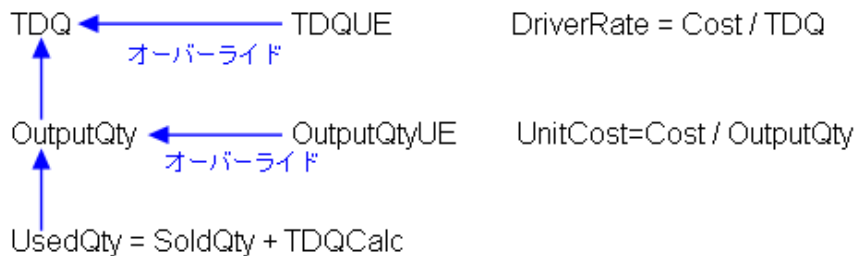
関連項目:

[“未使用フロー” \(405 ページ\)](#)

独立した TDQ

7.2 以前

次の図は、SAS Activity-Based Management の最新リリースまでに複数のプロパティ間に存在した関係を示したものです。



- TDQUE によってオーバーライドされる場合を除いて、TDQ のデフォルト値は OutputQty に設定されます。
- OutputQtyUE によってオーバーライドされる場合を除いて、OutputQty のデフォルト値は UsedQty に設定されます。
- DriverRate は TDQ に基づきます。

DriverRate は、割り当てパスに沿って渡されるコストの決定に使用されるキー値です。

- UnitCost は OutputQty に基づきます。

問題

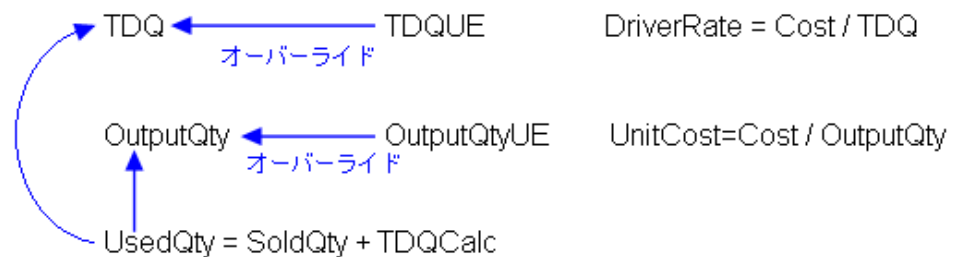
システムによって計算された UnitCost ($\text{UnitCost} = \text{Cost} / \text{OutputQty}$)とは異なるユニットレートをモデラが使用する際、OutputQtyUE を指定するようにします。OutputQtyUE は OutputQty よりオーバーライドされるため、 $\text{UnitCost} = \text{Cost} / \text{OutputQtyUE}$ となります。

ただし、TDQ のデフォルト値は UsedQty に設定され、これは OutputQtyUE によってのみオーバーライドされるため、 $\text{TDQ} = \text{OutputQtyUE}$ 、 $\text{DriverRate} = \text{Cost} / \text{OutputQtyUE}$ と言えます。

また、DriverRate によって割り当てパスに沿って渡されるコストが決定されるため、外向きのコストが内向きのコストを上回る、または下回ります。これは OutputQtyUE を指定した場合の意図した影響ではありません。

7.2 以降

7.2 以降のソリューションは TDQ を OutputQty から切り離すため、次のように TDQ のデフォルトは常に UsedQty に設定されます。OutputQtyUE の変更は UnitCost に影響しますが、TDQ または DriverRate には影響しないようになりました。



その他の変更について

メジャー TDQ が、次のメジャーとしてファクトテーブルに追加されました。

メジャー	定義
合計ドライバ量 (TDQ)	TDQ
ドライバレート	Cost / TDQ
収益率	$\text{Revenue} / \text{TDQ}$
利益率	$\text{Profit} / \text{TDQ}$

変更による既存モデルへの影響について

おそらく稀な 1 つの条件を除けば、変更による既存モデルへの影響はありません。ここでの図から、現在のリリースのコストフローが前のリリースのものと異なるケースは 1 つしかないことがわかります。このケースとは、特定の割り当てに対し次を満たすケースです。

- OutputQtyUE が指定されている
- TDQUE が null である

以前のリリースでは、 $TDQ=OutputQtyUE$ (TDQ が TDQUE によってオーバーライドされる場合を除く)でした。現在のリリースでは、 $TDQ=UsedQty$ (TDQUE によってオーバーライドされる場合を除く)となりました。

以前のリリースのモデルの移行(および XML による以前のリリースのモデルのインポート)を行うと、TDQUE ではなく OutputQtyUE を使用するすべてのアカウントに対し次の操作が行われるため、コストフローは変更されません。

- OutputQtyUE の値を TDQUE にコピーします。TDQUE は TDQ をオーバーライドするため、以前のリリースのようにこの TDQ に OutputQtyUE の値が受け入れられます。

注: SAS Activity-Based Management 7.2 へのインポートを計画しているステージングテーブルに以前のリリースのモデルを保存している場合や、そのモデルに TDQUE ではなく OutputQtyUE を使用するアカウントがある場合、7.2 と以前のリリースのコストフロー間に違いが発生しないように、アカウントステージングテーブルと外部ユニットステージングテーブルの値を手動で調整する必要があります。TDQUE が null の場合、OutputQtyUE を TDQUE にコピーします。この作業は OutputQtyUE 列が存在しない場合は不要です。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	ModuleTy	Period	Scenario	Resource	Resource1	Resource2	OutputQuantityUE	PeriodicN	PublishNo	Revenue	SoldQuan	TDQUE
2	リソース	2010	Actual	Resource1	Resource1	Resource2	15					
3	アクティ	2010	Actual	Activity1	Activity1	Activity2						

これを手動で行う必要があるのは、ステージングテーブルにバージョン ID が含まれていないためです。インポートプロセスでは、この処理が必要な以前のリリースのモデルと、この処理が必要ない現在のリリースのモデルを区別することはできません。

SAS Activity-Based Management 7.2 を使用して定義するどのモデルに対しても調整を行う必要はありません。

もう1つの影響

ここで説明されているように、以前のリリースのモデルでは次の条件に該当していました。

- TDQUE が指定されていない
- OutputQtyUE が null である
- $OutputQtyUE < TDQCalc$

そして、モデルが上述の調整(TDQUE が null の場合、OutputQtyUE が TDQUE にコピーされる)が行われて、SAS Activity-Based Management に組み込まれる場合、 $TDQUE < TDQCalc$ が発生します。

つまり、 $(OutputQtyUE < TDQCalc)$ かつ $(OutputQtyUE=TDQUE)$ の場合、 $(TDQUE < TDQCalc)$ となります。

しかし、 $TDQUE < TDQCalc$ の場合、負の IdleQty があることを意味しますが、これは意味をなしません。このような場合は、モデルを変更して、エラーを除外する必要があります。

相互配賦原価計算

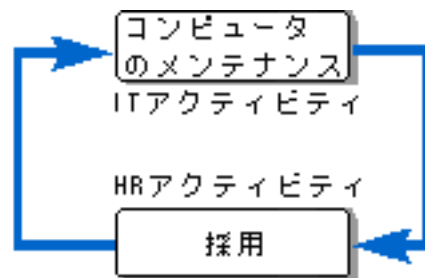
概要

相互配賦原価計算は、同じモジュールの複数アカウント間でコストの共有を可能にする方法です。相互配賦原価計算では、アカウントのコストの一部を別のアカウントに受け渡し、そのアカウントのコストの一部を元のアカウントに戻します。

アカウントまたは内部ビルオブコストから割り当てを作成して、相互配賦コストを作成します。

注: モデルの要約ウィンドウでは、相互配賦コストの割り当てはサイクルと呼ばれます。

たとえば、IT (情報技術) 部門のコストの一部は IT 部門メンバによる HR (人事) 部門のコンピュータへのメンテナンス時間に基づき、HR 部門のコストの一部は HR 部門メンバによる IT 部門要員の採用活動時間に基づくとします。2 つの部門でコストを共有するため、これら 2 つのアクティビティは相互配賦アカウントです。



相互配賦コストの作成

アカウントまたは内部ビルオブコストから割り当てを作成して、相互配賦コストを作成します。

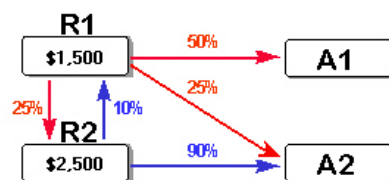
相互配賦原価計算のガイドライン

内部ビルオブコストを使用して相互配賦コストを作成する場合、次の点を検討する必要があります。

- 同じモジュール内に、複数の内部ビルオブコストの相互配賦を割り当てることができます。
- コストが相互配賦コストの割り当てから渡されるように、内部ビルオブコストを第 3 のアカウントに割り当てする必要があります。第 3 のアカウントに割り当てないと、相互配賦コストの割り当ての 2 つのアカウント間でループが発生します。

相互配賦コストの計算

相互配賦コストは、連立方程式を使用して計算します。したがって、アカウント A とアカウント B 間で共有されるコストは、同時に次のように計算されます。



式:

$$R1 = 1500 + .10B$$

$$R2 = 2500 + .25A$$

$$A1 = .5A$$

$$A2 = .25A + .9B$$

計算:

$$R1 = 1500 + .10(2500 + .25A)$$

$$= 1500 + 250 + .025A$$

$$.975A = 1750$$

$$R1 = 1750 / .975 = 1794.87$$

$$R2 = 2500 + .25(1794.87) = 2948.72$$

$$A1 = .5A = .5(1794.87) = 897.44$$

$$A2 = .25(1794.87) + .9(2948.72) = 3102.56$$

結果:

$$R1 = \$1,794.87$$

$$R2 = \$2,948.72$$

$$A1 = \$897.44$$

$$A2 = \$3,102.56$$

ドライバビュー

ドライバビューについて

DrvName	DrvType	UniqDvrQty	UseFixQty	UseVarQty
ドライバ				
Bill of Cost	ビルオブコスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Dollars	基本	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Evenly Assigned	均等割り当て	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
FTEs	基本	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Number of Customer Complaints	基本	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Number of Expedite Requests	計算	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Number of Packages	基本	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Percentage	パーセント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Sales volume	売上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
パーセント	パーセント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ビルオブコスト	ビルオブコスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
均等割り当て	均等割り当て	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
売上	売上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

ドライバビューでは、モデルのドライバ、ドライバの種類およびドライバ量を管理できます。

注: ドライバビューの情報は、直接編集できません。

ドライバビューの表示

モデルモードでモデルを開いて、モデル ⇒ ドライバを選択します。

ドライバの作成

1. DRIVERS を選択します。
2. 編集 ⇒ 新しいドライバを選択します。

新しいドライバダイアログボックスが表示されます。

ドライバのプロパティの確認、変更

1. ドライバを選択します。
2. **編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。
ドライバプロパティダイアログボックスが表示されます。

新しいドライバダイアログボックス

新しいドライバダイアログボックスについて

新しいドライバダイアログボックスでは、新しいドライバに名前を付けて、他のドライバ情報を指定できます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。

新しいドライバ

全般 | 詳細

ドライバを使うとアカウント間にコストを割り当てることができます。

名前(N):

ドライバの種類(D):

基本

☒ このドライバのドライバ量は一意(U)

☒ このドライバに固定ドライバ量を許可する(F)

☐ このドライバに変動ドライバ量を許可する(V)

☐ このドライバに重み付きドライバ量を許可する(W)

式(O):

式ビルダ(R)...

☐ ルール式の使用(S)

式(L):

式ビルダ(M)...

OK キャンセル 作成 ヘルプ

新しいドライバダイアログボックスの表示

ドライバビューで、編集 ⇨ 新しいドライバを選択します。

情報の指定

1. 名前を入力します。
2. ドライバの種類を選択します。
3. 一意のドライバ量をサポートする種類を選択した場合、このドライバのドライバ量は一意オプションを選択または選択解除します。
4. 計算ドライバの場合、式ビルダをクリックします。

式ビルダダイアログボックスが表示されます。

ヒント 式ボックスで、式を変更することもできます。

5. ルールベースドライバの場合は、**ルール式の使用**を選択してから、**式ビルダ**をクリックします。

式ビルダダイアログボックスが表示されます。

注: ルール式を作成して、割り当てを作成する計算を実行する場合、**ルール式の使用**の選択を解除して、計算でルール式に基づいた割り当てを作成しないようにできます。ルール式は保持されますが、計算では無視されます。計算を 1 回実行して割り当てを作成した後、割り当ての一部を削除したり、割り当てを追加する場合に有用です。この場合、削除した割り当てを復元したり、追加した割り当てを削除しないように計算できます。計算時に**ドライバのルールを無効化**を選択して、ルール式を無効化することもできます。

注: **ルール式の使用**を選択しただけでは、割り当ては作成されません。ルール式を定義できるだけです。割り当ては、計算時のみ作成されます。

詳細情報の指定

次の操作はオプションです。選択できるオプションは、作成するドライバの種類によって異なります。

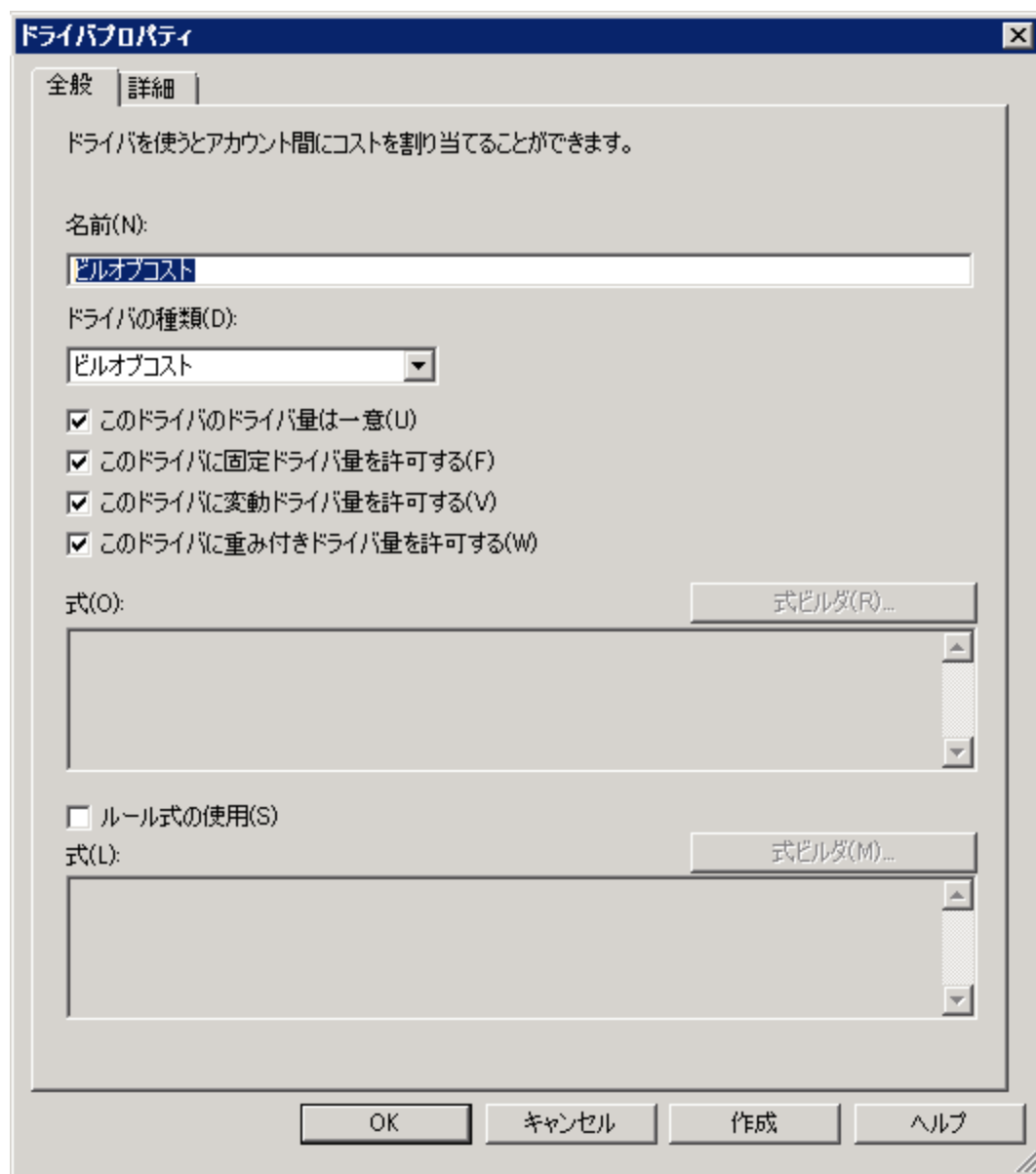
1. **詳細タブ**をクリックします。
2. 未使用量の処理方法を指定するには、**次の方法で未使用量を割り当てる**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、メニューから方法を選択します。
3. ドライバシーケンスを指定するには、次の操作を行います。
 - a. **次のシーケンス番号を使用する**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のボックスに数値を指定します。
 - b. 固定量の処理方法を指定するには、**固定量を次で置き換える**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のメニューから数値プロパティを選択します。
 - c. 変動量の処理方法を指定するには、**変動量を次で置き換える**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のメニューから数値プロパティを選択します。
 - d. 変動量の処理方法を指定するには、**変動量を次で置き換える**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のメニューから数値プロパティを選択します。
 - e. ユーザー入力のコスト分配の処理方法を指定するには、**ユーザー入力のコスト分配を許可する**オプションを選択または選択解除します。

ドライバプロパティダイアログボックス

ドライバプロパティダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

ドライバプロパティダイアログボックスでは、ドライバのプロパティを確認、変更できます。



ドライバプロパティダイアログボックスの表示

ドライバビューで、ドライバを選択し、**編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。

情報の指定

1. **全般**タブをクリックします。
2. 名前を入力します。詳細については、命名規則についてを参照してください。
3. ドライバの種類を選択します。詳細については、ドライバの種類についてを参照してください。
4. 一意のドライバ量をサポートする種類を選択した場合、**このドライバのドライバ量は一意オプション**を選択または選択解除します。

5. 固定ドライバ量をサポートする種類を選択した場合、このドライバに**固定ドライバ量を許可するオプション**を選択または選択解除します。
6. 変動ドライバ量をサポートする種類を選択した場合、このドライバに**変動ドライバ量を許可するオプション**を選択または選択解除します。
7. 重み付きドライバ量をサポートする種類を選択した場合、このドライバに**重み付きドライバ量を許可するオプション**を選択または選択解除します。
8. 計算ドライバの場合、その式を変更するには、**式エディタ**をクリックします。**式エディタ**ダイアログボックスが表示されます。

ヒント 式ボックスで、式を変更することもできます。

9. ルールベースドライバの場合は、**ルール式の使用**を選択してから、**式ビルダ**をクリックします。

式ビルダダイアログボックスが表示されます。

注: ルール式を作成して、割り当てを作成する計算を実行する場合、**ルール式の使用**の選択を解除して、計算でルール式に基づいた割り当てを作成しないようにできます。ルール式は保持されますが、計算では無視されます。計算を 1 回実行して割り当てを作成した後、割り当ての一部を削除したり、割り当てを追加する場合に有用です。この場合、削除した割り当てを復元したり、追加した割り当てを削除しないように計算できます。計算時に**ドライバのルールを無効化**を選択して、ルール式を無効化することもできます。

詳細情報の指定

選択できるオプションは、変更するドライバの種類によって異なります。

1. **詳細タブ**をクリックします。
2. 未使用量の処理方法を指定するには、**次の方法で未使用量を割り当てるオプション**を選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、メニューから方法を選択します。
3. ドライバシーケンスを指定するには、次の操作を行います。
 - a. **次のシーケンス番号を使用するオプション**を選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のボックスに数値を指定します。
 - b. 固定量の処理方法を指定するには、**固定量を次で置き換えるオプション**を選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のメニューから数値プロパティを選択します。

注: このオプションは、基本ドライバ、ビルオブコストドライバ、重み付きドライバのみに適用できます。

- c. 変動量の処理方法を指定するには、**変動量を次で置き換えるオプション**を選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のメニューから数値プロパティを選択します。

注: このオプションは、基本ドライバ、ビルオブコストドライバ、重み付きドライバのみに適用できます。

4. ユーザー入力のコスト分配の処理方法を指定するには、**ユーザー入力のコスト分配を許可するオプション**を選択または選択解除します。

28 章 方法

ドライバの作成	311
重み付きドライバの重みの指定	314
デフォルトドライバの指定	315
割り当ての作成	316
アカウントのアイテムのプロパティを使用したドライバの関連付け	317
モジュールのグリッドを使用したドライバの関連付け	319
ドライバの割り当て元アカウントのみの表示	319
ドライバの割り当て先アカウントのみの表示	319
ドライバの割り当て元アカウントと割り当て先アカウントの表示	320

ドライバの作成

1. モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **ドライバページ**を選択します。
ドライバページが表示されます。
2. **DRIVERS** フォルダを選択します。



3. **編集** ⇨ **新しいドライバ**を選択します。
新しいドライバダイアログボックスが表示されます。

新しいドライバ

全般 | 詳細

ドライバを使うとアカウント間にコストを割り当てることができます

名前(N):

ドライバの種類(D):

基本

☒ このドライバのドライバ量は一意(U)

☒ このドライバに固定ドライバ量を許可する(F)

☐ このドライバに変動ドライバ量を許可する(V)

☐ このドライバに重み付きドライバ量を許可する(W)

式(O):

式ビルダ(R)...

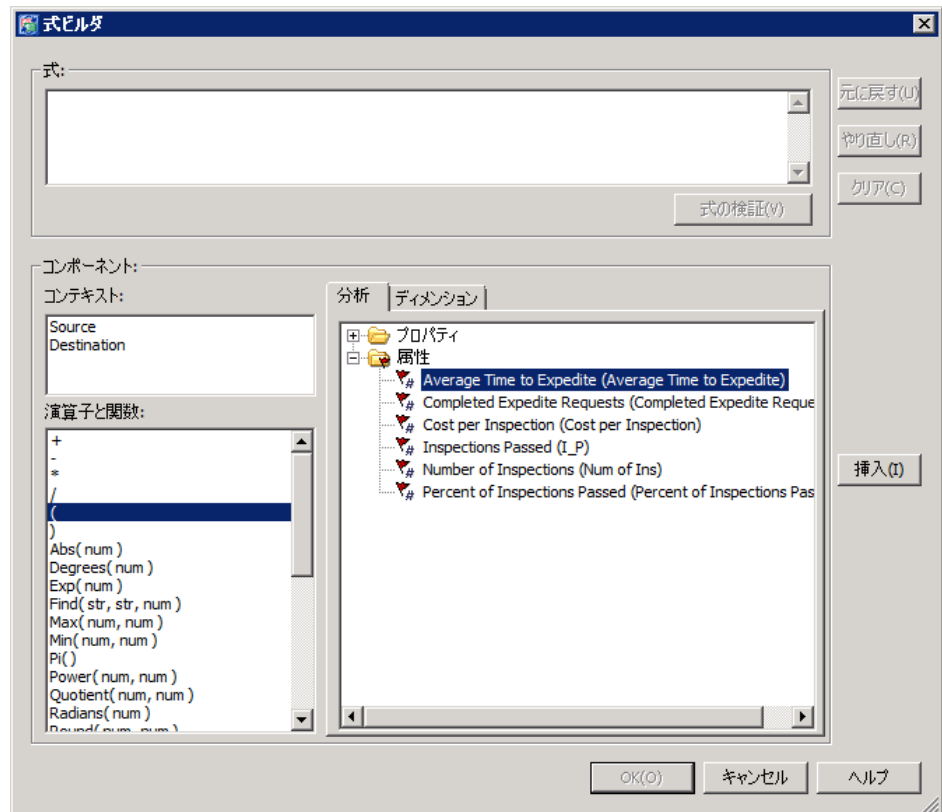
☐ ルール式の使用(S)

式(L):

式ビルダ(M)...

OK キャンセル 作成 ヘルプ

4. **名前**を入力します。
名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“[命名規則](#)” (81 ページ)を参照してください。
5. **ドライバの種類**を選択します。
6. 一意のドライバ量をサポートする種類を選択した場合、**このドライバのドライバ量は一意オプション**を選択または選択解除します。
7. 計算ドライバの場合、**式ビルダ**をクリックします。
式ビルダダイアログボックスが表示されます。



ヒント 式ボックスで式を変更することもできます。

8. 式を定義します。

- 数値プロパティ、演算子、属性のリストから、アイテムを選択します。
- 挿入をクリックします。

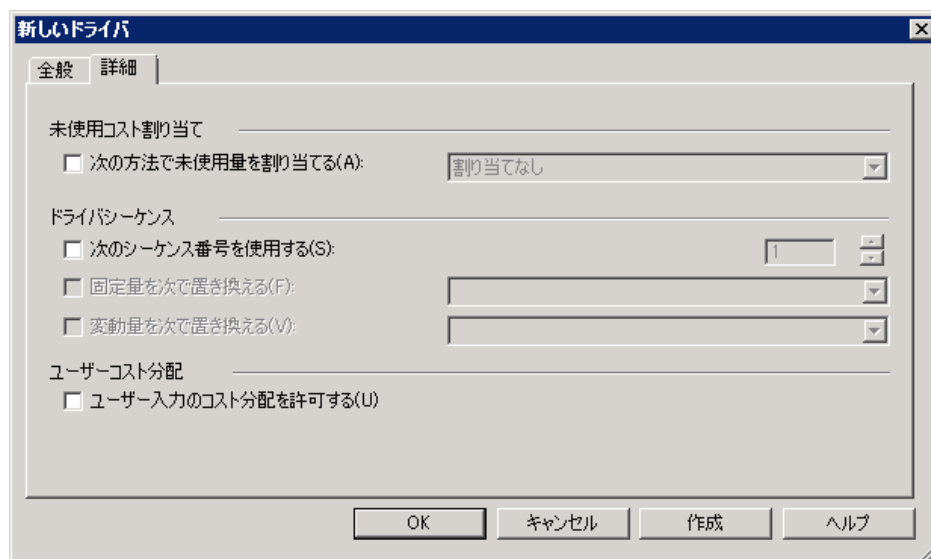
アイテムが式に追加されます。

ヒント 式を入力することもできます。

- アイテムの挿入を繰り返して、式全体を作成します。
- 最後に挿入したアイテムを削除するには、**元に戻す**をクリックします。
- 式全体を削除するには、**クリア**をクリックします。
- テストをクリックします。

エラーが表示されなければ、式の構文は有効です。

9. 詳細タブをクリックします。



10. 未使用量の処理方法を指定するには、**次の方法で未使用量を割り当てる**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、ドロップダウンリストから方法を選択します。
11. ドライバシーケンスを指定します。
 - a. **次のシーケンス番号を使用する**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、表示されるボックスにシーケンス番号を指定します。
 - b. 固定量の処理方法を指定するには、**固定量を次で置き換える**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のドロップダウンリストから数値プロパティを選択します。
 - c. 変動量の処理方法を指定するには、**変動量を次で置き換える**オプションを選択または選択解除します。このオプションを選択する場合、右側のドロップダウンリストから数値プロパティを選択します。
12. ユーザー入力のコスト分配の処理方法を指定するには、**ユーザー入力のコスト分配を許可する**オプションを選択または選択解除します。

関連項目:

- 26 章, “ドライバの種類” (269 ページ)
- “固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量” (290 ページ)
- “一意のドライバ量と一意でない(共有)ドライバ量” (293 ページ)
- “ドライバシーケンス” (295 ページ)

重み付きドライバの重みの指定

1. 重み付きドライバを使用する割り当て元アカウントの割り当て先アカウントを含むモデルを開きます。
2. 固定ドライバ量を使用する重み付きドライバの場合、プロパティ Driver Weight Fixed を含める列を追加します。

3. 変動ドライバ量を使用する重み付きドライバの場合、プロパティ Driver Weight Variable を含める列を追加します。
4. 割り当て先アカウントの Driver Weight Fixed (DWF)列または Driver Weight Variable (DWV)列をクリックして、値を入力します。

Display Name	Cost	DWF	DWV
[-] アクティビティ (プライマリペイン)	\$9,000.00		
[-] No<Organization>	\$9,000.00		
[+] Stamping Parts	\$7,333.33	1.00	2.50
[+] Chroming Parts	\$1,000.00	3.00	5.00
[+] Attaching Bumper	\$666.67	2.00	4.00

値を入力できない場合、次の事柄を確認します。

- 割り当て元アカウントのドライバが重み付きドライバである。
- 重み付きドライバで固定ドライバ量、変動ドライバ量、またはその両方が使用できる。

関連項目:

[“重み付きドライバ” \(278 ページ\)](#)

デフォルトドライバの指定

1. **モデル** ⇒ **プロパティ**を選択します。

モデルプロパティダイアログボックスが表示されます。

モデルプロパティ

全般 | キューブ | キューブ内の属性 | モデルディメンション | パフォーマンス メジャー | モジュールのエイリアス

モデルの通貨
モデルの基本通貨: USD (\$)

列のレイアウトオプション
デフォルトの列レイアウト(D): 既定

アウトプット量のオプション
デフォルトのアウトプット量(F): 0.00

モジュールのデフォルトドライバのオプション
それぞれのモジュールが自動的に使用するドライバを指定できます。

リソースモジュールのドライバ(R): Evenly Assigned

アクティビティモジュールのドライバ(A): Evenly Assigned

コストオブジェクトモジュールのドライバ(C): Evenly Assigned

外部ユニットモジュールのドライバ(E): Bill of Cost

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

2. **全般**タブをクリックします。
3. **モジュールのデフォルトドライバのオプション**セクションで、モジュールごとにデフォルトドライバを選択します。

外部ユニットモジュールに使用可能なドライバには、ビルオブコストの種類のすべてのドライバが含まれます。

注: 使用されているドライバを削除すると、そのドライバを使用しているすべてのアカウントがモジュールのデフォルトドライバを使用しているものとしてフラグが設定されます。デフォルトドライバがない場合、アカウントはドライバなしとしてフラグが設定されます(未定義など)。デフォルトドライバを削除すると、デフォルトドライバは“未定義”に設定されます。

割り当ての作成

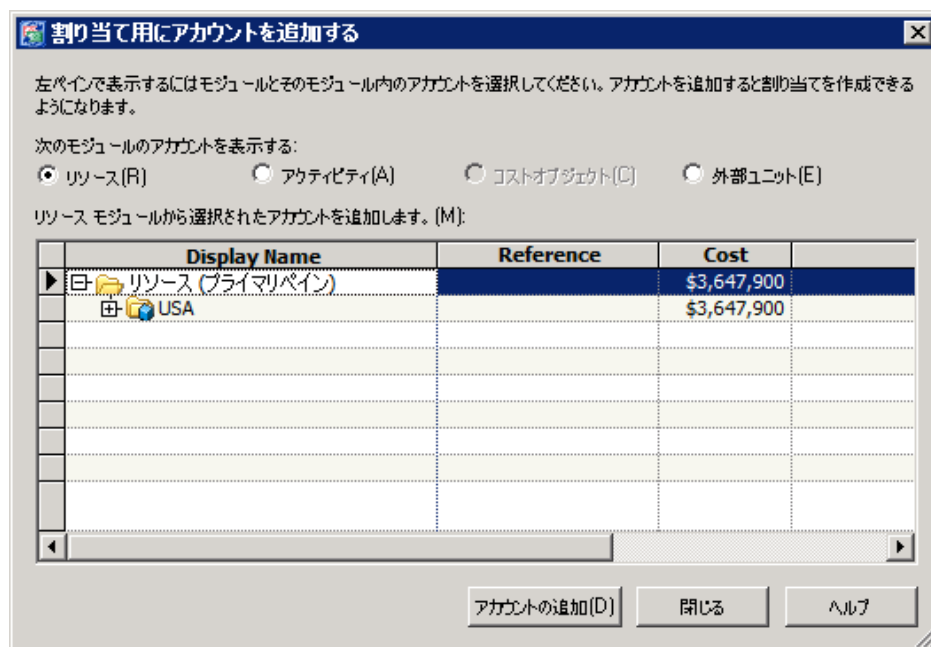
1. 次のいずれかを選択して、表示する割り当てペインを決定します。

- モデル ⇒ 割り当て ⇒ 左割り当てペインを表示
- モデル ⇒ 割り当て ⇒ 右割り当てペインを表示
- モデル ⇒ 割り当て ⇒ 左右割り当てペインを表示

2. 次のうちいずれかを選択します。

- モデル ⇒ 割り当て ⇒ 左ペインにアカウントを追加
- モデル ⇒ 割り当て ⇒ 右ペインにアカウントを追加

割り当て用にアカウントを追加するダイアログボックスが表示されます。



3. 次のモジュールのアカウントを表示するから、オプションを選択します。

4. アカウントのリストからアカウントを選択します。

Microsoft Windows の標準的な選択方法を使用して、複数のアカウントを選択できます。

ロールアップアカウントを選択すると、そのロールアップアカウント内のすべてのアカウントが追加されます。

注: モジュールロールアップを選択して、そのモジュールロールアップに含まれるすべてのアカウントを追加することはできません。

5. アカウントの追加をクリックします。

アカウントがグリッドに追加されます。

注: 複数のアカウントを個々に追加できるように、このダイアログボックスを開いたままにできます。

6. **閉じる**をクリックします。
7. 割り当て先アカウントを選択します。
8. 右割り当てペインのアカウントへのコストを割り当てるには、アカウントの左側にある矢印をクリックします。

Display Name		IntsctnName
リソース (プライマリペイン)		New York x Process Orders
New York		New York x Take Orders
Salary		

2つのアカウントの結び付けには矢印が使用されています。

Display Name		IntsctnName
リソース (プライマリペイン)		New York x Process Orders
New York		New York x Take Orders
Salary		

左割り当てペインのアカウントからのコストを割り当てるには、アカウントの右側にある矢印をクリックします。

IntsctnName		Display Name
New York x Salary		アクティビティ (プライマリペイン)
		New York
		Take Orders
		Process Orders

ヒント 多くのアカウントへの割り当てを簡単に作成するには、**モデル** ⇨ **割り当て** ⇨ **左のすべてを割り当てる**、**右のすべてを割り当てる**、**左右のすべてを割り当てる**のいずれかを選択します。

アカウントのアイテムのプロパティを使用したドライバの関連付け

1. リソースモジュール、アクティビティモジュール、またはコストオブジェクトモジュールで、アカウントを選択します。
2. **編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。
アイテムのプロパティダイアログボックスが表示されます。

アイテムのプロパティと属性

全般 プロパティ 属性 パフォーマンス メジャー

名前	値
Allocated Cost	
Assigned Cost	\$54,300.00
Assigned Idle Cost	
Assigned Idle Quantity	
Assigned Non-Reciprocal Cost	\$54,300.00
Assigned Reciprocal Cost	\$0.00
Calculate Error	
Cost	\$54,300.00
Dimension Level Name	Level1
Dimension Level Number	1
Dimension Member Name	Equipment Expenses
Dimension Member Reference	Equipment Expenses
Dimension Name	General Ledger
Dimension Reference	GL
Display Name	Equipment Expenses
Display Reference	Equipment Expenses
Drivable Cost	\$54,300.00
Driven Cost	\$54,300.00
Driven Quantity	100.00
Driver Formula	

検索(S)...

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

3. プロパティタブをクリックします。
4. プロパティリストから、Driver Name プロパティを検索します。
5. 値列をクリックして、ドライバを選択します。

アイテムのプロパティと属性

全般 プロパティ 属性 パフォーマンス メジャー

名前	値
Cost	\$54,300.00
Dimension Level Name	Level1
Dimension Level Number	1
Dimension Member Name	Equipment Expenses
Dimension Member Reference	Equipment Expenses
Dimension Name	General Ledger
Dimension Reference	GL
Display Name	Equipment Expenses
Display Reference	Equipment Expenses
Drivable Cost	\$54,300.00
Driven Cost	\$54,300.00
Driven Quantity	100.00
Driver Formula	
Driver Name	Percentage
Driver Rate	Dollars
Driver Sequence Number	Evenly Assigned
Driver Type	FTEs
Entered Cost	Number of Customer Complaints
Has Assignments	Number of Expedite Requests
Has Attributes	Number of Packages
Has BOC	Percentage
Has Entered Cost	Sales volume
Has Idle Cost	パーセント
Has Idle Quantity	ビルオブコスト
Has Idle Quantity	均等割り当て
Has Idle Quantity	売上

検索(S)...

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

モジュールのグリッドを使用したドライバの関連付け

1. リソースモジュール、アクティビティモジュール、またはコストオブジェクトモジュールで、Driver Name プロパティを表示する列を追加します。
2. DrvName 列をクリックして、ドライバを選択します。

Display Name	Display Reference	Cost	DrvName
[-] アクティビティ (プライマリペイン)		\$3,647,900.0	
[-] USA	USA	\$3,647,900.0	
[-] Oregon	Oregon	\$3,647,900.0	
[-] Beaverton	Beaverton	\$1,930,900.0	
[-] Personnel Intensive A	Personnel Intensive Activ	\$218,201.72	
[-] Expedite Package	Expedite Package Shipme	\$89,300.54	Number of Customer Complaints
[-] Local Collection	Local Collection	\$338,040.02	Dollars
[-] Local Processing	Local Processing	\$716,731.93	Evenly Assigned
[-] Regional Distribution	Regional Distribution	\$1,682,395.5	FTEs
[-] Eugene	Eugene	\$1,717,000.0	Number of Customer Complaints
			Number of Expedite Requests
			Number of Packages
			Percentage
			Sales volume
			パーセント
			ビルオブコスト
			均等割り当て
			売上

ドライバの割り当て元アカウントのみの表示

1. モデル ⇒ 割り当て ⇒ 左割り当てペインを表示を選択します。
ビューが分割され、空の左割り当てペインが表示されます。選択したモジュールは、右のプライマリペインに表示されます。
2. モジュール階層を展開して、アカウントを選択します。
3. モデル ⇒ 割り当て ⇒ 左を表示を選択します。
矢印から、選択したアカウントにコストを貢献するアカウントがわかります。

ドライバの割り当て先アカウントのみの表示

1. モデル ⇒ 割り当て ⇒ 右割り当てペインを表示を選択します。
ビューが分割され、空の右割り当てペインが表示されます。選択したモジュールは、左のプライマリペインに表示されます。
2. モジュール階層を展開して、アカウントを選択します。
3. モデル ⇒ 割り当て ⇒ 右を表示を選択します。
矢印から、選択したアカウントからコストを受け取るアカウントがわかります。

ドライバの割り当て元アカウントと割り当て先アカウントの表示

1. **モデル ⇒ 割り当て ⇒ 左右割り当てペインを表示**を選択します。

ビューが分割され、左と右に空の割り当てペインが表示されます。選択したモジュールは、中央のプライマリペインに表示されます。

2. モジュール階層を展開して、アカウントを選択します。

3. **モデル ⇒ 割り当て ⇒ 左右を表示**を選択します。

矢印から、選択したアカウントにコストを貢献するアカウントと、選択したアカウントからコストを受け取るアカウントがわかります。

10 部

ドライバと計算済み属性の式の使用

29 章	
式	323
30 章	
ブール値関数	341
31 章	
数値関数	345
32 章	
文字列関数	349
33 章	
式内で使用可能なプロパティ	353

29 章

式

式	324
概要	324
式に属性を使用	324
割り当て元アカウントと割り当て先アカウント	324
式内のプロパティ名	325
割り当て元アカウントと割り当て先アカウントのプロパティ	325
式のテスト	325
属性名の使用	325
関数	325
式のコンテキスト	326
概要	326
プロパティに修飾子を付ける	327
例	329
計算機能の拡張	331
概要	331
新機能	332
新規関数	332
変更された機能	333
制限	333
式に数値属性を使用	334
概要	334
計算数値属性の使用	334
計算ドライバのドライバ式で計算属性を使用	335
数値属性の値の決定	335
式のトラブルシューティング	335
式にコストを使用	335
文字列式のトラブルシューティング	336
演算子の優先順位	337
式ビルダダイアログボックス	337
概要	337
式ビルダダイアログボックスの表示	338
コンポーネント	338
式の定義	339

式

概要

式は、前後関係から評価される次の要素で構成されます。

- 文字列と文字列連結演算子&
- ブール演算子: NOT、AND、OR
- 数字と数値演算子(+, -, *, /, **, %, (,))
- 比較演算子(<, <=, =, >=, >) <>
- 関数
- システム定義のプロパティ
- ユーザー定義の属性
- ユーザー定義のディメンションとディメンションメンバ
- ユーザー定義のディメンション属性とディメンションメンバ属性
- システム定義のディメンション: モジュール、期間、シナリオ

注:

式ビルダダイアログボックスを使用して、次のドライバや属性で使用する式を作成します。

- 計算ドライバ(“[計算ドライバ](#)” (273 ページ)を参照)
- ルールベースドライバ(“[ルールベースドライバ](#)” (280 ページ)を参照)
- 計算属性(“[計算属性](#)” (188 ページ)を参照)

式に属性を使用

ユーザー定義の属性を含めるには、式の定義前にこれらの属性を作成する必要があります。

計算ドライバ式に属性を使用する場合、計算の実行前に割り当てのすべての割り当て先アカウントにその属性を追加する必要があります。属性を追加する際、数値属性とドライバ量の両方に適切な値を入力します。数値属性とドライバ量には、値が含まれる必要があります。空白にはできません。属性は、計算ドライバを定義する前でも後でも追加できます。数値属性は、計算の実行前に追加する必要があります。計算の実行前に追加しないと、エラーが発生したり、コストが 0 で計算される可能性があります。

割り当て元アカウントと割り当て先アカウント

式では、割り当て元アカウントまたは割り当て先アカウントの数値プロパティと数値属性を使用できます。SAS Activity-Based Management インターフェイスの数値プロパティのリストには、キーワード [Source] と [Destination] が含まれます。いずれかのキーワードを選択して式に含めると、Source. または Destination. に続けてプロパティまたは属性が表示されます。たとえば、Source.Cost、Destination.UnitCost が表示されます。

注: デフォルトでは、計算ドライバおよびルールベースドライバの式に、割り当て先アカウントのプロパティと属性を使用します。

式内のプロパティ名

式内のプロパティ名は、空白が削除される以外、SAS Activity-Based Management に表示されるプロパティ名と同じです。たとえば、プロパティ Allocated Cost は、式では `AllocatedCost` です。

プロパティ名によっては、プロパティ Dimension Level Name の `DimLevelName`、プロパティ Total Driver Quantity の `TDQ` などの省略形が式で使用されます。

割り当て元アカウントと割り当て先アカウントのプロパティ

割り当て元アカウントまたは割り当て先アカウントのプロパティの値にアクセスできます。割り当て元アカウントのプロパティにアクセスするには、キーワード `[Source]`、期間 `(.)` およびプロパティ名を使用します。たとえば、`Source.Cost` を使用します。割り当て先アカウントのプロパティにアクセスするには、キーワード `[Destination]` を使用します。式の定義時は、両方のキーワードを使用できます。

式のテスト

式のテストでは、演算子を検証して、式に空白がないことを確認します。数値プロパティと数値属性は検証されません。テストは、式の有効性や意図した結果が得られることを保証するものではありません。

計算時に、存在しないアイテムを参照している式には警告が表示されます。無効な式を使用している場合、SAS Activity-Based Management は無効な式を検出するとすぐに計算を停止します。モデルの後続の値は計算されません。

属性名の使用

SAS Activity-Based Management では、数値属性名の特殊文字または空白が正しく解釈されるように二重引用符 (`" "`) で名前を囲みます。数値プロパティ名には、引用符を使用する必要はありません。

たとえば、次の式の `OutputQuantity` はシステム定義の数値プロパティであるため、引用符は必要ありません。しかし、`Units Per Pallet` は名前に空白が含まれるため、引用符が必要です。

```
OutputQuantity/"Units Per Pallet"
```

関数

関数は、入力としてゼロまたは複数の値を使用する式で、1 つの値を返します。次で使用される式の一部として関数を使用できます。

- 計算ドライバ([“計算ドライバ” \(273 ページ\)](#)を参照)
- ルールベースドライバ([“ルールベースドライバ” \(280 ページ\)](#)を参照)
- 計算属性([“計算属性” \(188 ページ\)](#)を参照)

SAS Activity-Based Management では、次の関数を使用できます。

ブール値関数	数値関数	文字列関数
HasAttribute	abs	&
if	degrees	find
IsChildOf	exp	left
IsClose	max	len
IsNull	min	mid
Match	pi	right
	power	str
	quotient	trim
	radians	value
	round	
	sign	
	sqrt	
	trunc	

関数を式に含める場合、すべての関数がコンテキストで評価されることに注意してください。

注: 関数構文解析は、ANTLR2 ソフトウェアを使用して開発されました。

関連項目:

- “[計算機能の拡張](#)” (331 ページ)
- “[式](#)” (324 ページ)
- “[式のコンテキスト](#)” (326 ページ)
- “[関数](#)” (325 ページ)
- “[式のトラブルシューティング](#)” (335 ページ)
- “[式に数値属性を使用](#)” (334 ページ)

式のコンテキスト

概要

式は、次の要素で構成されます。

- 文字列と文字列連結演算子&
- ブール演算子: NOT、AND、OR

- 数字と数値演算子(+, -, *, /, **, %, (,))
- 比較演算子(<, <=, =, >=, >) <>
- 関数
- システム定義のプロパティ
- ユーザー定義の属性
- ユーザー定義のディメンションとディメンションメンバ
- ユーザー定義のディメンション属性とディメンションメンバ属性
- システム定義のディメンション: モジュール、期間、シナリオ

注: “演算子の優先順位” (337 ページ)を参照してください。

一部の式は、コンテキストに依存しません。たとえば、文字列 ABC や数値 2010 は、コンテキストに関わらず同じ対象を示します。属性やプロパティなど、その他の式はコンテキストに依存します。たとえば、プロパティ Cost は、アカウントや割り当てに関連する値のみを持ちます。式について次の原則に注意してください。

計算ドライバ

計算済みドライバの式は、ドライバの割り当て元アカウントと、その割り当て先アカウントの割り当てのコンテキストで計算されます。

デフォルトでは、式のプロパティと属性には割り当て先アカウントを使用します。

ルールベースドライバ

ルールベースドライバの式は、ドライバの割り当て元アカウントと、その割り当て先として選択できるアカウントの割り当てのコンテキストで計算されます。

デフォルトでは、式のプロパティと属性には割り当て先アカウントを使用します。

計算属性

計算済み属性の式は、アカウントのコンテキストで評価されます。

プロパティに修飾子を付ける

式にプロパティを指定する際、参照するプロパティを明確に指定するため、プロパティ名に修飾子を付けられます。修飾子が不要な場合もあるかもしれませんが、次の 2 レベルまでの修飾子を使用できます。

```
Source } .Dimension Reference. Property
Destination }
```

例: `Source.Product.OutputQuantity`

次に、例を示します。

例

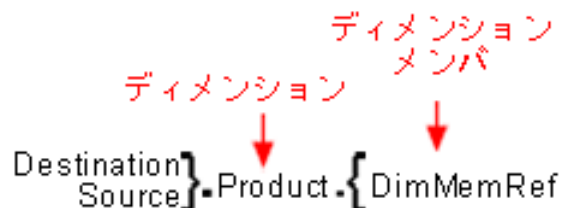
Products.DimMemRef

Source.Products.DimMemRef

Destination.Products.DimMemRef

説明

この例では、"Products"がディメンション参照です。Source または Destination の修飾子を付けない場合は、Destination を付けたとみなされます。



ディメンションメンバを作成する際、その参照を指定する必要があります。

割り当てペインにディメンションメンバが表示されている場合、列のヘッダーには、アカウント参照の列と区別するため、DimMemRef というラベルが付けられます。

Display Name	Reference	DimMemRef
アクティビティ (プライマリペイン)		
New dimension member	New dimension member_4002	New dimension member reference

例

Products.DrivableCost

Source.Products.DrivableCost

Destination.Products.DrivableCost

説明

この例では、"Products"がディメンション参照です。Source または Destination の修飾子を付けない場合は、Destination を付けたとみなされます。

例

Module.DimMemRef
 Destination.Module.DimMemRef
 Source.Module.DimMemRef

説明

Module.DimMemRef に指定できる値は、次のとおりです。

- "ExternalUnit"
- "Resource"
- "Activity"
- "CostObject"

Module.DimMemRef="CostObject"のように、式に Module.DimMemRef を使用できます。

例

Period.2009

説明

期間名は、引用符で囲む必要はありません。

例

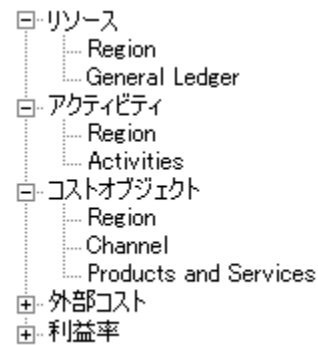
Scenario.Budget

説明

シナリオ名は、引用符で囲む必要はありません。

例

次に、Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデルを使用した例を示します。チュートリアルモデルでは、次のモジュールディメンションを使用します。



ディメンションには、次のディメンションメンバが含まれます。

Name	Reference
Region	Region
USA	USA
Oregon	Oregon
Beaverton	Beaverton
Eugene	Eugene
General Ledger	GL
Activities	Act
Personnel Intensive Activities	Personnel Intensive Activities
Resolve Customer Complaints	Resolve Customer Complaints
Expedite Package Shipments	Expedite Package Shipments
Local Collection	Local Collection
Move to Warehouse	Move to Warehouse
Local Processing	Local Processing
Sort	Sort
Inspect	Inspect
Regional Distribution	Regional Distribution
Air Distribution	Air Distribution
Land Distribution	Land Distribution
Channel	Chnnl
Drop Box	Drop Box
Walk In	Walk In
Commercial Pick-up	Commercial Pick-up
Products and Services	Prod_Serv
2nd Day Guaranteed	2nd Day Guaranteed
Overnight Express	Overnight Express
Standard Ground	Standard Ground
Materials	Mat
Fixed_Variable	FV

次の図に示すアクティビティモジュールの割り当て元アカウントからの割り当てについて説明します。

Region ディメンションメンバ	Activity ディメンションメンバ (レベル 1)	Activity ディメンションメンバ (レベル 2)
Beaverton	Personnel Intensive Activities	Expedite Package Shipments

コストオブジェクトモジュールの次のアカウントに割り当てます。

Region ディメンションメンバ	Channel ディメンションメンバ	Products and Services ディメンションメンバ
Beaverton	None	2nd Day Guaranteed

割り当て先アカウントは、この例ではコンテキストアカウントです。図の式には、次の表の値が示されています。

計算式	値
Destination.Region.DimMemRef	Beaverton
Destination.Prod_Serv.DimMemRef	2nd Day Guaranteed
Destination.Chnnl.DimMemRef	None

計算式	値
Source.Region.DimMemRef	Beaverton
Source.Act.DimMemRef	Expedite Package Shipments

注: 定数が None の場合、インターセクションは null で示されます。割り当て先アカウントは次のディメンションメンバのインターセクションです。

Region ディメンションメンバ	Channel ディメンションメンバ	Products and Services ディメンションメンバ
Beaverton	None	2nd Day Guaranteed

インターセクション名の列に、表示用に No <Channel>と表示されていても、式では内部名 None を使用します。

(この例では)コンテキスト割り当て先アカウント

(この例では)コンテキスト割り当て元アカウント

アクティビティモジュール

Display Name	DimMemRef	DimRef
USA	USA	Region
Oregon	Oregon	Region
Beaverton	Beaverton	Region
Personnel Intensive Activities	Personnel Intensive Activities	Act
Resolve Customer Complaints	Resolve Customer Complaints	Act
Expedite Package Shipments	Expedite Package Shipments	Act
Local Collection	Local Collection	Act
Move to Warehouse	Move to Warehouse	Act
Local Processing	Local Processing	Act
Sort	Sort	Act
Inspect	Inspect	Act
Regional Distribution	Regional Distribution	Act
Air Distribution	Air Distribution	Act
Land Distribution	Land Distribution	Act
Eugene	Eugene	Region

右割り当てペイン

IntscnlName	DimMemName	DimRef
Beaverton x No <Channel> x 2nd Day Guaranteed	2nd Day Guaranteed	Prod_Serv
Beaverton x No <Channel> x Overnight Express	Overnight Express	Prod_Serv
Beaverton x No <Channel> x Standard Ground	Standard Ground	Prod_Serv

Destination.Region.DimMemRef="Beaverton"

Destination.Prod_Serv.DimMemRef="2nd Day Guaranteed"

Destination.Chnnl.DimMemRef="None"

Source.Region.DimMemRef="Beaverton"

Source.Act.DimMemRef="Expedite Package Shipments"

コストオブジェクトモジュール

Display Name	DimMemRef	DimRef	Reference
USA	USA	Region	
Oregon	Oregon	Region	
Beaverton	Beaverton	Region	
No <Channel>	No <Chnnl>	Chnnl	
2nd Day Guaranteed	2nd Day Guaranteed	Prod_Serv	Beaverton x None x 2nd Day Guaranteed_2052
Overnight Express	Overnight Express	Prod_Serv	Beaverton x None x Overnight Express_2053
Standard Ground	Standard Ground	Prod_Serv	Beaverton x None x Standard Ground_2054
Drop Box	Drop Box	Chnnl	
Walk In	Walk In	Chnnl	
Commercial Pick-up	Commercial Pick-up	Chnnl	
Eugene	Eugene	Region	

計算機能の拡張

概要

ルールベースドライバの式(ルール式)を作成する重要な新規機能が、SAS Activity-Based Management に追加されました。同時に拡張された、計算ドライバのドライバ式の作成機能や計算属性の式の作成機能を使用できます。次の機能が拡張されました。

新機能

- 文字列のサポート
 - テキスト属性の文字列値など、式内の文字列(テキスト)値は、全面的にサポートされます。
 - 式で、アカウントの文字列プロパティ Reference、Name、DriverName を使用できます。
 - 式で、アカウントのインターセクションディメンションメンバの文字列プロパティ Reference (または DimMemRef)、Name (または DimMemName)、Level、LevelNumber を使用できます。
- プロパティへのアクセス
 - 属性ディメンションメンバのプロパティと同様、アカウントのインターセクションディメンションメンバのプロパティにアクセスできます。
 - 式で、システム定義のディメンション期間、シナリオ、モジュールを参照できます。
- 計算ドライバの機能
 - 計算ドライバのドライバ式で、アカウントのコストプロパティや収益プロパティにアクセスできるようになりました。
注: コストプロパティを使用する場合、ドライバシーケンスを使用するか、またはコストプロパティを 0 にする必要があります。
 - 外部ユニットモジュールで計算ドライバを使用できます。

新規関数

ブール値

関数	説明
HasAttribute(s)	属性がアカウントに割り当てられているかどうかを判定します。 <small>注: 新規 HasAttribute()関数を、テキスト属性や数値属性と同様にタグ(ブール値)属性に使用できます。</small>
IsChildOf(s)	ディメンションメンバが、指定したディメンションメンバの(メンバ自身、直接の子、または子孫)の子であるかどうかを判定します。
Match(s1,"s2")	文字列 s1 がワイルドカードパターン"s2"と一致しているかどうかを判定します。
isClose(n1,n2,digits)	浮動小数点が丸められた場合に、2 つの数値が近接しているかどうかを判定します。

文字列

関数	説明
Left(s,n)	文字列の左端の文字を返します。
Mid(s,pos,len)	ソース文字列の部分文字列を返します。
Right(s,len)	文字列の右端の文字を返します。
Str(s,size,dec)	数値を文字列に変換します。
Trim(s)	先頭と末尾のスペースを取り除きます。

数値

関数	説明
Find(s1,s2)	文字列 s2 内にある文字列 s1 の位置を返します。
Len(s)	文字列の長さを返します。

関数の全リストについては、関数を参照してください。

変更された機能

Null 値がある式は、比較演算子(<, <=, =, >=, >, <>)では false と評価され、他の演算子では Null と評価されます。”Null=Null”は false と評価されるため、値(または式)が Null かどうかを確かめることが重要な場合は IsNull()関数を使用する必要があります。次の場合に、Null 値が発生します。

- 属性がいずれのアカウントにも割り当てられず、デフォルト値でない
- TDQUE や OutputQuantityUE などの一部のプロパティ

制限

1. デフォルト値と式は、テキスト属性ではサポートされていません。
2. 次のプロパティは計算ドライバの式で使用できないため、式ビルダドロップダウンリストに表示されません。
 - DriverQuantityBasic
 - IdleDriverQuantity

割り当てでは、これらの量は DrvQtyCalc に依存します。このため、式で DrvQtyCalc がこれらの量に依存すると、DrvQtyCalc はこれらのプロパティの量が決まらなと決定できず、これらの量は DrvQtyCalc が決まらなと決定できないという悪循環に陥ります。

式に数値属性を使用

概要

数値計算属性と通常の数値属性の両方を 1 つの式に使用できます。プロパティを参照するように、属性を参照するだけで式に使用できます。

注: 属性参照に空白や特殊文字が含まれる場合は、引用符で囲む必要があります。

計算数値属性の使用

式に計算属性を使用するために、属性をアカウントに割り当てる必要はありません。計算時に求められる属性式の属性の参照のみで十分です。計算属性を使用して、他の式に使用する共通部分式を定義できます。これにより、カットアンドペーストのエラーを防ぐことができ、複数の式を更新しなくても簡単に修正できます。計算属性を再利用して、別のドライバで再利用できる部分式も定義できます。

例

次の 3 つの計算ドライバで、表に示すドライバ式を使用するとします。

計算ドライバ	ドライバ式
Drvr1	$(A / B) * (B / C)$
Drvr2	$(A / B) * 2$
Drvr3	$(B / C) * 3$

次に、数値計算属性を定義します。

計算属性	式
Rate1	(A / B)
Rate2	(B / C)

次の表に示すように、計算属性を使用して、3 つの計算ドライバそれぞれのドライバ式を変更できます。

計算ドライバ	ドライバ式
Drvr1	$\text{Rate1} * \text{Rate2}$
Drvr2	$\text{Rate1} * 2$
Drvr3	$\text{Rate2} * 3$

注: 属性式のカスケード評価が完全にサポートされています。たとえば、計算属性 CA1 で CA2 を使用し、CA2 で CA3 を使用するというように、計算属性を順番に使用

するとします。参照深度に制限はありませんが、深度が増加すると問題の解決が困難になります。循環参照はサポートされていません。たとえば、CA1 → CA2 → CA3 → CA1 が循環参照(C1に戻る)です。循環参照が行われるとエラーがレポートされます。

計算属性がアカウントに割り当てられると、その計算値が計算されてモデルに書き込まれます。通常は計算属性をアカウントに割り当てない部分式を使用する場合でも、計算属性をアカウントに割り当てると、複雑な式をデバッグする際に役立ちます。計算属性は、適用後にアカウントから削除できます。

計算ドライバのドライバ式で計算属性を使用

計算ドライバのドライバ式では、量を表すプロパティのみを使用できます。したがって、このような式に計算属性が含まれる場合、その計算属性にも量を表すプロパティのみを使用します。

数値属性の値の決定

計算時に、式の中に数値属性が見つかったら、次に示す属性値の決定ルールの優先順位が適用されます。ルールに従って属性値が決定されると、その値が最終計算に使用され、下位のルールは適用されません。

1. 計算属性の場合、その式を計算し、結果の値を使用します。
2. アカウントに属性が割り当てられている場合、そのアカウントの属性の値を使用します。
3. 属性に、現在の期間/シナリオのデフォルト値が含まれる場合、デフォルト値を使用します。
4. 属性値に null を使用します。

式のトラブルシューティング

式にコストを使用

このセクションでは、式(計算済みドライバのドライバ式、ルールベースドライバのルール式、計算属性の式)にコストプロパティを使用した場合に問題のトラブルシューティングが難しい理由とそのトラブルシューティングの方法を説明し、式へのプロパティの使用ガイドラインを示します。

フローの特定にコストが使用される場合は、必ずドライバシーケンスが必要です。式にコストを使用する場合、実際に使用される値は、前のシーケンスから取得されます。つまり、ドライバがシーケンス 3 を使用する場合、コストは、シーケンス 2 が評価された後に割り当て先アカウントから取得されます。コストプロパティが 1 つのみの場合、値は DQCalc に書き込まれるため、使用された値の特定は簡単です。

式が複雑になるほど、難しくなります。たとえば、“Cost / NumCalls”の式を使用する場合、シーケンス 2 で評価され、シーケンス 3 で使用されたコスト値を特定するには、DQCalc * NumCalls の乗算を計算する必要があります。

コストを使用する計算属性を式に同様に使用する場合、より複雑になります。計算属性のトラブルシューティングの一般的な方法としては、計算属性をアカウントに割り当て、問題があるシーケンスで計算して、その値を確認します。多くの場合、この方法で解決できますが、コスト(または任意のコストプロパティ)が属性式で使用される場合は、最終評価を行ってから、データベースにコミットして、適切なコスト値が使用される

ことを確認します。この重要性を確認するには、次の計算順序を理解する必要があります。

シーケンスループ

1. 計算属性値のクリア
2. ルールベース割り当ての作成 (ルール式を使用)
3. 消費 (ドライバ式を使用した DQCalc の評価)
4. コストフロー

ループの終了

計算属性値のクリア

計算属性の評価

前述のステップで、計算属性は、2. **ルールベース割り当ての作成**時にルール式の評価結果として、および 3. **消費**時にドライバ式の評価結果として評価されます。これは、4. **コストフロー**の前に行われることに注意します。数値属性は、コストプロパティの使用が最終コスト値と同期するように、最終評価が必要です。そのため、計算属性に使用されるコスト値は、ルール式またはドライバ式で使用する値とは異なる可能性があります。実際に使用される値のトラブルシューティング時に、誤りが発生しやすくなります。使用される値を確認するには、ルール式またはドライバ式で実際に使用される前にシーケンスステップの計算を中止して、値を確認します。

誤りを回避するには、次のガイドラインを考慮します。

1. DQF または DQV のコストプロパティのみ使用する場合、それぞれ FixedDQOverride または VariableDQOverride を使用します。簡潔になります。
2. コストプロパティを使用するため、より複雑なドライバ式またはルール式が必要な場合、コストプロパティが含まれる計算属性を(直接または間接的に)式に使用しないようにします。
3. 計算属性の式にコストプロパティを使用する必要がある場合、使用は最小限に留めます。

文字列式のトラブルシューティング

式のトラブルシューティングの一般的な方法は、計算数値属性に式を挿入して、アカウントに属性を割り当てる方法です。この方法は、式に数値結果が含まれる場合は有効です。しかし、文字列式の場合は、計算テキスト属性が SAS Activity-Based Management に存在しないため、この方法は使用できません。必要な結果が得られない場合、文字列式のトラブルシューティング方法を示します。

1 つの方法は、次の例のように、数値式に if(condition,then,else)関数を使用する方法です。

```
If( Attr1 & Attr2 = "ABCD", 1, 0 )
```

この式は 2 つの属性を連結して、特定の値の場合に値 1 を返し、それ以外の場合に 0 を返すかを調べます。

この方法は、連結以外にも使用できます。つまり、任意の文字列式を使用して、その結果と別の値を比較できます。たとえば、次のような値を使用できます。

```
If( HasAttribute(Attr2) and len(Attr2) > 2, 1, 0)
```

演算子の優先順位

次の表に、システムで式を計算する際の演算子の優先順位を示します。優先順位は、表の上から下、各行の左から右に向って低くなります。

たとえば、NOT x+y は、NOT が+より優先するため、NOT(x+y)ではなく(NOT x)+y として計算されます。

x*y/z は、乗算が除算より優先するため、x*(y/z)ではなく(x*y)/z として計算されます。

注: かっこを使用すると便利です。かっこが最も優先されるため、式から曖昧さを取り除けます。

優先順位	演算子	説明
1	(x)	かっこ
2	x**y	指数
3	NOT x	単項ブール演算子
4	+x, -x	単項数値演算子(正数、負数)
5	x*y, x/y, x%y	2 項数値演算子: 乗算、除算、割合
6	x+y, x-y, x&y;	2 項演算子: 加算、減算、文字列の連結
7	x<y, x<=y, x>=y, x>y	数値または文字列の比較
8	x=y, x<>y	数値または文字列の比較
9	x AND y	AND 条件
10	x OR y	OR 条件

式ビルダダイアログボックス

概要

式ビルダダイアログボックスでは、次の式を作成できます。

- 計算ドライバ([“計算ドライバ” \(273 ページ\)](#)を参照)
- ルールベースドライバ([“ルールベースドライバ” \(280 ページ\)](#)を参照)
- 計算属性([“計算属性” \(188 ページ\)](#)を参照)

注: すべての式はコンテキストで評価されます(“[式のコンテキスト](#)” (326 ページ)を参照)。

式ビルダダイアログボックスの表示

計算ドライバの式を作成するには、次の操作を行います。

新しいドライバダイアログボックスで、**式ビルダ**をクリックします。

ルールベースドライバの式を作成するには、次の操作を行います。

新しいドライバダイアログボックスで、**ルール式の使用**を選択し、**式ビルダ**をクリックします。

計算属性を作成するには、次の操作を行います。

新しい属性ダイアログボックスで、**式ビルダ**をクリックします。

コンポーネント

コンテキスト



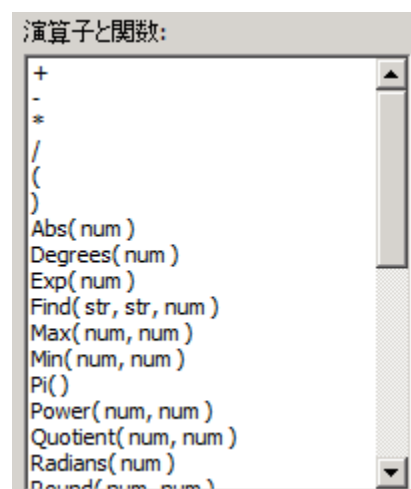
キーワード Source または Destination を使用して、割り当て元アカウントまたは割り当て先アカウントのプロパティまたは属性を適用するかどうかを指定します。適用するとたとえば、Source.Cost、Destination.UnitCost が表示されます。

注: デフォルトでは、計算ドライバの式に、割り当て先アカウントのプロパティと属性を使用します。

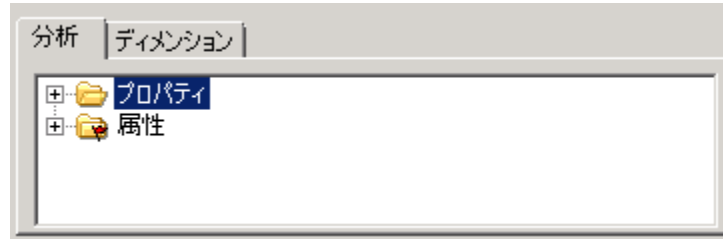
注: デフォルトでは、ルールベースドライバの式に、割り当て先アカウントのプロパティと属性を使用します。

演算子と関数

関数のリストについては、“[関数](#)” (325 ページ)を参照してください。



分析



このタブには、システム定義のプロパティとユーザー定義の属性のリストが含まれます。

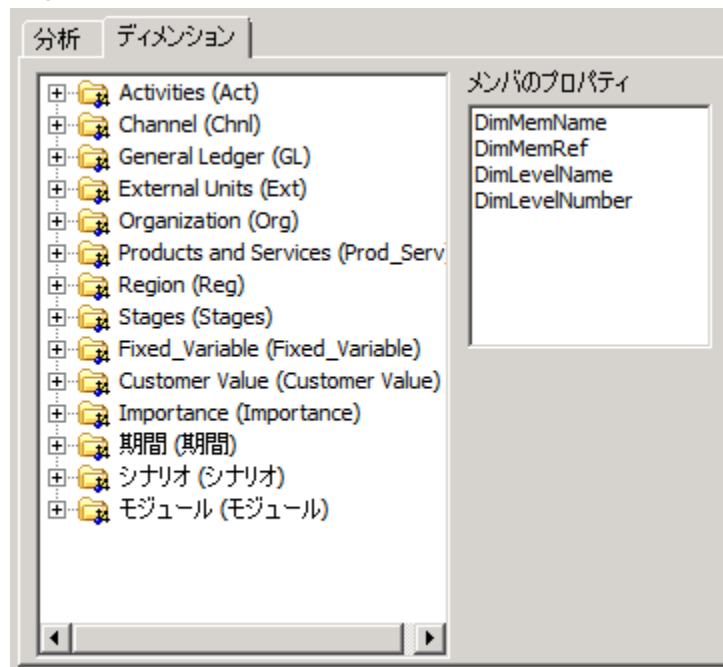
SAS Activity-Based Management では、数値属性名の特異文字または空白が正しく解釈されるように二重引用符(" ")で名前を囲みます。数値プロパティ名には、引用符を使用する必要はありません。

たとえば、次の式の OutputQuantity はシステム定義の数値プロパティであるため、引用符は必要ありません。しかし、Units Per Pallet は名前に空白が含まれるため、引用符が必要です。

OutputQuantity/"Units Per Pallet"

注: 式ビルダダイアログボックスに表示されるプロパティ名は、他のインターフェイスのプロパティ名とは異なります。式内のプロパティ名を参照してください。

ディメンション



このタブには、ディメンション、ディメンションメンバ、ディメンション属性のリストが含まれます。

式の定義

1. 使用可能なコンポーネントからアイテムを選択します。
2. 挿入をクリックします。

アイテムが式に追加されます。

ヒント 式を入力することもできます。

3. アイテムの挿入を繰り返して、式を作成します。

注: 式の長さは最大 16383 文字までです。

4. 最後に挿入したアイテムを削除するには、**元に戻す**をクリックします。
5. 式全体を削除するには、**クリア**をクリックします。
6. (オプション)**テスト**をクリックします。

エラーが表示されなければ、式の構文は有効です。

30 章

ブール値関数

はじめに	341
HasAttribute 関数	341
if 関数	342
IsChildOf 関数	342
IsClose 関数	343
IsNull 関数	344
Match 関数	344

はじめに

英国の論理学者で数学者でもある George Boole の名前にちなんだブール値関数は、TRUE または FALSE のどちらかを返します。

注: ルールベースドライバの式を評価する際、Null 値は false であるとみなされます。

次に、ブール値関数を示します。

- HasAttribute
- if
- IsChildOf
- IsClose
- IsNull
- Match

HasAttribute 関数

アカウントや外部ユニットに、渡された属性参照に割り当てられた属性がある場合は true を返します。割り当てられた属性がない場合は false を返します。新規 HasAttribute()関数を、テキスト属性や数値属性と同様にタグ(ブール値)属性に使用できます。

構文

```
HasAttribute( string )
```

string には、属性参照を指定します。

例

```
HasAttribute( "Quality" )
Destination.HasAttribute( "Quality" )
Source.HasAttribute( "Quality" )
```

詳細な説明

属性の関連付けが存在しないのに、その属性にデフォルト値がある場合、false が返されます。これは、ディメンション属性以外の数値、テキスト、タグの値属性にのみ当てはまります。

この関数は、アカウントのコンテキストで評価される必要があります。適切なアカウントを選択するには、適切な"Source."または"Destination."の接頭辞が必要な場合があります。

注: ルールベースドライバの割り当てルールに使用する場合、Source が指定されていないければ、属性は *割り当て先* アカウントを参照するとみなされます。

if 関数

if 関数は、test が TRUE と評価された場合と test が FALSE と評価された場合にそれぞれ異なる値を返します。

構文

```
if( test , true_value , false_value )
```

test は、TRUE または FALSE と評価される値または式です。

true_value は、test が TRUE の場合に返される値です。

false_value は、test が FALSE の場合に返される値です。

例

```
if( not IsNull(SoldQuantity), SoldQuantity, OutputQuantity )
```

IsChildOf 関数

ディメンションメンバが、指定したディメンションメンバの(メンバ自身、直接の子、または子孫)の子である場合、true を返します。

構文

```
dimension.reference.IsChildOf( dim-member-reference )
```

例

```
Customer.IsChildOf(Retail)
Source.Dept.IsChildOf(Sales)
Source.Dept.IsChildOf( "Sales" & "and Marketing" )
Product.IsChildOf(Source.Chnnl.Reference)
Product.IsChildOf(trim(Source.Chnnl.Reference))
```

注: dim-member-reference は、ディメンション参照の直接の子である必要はありません。たとえば、次のような階層があるとします。

```

Product
Wholesale
ProductLineA
Product1
Product2
ProductLineB
Product3
Product4
Retail
ProductLineC
Product5
Product6
ProductLineD
Product5
Product6

```

この場合、Product3 および Product4 に対し式 `Products.IsChildOf(ProductLineB)` の結果が true であるかが検証されます。

詳細な説明

アカウントのインターセクションディメンションメンバ参照が、渡された文字列と一致する場合、true が返されます。たとえば、インターセクションにメンバ `Region.Raleigh` が含まれ、式が `"Region.IsChildOf(Raleigh)"` の場合、true が返されます。`IsChildOf()` は、ディメンションメンバのコンテキストで評価される必要があります。そのためには、例に示したように参照先を組み合わせ、アカウントまたは外部ユニットのインターセクションのディメンションメンバを選択します。整数が渡された場合、数値に変換することなくそのまま使用されます。この場合、通常は必須の形式 `Period."2009"` ではなく、`Period.2009` のような構文を使用できます。

注: ルールベースドライバの割り当てルールに使用する場合、Source が指定されていないければ、member-reference は割り当て先アカウントを参照するとみなされます。

IsClose 関数

先頭の有効数字と一致しているかどうかによって、true または false が返されます。

構文

```
IsClose( number1, number2 [, digits] )
```

例

```

IsClose( 0, 0 ) → true
IsClose( 0, 1e-4 ) → false
IsClose( 0, 1e-9 ) → true
IsClose( 0, 1e-4, 3 ) → true
IsClose( 123.4567, 123.4568, 6 ) → true
IsClose( 0.00001234567, 0.00001234568, 6 ) → true
IsClose( 1.234567e-5, 1.234568e-5, 6 ) → true (前の例と同じ)
IsClose( 1, 1.00000001 ) → false
IsClose( 1, 1.000000001 ) → true
IsClose( 1, 0.999999999 ) → true

```

注: 最後の例は、一致しているわけではありませんが、前の例とちょうど同じだけ 1 から離れているため、近接しているとみなされます。

詳細な説明

浮動小数点が丸められた場合、この関数を使用できます。比較する桁数は、`digits` パラメータで指定します。指定しない場合、8 にデフォルト設定されます。

IsNull 関数

先頭の有効数字と一致しているかどうかによって、`true` または `false` が返されます。

構文

```
IsNull( expression )
```

例

```
IsNull(SoldQuantity)
```

詳細な説明

ルールベースドライバの式を評価する際、`Null` 値は `false` であるとみなされます。

Match 関数

`string` が、指定した `pattern` と一致する場合、`true` を返します。比較する際、大文字と小文字は *区別されません*。

構文

```
Match( string, "pattern" )
```

例

```
Match( Product.Reference, "*or*" ) matches or, ord, facilitator, but not asteroid
Match( Product.DimMemRef, "abc*" ) matches abc, abcd, but not asteroid, a, ab or bc
Match( Product.Reference, "*xyz" ) matches xyz, wxyz, but not asteroid, x, y, z, or yz
Match( Product.DimMemRef, "*bil*ion" ) matches billion, abillion, but not billions
Match( Product.Reference, "???DEF" ) matches abcDEF, ABCDEF, but not DEF, aDEF, abDEF
Match( Product.DimMemRef, "\*bike\"" ) matches *bike*, *Bike*, but not *bikes*
```

詳細な説明

特殊文字:

*	0 個以上の文字と照合します。
?	任意の 1 文字と照合します。
\	エスケープ文字として使用して、文字列中の文字 '*', '?', '\' を照合できます。エスケープ文字は、 <code>pattern</code> 内のエスケープ文字の次の文字(*, ?, \) を特殊文字としてではなく、その文字自体として使用することを示します。そのため、 <code>Match(Product, Name\?)</code> は <code>Name?</code> と一致し、 <code>Name</code> や <code>Names</code> とは一致しません。

注: ルールベースドライバの割り当てルールに使用する場合、`Source` が指定されていないければ、プロパティは割り当て先アカウントを参照するとみなされます。

31 章

数値関数

abs 関数	345
degrees 関数	345
exp 関数	346
max 関数	346
min 関数	346
pi 関数	346
power 関数	347
quotient 関数	347
radians 関数	347
round 関数	347
sign 関数	348
sqrt 関数	348
trunc 関数	348

abs 関数

abs 関数は、数値の絶対値を返します。

構文

`abs (x)`

x は数値です。

degrees 関数

degrees 関数は、ラジアンを度に変換します。

構文

`degrees (x)`

x はラジアンです。

例

```
degrees(1.57079633) = 90
```

exp 関数

exp 関数は、指定した数値で累乗した e を返します。定数 e は、自然対数の底である 2.71828182845904 です。

構文

```
exp(x)
```

x は数値です。

例

```
exp(2) = 7.389056099
```

max 関数

max 関数は、2 つの数値で大きいほうの数値、または 2 つの文字列で大きいほうの文字列を返します。

注: ある文字列が UTF-16 の並べ替えシーケンスでもう一つの文字列より後ろにある場合(簡単に言うと、アルファベット順で後にある場合)、もう一つの文字列より大きいと言えます。

構文

```
max(x, y)
```

x と y は、2 つの数値または 2 つの文字列です。

min 関数

min 関数は、2 つの数値で小さいほうの数値、または 2 つの文字列で小さいほうの文字列を返します。

構文

```
min(x, y)
```

x と y は、2 つの数値または 2 つの文字列です。

pi 関数

pi 関数は、定数 pi である数値 3.14159265358979 を返します。精度は 15 桁です。

構文

```
pi()
```

パラメータはありません。

例

```
pi() = 3.14159265358979
```

power 関数

power 関数は、累乗した数値を返します。

構文

```
power(x,y)
```

x の y 乗を返します。

例

```
power(3,2) = 9
```

quotient 関数

quotient 関数は、除算の整数部分を返します。この関数は、除算の端数を切り捨てる場合に使用します。

構文

```
quotient(x,y)
```

例

```
quotient(17,3) = 5
```

radians 関数

radians 関数は、度をラジアンに変換します。

構文

```
radians(x)
```

x は度です。

例

```
radians(90) = 1.57079633
```

round 関数

round 関数は、指定された小数点以下桁数に丸められた数値を返します。

構文

```
round(x,y)
```

x は数値です。

y は小数点以下桁数です。 y には次のいずれかを指定できます。

0 より大きい	x は指定された小数点以下桁数に丸められます。
0	x は最も近い整数に丸められます。
0 より小さい	x は小数点の左側に丸められます。

sign 関数

sign 関数は、数値の符号を示す数値を返します。

構文

```
sign(x)
```

x は数値です。

戻り値

1	数値が正であることを示します。
0	数値が 0 であることを示します。
-1	数値が負であることを示します。

sqrt 関数

sqrt 関数は、数値の正の平方根を返します。

構文

```
sqrt(x)
```

x は正の数です。負の数は、エラーメッセージが示されます。

trunc 関数

trunc 関数は、数値の小数部分を削除して、整数に切り捨てます。

構文

```
trunc(x)
```

x は切り捨てる数値です。

例

```
trunc(5.46) = 5
```

32 章

文字列関数

&関数(文字列の連結)	349
find 関数	349
left 関数	350
len 関数	350
mid 関数	350
right 関数	351
str 関数	351
trim 関数	351
value 関数	351

&関数(文字列の連結)

2 つの文字列を連結して返します。

構文

```
string & string
```

例

```
"Las Vegas" & ", " & "Nevada"
Product.DimMemRef & " & " & Source.DimMemRef
```

find 関数

within_string における、*pos* から数えた *find_string* の位置を返します(*pos* は 1 から開始)。

構文

```
find( find_string, within_string, pos )
```

例

```
find(Source.DimMemRef, "x")
```

詳細な説明

within_string で *find_string* が見つからない場合、Null が返されます。

pos が 1 より小さい場合、または *within_string* より長い場合、Null が返されます。
find_string が空の文字列の場合、1 が返されます。
 比較する際、大文字と小文字を区別します。
 注: ルールベースドライバの式を評価する際、Null 値は false であるとみなされます。

left 関数

string の左端から length の文字数分の文字列を返します。

構文

```
left( string, length )
```

例

```
left(Source.Name, 5)
left(Source.Name, find(Source.Name, " and")-1)
```

詳細な説明

length が *string* より長い場合、*string* が返されます。

len 関数

文字列の文字数を返します。

構文

```
len( string )
```

例

```
len(Source.Channel.Reference)
```

mid 関数

pos から length の文字数分の部分文字列を返します(pos は 1 から開始)。

構文

```
mid( string, pos [, length] )
```

例

```
mid(Source.Channel.Reference,3)
mid(Channel.Reference, find(Channel.Reference, " and"),
len(Channel.Reference)-find(Channel.Reference)-1)
```

詳細な説明

length より文字数が少ない文字列の場合、*pos* から文字列の最後まですべての文字が返されます。

right 関数

string の右端から length の文字数分の文字列を返します。

構文

```
right( string, length )
```

例

```
right(Source.Channel.Reference,3)
right(Channel.Reference, find(Channel.Reference, " and"),
len(Channel.Reference)-find(Channel.Reference)-1)
```

詳細な説明

length が string より長い場合、string が返されます。

str 関数

数値を文字列に変換します。

構文

```
str( number [, size [, dec]] )
```

例

```
str(Destination.Cost)
str(len(Source.IdleQuantity))
```

詳細な説明

デフォルトのパラメータ値は size=16 (dec > 0 の場合は小数点を含む)、小数点以下の桁数 dec=6 です。size が渡され、dec が渡されない場合は、dec は 0 にデフォルト設定されます。number が size より長い場合、領域が作成されるため、その渡された size より長い文字列が返されます。size として "1" が渡される場合、数値の先頭の空白がすべて削除されます。

trim 関数

単語間の単一スペースを除くすべてのスペースを削除して string を返します。

構文

```
trim ( string )
```

例

```
trim(Destination.Name)
```

value 関数

文字列を数値に変換します。

構文

```
value( string )
```

例

```
value(Destination.DimLevel)
```

詳細な説明

数値以外の文字が検出された場合、変換を停止します。空の文字列は、0 として評価されます。

33 章

式内で使用可能なプロパティ

式内で使用可能なプロパティ 353

式内で使用可能なプロパティ

次の表に、式内で使用可能なすべてのプロパティを示します。割り当て列は、割り当てられている内部コストエレメントと外部コストエレメントに当てはまります。

プロパティ	種類	アカウント	外部ユニット	割り当て	ディメンションメンバ	コメント
[値属性]	Num または Char	✓				数値属性に加え、テキスト属性とタグ属性が使用できます。
AllocatedCost	Num	✓		✓		
AssignedCost	Num	✓	✓			
AssignedIdleCost	Num	✓		✓		
AssignedIdleQuantity	Num	✓				割り当てに有効なプロパティ。循環参照のため式からアクセス不可。
AssignedNonReciprocalCost	Num	✓				
AssignedReciprocalCost	Num	✓				
Cost	Num	✓	✓	✓		
DimLevelName	Char				✓	
DimLevelNumber	Num				✓	
DimMemberName	Char				✓	インターセクションの Name for Dim Member の別名

DimMemberRef	Char				✓	インターセクションの Reference for Dim Member の別名
DrivableCost	Num	✓	✓			
DrivenCost	Num	✓	✓	✓		
DrivenQuantity	Num	✓				割り当てに有効なプロパティ。 循環参照のため式からアクセス不可。
DriverName	Char	✓	✓			
DriverQuantityCalculated	Num			✓		
DriverQuantityFixed	Num			✓		
DriverQuantityVariable	Num			✓		
DriverRate	Num	✓	✓	✓		
DriverWeightFixed	Num			✓		
DriverWeightVariable	Num			✓		
EnteredCost	Num	✓				
IdleCost	Num	✓		✓		
IdleDriverQuantityUE	Num			✓		6.4 では”IdleDriverQuantity_UE”
IdleQuantity	Num	✓				
Name	Char	✓	✓		✓	
OutputQuantity	Num	✓	✓			割り当てからの Source プロパティとして使用不可
OutputQuantityUE	Num	✓				
Profit	Num	✓				
ReceivedAllocatedCost	Num	✓				
ReceivedAssignmentCost	Num	✓				
ReceivedBOCCost	Num	✓				
ReceivedCost	Num	✓				
ReceivedDrivenCost	Num	✓				
ReceivedNonReciprocalCost	Num	✓				
ReceivedReciprocalCost	Num	✓				
Reference	Char	✓	✓		✓	

Revenue	Num	✓				
SoldQuantity	Num	✓				
TDQ	Num	✓	✓			割り当てからの Source プロパティとして使用不可
TDQBasic	Num	✓	✓			割り当てからの Source プロパティとして使用不可
TDQCalculated	Num	✓	✓			割り当てからの Source プロパティとして使用不可
TDQUE	Num	✓				
UnassignedCost	Num	✓				
UnitCost	Num	✓				
UnitProfit	Num	✓				
UnitRevenue	Num	✓				
UsedCost	Num	✓	✓	✓		
UsedQuantity	Num	✓	✓			

11 部

通貨

34 章

通貨の操作 359

34 章

通貨の操作

通貨	359
概要	359
Windows の通貨設定	360
為替レート	360
為替レート表の通貨の選択	360
複数の通貨の設定	360
通貨の追加	361
為替レート表のコピー	362
為替レートの管理ダイアログボックス	362
為替レートの管理ダイアログボックスについて	362
為替レートの管理ダイアログボックスの表示	363
通貨の追加、削除	363
為替レート表の設定	363
ユーロ為替レートの追加	363
為替レート表のコピー	363
通貨の追加/削除ダイアログボックス	363
通貨の追加/削除ダイアログボックスについて	364
通貨の追加/削除ダイアログボックスの表示	364
通貨の追加	364
通貨の削除	364
レートを以下からコピーダイアログボックス	364
レートを以下からコピーダイアログボックスについて	364
レートを以下からコピーダイアログボックスの表示	364
為替レート表の選択	365

通貨

概要

通貨は、名前および 3 文字のコード(通貨コード)で識別される一意の通貨制度を示します。

モデルのコストは、同時に複数の通貨建てで表示できます。ただし、その前に通貨と為替レートを定義する必要があります。SAS Activity-Based Management では、各通貨に関連付けられた為替レートを使用して、選択した通貨建てでモデルのコストを表示できます。

モデルを作成する際、モデルコストの計算に使用する基準通貨を選択できます。SAS Activity-Based Management では、基準通貨はモデルと保存します。

注: モデルの基準通貨は、一度設定すると後で変更できません。

Windows の通貨設定

コンピュータの Windows の地域オプションを使用して、各自のコンピュータの通貨表示に影響するロケールを設定します。ロケールは、コンピュータで使用する言語設定のグループです。小数点以下の桁数は、選択したロケールのデフォルト値を使用することも、そのロケールのリストから異なる値を選択することもできます。

注: 基準通貨によって、通貨記号が決まります。Windows の地域オプションは、通貨記号には影響しません。

為替レート

為替レートは、通貨価額の換算に使用される係数です。為替レート表に為替レートを入力します。為替レート表は同じ SAS Activity-Based Management Server 上にあるすべてのモデルで共有されるため、モデル間でコストを比較できます。

為替レート表に為替レートを入力すると、為替レートの係数が自動的に入力されます。為替レートは、入力後に変更できます。

一度に簡単にすべてのユーロ為替レートを追加できます。デフォルトのユーロ為替レートは、追加後に変更できます。期間が 1999 年より前の場合、ユーロ通貨は使用できません。

期間/シナリオ関連付け間で異なる為替レートを使用できます。為替レートを簡単に追加するには、期間/シナリオ関連付け間で為替レート表をコピーします。

為替レート表の表示精度は、オプションダイアログボックスのレート値に基づきます。

為替レート表の通貨の選択

通貨はロケールと同じではありません。1 つのロケールで、複数の通貨をサポートできます。たとえば、Windows を使用して、ロケールをフランス語(フランス)に設定できます。SAS Activity-Based Management では、フランス通貨のフラン(F)の形式でユニットコストの列をフォーマットし、列を追加してユーロ通貨の形式でフォーマットできます。

為替レート表に指定した通貨はすべて使用できます。必要な通貨を追加します。

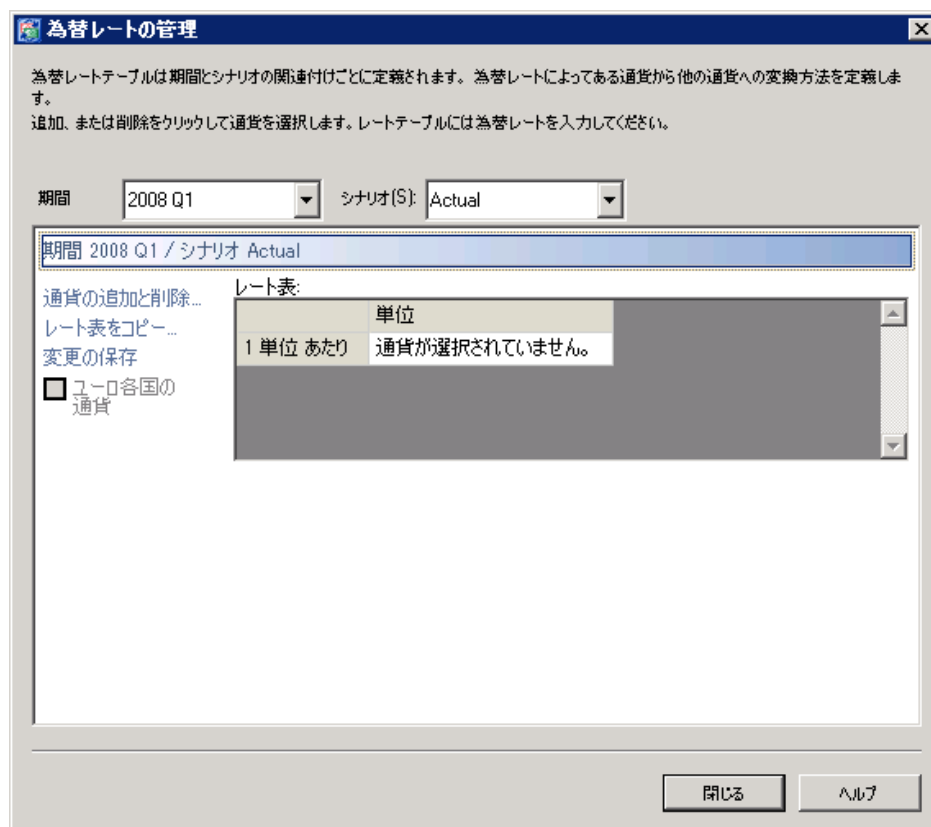
複数の通貨の設定

SAS Activity-Based Management Server のすべてのモデルに通貨を設定するには、次の操作を行います。

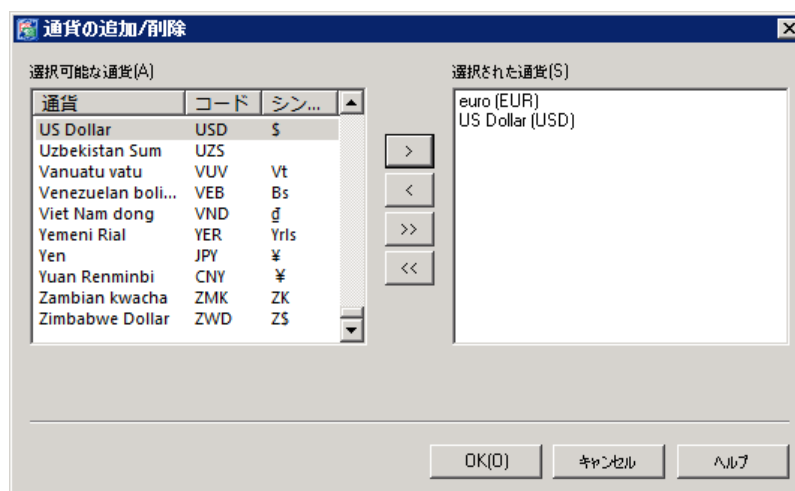
1. 通貨を追加します。
2. 為替レートを設定します。
3. (オプション) 列を追加し、追加通貨の列の形式に、列の形式を変更します。

通貨の追加

1. ツール ⇒ 為替レートの管理を選択します。
為替レートの管理ダイアログボックスが表示されます。



2. 通貨の追加と削除リンクをクリックします。
通貨の追加と削除ダイアログボックスが表示されます。



3. 選択可能な通貨リストで、通貨を1つ以上選択します。

複数の通貨を選択するには、Microsoft Windows の標準的な選択方法を使用します。

4. >をクリックします。

通貨が**選択された通貨**リストに追加されます。

注: すべての通貨を追加するには、>>をクリックします。

為替レート表のコピー

1. ツール ⇨ **為替レートの管理**を選択します。

為替レートの管理ダイアログボックスが表示されます。

2. **レート表をコピーリンク**をクリックします。

レートを以下からコピーダイアログボックスが表示されます。

以下から期間とシナリオを選択してください。為替レートがプレビューボックスに表示されます。
OKを選択するとレートがコピーされます。

期間/シナリオ関連付け(P) 2008 - Actual

プレビュー(R)

	ATS	BEF	DEM	ESP	EUR	FIM	F
1 ATS あたり	1.00	2.93	0.14	12.09	0.07	0.43	0
1 BEF あたり	0.34	1.00	0.05	4.12	0.02	0.15	0
1 DEM あたり	7.04	20.63	1.00	85.07	0.51	3.04	3
1 ESP あたり	0.08	0.24	0.01	1.00	0.01	0.04	0
1 EUR あたり	13.76	40.34	1.96	166.39	1.00	5.95	6
1 FIM あたり	2.31	6.78	0.33	27.98	0.17	1.00	1

OK(O) キャンセル ヘルプ

3. コピーする為替レート表が存在する**期間/シナリオ関連付け**を選択します。

為替レートの管理ダイアログボックス

為替レートの管理ダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

為替レートの管理ダイアログボックスでは、通貨間の為替レートを設定できます。

注: 次のタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

為替レートの管理ダイアログボックスの表示

ツール ⇨ 為替レートの管理を選択します。

通貨の追加、削除

通貨の追加と削除リンクをクリックします。

通貨の追加/削除ダイアログボックスが表示されます。

為替レート表の設定

1. 期間を選択します。
2. シナリオを選択します。
3. (オプション)通貨の追加と削除リンクをクリックします。
通貨の追加/削除ダイアログボックスが表示されます。
4. レート表で 2 通貨の交差エリアをクリックして、為替レートを入力します。
5. 為替レートごとに、ステップ 4 を繰り返します。
6. (オプション)ユーロ為替レートを追加します。

ユーロ為替レートの追加

1. 変更の保存リンクをクリックします。
ユーロ為替レートを追加する前に、為替レート表の変更を保存する必要があります。
2. 通貨ユーロを追加するには、次の操作を行います。
 - a. 通貨の追加と削除リンクをクリックします。
通貨の追加/削除ダイアログボックスが表示されます。
 - b. 通貨ユーロを選択します。
 - c. ユーロ各国の通貨オプションを選択します。

為替レート表のコピー

レート表をコピーリンクをクリックします。

レートを以下からコピーダイアログボックスが表示されます。

通貨の追加/削除ダイアログボックス

通貨の追加/削除ダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

通貨の追加/削除ダイアログボックスで、通貨を整理してから、為替レートを定義します。

通貨の追加/削除ダイアログボックスの表示

為替レートの管理ダイアログボックスで、**通貨の追加**と**削除**リンクをクリックします。

通貨の追加

1. **選択可能な通貨**リストで、通貨を 1 つ以上選択します。
複数の通貨を選択するには、Windows の標準的な選択方法を使用します。
2. >をクリックします。
通貨が**選択可能な通貨**リストから**選択された通貨**リストに移動します。
注: すべての通貨を追加するには、>>をクリックします。

通貨の削除

1. 選択された通貨リストで、通貨を 1 つ以上選択します。
複数の通貨を選択するには、Windows の標準的な選択方法を使用します。
2. <をクリックします。
通貨が選択された通貨リストから**選択可能な通貨**リストに移動します。
注: すべての通貨を削除するには、<<をクリックします。

レートを以下からコピーダイアログボックス

レートを以下からコピーダイアログボックスについて

権限によっては、機能を使用できません。

レートを以下からコピーダイアログボックスで、ある期間/シナリオ関連付けから別の期間/シナリオ関連付けに為替レート表をコピーできます。

レートを以下からコピーダイアログボックスの表示

為替レートの管理ダイアログボックスで、**レート表をコピー**を選択します。

為替レート表の選択

コピーする為替レート表が存在する期間/シナリオ関連付けを選択します。

12 部

キューブ設定

35 章	
キューブ設定の操作	369

35 章

キューブ設定の操作

キューブ設定の作成	369
キューブ設定: モデルと全般オプションの選択	370
キューブ設定: カスタム、マルチステージ貢献キューブのオプション	372
キューブ設定: 6.3 互換、マルチステージ貢献キューブのオプション	374
キューブ設定: キューブオプション	375
概要	375
SAS OLAP のキューブオプション	375
Microsoft SQL Server Analysis Services のキューブオプション	378
キューブ設定: 数値属性の選択	378
キューブ設定: 完了	379
他のモデルへのキューブ設定のコピー	380
キューブに含めるディメンションメンバの選択	381

キューブ設定の作成

キューブ設定には、キューブやファクトテーブルを作成するために選択したオプションが保持されます。キューブ設定の作成後、この設定を使用してキューブを作成します。キューブを作成する前にキューブ設定を作成します。キューブ設定を作成してから、キューブを作成します。

1. モデルのワークスペースマネージャ、またはリソース、アクティビティ、コストオブジェクトのモジュールに移動します。
2. **ファイル** ⇒ **新規作成** ⇒ **キューブ設定**を選択します。
新しいキューブ設定ウィザードが開きます。
3. 作成するキューブの種類に応じて、次の表のステップを完了します。

貢献キューブの種類	キューブ設定の作成ステップ
シングルステージ	<ul style="list-style-type: none"> ステップ 1: “キューブ設定: モデルと全般オプションの選択” (370 ページ) ステップ 2: “キューブ設定: キューブオプション” (375 ページ) ステップ 3: “キューブ設定: 完了” (379 ページ)
リソース	<ul style="list-style-type: none"> ステップ 1: “キューブ設定: モデルと全般オプションの選択” (370 ページ) ステップ 2: “キューブ設定: キューブオプション” (375 ページ) ステップ 3: “キューブ設定: 数値属性の選択” (378 ページ) ステップ 4: “キューブ設定: 完了” (379 ページ)
6.3 互換のマルチステージ	<ul style="list-style-type: none"> ステップ 1: “キューブ設定: モデルと全般オプションの選択” (370 ページ) ステップ 2: “キューブ設定: キューブオプション” (375 ページ) ステップ 3: “キューブ設定: 6.3 互換、マルチステージ貢献キューブのオプション” (374 ページ) ステップ 4: “キューブ設定: 数値属性の選択” (378 ページ) ステップ 5: “キューブ設定: 完了” (379 ページ)
カスタムマルチステージ	<ul style="list-style-type: none"> ステップ 1: “キューブ設定: モデルと全般オプションの選択” (370 ページ) ステップ 2: “キューブ設定: キューブオプション” (375 ページ) ステップ 3: “キューブ設定: カスタム、マルチステージ貢献キューブのオプション” (372 ページ) ステップ 4: “キューブ設定: 数値属性の選択” (378 ページ) ステップ 5: “キューブ設定: 完了” (379 ページ)

関連項目:

[“キューブの作成” \(434 ページ\)](#)

キューブ設定: モデルと全般オプションの選択

キューブ設定の作成ステップでは、モデルを選択し、キューブ設定に名前を付けて、キューブ作成の他のオプションを選択します。

モデルを選択して、キューブ設定に名前を付ける

モデル名

キューブおよびファクトテーブル、またはそのどちらかを作成するモデルを選択します。1つのモデルから異なるキューブを作成できるため、モデルに複数のキューブ設定を作成できます。

キューブ設定の名前

後で、キューブ設定を使用してキューブを作成します。ウィザードのこのステップでは、作成するキューブを表す名前を割り当てます。

キューブ設定参照

キューブ設定参照は、パブリックビューで、設定に対する不変の識別子として使用されます。

キューブの種類を選択し、キューブとファクトテーブルの両方を作成するのか、またはファクトテーブルのみを作成するのかを選択する

キューブとファクトテーブルまたはファクトテーブルのみ

キューブとファクトテーブルの両方、またはファクトテーブルのみの作成を選択できます。ファクトテーブルを使用すると、SAS OLAP Cube Studio や Microsoft SQL Server Analysis Services などの他のアプリケーションで、カスタムキューブを作成できます。

種類

シングルステージ貢献

1つ前の割り当てレベルからのコスト貢献を分析します。

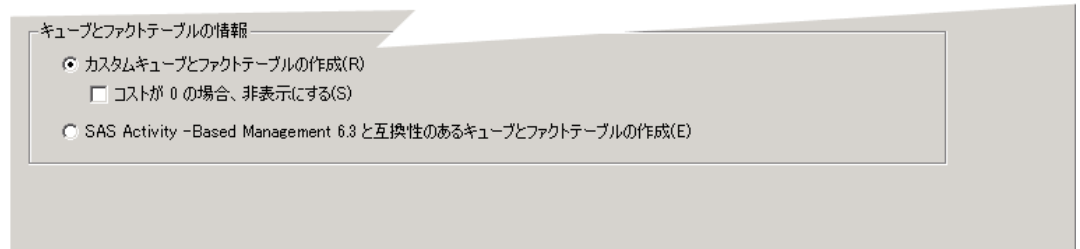
マルチステージ貢献

ステージ属性を持つアカウント間のコスト貢献を分析します。

リソース貢献

コストが最初に入力されたアカウントから、他のアカウントにコストを割り当てない最終アカウントまでのコスト貢献を分析します。

カスタムキューブまたは 6.3 と互換性のあるキューブを選択する



カスタムキューブとファクトテーブルの作成

このオプションは、マルチステージ貢献キューブにのみ適用されます。カスタムキューブでは、キューブに挿入するアイテムを選択できます。選択内容を変えることで、1つのモデルから異なるマルチステージ貢献キューブを作成できます。ある1つのキューブ設定には、ある1つのモデルにおいてある1つのキューブに対して選択した内容が保存されます。注: 既存のキューブ設定をコピーして、キューブ設定が関連付けられているモデルのみを変更できます。キューブ設定を他のモデルにコピーするを参照してください。

コストが 0 の場合、非表示にする

関連コストが存在しないアイテムを非表示にすることで、作成時間を短縮し、キューブサイズを縮小します。

6.3 互換のキューブとファクトテーブルの作成

シングルステージ貢献キューブとリソース貢献キューブの場合のみ、このオプションを選択できます。これらのキューブが、6.3 リリースと全く同じ形式で作成されます。

マルチステージ貢献キューブにこのオプションを選択すると、キューブに挿入するアイテムの選択肢が狭まります。SAS Activity-Based Management により選択され、6.3 リリースと全く同じ形式のキューブが作成されます。

注: 1つのモデルに付き、指定した種類(リソース貢献など)の 6.3 互換のキューブ設定は1つのみ保有できます。これは、1つのモデルに付き、指定した種類の 6.3 互換のキューブは1つしか保有できないためです。6.3 互換のキューブ設定をさらにもう1つ作成した場合、最初に作成したキューブ設定が非アクティブになります(モデルから切り離されます)。その際、情報メッセージが表示されます。

関連項目:

- [“キューブ設定の作成” \(369 ページ\)](#)
- [39 章, “キューブの操作” \(431 ページ\)](#)

キューブ設定: カスタム、マルチステージ貢献キューブのオプション

次のダイアログボックスは、カスタムマルチステージ貢献キューブにのみ表示されます。

新しいキューブ設定 - モジュール、ディメンション、ステージディメンション、レベル
ステップ 3/5

モジュール、ディメンション、ステージディメンション、レベル
 ドリルダウンするモジュール/ステージのディメンションとレベルを選択してください。

モジュールとステージディメンション:
☒ モジュール(M)
☐ ステージ(S)

すべて選択	モジュール/ステージディメンション	含む	レベルに含める	メンバのフィルタ	コストフロー
<input checked="" type="checkbox"/>	外部コスト		デフォルト		Out
	Materials	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 2)		
<input checked="" type="checkbox"/>	リソース		カスタム		In
	Region	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 3)		
	General Ledger	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 3)		
	Fixed Variable	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 3)		
<input checked="" type="checkbox"/>	アクティビティ		Level3 (3 / 3)		In
	Region	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 3)		
	Activities	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 2)		
<input checked="" type="checkbox"/>	コストオブジェクト		デフォルト		Out
	Region	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 3)		
	Channel	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
	Products and Services	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		

メンバをフィルタ

モジュールとステージ

モジュール

各モジュールを、次の順でシングルステージ(1つのモジュールに付き1つのステージ)として定義します。

- 1 外部ユニット
- 2 リソース
- 3 アクティビティ
- 4 コストオブジェクト

ステージ

各ステージは、ステージディメンション属性のディメンションメンバ属性によって定義されます。詳細については、ステージ属性とアカウントへのステージ属性の追加を参照してください。

すべて選択

キューブにモジュールまたはステージのすべてのディメンションを挿入する場合、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択すると、各ディメンションの含むフラグが選択されます。

含む

キューブに選択したディメンションを挿入する場合、このチェックボックスを選択します。

コストフロー

選択したモジュールまたはステージの内向きまたは外向きコストフローを含めるかどうかを選択します。

モジュール/ステージの内向きまたは外向きコストフローを表示するかどうかにより、キューブを作成する際に違いが発生します。特に、モジュール/ステージが同じアカウント間の割り当てが存在するモデルで違いが発生します。最終コストが重複して含まれることになるため、内向きと外向きの両方の割り当ての表示は選択できません。

モデルに、モジュール/ステージが同じアカウント間のコスト割り当てが存在しない場合、モジュール/ステージ間の内向きまたは外向きコストフローの表示を選択しても違いはありません。モデル/ステージの内向きコストはすべて、そのモデル/ステージの外向きのコストでもあるからです。ステージを複数定義し、シングルステージ内に割り当てが存在しないようにすることで、内向きまたは外向きのコストフローの表示を選択しなければならない状況は避けられます。

レベルに含める

レベルが複数あるディメンションに対して、キューブに挿入するドリルダウンレベルを指定します。デフォルトでは、レベル 2 を含め、レベル 2 までのディメンションが含まれます。

メンバをフィルタ

作成するキューブに含めるディメンションメンバを選択するには、このボタンをクリックします。**レベルに含める**に指定したレベルを含め、指定レベルまでのディメンション階層のディメンションメンバを選択できます。“**キューブに含めるディメンションメンバの選択**” (381 ページ)を参照してください。

関連項目:

- “キューブ設定の作成” (369 ページ)
- 39 章, “キューブの操作” (431 ページ)

キューブ設定: 6.3 互換、マルチステージ貢献キューブのオプション

次のダイアログボックスは、6.3 互換のマルチステージ貢献キューブにのみ表示されません。



モジュールとステージ

モジュール

各モジュールを、次の順でシングルステージ(1 つのモジュールに付き 1 つのステージ)として定義します。

- 1 外部ユニット

- 2 リソース
- 3 アクティビティ
- 4 コストオブジェクト

ステージ

各ステージは、ステージディメンション属性のディメンションメンバ属性によって定義されます。詳細については、ステージ属性とアカウントへのステージ属性の追加を参照してください。

含む

キューブにモジュールまたはステージを挿入する場合、このチェックボックスを選択します。

コストフロー

選択したモジュールまたはステージの内向きまたは外向きコストフローを含めるかどうかを選択します。

関連項目:

- [“キューブ設定の作成” \(369 ページ\)](#)
- [39 章, “キューブの操作” \(431 ページ\)](#)

キューブ設定: キューブオプション

概要

キューブを作成するためのオプションは、次を使用しているかどうかによって異なります。

- SAS OLAP
- Microsoft SQL Server Analysis Services

SAS OLAP のキューブオプション

注: 次の画面は例です。デフォルトでは、キューブの作成オプションを指定する必要はありません。SAS プログラミングの経験がない場合、オプションを指定しないでください。

Option ステートメントのパラメータ

デフォルトでは、キューブ作成のオプションを指定する必要はありません。ただし、デフォルトの SAS システムオプションをオーバーライドする場合は、ここで指定できます。次に、一部のサンプルオプションを示します。

```
OPTION NOSYNTAXCHECK;
OPTION SORTPGM=SAS;
OPTION MEMSIZE=2G;
OPTION REALMEMSIZE=1331M;
OPTION SUMSIZE=1331M;
OPTION BUFSIZE=64K;
OPTION IBUFSIZE=32767;
OPTION UBUFSIZE=64K;
OPTION SORTSIZE=512M;
OPTION CPUCOUNT=2;
OPTION NOOVP;
```

システムオプションについては、SAS System Options in the SAS 9.2 Language Reference: Dictionary を参照してください。

PROC OLAP オプション

SAS Activity-Based Management では、SAS OLAP プロシジャを使用してキューブを作成します。デフォルトでは、キューブ作成に PROC OLAP オプションを指定する必要はありません。ただし、デフォルトの OLAP オプションをオーバーライドする場合は、ここで指定できます。次にサンプルオプションを 2 つ示します。

```
INDEXSORTSIZE=32 MAXTHREADS=2
```

PROC OLAP オプションについては、SAS OLAP Server: User's Guide (<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/olap/index.html>)の The OLAP

Procedure を参照してください。COMPACT_

NWAY とNONUPDATEABLE の2つのオプションを使用するとキューブサイズが小さくなり、ディスク

キューブオプション

キューブオプションの選択 ステップ 2/5

options ステートメントのパラメータ:

PROC OLAP オプション:

Metadata Server キューブフォルダのパス:

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル ヘルプ

COMPACT_NWAY

キューブ作成に要約ステップを追加し、NWAY 集計のサイズを削減し、表示パフォーマンスを向上します。どの程度向上されるかはデータの性質によって異なります。最も量が多いデータを含むキューブが、最も向上されます。

NONUPDATEABLE

ディメンションを最小量のディスクスペースで作成し、キューブの作成時に使用可能なメンバを示します。デフォルトでは、将来の更新にて新しいメンバが追加されることを見込んで新しいディメンションが作成されます。

NONUPDATEABLE は、キューブの初回作成時にのみ有効です。

注:

DRILLTHROUGH_TABLE=、WORKPATH=、DESCRIPTION=、IGNORE_MISSING_DIMKEYS=オプションはサポートされていません。

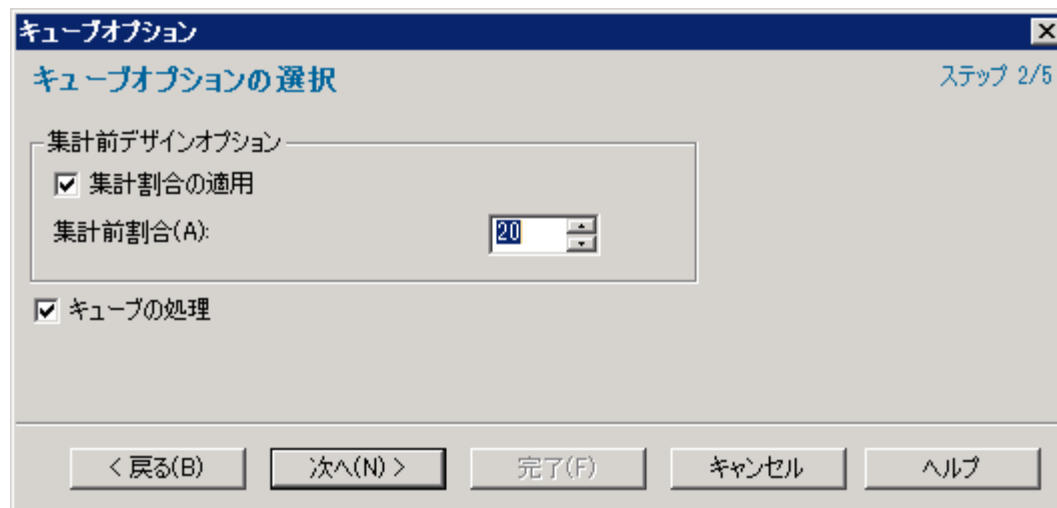
Metadata Server キューブフォルダのパス

作成されるキューブのデフォルトの場所をオーバーライドするには、SAS Metadata Server のパスを指定できます。

デフォルトパスは、/Products/SAS Activity Based Management/Cubes/ です。ただし、デフォルトパスはインストール時に変更できます。いずれの場合も、ここでパスをオーバーライドできます。

注: 指定するフォルダは、キューブ作成開始時にすでに存在する必要があります。キューブが正常に作成されるには、フォルダへの書き込みアクセス権が必要です。

Microsoft SQL Server Analysis Services のキューブオプション

**集計前割合**

数値データを事前集計すると、OLAP Analyzer でのキューブの操作時にパフォーマンスが向上します。ただし、モデルが大きい場合にデータを事前集計すると、時間がかかり、キューブの作成時間が増加します。事前集計の割合を高めると、キューブをより速くナビゲーションできますが、キューブの作成時間が増加します。このオプションを使用すると、作成時間と引き換えに実行速度を得られます。

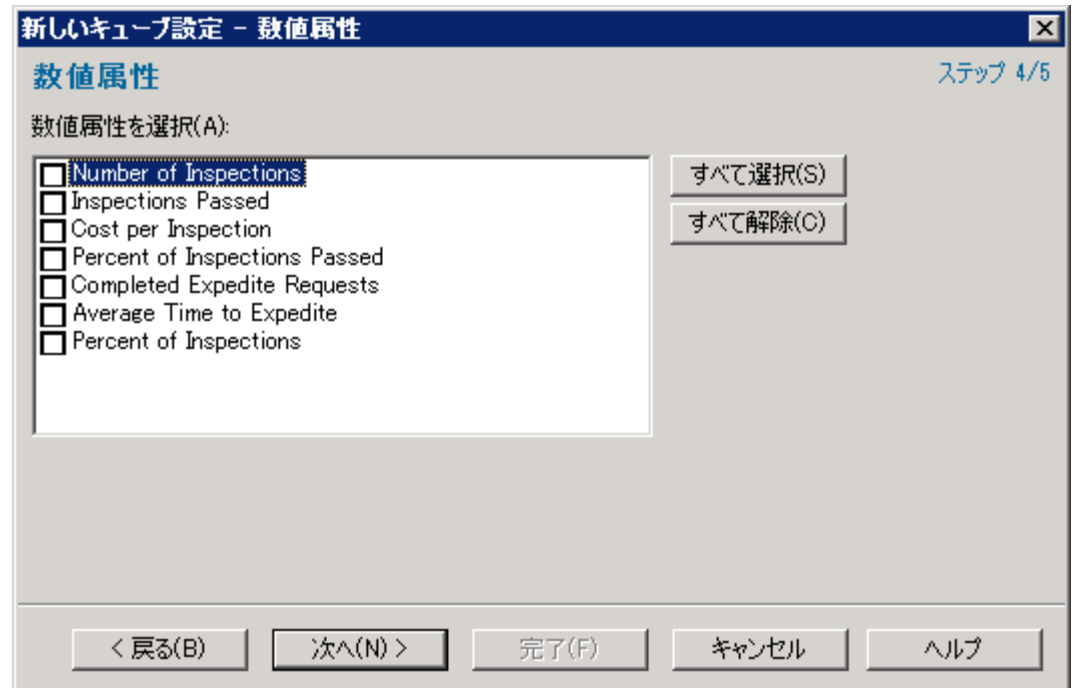
キューブの処理

キューブを処理すると、キューブと、現在未処理状態の構成ディメンション内のすべてのメジャーグループが処理されます。キューブを処理する際、SQL クエリが実行され、ファクトテーブルの値を取得してキューブの各メンバに適切なメジャー値が作成されます。キューブのノード固有のパスに、値または計算可能値を使用できます。キューブを処理すると、関連ファクトデータを保存する、マシンでの処理が可能なファイルが作成されます。集計が作成されている場合、集計データファイルに保存されます。

キューブ設定: 数値属性の選択

作成されるキューブに挿入する数値属性を選択します。

注: このダイアログボックスは、リソース貢献キューブとマルチステージ貢献キューブにのみ表示されます。シングルステージ貢献キューブには表示されません。シングルステージ貢献キューブに数値属性を挿入する手順については、キューブへの数値属性の挿入を参照してください。



注: 新しいキューブ設定にデフォルトで設定される数値属性を選択するには、次の操作を行います。

1. モデルモードで、**モデル** ⇨ **プロパティ**を選択します。
2. **キューブ内の属性**タブを選択します。
3. そのモデルの新しいキューブ設定にデフォルトで設定される属性を選択します。

モデルプロパティで選択した属性は、新しいキューブ設定に自動的に選択され、作成されるキューブに挿入されます。ただし、キューブ設定で属性の選択を解除して、他の属性を選択できます。

関連項目:

- [“キューブ設定の作成” \(369 ページ\)](#)
- [“キューブへの数値属性の挿入” \(438 ページ\)](#)
- [39 章, “キューブの操作” \(431 ページ\)](#)

キューブ設定: 完了

選択内容を確認して、**完了**をクリックします。

キューブ設定が作成されます。キューブ設定を使用して、キューブを作成できます。

関連項目:

- [“キューブ設定の作成” \(369 ページ\)](#)
- [39 章, “キューブの操作” \(431 ページ\)](#)

他のモデルへのキューブ設定のコピー

キューブ設定は、1 つのモデルにのみ関連付けられます。キューブ設定をコピーする際、関連付けられているモデルを除く、すべての設定が保持されます。コピーして作成する新しいキューブ設定には、関連付けられているモデルを除く、元のキューブ設定のすべての設定が保持されます。

他のモデルに関連付けられているキューブ設定のコピーを作成するには、次の操作を行います。

1. ナビゲーションペインから、ワークスペースマネージャに移動します。
2. キューブ設定を選択します。
3. ポップアップメニューから**モデルにコピー**を選択します。

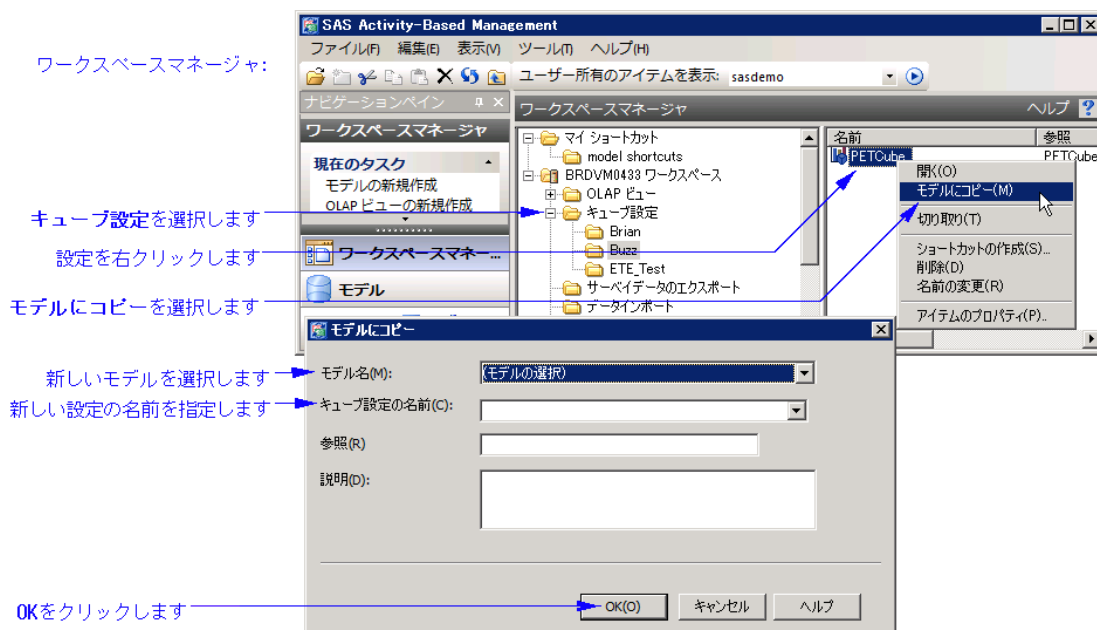
モデルにコピーダイアログボックスが開きます。

4. キューブ設定を割り当てる新しいモデルを選択します。

注: 新しいモデルは、コピー元のモデルと同じディメンションから構成される必要があります。

5. 新しいキューブ設定の名前を指定します。
6. **OK** をクリックします。

関連付けられているモデルを除く、コピー元のすべての属性を含む新しいキューブ設定が作成されます。



キューブに含めるディメンションメンバの選択

概要

SAS Activity-Based Management 7.2 より前は、キューブの作成時にキューブのサイズを制限するには、どのディメンションを含めるかを選択し、そのディメンションに対して、どのレベルまでのディメンションメンバを含めるかを指定していました。すなわち、各ディメンションのレベルは指定できましたが、任意のレベルでどのディメンションメンバを含めるかを選択することはできませんでした。

次の図では、Dept ディメンションを選択し、レベル 4 までのディメンションメンバをすべて含めるように指定しています。

これまで：指定のレベルを含め、そのレベルまでのすべてのディメンションメンバが含まれました

すべて選択	モジュール/ステージディメンション	含む	レベルに含める	メンバのフィルタ	コストフロー
<input checked="" type="checkbox"/>	外部コスト	<input checked="" type="checkbox"/>	デフォルト		Out
<input checked="" type="checkbox"/>	アクティビティ	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 2)		In
<input checked="" type="checkbox"/>	Dept	<input checked="" type="checkbox"/>	Level4 (4 of 5)		

Name	DimLevelName
Corp	
General Ledger	
Dept	
Worldwide Operations	Level1
US Operations	Level2
Sales	Level3
Central US Operations	Level4
San Antonio	Level5
Chicago	Level5
Eastern US Operations	Level4
New York	Level5
Detroit	Level5
Administration	Level3
Telemarketing	Level3
Technology	Level3
Canada	Level2
Mexico	Level2
Activities	

このリリースでは、どのディメンションを含め、どのレベルまでディメンションメンバを含めるかを選択できるわけではありません。任意のレベルで、どのディメンションメンバを含めるかも選択できます。この機能によって、ディメンション階層は深くても小さいままのキューブを作成できます。

次の図は、前の図と同じ階層を示しています。ここでは、前の図よりもさらに深いレベルのディメンションメンバを選択していますが、含まれているディメンションメンバが少ないので、小さいキューブが作成されています。

現在: 各レベルでの選択が可能です

すべて選択	モジュール/ステージディメンション	含む	レベルに含める	メンバのフィルタ	コストフロー
<input checked="" type="checkbox"/>	外部コスト		デフォルト		Out
<input checked="" type="checkbox"/>	リソース		デフォルト		In
<input checked="" type="checkbox"/>	アクティビティ		デフォルト		In
	Dept	<input checked="" type="checkbox"/>	Level5 (5 of 5)		

Name	DimLevelName
Corp	
General Ledger	
Dept	
Worldwide Operations	Level1
US Operations	Level2
Sales	Level3
Central US Operations	Level4
San Antonio	Level5
Chicago	Level5
Eastern US Operations	Level4
New York	Level5
Detroit	Level5
Administration	Level3
Telemarketing	Level3
Technology	Level3
Canada	Level2
Mexico	Level2
Activities	

すべてのレベル5を含める必要はありません。

すべてのレベル4も含める必要はありません。

すべてのレベル3も含める必要はありません。

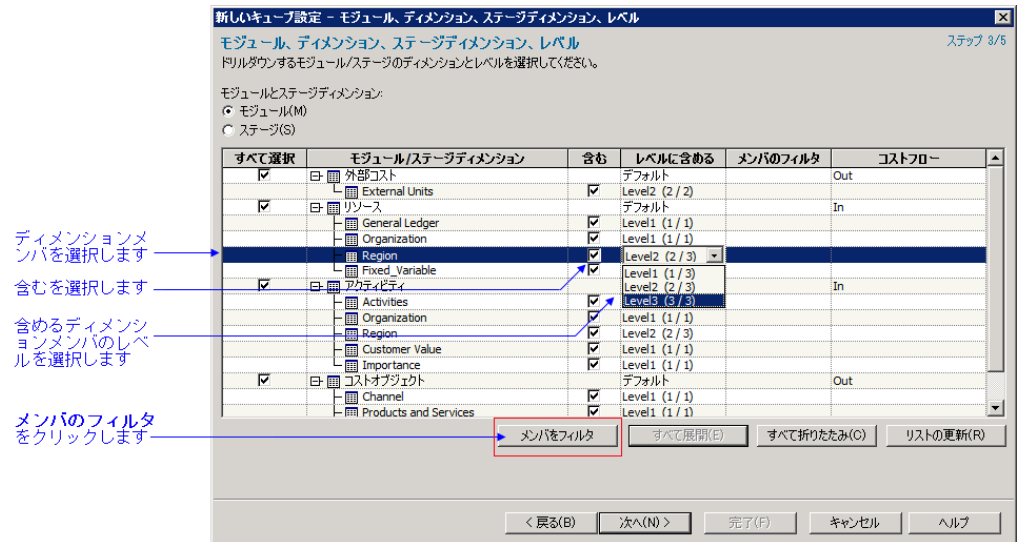
すべてのレベル2も含める必要はありません。

ディメンションメンバの選択

作成するキューブに含めるディメンションメンバを選択するには、次の操作を行います。

1. モデルのワークスペースマネージャ、またはリソース、アクティビティ、コストオブジェクトのモジュールに移動します。
2. **ファイル** ⇒ **新規作成** ⇒ **キューブ設定**を選択するか、既存のキューブ設定を開きます。
3. キューブ設定ウィザードのステップ 1 で、次を指定します。
 - ・ モデル名
 - ・ キューブ設定の名前
 - ・ キューブ設定参照
 - ・ 作成するキューブのタイプとして**マルチステージ貢献**を選択します。
 - ・ **カスタムキューブとファクトテーブルの作成**を指定します。

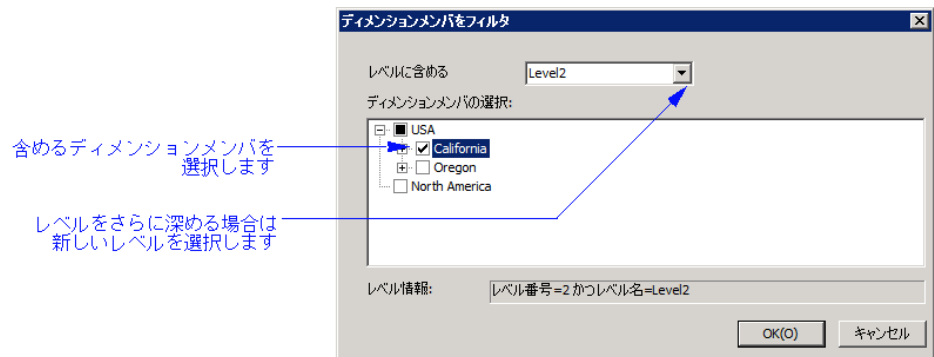
OK をクリックして、キューブ設定ウィザードのステップ 2 に進みます。
4. キューブ設定ウィザードのステップ 2 で、キューブオプションを指定します。
OK をクリックして、キューブ設定ウィザードのステップ 3 に進みます。
5. キューブ設定ウィザードのステップ 3 で、次の操作を行います。
 - a. ディメンションメンバを選択します。
 - b. **含む**を選択し、作成するキューブにこのディメンションメンバを含めます。
 - c. **レベルに含める**では、ディメンションメンバを含めるディメンション階層レベルの範囲を選択します。
 - d. **メンバをフィルタ**をクリックします。



ディメンションメンバをフィルタダイアログが開きます。

- ディメンションメンバをフィルタダイアログで、キューブに含めるディメンションメンバを選択します。

注: ディメンション階層を深くする(または浅くする)場合は、レベルに含めるドロップダウンリストを使用してレベルを選択します。このダイアログを終了すると、前のモジュール、ステージ、ディメンション、レベルウィンドウにレベルが反映されます。



- OK をクリックします。

ディメンションメンバをフィルタダイアログを閉じます。このとき、メンバのフィルタ列の"はい"は、キューブに含める対象として選択されていないディメンションメンバがあることを示します。

“はい”は、すべてのディメンションメンバが選択されていないことを示します

新しいキューブ設定 - モジュール、ディメンション、ステージディメンション、レベル

ステップ 3/5

モジュール、ディメンション、ステージディメンション、レベル

ドリルダウンするモジュール/ステージのディメンションとレベルを選択してください。

モジュールとステージディメンション:

☒ モジュール(M)

☐ ステージ(S)

すべて選択	モジュール/ステージディメンション	含む	レベルに含める	メンバのフィルタ	コストフロー
<input checked="" type="checkbox"/>	外部コスト	<input checked="" type="checkbox"/>	デフォルト		Out
	External Units	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 2)		
<input checked="" type="checkbox"/>	リソース	<input checked="" type="checkbox"/>	カスタム		In
	General Ledger	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
	Organization	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
	Region	<input checked="" type="checkbox"/>	Level3 (3 / 3)	はい	
	Fixed Variable	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
<input checked="" type="checkbox"/>	アクティビティ	<input checked="" type="checkbox"/>	デフォルト		In
	Activities	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
	Organization	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
	Region	<input checked="" type="checkbox"/>	Level2 (2 / 3)		
	Customer Value	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
	Importance	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
<input checked="" type="checkbox"/>	コストオブジェクト	<input checked="" type="checkbox"/>	デフォルト		Out
	Channel	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		
	Products and Services	<input checked="" type="checkbox"/>	Level1 (1 / 1)		

メンバをフィルタ すべて展開(E) すべて折りたたみ(O) リストの更新(R)

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル ヘルプ

注: 選択解除したディメンションメンバはキューブには含まれませんが、そのコストは、None カテゴリに含まれます。

13 部

コストの計算

36 章	
計算	387
37 章	
計算の例	391
38 章	
計算の詳細例	409

36 章 計算

コストの計算	387
概要	387
コスト計算後のモデル構造の変更	387
期間/シナリオ関連付け	388
エラー	388
コスト計算ダイアログボックス	388

コストの計算

概要

紙の上のモデルから SAS Activity-Based Management のモデルへのデータ入力を開始すると、コストが期待値に一致しているかについて注意する必要があります。モデル作成中はいつでも、アカウントのドライバに従って、アカウントごとにコストを割り当てることができます。

コストは、対話形式で入力できます。ただし、データを対話形式で入力すると、手間がかかる上にエラーが発生する可能性があります。既存のデータソースからデータをインポートすると、手間とエラーを最小限に抑えることができます。たとえば、GL 勘定科目のコストが使用できる場合や、モデルのリソースアカウント参照が GL 勘定科目のアカウント番号に一致するように作成されたモデルの場合、コストをインポートしてモデルに追加の方が効率的です。

コストは計算しても自動的に更新されないため、SAS Strategic Performance Management にデータを再パブリッシュする必要があります。

コスト計算後のモデル構造の変更

モデル全体のコストを計算後、次の操作を行うと、モデルコストの一部が無効化されます。

- 入力コストエレメントのコストの追加、削除、変更
- ビルオブコストの外部ユニットコストエレメントのコストの追加、削除、変更
- ビルオブコストの内部ユニットコストエレメントとして使用されるアカウントのコストの変更
- アカウントのドライバ、ドライバ量、属性量、アウトプット量の変更
- ロールアップアカウント、アカウント、コストエレメントの追加、削除

- 割り当ての新規作成または既存の割り当ての削除

いずれの場合も、コストを計算すると、コストは更新されます。ただし、重要でない変更の場合、コストの計算は必須ではありません。

期間/シナリオ関連付け

コストを計算する際、特定の期間/シナリオ関連付け、またはすべての期間/シナリオ関連付けを選択できます。

エラー

コストの計算とキューブの作成中に少なくとも一度はすべてのエラーをレポートする必要があります。レポートされたすべての問題を解決します。残っているエラーが重要でないと判断した場合、エラーのすべてをレポートしないようにします。レポートされるエラー数を制限できます。エラー数を制限した場合、コスト計算とキューブ作成のパフォーマンスが向上する可能性があります。

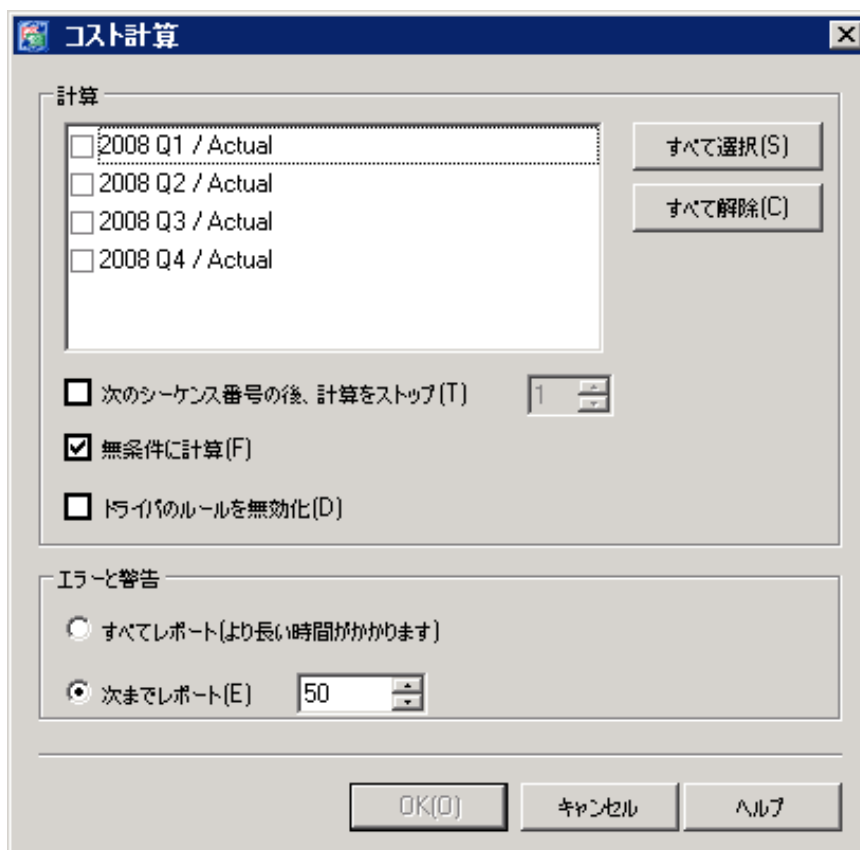
関連項目:

[37 章, “計算の例” \(391 ページ\)](#)

コスト計算ダイアログボックス

注: 権限によっては、機能を使用できません。

1. モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **コスト計算**を選択します。
コスト計算ダイアログボックスが開きます。



2. 期間/シナリオの関連付けを 1 つ以上選択します。

注: 1 つの期間/シナリオに計算エラーが発生すると、他の期間/シナリオは計算されません。

3. **次のシーケンス番号の後、計算をストップ**オプションを選択するか、選択解除します。このオプションを適用する場合は、シーケンス番号を指定します。

詳細については、ドライバシーケンスを参照してください。

4. フラグから最新の計算であることが判断できる場合でも計算するには、**無条件に計算**を選択します。

SAS Activity-Based Management では、計算が最新であると判断した場合、処理速度を上げるために計算を省略します。このオプションを使用すると、計算が最新であるとシステムが判断しても強制的に計算します。

5. 計算でルールベースドライバに割り当てられたルール式を無視するには、**ドライバのルールを無効化**を選択します。

ルールベースドライバのドライバ割り当てを作成した計算をすでに実行している場合、このドライバのルールを無効化オプションを選択して、計算速度を向上できます。

このドライバのルールを無効化オプションを選択しない場合、ドライバの式でどの割り当て先アカウントが true であるかを検証し、割り当て元アカウントから true の割り当て先アカウントに割り当てを作成します。また、ドライバの式でどの割り当て先アカウントが false であるかを検証し、割り当てが存在する場合はそのアカウントへの割り当てを削除します。つまり、計算で割り当ての作成を許可した後、割り当て元アカウントから割り当ての一部を削除、または他の割り当て先アカウントに追加の割り当てを作成した場合、手動で作成した割り当ては元に戻されるため、再度処理する必要があります。

注: ドライバプロパティダイアログボックスのルール式の使用を選択解除して、各ドライバの式を無効化することもできます。

6. 表示するエラーメッセージや警告メッセージの数を選択します。
7. **OK** をクリックします。

37 章

計算の例

はじめに	391
非重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用	392
ステップ A - ユーザーによるドライバ量と売上量の入力	392
ステップ B - ホイールから自動車とトラックへの各パスの DQCalc	393
ステップ C - ホイールの TDQCalc と TDQ	393
ステップ D - 大型ナットからホイールへのパスの DQCalc	394
ステップ E - 大型ナットの TDQCalc と TDQ	395
ステップ F - 大型ナットの Cost と DrvblCost	395
ステップ G - ホイールから自動車、トラックへの各パスの DrvDrvnCost	396
ステップ H - 自動車とトラックそれぞれの Cost	397
プロパティの種類	398
重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用	399
ステップ A - ユーザーによるドライバ量と売上量の入力	399
ステップ B - 大型ナットから自動車とトラックへの各パスの DQCalc	400
ステップ C - 大型ナットの TDQCalc	400
ステップ D - 大型ナットの TDQ	401
ステップ E - 大型ナットの Cost と DrvblCost	402
ステップ F - 大型ナットから自動車とトラックへの各パスの DrvDrvnCost	402
ステップ G - 自動車とトラックのそれぞれの Cost	403
重み付きドライバ量と固定ドライバ量の使用	404
重み付きドライバと固定ドライバ量、変動ドライバ量の使用	405
未使用フロー	405

はじめに

この章では、割り当ての複数の例における需要フローとコストフローを説明します。需要フローは、割り当てに関連する量の計算です。需要フローは常にコストフローの前に計算されます。つまり、コストを計算する前に、関連する量を計算する必要があります。コストは左から右に渡され(たとえば、リソースモジュールからアクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールへ)、需要は右から左に渡され(割り当て先アカウントに渡されるコスト量を計算する前に、割り当て先で必要なアウトプット量を知る必要があります)に渡されます。明確するために、次の例を参照してください。

- “非重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用”(392 ページ)
- “重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用”(399 ページ)
- “重み付きドライバ量と固定ドライバ量の使用”(404 ページ)

- “重み付きドライバと固定ドライバ量、変動ドライバ量の使用” (405 ページ)
- “未使用フロー” (405 ページ)

非重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用

ステップ A - ユーザーによるドライバ量と売上量の入力

たとえば、ユーザーが DQV と SoldQty の値を入力するとします。

問題: 次の情報を前提として、自動車とトラックにそれぞれのコストを計算します。

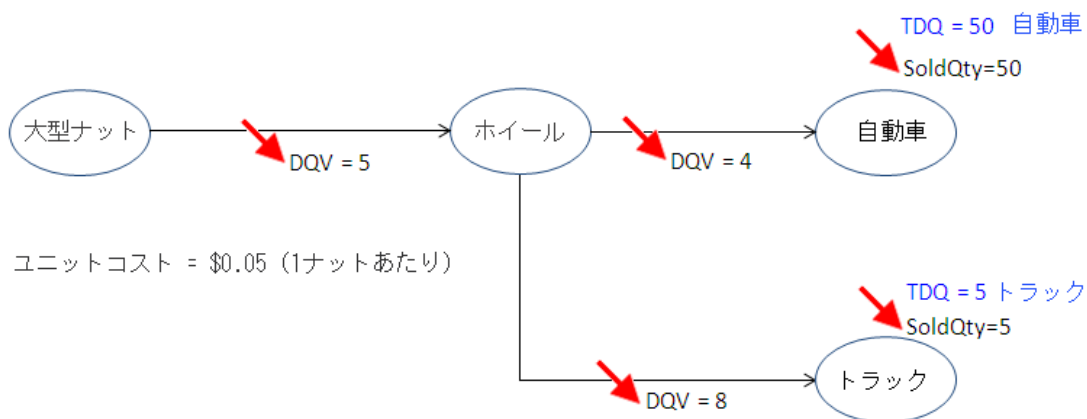
50 台の自動車が販売され、5 台のトラックが販売されました	SoldQty(自動車)=50 SoldQty(トラック)=5
--------------------------------	------------------------------------

自動車にはそれぞれ 4 つのホイールが付いていて、トラックにはそれぞれ 8 つのホイールが付いています	DQV(自動車)=4 DQV(トラック)=8
---	---------------------------

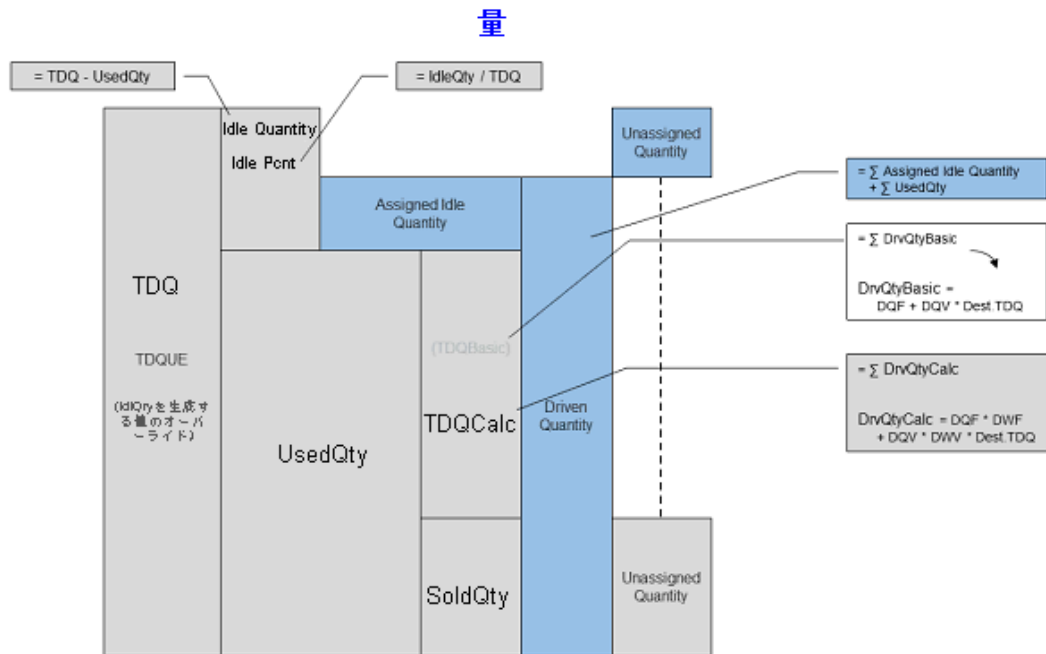
ホイール(自動車、トラックに関係なく)には、それぞれ 5 つの大型ナットが付いています。	DQV=5
--	-------

大型ナットはそれぞれ\$.05 です	UnitCost=.05
--------------------	--------------

次の図に、情報を要約します。TDQ(自動車)=50、TDQ(トラック)=5 も表示されます。



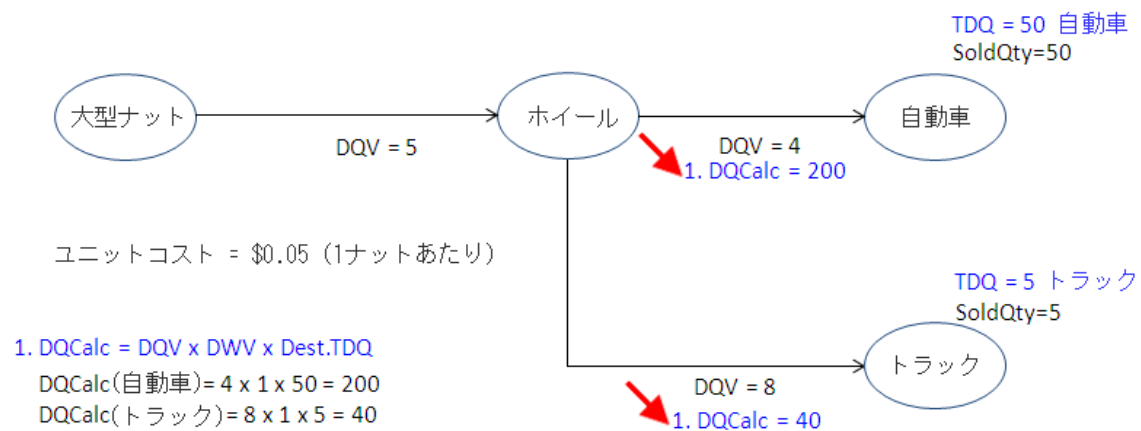
この場合、自動車とトラックそれぞれで $TDQ = SoldQty$ が成り立ちます。これは、次のように説明されます。次の図は、“量” (592 ページ) に表示された図を再現したものです。自動車またはトラックからのコストの外向きフローがないため、 $TDQCalc = 0$ となります。そのため、 $UsedQty = TDQCalc + SoldQty$ の場合、 $UsedQty = SoldQty$ となります。さらに、 $TDQ = IdleQuantity + UsedQuantity$ であり、 $IdleQuantity$ がないため、 $TDQ = SoldQty$ となります。



ステップB - ホイールから自動車とトラックへの各パスの DQCalc

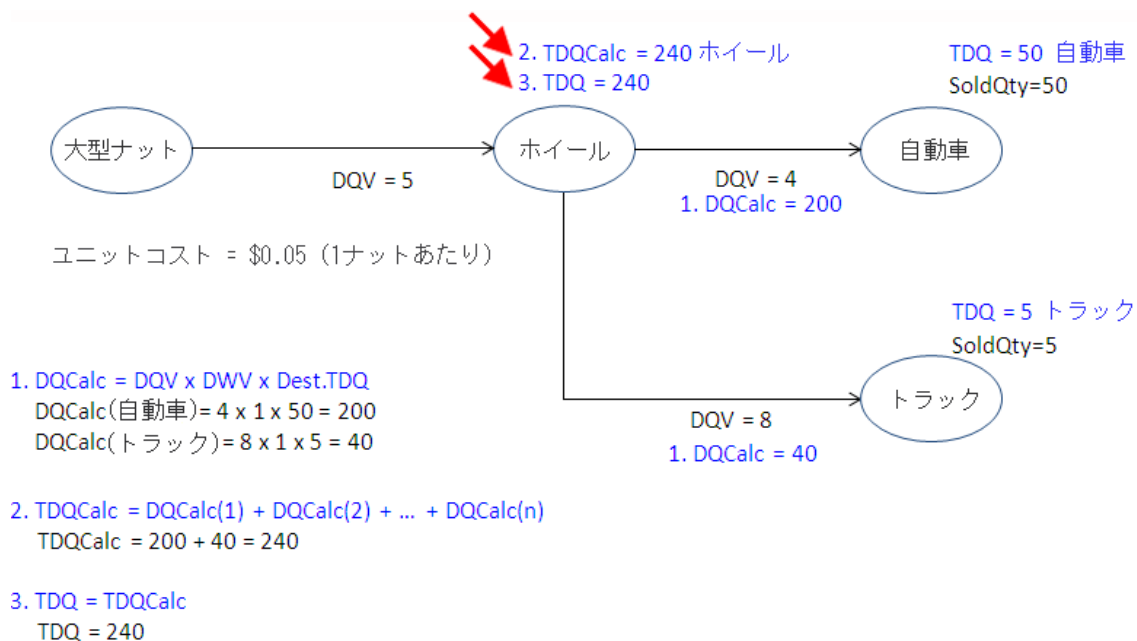
DQCalc は、式 $\text{DQCalc} = \text{DQV} \times \text{DWW} \times \text{Dest.TDQ}$ に従って計算されます。ホイールから自動車、トラックへのドライバが重み付けられないため、式の DQV の値は 1 となります。

注: SAS Activity-Based Management ユーザーインターフェイスでは、DQCalc が DrvQtyCalc と省略されます。スペースを節約するために、ここではより短い省略形を使用します。



ステップC - ホイールの TDQCalc と TDQ

ホイールの TDQCalc は、自動車のホイール数とトラックのホイール数を足した、 $\text{TDQCalc} = \text{DQCalc}(\text{自動車}) + \text{DQCalc}(\text{トラック})$ となります。また、この場合、ホイール自体に SoldQty がいないため、次の図にあるように、 $\text{TDQ} = \text{TDQCalc}$ となります。

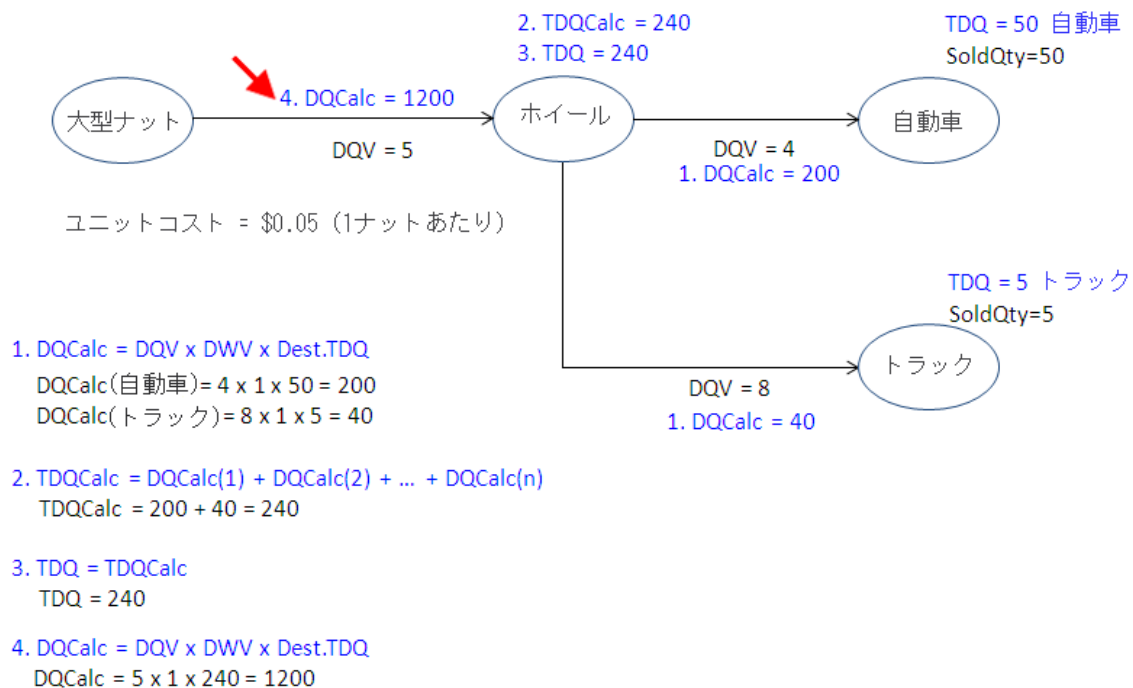


ステップD - 大型ナットからホイールへのパスの DQCalc

大型ナットからホイールへのドライバも重み付けられないため、DQCalc は次の式に従って計算されます。

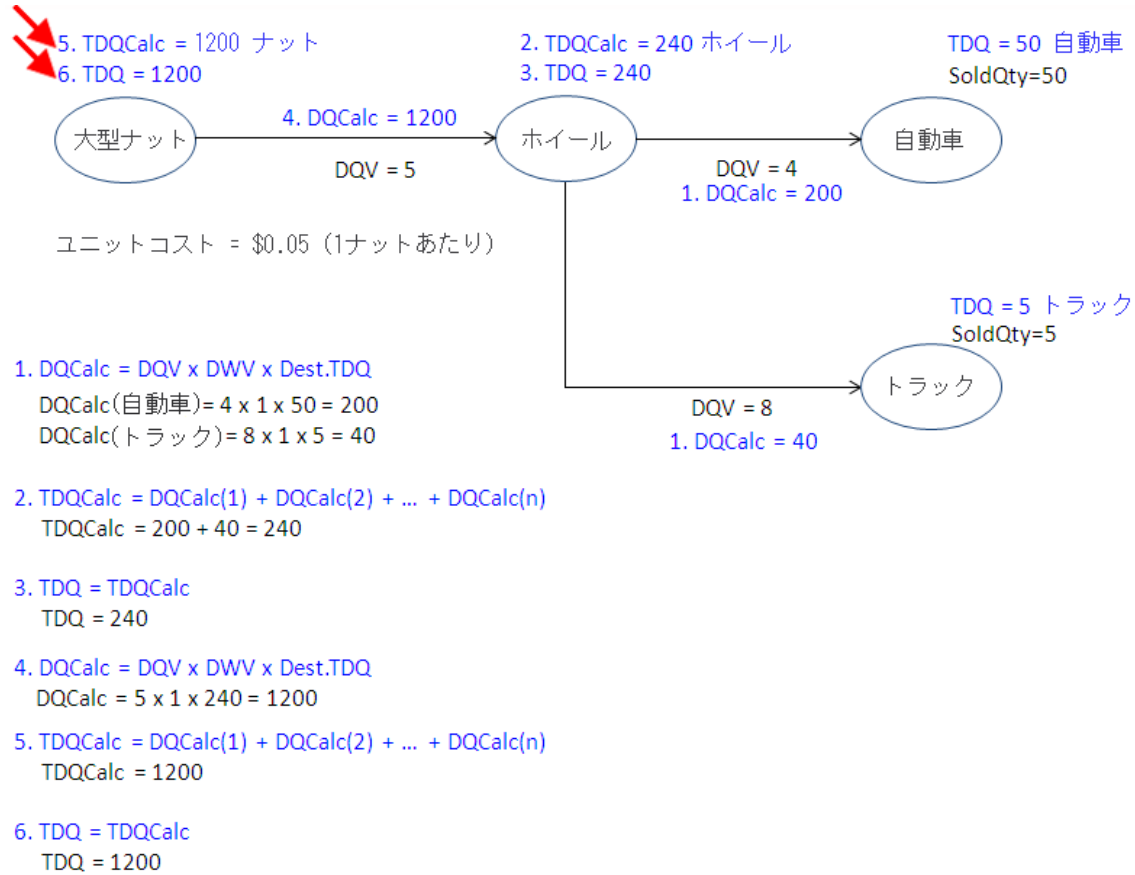
$$DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ, \text{ where } DWV=1$$

次の図を参照してください。



ステップE - 大型ナットの TDQCalc と TDQ

TDQCalc(および TDQ)の計算を考慮し、自動車とトラックの両方に必要な大型ナット数がわかります。



ステップF - 大型ナットの Cost と DrvblCost

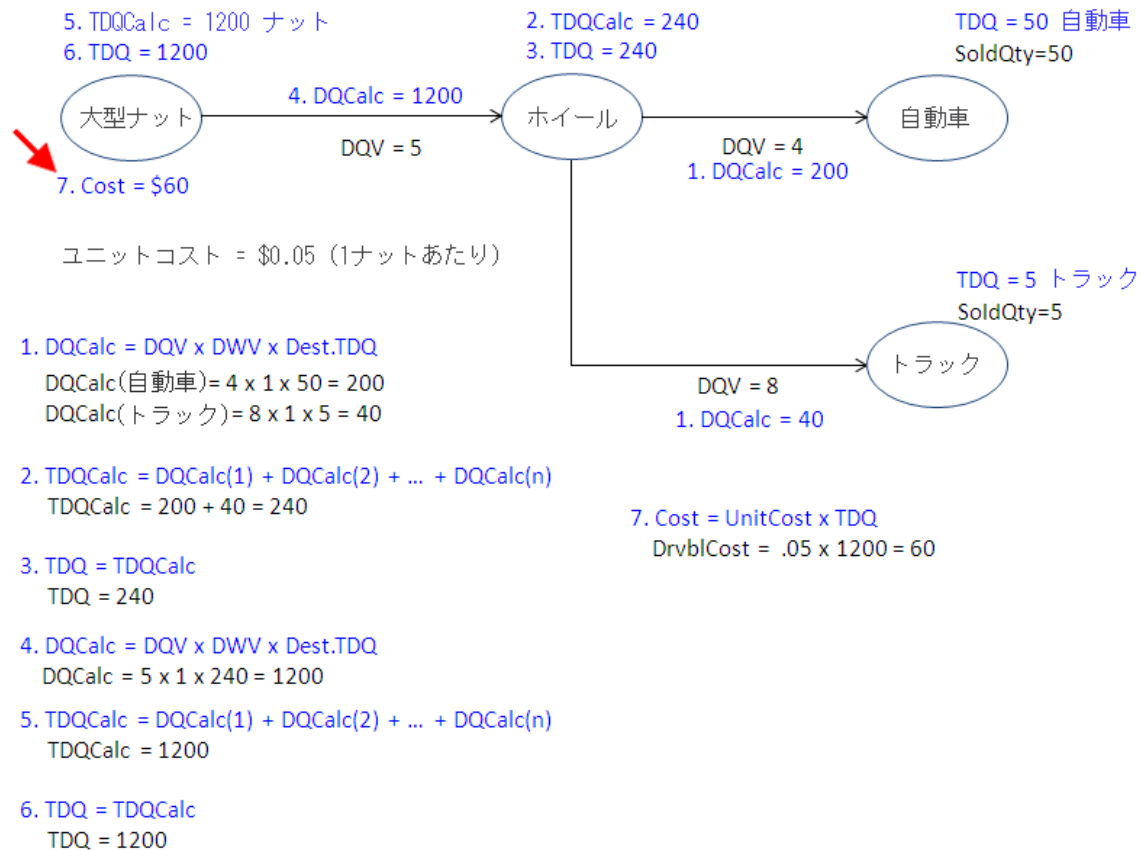
また、必要な大型ナットの合計数がわかると、次の図が示すように、コストを次の式に従って計算できます。

$$\text{Cost} = \text{UnitCost} \times \text{TDQ}$$

$$\text{DrvblCost} = \text{Cost} - \text{Allocated Cost}$$

であり、この例では Allocated Cost がないため、次のようになります。

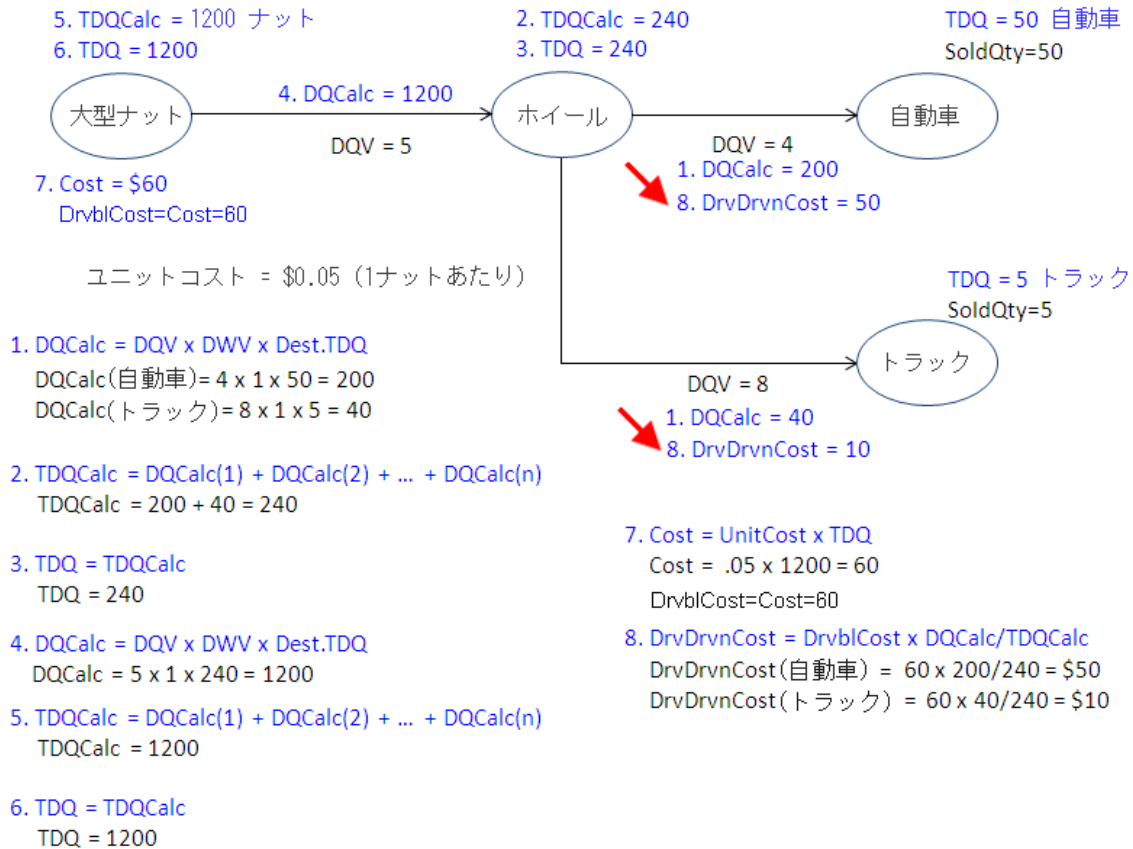
$$\text{DrvblCost} = \text{Cost}$$



ステップG - ホイールから自動車、トラックへの各パスの DrvDrvnCost

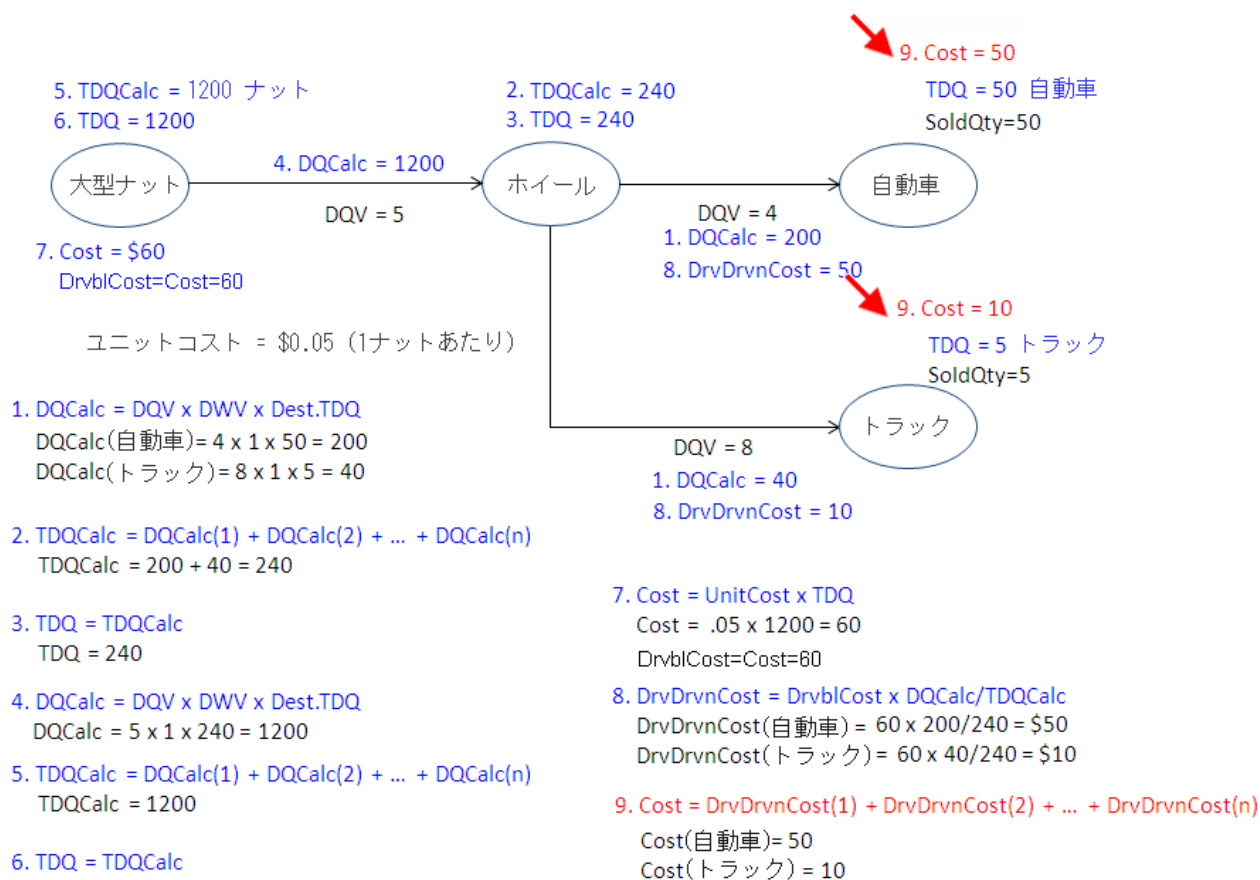
合計コストが\$60 であることがわかると、次の図が示すように、次の式に従って自動車とトラックそれぞれにコストを分配します。

$$\text{DrvDrvnCost} = \text{DrvblCost} \times \text{DQCalc} / \text{TDQCalc}$$



ステップH - 自動車とトラックそれぞれの Cost

あるアカウントのコストは、設定されたすべてのドライバによってそのアカウントに割り当てられるコストの合計です。この例の場合、1つのドライバのみが自動車アカウントとトラックアカウントのそれぞれに設定されているため、次の図が示すように、コストはそのドライバの DrvDrvnCost です。



プロパティの種類

24 章, “列のレイアウトへのプロパティの追加” (251 ページ)で説明されているように、先行するコストフローをレビューし、関連するプロパティの次の種類に従って分類します。

- 外向きプロパティ
- 割り当てプロパティ
- 内向きプロパティ
- アカウントプロパティ
- ドライバプロパティ

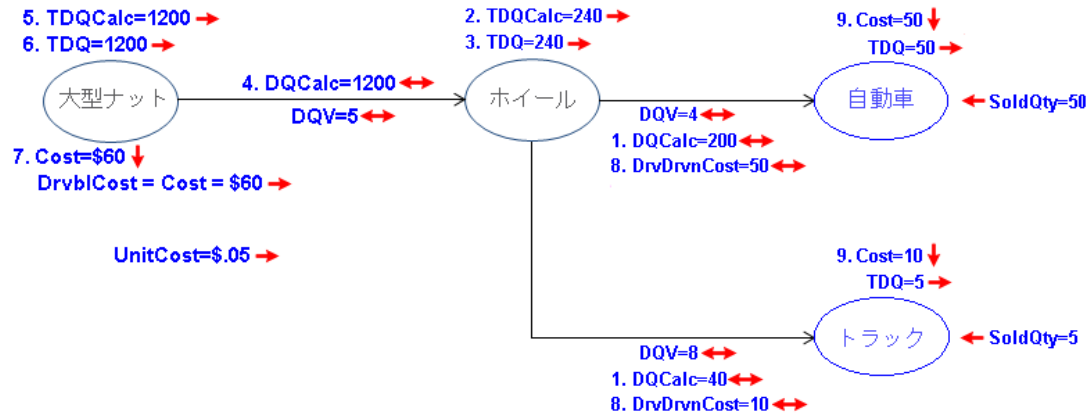
次の図では、注釈に矢印を使用して、プロパティ进行分类します。図では、次の事柄を確認できます。

- 割り当て先アカウント(自動車とトラック)の Cost は内向きプロパティではなく、アカウントプロパティです。コストはアカウント間で渡されますが、アカウント内に存在する場合、特に最終割り当て先に存在する場合は、どこに渡されることなくそこに存在します。
- TDQ は、コストオブジェクトアカウント(自動車とトラック)においても、常に外向きプロパティです。たとえば、ホイールの TDQ=240 は、ホイールアカウントが大型ナットアカウントの左にある割り当て先であっても外向きプロパティです。そのため、大型ナットアカウントではホイールの TDQ を参照する場合、このプロパティに“Dest”

で修飾して、式 $DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ$ のようにします。識別子“Dest”がない場合、大型ナットアカウントはそれ自身の TDQ を参照します。

- 図には、Received Cost、Received Driven Cost などの内向きプロパティは表示されていません。

→ = 外向きのプロパティ ← = 内向きのプロパティ ↔ = 割り当てのプロパティ ↓ = アカунツのプロパティ



1. $DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ$
 $DQCalc(自動車) = 4 \times 1 \times 50 = 200$
 $DQCalc(トラック) = 8 \times 1 \times 5 = 40$

2. $TDQCalc = DQCalc(1) + DQCalc(2) + \dots + DQCalc(n)$
 $TDQCalc = 200 + 40 = 240$

3. $TDQ = TDQCalc$
 $TDQ = 240$

4. $DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ$
 $DQCalc = 5 \times 1 \times 240 = 1200$

5. $TDQCalc = DQCalc(1) + DQCalc(2) + \dots + DQCalc(n)$
 $TDQCalc = 1200$

6. $TDQ = TDQCalc$

7. $Cost = UnitCost \times TDQ$
 $Cost = .05 \times 1200 = 60$
 $DrvblCost = Cost = 60$

8. $DrvDrvnCost = DrvblCost \times DQCalc / TDQCalc$
 $DrvDrvnCost(自動車) = 60 \times 200 / 240 = \50
 $DrvDrvnCost(トラック) = 60 \times 40 / 240 = \10

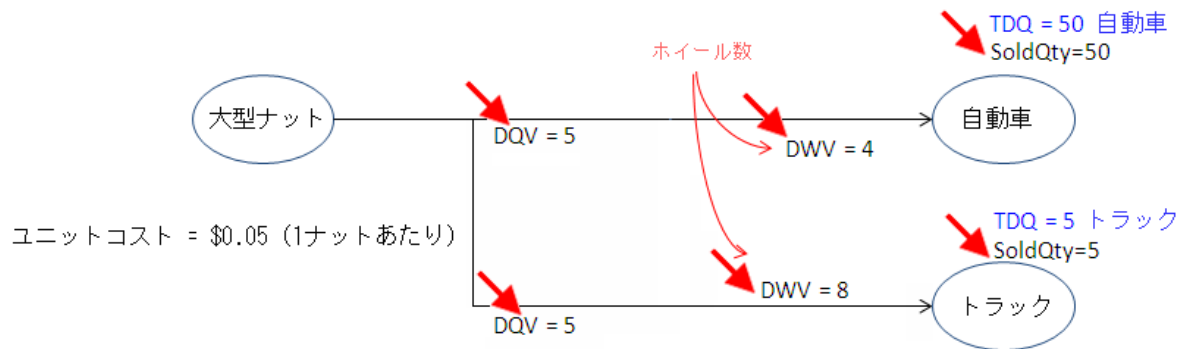
9. $Cost = DrvDrvnCost(1) + DrvDrvnCost(2) + \dots + DrvDrvnCost(n)$
 $Cost(自動車) = 50$
 $Cost(トラック) = 10$

重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用

ステップ A - ユーザーによるドライバ量と売上量の入力

大型ナットのコストを自動車とトラックに分配するための別な方法を説明します。ホイールのアカウントを作成し、ホイールアカウントから自動車アカウントとトラックアカウントへの間に別のドライバを使用するのではなく、自動車とトラックに対して重みが異なる大型ナットからのドライバを 1 つ使用します。

ドライバ量に加えドライバの重みが使用されるのは、一部の特殊な特性をコストの分配に考慮する必要がある場合です。たとえば、製品の複雑性、発注期間の長さなどがあります。この例では、次の図が示すように、重みは自動車とトラックのそれぞれに必要なホイール数を取得します。

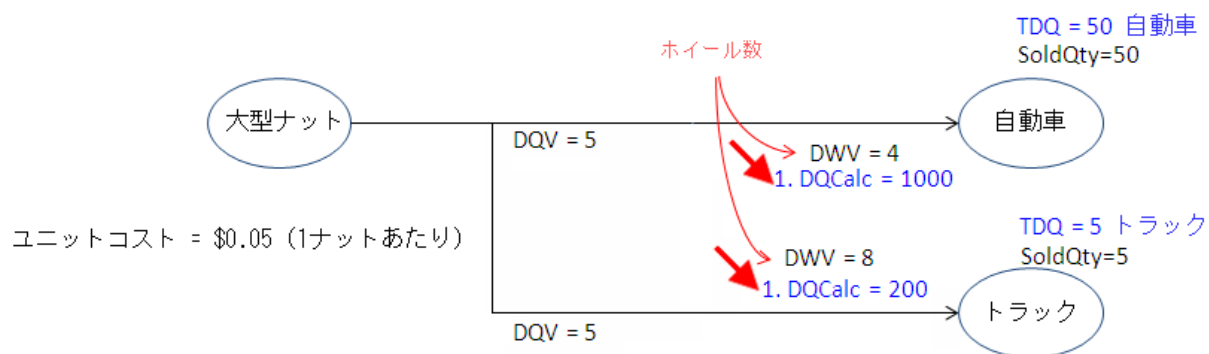


ステップB - 大型ナットから自動車とトラックへの各パスの DQCalc

前述のように、DQCalc を次の式に従って計算します。

$$DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ$$

ただし、このとき、次の図に示す計算に含める重みが存在します。



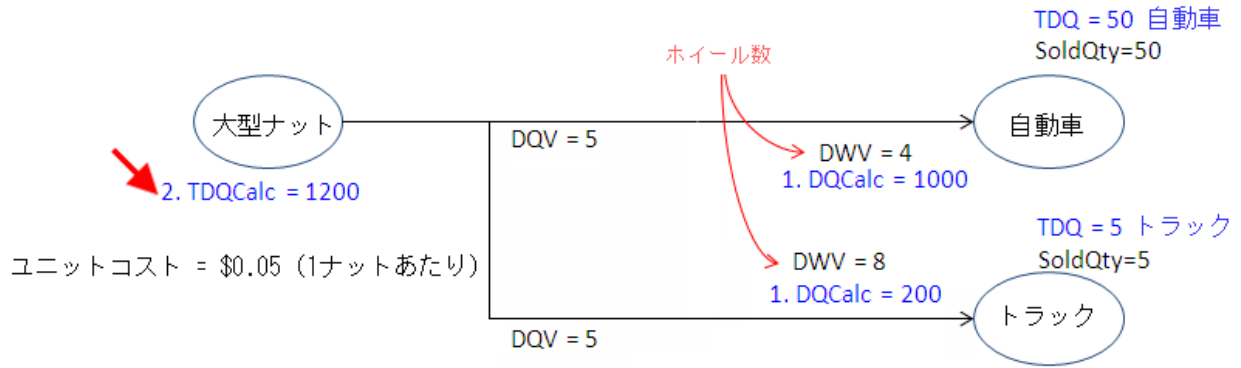
$$1. DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ$$

$$DQCalc(\text{自動車}) = 5 \times 4 \times 50 = 1000$$

$$DQCalc(\text{トラック}) = 5 \times 8 \times 5 = 200$$

ステップC - 大型ナットの TDQCalc

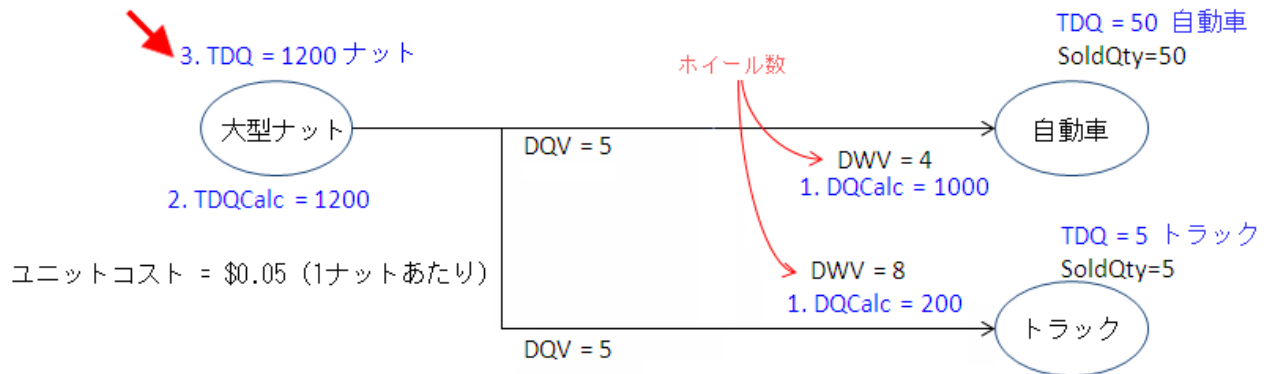
次の図に示すように、大型ナットの TDQCalc は、自動車の DQCalc とトラックの DQCalc を足した合計です。



1. $DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ$
 $DQCalc(\text{自動車}) = 5 \times 4 \times 50 = 1000$
 $DQCalc(\text{トラック}) = 5 \times 8 \times 5 = 200$
2. $TDQCalc = DQCalc(1) + DQCalc(2) + \dots + DQCalc(n)$
 $TDQCalc = 1000 + 200 = 1200$

ステップD - 大型ナットの TDQ

TDQ は TDQCalc と等しくなります。そのため、自動車とトラックの両方に必要な大型ナットの合計数がわかります。



1. $DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ$
 $DQCalc(\text{自動車}) = 5 \times 4 \times 50 = 1000$
 $DQCalc(\text{トラック}) = 5 \times 8 \times 5 = 200$
2. $TDQCalc = DQCalc(1) + DQCalc(2) + \dots + DQCalc(n)$
 $TDQCalc = 1000 + 200 = 1200$
3. $TDQ = TDQCalc$
 $TDQ = 1200$

ステップE - 大型ナットの Cost と DrvblCost

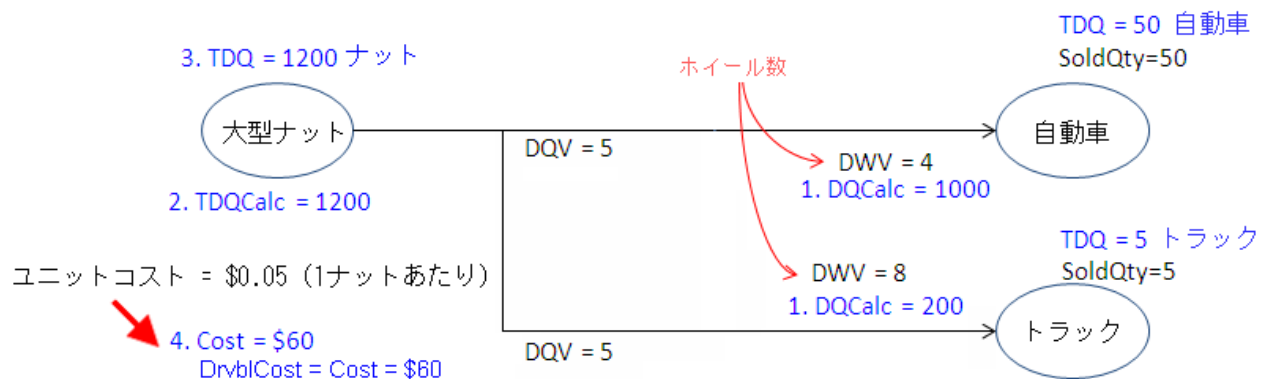
Cost は、大型ナットの合计数と大型ナットのユニットコストを乗算したものです。

$$\text{Cost} = \text{UnitCost} \times \text{TDQ} = 0.05 \times 1200 = 60$$

$$\text{DrvblCost} = \text{Cost} - \text{Allocated Cost}$$

であり、この例では Allocated Cost がいないため、次のようになります。

$$\text{DrvblCost} = \text{Cost}$$



$$1. \text{DQCalc} = \text{DQV} \times \text{DWV} \times \text{Dest.TDQ}$$

$$\text{DQCalc(自動車)} = 5 \times 4 \times 50 = 1000$$

$$\text{DQCalc(トラック)} = 5 \times 8 \times 5 = 200$$

$$2. \text{TDQCalc} = \text{DQCalc}(1) + \text{DQCalc}(2) + \dots + \text{DQCalc}(n)$$

$$\text{TDQCalc} = 1000 + 200 = 1200$$

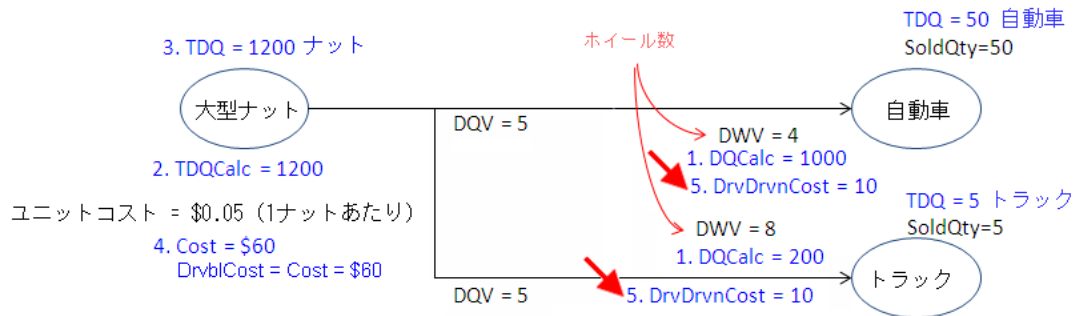
$$3. \text{TDQ} = \text{TDQCalc}$$

$$\text{TDQ} = 1200$$

ステップF - 大型ナットから自動車とトラックへの各パスの DrvDrvnCost

合計コストが\$60 であることがわかると、次の図が示すように、次の式に従って自動車とトラックそれぞれにコストを分配します。

$$\text{DrvDrvnCost} = \text{DrvblCost} \times \text{DQCalc} / \text{TDQCalc}$$



$$1. DQCalc = DQV \times DWV \times Dest.TDQ$$

$$DQCalc(自動車) = 5 \times 4 \times 50 = 1000$$

$$DQCalc(トラック) = 5 \times 8 \times 5 = 200$$

$$2. TDQCalc = DQCalc(1) + DQCalc(2) + \dots + DQCalc(n)$$

$$TDQCalc = 1000 + 200 = 1200$$

$$3. TDQ = TDQCalc$$

$$TDQ = 1200$$

$$4. Cost = UnitCost \times TDQ$$

$$Cost = .05 \times 1200 = \$60$$

$$DrvblCost = Cost = \$60$$

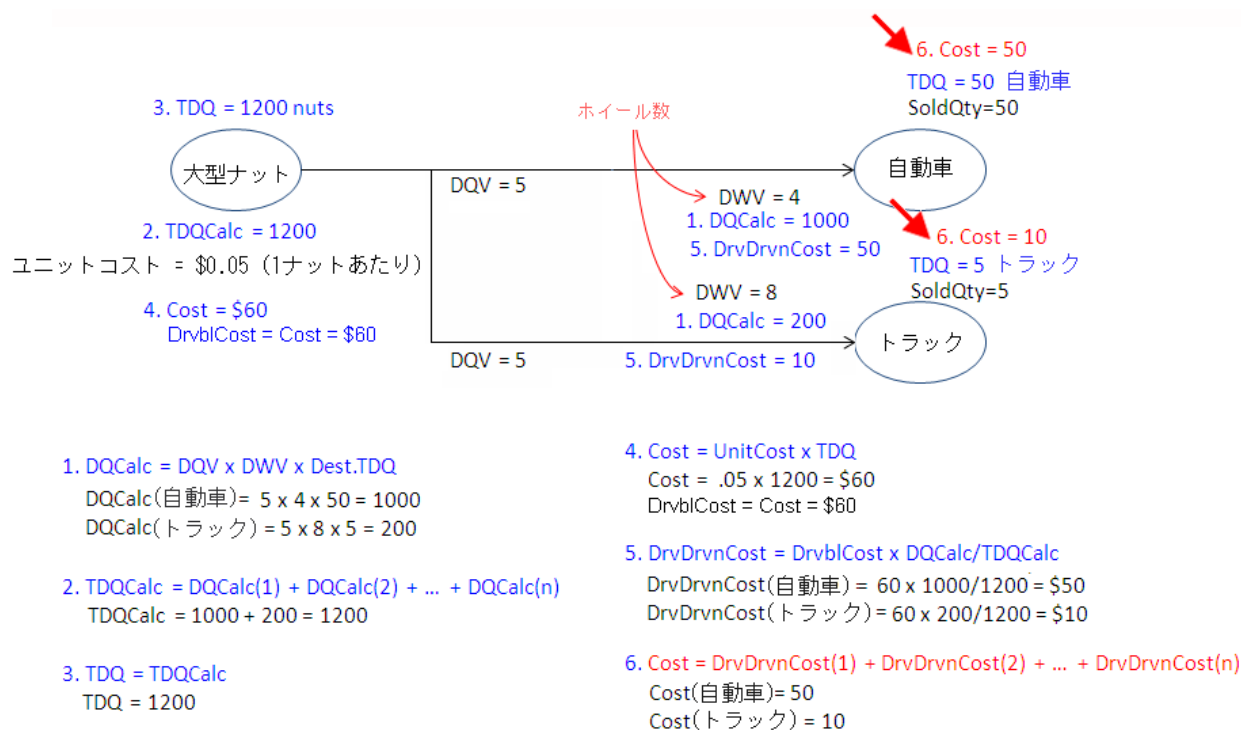
$$5. DrvDrvnCost = DrvblCost \times DQCalc / TDQCalc$$

$$DrvDrvnCost(自動車) = 60 \times 1000 / 1200 = \$50$$

$$DrvDrvnCost(トラック) = 60 \times 200 / 1200 = \$10$$

ステップG - 自動車とトラックのそれぞれの Cost

あるアカウントのコストは、設定されたすべてのドライバによってそのアカウントに割り当てられるコストの合計です。この例の場合、1つのドライバのみが自動車アカウントとトラックアカウントのそれぞれに設定されているため、次の図が示すように、コストはそのドライバの DrvDrvnCost です。



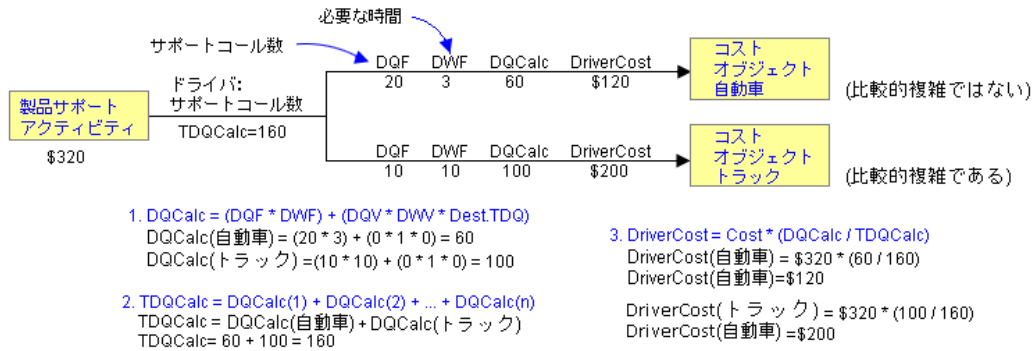
重み付きドライバ量と固定ドライバ量の使用

この例では、1つの図にプロパティを示します。この例の問題は、2つの製品、自動車(サポートに必要な時間が少なく、あまり複雑でない製品)とトラック(サポートに必要な時間が多く、複雑な製品)に対するサポートコールのコストを分配することです。問題に提供されているデータは、次のとおりです。

- 自動車とトラックの両方に対するサポートコールに\$320が使われました。
- 自動車のサポートコールにはそれぞれ3分(DWF=3)かかり、トラックのサポートコールにはそれぞれ10分(DWF=10)必要です。

次の図に、次の式を使用した各製品に割り当てられるコスト(DriverCost)の計算を示します。

- $DQCalc = (DQF \times DWF) + (DQV \times DWV \times Dest.TDQ)$
- $TDQCalc = DQCalc(1) + DQCalc(2) + \dots + DQCalc(n)$
- $DriverCost = Cost \times (DQCalc/TDQCalc)$

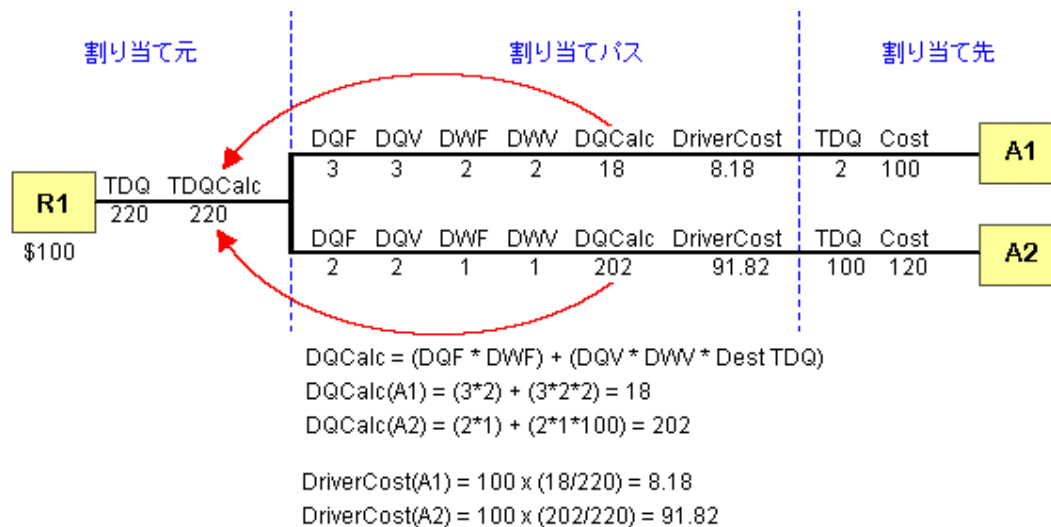


重み付きドライバと固定ドライバ量、変動ドライバ量の使 用

この例では、再度、1つの図に、重みが異なる2つの割り当てパスを持つドライバのコストフローのプロパティを示します。

この図には、再度、次の式を使用した各製品(DriverCost)に割り当てられるコストの計算を示します。

- $DQCalc = (DQF * DWF) + (DQV * DWV * Dest.TDQ)$
- $TDQCalc = DQCalc(1) + DQCalc(2) + \dots + DQCalc(n)$
- $DriverCost = Cost * (DQCalc / TDQCalc)$



未使用フロー

次の図に、Idle Quantity を割り当て元アカウントから割り当て先アカウントに渡すための4つの異なる方法を示します。4つの異なる方法は、次のとおりです。

ユーザー入力

未使用量は、割り当てパスごとの IdleQtyUE の値によって指定されているように分配されます。分配されない未使用量は、プロパティ Unassigned に割り当てられます。

ユーザー割合

未使用量は、割り当てパスごとの IdleQtyUE の相対割合で分配されます。

ドライバ量

未使用量は、割り当てパスごとの DQF の相対割合で分配されます。

均等割り当て

未使用量は、割り当て先アカウント間で均等に分配されます。

注: IdleQty = TDQUE - UsedQuantity

ユーザー入力

R1				IdleQtyUE	IdleQty	A1
				5	5	
	TDQUE	UsedQty	IdleQty	IdleQtyUE	IdleQty	A2
	100	80	20	5	5	
				IdleQtyUE	IdleQty	A3
				5	5	
				Unassigned=5		

ユーザー割合

R1				IdleQtyUE	IdleQty	A1
				50	$20 \times 50/225$	4.49
	TDQUE	UsedQty	IdleQty	IdleQtyUE	IdleQty	A2
	100	80	20	100	$20 \times 100/225$	8.89
				IdleQtyUE	IdleQty	A3
				75	$20 \times 75/225$	6.67
				$50+100+75=225$		

ドライバ量

R1				DQF	IdleQty	A1
				10	$20 \times 10/60$	3.33
	TDQUE	UsedQty	IdleQty	DQF	IdleQty	A2
	100	80	20	20	$20 \times 20/60$	6.67
				DQF	IdleQty	A3
				30	$20 \times 30/60$	10
				$10+20+30=60$		

均等割り当て

R1				IdleQtyUE	IdleQty	A1
				20/3	6.66	
	TDQUE	UsedQty	IdleQty	IdleQtyUE	IdleQty	A2
	100	80	20	20/3	6.66	
				IdleQtyUE	IdleQty	A3
				20/3	6.66	

関連項目:

[“未使用量” \(298 ページ\)](#)

38 章

計算の詳細例

はじめに	409
ステップ 1-ユーザーによるドライバ量(DQF、DQV、DWF、DWV、DrvAllocCost)の入力	412
ステップ 2-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvQtyCalc	413
ステップ 3-アクティビティアカウントの TDQCalc	414
ステップ 4-アクティビティアカウントの TDQ	415
ステップ 5-アクティビティアカウントへのパスの DrvQtyCalc	416
ステップ 6-リソースアカウントの TDQCalc	417
ステップ 7-リソースアカウントの TDQ	418
ステップ 8-リソースアカウントの AllocCost	419
ステップ 9-リソースアカウントの DrvblCost	420
ステップ 10-リソースアカウントの DrvRate	421
ステップ 11-アクティビティアカウントへのパスの DrvDrvnCost	422
ステップ 12-アクティビティアカウントへのパスの DrvCost	423
ステップ 13-アクティビティアカウントの DrvblCost	424
ステップ 14-アクティビティアカウントからの外向きドライバの DrvRate	425
ステップ 15-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvDrvnCost	426
ステップ 16-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvCost	427
ステップ 17-コストオブジェクトアカウントの Cost	428

はじめに

この章では、次の簡単な例に対してアカウント間のコストフローを計算する際のシステムの動作を説明します。

IntsctnName	(\$ Cost	DrvName	Display Name	(\$ Cost	DrvName	IntsctnName	(\$ Cost
Resource_account	100.00	weighted	アクティビティ (プライマリペイン)	100.00		CO_account1	58.21
			Activity_account1	17.89	basic	CO_account2	41.79
			Activity_account2	82.11	percent		

IntsctnName	(\$ Cost	DrvName	Display Name	(\$ Cost	DrvName	IntsctnName	(\$ Cost
Resource_account	100.00	weighted	アクティビティ (プライマリペイン)	100.00		CO_account1	58.21
			Activity_account1	17.89	basic	CO_account2	41.79
			Activity_account2	82.11	percent		

説明によって、一部のシステムプロパティが割り当てパスに沿って渡される量を表し、他のシステムプロパティがアカウント間で受け渡しされるコストを表すことをよりよく理解することができます。この例には、モデルで使用可能なプロパティがすべて含まれているわけではありませんが、割り当てで最も頻繁に使用されるプロパティが含まれています。

この例について計算プロセスを要約すると、次のようになります。

- Resource_account は、重み付きドライバを使用して、コストを Activity_account1 と Activity_account2 に割り当てます。

この重み付きドライバでは、固定ドライバ量(DQF と DWF)と変動ドライバ量(DQV と DWV)の使用が可能です。

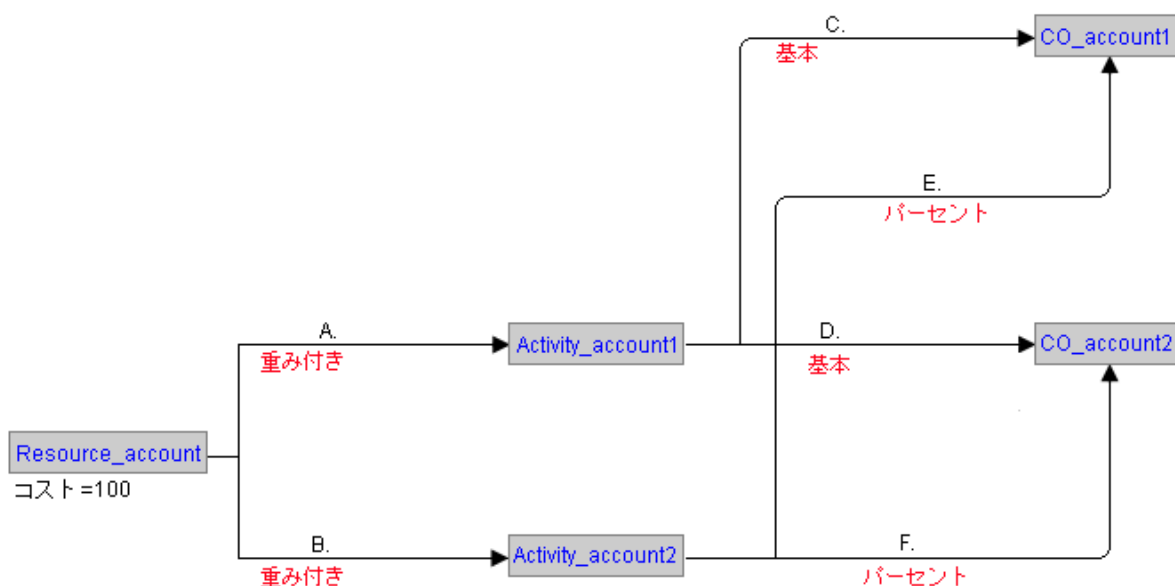
このドライバでは、ユーザー入力のコスト分配(DrvAllocCost)の使用も可能です。

- Activity_account1 は、基本ドライバを使用して、コストを CO_account1 と CO_account2 に割り当てます。

基本ドライバでは、固定ドライバ量(DQF)と変動ドライバ量(DQV)の使用が可能です。が、重み付きドライバではないため DWF と DWV の使用は可能ではありません。

- Activity_account2 もコストを CO_account1 と CO_account2 に割り当てますが、パーセントドライバを使用します。

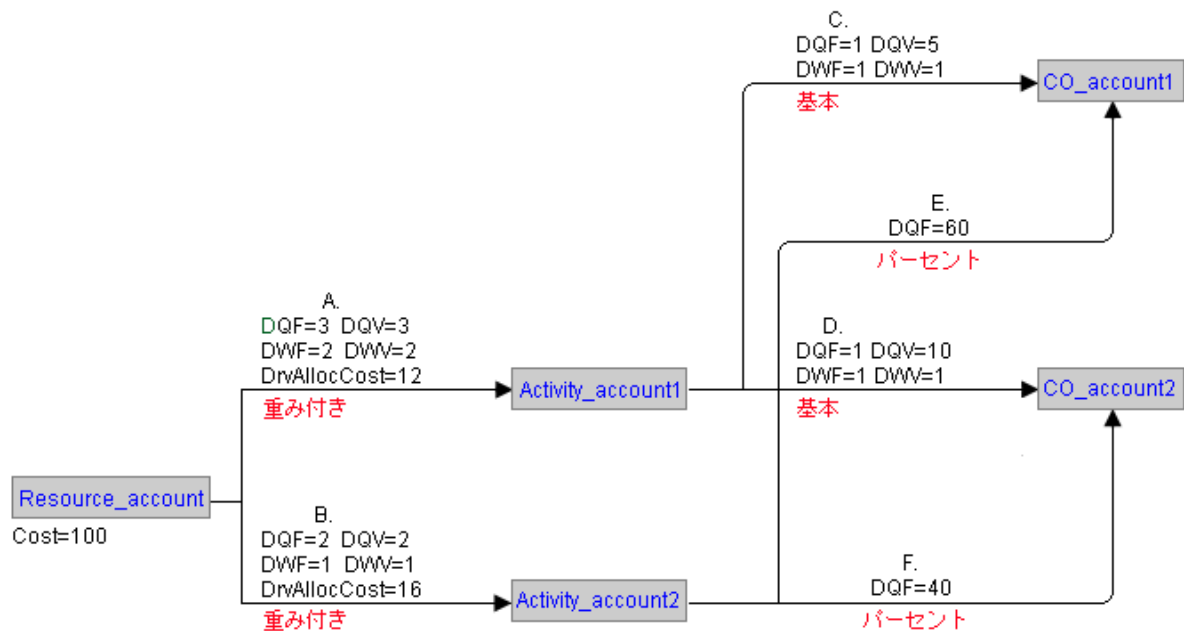
次に、この章の後半で計算プロセスの説明に使用する概要図を示します。



Resource_account から Activity_account1 と Activity_account2 へのコストフローの決定に見込まれるプロセスは、次のとおりです。

1. ユーザーによるドライバ量(DQF、DQV、DWF、DWV、DrvAllocCost)の入力
次の計算はすべてシステムによって実行されます。
2. コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvQtyCalc
3. アクティビティアカウントの TDQCalc
4. アクティビティアカウントの TDQ
5. アクティビティアカウントへのパスの DrvQtyCalc
6. リソースアカウントの TDQCalc
7. リソースアカウントの TDQ
8. リソースアカウントの AllocCost
9. リソースアカウントの DrvblCost
10. リソースアカウントの DrvRate
11. アクティビティアカウントへのパスの DrvDrvnCost
12. アクティビティアカウントへのパスの DrvCost
13. アクティビティアカウントの DrvblCost
14. アクティビティアカウントからの外向きのドライバの DrvRate
15. コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvDrvnCost
16. コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvCost
17. コストオブジェクトアカウントの Cost

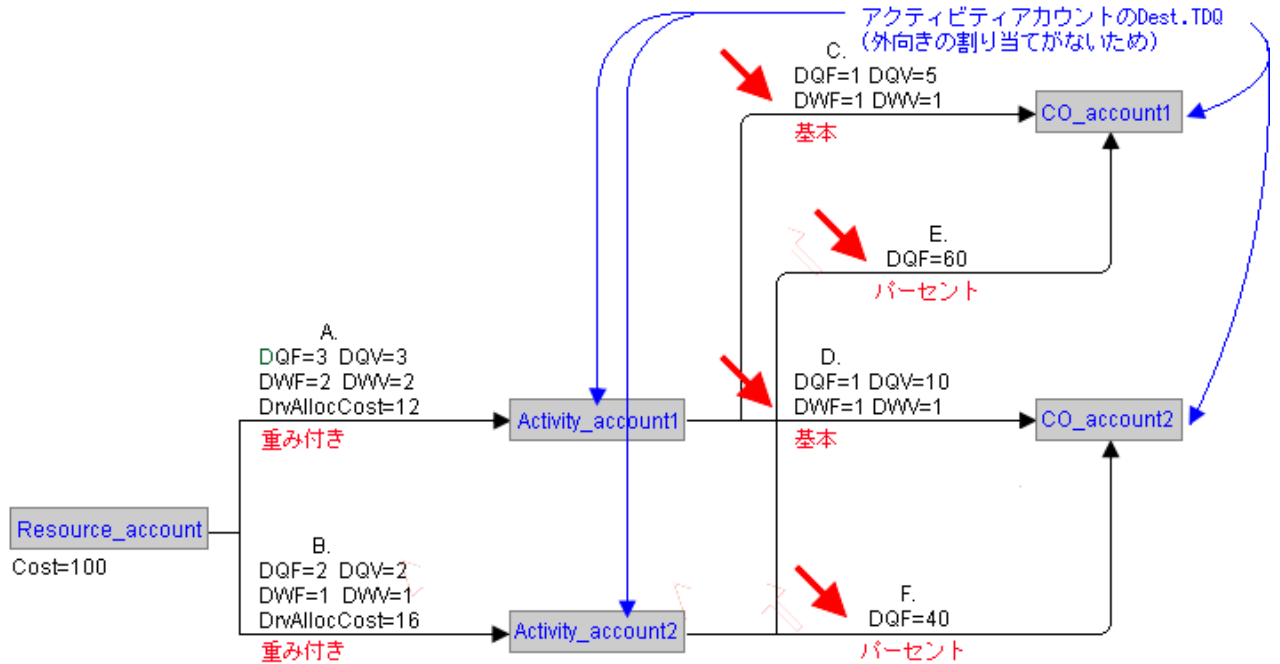
ステップ 1-ユーザーによるドライバ量(DQF、DQV、DWF、DWV、DrvAllocCost)の入力



次に、ユーザー入力ドライバ量を示します。

- DQF (Driver Quantity Fixed)
- DQV (Driver Quantity Variable)
- DWF (Driver Weight Fixed)
- DWV (Driver Weight Variable)
- DrvAllocCost (Driver Allocated Cost)

ステップ2-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvQtyCalc



DrvQtyCalc=(DQF x DWF) + (DQV x DWV x Dest.TDQ):

Activity_account1 から CO_account1 への DrvQtyCalc = (1 x 1) + (5 x 1 x 0) = 1

Activity_account1 から CO_account2 への DrvQtyCalc = (1 x 1) + (10 x 1 x 0) = 1

Activity_account2 から CO_account1 への DrvQtyCalc = (60 x 1) + (0 x 1 x 0) = 60

Activity_account2 から CO_account2 への DrvQtyCalc = (40 x 1) + (0 x 1 x 0) = 40

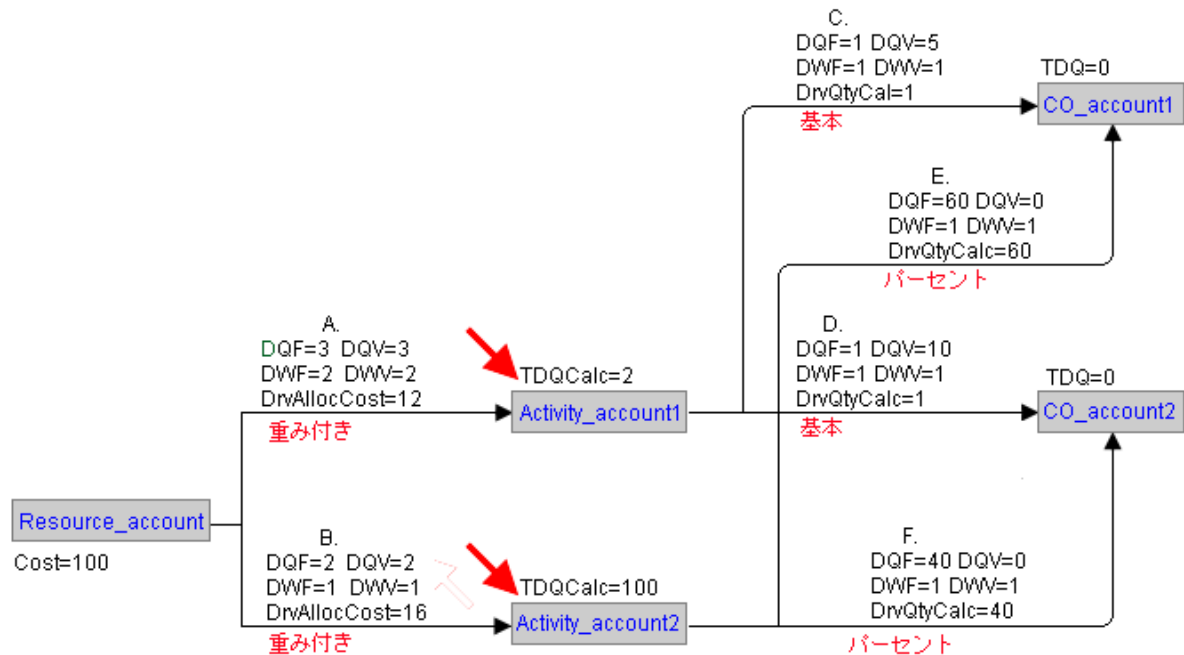
注:

CO_account1 および CO_account2 では、TDQ=0 です。これらのコストオブジェクトアカウントからコストが渡されないためです。

注: パーセントドライバでは、変動ドライバ量の使用は可能ではありません。そのため、その DQV は null で、計算では null はゼロとして処理されます(DQV=0)。

注: パーセントドライバと基本ドライバはともに非重み付きドライバです。非重み付きドライバの場合、DWF=1、DWV=1 となります。

ステップ 3-アクティビティアカウントの TDQCalc

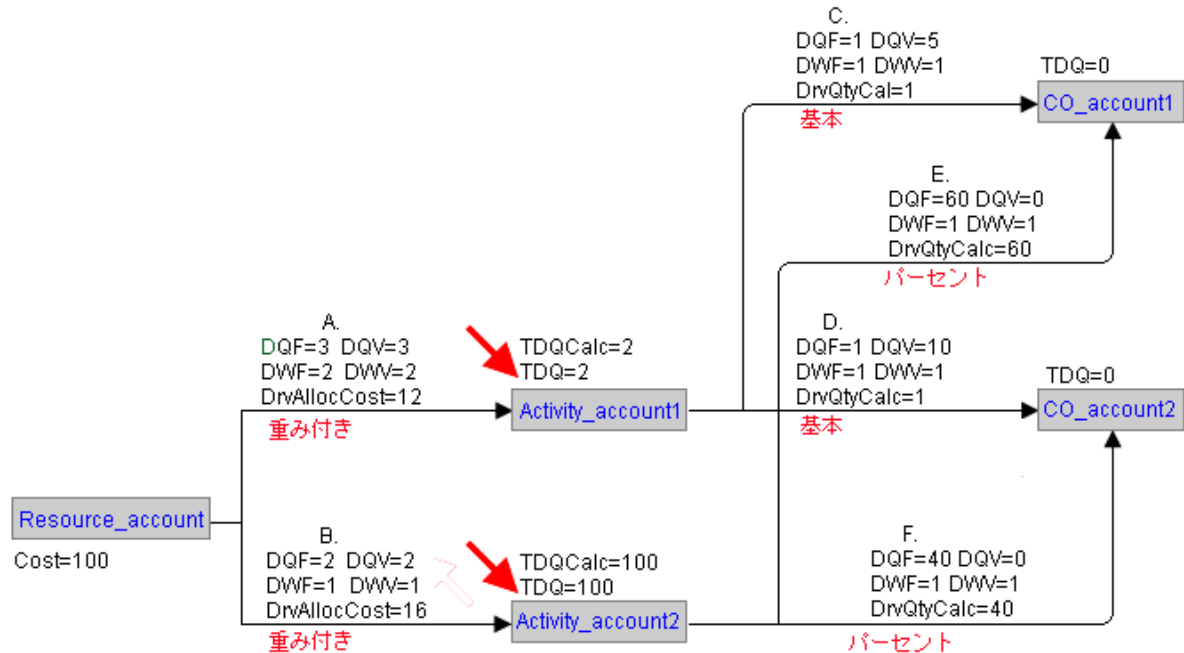


TDQCalc はすべての DrvQtyCalc の合計:

Activity_account1 の TDQCalc = 1 + 1 = 2

Activity_account2 の TDQCalc = 60 + 40 = 100

ステップ 4-アクティビティアカウントの TDQ



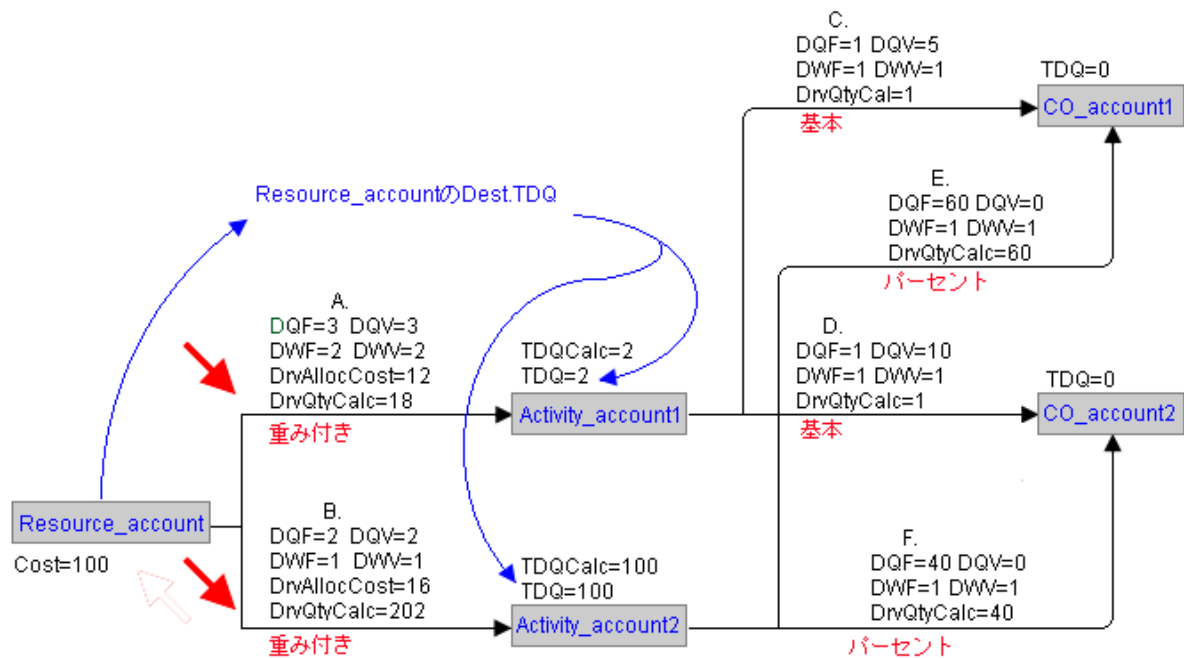
Activity_account1 の TDQ = CO_account1 への DQF + CO_account2 への DQF:

Activity_account1 の TDQ = 1 + 1 = 2

Activity_account2 の TDQ = CO_account1 への DQF + CO_account2 への DQF:

Activity_account2 の TDQ = 60 + 40 = 100

ステップ 5-アクティビティアカウントへのパスの DrvQtyCalc

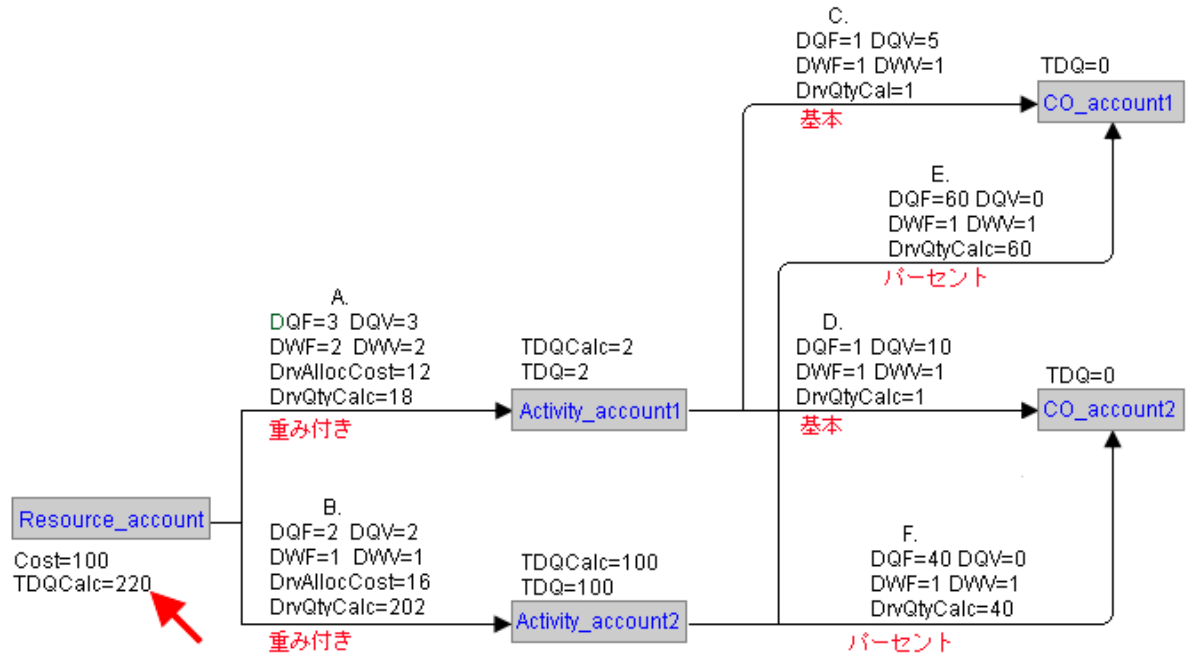


DrvQtyCalc=(DQF x DWF) + (DQV x DWW x Dest.TDQ):

Activity_account1 の DrvQtyCalc = (3 x 2) + (3 x 2 x 2) = 18

Activity_account2 の DrvQtyCalc = (2 x 1) + (2 x 1 x 100) = 202

ステップ 6-リソースアカウントの TDQCalc

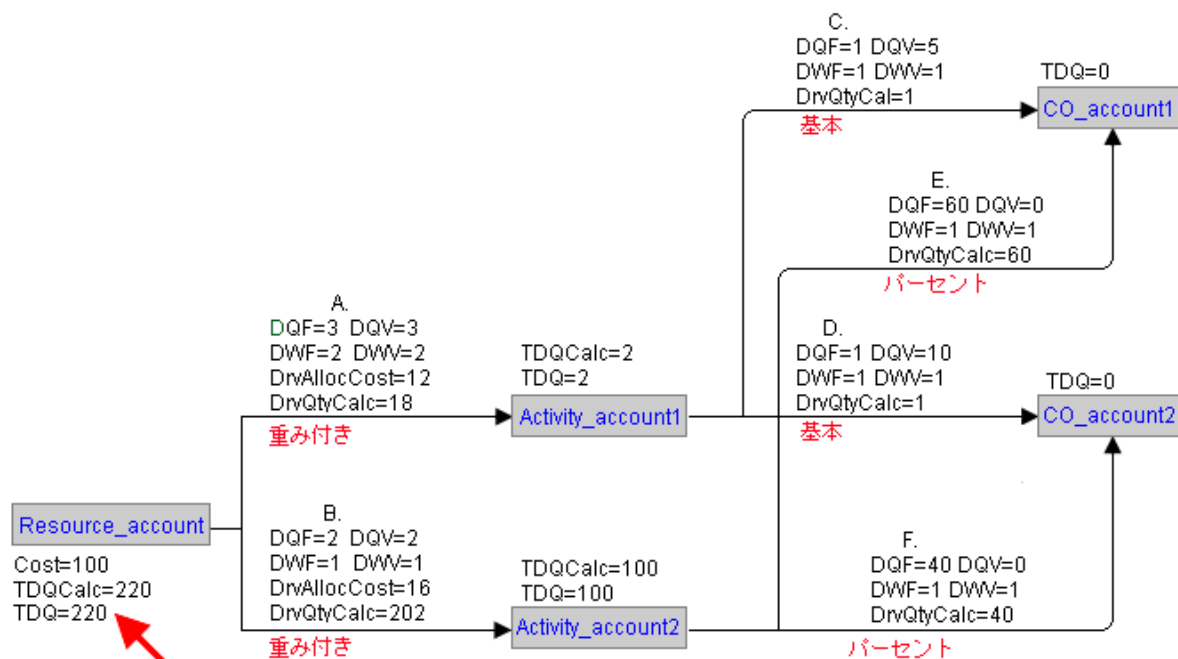


TDQCalc は、すべての外向き割り当てパスの DrvQtyCalc の合計です。

$$\text{TDQCalc} = (\text{Activity_account1 の DrvQtyCalc}) + (\text{Activity_account2 の DrvQtyCalc})$$

$$\text{TDQCalc} = 18 + 202 = 220$$

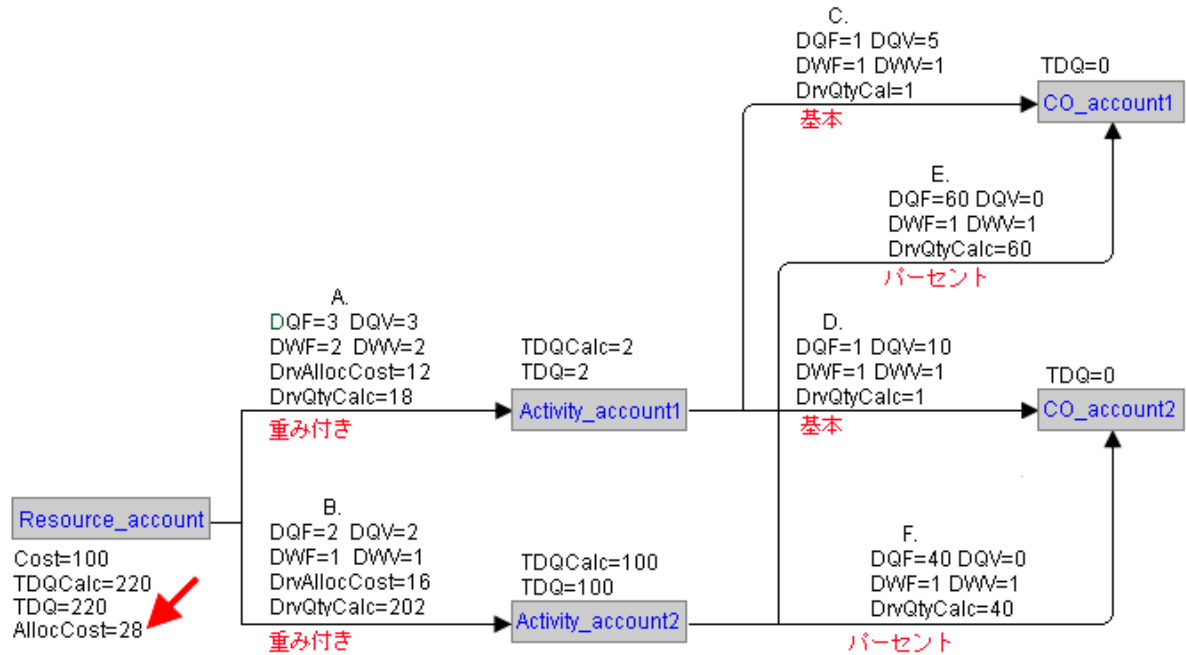
ステップ 7-リソースアカウントの TDQ



TDQ = TDQCalc:

TDQ = 220

ステップ 8-リソースアカウントの AllocCost



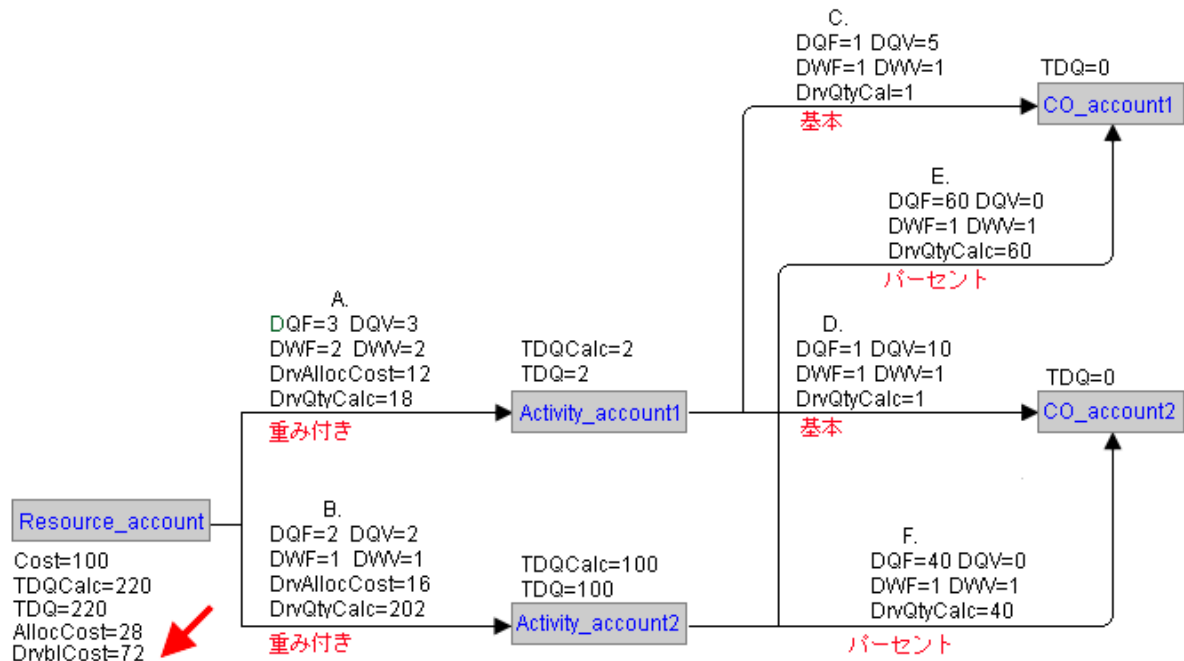
Source Allocated Cost = すべての外向き割り当てパスの DrvAllocCost の合計

Resource_account から Activity_account1 への割り当てパスの DrvAllocCost = 12

Resource_account から Activity_account2 への割り当てパスの DrvAllocCost = 16

Source Allocated Cost = 12 + 16 = 28

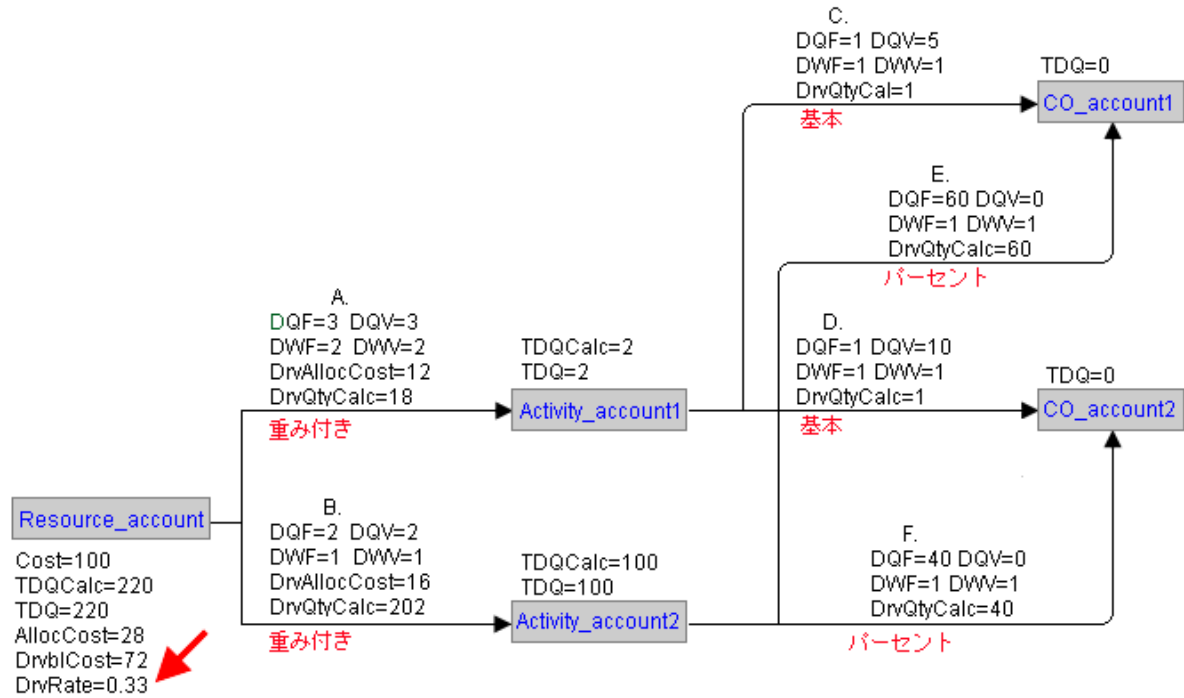
ステップ 9-リソースアカウントの DrvblCost



Drivable Cost = Cost - Allocated Cost:

$$\text{Drivable Cost} = 100 - 28 = 72$$

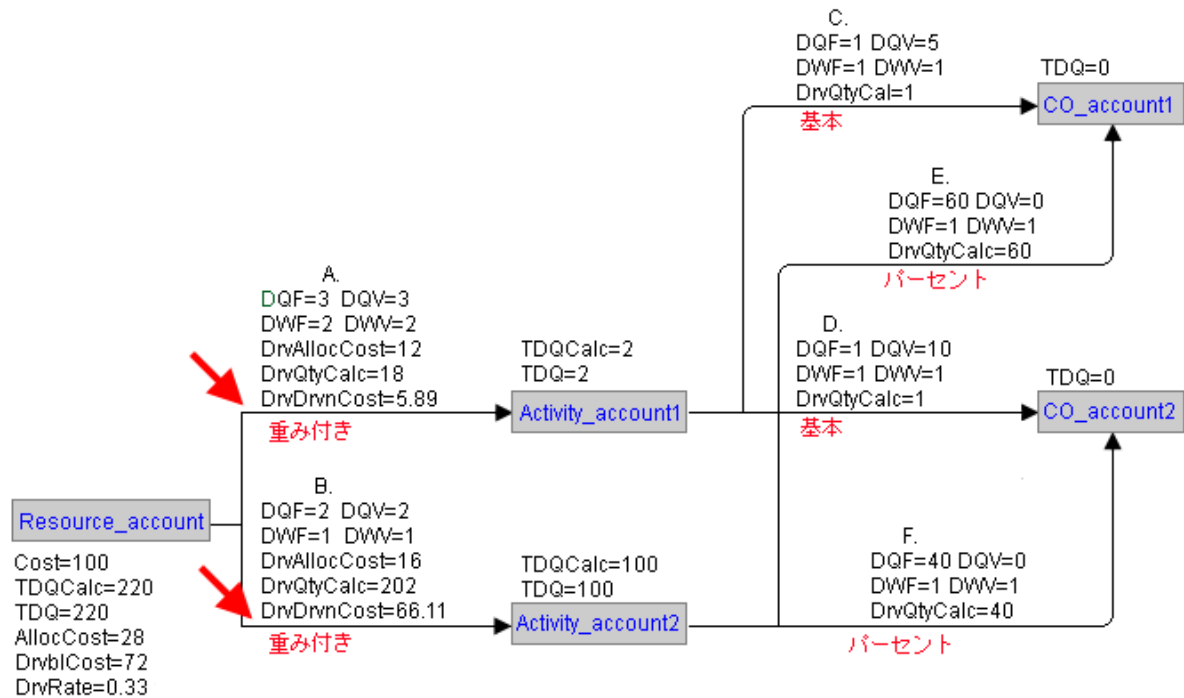
ステップ 10-リソースアカウントの DrvRate



DriverRate = DrivableCost / TDQ:

DriverRate = 72 / 220 = 0.33 (切り上げ)

ステップ 11-アクティビティアカウントへのパスの DrvDrvnCost



Activity_account1 への Resource_account の DrvDrvnCost:

DrvDrvnCost = DrvblCost x (DrvQtyCalc / TDQCalc):

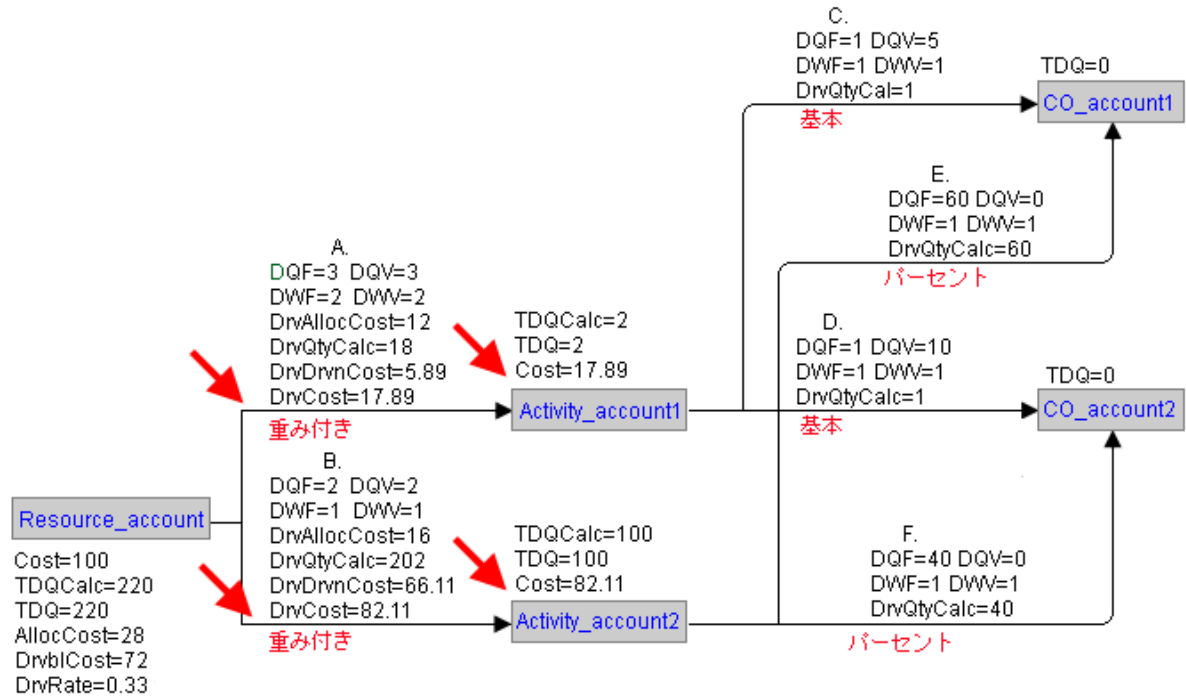
$$\text{DrvDrvnCost} = 72 \times (18 / 220) = 5.89$$

Activity_account2 への Resource_account の DrvDrvnCost:

DrvDrvnCost = DrvblCost x (DrvQtyCalc / TDQCalc):

$$\text{DrvDrvnCost} = 72 \times (202 / 220) = 66.11$$

ステップ 12-アクティビティアカウントへのパスの DrvCost



Resource_account から Activity_account1 への割り当てパスの Driver Cost

DriverCost = Driver Driven Cost + DrvAllocCost:

$$\text{DriverCost} = 5.89 + 12 = 17.89$$

そのため、Activity_account1 の場合は Cost=17.89 となります。

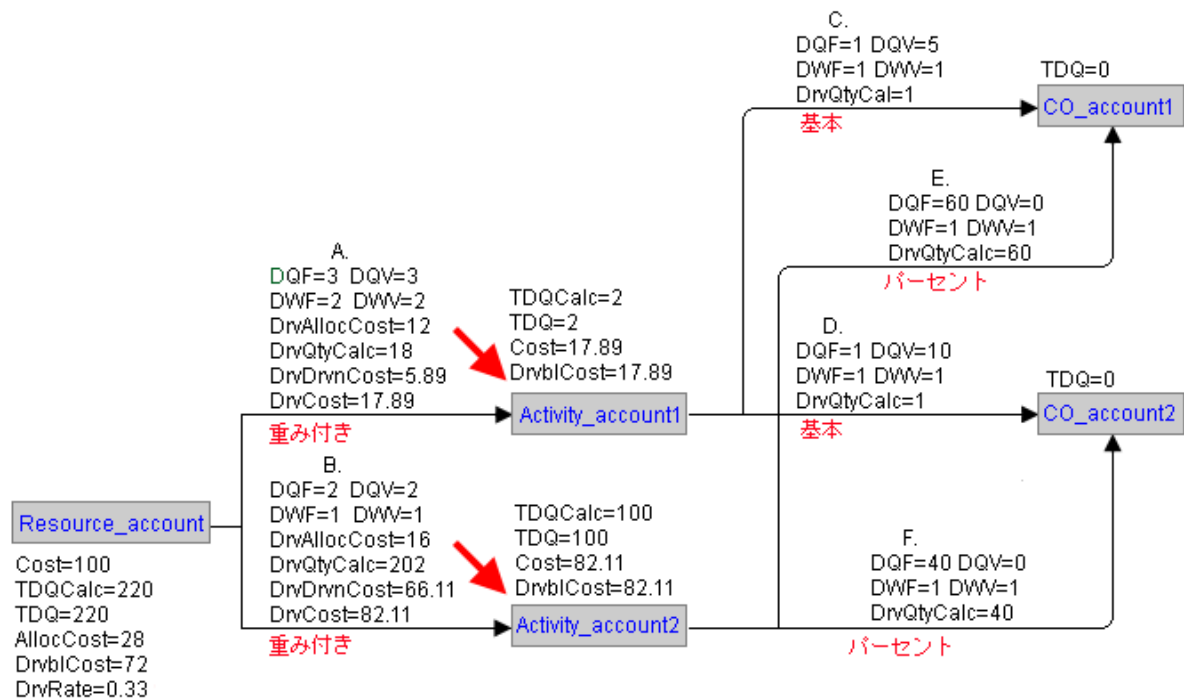
Resource_account から Activity_account2 への割り当てパスの Driver Cost

DriverCost = Driver Driven Cost + DrvAllocCost:

$$\text{DriverCost} = 66.11 + 16 = 82.11$$

そのため、Activity_account2 の場合は Cost=82.11 となります。

ステップ 13-アクティビティアカウントの DrvblCost

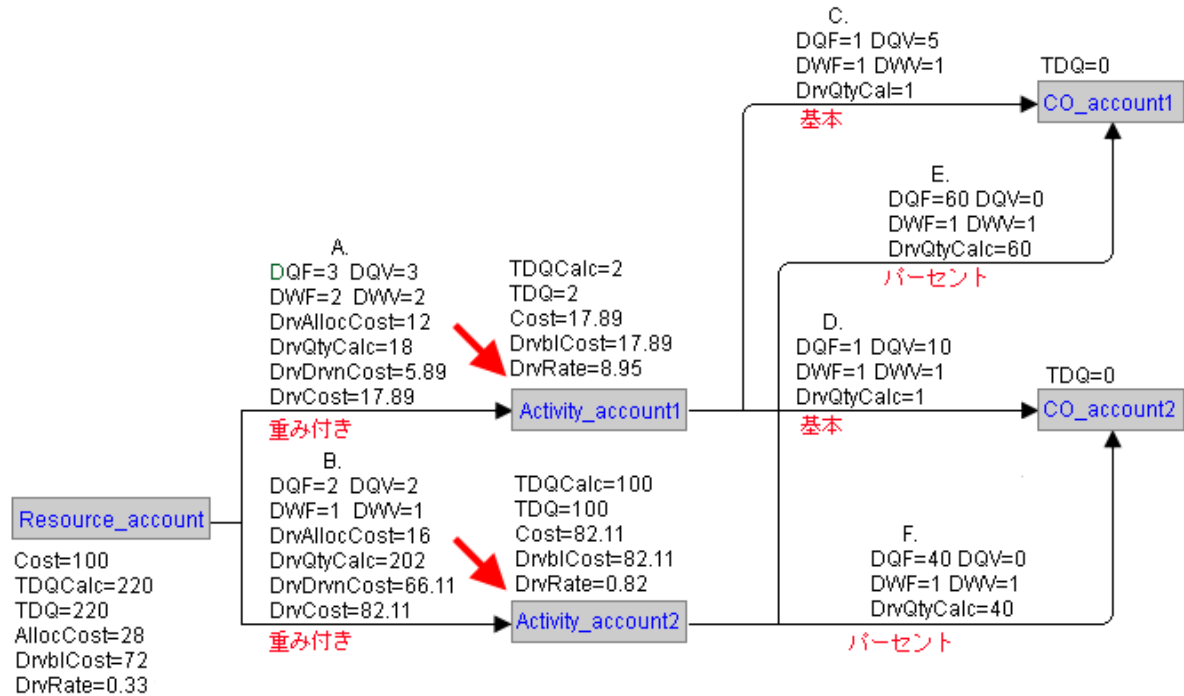


DrivableCost = Cost - Allocated Cost:

Activity_account1 の DrivableCost = 17.89 - 0 = 17.89

Activity_account2 の DrivableCost = 82.11 - 0 = 82.11

ステップ 14-アクティビティアカウントからの外向きドライバの DrvRate

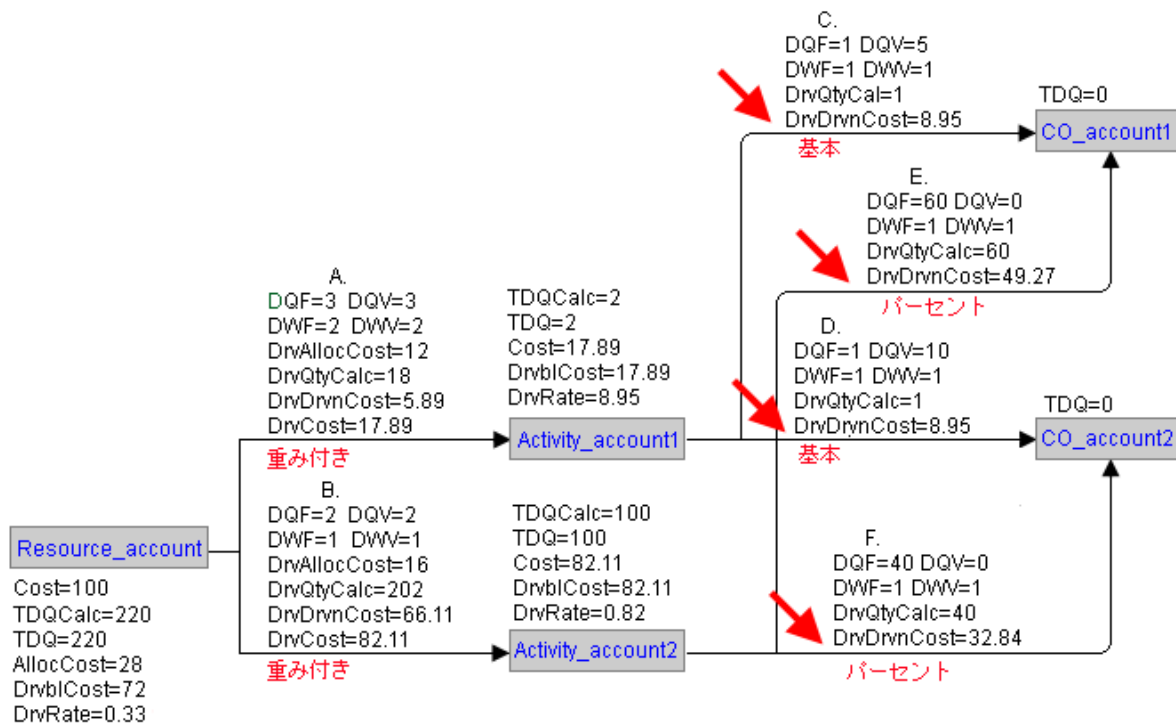


DriverRate = DrivableCost / TDQ:

Activity_account1 の DriverRate = 17.89 / 2 = 8.95 (切り上げ)

Activity_account2 の DriverRate = 82.11 / 100 = .82 (切り捨て)

ステップ 15-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvDrvnCost



Driver Driven Cost = DrvblCost * (DrvQtyCal / TDQCalc):

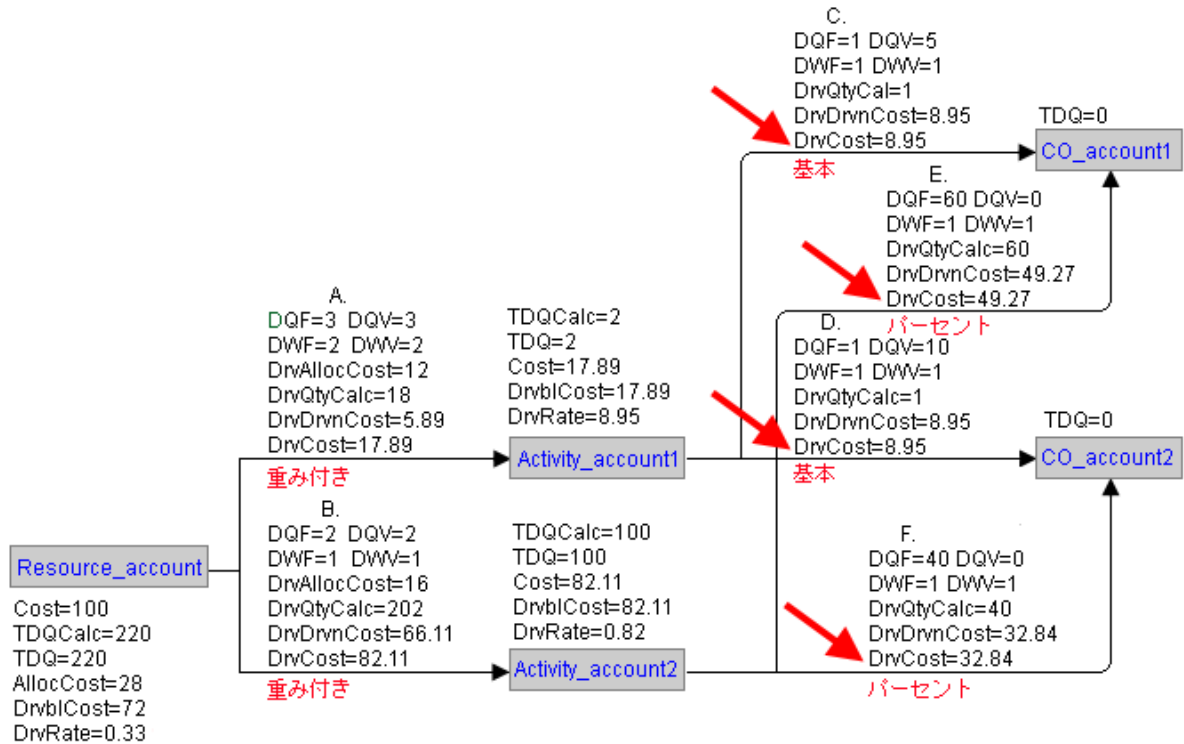
Activity_account1 ⇒ CO_account1 の Driver Driven Cost = 17.89 x (1/2) = 8.95

Activity_account1 ⇒ CO_account2 の Driver Driven Cost = 17.89 x (1/2) = 8.95

Activity_account2 ⇒ CO_account1 の Driver Driven Cost = 82.11 x (60/100) = 49.27

Activity_account2 ⇒ CO_account2 の Driver Driven Cost = 82.11 x (40/100) = 32.84

ステップ 16-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvCost



Activity_account1 から CO_account1 への割り当てパスの DriverCost:

$$\text{DriverCost} = 8.95 + 0 = 8.95$$

Activity_account1 から CO_account2 への割り当てパスの DriverCost:

$$\text{DriverCost} = 8.95 + 0 = 8.95$$

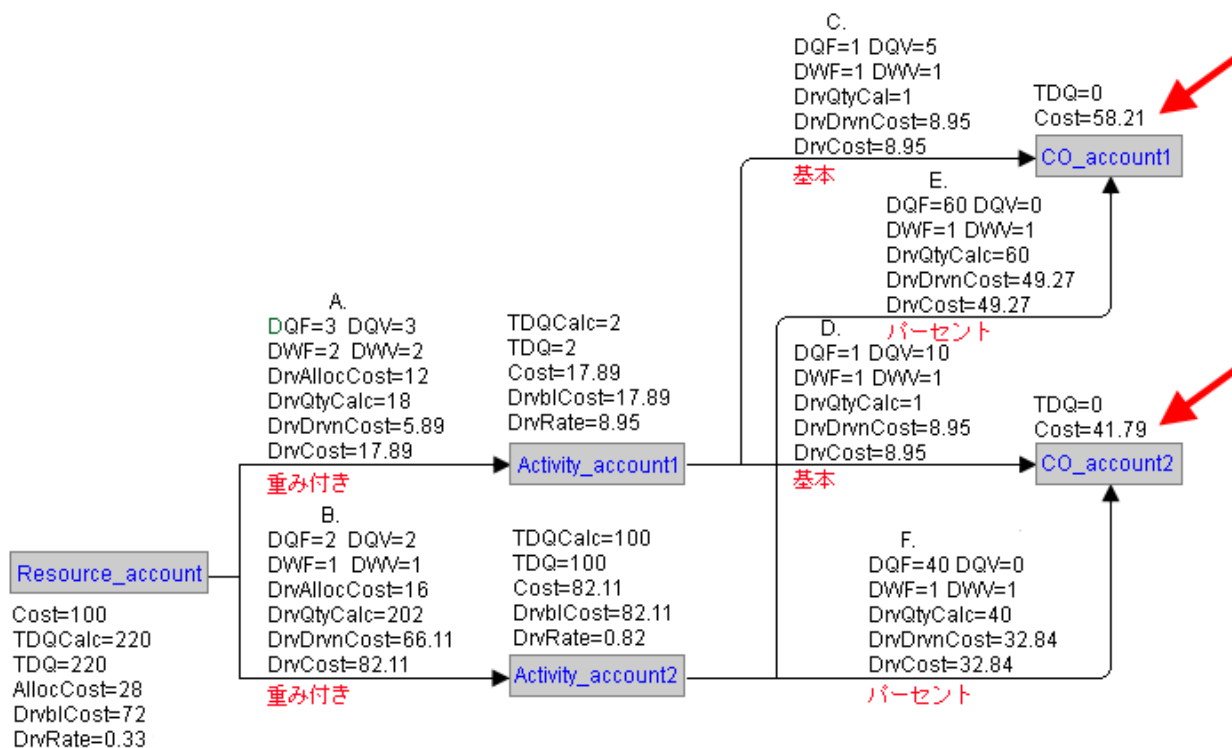
Activity_account2 から CO_account1 への割り当てパスの DriverCost:

$$\text{DriverCost} = 49.27 + 0 = 49.27$$

Activity_account2 から CO_account2 への割り当てパスの DriverCost:

$$\text{DriverCost} = 32.84 + 0 = 32.84$$

ステップ 17-コストオブジェクトアカウントの Cost



割り当て先アカウントの Cost = 個別の DriverCosts の合計:

CO_account1 の Cost = $8.95 + 49.27 = 58.21$

CO_account2 の Cost = $8.95 + 32.84 = 41.79$

14 部

キューブの作成

39 章

キューブの操作	431
---------------	-----

39 章

キューブの操作

キューブ	431
概要	431
ファクトテーブル	432
キューブの作成	432
OLAP Analyzer ビューパフォーマンス	433
事前定義キューブ	433
リソース貢献キューブ	433
シングルステージ貢献キューブ	433
マルチステージ貢献キューブ	434
他のソフトウェアでのキューブの使用	434
キューブの作成	434
インクリメンタルキューブ作成	435
キューブへの数値属性の挿入	438
シングルステージ貢献キューブ	438
リソース貢献キューブとマルチステージ貢献キューブ	438
キューブの内部名の表示	439
キューブまたはファクトテーブルの削除	440
キューブの権限の管理	440

キューブ

概要

キューブは、分析の基本ユニットです。また、キューブは、オンライン分析処理(OLAP)で照会される特別な範囲を表します。キューブには、シングルステージ貢献、マルチステージ貢献、リソース貢献など、モデルデータのサブセットが含まれます。各キューブでは、複数のディメンションと、それらのディメンションに含まれるメジャーが1つのユニットにまとめられています。SAS Activity-Based Management キューブは、標準 OLAP キューブです。

SAS Activity-Based Management では、SAS Activity-Based Management Server のキューブに接続して、キューブを操作できます。キューブを作成すると、OLAP Analyzer ビューでキューブを操作して、対話形式でデータを分析できます。

分析グリッドでは、キューブのディメンションに基づき列と行が決定されます。メジャーは、行と列のセルデータです。

コストを 2 つのディメンション(たとえば、顧客と製品)で示すキューブは、2 ディメンションキューブです。コストを 3 つのディメンション(たとえば、地域、顧客、製品)で示すキューブは、3 ディメンションキューブです。

キューブに含まれるディメンション数は関係なく格納ユニットとしてキューブが使用され、このキューブは n ディメンションのデータを表します。キューブを使用して、多次元データ分析を実行できます。 n ディメンションキューブから有用なナレッジを抽出し、このナレッジを分かりやすいように表示します。

キューブでは、メジャーは、1 ディメンションに含まれる、別のディメンションのディメンションとのすべての組み合わせに対して集計されます。集計を使用すると、他のディメンションのディメンションメンバごとにメジャー分析を実行できます。たとえば、ある地域における製品に関係する四半期ベースのコストを分析できます。

ファクトテーブル

各キューブは、キューブのモデルデータを格納するファクトテーブルに基づきます。キューブを作成する場合、最初にファクトテーブルが作成されます。キューブは、ファクトテーブルから作成されます。

データ分析機能の柔軟性を高めるには、キューブを作成せずにファクトテーブルを作成します。ファクトテーブルを使用すると、SAS OLAP Cube Studio や Microsoft Analysis Services などの他のアプリケーションで、カスタムキューブを作成できます。

注: SAS Activity-Based Management では、ファクトテーブルの作成時にモデルの最終計算以降にモデルデータが変更されたかどうかを確認されます。モデルデータが変更された場合、期間/シナリオ関連付けが計算され、モデルデータが正しいか確認されます。毎回コスト計算するようにも指定できます。

キューブの作成

概要

コストの計算後、キューブを作成して、OLAP Analyzer ビューでモデルを分析できます。

注: SAS Activity-Based Management では、キューブの作成時にモデルの最終計算以降にモデルデータが変更されたかどうかを確認されます。モデルデータが変更された場合、期間/シナリオ関連付けが計算され、モデルデータが正しいか確認されます。毎回コスト計算するようにも指定できます。

SAS Activity-Based Management では、キューブの作成時に数値データが事前集計されるため、OLAP ビューでの操作パフォーマンスが向上します。モデルが大きい場合、キューブデータの事前集計が完了するまで時間がかかります。

キューブ作成時間を短縮する要因を、効果のある順に説明します。

- ステージ数
- ディメンション数
- 割り当てパスの長さ
 - 割り当てパスのアイテム数は、10 未満にします。
- アカウント数と割り当てパス数

注: キューブを作成すると、以前に作成したキューブは表示できなくなります。

OLAP Analyzer ビューパフォーマンス

SAS Activity-Based Management Server のキューブ作成時にデータの事前集計が完了しない場合、一部のデータが OLAP Analyzer ビューの使用時に集計される可能性があります。この場合、パフォーマンスが低下する可能性があります。そのため、データ事前集計に対するサーバーのデフォルトの時間上限(約 10 時間)を増やすことができます。デフォルトの時間上限を増やすには、各支社の SAS テクニカルサポートにお問合せください。

事前定義キューブ

SAS Activity-Based Management では、次の事前定義キューブが提供されます。

- シングルステージ貢献キューブ
- マルチステージ貢献キューブ
- リソース貢献キューブ

リソース貢献キューブ

リソース貢献キューブを使用すると、製品、顧客、サービスコストなどへの貢献リソースコストを分析できます。あるいは、リソースコストを受け取った製品、顧客、サービスコストなどを分析することもできます。

リソース貢献キューブは、コストが最初に入力されたアカウントから、他のアカウントにコストを割り当てない最終アカウントまでのコスト貢献を調査するために使用します。通常、これらのコスト貢献はリソースアカウントからコストオブジェクトアカウントまでのコスト貢献であり、最初のアカウントまたは最終アカウントがどこに存在するかは関係ありません。

注: リソース貢献キューブには、割り当てパスの開始アカウントのコストと最終アカウントのコストのみ含まれます。中間のアカウントとそのコストは含まれません。

マルチステージ貢献キューブは、ステージ属性タグ付きのアカウント間のコスト貢献を分析するために使用します。

シングルステージ貢献キューブは、割り当てレベルを 1 つ前に戻ってコスト貢献を分析するために使用します。

シングルステージ貢献キューブ

シングルステージ貢献キューブは、次のような問題に取り組む際に使用します。

- 製品、顧客、サービスコストなどへの貢献アクティビティコストを特定する。
- コストオブジェクトモジュール内へのコストの割り当て時に製品コストを構成する貢献コストを特定する。
- アクティビティへの貢献リソースコストを特定する。

シングルステージ貢献キューブを使用すると、割り当てレベルを 1 つ前に戻ってコスト貢献を分析できます。コストの発生アカウントや最終アカウントであるかは関係ありません。通常、次のようなコスト貢献があります。

- アクティビティからコストオブジェクトへ
- リソースからアクティビティへ

アカウントにステージ属性を追加する必要はありません。各モジュールをステージとして使用できます。

リソース貢献キューブは、コストが最初に入力されたアカウントから、他のアカウントにコストを割り当てない最終アカウントまでのコスト貢献を分析するために使用します。

マルチステージ貢献キューブは、ステージ属性タグ付きのアカウント間のコスト貢献を分析するために使用します。

マルチステージ貢献キューブ

マルチステージ貢献キューブは、次のような問題に取り組む際に使用します。

- 製品 A の採算が取れない場合に、この製品のコストをその貢献アクティビティと貢献リソースまで戻って調査する。
- 給与リソースで発生し、検品アクティビティから製品 B に割り当てられたコストを特定する。

マルチステージ貢献キューブを使用すると、モデルに定義されたステージ間のコスト貢献を分析できます。各モジュールをステージとして定義することも、ステージ属性を使用することもできます。SAS OLAP Analyzer のキューブエクスプローラビューでは、すべてのステージ間のコスト貢献を視覚的に追跡できます。

リソース貢献キューブは、コストが最初に入力されたアカウントから、他のアカウントにコストを割り当てない最終アカウントまでのコスト貢献を分析するために使用します。

シングルステージ貢献キューブは、割り当てレベルを 1 つ前に戻ってコスト貢献を分析するために使用します。

他のソフトウェアでのキューブの使用

Cognos PowerPlay

Cognos PowerPlay で SAS Activity-Based Management キューブを開くには、Cognos オンラインドキュメント *OLAP Server Connection Guide* を参照してください。“Connect to Microsoft SQL Server OLAP Services”章に、手順と概念が詳細に説明されています。

SAS Activity-Based Management 管理者は、モデルごとにモデル ID を指定できます。手順は、“SAS Activity-Based Management Installation Checklist”を参照してください。

Cognos ドキュメントで解決できない問題については、各支社の SAS テクニカルサポートにお問合せください。

Microsoft Excel

Microsoft Excel にキューブをエクスポートして、データを変更、印刷、保存できます。

キューブの作成

1. キューブを作成するモデルを開きます。
2. **モデル** ⇒ **キューブ作成**を選択します。キューブ作成ダイアログボックスが開きます。

3. 使用するキューブ設定を選択します。1 つのキューブ設定から 1 つのキューブが作成されます。

“[キューブ設定の作成](#)” (369 ページ)を参照してください。

4. 1 つの期間/シナリオ関連付けか、または**すべて選択**を選択します。
5. 表示するエラーメッセージと警告メッセージの数を選択します。
6. **行数**をクリックして、作成するキューブの行数を調べます。これにより、キューブの作成にかかる時間を予測できます。(作成前に必ず行数を調べる必要があるわけではありません。)

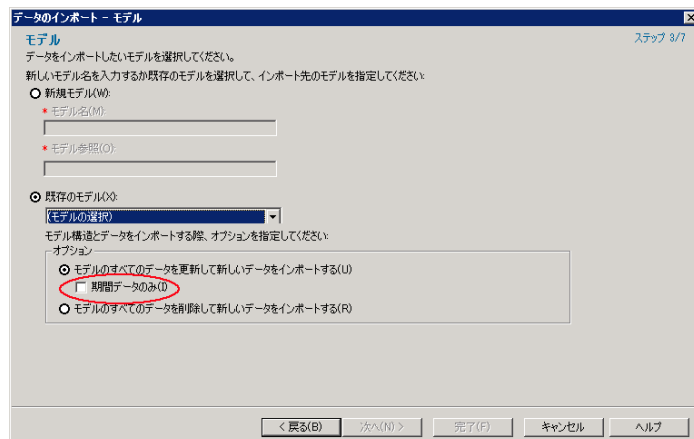
インクリメンタルキューブ作成

キューブを作成する際、既存のキューブに含まれるすべての期間とシナリオの関連付けに対して、次の期間/シナリオの関連付けは再作成されなくなりました。

- キューブにすでにその期間/シナリオの関連付けが含まれており、
 - キューブの前の作成以降、その期間/シナリオの関連付けが変更されていない
- したがって、作成済みの期間が再作成されないで、キューブの作成がより迅速になります。

インクリメンタルキューブ作成をサポートするため、SAS Activity-Based Management では、インポートウィザードに新しい**期間データのみ**オプションが追加されました。この

オプションを使用すると、モデルの変更された期間のみ(新しい期間など)インポートできます。



期間データのみを選択すると、期間データを含むこれらのステージングテーブルのみがインポートウィザードに表示され、ここからインポート対象を選択できます。



ステージングテーブルは、期間データまたは構造データが含まれているかどうかによって区別されます。期間データは、期間/シナリオの関連付けごとに個別に保存されるモデルデータです。構造データは、期間/シナリオの関連付けに依存しないモデルデータです。構造データは、すべての期間/シナリオの関連付けに共通するデータです。

次の表は、期間データを含むステージングテーブルと、構造データを含むステージングテーブルを示したものです。

期間データ	構造データ
Account	Dimension
Assignment	DimensionMember
CurrencyRate	DimensionLevel

期間データ	構造データ
ExternalUnit	DimensionOrder
EnteredCostElement	Driver
PerformanceMeasure	Model
ValueAttributeAssociation	ValueAttributes
ValueAttributePeriodicDef	Period
DimensionalAttributeAssociation	PeriodLevel
	Scenario
	Scenariolevel

以前作成されたモデルのキューブを作成する際、SAS Activity-Based Management によって、キューブ全体を再作成する必要があるのか、それとも、新規または変更された期間のみ作成する必要があるのか判断されます。キューブの作成時に、インクリメンタル作成を行うかどうかを指定する必要はありません。SAS Activity-Based Management によって判断されます。

注: Microsoft Analysis Services をキューブに使用している場合、インクリメンタルキューブ作成は Microsoft SQL Server Enterprise または Microsoft SQL Server Developer を使用している場合のみ可能です。Microsoft SQL Server Standard を使用している場合は、インクリメンタルキューブ作成は行うことができません。

注: SAS OLAP をキューブに使用している場合、インクリメンタルキューブ作成は特定の環境下で行うことはできません。SAS OLAP ではキューブ内の期間/シナリオを削除、更新できないためです。たとえば、ある期間/シナリオを含むキューブを作成し、その後にモデル内でこの期間/シナリオを変更した場合、同じキューブを再作成するには、新しい期間/シナリオを追加してキューブ全体を再作成する必要があります。以前に作成された期間/シナリオは削除も更新もできないためです。SAS OLAP を使用してキューブを作成する場合、SAS Activity-Based Management でインクリメンタルキューブ作成が使用できるかどうか、キューブ全体を再作成する必要があるかどうか判断されます。

注: NO_NWAY オプション、NONUPDATEABLE オプションのいずれかを使用して作成される SAS OLAP のキューブは、インクリメンタル作成を行うことはできません。“[SAS OLAP のキューブオプション](#)” (375 ページ) を参照してください。詳細については、SAS OLAP Server: User's Guide (<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/olap/index.html>) の The OLAP Procedure を参照してください。

注: インクリメンタルキューブ生成の実装により、キューブの作成に Microsoft Analysis Services を使用している場合、以前のリリースの SAS Activity-Based Management で保存された OLAP ビューは SAS Activity-Based Management 7.2 では使用できなくなりました。これは、保存ビューが MDX クエリで、クエリに埋め込まれている期間名が現在は正しくないためです。

キューブへの数値属性の挿入

シングルステージ貢献キューブに数値属性を挿入する方法は、リソース貢献キューブまたはマルチステージ貢献キューブに数値属性を挿入する方法と異なります。

シングルステージ貢献キューブ

シングルステージ貢献キューブに数値属性を挿入するには、次の操作を行います。

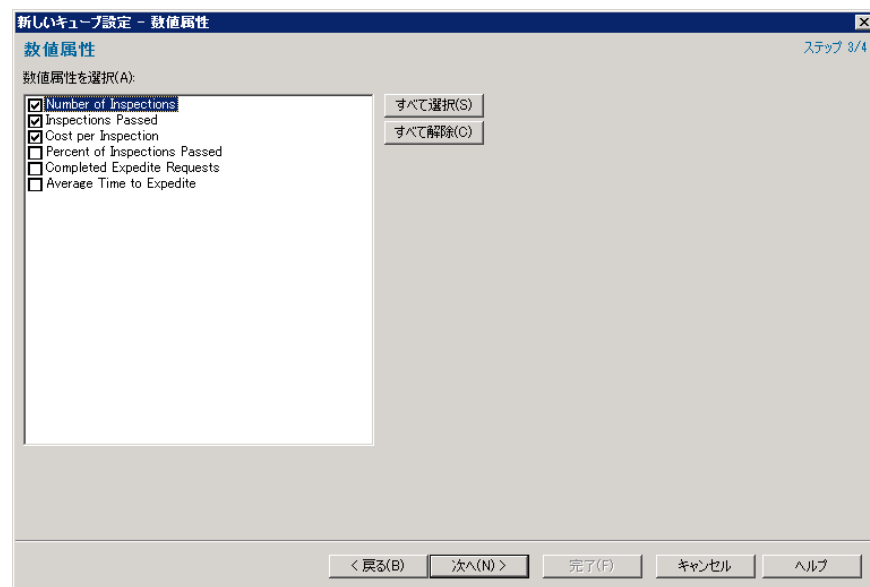
1. モデルモードで、**モデル>プロパティ**を選択します。
2. **キューブ内の属性**タブを選択します。
3. キューブに挿入する数値属性を選択します。

シングルステージ貢献キューブを作成すると、選択した数値属性がキューブに挿入されます。

リソース貢献キューブとマルチステージ貢献キューブ

リソース貢献キューブまたはマルチステージ貢献キューブに数値属性を挿入するには、次の操作を行います。

1. キューブ設定ウィザードの数値属性ダイアログに移動します。



2. キューブに挿入する数値属性を選択します。

リソース貢献キューブまたはマルチステージ貢献キューブを作成すると、選択した数値属性がキューブに挿入されます。

新しいキューブ設定にデフォルトで設定される数値属性を選択するには、次の操作を行います。

1. モデルモードで、**モデル>プロパティ**を選択します。
2. **キューブ内の属性**タブを選択します。

3. そのモデルの新しいキューブ設定にデフォルトで設定される数値属性を選択します。

モデルプロパティで選択した属性は、新しいキューブ設定に自動的に選択され、作成されるキューブに挿入されます。ただし、キューブを作成する前に、キューブ設定で属性の選択を解除して他の属性を選択できます。

関連項目:

[“キューブ設定: 数値属性の選択” \(378 ページ\)](#)

キューブの内部名の表示

SAS Activity-Based Management の代わりに、SAS Enterprise Guide、SAS Web Report Studio、SAS OLAP Cube Studio のいずれかを使用して、作成されたキューブを表示できます。SAS 以外のサードパーティツールを使用して、キューブとそのファクトテーブルを表示することもできます。ファクトテーブルはデータベースに保存され、キューブは OLAP サーバーに保存されています。ファクトテーブルまたはキューブを開くには、内部名が必要です。

注: SAS Activity-Based Management 以外のプログラムを使用して、SAS Activity-Based Management で作成されたキューブを変更した場合、SAS Activity-Based Management のキューブ内部の表示に影響する可能性があります。

ファクトテーブルまたはキューブの内部名を表示するには、次の操作を行います。

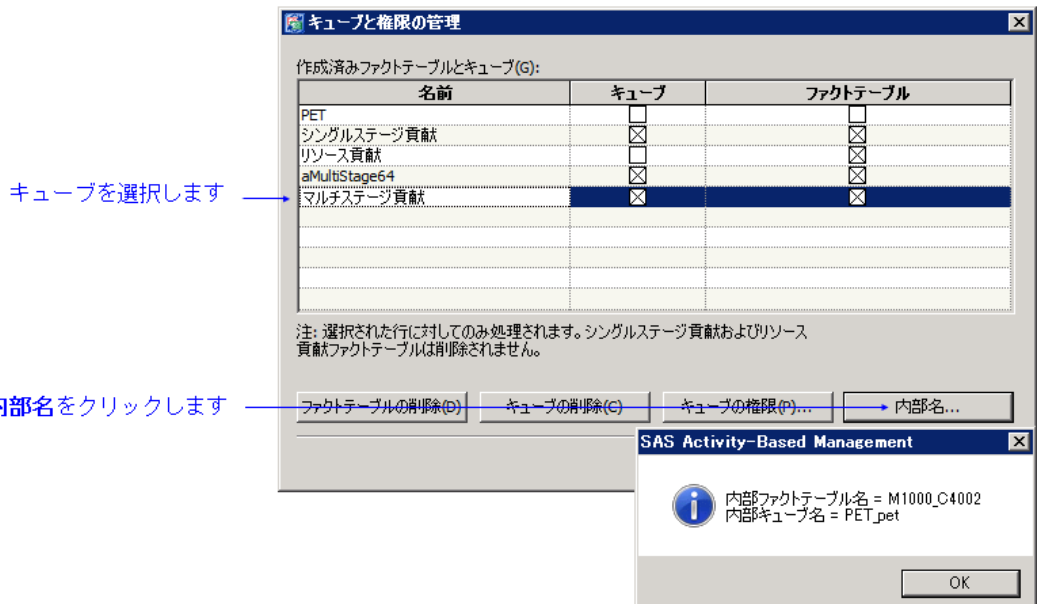
1. 内部名を表示するファクトテーブルまたはキューブが含まれるモデルを開きます。
2. **モデル** ⇒ **キューブと権限の管理** を選択します。

キューブと権限の管理ダイアログボックスが開きます。

3. 内部名を表示するファクトテーブルまたはキューブを選択します。

注: 一度に 1 行のみ選択できます。

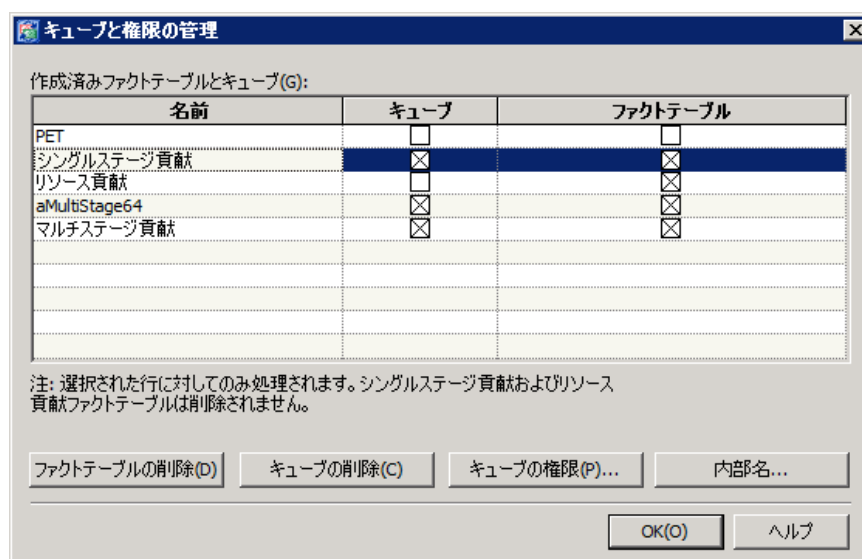
4. **内部名** をクリックします。ダイアログボックスが開いて、内部名が表示されます。



キューブまたはファクトテーブルの削除

1. キューブまたはファクトテーブルを削除するモデルを開きます。
2. **モデル** ⇒ **キューブと権限の管理**を選択します。

キューブと権限の管理ダイアログボックスが開きます。



3. 削除するキューブまたはファクトテーブルを選択します。
注: キューブまたはファクトテーブルは、一度に 1 つのみ削除できます。
4. **削除**をクリックします。

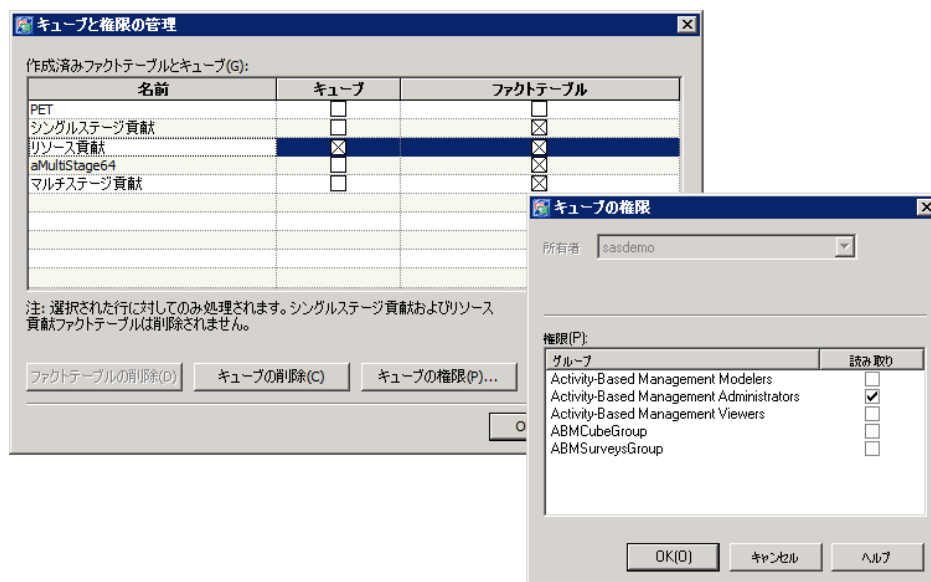
キューブの権限の管理

キューブの作成後に、キューブの所有者の変更、キューブへの読み取りアクセス権限の追加や削除を行えます。

キューブの権限を管理するには、次の操作を行います。

1. 権限を管理するキューブのモデルを開きます。
2. **モデル** ⇒ **キューブと権限の管理**を選択します。

キューブと権限の管理ダイアログボックスが開きます。



3. 権限を変更するキューブを選択します。
注: キューブは、一度に1つのみ変更できます。
4. **権限**をクリックします。**権限**ダイアログボックスが開きます。
5. グループに読み取りアクセス権限を追加、削除できます。グループのメンバはすべて、そのグループに選択した権限を継承します。

15 部

OLAP 分析

40 章	
分析ワークスペースの使用	445
41 章	
方法	455

40 章

分析ワークスペースの使用

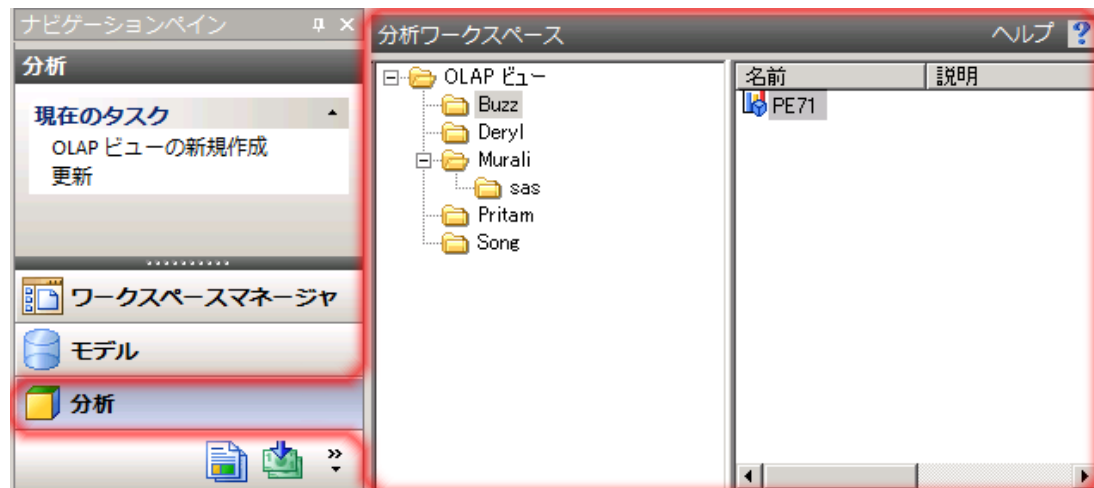
分析ワークスペース	445
分析ワークスペースについて	446
分析ワークスペースの表示	446
OLAP ビューを開く	446
OLAP ビューの削除	447
情報の並べ替え	447
OLAP モード	447
OLAP モードについて	447
OLAP モードの表示	447
OLAP ビューを開く	447
モデルとキューブを開く	448
OLAP ビュー	448
OLAP ビューについて	448
ビューの保存	448
キューブの使用	449
OLAP Analyzer ビュー	449
OLAP Analyzer ビューについて	449
OLAP Analyzer ビューの操作	450
OLAP Analyzer ビューの表示	450
OLAP ビューの保存	450
OLAP ウィンドウの表示設定の変更	450
キューブビューマネージャの表示/非表示	451
ビューエディタを開く	451
MDX エディタを開く	451
キューブのエクスポート	451
OLAP ビューの印刷	451
OLAP ビューに名前を付けて保存ダイアログボックス	451
OLAP ビューに名前を付けて保存ダイアログボックスについて	451
OLAP ビューに名前を付けて保存ダイアログボックスの表示	451
OLAP ビューの保存	452
キューブコンテキストの変更ダイアログボックス	452
キューブコンテキストの変更ダイアログボックスについて	452
キューブコンテキストの変更ダイアログボックスの表示	452
SAS OLAP の制約	452

分析ワークスペース

分析ワークスペースについて

分析ワークスペースでは、OLAP ビューを開くことができます。

注: 権限によっては、機能を使用できません。



フォルダのリストと OLAP ビューのリストには、ワークスペースマネージャのサーバーエリアの OLAP ブランチが表示されます。

分析ワークスペースの表示

次のどちらかの操作を行います。

- OLAP ビューが開かれていない場合は、ナビゲーションペインの分析



をクリックします。

- OLAP ビューが開かれている場合は、ツールバーの分析ワークスペースへ移動アイコン



をクリックします。

OLAP ビューを開く

1. 左側のフォルダのリストから、フォルダを選択します。
2. 右側の OLAP ビューのリストから、ビューをダブルクリックします。

注: JAWS スクリーンリーダープログラムにより HTML ページの入力フィールドがロックされ、データが入力できない場合があります。JAWS 使用中にこの問題が発生した場合、Alt+N を押してスクリーン入力を再度有効化してください。

OLAP ビューの削除

OLAP ビューを選択して、キーボードの Delete キーを押します。

注: 権限によっては、削除できません。

情報の並べ替え

1. 次で並び替えるリンクをクリックします。
メニューが表示されます。
2. オプションを選択します。次のオプションの条件があります。

名前	OLAP ビューの名前
キューブ	OLAP ビューで使用するキューブの名前
モデル	OLAP ビューで使用するモデルの名前
日付と時刻	OLAP ビューの作成日時

関連項目:

[“OLAP モード” \(447 ページ\)](#)

OLAP モード

OLAP モードについて

OLAP モードでは、OLAP ビューのキューブを使用してデータを分析できます。

OLAP モードの開始時に OLAP ビューが選択されていない場合、OLAP ビューが表示されます。

OLAP モードの表示

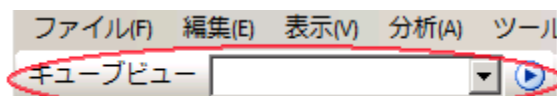
ナビゲーションペインの分析




をクリックします。

OLAP ビューを開く


1. キューブビューメニューから、既存の OLAP ビューを選択します。



注: OLAP ビューを開いていない場合、分析ワークスペースから OLAP ビューを開きます。

2.  をクリックします。

モデルとキューブを開く

1. モデルメニューから、モデルを選択します。
2. キューブメニューから、事前定義されたキューブを選択します。
3.  をクリックします。

関連項目:

- “分析ワークスペース” (445 ページ)
- “OLAP ウィンドウの表示設定の変更” (456 ページ)
- “OLAP ビューを開く” (456 ページ)
- “OLAP ビューが開かれている状態から OLAP ビューを開く” (457 ページ)

OLAP ビュー

OLAP ビューについて

OLAP は、意思決定支援ソフトウェアの作成に使用される技術です。OLAP を使用すると、多次元ビューや階層に要約されたデータを迅速に分析できます。予期されるクエリをその実行前に多次元ビューや階層に要約するため、SAS Activity-Based Management の OLAP ツールは、従来のデータベースアクセスツールを超えるパフォーマンスが提供されます。データの要約に必要なリソース集約型の計算の多くは、クエリのサブミット前に完了しています。

OLAP ビューは、キューブやモデルなど、分析ワークスペースへのキューブの表示を管理する情報の集合です。

ビューの保存

OLAP ビューを保存するには、次の操作を行います。

1. 分析ワークスペースに移動します。
2. OLAP ビューを開きます。
3. **現在の OLAP ビューを保存または新規 OLAP ビューに保存** をクリックします。



OLAP ビューが保存されたら、分析ワークスペースから開きます。

OLAP ビューを保存すると、次がすべて保存されます。

- キューブ
- モデル
- OLAP ビューのレイアウト
- OLAP ビューのコンテンツ

分析中にグリッドビュー、チャートビュー、キューブエクスプローラビューに加えた変更は、他のタブを表示して OLAP ビューに戻った場合でも、セッション中は保持されます。ただし、SAS Activity-Based Management を終了したり、グリッドビュー、チャートビュー、キューブエクスプローラビューを終了したりすると変更は失われます。

変更を後でも使用できるようにするには、OLAP ビューを保存します。ただし、ウィンドウの位置やウィンドウの状態は保存されません。

キューブの使用

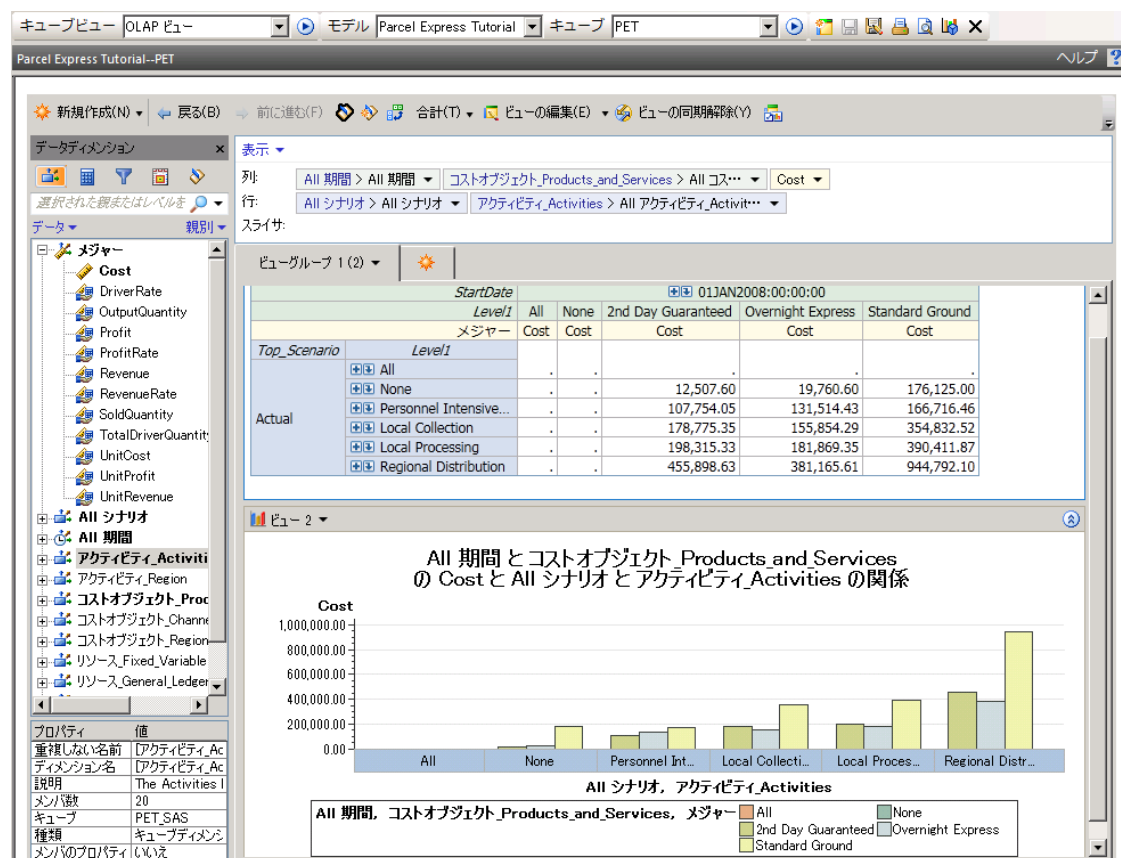
OLAP ビューにキューブを表示しようとする、次の事情でキューブを使用できないことがあります。

- 現在、別のユーザーがキューブを再作成している。
- 保存した OLAP ビューの作成に使用したキューブが削除されている。

OLAP Analyzer ビュー

OLAP Analyzer ビューについて

OLAP Analyzer ビューには、SAS OLAP Analyzer が埋め込まれます。OLAP Analyzer では、OLAP ビューを作成して、ディメンションインターセクションのメジャーを調査できます。また、グリッドビュー、チャートビュー、キューブエクスプローラビューを使用してディメンションとメジャーを分析できます。



注: OLAP Analyzer 操作時にヘルプを参照するには、F1 を押してください。

選択する事前定義のキューブによって、使用できるディメンションとメジャーや、実行できる分析の種類が決定されます。

注: モデルは、モデルのキューブを作成すると、モデルメニューに表示されます。

OLAP Analyzer ビューの操作

データは、必要に応じて 1 つまたは 2 つのウィンドウに表示できます。

選択したウィンドウとそのウィンドウに表示される情報の種類によって、使用できる OLAP ボタンが異なります。

OLAP Analyzer ビューの表示

OLAP 分析ビューで OLAP ビューを開きます。

OLAP ビューの保存

分析 ⇒ グラフの種類 ⇒ <グラフの種類> を選択します。

OLAP ウィンドウの表示設定の変更

グラフの表示

分析 ⇒ グラフの種類 ⇒ <グラフの種類> を選択します。

キューブエクスプローラビューの表示

分析 ⇨ キューブビュー ⇨ 新規作成 ⇨ キューブエクスプローラを選択します。

行と列の切り替え

分析 ⇨ ピボットを選択します。

テーブルビューとグラフビューの両方が更新されます。

キューブビューマネージャの表示/非表示

分析 ⇨ ビュー マネージャを選択します。

チェックマークは、ビューマネージャの表示を示します。

ビューエディタを開く

ビューの編集 ⇨ ビューエディタで編集を選択します。

ビューエディタでは、ビューにディメンションとメジャーをドラッグアンドドロップして、OLAP ビューを作成できます。

MDX エディタを開く

編集 ⇨ MDX エディタを使用して編集を選択します。

MDX ステートメントの編集ダイアログボックスが表示されます。

キューブのエクスポート

分析 ⇨ Excel にエクスポートを選択します。

Microsoft Excel が開いて、エクスポートされたデータが表示されます。

OLAP ビューの印刷

印刷メニューから、印刷プレビューまたは印刷を選択します。

関連項目:

[“SAS OLAP の制約” \(452 ページ\)](#)

OLAP ビューに名前を付けて保存ダイアログボックス

OLAP ビューに名前を付けて保存ダイアログボックスについて

OLAP ビューに名前を付けて保存ダイアログボックスでは、カスタマイズした OLAP ビューを保存できます。

OLAP ビューに名前を付けて保存ダイアログボックスの表示

OLAP ビューを開いて、分析 ⇨ ビューに名前を付けて保存を選択します。

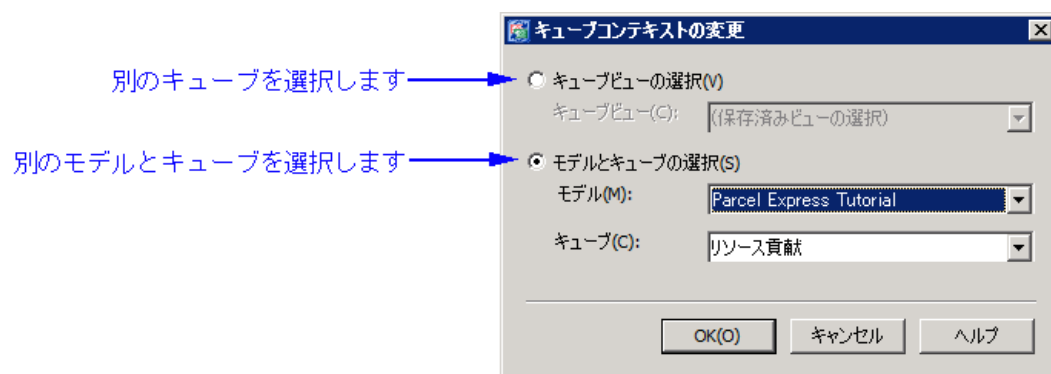
OLAP ビューの保存

1. 名前を入力します。
2. (オプション)説明を入力します。

キューブコンテキストの変更ダイアログボックス

キューブコンテキストの変更ダイアログボックスについて

このダイアログを使用して、現在開いているモデルに表示する別のキューブまたは別のモデルのキューブを選択します。



キューブコンテキストの変更ダイアログボックスの表示

分析 ⇒ キューブコンテキストの変更を選択します。

注: このメニュー項目は、キューブビューが開いている分析ワークスペースから使用できます。

SAS OLAP の制約

9.2 SAS OLAP Server でレポートを表示する場合、次の制約があります。

- 大部分の OLAP 名には、32 文字まで使用できます。集計名には 256 文字まで使用できます。名前は、SAS で処理する際に大文字に変換されます。
- レベル名は、キューブの中で固有である必要があります。
- メジャー名は、キューブの中で固有である必要があります。
- ディメンション数: 最大 128 (最小 1)。
- 1 つのディメンションのレベル数: 最大 19。
- 1 つのキューブのレベル数: 最大 256。

- 1 つのキューブのメジャー数: 最大 1024。
- 固有の名前の最大長は 32767 文字です。
- MDX 文字列のサイズに制限はありませんが、極度に長い文字列はパフォーマンスに影響します。

41 章 方法

SAS OLAP Analyzer の使用	455
OLAP ビューの作成	456
OLAP ウィンドウの表示設定の変更	456
OLAP ビューを開く	456
OLAP ビューが開かれている状態から OLAP ビューを開く	457

SAS OLAP Analyzer の使用

SAS Activity-Based Management では、SAS OLAP Analyzer を使用してキューブを表示します。SAS OLAP Analyzer を使用して、グリッドビュー、チャートビュー、キューブエクスプローラビューでディメンションとメジャーを分析できます。選択する事前定義のキューブによって、使用できるディメンションとメジャーや、実行できる分析の種類が決定されます。データは、必要に応じて 1 つまたは 2 つのウィンドウに表示できます。選択したウィンドウとそのウィンドウに表示される情報の種類によって、使用できる OLAP ツールバーボタンが異なります。

注: モデルは、モデルのキューブを作成すると、OLAP Analyzer のモデルドロップダウンリストに表示されます。

通常、SAS OLAP Analyzer は SAS Enterprise Guide のコンポーネントの一部ですが、システムにインストールされていない場合があります。(SAS Enterprise Guide がインストールされていない場合でも、SAS Activity-Based Management の一部として SAS OLAP Analyzer がインストールされています。) SAS OLAP Analyzer のヘルプには、SAS Enterprise Guide のヘルプが含まれます。

SAS OLAP Analyzer のヘルプを SAS Activity-Based Management のヘルプメニューから開けるようになりました。

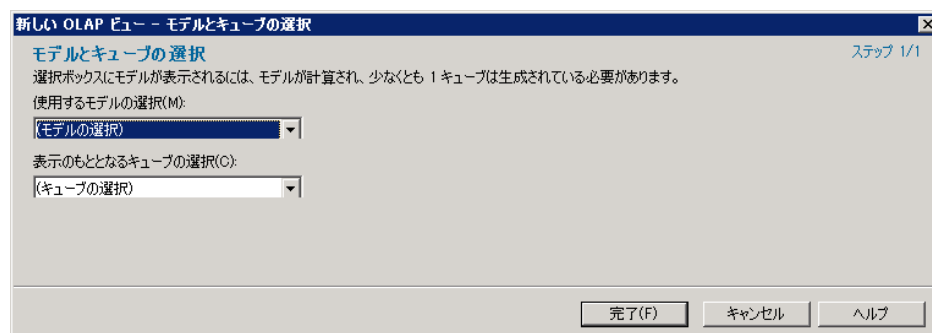
関連項目:

- “OLAP Analyzer ビュー” (449 ページ)
- “SAS OLAP の制約” (452 ページ)

OLAP ビューの作成

1. **ファイル** ⇒ **新規作成** ⇒ **OLAP ビュー**を選択します。

新しい OLAP ビューウィザードが表示されます。



2. **使用するモデルの選択**ドロップダウンリストから、モデルを選択します。
3. **表示のもととなるキューブの選択**ドロップダウンリストから、キューブを選択します。
リストには、作成されたキューブのみ含まれます。
4. キューブに大量のデータが含まれている場合に、OLAP ビューを迅速に作成するには、**デフォルトでディメンションを選択しないオプション**を選択します。

OLAP ウィンドウの表示設定の変更

1. 分析ワークスペースで OLAP ビューを開きます。
2. まず、ウィンドウのタイトルバーをクリックします。
 - a. グリッドを表示するには、**OLAP** ⇒ **グリッド**を選択します。
 - b. グラフを表示するには、**OLAP** ⇒ **グラフ** ⇒ **<グラフの種類>**を選択します。
 - c. 分解ツリーを表示するには、**OLAP** ⇒ **分解ツリー**を選択します。
 - d. パースペクティブビューを表示するには、**OLAP** ⇒ **パースペクティブ**を選択します。

OLAP ビューを開く

OLAP ビューが開かれていない状態で OLAP モードを開始する場合、分析ワークスペースから OLAP ビューを開くことができます。**フォルダ**のリストと **OLAP ビュー**のリストには、ワークスペースマネージャのサーバーエリアの OLAP ブランチが示されます。

1. **フォルダ**のリストから、フォルダを選択します。
2. **OLAP ビュー**のリストから、ビューを選択します。

OLAP ビューが開かれている状態から OLAP ビューを開く

OLAP ビューが分析ワークスペースで開かれている場合に、別のビューを開くには、次のうちいずれかの操作を行います。

- キューブビュードロップダウンリストから OLAP ビューを選択します。



- 分析ワークスペースへ移動ボタンをクリックして、別の OLAP ビューを選択します。

分析ワークスペースへ移動します



16 部

貢献クエリ

42 章

貢献ワークスペース 461

42 章

貢献ワークスペース

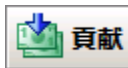
貢献ワークスペース	461
貢献ワークスペースの表示	461
注意事項	462
リソースからコストオブジェクトへの貢献に関するクエリ	463
アクティビティモジュール経由の貢献に関するクエリ	464
リソースからアクティビティモジュールへの貢献に関する貢献クエリ	465
下位レベルへのドリルダウン	466
PROC ABC ステートメントの取得	467

貢献ワークスペース

貢献クエリ機能により、モデル内のコストフローを迅速かつ簡単に表示できます。また、キューブを作成することなく、貢献をクエリできるようになりました。このため、キューブのナビゲートが不要なため、クエリの速度が著しく向上しました。貢献ビューを使用して、「迅速なクエリ」を実行できます。

貢献ワークスペースの表示

1. 貢献ビューを開くには、次のいずれかの操作を行います。

- ナビゲーションペインの貢献  をクリックします。

注: 貢献アイコンは、Contributions Server がインストールされている場合のみ表示されます。

新しいクエリをクリックします。

- ファイル ⇒ 新規作成 ⇒ 貢献クエリを選択します。

2. クエリするモデルを選択します。

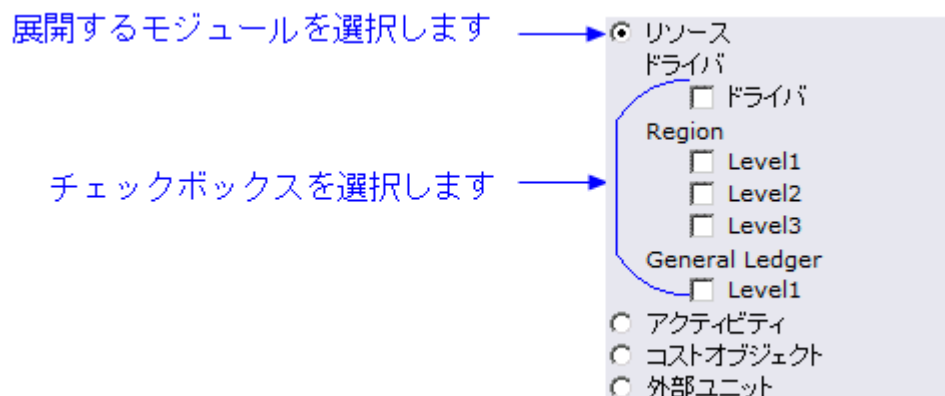
注: モデルは計算済みである必要があります。

3. 使用する期間/シナリオ関連付けを選択します。

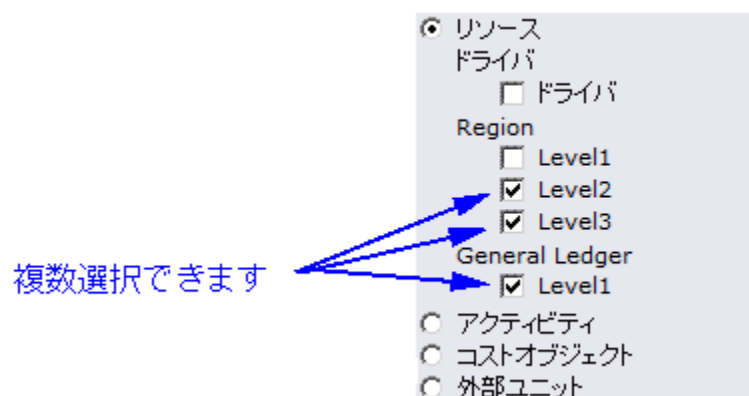
4. 完了をクリックします。貢献ビューが開きます。

注意事項

- 展開するモジュール(リソース、アクティビティ、コストオブジェクト、外部ユニット)を選択します。モジュールを展開しただけでは、モジュール内のディメンションは選択されません。モジュール内のディメンションを選択するには、チェックボックスを選択します。

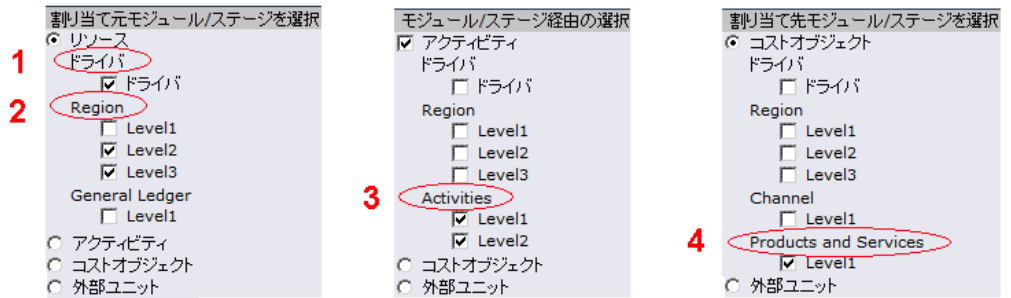


- モジュールは1つのみ選択できますが、モジュールのディメンションは複数選択できます。



注: 一度に1つのみモジュールをアクティブにできます。チェックボックスが選択されたまま、モジュールは折りたたまれますが、折りたたまれているモジュールはアクティブではありません。

- 選択できるのは10ディメンションまでですが、ディメンション内のレベルはいくつでも選択できます(貢献ビューでは、ドライバはディメンションとしてみなされます)。次の図にディメンションのカウント方法を分かりやすく示します。この図では、4つのディメンションと6つのディメンションレベルが選択されています。



元レベルと先レベルは、少なくとも1つつづ選択する必要があります。

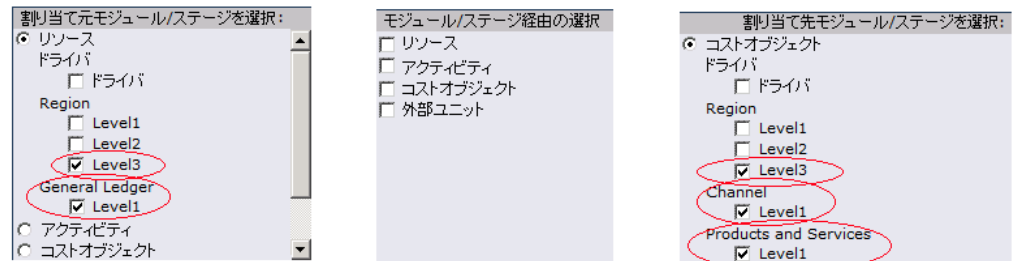
クエリのサンプル

- “リソースからコストオブジェクトへの貢献に関するクエリ” (463 ページ)
- “アクティビティモジュール経由の貢献に関するクエリ” (464 ページ)
- “リソースからアクティビティモジュールへの貢献に関する貢献クエリ” (465 ページ)
- “下位レベルへのドリルダウン” (466 ページ)
- “PROC ABC ステートメントの取得” (467 ページ)

リソースからコストオブジェクトへの貢献に関するクエリ

次のクエリは、Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデルを使用します。このクエリでは、地域/チャネル別に、3つの製品への各地域の賃金、営業費および設備費の貢献が表示されます。

1. 割り当て元モジュールでリソースをクリックして、次を選択します。
 - **Region** ⇒ **Level3**
 - **General Ledger** ⇒ **Level1**
2. 割り当て先モジュールでコストオブジェクトをクリックして、次を選択します。
 - **Region** ⇒ **Level3**
 - **Channel** ⇒ **Level1**
 - **Products and Services** ⇒ **Level1**



3. **結果を取得**をクリックします。結果テーブルに、地域/チャネル別に、3つの製品への賃金、営業費および設備費の貢献が表示されます。(次の図のテーブルは、画面に合わせて分割され、上下に並べられています。)

		3:Beaverton 1:None	3:Beaverton 1:None	3:Beaverton 1:None	3:Beaverton 1:Drop Box	3:Beaverton 1:Drop Box
		1:2nd Day Guarant	1:Overnight Expre	1:Standard Grounc	1:None	1:2nd Day Guarant
3:Beaverton	1:Wages	334096.90	450652.53	733953.01	14387.71	54837.86
3:Beaverton	1:Operating Expen	48498.77	77840.48	105372.13	754.63	7614.15
3:Beaverton	1:Equipment Exper	10740.49	17585.06	23259.46	325.80	1727.42
3:Eugene	1:Wages	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3:Eugene	1:Operating Expen	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3:Eugene	1:Equipment Exper	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

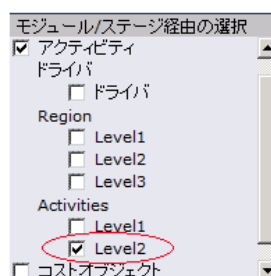
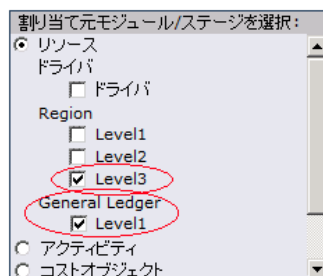
		3:Beaverton 1:Drop Box	3:Beaverton 1:Drop Box	3:Beaverton 1:Walk In	3:Beaverton 1:Walk In	3:Beaverton 1:Walk In
		1:Overnight Expre	1:Standard Grounc	1:None	1:2nd Day Guarant	1:Overnight Expre
3:Beaverton	1:Wages	28432.91	132294.68	81530.34	166752.70	271523.56
3:Beaverton	1:Operating Expen	4711.49	18173.92	4276.26	25503.97	44293.78
3:Beaverton	1:Equipment Exper	1082.30	4111.16	1846.20	5839.10	10240.37
3:Eugene	1:Wages	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3:Eugene	1:Operating Expen	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3:Eugene	1:Equipment Exper	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

		3:Beaverton 1:Standard Grounc	3:Beaverton 1:Commercial Pick	3:Beaverton 1:Commercial Pick	3:Beaverton 1:Commercial Pick	3:Beaverton 1:Commercial Pick
		1:None	1:2nd Day Guarant	1:Overnight Expre	1:Standard Grounc	1:Standard Grounc
3:Beaverton	1:Wages	459698.70	23979.51	119556.03	181816.30	203687.27
3:Beaverton	1:Operating Expen	62121.46	1257.72	16799.40	30467.46	28314.35
3:Beaverton	1:Equipment Exper	14183.29	543.00	3786.49	6967.08	6362.79
3:Eugene	1:Wages	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3:Eugene	1:Operating Expen	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3:Eugene	1:Equipment Exper	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

アクティビティモジュール経由の貢献に関するクエリ

次のクエリは、Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデルを使用します。このクエリでは、チャンネル別に、3つの製品に対するアクティビティによる GL 勘定科目の貢献が表示されます。

- 割り当て元モジュールでリソースをクリックして、次を選択します。
 - Region ⇒ Level3
 - General Ledger ⇒ Level1
- 経由モジュールでアクティビティをクリックして、次を選択します。
 - Activities ⇒ Level2
- 割り当て先モジュールでコストオブジェクトをクリックして、次を選択します。
 - Channel ⇒ Level1
 - Products and Services ⇒ Level1



4. **結果を取得**をクリックします。結果テーブルに、チャンネル別に、3つの製品に対するアクティビティ(経路列のアクティビティは黄色で表示)による GL 勘定科目の貢献が表示されます。(テーブルが大きいため、一部のみ表示します。)

経路アクティビティ

			1:Drop Box 1:None	1:Drop Box 1:2nd Day Guarant	1:Drop Box 1:Overnight Expre	1:Drop Box 1:Standard Groun	1:Walk	
3:Beaverton	1:Wages	2:Expedite Packagi	0.00	5696.76	765.91	5005.55	0.00	
3:Beaverton	1:Wages	2:Move to Warehou	0.00	9858.22	6344.05	24945.94		
3:Beaverton	1:Wages	2:Sort	0.00	17881.67	11112.45	45957.64		
3:Beaverton	1:Wages	2:Inspect	0.00	5548.67	4079.04	13128.73		
3:Beaverton	1:Wages	2:Air Distribution	0.00	18765.40	18950.16	41221.29		
3:Beaverton	1:Wages	2:Land Distribution	0.00	26080.27	6077.78	76768.05		
3:Beaverton	1:Operating Expen	2:Resolve Custom	754.63	195.92	87.07	471.64	42	
3:Beaverton	1:Operating Expen	2:Expedite Packagi	0.00	551.62	74.16	484.69		
3:Beaverton	1:Operating Expen	2:Move to Warehou	0.00	447.46	287.95	1132.28		
3:Beaverton	1:Operating Expen	2:Sort	0.00	2551.19	1585.42	6556.80		
3:Beaverton	1:Operating Expen	2:Inspect	0.00	1670.25	1227.87	3951.99	0.00	
3:Beaverton	1:Operating Expen	2:Air Distribution	0.00	3468.91	3503.06	7620.03	0.00	
3:Beaverton	1:Operating Expen	2:Land Distribution	0.00	3229.11	752.51	9504.97	0.00	
3:Beaverton	1:Equipment Expen	2:Resolve Custom	325.80	84.58	37.59	203.62	19	
3:Beaverton	1:Equipment Expen	2:Expedite Packagi	0.00	116.10	15.61	102.01		
3:Beaverton	1:Equipment Expen	2:Move to Warehou	0.00	117.20	75.42	296.56		
3:Beaverton	1:Equipment Expen	2:Sort	0.00	821.04	510.23	2110.16	0.00	
3:Beaverton	1:Equipment Expen	2:Inspect	0.00	434.18	319.18	1027.31	0.00	
3:Beaverton	1:Equipment Expen	2:Air Distribution	0.00	781.31	789.00	1716.27	0.00	
3:Beaverton	1:Equipment Expen	2:Land Distribution	0.00	701.60	163.50	2065.19	0.00	
3:Eugene	1:Wages	2:Resolve Custom	42029.85	1	4849.41	2626.24	5379	
3:Eugene	1:Wages	2:Expedite Packagi	0.00		5910.74		0.00	

リソースからアクティビティモジュールへの貢献に関する貢献クエリ

先モジュールは、コストオブジェクトである必要はありません。次のクエリは、Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデルを使用します。このクエリでは、アクティビティに対する各地域の GL 勘定科目の貢献が表示されます。

- 割り当て元モジュールでリソースをクリックして、次を選択します。
 - Region ⇒ Level3
 - General Ledger ⇒ Level1
- 割り当て先モジュールでアクティビティをクリックして、次を選択します。
 - Activities ⇒ Level2

割り当て元モジュール/ステージを選択:

リソース

ドライバ

Region

☐ Level1

☐ Level2

☒ Level3

General Ledger

☒ Level1

☐ アクティビティ

☐ コストオブジェクト

モジュール/ステージ経由の選択

☐ リソース

☐ アクティビティ

☐ コストオブジェクト

☐ 外部ユニット

割り当て先モジュール/ステージを選択:

アクティビティ

ドライバ

Region

☐ Level1

☐ Level2

☐ Level3

Activities

☐ Level1

☒ Level2

☐ コストオブジェクト

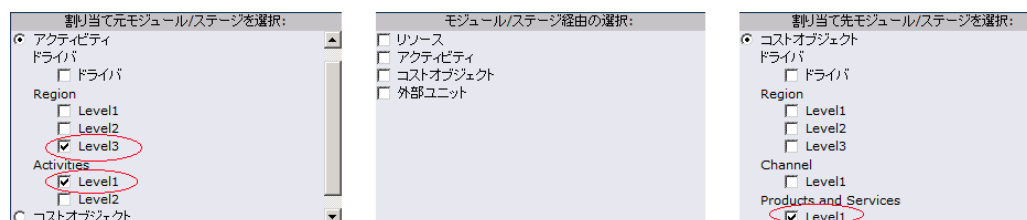
- 結果を取得**をクリックします。結果テーブルに、アクティビティに対する各地域の GL 勘定科目の貢献が表示されます。

		2:Resolve Custom	2:Expedite Packagi	2:Move to Warehou	2:Sort	2:Inspect	2:Air Distribution	2:Land Distribution
3:Beaverton	1:Wages	119897.56	79931.71	319726.83	577517.64	183084.68	687030.62	729769.95
3:Beaverton	1:Operating Expen	6288.62	7739.84	14512.20	82394.70	55111.93	127002.26	90355.85
3:Beaverton	1:Equipment Expen	2715.00	1629.00	3801.00	26516.86	14326.19	28604.80	19632.06
3:Eugene	1:Wages	112640.00	56320.00	281600.00	546512.59	150186.67	0.00	1222352.59
3:Eugene	1:Operating Expen	7452.50	8710.71	66782.14	152727.86	65330.36	0.00	247577.86
3:Eugene	1:Equipment Expen	1900.00	760.00	3040.00	19039.41	9905.33	0.00	34239.41

下位レベルへのドリルダウン

クエリにより作成されるテーブルは、静的ではありません。選択した表示ディメンションレベルに下位レベルがある場合、作成されたテーブルをクリックすると、次の詳細レベルを表示できます。次の例は、Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル)モデルを使用します。

- 割り当て元モジュールで**アクティビティ**をクリックして、次を選択します。
 - Region** ⇒ **Level3**
 - Activities** ⇒ **Level1**
- 割り当て先モジュールで**コストオブジェクト**をクリックして、次を選択します。
 - Products and Services** ⇒ **Level1**



- 結果を取得**をクリックします。結果テーブルに、製品とサービスに対する、各地域のアクティビティの貢献が表示されます。アクティビティ列は、強調表示されます。

アクティビティ列は強調表示されます

クリックします →

		1:None	1:2nd Day Guarant	1:Overnight Expre	1:Standard Groun
3:Beaverton	1:Personnel Intens	128901.18	70690.53	47860.50	99650.69
3:Beaverton	1:Local Collection	0.00	68142.46	112902.70	156994.87
3:Beaverton	1:Local Processing	0.00	144003.74	245052.30	327675.90
3:Beaverton	1:Regional Distribu	0.00	346676.12	508947.70	826771.72
3:Eugene	1:Personnel Intens	121992.50	37063.51	83653.93	67065.77
3:Eugene	1:Local Collection	0.00	110632.90	42951.60	197837.65
3:Eugene	1:Local Processing	0.00	233086.95	92671.34	417568.50
3:Eugene	1:Regional Distribu	0.00	475001.01	180952.76	848216.08

- アクティビティ列の **1:Local Processing** をクリックすると、レベル 2 にドリルダウンできます。最初の状態では、アクティビティ列にレベル 1 のアクティビティが表示されています。クリックすることで、レベル 2 のアクティビティにドリルダウンします。このとき、テーブル全体がレベル 2 のアクティビティに置き換わります。また、ロールアップアカウントの **1:Local Processing** はここにも表示されています。

上へ 結果を取得 Proc ステートメント生成

ロールアップアカウント →

		1:None	1:2nd Day Guarant	1:Overnight Expre	1:Standard Groun
3:Beaverton	1:Local Processing	0.00	144003.74	245052.30	327675.90
3:Beaverton	2:Sort	0.00	138953.28	222325.25	325150.67
3:Beaverton	2:Inspect	0.00	50034.27	94701.16	107787.36

- 前のテーブルに戻るには、**上へ**をクリックします。

		1:None	1:2nd Day Guarant	1:Overnight Expre	1:Standard Ground
3:Beaverton	1:Personnel Intens	128901.18	70690.53	47860.50	99650.69
3:Eugene	1:Personnel Intens	121992.50	37063.51	83653.93	67065.77
3:Beaverton	1:Local Collection	0.00	68142.46	112902.70	156994.87
3:Eugene	1:Local Collection	0.00	110632.90	42951.60	197837.65
3:Beaverton	1:Local Processing	0.00	144003.74	245052.30	327675.90
3:Eugene	1:Local Processing	0.00	233086.95	92671.34	417568.50
3:Beaverton	1:Regional Distribu	0.00	346676.12	508947.70	826771.72
3:Eugene	1:Regional Distribu	0.00	475001.01	180952.76	848216.08

PROC ABC ステートメントの取得

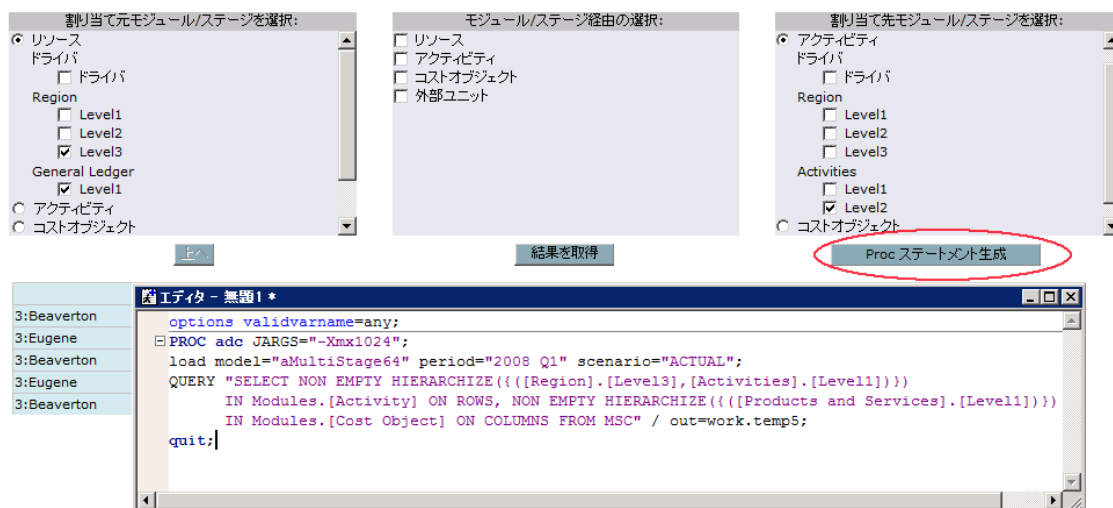
SAS Activity-Based Management では、モデルの計算やキューブのクエリでの内部処理を、ABC プロシジャという形式を利用して、具現化しています。ABC プロシジャを使用して、SAS Activity-Based Management 外でモデルデータをクエリする SAS プログラムを作成できます。

ABC プロシジャを使用するプログラムを簡単に作成するには、貢献タブからクエリを実行します。Proc ステートメント生成をクリックすると、貢献タブでクエリに使用した PROC ABC ステートメントがクリップボードにコピーされます。PROC ABC ステートメントを取得するには、次の操作を行います。

1. クエリを実行します。
2. Proc ステートメント生成をクリックします。
3. SAS エディタ(または任意の ASCII エディタ)に貼り付けます。プログラムは、実行前に自由に変更できます。

次のような画面が表示されます。

注 結果を取得をクリックしてから、Proc ステートメント生成をクリックします。クエリ実行後にクエリオプションを変更しても、結果を取得を再度クリックして異なるクエリを実行するまで、クリップボードにコピーされたステートメントは変更されません。



17 部

インポートとエクスポート

43 章	
モデルデータ	471
44 章	
サーベイデータ	479
45 章	
キューブ設定	487
46 章	
列のレイアウト	489
47 章	
Excel へのモジュールビューのエクスポート	491
48 章	
OLAP ビュー	501
49 章	
レポート	505
50 章	
Easy API	507
51 章	
Information Map のパブリッシュ	513
52 章	
SAS Profitability Management へのビヘイビアのパブリッシュ	519
53 章	
SAS Strategy Management へのパフォーマンスメジャーのパブリッシュ	523

43 章

モデルデータ

モデルデータのインポート	471
データベースまたは XML ファイルからのインポート	471
サーベイデータのインポート	472
データのインポートウィザードを使用した XML ファイルのインポート	472
モデルデータのエクスポート	475
データベース、XML または ZIP ファイルへのエクスポート	475
サーベイデータのエクスポート	476
エクスポートウィザードを使用した XML ファイルへのモデルのアーカイブ	476

モデルデータのインポート

データベースまたは XML ファイルからのインポート

SAS Activity-Based Management でモデルを作成したり、モデルにデータを追加したりするには、モデルモードでデータを対話形式で追加することも、モデルにデータをインポートすることもできます。

ヒント モデルの手動作成は時間がかかりエラーが発生しやすい上、分析時間が削減されるため、データをインポートする方法をお勧めします。

データは、次のソースからインポートできます。

データベース

データベースからのインポートの詳細については、ヘルプメニューから使用可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* を参照してください。最新版は、<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> から入手できます。

XML ファイル

XML ファイルは、SAS Activity-Based Management からエクスポートされた XML ファイルである必要があります。モデルデータのダイレクトインポートに適した形式の XML ファイルを動的に作成することは難しいため、手動作成の XML ファイルはインポートしないようにします。

XML ファイルからモデルをインポートするには、**ファイル** ⇒ **インポート** ⇒ **モデルデータ** を選択して、**XML** あるいは **ZIP ファイル** を選択します。

Oros モデル

Oros モデルを SAS Activity-Based Management にインポートする場合は、SAS テクニカルサポートに問い合わせてください。

関連項目:

[“データのインポートウィザードを使用した XML ファイルのインポート” \(472 ページ\)](#)

サーベイデータのインポート

サーベイデータをインポートするには、次の操作を行います。

1. **ファイル** ⇒ **インポート**を選択します。
2. **サーベイ**を選択します。

インポートの全般情報については、13 章: “Importing” (*SAS Activity-Based Management: Data Administration Guide*)を参照してください。

3. 新しいモデルと既存のモデルのどちらにインポートするかを選択します。

注: 既存のモデルにインポートする場合は、サーベイデータが正しいモデルのものであることを確認します。データが別のモデルのものである場合、インポートによって既存のモデルが破損する可能性があります。

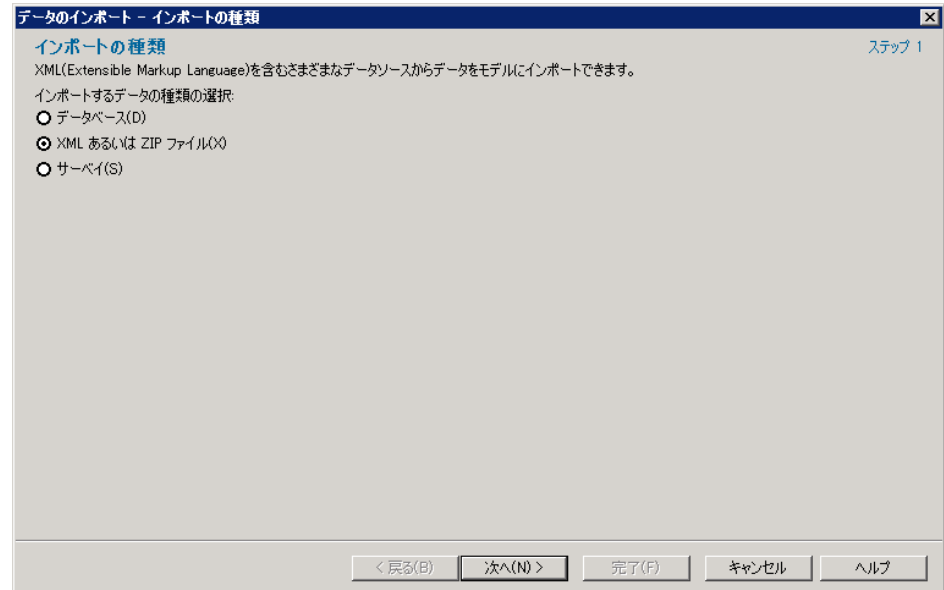
データのインポートウィザードを使用した XML ファイルのインポート

注: このタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

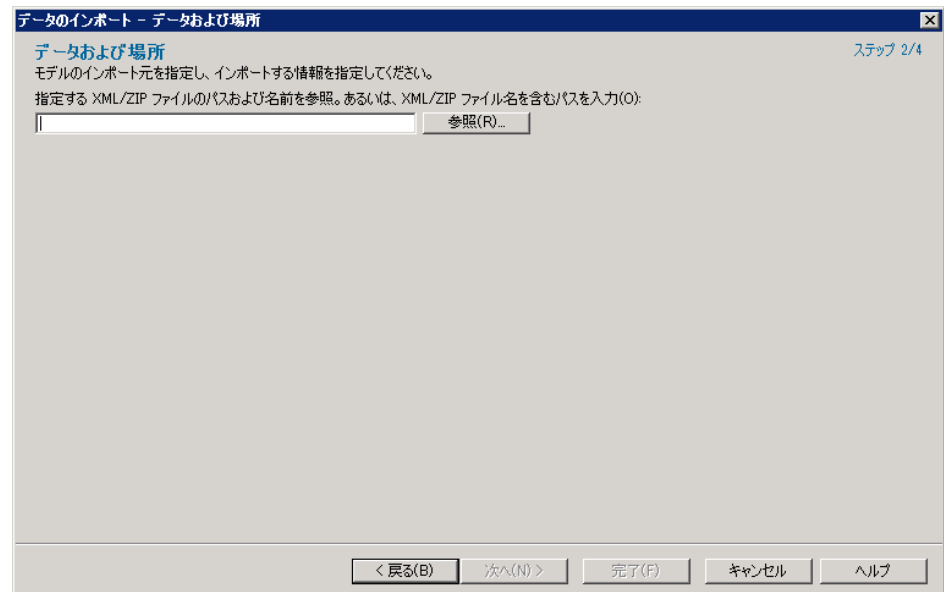
XML ファイルからモデルデータをインポートすると、新しいモデルが作成されます。そのモデルに新しい名前を付けることも、既存のモデルの名前を再利用することもできます。XML ファイルからモデルデータをインポートして、既存のモデルのインクリメンタル更新を行ったり、複数のモデルを 1 つのモデルに結合することはできません。既存のモデルに含まれているすべてのデータは、インポートされた XML ファイルのモデルデータによって削除され、置き換えられます。

1. **ファイル ⇒ インポート ⇒ モデルデータ**を選択します。

データのインポートウィザードが表示されます。



2. **XML ファイルオプション**を選択します。
3. **次へ**をクリックします。



4. XML ファイルへの絶対パス名を入力します。または、**参照(R)...**をクリックします。
5. **次へ**をクリックします。

データのインポート - モデル ステップ 3/4

モデル
データをインポートしたいモデルを選択してください。

新しいモデル名を入力するか既存のモデルを選択して、インポート先のモデルを指定してください。

☒ 新規モデル(W):

* モデル名(M):
[]

* モデル参照(O):
[]

☐ 既存のモデル(X):
Parcel Express Tutorial

注: 選択されたモデルの内容 (すべての期間/シナリオが対象) は、指定された XML あるいはZIP ファイルの内容で置換されるか削除されます。これにより、既存の構造とインポートされた構造の矛盾を防ぎます。

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル ヘルプ

6. XML ファイルを新しいモデルにインポートする場合、次の操作を行います。
 - a. **新しいモデルオプション**を選択します。
 - b. **モデル名**を入力します。
 - c. **モデル参照**を入力します。モデル参照は、パブリックビューで使用されます。
7. XML ファイルを既存のモデルにインポートする場合、次の操作を行います。
 - a. **既存のモデルオプション**を選択します。
 - b. ドロップダウンリストから、モデルを選択します。
8. **次へ**をクリックします。

データのインポート - 要約 ステップ 4/4

要約
指定内容を確認してください。

インポート ファイル種別:
XML/Zip ファイル

ソース:
C:\Program Files\SASHome\86\SASActivityBasedManagementClient\7.2\Samples\Models\Native\Parcel Express Tutorial.xml

テーブル:

モデル:
種類: 新しいモデルにインポートする
名前: Parcel Express Tutorial
参照: PET

☐ 設定に名前を付けて保存(S) ☐ 実行せずに保存(W)

名前(N): [] 説明(D): []

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル ヘルプ

9. インポート要約を確認します。
 10. 変更が必要な情報がある場合は、**戻る**をクリックして、ウィザードの変更が必要なページまで戻ります。
- 指定した情報はすべて保存されます。**次へ**をクリックして、ウィザードを進めます。

11. インポートを簡単に再実行できるようにインポート設定を保存するには、次の操作を行います。
 - a. **設定に名前を付けて保存オプション**を選択します。
 - b. **名前**を入力します。
 - c. **説明**を入力します。
12. **実行せずに保存**を選択して、インポートの実行に関するインポート設定を保存します。
13. **完了**をクリックします。

モデルデータのエクスポート

データベース、XML または ZIP ファイルへのエクスポート

モデルデータは、データベースまたは XML/ZIP ファイルにエクスポートできます。モデルデータの一部分のみエクスポートする場合、データベースにエクスポートする必要があります。XML/ZIP ファイルにエクスポートすると、すべてのモデルデータがエクスポートされます。すべてのモデルデータをエクスポートする場合、データベースにエクスポートすることも、XML/ZIP ファイルにエクスポートすることもできます。

次の表に、モデルデータをエクスポート事例を示します。エクスポート先(データベースまたは XML/ZIP ファイル)が、事例ごとに示されます。

エクスポート事例	エクスポート先
モデルデータをエクスポートしてデータを操作し、同じまたは別のモデルにデータをインポートして戻す	データベース
モデルをアーカイブする	データベース XML ファイル(必要ディスクスペースが少ない)
モデルのアイテムの一部をエクスポートする(他のアイテムはエクスポートしない)	データベース

XML ファイルにモデルデータをエクスポートするには、**ファイル** ⇨ **エクスポート** ⇨ **モデルデータ**を選択して、**XML** あるいは **ZIP ファイル**を選択します。

データベースへのエクスポートについては、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な SAS Activity-Based Management Data Administration Guide を参照してください。

注: ネットワークユーザーが(SAS Activity-Based Management クライアントマシンとは)異なるドメインからクライアントマシンにログインして XML へのエクスポートを行う場合、作業を続行するにはそのユーザーに[ClientInstallpath]\bin フォルダへの書き込み権限を付与する必要があります。

関連項目:

“エクスポートウィザードを使用した XML ファイルへのモデルのアーカイブ” (476 ページ)

サーベイデータのエクスポート

サーベイを行うために、モデルからすべてをエクスポートする必要はありません。サーベイの詳細については、ヘルプメニューからアクセス可能な SAS Activity-Based Management Data Administration Guide を参照してください。または、最新版を <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> にて参照してください。

関連項目:

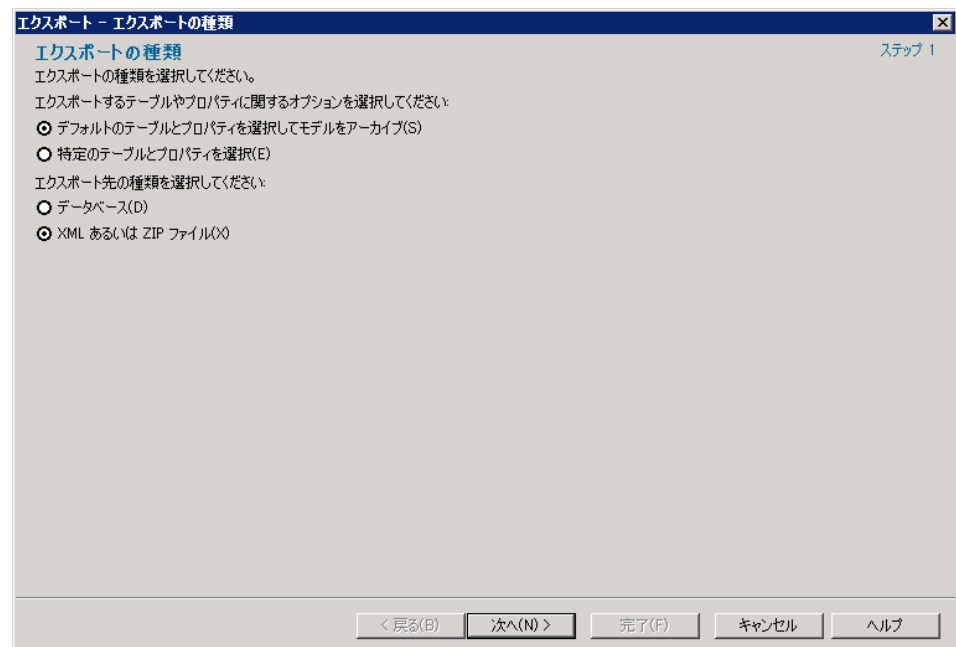
“サーベイデータのエクスポート” (479 ページ)

エクスポートウィザードを使用した XML ファイルへのモデルのアーカイブ

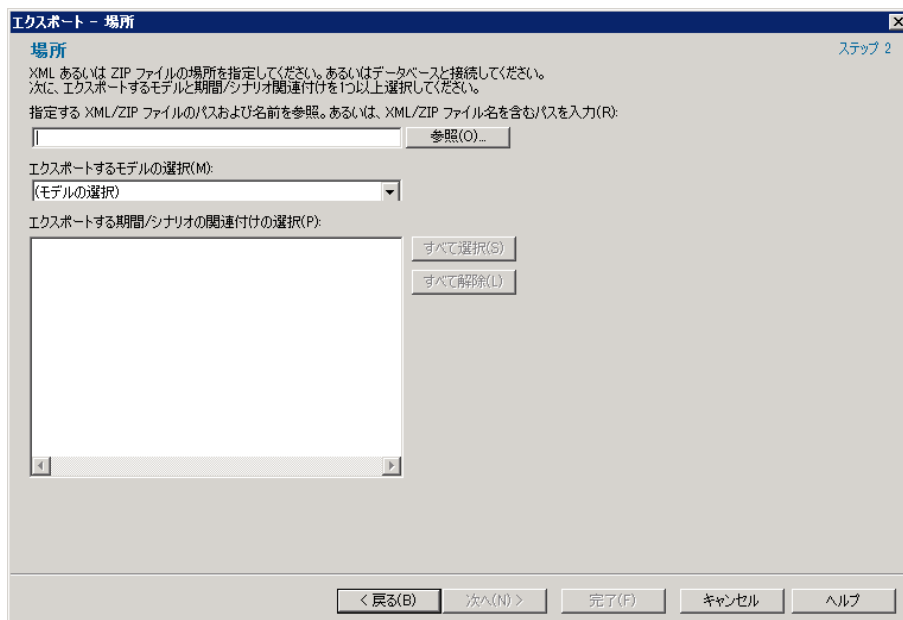
注: このタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

1. モデルが使用可能であることを確認します。
2. **ファイル** ⇒ **モデルデータのエクスポート** を選択します。

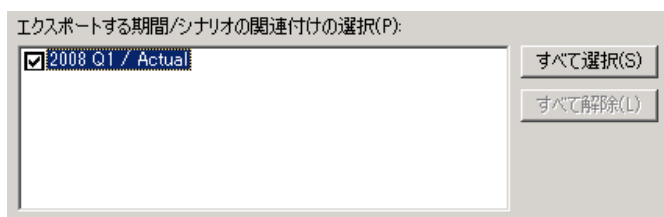
エクスポートウィザードが表示されます。



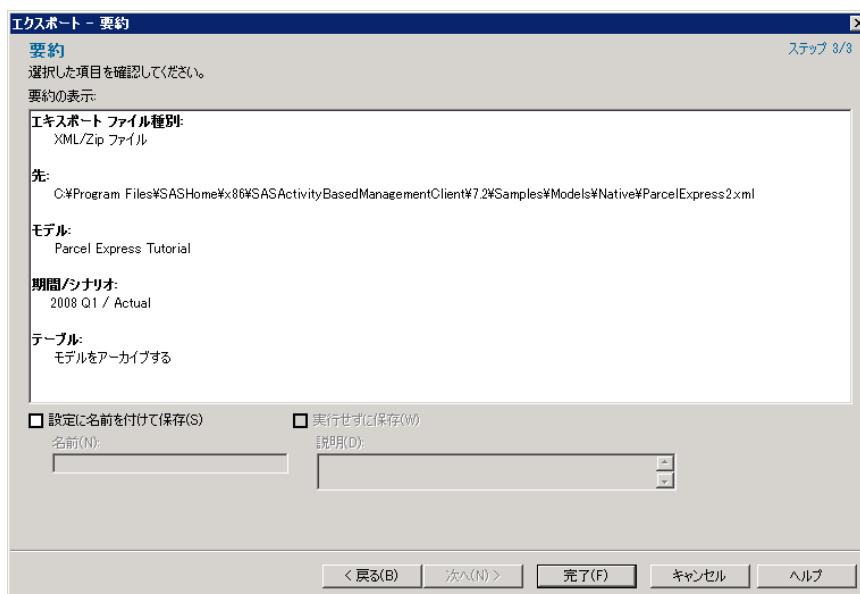
3. **デフォルトのテーブルとプロパティを選択してモデルをアーカイブ** オプションを選択します。
4. **XML ファイル** オプションを選択します。
5. **次へ** をクリックします。



6. XML ファイルへの絶対パス名を入力します。または、**参照(R)...**をクリックします。
7. **エクスポートするモデルの選択**ドロップダウンリストから、モデルを選択します。
8. **エクスポートする期間/シナリオの関連付けの選択**リストから、1 つ以上の期間/シナリオの関連付けの隣にあるチェックボックスを選択します。



9. **次へ**をクリックします。



10. エクスポート要約を確認します。

11. 変更が必要な情報がある場合は、**戻る**をクリックして、ウィザードの変更が必要なページまで戻ります。
指定した情報はすべて保存されます。**次へ**をクリックして、ウィザードを進めます。
12. エクスポートを簡単に再実行できるようにエクスポート設定を保存するには、次の操作を行います。
 - a. **設定に名前を付けて保存オプション**を選択します。
 - b. **名前**を入力します。
 - c. **説明**を入力します。
13. **実行せずに保存**を選択して、エクスポートの実行に関するエクスポート設定を保存します。
14. **完了**をクリックします。

44 章

サーベイデータ

サーベイデータのエクスポート	479
サーベイデータのインポート	484

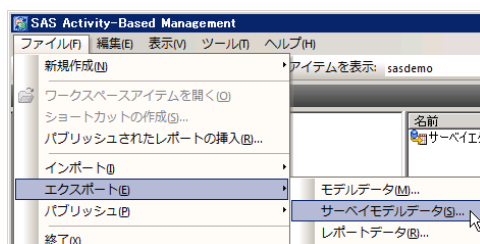
サーベイデータのエクスポート

サーベイを作成するために、モデルからすべてをエクスポートする必要はありません。必要なフィールドのみエクスポートするには、次の操作を行います。

注: 特に説明がない場合、エクスポートウィザードのデフォルトの選択をすべて使用します。

サーベイデータをエクスポートするには、次の操作を行います。“Exporting Model Data to a Database” (*SAS Activity-Based Management: Data Administration Guide* 14 章)も参照してください。“Using the Export Wizard” (*SAS Activity-Based Management: Data Administration Guide* 14 章)も参照してください。

1. **ファイル** ⇒ **エクスポート** ⇒ **サーベイデータ**を選択します。



2. モデルの選択ウィンドウで、次の操作を行います。

- a. エクスポートするモデルを選択します。
- b. 次のいずれかを選択します。
 - **新しいサーベイモデル**を選択し、新しいサーベイモデル名を入力します。

この名前を使用して、サーベイの操作時にモデルにアクセスします。

注: 同一モデルのサーベイデータを、モデルの期間ごとに一度など、複数回エクスポートできます。この場合、エクスポートごとに異なるサーベイモデル名を使用します。

- **既存のサーベイモデル**を選択して、既存のサーベイモデル名を選択します。

このオプションを選択すると、データベースのサーベイモデルに対するステージングテーブルが上書きされます。

- c. エクスポートする期間/シナリオ関連付けを選択します。
- d. 次へをクリックします。

3. エクスポートするテーブルを選択します。

注: 必須テーブルは選択解除できません。

	割り当て元テーブル	割り当て先テーブル
<input checked="" type="checkbox"/>	*Account	WMXXXX_Account
<input checked="" type="checkbox"/>	*Assignment	WMXXXX_Assignment
<input checked="" type="checkbox"/>	*EnteredCostElement	WMXXXX_EnteredCostElement
<input checked="" type="checkbox"/>	*Driver	WMXXXX_Driver
<input checked="" type="checkbox"/>	*ExternalUnit	WMXXXX_ExternalUnit
<input type="checkbox"/>	ValueAttribute	WMXXXX_ValueAttribute
<input type="checkbox"/>	ValueAttributeAssociation	WMXXXX_ValueAttribAssn

数値属性をサーベイする場合、次の 2 つのテーブルも選択する必要があります。

ValueAttribute テーブル

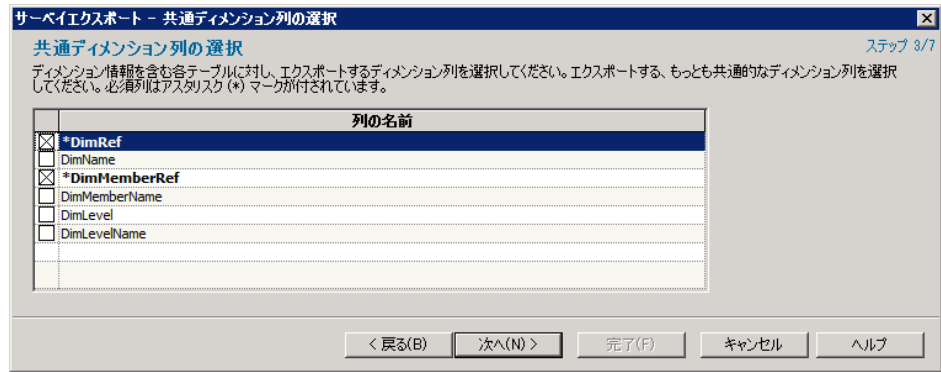
“ValueAttribute table” (SAS Activity-Based Management: Data Administration Guide 16 章)を参照してください。

ValueAttributeAssociation テーブル

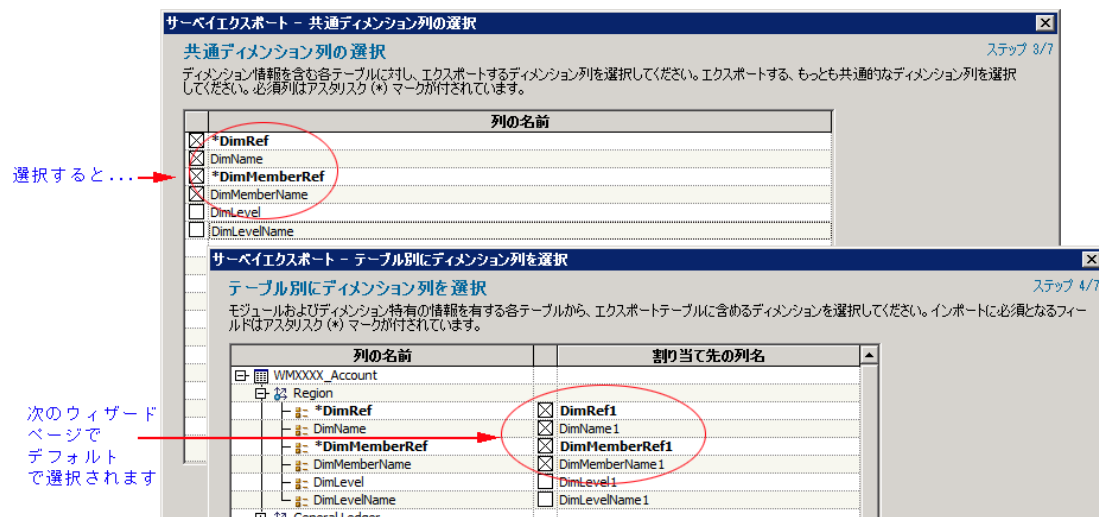
“ValueAttributeAssociation table” (SAS Activity-Based Management: Data Administration Guide 16 章)を参照してください。

4. 共通ディメンション列の選択を選択します(つまり、各テーブルで必ずエクスポートする列を選択します)。

注: 必須列は選択解除できません。



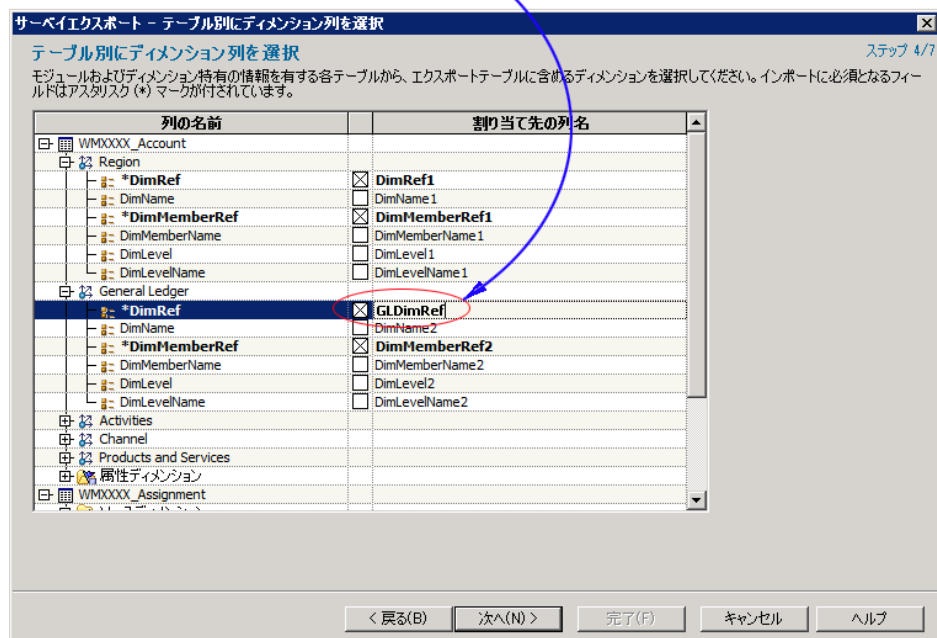
選択した列は、次のエクスポートウィザードページでデフォルトで選択されます。ただし、この選択は次のページで変更できます。つまり、選択したフィールドを選択解除することも、選択解除したフィールドを選択することもできます。



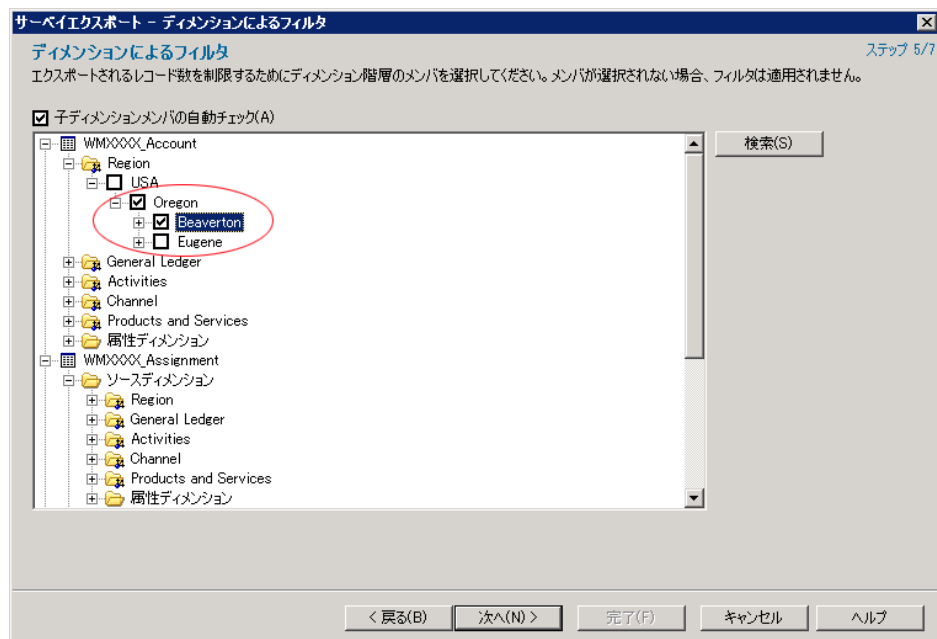
5. テーブルごとにエクスポートするディメンション列を選択します。

注: ターゲット列の名前を上書きできます。

ターゲット名を上書きできます



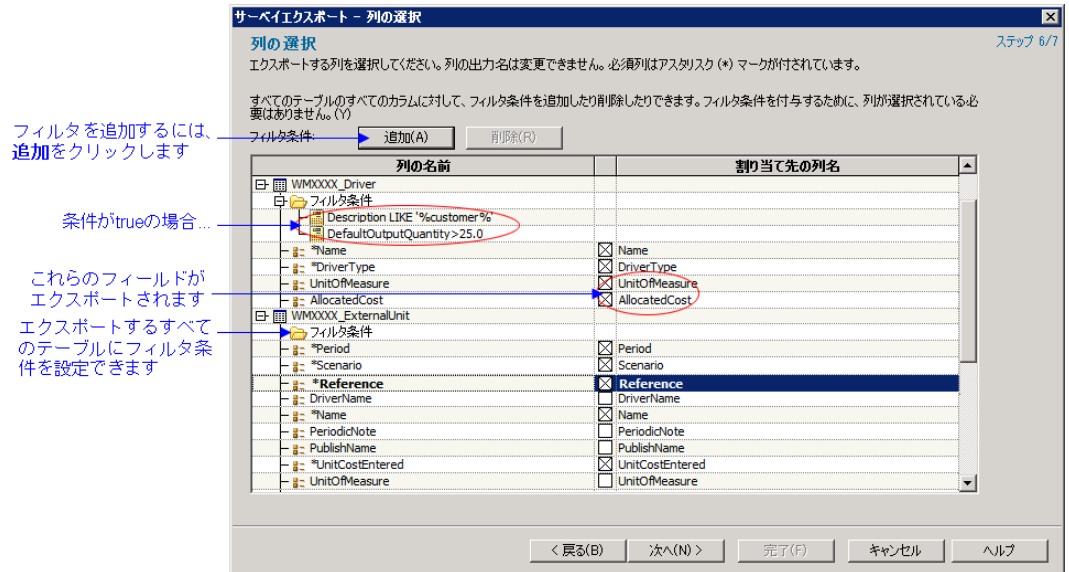
6. ディメンションに基づくフィルタを適用します(つまり、テーブルごとにエクスポートするディメンションメンバを選択します)。



7. テーブルごとにエクスポートする列を選択します。

追加をクリックして、フィルタを追加して、エクスポートする列を絞り込みます。選択した列の中で、フィルタに一致する列のみがエクスポートされます。つまり、エクスポートされる列は、次の両方を満たす必要があります。

- 選択されている
- テーブルに設定されたどのフィルタにも一致する



すべてのデフォルトの選択に加えて、次の列が選択されていることを確認します。

Account テーブル

DriverName
Name
OutputQuantityUE
Revenue
SoldQuantity
PeriodicNote (オプション - Account Notes がある場合のみ)

Assignment テーブル

Source Accounts.DriverName
DriverQuantityFixed

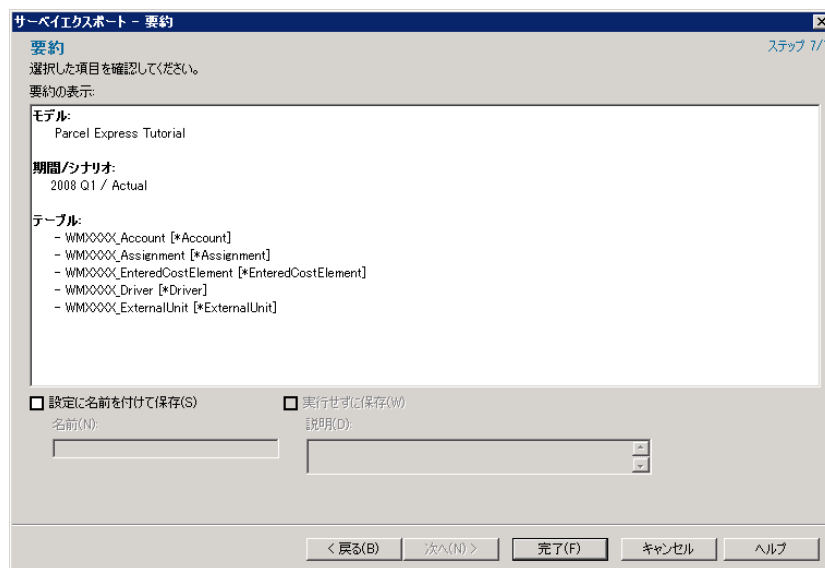
EnteredCostElement テーブル

EnteredCost

ExternalUnit テーブル

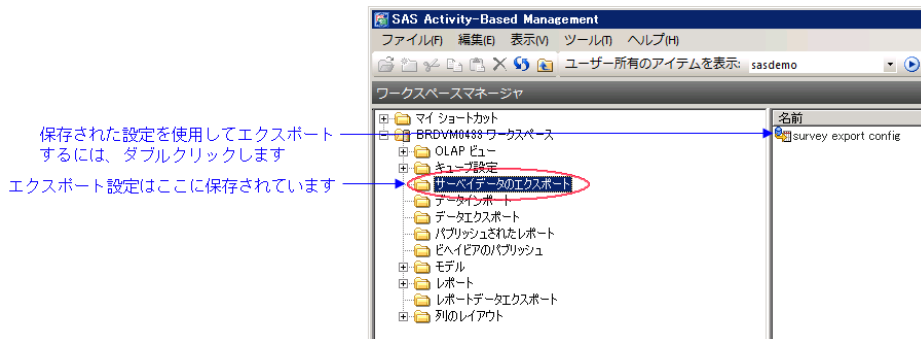
UnitCostEntered
Name
PeriodicNote (オプション - ExternalUnit Notes がある場合のみ)

8. 要約を確認して、完了をクリックします。



設定に名前を付けて保存を選択して、選択を保存します。これらの選択は、WSTデータエクスポートフォルダに保存されます。

保存したオプションを使用してエクスポートを開始するには、保存した設定をダブルクリックします。オプションは、エクスポートウィザードの使用時に変更できます。

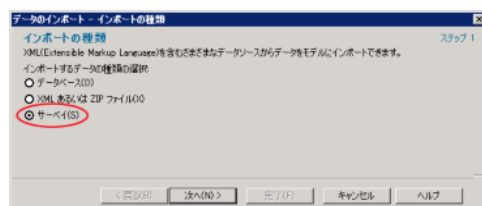


サーベイデータのインポート

サーベイを行うために、モデルからすべてをインポートする必要はありません。必要なフィールドのみインポートするには、次の操作を行います。

サーベイデータをインポートするには、次の操作を行います。

1. **ファイル** ⇒ **インポート** ⇒ **モデルデータ**を選択します。
2. **サーベイ**を選択して、**次へ**をクリックします。



3. データのインポート - モデルウィンドウで、サーベイデータを更新する既存のモデルを選択します。サーベイデータからモデルを新規作成できません。
 - a. サーベイデータを更新する既存のモデルを選択します。
注: サーベイデータからモデルを新規作成できません。
 - b. インポートするサーベイデータを選択します。
注: サーベイデータが正しいモデルのものであることを確認します。データのモデルがデータがエクスポートされたモデルと異なる場合、インポートによって既存のモデルが破損する可能性があります。[ステップ 1 \(479 ページ\)](#)を参照してください。
 - c. 期間インポートを行うかどうかを選択します。
期間インポートでは、モデルの変更された期間のみインポートできます。詳細については、SAS Activity-Based Management User's Guide の“Incremental Cube Generation”のセクションを参照してください。
 - d. 次へをクリックします。

4. データのインポート - テーブルの選択ウィンドウで、インポートするサーベイデータからテーブルを選択し、更新するモデルのテーブルにマップします。

インポートするテーブルは、あらかじめエクスポートされているテーブルに関連します。[ステップ 5 \(480 ページ\)](#)を参照してください。

5. データのインポート - オプションウィンドウで、インポートする各テーブルに、アカウントをディメンションングネチャで識別するかどうかを選択します。

注: インポートはここでの選択に影響されずに動作するため、次へのみクリックすることも可能です。

データのインポート - オプション ステップ 4/6

オプション

インポートのオプションを指定してください。ディメンション シグネチャ情報あるいはアカウント参照番号のいずれかによりアカウントを特定できます。以下のテーブルのそれぞれに対し、アカウント特定にディメンション シグネチャ情報を使用するかしないかを指定してください。

ディメンションシグネチャ情報からアカウントを特定する場合は、このテーブルの少なくとも1組のディメンション参照とディメンションバ参照フィールドマッピングが必要です。

テーブル	ディメンションシグネチャが必要です
WM1001_Account	<input checked="" type="checkbox"/>
WM1001_Assignment	<input checked="" type="checkbox"/>
WM1001_EnteredCostElement	<input checked="" type="checkbox"/>
WM1001_ExternalUnit	<input checked="" type="checkbox"/>
WM1001_ValueAttribAssn	<input checked="" type="checkbox"/>

有効なディメンションシグネチャ情報が提供されていない場合は、モデル内にアカウントがない場合でも SAS Activity-Based Management は自動的にアカウントを作成します。

☒ ディメンションシグネチャを利用してアカウントを自動生成(G)

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル ヘルプ

6. データのインポート - 列のマッピングウィンドウで、インポートする列を選択します。

インポートする列は、あらかじめエクスポートされている列に関連します。ステップ 6 (480 ページ)を参照してください。ステップ 7 (481 ページ)も参照してください。

データのインポート - 列のマッピング ステップ 5/6

列のマッピング

入力テーブルからフィールドを選び、出力テーブルのフィールドにマッピングしてください。入力テーブルに値が入っていないフィールドにデフォルト値を設定することもできます。

ソーステーブルから選択した列とターゲットテーブルから選択した列をマッピングします。必須のフィールドはアスタリスク (*) マークが付されているので、マッピングしてください。必要に応じて、必要なディメンション列を選択します。

ディメンション(D):

	割り当て元	割り当て先の列名	デフォルト
<input type="checkbox"/>	Id		
<input checked="" type="checkbox"/>	ModuleType	*ModuleType	
<input type="checkbox"/>	ModuleId		
<input checked="" type="checkbox"/>	Period	*Period	
<input checked="" type="checkbox"/>	Scenario	*Scenario	
<input checked="" type="checkbox"/>	Reference	*Reference	
<input checked="" type="checkbox"/>	DriverName	DriverName	
<input checked="" type="checkbox"/>	Name	Name	
<input checked="" type="checkbox"/>	OutputQuantityUE	OutputQuantityUE	
<input checked="" type="checkbox"/>	OutputQuantity	OutputQuantity	
<input type="checkbox"/>	OutputQuantityUE	OutputQuantityUE	
<input type="checkbox"/>	OutputQuantity	OutputQuantity	
<input type="checkbox"/>	WM1001_Account	WM1001_Assignment	

[追加] ボタンをクリックして、存在しない列をマッピングに追加することもできます。追加した列に対して、デフォルト値を指定することができます。

追加(A) 削除(D)

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル ヘルプ

7. 選択内容を確認して、完了をクリックします。

データのインポート - 要約 ステップ 6/6

要約

指定内容を確認してください。

インポート ファイル情報:

サーベイ

ソース:

接続文字列

テーブル:

WM1001_Account → Account
WM1001_Assignment → Assignment
WM1001_EnteredCostElement → EnteredCostElement
WM1001_ExternalUnit → ExternalUnit
WM1001_ValueAttribute → ValueAttribute
WM1001_ValueAttributeAssn → ValueAttributeAssociation

☐ 設定に名前を付けて保存(S) ☐ 実行せずに保存(W)

名前(N):

説明(D):

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル ヘルプ

45 章

キューブ設定

キューブ設定のインポート	487
キューブ設定のエクスポート	487

キューブ設定のインポート

1. ワークスペースマネージャに移動します。
2. **ファイル** ⇨ **インポート** ⇨ **キューブ設定**を選択します。キューブ設定のインポートダイアログボックスが開きます。
3. インポートするファイルとインポートオプションを選択します。

インポートするキューブ設定の名前の変更

インポートするキューブ設定と同じ名前のキューブ設定が存在する場合、インポートするキューブ設定の名前を変更します。複数のキューブ設定をインポートする場合、このオプションはインポートするすべてのキューブ設定に適用されます。

既存のキューブ設定を置き換る

インポートするキューブ設定と同じ名前のキューブ設定が存在する場合、既存のキューブ設定をインポートするキューブ設定で置き換えます。

重複するキューブ設定をインポートしない

インポートするキューブ設定と同じ名前のキューブ設定が存在する場合、重複するキューブ設定をインポートしません。既存のキューブ設定をそのまま残します。

4. **完了**をクリックします。

キューブ設定のエクスポート

1. ワークスペースマネージャに移動します。
2. **ファイル** ⇨ **エクスポート** ⇨ **キューブ設定**を選択します。キューブ設定のエクスポートダイアログボックスが開きます。

3. エクスポートするキューブ設定と次のエクスポートオプションを選択します。

子の自動チェック

このチェックボックスを選択すると、選択したフォルダ内のキューブ設定が再帰的に選択されます。

注: このオプションは、このオプションの選択後に選択するフォルダにのみ適用されます。すでに選択されているフォルダのサブフォルダは選択されません。

フォルダを含む

このチェックボックスを選択すると、エクスポートしたファイルのフォルダの情報が格納されます。そのため、キューブ設定のインポート時に、フォルダを再作成できます。

注: このオプションは、エクスポートディレクトリにフォルダを作成するのではなく、インポート時にフォルダを再作成できるようにエクスポートファイルにフォルダ情報を格納します。

次の場所にエクスポート

エクスポートファイルのパスと名前を選択します。

注: エクスポートするフォルダやキューブ設定を複数選択しても、エクスポートファイルは 1 つしか作成されません。

4. **完了**をクリックします。

46 章

列のレイアウト

列のレイアウトのインポート	489
列のレイアウトのエクスポート	489

列のレイアウトのインポート

注: このタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

1. **ファイル** ⇨ **インポート** ⇨ **列のレイアウト**を選択します。
列のレイアウトのインポートウィザードが表示されます。
2. ウィザードの手順に従います。

列のレイアウトのエクスポート

このタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

1. **ファイル** ⇨ **エクスポート** ⇨ **列のレイアウト**を選択します。
列のレイアウトのエクスポートウィザードが表示されます。
2. ウィザードの手順に従います。

47 章

Excel へのモジュールビューのエク
スポート

Excel へのモジュールビューのエクспорт	491
要約	491
モジュール全体のエクспорт	491
展開行のみエクспорт	492
特定のエクспорт行の選択	493
他の機能	494
制約	498

Excel へのモジュールビューのエクспорт

要約

印刷可能な形式のモジュールの階層構造、およびモデルに影響せずに簡単に変更できるモジュールが必要な場合、モジュールを Excel にエクспортできます。エクспортするモジュールビューの特定の行を選択することも、モジュール全体をエクспортすることもできます。

注: エクспортされたスプレッドシートを SAS Activity-Based Management にインポートし直すことはできません。

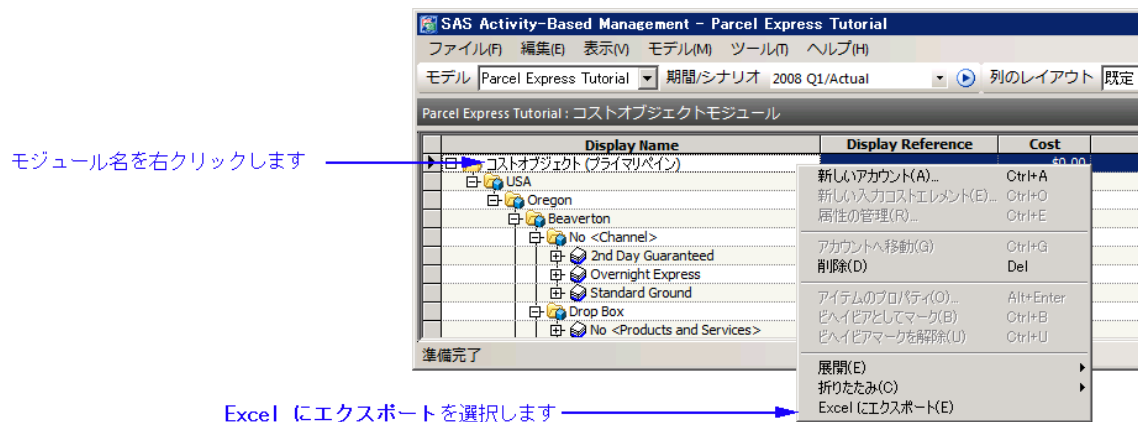
モジュール全体のエクспорт

モジュール全体の展開行をエクспортするには、次の操作を行います。

1. モジュールビューのプライマリペインを選択します。
2. 行を選択せずに、モジュール名(リソース、アクティビティ、コストオブジェクト、外部ユニット)を右クリックします。

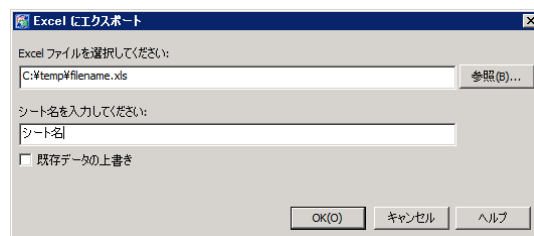
注: 複数行が選択されている場合、選択されている行のみエクспортされます。

3. Excel にエクспортを選択します。



Excel にエクスポートダイアログボックスが表示されます。

4. 作成する Excel ファイル名とシート名を指定し、既存データを上書きするかどうかを指定します。
 - Excel ファイルは、存在しない場合、指定した名前のシートを含めて作成されます。
 - 注: 完全なパスとファイル名を指定する必要があります。
 - 注: 既存の Excel ファイルの Sheet1 を置き換える場合を除いて、シートに Sheet1 という名前を指定しないでください。
 - Excel ファイルがすでに存在し、指定した名前のシートが含まれていない場合、新しいシートが既存のファイルに追加されます。



5. OK をクリックします。

展開行のみエクスポート

エクスポートの実行時には展開行のみエクスポートされます。そのため、モジュールビューの表示内容がスプレッドシートの内容になります。

ただし、エクスポートの実行時にすべての行またはすべての列が表示される必要はありません。

- 画面に表示しきれない数の展開行がある場合、一部の展開行が表示されないことがあります。このとき、表示されていない行を表示するには、上下にスクロールする必要があります。
- 画面に表示しきれない数の列がある場合、一部の列が表示されないことがあります。このとき、表示されていない列を表示するには、左右にスクロールする必要があります。

エクスポートは、展開された階層のすべての行と列レイアウトのすべての列をスクロールすることなく表示できる、無限に大きな画面があるかのように動作します。

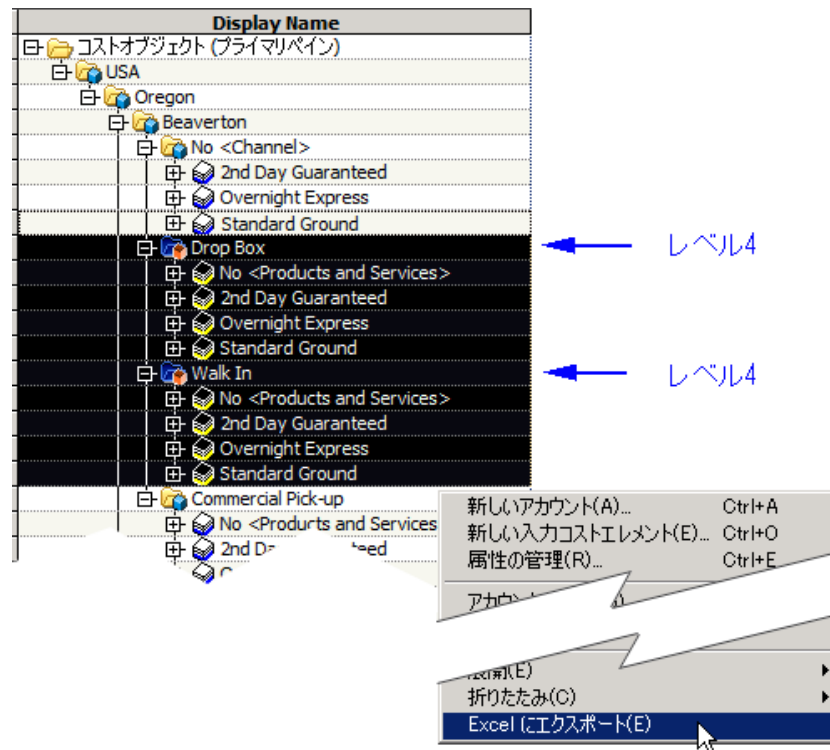
注: 現在の列レイアウトに追加した列は、その追加列を含む列レイアウトを保存しなくてもエクスポートされます。

注: モジュールにアカウントがない場合、エクスポートは実行されません。

特定のエクスポート行の選択

モジュールビューのプライマリペインの行のサブセットを選択し、Excel にエクスポートを選択すると、選択した行のみエクスポートされます。

選択行が連続行であり、選択した最初の行が選択した行の中で最上位レベルである場合、スプレッドシートの行は同じ階層を示します。たとえば、次の図では Drop Box と Walk In のすべての行が選択されています。Excel スプレッドシートには、これらの階層が反映されます。



次の図は、結果のスプレッドシートを示したものです。

Display Name	(種類)	Display Reference	Cost (\$)	(アイテム表示順序)
Drop Box	ロールアップアカウント	Drop Box	0.00	6
No <Products and Services>	アカウント	No <Prod_Serv>	0.00	7
2nd Day Guaranteed	アカウント	2nd Day Guaranteed	0.00	8
Overnight Express	アカウント	Overnight Express	0.00	9
Standard Ground	アカウント	Standard Ground	0.00	10
Walk In	ロールアップアカウント	Walk In	0.00	11
No <Products and Services>	アカウント	No <Prod_Serv>	0.00	12
2nd Day Guaranteed	アカウント	2nd Day Guaranteed	0.00	13
Overnight Express	アカウント	Overnight Express	0.00	14
Standard Ground	アカウント	Standard Ground	0.00	15

ただし、選択行で非連続行でありレベルが異なる場合、階層をスプレッドシートに保持できないことがあります。たとえば、次の図の場合、Excel スプレッドシートでは Eugene は Drop Box と Walk In と同じレベルになります。選択行が非連続でレベルが異なるため、非連続行がその一部である大きな階層をエクスポート機能で復元することは実用的ではありません。

Display Name

コストオブジェクト (プライマリペイン)

USA

Oregon

Beaverton

No <Channel>

Drop Box

No <Products and Services>

2nd Day Guaranteed

Overnight Express

Standard Ground

Walk In

No <Products and Services>

2nd Day Guaranteed

Overnight Express

Standard Ground

Commercial Pick-up

Eugene

No <Channel>

Drop Box

Walk In

Commercial Pick-up

レベル4

レベル4

レベル3

新しいアカウント(A)... Ctrl+A

新しい入力コストエレメント(E)... Ctrl+O

属性の管理(R)... Ctrl+E

アカウント...

折りたたみ(C)

Excel にエクスポート(E)

次の図は、結果のスプレッドシートを示したものです。空の行で連続しない階層間が区切られています。

空の行で連続しない階層間を区切ります

	Display Name	(種類)	Display Reference	Cost (\$)	(アイテム表示順序)
13	Drop Box	ロールアップアカウント	Drop Box	0.00	6
14	No <Products and Services>	アカウント	No <Prod_Serv>	0.00	7
15	2nd Day Guaranteed	アカウント	2nd Day Guaranteed	0.00	8
16	Overnight Express	アカウント	Overnight Express	0.00	9
17	Standard Ground	アカウント	Standard Ground	0.00	10
18	Walk In	ロールアップアカウント	Walk In	0.00	11
19	No <Products and Services>	アカウント	No <Prod_Serv>	0.00	12
20	2nd Day Guaranteed	アカウント	2nd Day Guaranteed	0.00	13
21	Overnight Express	アカウント	Overnight Express	0.00	14
22	Standard Ground	アカウント	Standard Ground	0.00	15
23					
24	Eugene	ロールアップアカウント	Eugene	0.00	17
25	No <Channel>	ロールアップアカウント	No <Chnnl>	0.00	18
26	Drop Box	ロールアップアカウント	Drop Box	0.00	19
27	Walk In	ロールアップアカウント	Walk In	0.00	20
28	Commercial Pick-up	ロールアップアカウント	Commercial Pick-up	0.00	21

他の機能

スクロール向上のために固定されるペイン

モジュールビューをエクスポートする際、Excel のペインは列のヘッダーが上下にスクロールしないように固定されます。列のヘッダーは常に表示されます。また、アカウント名は左右にスクロールしないように固定されます。これらのアカウント名は、すべての

アカウントプロパティを表示するために左右にスクロールする際は常に表示されます。
別な方法でスクロールを行う場合は、Excel のペインの固定を解除できます。

この領域のみスクロールします

Display Name	(種類)	Cost (\$)	DrvName	DQF	DQV	DrvRate (\$)
リソース (プライマリペイン)		4,217,593.				
USA	ロールアップアカウント	4,217,593.				
California	ロールアップアカウント	2,828,084.				
Los Angeles	ロールアップアカウント	1,476,614.				
Customer Service	ロールアップアカウント	96,964.				
Equipment Expenses	アカウント	6,048.	Percentage			60.
Operating Expenses	アカウント	20,000.	Allocated Cost			
Wages	アカウント	70,916.	FTE			11,819.
Parcel Delivery	ロールアップアカウント	741,728.				
Equipment Expenses	アカウント	35,060.	Percentage			351.
Operating Expenses	アカウント	285,000.	Allocated Cost			
Wages	アカウント	421,668.	FTE			16,218.

追加列

モジュールビューを Microsoft Excel にエクスポートする際、SAS Activity-Based Management はスプレッドシートに 2 つの追加列、(種類)と(アイテム表示順序)を挿入します。

(種類)

スプレッドシート行のデータの種類を示します。

Display Name	Cost	Type
リソース (プライマリペイン)	\$3,647,900.0	
USA	\$3,647,900.0	ロールアップアカウント
Oregon	\$3,647,900.0	ロールアップアカウント
Beaverton	\$1,930,900.0	ロールアップアカウント
Wages	\$1,638,600.0	アカウント
Operating Expenses	\$238,000.00	アカウント
Equipment Expenses	\$54,300.00	アカウント
Eugene	\$1,717,000.0	ロールアップアカウント
Wages	\$1,408,000.0	アカウント
Operating Expenses	\$271,000.00	アカウント
Equipment Expenses	\$38,000.00	アカウント

注: (種類)列には、列レイアウトの種類列と同じデータが含まれます。エクスポートするモジュールビューに種類列がすでに含まれている場合、SAS Activity-Based Management ではさらに(種類)列を追加してスプレッドシートにエクスポートしません。

(アイテム表示順序)

この列を使用して、並べ替えられたスプレッドシートを元の表示順序に戻します
("並べ替えを元に戻す" (496 ページ))を参照)。

Display Name	(種類)	Cost (\$)	(アイテム表示順序)
リソース (プライマリベイン)		4,217,593	1
USA	ロールアップアカウント	4,217,593	2
California	ロールアップアカウント	2,928,094	3
Los Angeles	ロールアップアカウント	1,476,614	4
Customer Service	ロールアップアカウント	96,864	5
Equipment Expenses	アカウント	6,048	6
Operating Expenses	アカウント	20,000	7
Wages	アカウント	70,916	8

並べ替え

エクスポートされた Excel スプレッドシートの列を並べ替えるには、まず表示名列のグループ化を解除する必要があります。

表示名列のグループ化を解除するには、次の操作を行います。

1. 列 A から F (表示名列)を選択します。
2. ホームタブで、セルを結合して中央揃え ⇨ セル結合の解除を選択します。

列Aから列Fまでを選択します(表示名列)

セルを結合して中央揃え ⇨ セル結合の解除を選択します

並び替える列を選択します

右クリックをして、並べ替え ⇨ ユーザー設定の並べ替えを選択します

Display Name	(種類)	Display Reference	Cost (\$)
リソース (プライマリベイン)			4,217,592.50
USA	ロールアップアカウント	USA	4,217,592.50
California	ロールアップアカウント	California	2,928,093.50
Los Angeles	ロールアップアカウント	Los Angeles	1,476,613.50
Customer Service	ロールアップアカウント	Customer Service	96,863.50
Equipment Expenses	アカウント	Equipment Expenses	6,048.00
Operating Expenses	アカウント	Operating Expenses	20,000.00
Wages	アカウント	Wages	70,915.50
Parcel Delivery	ロールアップアカウント	Parcel Delivery	741,728.00
Equipment Expenses	アカウント	Equipment Expenses	35,060.00
Operating Expenses	アカウント	Operating Expenses	285,000.00
Wages	アカウント	Wages	421,668.00
Parcel Handling	ロールアップアカウント	Parcel Handling	637,922.00
Equipment Expenses	アカウント	Equipment Expenses	45,792.00
Operating Expenses	アカウント	Operating Expenses	209,000.00

3. 並べ替える列を選択し、並べ替えを実行します。

並べ替えを元に戻す

並べ替えたスプレッドシートを元の表示順序に戻す場合、SAS Activity-Based Management が Excel スプレッドシートに追加する(アイテム表示順序)列をこの目的に使用できます。この列には、スプレッドシートの元の表示順序での各行の番号が含まれます。

Display Name	(種類)	Cost (\$)	(アイテム表示順序)
リソース (プライマリペイン)		4,217,593	1
USA	ロールアップアカウント	4,217,593	2
California	ロールアップアカウント	2,928,094	3
Los Angeles	ロールアップアカウント	1,476,614	4
Customer Service	ロールアップアカウント	96,964	5
Equipment Expenses	アカウント	6,048	6
Operating Expenses	アカウント	20,000	7
Wages	アカウント	70,916	8

小数点以下の桁数

エクスポートされた Excel ファイルに表示される小数点以下の桁数は、SAS Activity-Based Management でツール ⇒ ユーザーオプションを選択して指定した小数点以下の桁数になります。

ユーザーオプション

データ | 表示 | 詳細 | Easy API 設定

表示される小数点以下の桁数

小数点以下の桁数 (0 - 9) の指定:

コストの値(C): 2 桁の小数

数値(N): 2 桁の小数

為替レート(R): 2 桁の小数

サーバーから取得するデータ量

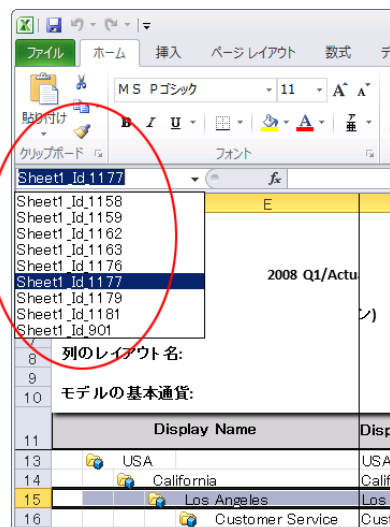
サーバーからアカウントとコストエレメントを取得する際に

取得する最大の行数(M): 1000

OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

行名

エクスポートされた Excel スプレッドシートのすべての行には、アカウント ID を使用して名前が付けられます。名前の形式は <sheetname>_ID_<account ID> です。次の図のように、この名前は Excel 数式バーの前にあるドロップダウンリストに表示されます。ドロップダウンリストで名前を選択すると、対応する行が強調表示されます。



チェックボックス

モジュールビューのチェックボックスも、エクスポートされたスプレッドシートのチェックボックスとして表示されます。ただし、エクスポートされたスプレッドシートのチェックボックスは、モジュールビューの内容を反映したものにはすぎません。編集はできません。

チェックボックスは編集できません

Display Name	(種類)	Display Reference	Cost (\$)	Fiked
Beaverton	ロールアップアカウント	Beaverton	1,930,900.	
Wages	アカウント	Wages	1,638,600.	<input checked="" type="checkbox"/>
Operating Expenses	アカウント	Operating Expenses	238,000.	
Equipment Expenses	アカウント	Equipment Expenses	54,300.	
Eugene	ロールアップアカウント	Eugene	1,717,000.	
Wages	アカウント	Wages	1,408,000.	
Operating Expenses	アカウント	Operating Expenses	271,000.	<input checked="" type="checkbox"/>
Equipment Expenses	アカウント	Equipment Expenses	38,000.	

制約

通貨の形式設定

Microsoft Excel では SAS Activity-Based Management でサポートされる通貨形式の中でサポートされない形式があるため、エクスポートされたスプレッドシートでは通貨フィールドは数値列として設定されます。エクスポートされたスプレッドシートでは、通貨記号はセルではなく列ヘッダーに表示されます。モジュールビューをエクスポートした後は、Microsoft Excel を使用して通貨セルの形式を自由に設定できます。

次の図は、コストがドル(基本通貨)とユーロ(ドルからの換算)の両方で表示されるモジュールビューを示したものです。

レート表

	EUR	USD
1 EUR あたり	1.00	1.28
1 USD あたり	0.78	1.00

例: €1.00 = \$1.28

Display Name	Display Reference	ユーロ建てのコスト	ドル建てのコスト
アクティビティ (プライマリペイン)		€3,294,994.14	\$4,217,592.50
USA	USA	€3,294,994.14	\$4,217,592.50
California	California	€2,287,573.05	\$2,928,093.50
Los Angeles	Los Angeles	€1,153,604.30	\$1,476,613.50
Customer Service	Customer Service	€75,752.73	\$96,963.50
Parcel Delivery	Parcel Delivery	€1,077,851.56	\$1,379,650.00
Parcel Handling	Parcel Handling	€498,376.56	\$637,922.00
Oakland	Oakland	€1,133,968.75	\$1,451,480.00
Oregon	Oregon	€1,007,421.09	\$1,289,499.00

次の図は、結果のエクスポート済みスプレッドシートを示したものです。通貨記号がスプレッドシートの列ヘッダーに表示され、換算に使用される式が式領域に表示されています。

式に注目してください

H15		=PRODUCT(1476613.5, 0.78125)			
	E	F	G	H	I
1	モデル名:	Parcel Express (M1026)			
2					
3	期間/シナリオ:	2008 Q1/Actual			
4					
5	モジュール名:	アクティビティ(プライマリペイン)			
6					
7	列のレイアウト名:	既定			
8					
9	モデルの基本通貨:	US Dollar (USD (\$))			
10					
11	Display Name	(種類)	Display Reference	ユーロ建てのコスト (€)	ドル建てのコスト (\$)
15	Los Angeles	ロールアップアカウント	Los Angeles	1,153,604.30	1,476,613.50
16	Customer Service	ロールアップアカウント	Customer Service	75,752.73	96,963.50
17	Parcel Delivery	ロールアップアカウント	Parcel Delivery	1,077,851.56	1,379,650.00
18	Parcel Handling	ロールアップアカウント	Parcel Handling	498,376.56	637,922.00
19	Oakland	ロールアップアカウント	Oakland	1,133,968.75	1,451,480.00
20	Oregon	ロールアップアカウント	Oregon	1,007,421.09	1,289,499.00

負の数

負の数は、モジュールビューでどのように形式設定されるかに関係なく、Microsoft Excel へのエクスポート時には前にマイナス記号(-)が付き、黒で表示されます。これは、SAS Activity-Based Management のモジュールビューでの負の数の形式設定が、Excel の各国語設定によっては Microsoft Excel で使用できないことがあるためです。Excel ファイルの作成後、負の数の形式を自由に設定できます。

エクスポートでは負の数
にはこの表示形式を使用します

セルの書式設定

表示形式 | 配置 | フォント | 罫線 | 塗りつぶし | 保護

分類(C):

- 標準
- 数値
- 通貨
- 会計
- 日付
- 時刻
- パーセンテージ
- 分数
- 指数
- 文字列
- その他
- ユーザー定義

サンプル

\$637,922.00

小数点以下の桁数(D): 2

記号(S): \$

負の数の表示形式(N):

- (\$1,234.10)
- (\$1,234.10)
- \$1,234.10
- \$1,234.10
- \$1,234.10

通貨の表示形式を設定します。小数点位置を揃える場合は、[会計] を選択してください。

OK キャンセル

48 章

OLAP ビュー

OLAP ビューのインポート	501
OLAP ビューのエクスポート	502
Excel へのエクスポート	503

OLAP ビューのインポート

OLAP ビューをインポートするには、次の操作を行います。

1. ワークスペースマネージャに移動します。
2. **ファイル** ⇒ **OLAP ビューのインポート**を選択します。OLAP ビューのインポートダイアログボックスのステップ 1 が開きます。
3. インポートする(ビューを含む)XML ファイルを選択します。
4. インポートするビューに関連付けるモデルを指定します。

注: OLAP ビューのエクスポート時にモデルが指定されていても、インポート時に別のモデルにビューに関連付けられます。

インポートされた OLAP ビューの名前の変更

インポートする OLAP ビューと同じ名前の OLAP ビューがすでに存在する場合、インポートする OLAP ビューの名前を変更します。複数のビューをインポートする場合、このオプションはインポートするすべての OLAP ビューに適用されます。

既存の OLAP ビューの置換

インポートする OLAP ビューと同じ名前の OLAP ビューがすでに存在する場合、既存の OLAP ビューをインポートする OLAP ビューで置き換えます。

重複する OLAP ビューをインポートしない

インポートする OLAP ビューと同じ名前の OLAP ビューがすでに存在する場合、重複するビューをインポートしません。既存の OLAP ビューをそのまま残します。

5. **次へ**をクリックします。OLAP ビューのインポートダイアログボックスのステップ 2 が開きます。
6. インポートする各 OLAP ビューに対して、そのビューに関連付けるキューブをキューブドロップダウンリストから選択します。

キューブドロップダウンリストには、ステップ 1 で選択したモデルにこれまでに作成 (マシンにインポート)されたすべてのキューブが表示されます。

複数のビューをインポートする場合、ビューを個々にインポートする操作を省略できます。

7. **完了**をクリックします。選択したビューがインポートされます。

関連項目:

[“OLAP ビューのエクスポート” \(502 ページ\)](#)

OLAP ビューのエクスポート

OLAP ビューを XML ファイルにエクスポートするには、次の操作を行います。

1. ワークスペースマネージャに移動します。
2. **ファイル** ⇨ **OLAP ビューのエクスポート**を選択します。OLAP ビューのエクスポートダイアログボックスが開きます。
3. エクスポートする OLAP ビューを 1 つ以上選択します。アクセスできるすべてのビューをエクスポートできます。

子の自動チェック

このオプションを選択すると、フォルダの選択時にフォルダ内のキューブ設定が再帰的に選択されます。

注: このオプションは、このオプションの選択後に選択するフォルダにのみ適用されます。すでに選択されているフォルダの子は選択されません。

フォルダを含む

このオプションを選択すると、キューブ設定のインポート時に続けてフォルダを再作成できるようにエクスポートファイルにフォルダ情報が格納されます。

注: このオプションは、エクスポートディレクトリにフォルダを作成するのではなく、インポート時にフォルダを再作成できるようにエクスポートファイルにフォルダ情報を格納するにすぎません。

次の場所 (XML ファイル名) にエクスポート

エクスポートファイルのパスと名前を選択します。

注: エクスポートするフォルダやキューブ設定を複数選択しても、エクスポートファイルは 1 つしか作成されません。

4. **完了**をクリックします。

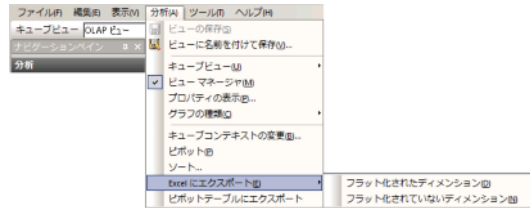
関連項目:

- [“OLAP ビューのインポート” \(501 ページ\)](#)
- [“Excel へのエクスポート” \(503 ページ\)](#)

Excel へのエクスポート

OLAPビューを Excel にエクスポートするには、次の操作を行います。

1. 分析ワークスペースに移動します。
2. OLAP ビューを開きます。
3. 分析 ⇒ Excel にエクスポートを選択します。



4. 次のうちいずれかを選択します。

フラット化されたディメンション

Excel テーブルに含まれる列は多くなり、行は少なくなります。このテーブルには、列ヘッダーを含む 1 行と、レベルごとに列が挿入されます。

フラット化されていないディメンション

Excel テーブルに含まれる列は少なくなり、行は多くなります。ディメンションごとに行が挿入されます。

次の図に、フラット化されたディメンションとフラット化されていないディメンションを含む Excel の例を示します。

フラット化されたディメンション

(列数が多くなります)

	A	B	C	D
1	Level1	Level1	Level2	01JAN2008:00:00:00 - Cost
2				
3	All	All	.	
4	All	None	.	
5	All	USA	USA (direct)	.
6	All	USA	California	.
7	All	USA	Oregon	.
8	All	USA	.	.
9	None	All	.	.
10	None	None	.	47,114.10
11	None	USA	USA (direct)	.
12	None	USA	California	.
13	None	USA	Oregon	.
14	None	USA	.	.
15	Equipment Expenses	All	.	.
16	Equipment Expenses	None	.	.
17	Equipment Expenses	USA	USA (direct)	.
18	Equipment Expenses	USA	California	311,500.00
19	Equipment Expenses	USA	Oregon	194,300.00
20	Equipment Expenses	USA	.	505,800.00
21	Operating Expenses	All	.	.
22	Operating Expenses	None	.	.
23	Operating Expenses	USA	USA (direct)	.
24	Operating Expenses	USA	California	1,798,000.00
25	Operating Expenses	USA	Oregon	956,800.00
26	Operating Expenses	USA	.	2,754,800.00
27	Wages	All	.	.
28	Wages	None	.	.
29	Wages	USA	USA (direct)	.
30	Wages	USA	California	3,561,360.59
31	Wages	USA	Oregon	1,302,199.19
32	Wages	USA	.	4,863,559.77

フラット化されていないディメンション

(列数が少なくなります)

	A	B	C
1		All_期間	01JAN2008:00:00:00
2		Measures	Cost
3	Src_General_Ledger	Src_Region	
4	All	All	
5	All	None	
6	All	USA (direct)	
7	All	California	
8	All	Oregon	
9	All	USA	
10	None	All	
11	None	None	47,114.10
12	None	USA (direct)	
13	None	California	
14	None	Oregon	
15	None	USA	
16	Equipment Expenses	All	
17	Equipment Expenses	None	
18	Equipment Expenses	USA (direct)	
19	Equipment Expenses	California	311,500.00
20	Equipment Expenses	Oregon	194,300.00
21	Equipment Expenses	USA	505,800.00
22	Operating Expenses	All	
23	Operating Expenses	None	
24	Operating Expenses	USA (direct)	
25	Operating Expenses	California	1,798,000.00
26	Operating Expenses	Oregon	956,800.00
27	Operating Expenses	USA	2,754,800.00
28	Wages	All	
29	Wages	None	
30	Wages	USA (direct)	
31	Wages	California	3,561,360.59
32	Wages	Oregon	1,302,199.19
33	Wages	USA	4,863,559.77

49 章 レポート

レポートのエクスポート	505
-------------------	-----

レポートのエクスポート

レポートをカスタマイズする場合や、他のレポートツールを使用する場合に、レポートをエクスポートします。SAS Enterprise Guide をフロントエンドとして使用する場合は、レポートを一時保存場所にエクスポートするのではなく、SAS Activity-Based Management のレポートデータ選択アドインを使用できます。

1. **ファイル** ⇨ **エクスポート** ⇨ **レポートデータ**を選択します。
レポートデータウィザードが表示されます。
2. レポートの種類を選択します。選択した種類によって、次からのウィザードダイアログでの選択肢が異なります。たとえば、**ディメンションビュー**、**利益と損失**、**利益クリフ**ではそれぞれウィザードダイアログが異なるため、データにフィルタを適用する際、表示パースペクティブ(データの表示方法)を指定する必要があります。
3. レポートを作成するモデルを 1 つ以上選択します。
4. 期間/シナリオ関連付けを 1 つ以上選択します。
5. モジュールを選択します。複数のモデルを選択すると、ウィザードの**選択項目の使用オプション**は使用できません。ウィザードの後続ダイアログを使用して、レポートのデータにフィルタを適用できます。
6. データベースにエクスポートする場合、データベースに接続します。

注: SAS Enterprise Guide 内からデータをエクスポートできます。

50 章

Easy API

Easy API の使用	507
概要	507
XML ファイルの作成	508
テキストファイルへの Easy API コマンドの保存	509
Easy API の起動	510

Easy API の使用

概要

Easy API を使用すると、SAS Activity-Based Management 内で実行できる作業と同じ作業の多くをバッチ処理できます。Easy API では、次の作業を行えます。

- モデルデータのインポートとエクスポート
- モデルの計算
- キューブの作成
- レポートデータのエクスポート
- 期間/シナリオ間のモデルデータのコピー
- キューブ設定のインポートとエクスポート

また、Easy API を使用して、SAS Stored Process、外部の SAS Enterprise Guide プロジェクト、起動が必要な実行可能プログラムを実行できます。そのため、Easy API を使用して、モデルデータをエクスポートし、SAS Stored Process を起動してエクスポートしたデータを更新し、最後に更新したデータをモデルにインポートして戻すことなどが可能です。

作業は、EasyAPI.txt ファイルで指定した順序で実行されます。実行する作業はすべて Easy API で同期され、これにより、次の作業は前の作業が完了した後に開始されるようになります。たとえば、エクスポートしたテーブルを更新するための SAS プログラムは、テーブルがエクスポートされた後に実行されます。

Easy API を起動して SAS Activity-Based Management の作業を実行する際、次の 3 つのステップが関係します。

1. “XML ファイルの作成” (508 ページ)

XML ファイルには、実行される作業が記述されます。

2. “テキストファイルへの Easy API コマンドの保存” (509 ページ)

Easy API コマンドは、SAS Activity-Based Management を起動し、XML ファイルを渡して作業内容を伝えます。

3. “Easy API の起動” (510 ページ)

Easy API は、このテキストファイルのコマンドを実行します。

関連項目

Easy API の詳細については、<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/>からアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* のセクション“Using the API”を参照してください。

XML ファイルの作成

SAS Activity-Based Management は、内部で XML を使用して、作業の実行に必要な情報をエンコードします。Easy API は同じ XML を使用して SAS Activity-Based Management をバッチで起動し、作業を実行します。キューブを作成するためのサンプルの XML を次に示します。XML は、キューブの作成で使用するモデル、期間、キューブ設定を指定します。

```

<OROSCOMMAND Version="2.0">
  <MODELCONTEXT ModelId="1242">
    <PeriodScenario PeriodId="13" ScenarioId="1"/>
    <PeriodScenario PeriodId="14" ScenarioId="1"/>
  </MODELCONTEXT>
  <COMMANDPARAMS MessageLimit="50" CubeAction="Generate">
    <CubeConfig Id="837"/>
  </COMMANDPARAMS>
</OROSCOMMAND>

```

Easy API は、SAS Activity-Based Management 自体が内部で使用するものとまったく同じ XML を使用して SAS Activity-Based Management を起動します。そのため、Easy API の実行に必要な XML を作成する最も簡単な方法は、SAS Activity-Based Management で XML を作成することです。

SAS Activity-Based Management で XML を作成するには、次の操作を行います。

1. SAS Activity-Based Management 内で、**ツール ⇨ ユーザーオプション**を選択します。
2. **Easy API 設定**タブをクリックします。
3. **作業の XML ファイルをディレクトリパスに保存**を選択します。
4. XML を保存するディレクトリパスを指定します。

これで、SAS Activity-Based Management 内で作業を実行する際に、その作業の XML が指定したディレクトリのファイルに保存されるようになります。

XML ファイルは目的に合わせて変更できます。たとえば、次に示す XML ファイルを変更して、同じモデルに対し異なる期間で生成するように、または異なるモデルに対し同じ期間で生成することができます。

XML ファイルの詳細については、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/>からアクセス可能な *SAS*

Activity-Based Management Data Administration Guide の"Using the API"を参照してください。

テキストファイルへの Easy API コマンドの保存

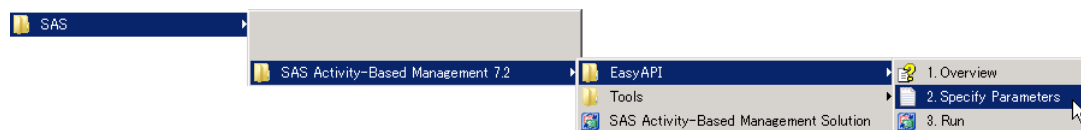
次の表は、Easy API コマンドをリストし、各コマンドの動作を説明したものです。各コマンドは 1 つのパラメータを使用します。パラメータは、XML ファイルのパスと名前、または外部プログラムのパスと名前のいずれかになります。表示されるパラメータはサンプルで、実際のパスとは異なっている可能性があります。

コマンドとサンプル引数	説明
Export "C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\your.xml"	モデルデータのエクスポート
Run "C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\your.sas"	SAS Stored Process などの外部プログラムを実行します。たとえば、この Run コマンドを使用して、SAS Enterprise Guide vbscript を実行することもできます。
Import "C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\your.xml"	モデルデータのインポート
Calculate "C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\your.xml"	キューブの計算/作成 注: 使用する XML ファイルによって、このコマンドが計算を行うか、キューブを作成するかが決まります。
Export Report "C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\your.xml"	レポートのエクスポート
Copy Period "C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\your.xml"	期間/シナリオ間のモデルデータのコピー
Export Cube "C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\your.xml"	キューブ設定のエクスポート
Inport Cube "C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\your.xml"	キューブ設定のインポート
// Comment	コマンド行の前に'または//を追加することで、特定の Easy API コマンドをコメントアウト(スキップ)できます。

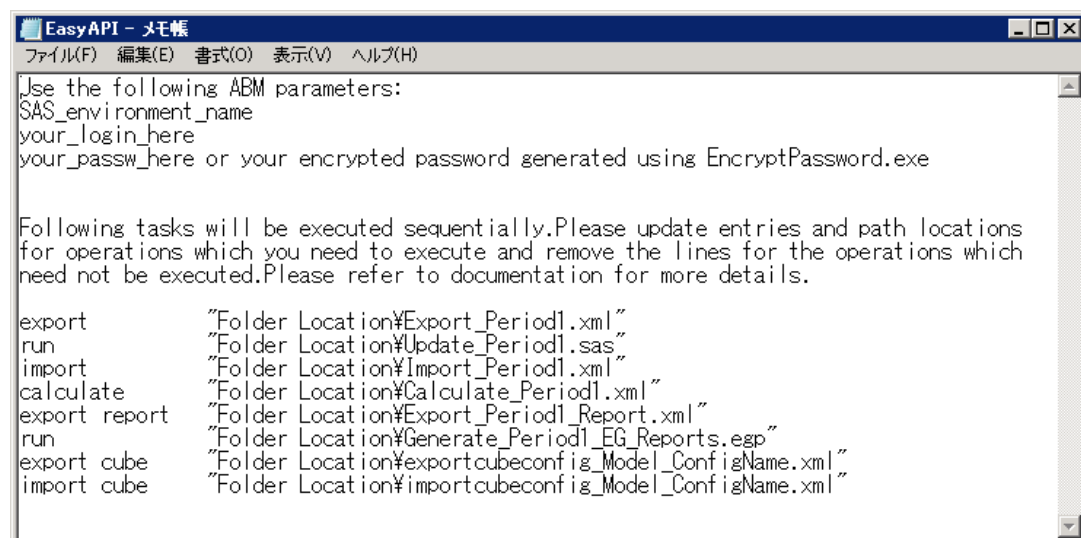
Easy API コマンドを発行するには、コマンドを次のディレクトリにある EasyAPI.txt というテキストファイルに記述します。

```
<installation directory>SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\
例: C:\Program Files\SASHome\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\
```

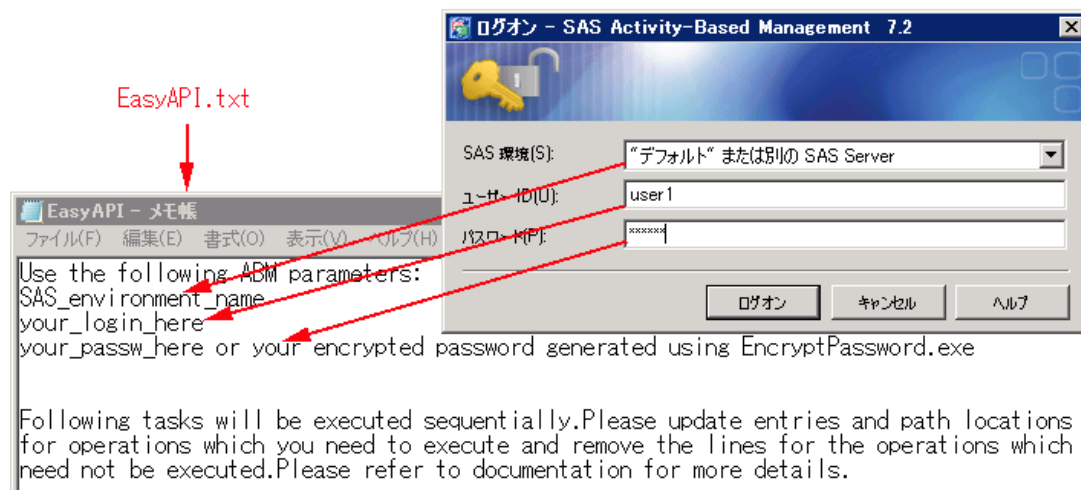
EasyAPI.txt を開くには、**スタートメニューからスタート ⇒ プログラム ⇒ SAS ⇒ SAS Activity-Based Management 7.2 ⇒ EasyAPI ⇒ 2. パラメータの指定**を選択します。



次に、SAS Activity-Based Management のインストール時に表示される EasyAPI.txt を示します。

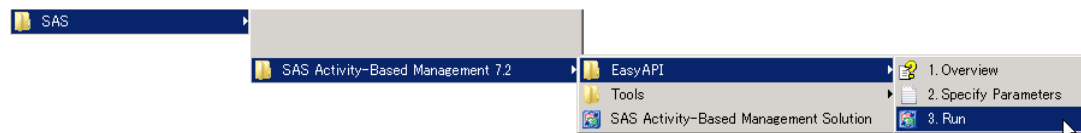


txt ファイルに、ログイン認証を含めることを忘れないようにします。



Easy API の起動

Easy API を起動するには、スタートメニューから **スタート ⇒ プログラム ⇒ SAS ⇒ SAS Activity-Based Management 7.2 ⇒ EasyAPI ⇒ 3. 実行** を選択します。

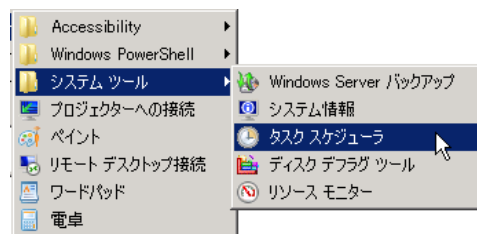


Easy API は、その作業の結果を電子メールで通知できます。作業結果の電子メールを受信するには、次の操作を行います。

1. SAS Activity-Based Management 内で、**ツール** ⇨ **ユーザーオプション**を選択します。
2. **Easy API 設定**タブをクリックします。
3. メールを送信するための **SMTP サーバー**を指定します。
4. **作業成功時の電子メール ID**を指定します。
5. **作業失敗時の電子メール ID**を指定します。

注:

- EasyAPI.log または CutomEasyAPI.log という名前のログファイルが、Easy API のインストールフォルダに作成されます。Easy API 作業ログには Windows イベントビューアからもアクセスできます。
- Easy API は EasyAPI.exe を実行して起動することもできます。EasyAPI.exe は、`<installation directory>\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\`にインストールされます。
- EasyAPI.exe にパス引数を指定することで、Easy API コマンドの別の txt ファイルを使用するように指定できます。たとえば、`EasyAPI.exe "c:\MyPath\EasyAPI2.txt"`のように指定します。パス引数を指定しない場合、Easy API ではそのインストールディレクトリの EasyAPI.txt が使用されます。
- Microsoft Windows スケジュールタスクウィザードを使用して、EasyAPI.exe が選択した間隔で自動的に実行されるようにスケジュールできます。



- EasyAPI.txt ファイルでは、パスワードをクリアテキストで保存することも、`<installation directory>\SASActivityBasedManagementClient\7.2\EasyAPI\`にある EncryptPassword.exe を使用してパスワードを暗号化することもできます。EncryptPassword.exe により、EasyAPI.txt に貼り付け可能な暗号化された文字列が生成されます。Easy API では、Easy API 作業の実行前にパスワードが解読されます。

51 章

Information Map のパブリッシュ

概要	513
Information Map の作成(メタデータの登録)	513
Metadata の登録/Metadata Server オプション	515
Metadata の登録/Metadata Server オプション機能について	515
Metadata の登録	516
Metadata Server オプション	517

概要

Information Map の詳細については、ヘルプメニューからアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* を参照してください。また、最新版は、<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> で確認できます。

Information Map の作成(メタデータの登録)

Information Map を使用して、SAS Information Map Studio、SAS Web Report Studio、SAS OLAP Cube Studio などの SAS プログラム間で情報を共有できます。たとえば、SAS Web Report Studio を使用して、アカウントを基準にしたレポートや割り当てを基準にしたレポートを作成できます。

Information Map を作成するには、次の操作を行います。

1. Information Map を作成するモデルを開きます。
2. **モデル** ⇒ **Metadata の登録** を選択します。**Metadata の登録** ダイアログボックスが開きます。
注: モデルは計算済みである必要があります。
3. 使用する Metadata Server で使うフォルダをまだ指定していない場合、**構成設定** をクリックします。**Metadata Server オプション** ダイアログボックスが表示されます。
注: **Metadata Server オプション** ダイアログボックスは、**ツール** ⇒ **Metadata Server オプション** を選択しても開くことができます。
4. **レポート用 Information Map の作成** から、作成するマップの種類を選択します。

- **アカウント マップ:** このオプションを選択すると、モデル特有のパブリックデータベースビューから Information Map を作成します。この Information Map には、アカウントを基準にしたレポートを作成する際に SAS Web Report Studio で使用するアカウント関連のデータが含まれます。
 - **割り当てマップ:** このオプションを選択すると、モデル特有のパブリックデータベースビューから Information Map を作成します。この Information Map には、割り当てを基準にしたレポートを作成する際に SAS Web Report Studio で使用する割り当て関連のデータが含まれます。
5. **作成**をクリックします。Information Map を作成する前に、現在のモデルに関連付けられた特定のパブリックデータベースビューが、**Metadata Server オプション**ダイアログボックスで指定した SAS データライブラリにコピーされます。パブリックデータベースビューはモデルを計算する際に作成され、Information Map の作成に使用されます。

マップ名は、次の形式で自動的に作成されます。

- アカウントマップ: M< InternalModelID >_< ModelName >_AccountMap
- 割り当てマップ: M< InternalModelID >_< ModelName >_AssignmentMap

内部モデル ID が 1079、モデル名が Parcel Express (運送業)の SAS Activity-Based Management モデルのアカウントマップは、M1079_ParcelExpress_AccountMap として作成されます。

注: Information Map を作成すると毎回、既存の Information Map が削除され、新しい Information Map に置き換わります。

6. **詳細**をクリックして、結果の詳細ログを表示します。Metadata の登録結果ダイアログボックスが表示されます。テーブルが正常にインポートされると、Information Map が作成されます。

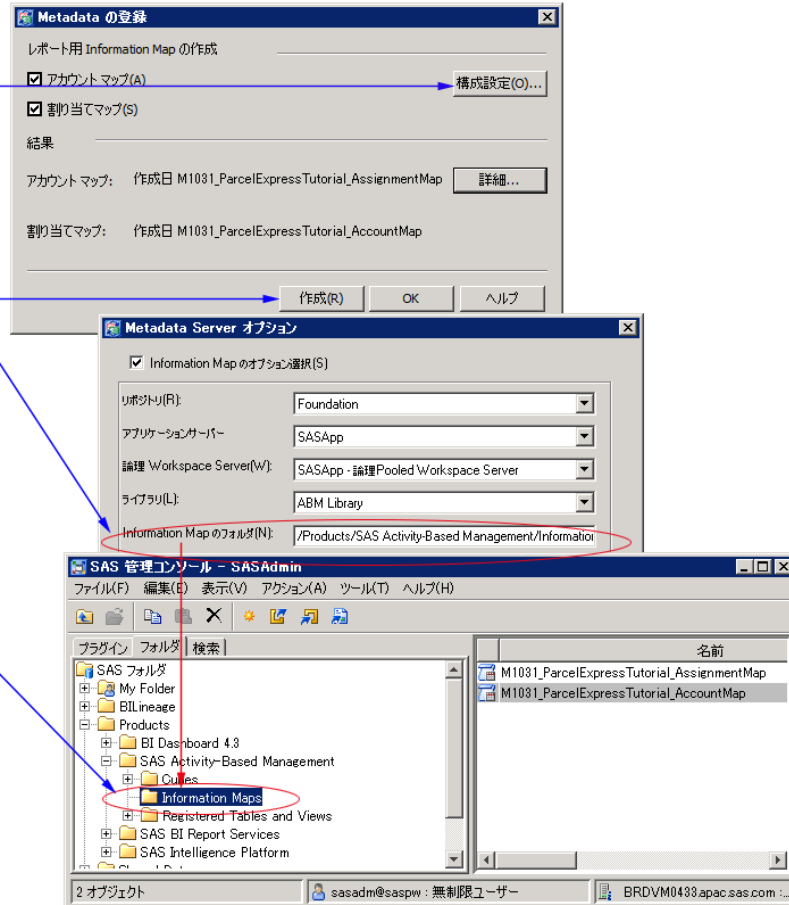
1. モデル > Metadata の登録を選択します (計算済みモデル)

2. 構成設定をクリックします

3. Information Mapの保存先フォルダを選択します

4. 作成をクリックします

5. SAS管理コンソールを使用して Information Mapにアクセスします



関連項目: SAS Information Map Studio での Information Map の操作、SAS Web Report Studio での Information Map の操作、SAS 管理コンソールを使用した Information Map の構成、Metadata の登録/ Metadata Server オプション

Metadata の登録/Metadata Server オプション

Metadata の登録/Metadata Server オプション機能について

権限によっては、機能を使用できません。

Metadata Server オプション

☒ Information Map のオプション選択 (S)

リポジトリ (R):

アプリケーションサーバー

論理 Workspace Server (W):

ライブラリ (L):

Information Map のフォルダ (N): /Products/SAS Activity-Based Management/Information

☒ SAS Profitability Management 使用のためのビヘイビアのパブリッシュオプションの選択 (B)

リポジトリ (E):

アプリケーションサーバー

論理 Workspace Server

ライブラリ (I):

注:

- 書き込み権限のあるライブラリのみ表示されます。
- 書き込み権限のあるフォルダを選択してください。

OK(O) キャンセル ヘルプ

SAS Information Map および SAS Profitability Management の詳細については、*SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の“Working with Other SAS Programs”の章(ヘルプメニューおよび <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能)を参照してください。

Metadata の登録

Metadata の登録について

Metadata の登録ダイアログボックスを使用して、計算モデルの Information Map を作成します。

Metadata の登録ダイアログボックスへのアクセス モデル ⇨ Metadata の登録を選択します。

注: 計算済みのモデルが開かれている必要があります。

Metadata Server オプション

Metadata Server オプションについて

Metadata Server オプションダイアログボックスを使用して、Metadata Server の Information Map と SAS Profitability Management ビヘイビアの保存場所と作成に使用するプログラムを指定します。

注: Metadata Server オプションダイアログボックスに表示される設定は、SAS Activity-Based Management のインストール時に決定されます。ただし、インストール後に、Metadata Server オプションダイアログボックスを使用して設定を変更できます。

Metadata Server オプションダイアログボックスへのアクセス

次のどちらかの操作を行います。

- ツール ⇨ Metadata Server オプションを選択します。
- Metadata の登録ウィンドウの構成設定をクリックします。

52 章

SAS Profitability Management へのビヘイビアのパブリッシュ

概要	519
SAS Profitability Management へのビヘイビアのパブリッシュ	519

概要

SAS Profitability Management の操作の詳細については、ヘルプメニューからアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* を参照してください。また、最新版は、<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> で確認できます。

SAS Profitability Management へのビヘイビアのパブリッシュ

ファイル ⇨ パブリッシュ ⇨ ビヘイビアを選択します。ビヘイビアのパブリッシュウィザードが開きます。

注: ビヘイビアをパブリッシュするには、SAS Profitability Management ライブラリを指定して、パブリッシュしたビヘイビアの格納場所を SAS Activity-Based Management にて特定できるようする必要があります。また、アカウントがビヘイビアとしてマークされていることも必要です。

1. モデルを選択し、作成するビヘイビアテーブルの名前を指定します。

モデル名

ビヘイビアとしてマークしているアカウントのモデルを選択します。

期間/シナリオの関連付け

データをパブリッシュする期間/シナリオの関連付けを選択します。

ビヘイビアテーブル名

ビヘイビアテーブルの名前を指定します。

オプション

テーブルの作成

ビヘイビアテーブルを作成します。同じ名前のテーブルが存在する場合、操作は中止され、エラーメッセージが表示されます。既存のテーブルは影響を受けません。

テーブルの置換

同じ名前が付いた既存のテーブルを置き換えます。

テーブルに追加

レコードを既存のテーブルに追加します。

- 作成するビヘイビアテーブルのフィールドに、パブリッシュするアカウントのプロパティと属性をマップします。

ビヘイビアのパブリッシュ - プロパティと属性のマッピング ステップ 2/5

プロパティと属性のマッピング
 レートになるプロパティと属性をマッピングしてください。
 各フィールドに対するプロパティおよび属性からマッピングを作成:

ID(I):

名前(A):

期間(P):

次のフィールドに対し、ユニット値あるいは合計値のいずれかにマッピングしてください。

ユニット値(U):

合計値(T):

ID

ビヘイビアの識別参照。

名前

ビヘイビアの名前。

期間

コストの期間を定義します。

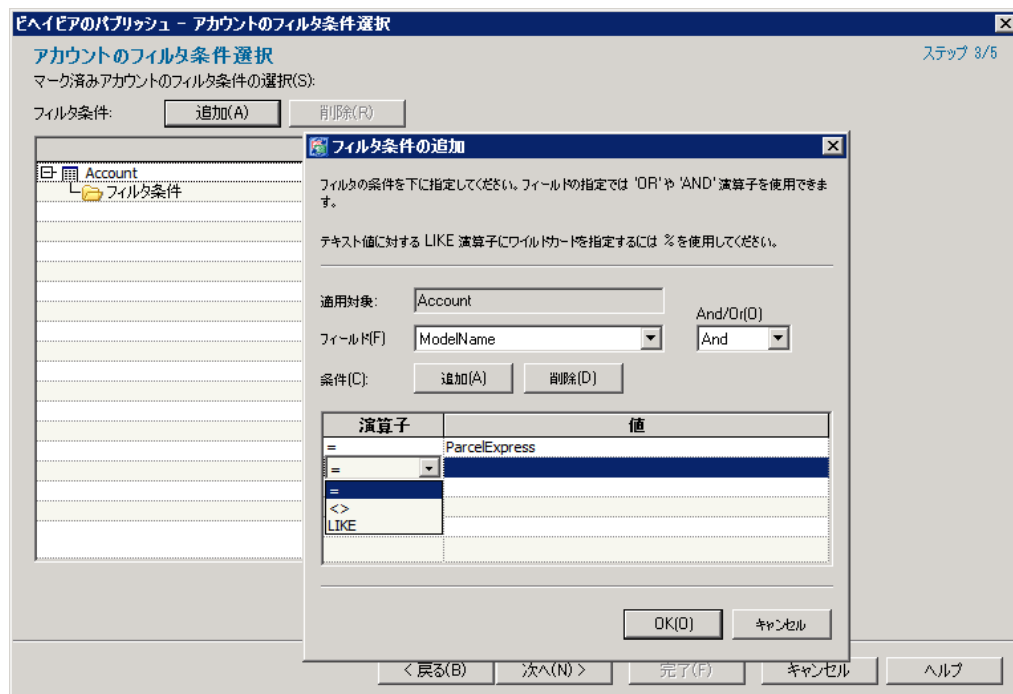
ユニット値

このソースに関連するトランザクションのユニットコスト。ユニット値を選択すると、合計値は選択できません。

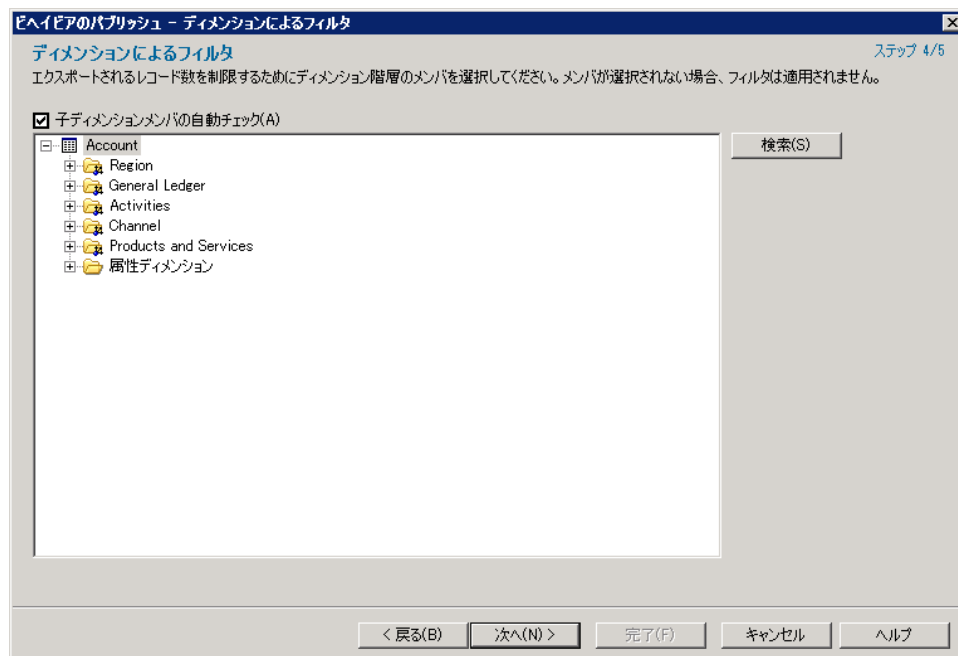
合計値

分配するソースの合計額。合計値を選択すると、ユニット値は選択できません。

3. ビヘイビアとしてパブリッシュするアカウントの条件を設定できます(オプション)。条件を使用すると、ビヘイビアとしてマークされているすべてのアカウントのサブセットを抽出できます。



4. ディメンションを選択することで、パブリッシュするアカウント数をさらに制限できます。ディメンションを選択しない場合、ビヘイビアとしてマークされたアカウントがすべてのディメンションからパブリッシュされます。



5. 選択内容を確認して、完了をクリックします。

パブリッシュされたアカウントは、Profitability Management ライブラリのビヘイビアテーブルに書き込まれます。

53 章

SAS Strategy Management への パフォーマンスメジャーのパブリッ シュ

概要	523
SAS Strategy Management との統合のためのステップ	523
SAS Strategy Management について	523
統合手順	524
パフォーマンスメジャーの選択	524
テーブルのパブリッシュ形式の選択	527
メジャーのパブリッシュ	531
メジャーのインポート	532
パフォーマンスメジャービュー	532
パフォーマンスメジャービューについて	532
パフォーマンスメジャービューの表示	533
タスク	533
パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックス	533
パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックスについて	533
パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックスの表示	534

概要

SAS Strategy Management の操作の詳細については、ヘルプメニューからアクセス可能な *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* を参照してください。また、最新版は、<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> で確認できます。

SAS Strategy Management との統合のためのステップ

SAS Strategy Management について

SAS Activity-Based Management が提供する事実に基づく信頼性のあるデータを使用して、組織の業績の評価や、将来の意思決定を行えます。SAS Activity-Based Management では、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュール、外部ユニットモジュールのアカウントとロールアップアカウントをパフォーマンス確認アイテムとしてマークできます。SAS Activity-Based Management アカウント

のプロパティや数値属性は、パフォーマンスメジャーとしてマークされパブリッシュされると、SAS Strategy Management などの他のレポート作成ツールでの使用が可能になります。

KPI (Key Performance Indicator)とも呼ばれるパフォーマンスメジャーは、ビジネスの重要な数値であり、トラッキングが必要な数値です。KPI 要素(メトリック)は、事前に定義されている、組織の達成度のメジャーです。たとえば、組織の財務実績を評価する KPI 要素として、顧客別平均年次利益や販売およびサービスの平均コストなどがあります。SAS Strategy Management との統合などによって、この SAS Activity-Based Management の情報を他のレポート作成アプリケーションに表示できます。

ヒント SAS Activity-Based Management でパフォーマンスメジャーとして定義し、SAS Strategy Management で KPI 要素として表示するアイテムは、SAS Information Delivery Portal(ダッシュボード、集計ビュー、テーブルビューのポートレット)にも表示されます。

SAS Activity-Based Management と SAS Strategy Management を統合すると、問題を迅速に洞察し、解決に向けた道筋を探ることができます。どちらのソリューションも、ほとんどのプロセスとアクティビティに対応しています。

- SAS Strategy Management で使用する多くのメジャーは、財務的な視点を持ち、利益率やコストの要素を含みます。
- SAS Strategy Management で使用する多くのメジャーは、SAS Activity-Based Management でコストドライバとして使用する基準です。
- SAS Strategy Management ではパフォーマンスの先行指標と遅行指標を特定し、SAS Activity-Based Management ではこれらの指標の値が導き出された要因を洞察します。
- SAS Activity-Based Management では、KPI の背後にある詳細なデータを操作できます。

SAS Activity-Based Management モデルのコストを計算することにより、組織の行動を把握できます。パフォーマンスメジャーとして指定したモデル値(数値プロパティと属性)は SAS Activity-Based Management で計算され、その値は SAS Strategy Management スコアカードに提供されるか、パブリッシュされます。パフォーマンスメジャー(KPI 要素)が集まって、SAS Strategy Management プロジェクトを構成します。(スコアカードの整理には、SAS Solutions のディメンションエディタを使用します)

統合手順

SAS Strategy Management との統合プロセスは、次の 4 ステップから構成されます。

1. “パフォーマンスメジャーの選択” (524 ページ)
2. “テーブルのパブリッシュ形式の選択” (527 ページ)
3. “メジャーのパブリッシュ” (531 ページ)
4. “Import Performance Measures into SAS Strategy Management” (SAS Activity-Based Management: Data Administration Guide 27 章)

パフォーマンスメジャーの選択

パフォーマンスメジャーの追加

パフォーマンスメジャーとして次のアイテムが使用できます。

- 数値プロパティ(コストと量)

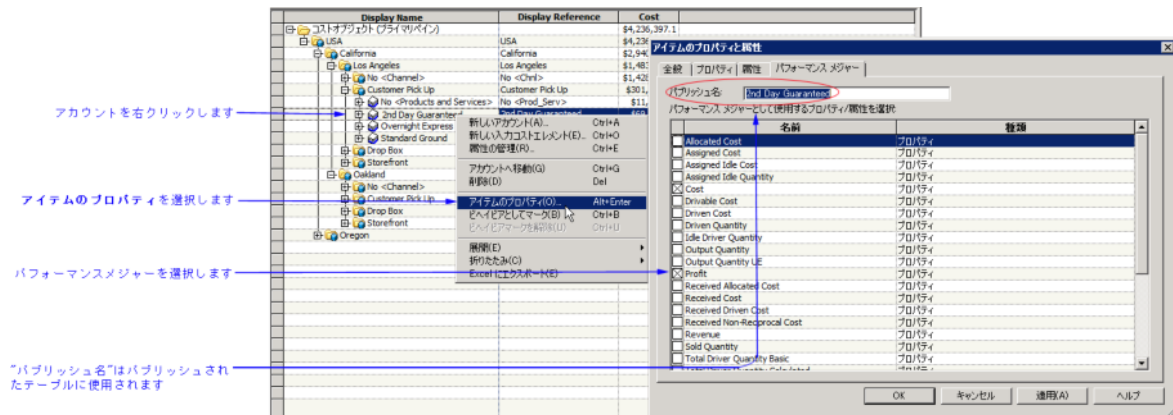
- 数値属性

パフォーマンスメジャーをアカウントに追加するには、次の操作を行います。

1. いずれかのモジュールで、アカウントを右クリックします。
2. **アイテムのプロパティ**を選択します。
3. アカウントに適用するパフォーマンスメジャーを選択して、**OK** をクリックします。

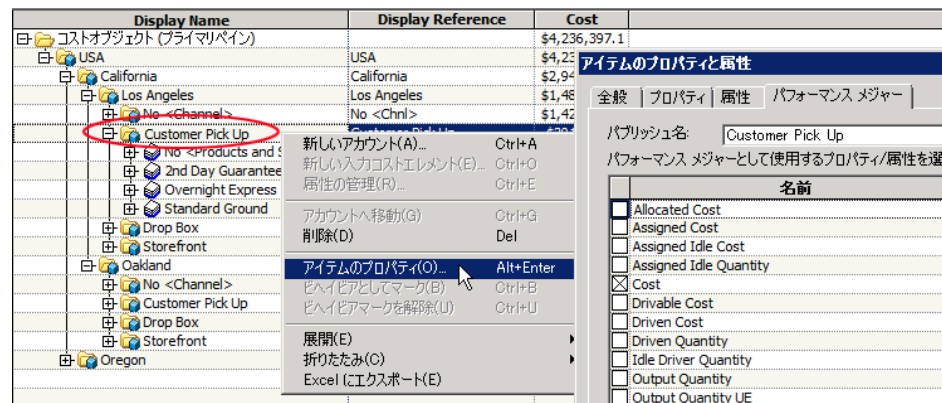
注: パフォーマンスメジャーは周期的です。パフォーマンスメジャーはアカウントに関連付ける場合、アカウントに関連付けた期間/シナリオ関連付けのみに関連付けられます。

注: アカウントのパブリッシュ名は、パフォーマンスメジャーのパブリッシュ時にデータベースに書き込まれるテーブルでこのアカウントに使用される名前です。



ロールアップアカウントの選択

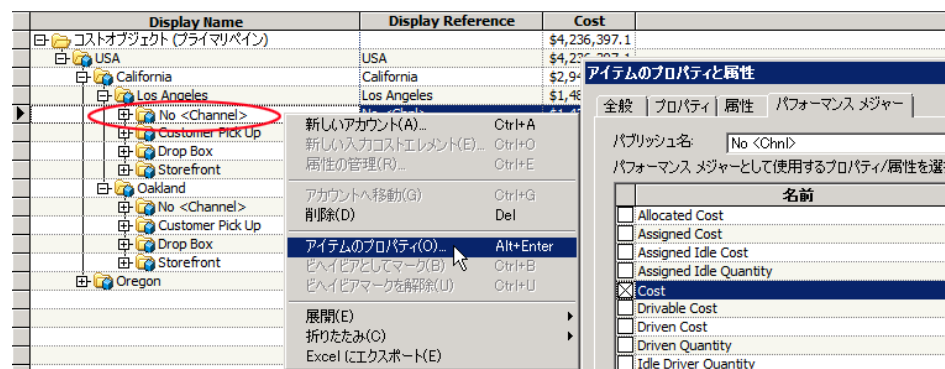
基準テーブルに ALL のレコードを作成するには、次の図の例のように、ロールアップアカウントを選択して、パフォーマンスメジャーとしてマーク付けします。



次の図は、結果の基準テーブルの一部を示したものです。

Reg	Chnl	Prod_Serv	Scenario	Period	StartDate	EndDate	StmTimePeriod	Measure	Value
1	Los Angeles	Customer Pick Up	All	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	Cost	301244.49302
2	Los Angeles	Customer Pick Up	All	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	Profit	213202.00698
3	Los Angeles	Customer Pick Up	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	Cost	126090.45033
4	Los Angeles	Customer Pick Up	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	Profit	100000.00000
5	Los Angeles	Customer Pick Up	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	Profit	100000.00000

同様に、基準テーブルに NONE のレコードを作成するには、次の図の例のように、No<roll-up account>を選択して、パフォーマンスメジャーとして選択します。

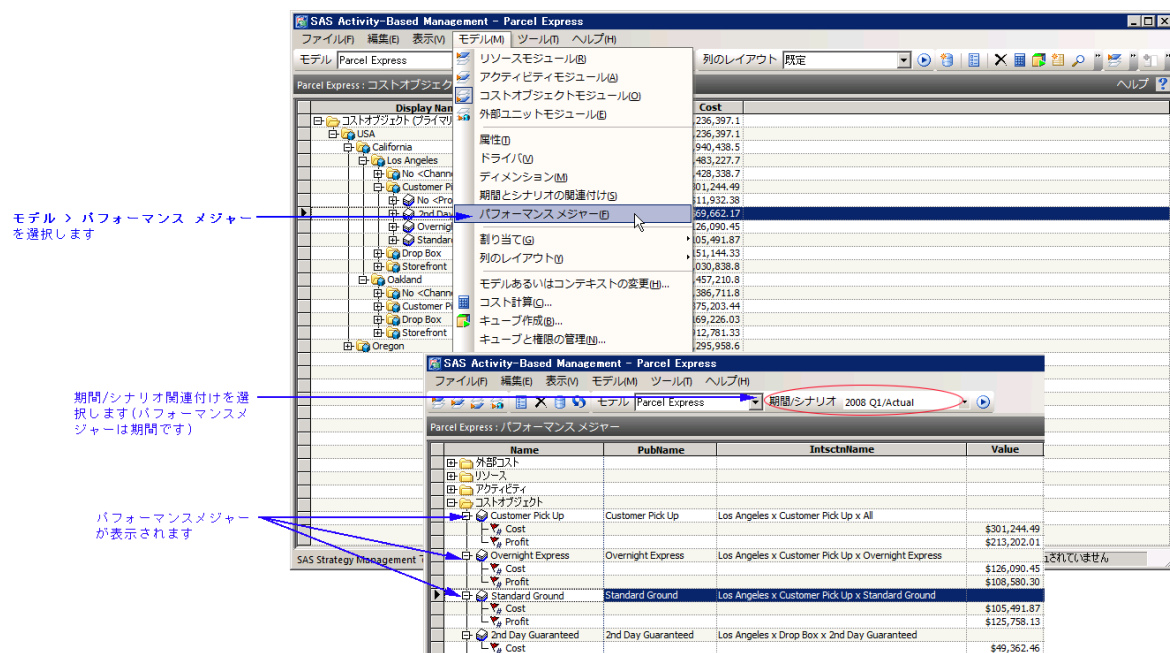


パフォーマンスメジャーの表示

アカウントに追加されているパフォーマンスメジャーを表示するには、次の操作を行います。

1. モデル ⇨ パフォーマンス メジャーを選択します。
2. 期間/シナリオ関連付けを選択します。パフォーマンスメジャーは周期的です。

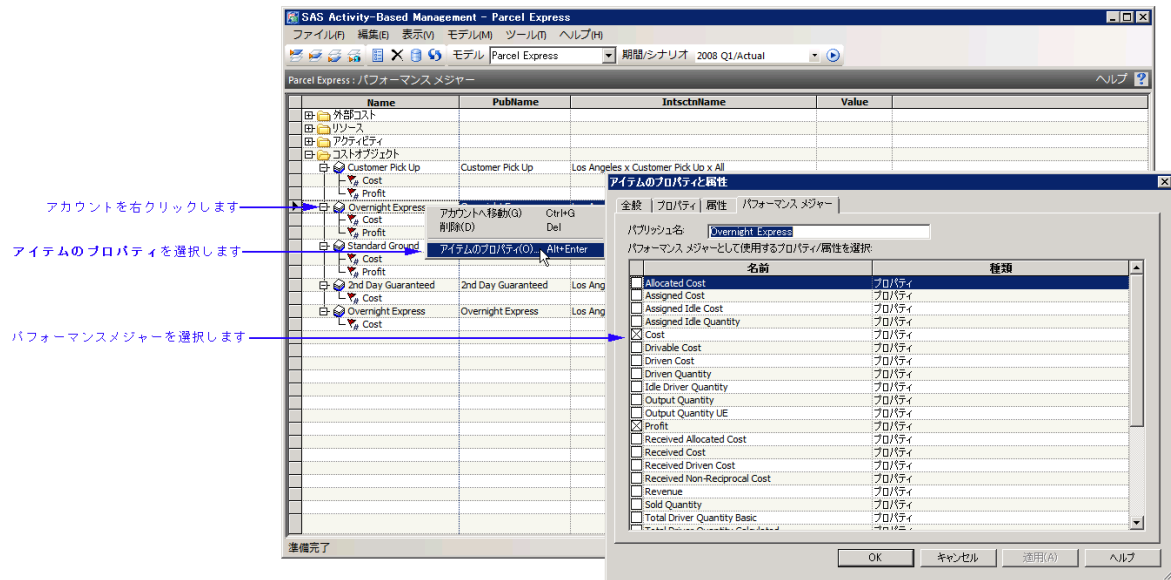
パフォーマンス メジャービューが開いて、アカウントに追加されているパフォーマンスメジャーがすべて表示されます。



パフォーマンスメジャーの変更

パフォーマンスメジャービューに表示されるアカウントのパフォーマンスメジャーを追加、削除するには、アカウントを右クリックして、アイテムのプロパティを選択します。

ただし、アカウントにパフォーマンスメジャーがないため、パフォーマンスメジャービューに表示されない場合、パフォーマンスメジャーの追加は、前述のようにモジュールビューからのみ可能です。



テーブルのパブリッシュ形式の選択

概要

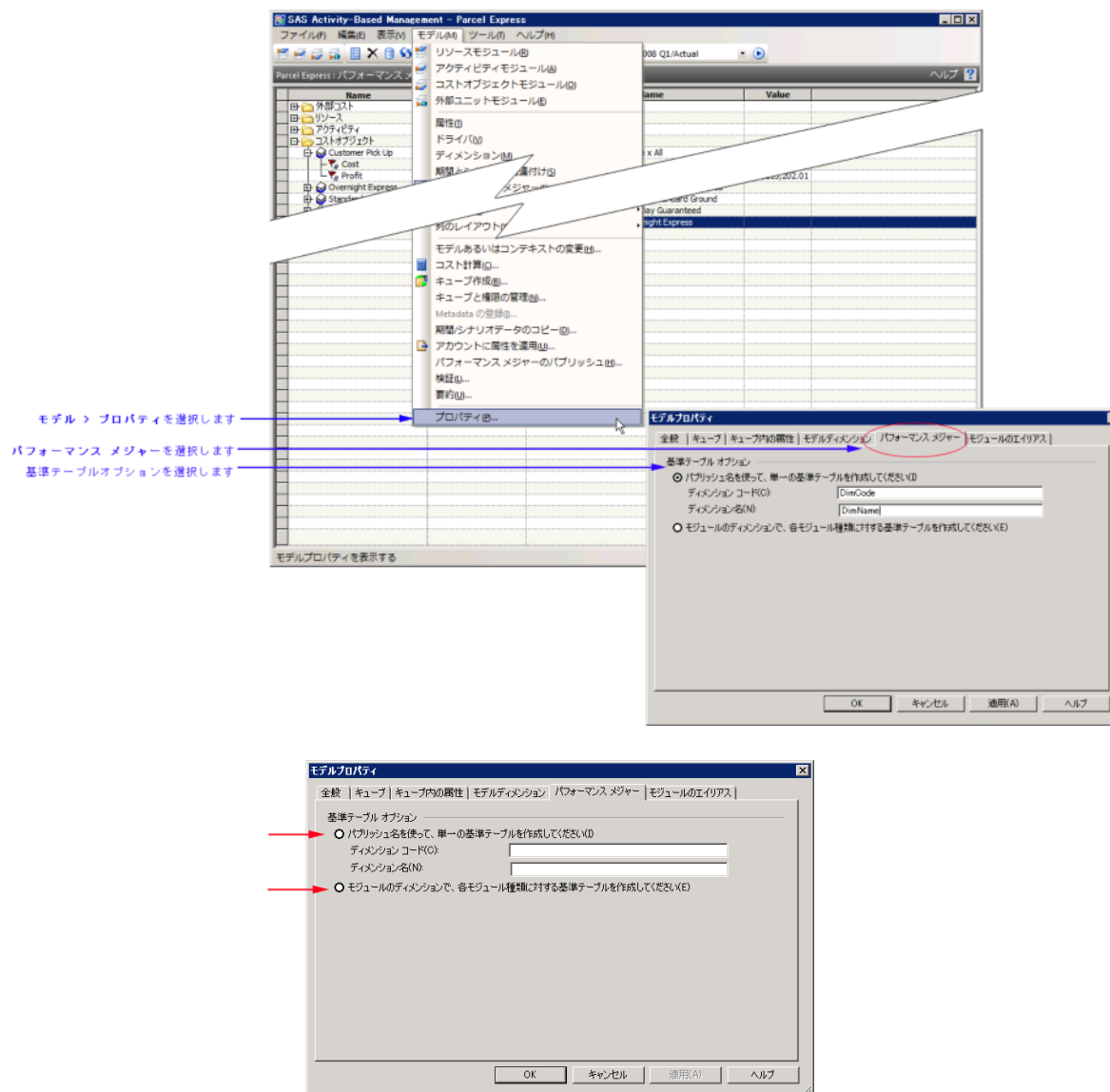
パフォーマンスメジャーをパブリッシュするには、出力テーブルのオプションを選択します。モデルデータを SAS Strategy Management にパブリッシュするには、2 つのオプションがあります。

- “パブリッシュ名を使って、単一の基準テーブルを作成してください” (528 ページ)
- “モジュールのディメンションで、各モジュール種類に対する基準テーブルを作成してください” (529 ページ)

1. **モデル** ⇒ **プロパティ**を選択します。

モデルプロパティウィンドウが開きます。

2. **パフォーマンス メジャー**タブを選択します。
3. 出力テーブルのオプションを選択します。



パブリッシュ名を使って、単一の基準テーブルを作成してください

このオプションを選択すると、SAS Activity-Based Management モデルごとに階層テーブルと基準テーブルが 1 つずつ作成されます。基準テーブルには、ディメンションメンバを含む 1 つのディメンション列が含まれます。それぞれの名前はアカウントの“パブリッシュ名”です(“[パフォーマンスメジャーの選択](#)”(524 ページ)を参照)。このオプションを使用して、SAS Activity-Based Management 基準を SAS Strategy Management スコアカードの 1 つのディメンションに要約します。

SAS Strategy Management にパブリッシュするディメンションコードとディメンション名を入力すると、SAS Activity-Based Management モデルのディメンションが一意に区別されます。

次に、このオプションを選択した場合のサンプルの階層テーブルと基準テーブルを示します。

モデルディメンション

Name	ShortRef	Reference	DimLevelName
Activities	Act	Act	
Channel	Chnl	Chnl	
General Ledger	GL	GL	
External Units	Ext	Ext	
Organization	Org	Org	
Products and Services	Prod_Serv	Prod_Serv	
2nd Day Guaranteed		2nd Day Guaranteed	Level1
Overnight Express		Overnight Express	Level1
Standard Ground		Standard Ground	Level1
Region	Reg	Reg	

モデル参照

階層テーブル

Dimension	Level1	Reference
1 DimName		DimCode
2 DimName	2nd Day Guaranteed	2nd Day Guarant...
3 DimName	Customer Pick Up	Customer Pick Up
4 DimName	Drop Box	Drop Box
5 DimName	Overnight Express	Overnight Express
6 DimName	Standard Ground	Standard Ground
7 DimName	Storefront	Storefront

モデル参照

基準テーブル

DimCode	Scenario	Period	StartDate	EndDate	StmTimePeriod	Measure	Value
1 Customer Pick Up	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	301244.49302
2 Customer Pick Up	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	213202.00698
3 Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	126090.45033
4 Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	108580.29967
5 Standard Ground	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	105491.87395
6 Standard Ground	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	125758.12605
7 2nd Day Guarante...	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	69662.168734
8 2nd Day Guarante...	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	-21136.41873
9 Customer Pick Up	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	2538.6476537
10 Drop Box	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	1015.4590615
11 Drop Box	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	0
12 Storefront	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	12693.238269
13 Storefront	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	0

注: SAS Strategy Management で使用する場合、ディメンション名に空白を含めることはできません(ODBC 制限)。

モジュールのディメンションで、各モジュール種類に対する基準テーブルを作成してください

このオプションを選択すると、SAS Activity-Based Management モデルのモジュールごとに基準テーブルが作成されます。基準テーブルには、モジュールの各ディメンションに結び付くディメンション列が含まれ、このモジュールの SAS Activity-Based Management ディメンションメンバから作成されたディメンションメンバが挿入されます。SAS Strategy Management スコアカードで SAS Activity-Based Management 基準のディメンションの詳細を管理する場合、このオプションを使用します。

次に、このオプションを選択した場合のサンプルの階層テーブルと基準テーブルを示します。

モデルディメンション

	Name	ShortRef	Reference	DimLevelName
Activities	Act	Act		
Channel	Chnl	Chnl		
General Ledger	GL	GL		
External Units	Ext	Ext		
Organization	Org	Org		
Products and Services	Prod_Serv	Prod_Serv		
2nd Day Guaranteed		2nd Day Guarant		Level1
Overnight Express		Overnight Expres		Level1
Standard Ground		Standard Ground		Level1
Region	Reg	Reg		

階層テーブル

PE_STM_HIER_CHNL ▾			
	1	Req	PE_STM_HIER_CUSTOM ▾
	2	Req	PE_STM_HIER_EXT ▾
	3	Req	PE_STM_HIER_GL ▾
	4	Req	PE_STM_HIER_ORG ▾
	1	Chg	PE_STM_HIER_REG ▾
	2	Chg	PE_STM_HIER_PROD_SERV ▾
	3	Chg	
	4	Chg	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4	Req	
	1	Req	
	2	Req	
	3	Req	
	4		

基準テーブル

基準テーブル

PE_STM_METRIC_RESOURCE

PE_STM_METRIC_ACTIVITY

PE_STM_METRIC_EXTERNALUNIT

PE_STM_METRIC_COSTOBJECT

	Reg	Chnl	Prod_Serv	Scenario	Period	StartDate	EndDate	StmTimePeriod	Measure	Value
1	Los Angeles	Customer Pick Up	All	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	301244.49302
2	Los Angeles	Customer Pick Up	All	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	213202.00698
3	Los Angeles	Customer Pick Up	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	126090.45033
4	Los Angeles	Customer Pick Up	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	108580.29967
5	Los Angeles	Customer Pick Up	Standard Ground	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	105491.87395
6	Los Angeles	Customer Pick Up	Standard Ground	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	125758.12605
7	Los Angeles	Customer Pick Up	2nd Day Guarant...	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	69662.168734
8	Los Angeles	Customer Pick Up	2nd Day Guarant...	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	-21136.41873
9	Los Angeles	Customer Pick Up	All	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	2538.6476537
10	Los Angeles	Drop Box	All	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	1015.4590615
11	Los Angeles	Drop Box	All	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	0
12	Los Angeles	Storefront	All	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	12693.238269
13	Los Angeles	Storefront	All	Plan	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Profit	0

基準テーブルの折りたたみ

モジュールのディメンションで、各モジュール種類に対する基準テーブルを作成してくださいオプションを選択する場合、SAS Activity-Based Management でパブリッシュされた基準テーブルを SAS Strategy Management で使用できるように後処理する必要があります。これは、SAS Strategy Management では 1 つのテーブルに含められるディメンションは 1 つですが、SAS Activity-Based Management でパブリッシュされた基準テーブルには複数のディメンションが含まれているためです。そのため、後処理を実行し、SAS Strategy Management にインポートする基準テーブルを、ディメンションが 1 つ含まれるように折りたたむ必要があります。

簡単な例として、次の図のように、コストオブジェクトモジュールの 4 つのアカウントをパフォーマンスメジャーとして選択しているとします。

モデル Parcel Express 期間/シナリオ 2008 Q1/Actual

Parcel Express : パフォーマンス メジャー

Name	PubName	IntsctnName	Value
外部コスト			
リソース			
アクティビティ			
コストオブジェクト			
2nd Day Guaranteed	2nd Day Guaranteed	Los Angeles x Customer Pick Up x 2nd Day Guaranteed	
Cost			\$69,662.17
Overnight Express	Overnight Express	Los Angeles x Customer Pick Up x Overnight Express	
Cost			\$126,090.45
2nd Day Guaranteed	2nd Day Guaranteed	Los Angeles x Drop Box x 2nd Day Guaranteed	
Cost			\$49,362.46
Overnight Express	Overnight Express	Los Angeles x Drop Box x Overnight Express	
Cost			\$15,093.13









モジュールのディメンションで、各モジュール種類に対する基準テーブルを作成してくださいオプションを選択してパフォーマンスメジャーをパブリッシュすると、次の図のような基準テーブルが作成されます。

PE_STM_METRIC_COSTOBJECT

	REG	CHNL	PROD_SERV	SCENARIO	PERIOD	STARTDATE	ENDDATE	STMTIMEPEIOD	MEASURE	VALUE
1	Los Angeles	Customer Pick Up	2nd Day Guaranteed	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	69662.168734
2	Los Angeles	Customer Pick Up	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	126090.45033
3	Los Angeles	Drop Box	2nd Day Guaranteed	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	49362.464949
4	Los Angeles	Drop Box	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	15093.128801

後処理を行い、CHNL (Channel)ディメンションを基準にテーブルを折りたたむと、SAS Strategy Management で使用可能な(1 ディメンションを含む)テーブルが作成されます。

PE_STM_METRIC_COSTOBJECT ▾

	 CHNL	 SCENARIO	 PERIOD	 STARTDATE	 ENDDATE	 STMTIMEPEIOD	 MEASURE	 VALUE
1	Customer Pick Up	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	195752.6191
2	Drop Box	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	64455.59375

この例では、次の図のように、VALUE 列に折りたたまれた行の VALUE 列の合計が含まれています。

PE_STM_METRIC_COSTOBJECT ▾

REG	CHNL	PROD_SERV	SCENARIO	PERIOD	STARTDATE	ENDDATE	STMTIMEPEIOD	MEASURE	VALUE	
1	Los Angeles	Customer Pick Up	2nd Day Guaranteed	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	69662.168734
2	Los Angeles	Customer Pick Up	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	126090.45033
3	Los Angeles	Drop Box	2nd Day Guaranteed	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	49362.464949
4	Los Angeles	Drop Box	Overnight Express	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	15093.128801

PE_STM_METRIC_COSTOBJECT ▾

CHNL	SCENARIO	PERIOD	STARTDATE	ENDDATE	STMTIMEPEIOD	MEASURE	VALUE	
1	Customer Pick Up	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	195752.6191
2	Drop Box	Actual	2008 Q1	2008-01-01	2008-03-31	2008-03-31	Cost	64455.59375

後処理で SUM 関数を使用する必要はありません。行は自由に折りたたむことができます。

メジャーのパブリッシュ

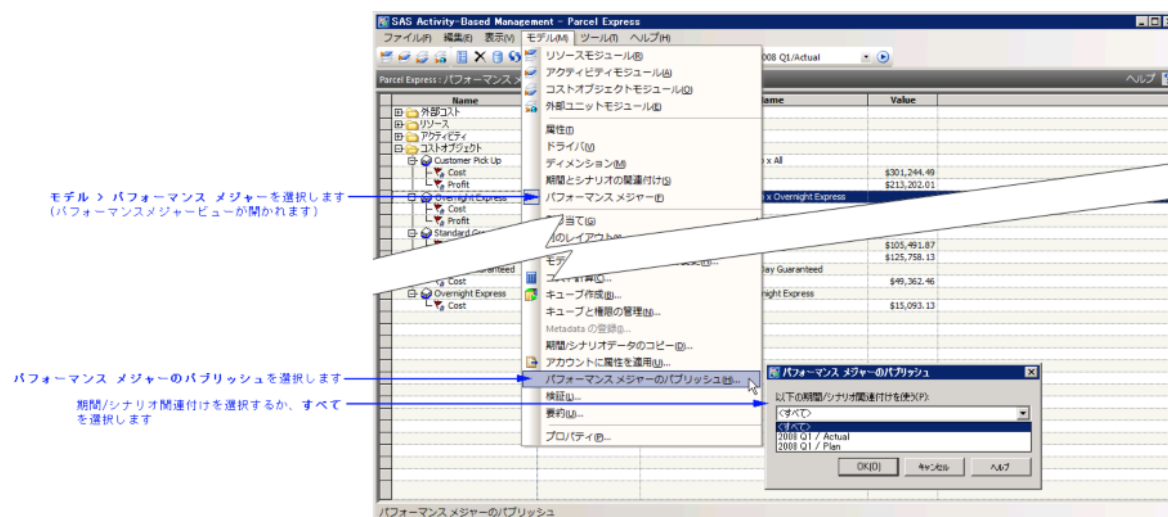
手順

パフォーマンスメジャーをパブリッシュするには、次の操作を行います。

1. モデル ⇒ パフォーマンス メジャーを選択します。
パフォーマンス メジャービューが開きます。
2. パフォーマンス メジャーのパブリッシュを選択します。

パブリッシュする期間/シナリオを選択するためのパフォーマンス メジャーのパブリッシュウィンドウが開きます。

3. パブリッシュする期間/シナリオ関連付けを選択するか、すべてを選択してすべての期間/シナリオ関連付けのデータをパブリッシュします。



メジャーのインポート

インポートの詳細については、ヘルプメニューから *SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の SAS Strategy Management に関する章を参照してください。次の URL から最新版にアクセスすることができます: <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/>

パフォーマンスメジャービュー

パフォーマンスメジャービューについて

	Name	PubName	IntsctnName	Value
田	外部コスト			
田	リソース			
田	Wages	Wages	Beaverton x Wages	
田	Cost			\$1,638,600.00
田	アクティビティ			
田	コストオブジェクト			

パフォーマンス メジャービューでは、SAS Strategy Management にパブリッシュするパフォーマンスメジャーを操作できます。詳細については、*SAS Activity-Based Management Data Administration Guide* の“Working with Other Programs”を参照してください。

注: パフォーマンス メジャービューの情報は、直接編集できません。

関連項目:

詳細については、ヘルプメニューおよび <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based*

Management Data Administration Guide の“SAS Strategy Management”の章を参照してください。

パフォーマンスメジャービューの表示

モデルモードでモデルを開いて、**モデル** ⇨ **パフォーマンス メジャー**を選択します。

タスク

パフォーマンスメジャーの追加、削除

アカウントのパフォーマンスメジャーを追加または削除するには、パフォーマンスメジャービューを使用します。ただし、アカウントをパフォーマンスメジャービューに表示するためには、アカウントにパフォーマンスメジャーを少なくとも 1 つ追加しておく必要があります。

1. パフォーマンス メジャービューから、変更するパフォーマンスメジャーを含むアイテムを選択します。
2. **編集** ⇨ **アイテムのプロパティ**を選択します。

アイテムのプロパティと属性ダイアログボックスが表示されます。

パフォーマンスメジャーのパブリッシュ

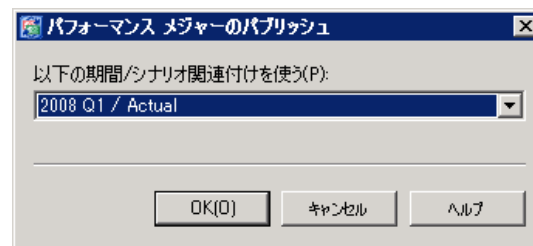
パフォーマンス メジャービューから、**モデル** ⇨ **パフォーマンス メジャーのパブリッシュ**を選択します。

パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックスが表示されます。

パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックス

パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックスについて

パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックスで、SAS Strategy Management で使用するためにパブリッシュする期間/シナリオ関連付けを選択します。



関連項目:

詳細については、ヘルプメニューおよび <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based*

Management Data Administration Guide の“SAS Strategy Management”の章を参照してください。

パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックスの表示

1. モデルを開きます。
2. **モデル** ⇒ **パフォーマンス メジャー**を選択します。

パフォーマンス メジャービューが開きます。“[パフォーマンスメジャービュー](#)” (532 ページ)を参照してください。

	Name	PubName	IntsctnName	Value
田	外部コスト			
田	リソース			
▶	Wages	Wages	Beaverton x Wages	
田	Cost			\$1,638,600.00
田	アクティビティ			
田	コストオブジェクト			

3. パフォーマンス メジャービューから、**モデル** ⇒ **パフォーマンス メジャー**のパブリッシュを選択します。

18 部

モデルデータのレポート

54 章	
レポートについて	537
55 章	
相関レポート	549
56 章	
方法	561

54 章

レポートについて

レポート	538
レポートについて	538
モデルサイズとレポートパフォーマンス	538
レポートヘッダー	538
レポートの設定	539
レポート設定	539
レポートデータの保存	539
SAS Activity-Based Management へのレポートの追加	540
レポートモード	540
概要	540
レポートモードの表示	540
レポートを開く	540
レポートワークスペース	540
レポートワークスペースについて	541
レポートワークスペースの表示	541
レポート設定を開く	541
レポート設定の削除	542
レポート設定の変更	542
レポートのパブリッシュ	542
情報の並べ替え	542
レポートページ	542
レポートページについて	543
レポートページの表示	543
レポート設定を開く	543
レポート設定の変更	544
レポート設定の保存	544
レポートのパブリッシュ	544
レポートのエクスポート	544
レポートテンプレート	545
レポートのパブリッシュダイアログボックス	545
レポートのパブリッシュダイアログボックスについて	545
レポートのパブリッシュダイアログボックスの表示	545
情報の指定	545
新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックス	545
新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックスについて	546
新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックスの表示	546
情報の指定	546
レポート設定ダイアログボックス	546

レポート設定ダイアログボックスについて 546

レポート設定ダイアログボックスの表示 547

レポート

レポートについて

レポートは、Adobe Portable Document Format (PDF)ファイル形式で作成されます。

レポートウィザードの手順に従ってデータを選択し、レポートを実行し、保存します。作成されたレポートは、表示、印刷、エクスポートできます。

モデルサイズとレポートパフォーマンス

モデルサイズは、レポートのパフォーマンスに影響します。特に、詳細データを大量に含むマルチレベル貢献レポートは影響を受けます。データ収集の所要時間は、モデルのサイズに依存します。同様に、複数の期間/シナリオ関連付けのデータを含むレポートの作成には、1つの期間/シナリオ関連付けのデータを含むレポートの作成よりも長い時間が必要です。

大きなモデルのレポートを作成する際、すべてのモジュールを対象にしたレポートを1つ作成するのではなく、モジュール別にレポートを1つずつ作成することを検討するようにします。同様に、複数の期間/シナリオ関連付けを対象にしたレポートを1つ作成するのではなく、期間/シナリオ関連付け別にレポートを1つずつ作成するようにします。

レポートヘッダー

レポートには、そのレポートに関する情報が表示されるヘッダーがあります。次の情報のすべてまたは一部がレポートのヘッダーに表示されます。

情報	説明
モデル名	レポートに選択されているモデル。
モジュール	レポートに選択されている1つ以上のモジュール。1ページに1つのモジュールが表示されます。
期間	レポートに選択されている期間。
シナリオ	レポートに選択されているシナリオ。
表示パースペクティブ	レポートに選択されているディメンション。
フィルタ適用	レポートのアイテムの選択に使用された1つ以上の属性。レポートデータの選択に使用した属性は、レポートの最後のページに表示されます。

レポートの設定

レポートの設定について

レポートを作成するには、レポートウィザードの手順に従ってデータを選択し、レポートを実行し、保存します。選択したモジュール、期間、シナリオ、ディメンションに基づき、レポートに含まれるデータが決定されます。“[レポートの作成](#)” (561 ページ) を参照してください。

注: レポートの作成には、キューブの作成は必要ありません。ただし、次のレポートを作成するには、モデルのファクトテーブルが作成されている必要があります。

- リソース貢献
- 最遠割り当て先
- 利益と損失(リソース貢献)

アカウントの選択

Windows の標準的な選択方法を使用して、モジュール内の特定のアカウントに関するレポートを作成できます。

ディメンションの選択

レポートの種類によっては、ディメンションを選択して、データを分類または抽出する必要があります。ディメンションの選択順序は、レポートの表示結果に影響します。

レポート設定

レポート設定について

レポートを開く際、このレポートの選択内容を保存して、後で指定したモデルに使用できます。保存されたこの情報が、レポート設定です。

レポート設定の保存

レポートのデータを保存するのではなく、後で使用するレポート設定を保存します。レポートのデータを保存する場合、レポートデータの保存方法が複数用意されています。

同一サーバー上に保存されたすべてのレポート設定が、ワークスペースマネージャに表示されます。そのため、組織内でレポート設定の保存と命名のガイドラインを用意する必要があります。

期間/シナリオ関連付けの選択

保存されているレポート設定を実行または開く前に、開いているモデルの期間/シナリオ関連付けを選択します。保存されているレポート設定を開く際、開いているモデルとその現在の期間/シナリオの使用が可能であれば使用されます。

レポートデータの保存

レポートデータの保存について

レポートのデータを保存するには、エクスポートまたはパブリッシュします。

レポートのエクスポート

レポートの実行後に、会社のロゴを追加するなどのレポートのカスタマイズをする場合、レポートをエクスポートします。

レポートのパブリッシュ

ある時点のデータを反映したレポート結果を他のユーザーに確認してもらう場合、レポートをパブリッシュします。レポートをパブリッシュすると、他のユーザーがレポートを再実行することなく、レポートデータを確認できます。実行に時間がかかるレポートの場合、レポートをパブリッシュすることで他のユーザーの時間を節約できます。

SAS Activity-Based Management へのレポートの追加

SAS Enterprise Guide などの他のアプリケーションでレポートを作成できます。ただし、レポートを SAS Activity-Based Management で表示するには、レポートを手動で挿入 (パブリッシュ) する必要があります。

関連項目:

- “レポートモード” (540 ページ)
- “レポートワークスペース” (540 ページ)

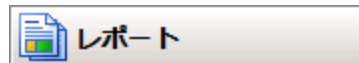
レポートモード**概要**

レポートモードでは、レポート設定を開いたり作成したりできます。

レポート設定を選択せずにレポートモードを開始すると、レポートページが表示されます。

レポートモードの表示

- レポートが開かれていない場合は、ナビゲーションペインのレポート



をクリックします。

- レポートが開かれている場合は、レポートワークスペースツールバーのレポートワークスペースへ移動アイコン




をクリックします。

レポートを開く

1. レポート設定メニューから、設定を選択します。

注: レポートを開いていない場合、レポートワークスペースにレポートを開きます。

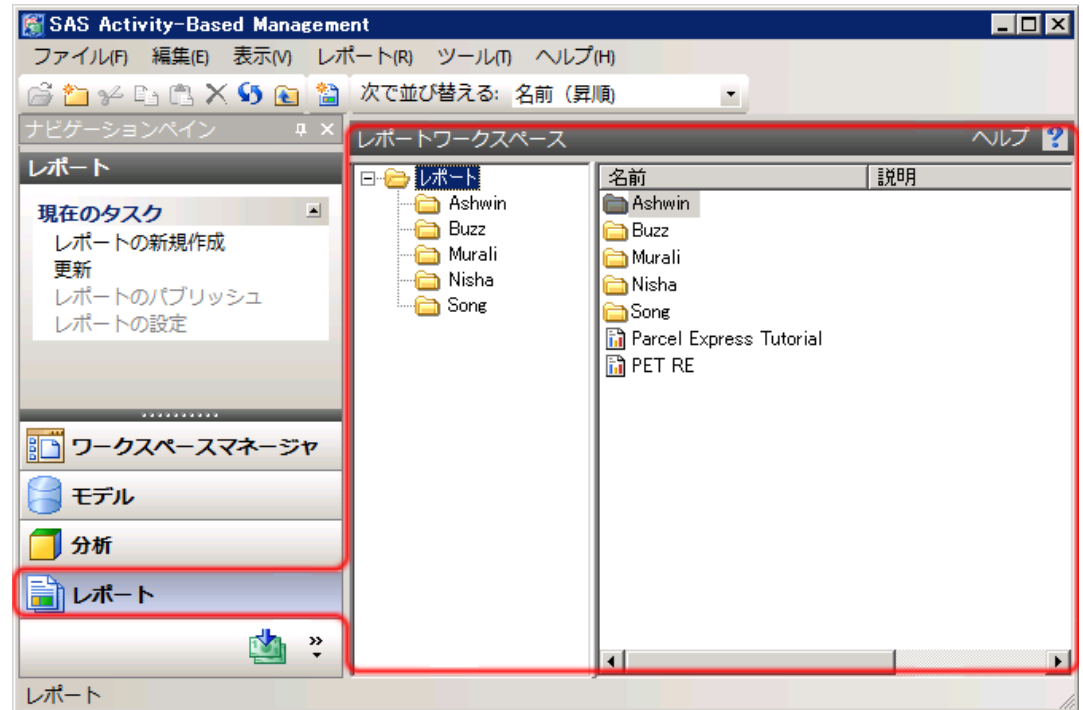
2.  をクリックします。

レポートワークスペース

レポートワークスペースについて

レポートワークスペースでは、レポート設定を開いたり作成したりできます。


注: 権限によっては、機能を使用できません。



フォルダとレポート設定のリストにはワークスペースマネージャのサーバーエリアのレポートブランチが示されます。

レポートワークスペースの表示

次のどちらかの操作を行います。

- レポートが開かれていない場合は、ナビゲーションペインのレポートをクリックします。
- レポートが開かれている場合は、ツールバーのレポートワークスペースへ移動アイコン  をクリックします。

レポート設定を開く

1. 左側のフォルダのリストから、フォルダを選択します。
2. 右側のレポート設定のリストで、レポート設定をクリックします。



ヒント  をクリックして開くこともできます。

レポート設定の削除

レポート設定の右側にある削除リンクをクリックします。

注: 読み取り権限のみ許可されているグループのメンバの場合、削除は使用できません。

レポート設定の変更

レポート設定の右側にある構成設定リンクをクリックします。

レポートウィザードで前回選択したこのレポート設定の内容が表示されます。

注: モデル作成権限を有していても、グループ権限が読み取りのみの場合、構成設定は使用できません。

レポートのパブリッシュ

レポート設定の右側にあるパブリッシュリンクをクリックします。

レポートのパブリッシュダイアログボックスが表示されます。

注: モデル作成権限を有していても、グループ権限が読み取りのみの場合、パブリッシュは使用できません。

情報の並べ替え

1. 次で並び替えるリンクをクリックします。
メニューが表示されます。
2. オプションを選択します。次の並べ替えオプションの条件があります。

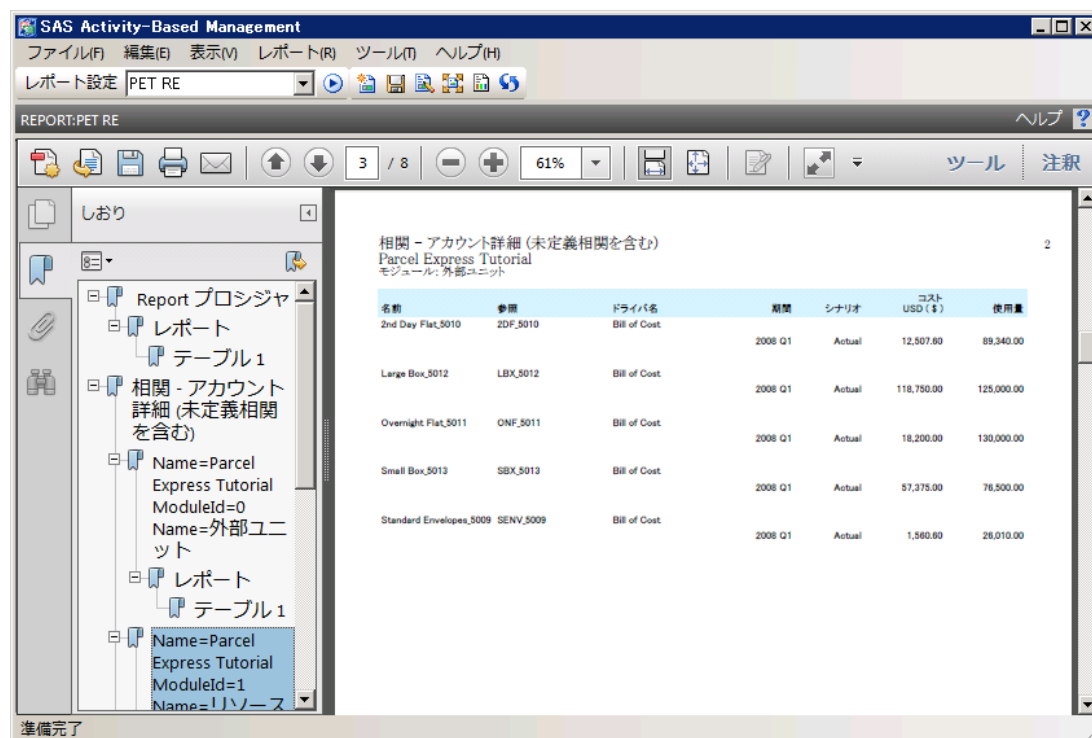
名前	レポート設定の名前
日付と時刻	レポート設定の作成日時

関連項目:

- “レポートモード” (540 ページ)
- “レポート” (538 ページ)

レポートページ

レポートページについて



レポートページでは、レポート設定の操作、レポートの作成や表示を行えます。


レポートを設定する場合、まずモデルとレポートテンプレートを選択します。次に、レポートウィザードの手順に従ってデータを選択し、レポートを実行し、保存します。作成されたレポートは、表示、印刷、エクスポートできます。

レポートは PDF 形式で表示されるため、Web 会議を行える Acrobat Connect や、ドキュメントの作成や確認を共同で行える Acrobat Buzzword などの一部の Adobe Acrobat 機能をメニューバーから使用できます。これらの機能は、SAS Activity-Based Management には組み込まれていません。詳細については、Adobe 社から提供されているドキュメントを参照してください。

レポートページの表示

レポートをレポートモードで開きます。

レポート設定を開く

1. レポート設定メニューから、設定を選択します。
2.  をクリックします。

レポート設定の変更

1. レポート設定を開きます。
2. **レポート** ⇒ **構成設定**を選択します。

レポートウィザードで前回選択したこのレポート設定の内容が表示されます。

レポート設定の保存

1. レポート設定を開きます。
2. **レポート** ⇒ **構成設定を保存**を選択します。

表示されたレポートウィザードの最終ページに、レポート設定の名前を指定します。

レポートのパブリッシュ

1. レポート設定を開きます。
2. **レポート** ⇒ **パブリッシュ**を選択します。

レポートのパブリッシュダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、次のディレクトリにパブリッシュされたレポートが保存されます。

```
C:/<Your_Server_Name>/Activity-Based Management Solution/  
Enterprise Server/SasSolutions/ABM/Reports/Published
```

レポートのエクスポート

レポートをカスタマイズする場合や、他のレポートツールを使用する場合に、レポートをエクスポートします。SAS Enterprise Guide をフロントエンドとして使用する場合は、レポートを一時保存場所にエクスポートするのではなく、SAS Activity-Based Management のレポートデータ選択アドインを使用できます。

1. **ファイル** ⇒ **エクスポート** ⇒ **レポートデータ**を選択します。
レポートデータウィザードが表示されます。
2. レポートの種類を選択します。選択した種類によって、次からのウィザードページでの選択肢が異なります。たとえば、**ディメンションビュー**、**利益と損失**、**利益クリフ**ではそれぞれウィザードページが異なるため、データにフィルタを適用するには表示パースペクティブ(データの表示方法)を指定する必要があります。
3. レポートを作成するモデルを1つ以上選択します。
4. 期間/シナリオ関連付けを1つ以上選択します。
5. モジュールを選択します。複数のモデルを選択すると、ウィザードの**選択項目の使用オプション**は使用できません。ウィザードの後続ページを使用して、レポート結果にフィルタを適用できます。
6. データベースにエクスポートする場合、データベースに接続します。

注: SAS Enterprise Guide 内からデータをエクスポートできます。

レポートテンプレート

レポートテンプレートは、レポートのレイアウトやデータフィールドを指定するファイルです。レポートのデータを指定するものではありません。レポートを作成する際、レポートテンプレートを選択します。

SAS Activity-Based Management に同梱された複数の事前定義されているレポートテンプレートにより、設定形式が提供され、レポートに含めるデータの量と種類を柔軟に選択できます。次のテンプレートの詳細については、ヘルプメニューからアクセス可能な SAS Activity-Based Management Data Administration Guide の“Working with Reports”を参照してください。また、最新版は、<http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/>で確認できます。

最遠割り当て先	利益クリフ
ディメンションの属性 コスト	リソース貢献
ディメンションの属性 ユニットコスト	属性によるリソース貢献
ディメンションビュー	リソース貢献 - 中間
ドライバ - コストとレート	シングルステージ割り当て
未使用キャパシティ	シングルステージ貢献
モジュール階層	割り当てられていないコスト
マルチレベル貢献	ユニットコスト

レポートのパブリッシュダイアログボックス

レポートのパブリッシュダイアログボックスについて

レポートのパブリッシュダイアログボックスでは、他のユーザーが使用できるようにレポートをパブリッシュできます。

レポートのパブリッシュダイアログボックスの表示

次のどちらかの操作を行います。

- レポートワークスペースで、レポート設定の隣にあるパブリッシュリンクをクリックします。
- レポートビューで、レポートのパブリッシュリンクをクリックします。

情報の指定

1. 名前を入力します。
2. (オプション)説明を入力します。
3. 形式を選択します。

新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックス

新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックスについて

新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックスで、ワークスペースマネージャに、Adobe Portable Document Format (PDF)形式または Rich Text Format (RTF)形式で作成されたレポートを追加できます。

注: 次のタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。

新しいパブリッシュされたレポートの挿入ダイアログボックスの表示

ワークスペースマネージャで、パブリッシュされたレポートを選択し、ファイル ⇨ パブリッシュされたレポートを挿入を選択します。

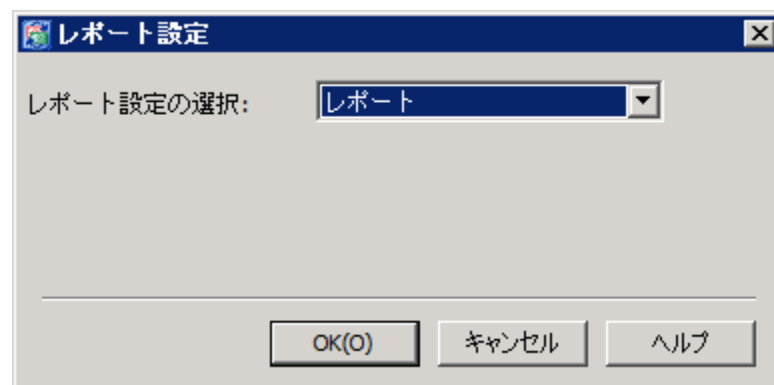
情報の指定

1. レポート名を入力します。
2. レポートソースに、レポートの保存場所のフルパスを入力します。
あるいは、...をクリックして、場所を参照します。
3. (オプション)説明を入力します。
4. **OK** をクリックします。

レポート設定ダイアログボックス

レポート設定ダイアログボックスについて

このダイアログボックスを使用して、別の保存済みレポート設定を開きます。



レポート設定ダイアログボックスの表示

レポート ⇨ 保存済みレポート設定を開くを選択します。

注: このメニュー項目は、レポートワークスペースから使用できます。

55 章

相関レポート

相関レポートについて	549
はじめに	549
相関の解釈	550
未定義相関	551
期間数	552
相関に影響する要因	552
相関レポートの作成	553
レポート出力	555
概要	555
レポートグラフ	556
アカウント要約	557
アカウント詳細	557
未定義相関	558
レポートのエクスポート	559

相関レポートについて

はじめに

相関レポートには、複数の期間における製品およびサービスの需要とそれらを作成するためのコストの間の相関が表示されます。相関レポートでは、需要の増減からコストをどのくらい確実な予測ができるのかという疑問への答えが提供されます。外向きの割り当てがある、または売上量がゼロではないすべてのアカウントに対し、相関レポートにはそのアカウントの需要とそのコストの間の相関の強さが示されます。

レポートでは、次のようにモデルを複数の期間において評価します。

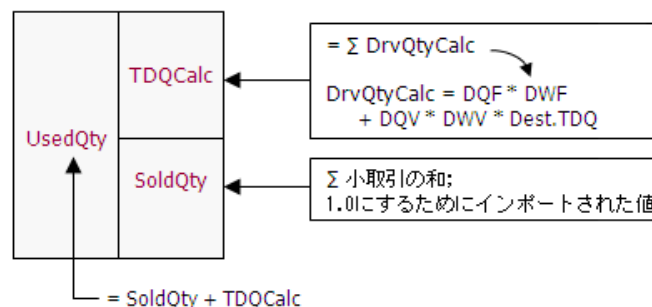
- 売上とプロセスの調整時にドライバ量の変更が確かにコストに影響するかどうかを確認する
- 弱い相関(コストの割り当てに使用されるメジャーの単位の変更や、モデルを介した貨幣フローの再定義が必要)を特定する
- 予測とシミュレーションに信頼できる予測モデルの基盤を提供する

アカウントのコストを評価するために、相関レポートではその Cost プロパティが使用されます。

アカウントと関連付けられている需要を評価するために、相関レポートではアカウントの Used Quantity プロパティが使用されます。通常、TDQ プロパティは需要のメジャー

ですが、TDQUE (ユーザー入力 TDQ)によってオーバーライドされる可能性がある、つまり需要がユーザー入力値によって人為的に歪められる場合があるため、使用されません。

Used Quantity は、TDQCalc と SoldQty の合計です。TDQCalc は、アカウントからの外向きフローの合計です。アカウントによって作成される作業量と解釈されます。または、アカウントの需要と解釈されます。3 つの量の間の関係は、次のように図示できます。

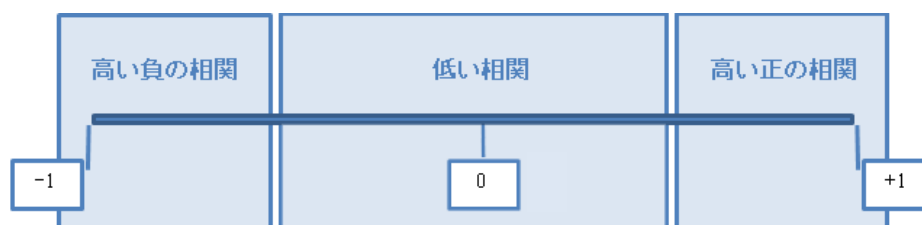


ダイアグラム全体については、“量” (592 ページ)を参照してください。

相関レポートにより、複数の期間におけるアカウントの Cost プロパティと Used Quantity プロパティの間の相関を表すグラフが作成されます。また、相関を要約するグラフ、個別のアカウントに関する情報を表示する詳細リストも作成されます。

相関値を計算するため、相関レポートでは Base SAS の CORR プロシジャを使用して、Pearson 積率相関係数を決定します。CORR プロシジャの詳細については、<http://support.sas.com/documentation/cdl/en/procstat/63963/PDF/default/procstat.pdf> から *Base SAS Procedures Guide: Statistical Procedures* を参照してください。わかりやすい概要については、http://en.wikipedia.org/wiki/Pearson_product-moment_correlation_coefficient の“Pearson product-moment correlation coefficient”に関する Wikipedia の記事を参照してください。

相関の解釈



+1 に近い相関値は正の相関を表します。このとき、Used Quantity が増加するときに Cost が増加します。相関値が+1 である場合、Cost と Used Quantity の間に完全な相関があり、その結果、Used Quantity からの Cost の予測には信頼性があります。相関値が減少しゼロに近づくごとに、Cost の予測力の信頼性は低下します。

相関値がゼロということは、Cost と Used Quantity の間に相関がないということです。Used Quantity の増減から Cost は予測できません。

-1 に近い相関値は負の相関を表します。このとき、Used Quantity が増加するときに Cost が減少する、または Used Quantity が減少するときに Cost が増加します。正の相関と同様に、相関値が-1 の場合は Used Quantity からの Cost を正確に決定できません。相関値が増加しゼロに近づくごとに、Cost の予測力の信頼性は低下します。

次の表に、相関の複数の例を示します。

アカウント	データの種類	1 月	2 月	3 月	相関	説明
A ₁	Cost	1000	2000	3000	+1	Cost と Used Quantity は異なるレートで増加しますが、Used Quantity のレートは Cost のレートから予測できません。
	Used Quantity	30	35	40		
A ₂	Cost	1000	2000	3100	0.9868	不完全な相関
	Used Quantity	30	35	40		
B	Cost	1000	900	800	-1	Used Quantity が増加すると Cost が減少します。
	Used Quantity	30	50	70		
C	Cost	1000	2000	3000	0	Used Quantity が増加し減少しても、Cost は常に増加します。
	Used Quantity	10	20	10		
D	Cost	1000	2000	3000	N/A	Used Quantity は常に同じです(例: パーセントドライバ)
	Used Quantity	100	100	100		
E	Cost	1000			N/A	1 期間のみ
	Used Quantity	10				

相関を解釈するもう 1 つの方法として、線形回帰に関連付ける方法があります。アカウントの Cost (Y)と Used Quantity (X)をプロットして回帰線を作成する場合、相関は点が常にその線に近いかどうかを示します。点は常に近くない場合は相関していません。相関は、2 つの変数の間の線形従属の強さのメジャーです。

相関係数の解釈は、コンテキスト依存です。0.9 という相関は、高品質の機器を使用して物理法則を検証している場合は非常に低いとみなされることがありますが、複雑な要因が正確な相関を妨げる社会科学では非常に高いとみなされることがあります。

未定義相関

アカウントの相関値が計算できず、未定義としてマーク付けされる場合として、次の 2 つがあります。

- レポートに含まれる期間中で 1 つの期間にのみにアカウントが存在する
- アカウントの Used Quantity がレポートのすべての期間にわたり同じである

これは常に、パーセントドライバを使用するアカウントに対して発生します。また、均等割り当てドライバを使用するアカウントに対しても頻繁に発生します。ただし、外向きの割り当て数が期間ごとで変わる場合を除きます。これは、他のドライバにおいても、各期間の売上または作業量が同じ場合に発生します。

未定義相関のアカウントは、相関レポートの別のセクションに表示されます。相関レポートの作成時に**未定義相関値のアカウントを含む**を選択して、そのセクションを含めることができます。

オプション選択

レポートの表示オプションを選択:

- ☐ 次より大きいコストのアカウントを含む(D)
- ☒ 未定義相関値のアカウントを含む(A)
- ☐ 要約の表示(W)

注: アカウントに外向きの割り当てがなく、Sold Quantity の値がゼロ(または null)の場合、需要が定義されていないため、そのアカウントは相関レポートに含まれません。

期間数

2 つの期間のみを対象としたレポートの作成が可能です。それ以上の期間を含めることをお勧めします。技術的には 2 つの期間のレポートの作成が可能です。相関値が常に-1、0 または+1 であるため、結果は使用できません。

相関レポートの作成には少なくとも 12 つの期間を指定することをお勧めします。36 つの期間が理想です。

相関に影響する要因

相関は通常、完全ではありません。相関が完全な場合、需要の変化レートから予測可能なレートでコストが変化します。2 つのレートは異なりますが、相関がある場合はレートをもう 1 つのレートから予測できます。つまり、需要の変更が指定されると、コストの変化を予測できます。もう 1 つの観点から説明するために、コストと需要を 1 つのグラフ上にそれぞれプロットにするとします。ここでは、それぞれの数量は時系列で変化し、グラフ上の点の需要値から、同じ点のコストの値を予測できます。

この場合、需要とコストはなぜ相関しないのか、という疑問が発生します。一般的には、変化がいずれかでのみ発生し、もう一方では発生しないためです。

コストの変化

次に、需要に依存せずに、コストが変化する例を示します。

- インフレーションは、ほとんどのコストに広範な影響を与えます。一部のコスト(賃金など)へのインフレーションの影響は年ベースで予測可能でも、変化は月または四半期の 1 つに登録されます。結果として、アカウントの相関は、年間のすべての期間に対する相関よりもより低くなります。
- 税は、事業活動と議会の行動によって、各期間で増減する可能性があります。
- 部門を再構築するための経営上の意思決定は、過去に存在しなかったビジネスユニット(アカウント)に作業を割り当てし直したり、ビジネスユニットの人数を変更したりします。相関レポートは、再構築後のアカウントの相関の低下を示すことにより、そのような変更がどこに必要なかを識別するために使用されます。
- 特定製品をターゲットとする費用のかかるマーケティングキャンペーンでは、キャンペーンの間、これらの製品のコストが増加します。マーケティングコストが製品に割り当てられ、製品コストが product-plus-customer アカウントに割り当てられると、product-only account 相関が通常よりも低くなります。

需要の変化

コストは変化せず、需要が変化する場合を考慮する際、相関への影響はあまり明確なものではありません。考慮する場合として次があります。

- ドライバに不適切なメジャーの単位により、コストの割り当てが不正確になります。たとえば、技術サポート部門で扱う問題レポート数はすぐに使用可能なメトリックですが、それをコストの割り当てに使用すると、各問題に対処する時間が分、日、週では異なるため不正確になることがあり、これによりコストが同じままでも作業需要が期間で著しく異なるようになります。この場合、適切なメジャーの単位は、顧客との直接のやりとりなどの各種アクティビティに使用する時間数、現地での問題のトラブルシューティングに使用する時間となります。これらも期間で変化しますが、サポート問題の数ほど大幅に変化しません。

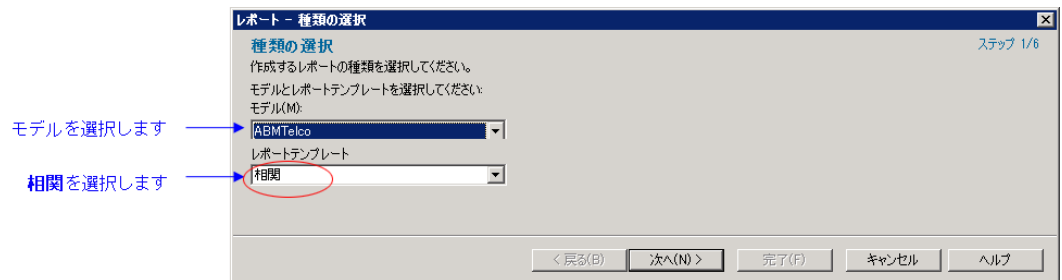
- 使用可能なキャパシティが利用されずに残されている場合、この未使用キャパシティを単に使用するために追加作業が行われます。
- 一部の作業はモデルから省略されます。たとえば、生産工程の最後に部品に対して行われる簡単な品質チェックについて考えます。チェックを行う時間は微小であるため、モデルのアクティビティとして識別するほどではありません。品質チェックの省略については、部品に関するより多くの知識と、冗長なチェックを行わない場合のコストがなければ、その良し悪しを判断できません。冗長の品質チェックが省略されたために発生するコストがありますか?あるいはこの品質チェックは不要ですか?

前出の例は、コストの変化ではなく需要の変化がさらなる分析なしでは評価が難しい状況であることを示しています。

相関レポートの作成

相関レポートを作成するには、次の操作を行います。

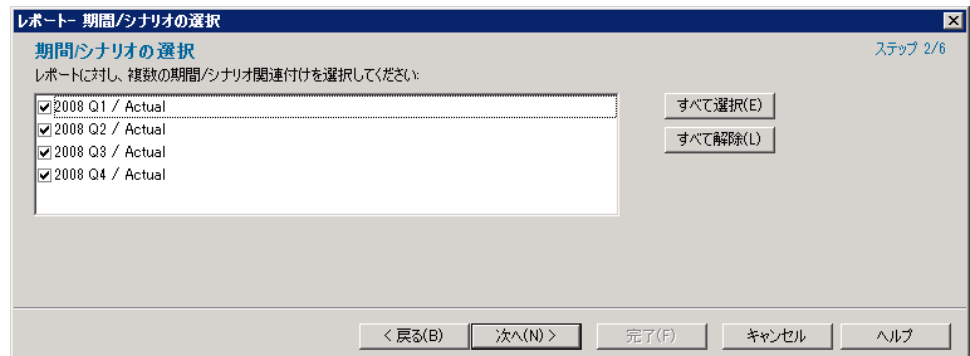
1. **新規** ⇒ **レポート**を選択します。
2. モデルを選択し、**レポートテンプレート**として**相関**を選択します。**次へ**をクリックします。



3. レポートに含める期間を選択して、**次へ**をクリックします。

注: 相関レポートを作成するには、少なくとも2つの期間を選択する必要があります。

技術的には2つの期間のレポートの作成が可能ですが、相関値が常に-1、0または+1であるため、結果は使用できません。相関レポートの作成には少なくとも12つの期間を指定することをお勧めします。36つの期間が理想です。



4. レポートに含めるモジュールを選択して、**次へ**をクリックします。

5. レポートに含めるディメンション属性を選択して、**次へ**をクリックします。

- ディメンション属性を選択しない場合、すべてのアカウントがレポートに含まれます。
- ディメンション属性を 1 つ以上(4 つまで)選択すると、レポートにはすべての選択したディメンション属性が null でないアカウントのみが含まれます。

6. レポートオプションを選択して、**次へ**をクリックします。

オプションには、相関値が 0 から+1 までなどの特定の範囲内にあるアカウントのみ表示する機能が含まれます。

7. レポート要約を確認して、**完了**をクリックします。

レポート出力

概要

相関レポートはそれぞれ、次の出力を作成します。

レポートヘッダー

レポートに選択されているオプションを表示します。

グラフ

相関係数が計算されるアカウントがあるモジュールごとに 1 つのグラフ。“[レポートグラフ](#)” (556 ページ)を参照してください。

アカウント要約

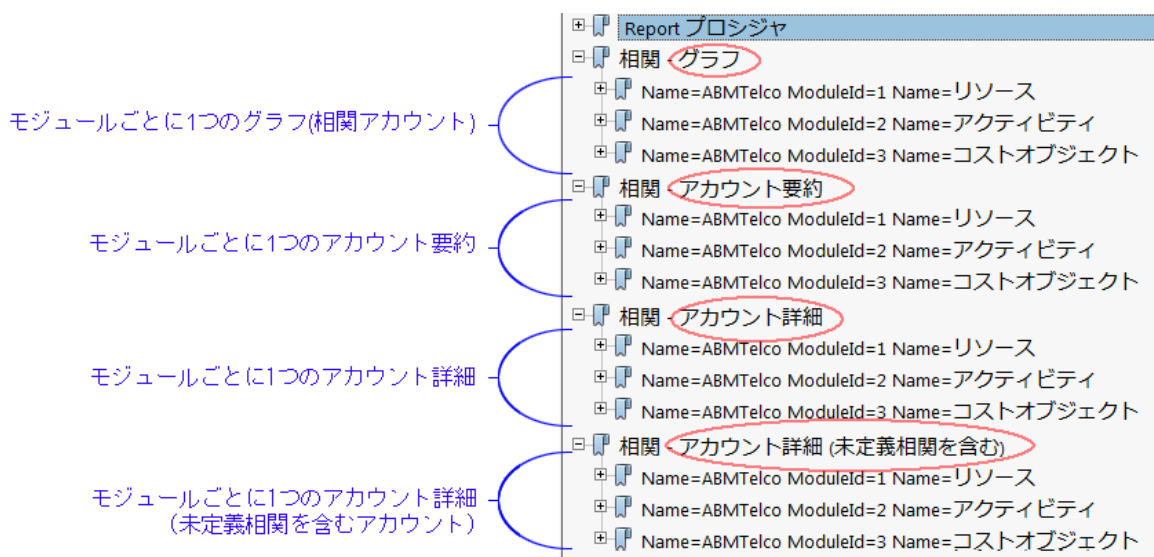
グラフがあるモジュールごとに 1 つの要約。“[アカウント要約](#)” (557 ページ)を参照してください。

アカウント詳細

グラフがあるモジュールごとに 1 つ。“[アカウント詳細](#)” (557 ページ)を参照してください。

未定義相関

未定義相関のアカウントがあるモジュールごとに 1 つ。“[未定義相関](#)” (558 ページ)を参照してください。

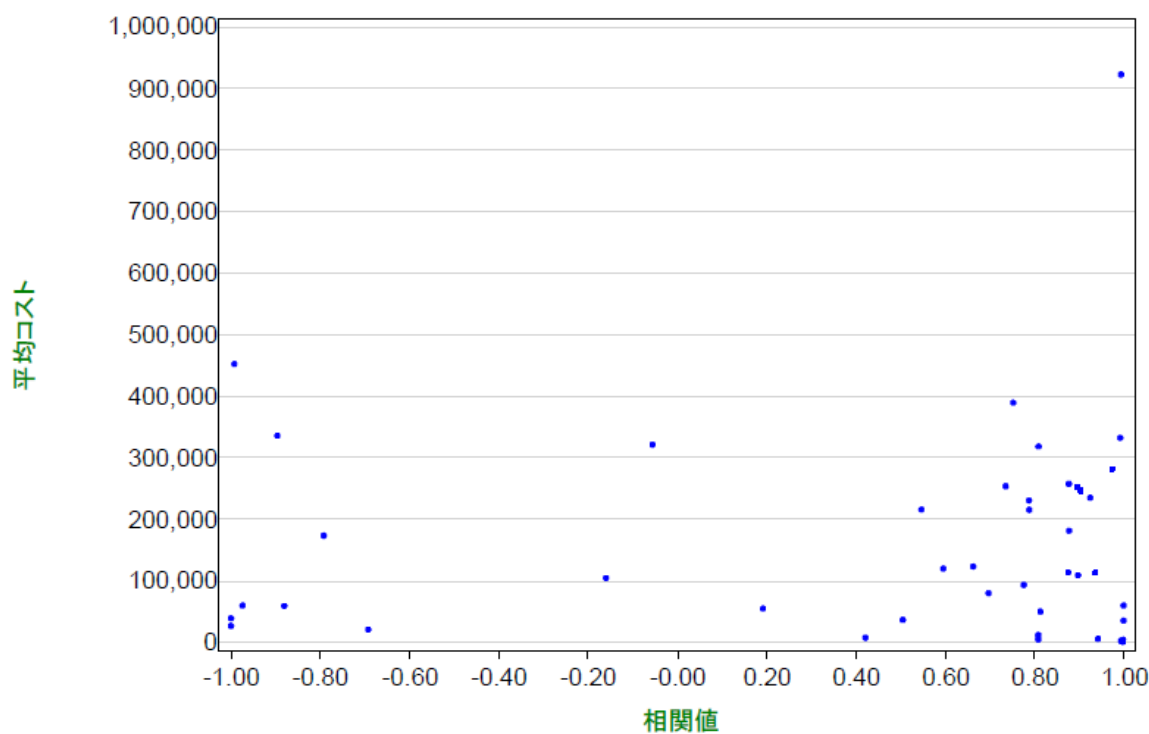


レポートグラフ

グラフの各点は、アカウントを表します。Y 軸は、レポート対象期間の各アカウントの平均コストを表します。X 軸は、相関値を表します。アカウントの Cost が対象となる期間の Used Quantity にどの程度依存するかに関するメジャーです。

レポート対象のモジュールごとに 1 つのグラフが作成されます。

相関 - グラフ
モデル名
モジュール: 外部ユニット



アカウント要約

アカウント要約にはそれぞれ、相関値が計算されたアカウントが表示されます。モジュールごとに1つのアカウント要約が作成されます。アカウント要約にはアカウントごとに次の情報が表示されます。

- アカウント名
- アカウント参照
- ドライバ名
- 平均コスト(レポート対象期間)
- 平均使用量(レポート対象期間)
- 相関値

相関 - アカウント要約

モデル名
モジュール: アクティビティ

名前	参照	ドライバ名	平均コスト USD (\$)	期間	平均使用 量	相関 値
Tin Coating X Run tin line _ Air wipe _ to 350 um	CC581XFAB_01	run time	60,204.15	2	6.89	1.00
#8 Thin Gauge Slitter X Run Num 8 Slitter	CC567XSLP_10	run time	35,648.10	3	44.89	1.00
Quality X Technical Support_ProcessEng	CC324XPE_04	Evenly Assigned	4,744.75	3	29.33	1.00
Quality X Write and maintain process routing for production allo	CC324XPE_03	Evenly Assigned	2,058.84	3	29.33	1.00
Quality X Continuous improvement_Process Eng	CC324XPE_05	Evenly Assigned	1,674.47	3	29.33	1.00
Melting _ Casting _ Admin X Run casting line 1 _420_	CC400XMC_01	run time	923,308.03	3	1,193.55	0.99
Quality X Quality Standard Upkeep	CC324XPE_06	Evenly Assigned	3,028.10	3	29.33	0.99
Melting _ Casting _ Admin X Run casting line 2 _430_	CC400XMC_02	run time	332,786.15	3	1,497.45	0.99
Melting _ Casting _ Admin X Run casting line 3 _440_	CC400XMC_03	run time	282,558.06	3	925.32	0.97
CC304XPE_01	CC304XPE_01	run time	63,411.15	3	63.41	0.94

アカウント詳細

アカウント詳細には、レポート対象の各期間のアカウントごとの Cost と Used Quantity が表示されます。モジュールごとに1つのアカウント詳細があります。

アカウント詳細には、次の情報が表示されます。

- アカウント名
- 期間(レポート対象のすべての期間)
- アカウント参照
- シナリオ(レポート対象のすべてのシナリオ)
- ドライバ名
- コスト(特定の期間)
- 相関値(すべての期間)
- 使用量(特定の期間)

相関 - アカウント詳細

17

モデル名

モジュール: アクティビティ

名前	参照	ドライバ名	相関 値	期間	シナリオ	コスト USD (\$)	使用量
Tin Coating X Run tin line _ Air wipe _ to 350 um	CC581XFAB_01	run time	1.00				
				2006_07	Actual	71,322.26	8.31
				2006_09	Actual	49,086.05	5.48
#8 Thin Gauge Slitter X Run Num 8 Slitter	CC567XSLP_10	run time	1.00				
				2006_07	Actual	34,460.83	37.56
				2006_08	Actual	34,769.69	39.05
Quality X Technical Support_Process Eng	CC324XPE_04	Evenly Assigned	1.00				
				2006_07	Actual	4,652.20	25.00
				2006_08	Actual	4,605.30	24.00
Quality X Write and maintain process routing for production allo	CC324XPE_03	Evenly Assigned	1.00				
				2006_07	Actual	2,018.15	25.00
				2006_08	Actual	1,997.23	24.00
Quality X Conting imp	CC324XPE_05	Evenly Assigned	1.00				
				2006_07	Actual	2,161.14	39.00
				2006_09	Actual		



未定義相関

次の条件のうちいずれかに該当する場合、アカウントには未定義の相関値が含まれています。

- ・ レポートに含まれる期間中で 1 つの期間にのみにアカウントが存在する
- ・ アカウントの Used Quantity がレポートのすべての期間にわたり同じである

“未定義相関” (551 ページ) を参照してください。

モジュールごとに 1 つの未定義相関レポートが作成されます。これらのレポートは、相関レポートの作成時に未定義相関値のアカウントを含むを選択した場合のみ作成されます。

オプション選択

レポートの表示オプションを選択:

- ☐ 次より大きいコストのアカウントを含む(D)
- ☒ 未定義相関値のアカウントを含む(A)
- ☐ 要約の表示(W)

相関 - アカウント詳細 (未定義相関を含む)

169

モデル名

モジュール: アクティビティ

名前	参照	ドライバ名	期間	シナリオ	コスト USD (\$)	使用量
Executive X Manage Operations	CC100XEXE_02	Evenly Assigned				
			2006_07	Actual	22,205.50	34.00
			2006_08	Actual	24,510.75	34.00
			2006_09	Actual	21,989.75	34.00
Executive X Government and Industry relations	CC100XEXE_03	Direct Assignment				
			2006_07	Actual	22,205.50	1.00
			2006_08	Actual	24,510.75	1.00
			2006_09	Actual	21,989.75	1.00
Executive X Special Projects _ Production and R_D	CC100XEXE_04	Direct Assignment				
			2006_07	Actual	22,205.50	1.00
			2006_08	Actual	24,510.75	1.00
			2006_09	Actual	21,989.75	1.00
Executive X Internal support	CC100XINTSUP_01	Head count				
			2006_07	Actual	1,946.09	197.00
			2006_08	Actual	2,220.64	197.00
			2006_09	Actual	2,221.70	197.00



レポートのエクスポート

相関レポートデータをエクスポートするには、**ファイル** ⇒ **エクスポート** ⇒ **レポートデータ**を選択します。

相関テンプレートの次の列がエクスポートされます。

列の名前	データの種類	長さ	説明
ModelId	Integer		モデル ID
ModelName	Alphanumeric	64	モデル名
ModuleId	Integer		ExternalUnit (0)、Resource (1)、Activity (2)、CostObject (3)のモジュール ID
Module	Alphanumeric	64	モジュール名
DriverName	Alphanumeric	64	ドライバ名
AccountId	Integer		アカウント ID。他のテーブルとの結合に使用

列の名前	データの種類	長さ	説明
AccountRefnum	Integer		アカウント参照
AccountName	Alphanumeric	64	アカウント名
Correlation	Float		範囲 [-1,+1]の相関値
Periods	Integer		アカウントが存在する期間/シナリオの数
CostMean	Float		期間/シナリオのアカウントの平均値平均
UsedQuantityMean	Float		期間/シナリオの UsedQuantity の平均値平均

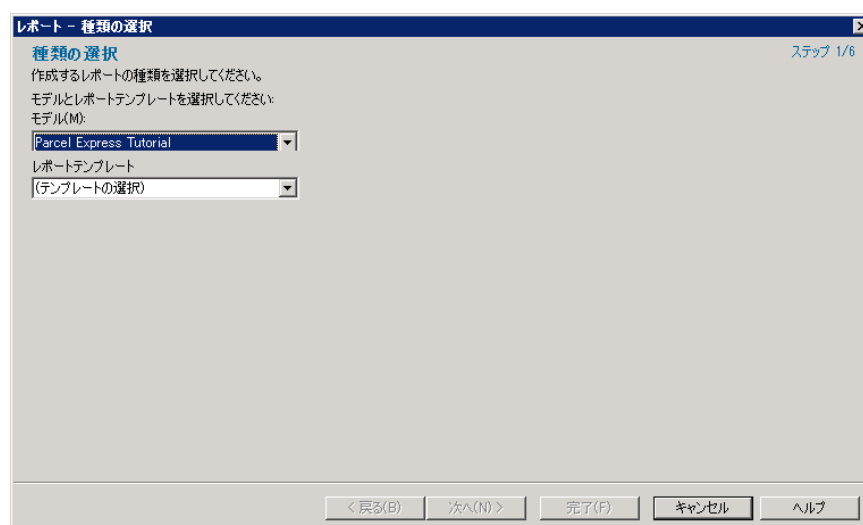
56 章 方法

レポートの作成	561
レポートを開く	565
レポートが開かれた状態からレポートを開く	565
レポート設定の変更	566
レポート設定の保存	566
レポートのエクスポート	566
レポートのパブリッシュ	571
レポート設定の削除	572

レポートの作成

1. **ファイル** ⇒ **新規作成** ⇒ **レポート**を選択します。

レポートウィザードが表示されます。



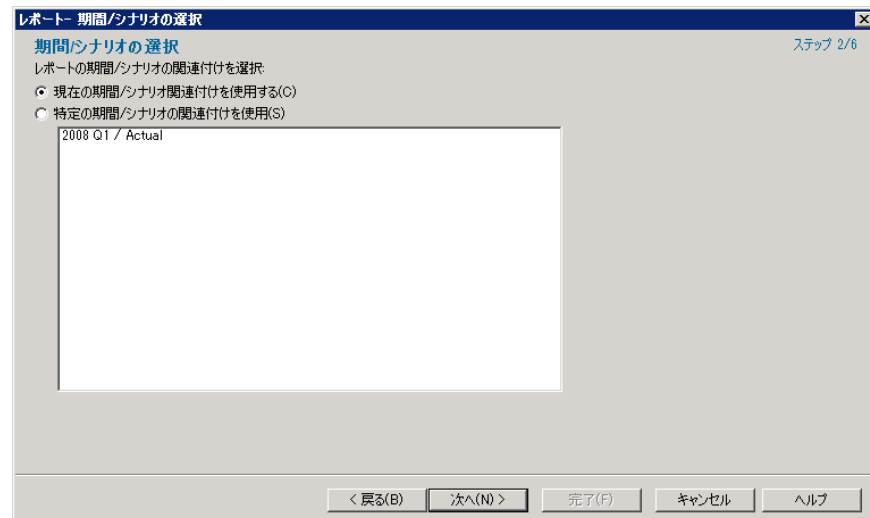
注: レポートの作成には、キューブの作成は必要ありません。ただし、次のレポートを作成するには、モデルのファクトテーブルが作成されている必要があります。

- リソース貢献
- 最遠割り当て先
- 利益と損失(リソース貢献)

2. **モデル**を選択します。
3. **レポートテンプレート**を選択します。

各レポートテンプレートに含まれるデータについては、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Managed Data Administration Guide* の“Working with Reports”のセクションを参照してください。

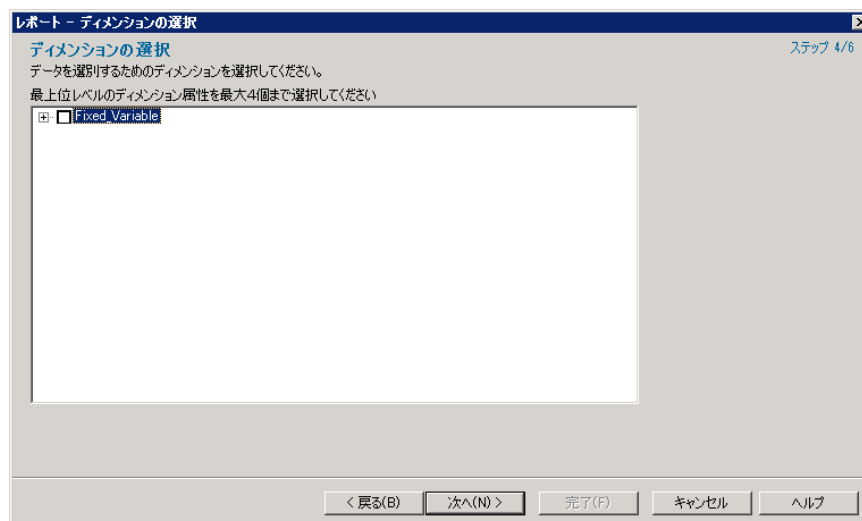
4. **次へ**をクリックします。



5. 開いているモデルの期間/シナリオ関連付けのデータを使用するには、**現在の期間/シナリオ関連付けを使用する**オプションを選択します。
このオプションの選択時にモデルが開いていない場合は、ウィザードの最後に期間/シナリオ関連付けを選択するように要求されます。
6. 別の期間/シナリオ関連付けのデータを使用するには、**特定の期間/シナリオの関連付けを使用**オプションを選択して、リストから期間/シナリオ関連付けを選択します。
7. **次へ**をクリックします。



8. すべてのモジュールおよびすべてのアカウントのデータを含めるには、**すべてのモジュールを使用する**オプションを選択します。
9. 特定モジュールのデータに制限するには、**モジュールを選択する**オプションを選択して、モジュールを選択します。
10. 特定アカウントのデータに制限するには、**選択項目の使用**チェックボックスを選択して、リストからアカウントを 1 つ以上選択します。
11. **次へ**をクリックします。



このステップの内容は、作成するレポートによって異なります。一部のレポートでは、リストにディメンション属性のみが含まれます。また別のレポートでは、リストに構造ディメンションが含まれます。どのレポートでも、次の事柄が該当します。

- ディメンションを選択しなければ、レポートにはすべてのアカウントが含まれます。
- ディメンションを 1 つ以上(4 つまで)選択すると、レポートにはすべての選択したディメンション以下のアカウントのみが含まれます。

12. **次へ**をクリックします。

13. コストが 0 のアカウントを除外するには、**コストが 0 の場合、非表示にするオプション**を選択します。
 14. コストエレメントを除外するには、**コストエレメントを非表示オプション**を選択します。
 15. 1 種類の通貨を含めるには、**1 種類の通貨オプション**を選択して、**第 1 通貨**を選択します。
 16. 第 2 通貨を含めるには、**2 種類の通貨オプション**を選択して、**第 2 通貨**を選択します。
- レポート要約を確認して、レポートを作成します。
17. **次へ**をクリックします。

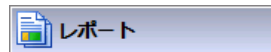
18. レポート要約を確認します。
 19. 変更が必要な情報がある場合は、**戻る**をクリックして、ウィザードの変更が必要なページまで戻ります。
- 指定した情報はすべて保存されます。**次へ**をクリックして、ウィザードを進めます。
20. レポートを簡単に再実行できるようにレポート設定を保存するには、次の操作を行います。
 - a. **設定に名前を付けて保存オプション**を選択します。

- b. **名前**を入力します。
 - c. **説明**を入力します。
21. 既存のレポート設定の名前を変更するには、次の操作を行います。
 - a. **既存の設定を更新**オプションを選択します。
 - b. 新しい**名前**を入力します。
 - c. **説明**を入力します。
22. **完了**をクリックします。

レポートウィザードの第 2 ステップで現在の期間/シナリオ関連付けを使用するオプションを選択していて、モデルが開いていない場合は、ここで期間/シナリオ関連付けを選択するように要求されます。

レポートを開く

レポートが開かれていない状態からレポートモードを開始する場合、レポートワークスペースからレポートを開けます。



フォルダのリストと**レポート設定**のリストには、ワークスペースマネージャのサーバーエリアのレポートブランチが示されます。

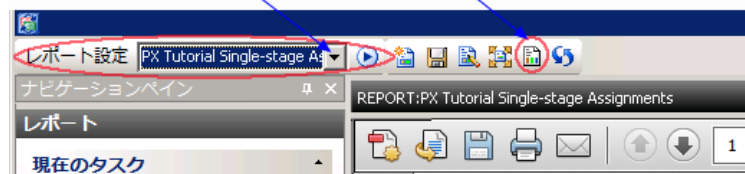
1. **フォルダ**のリストから、フォルダを選択します。
2. **レポート設定**のリストから、設定をクリックします。

レポートが開かれた状態からレポートを開く

レポートが開いている場合に、別のレポートを開くには、次のうちいずれかの操作を行います。

- レポートワークスペースの上部のドロップダウンリストからレポート設定を選択します。
- レポートワークスペースツールバーの**レポートワークスペースへ移動**アイコンをクリックしてから、レポート設定を選択します。

リストをドロップダウンして選択するか、**レポートワークスペースへ移動**をクリックします



関連項目:

[“レポートワークスペース” \(540 ページ\)](#)

レポート設定の変更

1. レポート設定を開きます。
2. **レポート** ⇨ **構成設定**を選択します。
レポートウィザードで前回選択したこのレポート設定の内容が表示されます。
3. レポートウィザードのページを進んで、レポート設定を変更します。
注: モデルの読み取り権限しかない場合、設定を行うことはできません。

レポート設定の保存

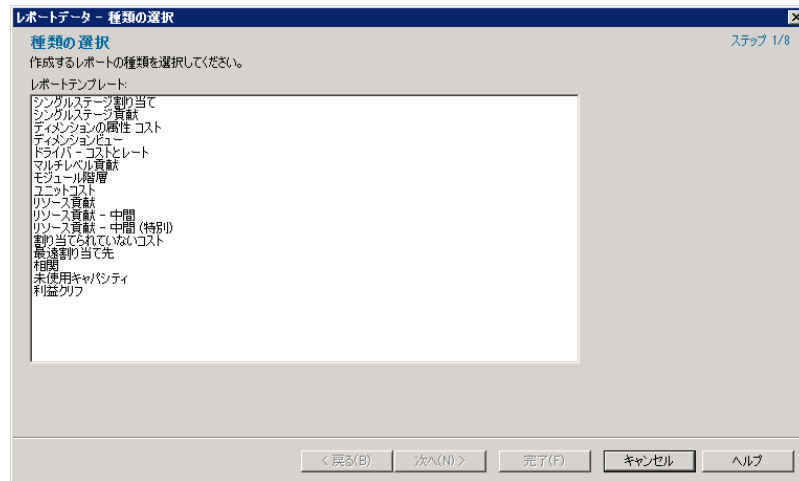
1. レポート設定を開きます。
2. **レポート**>**構成設定を保存**を選択します。
表示されたレポートウィザードの最終ページに、レポート設定の名前を指定します。
3. **設定に名前を付けて保存オプション**を選択します。
4. **名前**を入力します。
5. **説明**を入力します。
6. **完了**をクリックします。

レポートのエクスポート

SAS Activity-Based Management 内または SAS Enterprise Guide 内からレポートデータをエクスポートできます。SAS Enterprise Guide の使用方法については、SAS Enterprise Guide Help を参照してください。

レポートデータは、データベースにエクスポートされます。

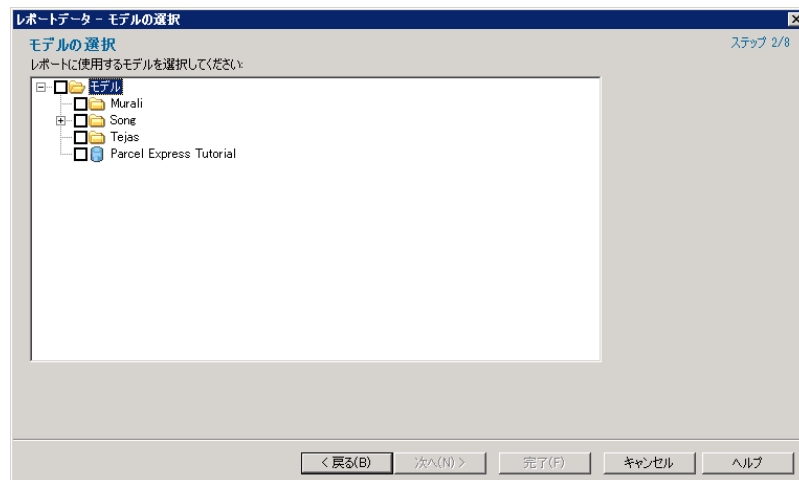
1. **ファイル** ⇨ **レポートデータのエクスポート**を選択します。
レポートモードを開始する必要はありません。レポートデータはモードに関係なくエクスポートできます。
レポートデータウィザードが表示されます。



2. レポートテンプレートを選択します。

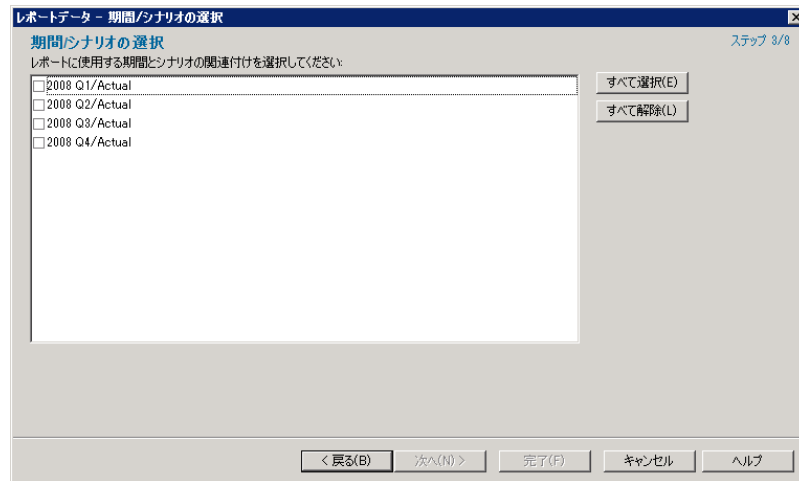
各レポートテンプレートに含まれるデータについては、ヘルプメニューまたは <http://support.sas.com/documentation/onlinedoc/abm/> からアクセス可能な *SAS Activity-Based Managed Data Administration Guide* の“Working with Reports”のセクションを参照してください。

3. 次へをクリックします。



4. 1 つ以上のモデルを選択します。

5. 次へをクリックします。



6. 1 つ以上の期間/シナリオを選択します。
7. 次へをクリックします。

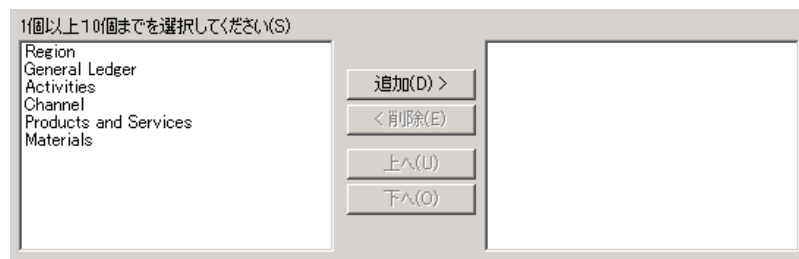


8. すべてのモジュールおよびすべてのアカウントのデータを含めるには、**すべてのモジュールを使用するオプション**を選択します。
9. 特定モジュールのデータに制限するには、**モジュールを選択するオプション**を選択して、モジュールを選択します。
10. 特定アカウントのデータに制限するには、**選択項目の使用**チェックボックスを選択して、リストからアカウントを 1 つ以上選択します。
11. 次へをクリックします。



注: このステップの内容は、作成するレポートによって異なります。ただし、いずれの場合も、レポートに含めるディメンションを選択します。

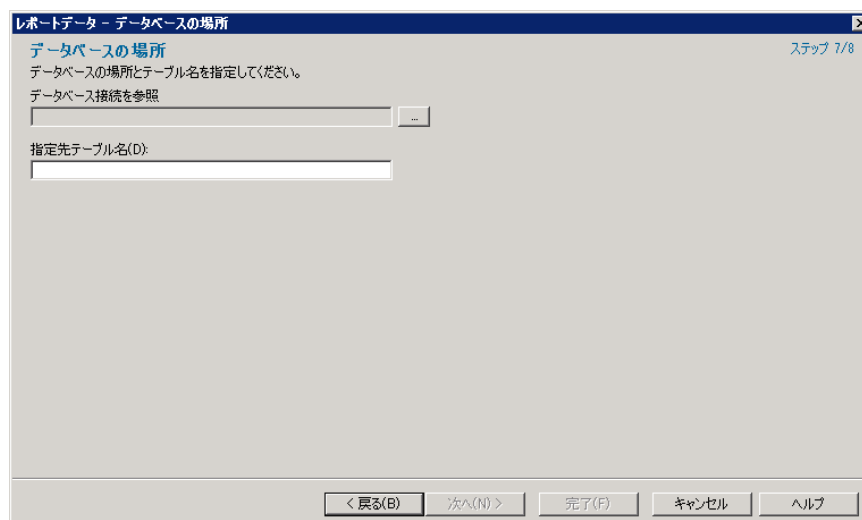
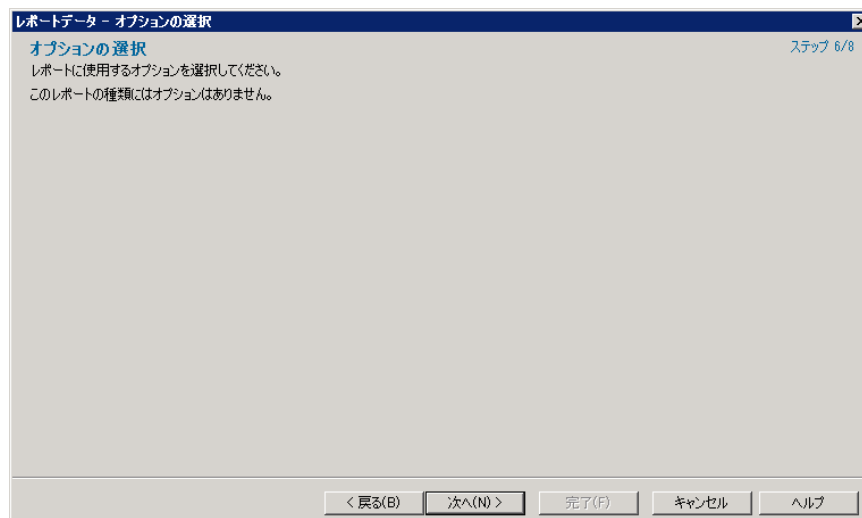
12. ウィザードでリストが表示されたら、階層を展開し、レポートに含める各ディメンションの隣にあるチェックボックスを選択します。
13. ウィザードで次のようにディメンションが表示されたら、次の操作を行います。



- a. 左のリストから、ディメンションを選択します。
- b. **追加>**をクリックします。
ディメンションは、右のリストに移動します。
ディメンションを選択する順序は、レポートの結果の順序に影響します。
- c. 右のリストのディメンションを並べ替えるには、**↑**または**↓**をクリックします。
- d. ディメンションを右のリストから削除するには、ディメンションを選択して、**削除<**をクリックします。

次に、レポートの他のオプションを選択します。選択可能なオプションはレポートによって異なります。

14. **次へ**をクリックします。

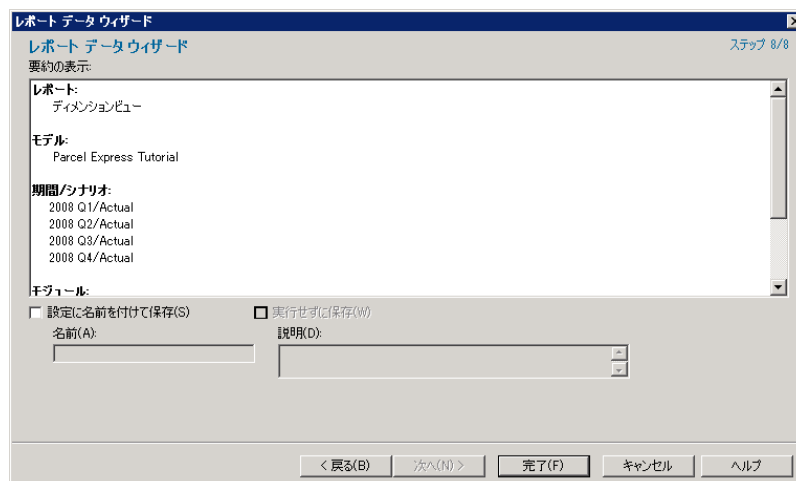


15. ... (データベース接続を参照の右側にある)をクリックします。

データリンクプロパティダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスについては、Microsoft のヘルプを参照してください。

16. 指定先テーブル名を入力します。

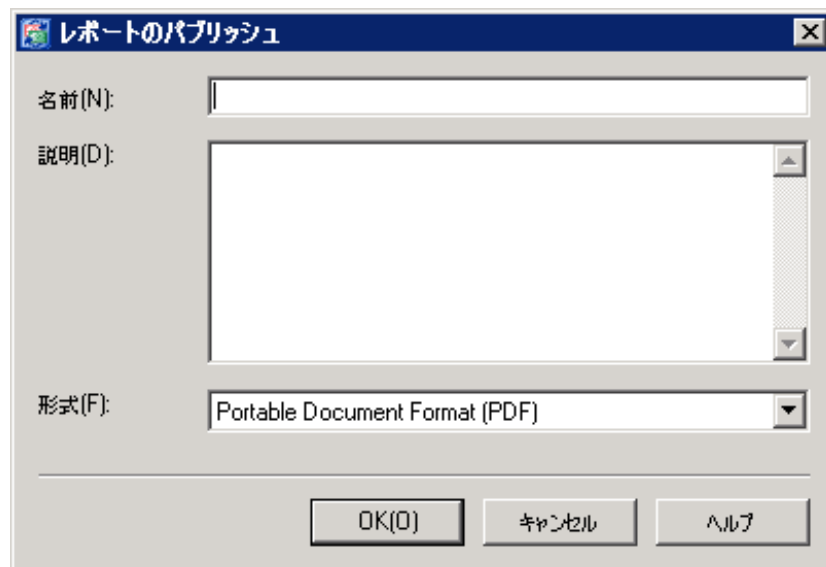
17. 次へをクリックします。



18. エクスポート要約を確認します。
19. 変更が必要な情報がある場合は、**戻る**をクリックして、ウィザードの変更が必要なページまで戻ります。
指定した情報はすべて保存されます。**次へ**をクリックして、ウィザードを進めます。
20. エクスポートを簡単に再実行できるようにエクスポート設定を保存するには、次の操作を行います。
 - a. **設定に名前を付けて保存**オプションを選択します。
 - b. **名前**を入力します。
 - c. **説明**を入力します。
21. 既存のエクスポート設定の名前を変更するには、次の操作を行います。
 - a. **既存の設定を更新**オプションを選択します。
 - b. 新しい**名前**を入力します。
 - c. **説明**を入力します。
22. **完了**をクリックします。

レポートのパブリッシュ

1. レポートをレポートモードに開きます。
2. レポート設定を開きます。
3. **レポート** ⇨ **パブリッシュ**を選択します。
レポートのパブリッシュダイアログボックスが表示されます。



4. **名前**を入力します。
名前は、命名規則に従って指定する必要があります。“**命名規則**” (81 ページ)を参照してください。
5. **説明**を入力します。

6. **形式**を選択します。

注: モデルの読み取り権限しかない場合、パブリッシュを行うことはできません。

レポート設定の削除

1. レポートワークスペースに移動します。

2. レポート設定を選択します。

3. **削除**をクリックします。

注: 権限によっては、レポート設定を削除できないことがあります。

19 部

インターフェイスのカスタマイズ

57 章	
ユーザーオプション	575

57 章

ユーザーオプション

インターフェイスのカスタマイズ: ユーザーオプション	575
概要	575
インターフェイスに表示される言語	575
新しい列にデフォルトで使用する表示精度	576
サーバーから取得する行数	577
グリッドの表示設定	578
特定のダイアログボックスとウィザードの表示	578
背景色の印刷	579
ステータスバーの表示/非表示	579
サーバーから追加行を取得する	579
ユーザーオプションダイアログボックス	579
ユーザーオプションダイアログボックスについて	579
ユーザーオプションダイアログボックスの表示	580
データタブ	580
表示タブ	580
詳細タブ	581
Easy API 設定タブ	581

インターフェイスのカスタマイズ: ユーザーオプション

概要

SAS Activity-Based Management ユーザーインターフェイスは、ニーズに合わせてカスタマイズできます。ユーザーインターフェイスの設定では、すべてのユーザーではなく、指定したユーザーのインターフェイスのみが変更されます。モデルのデータは変更されません。これらの設定は、モデルプロパティとは異なります。

インターフェイスに表示される言語

コンピュータに複数の言語がインストールされている場合、Windows の地域設定(設定 ⇒ コントロールパネル ⇒ 地域と言語のオプションの順に選択)によって、使用される言語が決まります。

注: エラーメッセージは、SAS Activity-Based Management と SAS Activity-Based Management Server で生成されます。そのため、選択した言語と SAS Activity-

Based Management Server にインストールされている言語の両方の言語でエラーメッセージが表示されます。

新しい列にデフォルトで使用する表示精度

概要

コスト、ドライバ量、レートにデフォルトで表示される小数の桁数を指定できます。モデルビューで列を追加すると、ユーザーオプションで設定した表示精度がデフォルトで使用されます。

表示精度オプションは、現在の列には適用されません。データの精度は変更されません。レポートやキューブには適用されません。

これらの設定は、各自のコンピュータに保存されます。そのため、デフォルトの表示精度を変更すると、デフォルトの表示精度を変更したコンピュータで追加した列にのみ適用されます。変更は、すべてのモデルに適用されます。

個々の列の形式を指定して、表示精度を変更できます。

コスト値のデフォルトの精度

次のプロパティの場合、コスト値のデフォルトの表示精度に基づき、新しい通貨列のデフォルトの表示精度が決定されます。

Allocated Cost
Assigned Cost
Assigned Idle Cost
Assigned Non-reciprocal Cost
Assigned Reciprocal Cost
Cost
Drivable Cost
Driven Cost
Driver Allocated Cost
Driver Cost
Driver Driven Cost
Driver Idle Cost
Driver Percentage
Driver Used Cost
Entered Cost
Idle Cost
Idle Percentage
Profit
Received Allocated Cost
Received Assignment Cost
Received BOC Cost
Received Cost
Received Driven Cost
Received Idle Cost
Received Non-reciprocal Cost
Received Reciprocal Cost
Received Used Cost
Revenue
Unassigned Cost
Used Cost
User Entered Cost Allocation

数値のデフォルトの精度

次のプロパティの場合、数値のデフォルトの表示精度に基づき、新しい数値列のデフォルトの表示精度が決定されます。

Assigned Idle Quantity
 Driven Quantity
 Driver Driven Quantity
 Driver Quantity Basic
 Driver Quantity Calculated
 Driver Quantity Fixed
 Driver Quantity Variable
 Driver Sequence Number
 Driver Weight Fixed
 Driver Weight Variable
 Idle Driver Quantity
 Idle Driver Quantity UE
 Idle Quantity
 Output Quantity
 Output Quantity UE
 Sold Quantity
 Total Driver Quantity
 Total Driver Quantity Basic
 Total Driver Quantity Calculated
 Total Driver Quantity UE
 Unassigned Quantity
 Used Quantity

為替レートのデフォルトの精度

為替レートのデフォルトの表示精度に基づき、為替レートの管理ダイアログボックスの列のデフォルトの表示精度が決定されます。

Driver Rate
 Unit Cost
 Unit Profit
 Unit Revenue

サーバーから取得する行数

概要

多くのアカウントやコストエレメントが含まれるロールアップアカウントを展開したり、割り当てペインのアカウントの割り当てを表示したりする際、サーバーから大量の情報を取得する必要があります。この情報は、グリッドに表示される行に含まれます。モデルが大きくなるほど、取得する情報行が増えます。取得する行数は、モデル構造内の移動時のレスポンス時間に直接影響します。

たとえば、リソースモジュールのルートフォルダに 2,000 個のロールアップアカウントを含むモデルがあるとします。

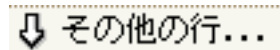


アカウント 250 に含まれるアカウントに移動するには、サーバーから 2,000 個のロールアップアカウントすべてが取得されるまで待つ必要があります。レスポンス時間は、ネットワークトラフィックや、サーバーで実行している他の処理によって異なります。ただし、取得する行を少なくすれば、常に時間を節約できます。モデル構造内の移動のレスポンス時間を短縮するには、サーバーから取得する行数を指定します。SAS Activity-Based Management では、すべての行または指定した行数のどちらか少ない行数を取得します。たとえば、アカウントに 1,200 行含まれ、指定行数が 1,500 行の場合、1,200 行すべてが取得されます。ただし、指定行数が 1,000 行の場合は、先頭から 1,000 行のみが取得されます。

注: サーバーから取得する情報量は、グリッドの値の編集機能には影響しません。ロールアップアカウントに表示されるコストにも影響しません。取得する行数が制限されるだけです。

その他の行インジケータ

取得できる行がまたある場合、次のインジケータが表示されます。



その他の行を取得できます。

取得する行数の変更

取得する行数は、SAS Activity-Based Management の実行中に変更できます。アカウントを展開する際、最新の値が使用されます。たとえば、アカウントの初回展開時に取得する行を 1,500 行に指定し、アカウントを 1,500 行展開した後、値を 500 に変更したとします。再度サーバーからデータが取得される際、取得行数は 500 行に制限されます。

注: サーバーから取得する行数は、少なくとも 50 行を設定する必要があります。

情報の更新

グリッドに表示されている情報を更新する際、サーバーからすべての行の情報が取得されます。すでに取得されている行のデータのみが更新されます。

グリッドの表示設定

グリッドテーブルに表示されるテキストのフォントサイズを選択できます。この設定は、モニタに表示されるすべてのフォントのフォントサイズを指定する Windows のコントロールパネルの設定とは異なります。

グリッドの行の色を 1 行おきに変えることができます。

特定のダイアログボックスとウィザードの表示

デフォルトでは、コストエレメントの入力時やディメンションメンバの作成時にダイアログボックスを使用してアイテムに関する情報を指定します。アイテム作成時、ダイアログボックスにアイテムに関するすべての情報を指定できます。ただし、ダイアログボックスを使用せずに、多数のアイテムを迅速に作成することもできます。この場合、システム生成のデフォルト情報が使用されますが、後でこのデフォルト情報を変更できます。

背景色の印刷

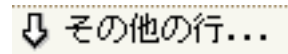
1. ヘルプ ⇒ 目次とキーワード > を選択します。
SAS Activity-Based Management ヘルプが表示されます。
2. オプション ⇒ インターネット オプションを選択します。
インターネット オプションダイアログボックスが表示されます。
3. 詳細タブをクリックします。
4. 設定リストの印刷オプションで、背景の色とイメージを印刷するオプションを選択します。

ステータスバーの表示/非表示

ビュー ⇒ ステータス バーを選択します。

サーバーから追加行を取得する

最終行で次の矢印をクリックします。



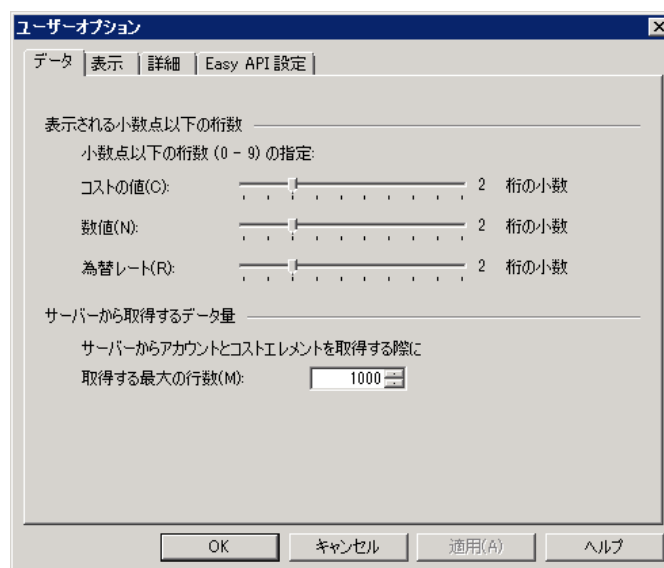
オプションに設定した上限までの追加行が表示されます。

ユーザーオプションダイアログボックス

ユーザーオプションダイアログボックスについて

ユーザーオプションダイアログボックスでは、SAS Activity-Based Management の使用に影響するオプションを指定できます。

注: 次のタスクは、最初にモデルを開くことなく実行できます。



ユーザーオプションダイアログボックスの表示

ツール ⇒ ユーザーオプションを選択します。

データタブ

新しい列にデフォルトで使用する表示精度の選択

1. データタブをクリックします。
2. 表示される小数点以下の桁数セクションで、コストの値、数値、為替レートに小数点以下の桁数を選択します。

サーバーから取得する行数の指定

1. データタブをクリックします。
2. サーバーから取得するデータ量セクションで、取得する最大の行数に値を設定します。

表示タブ

グリッドの色とフォントサイズを選択

1. 表示タブをクリックします。
2. グリッドの色セクションで、最初の行の色、次の行の色、テキストの色の値をメニューから選択します。
3. グリッドフォントのサイズセクションで、オプションを選択します。

通貨記号の表示位置の選択

1. 表示タブをクリックします。
2. 通貨セクションで、オプションを選択または選択解除します。

詳細タブ

特定のダイアログボックスやウィザードを表示するかどうかの指定

1. 詳細タブをクリックします。
2. 設定セクションのダイアログボックスとウィザードからダイアログボックスとウィザードを選択します。

Easy API 設定タブ

電子メールを送信するための SMTP サーバーの指定

SMTP サーバーを指定すると、Easy API では、各作業の結果をレポートする電子メールが送信されます。成功した作業のレポートを受信するための電子メール ID に加えて、失敗した作業のレポートを受信するために別の電子メール ID を指定できます。

- Easy API 設定タブをクリックします。
- SMTP サーバーを指定します。

よいニュースの受信電子メール ID の指定

成功した Easy API 作業のレポートを受信する電子メール ID を 1 つ指定できます。

- Easy API 設定タブをクリックします。
- 作業成功時の電子メール ID を指定します。

悪いニュースの受信電子メール ID の指定

失敗した作業のレポートを受信する別の電子メール ID を指定できます。

- Easy API 設定タブをクリックします。
- 作業失敗時の電子メール ID を指定します。

XML 保存の有効化/無効化

SAS Activity-Based Management では、作業を実行する際、XML を使用して作業のパラメータが渡されます。作業の実行時に、SAS Activity-Based Management にこの XML を保存するよう要求すると、Easy API で同じ XML を使用して同じ作業を実行できます。

XML の保存を開始するには、次の操作を行います。

- Easy API 設定タブをクリックします。
- 作業の XML ファイルをディレクトリパスに保存を選択します。
- XML を保存するディレクトリパスを指定します。

XML の保存を停止するには、次の操作を行います。

- Easy API 設定タブをクリックします。
- 作業の XML ファイルをディレクトリパスに保存を選択解除します。

20 部

プロパティリファレンス

58 章	
プロパティの関係ダイアグラム	585
59 章	
プロパティのアルファベット順表示	605

58 章




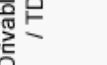




プロパティの関係ダイアグラム

非相互配賦システム	586
アカウントプロパティ	586
割り当て元アカウントのコストプロパティ	587
割り当て元アカウントのコストと量の計算	587
割り当て先アカウントのコスト	588
割り当てパスのコスト	588
割り当てパスのコストと量の計算	588
一部のコストと量の簡単な計算	588
コストエレメントプロパティ	589
相互配賦システム-アカウントプロパティ	590
量	592
量的な世界	592
割り当てパスの量	593
割り当てパスのコストと量の計算	593
割り当て元アカウントの量	593
割り当て元アカウントのコストと量の計算	593
割り当てパスの未使用コスト量の計算	593
割り当て元の未使用コスト量の計算	594
複合アカウントコストのプロパティ	595
コスト(経済的な世界)	597
ダイアグラムの見方	598
単一アカウント	598
X 軸と Y 軸	598
少し複雑な例	599
コストの種類	600





非相互配賦システム

アカウントプロパティ


非相互配賦システム - アカウントのプロパティ


クロスモジュールコスト 内部BOC割り当て 外部BOC割り当て 割り当て	Received Idle Cost		Received Driven Cost	Received BOC Cost 	Received Cost 	Cost 	Drivable Cost (ドライブレートの Drivable Cost / TDQ) 	Idle Cost $f(TDQUE)$	Assigned Idle Cost	Driven Cost	Assigned Cost	Unassigned Cost						
	Received Used Cost																	
	Received Allocated Cost		Received Assignment Cost 	Received BOC Cost 	Received Cost 			Used Cost $f(DrvQtyCalc + SoldQty)$										
								Allocated Cost (= \sum 外向きの Allocated Cost)										
内部モジュールコスト 内部BOC割り当て 割り当て			Entered Cost \sum 															

仮定:コスト割り当てに使用できる”割り当て”方法には、BOCまたは割り当てがあります。
Assigned Costs:アカウントからのコストフローに使用されるすべての割り当て方法を表します。アカウントからのBOCと割り当てのコストです。アカウントから見ると「どのコストを割り当てるか?」
Received Costs:アカウントへのコスト貢献に使用されるすべての割り当て方法を表します。入力されたコストは、割り当ての一部ではないため、使用されません。アカウントから見ると「どの”コスト”を受け取るのか?」


 入力されたコスト要素  内部コスト要素  外部コスト要素  受取コスト要素


凡例

Received BOC Cost =  = 受け取った内部コストエレメントと受け取った外部ユニットコストエレメントの合計。

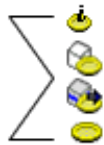
Received Assignment Cost =  = 受け取った割り当てコストエレメントの合計。

注: 受け取った割り当てコストエレメントは、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールから渡されます。

Entered Cost =  = ユーザー入力コストエレメントの合計。

Received Cost =  = 受け取った内部コストエレメント、受け取った外部ユニットコストエレメント、受け取った割り当てコストエレメントの合計。注: 受け取った割り当てコストエレメントは、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールから渡されます。

注: 受け取った割り当てコストエレメントは、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールから渡されます。

Cost =  = 受け取った内部コストエレメント、受け取った外部ユニットコストエレメント、受け取った割り当てコストエレメント、ユーザー入力コストエレメントの合計。

“ダイアグラムの見方” (598 ページ)を参照してください。

割り当て元アカウントのコストプロパティ

$$\text{Drivable Cost} = (\text{Cost} - \text{Allocated Cost})$$

$$\text{Driver Rate} = \text{Drivable Cost} / \text{TDQ}$$

$$\text{Drivable Cost} = (\text{Used Cost} + \text{Idle Cost})$$

$$\text{Idle Cost} = (\text{Assigned Idle Cost} + \text{Unassigned Cost})$$

$$\text{Driven Cost} = (\text{Used Cost} + \text{Assigned Idle Cost})$$

$$\text{Assigned Cost} = (\text{Driven Cost} + \text{Allocated Cost})$$

$$\text{Unassigned Cost} = \text{Cost} - \text{Assigned Cost}$$

割り当て元アカウントのコストと量の計算

$$\text{Driver Rate} = \text{Cost} / \text{TDQ} \text{ (または TDQUE)}$$

$$\text{Used Cost} = \text{UsedQty} * \text{Driver Rate}$$

$$\text{IdleCost} = \text{IdleQty} * \text{Driver Rate}$$

$$\text{IdlePercentage} = \text{IdleQty} / \text{TDQ}$$

割り当て先アカウントのコスト

$$\begin{aligned}
 &(\text{Received Driven Cost} + \text{Received Allocated Cost}) = (\text{Received} \\
 &\text{BOC Cost} + \text{Received Assignment Cost}) = \text{Received Cost} \\
 &(\text{Received Cost} + \text{Entered Cost}) = \text{Cost}
 \end{aligned}$$
割り当てパスのコスト

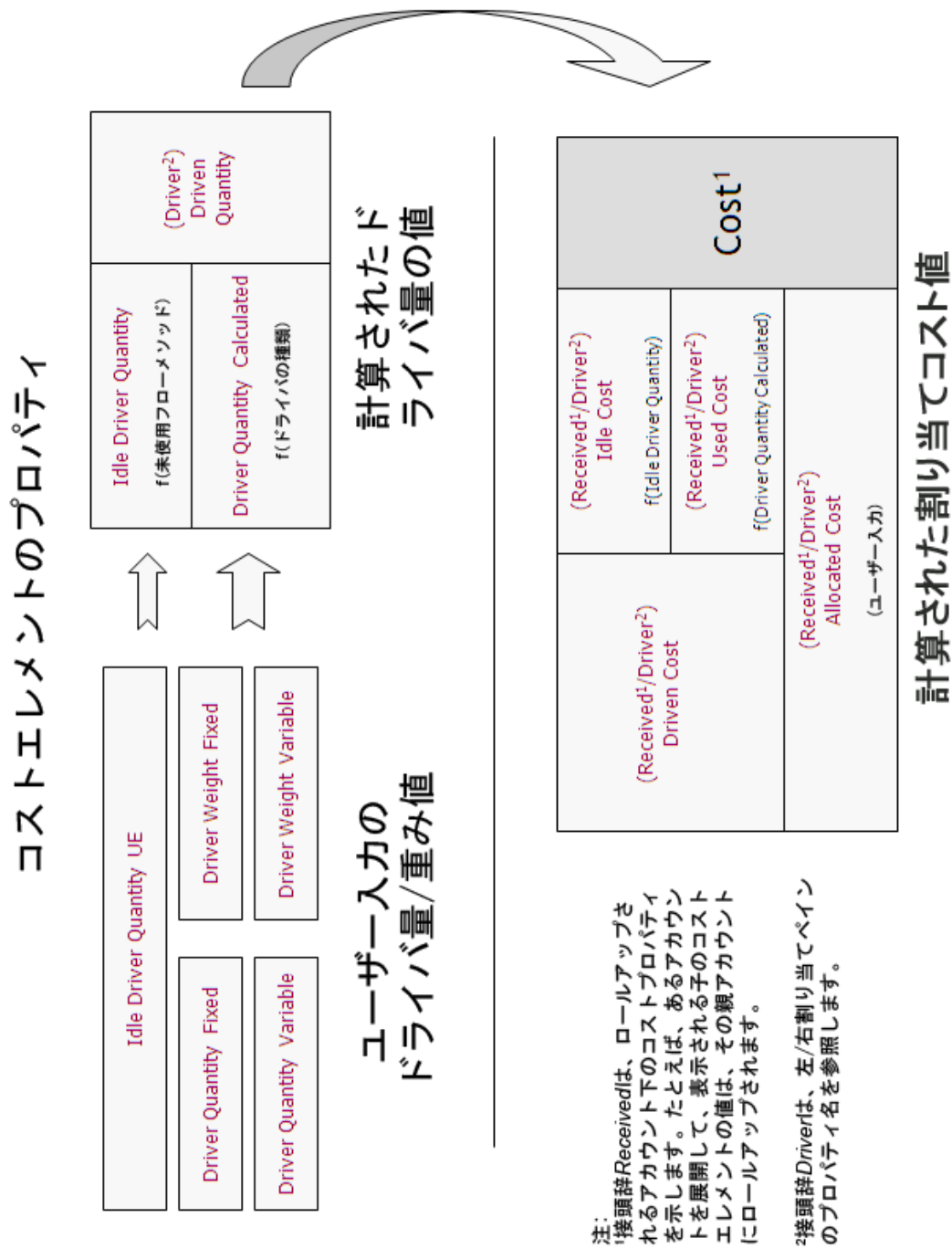
$$\begin{aligned}
 \text{Driver Driven Cost} &= (\text{Driver Used Cost} + \text{Driver Idle Cost}) \\
 \text{Driver Cost} &= (\text{Driver Driven Cost} + \text{Driver Allocated Cost})
 \end{aligned}$$
割り当てパスのコストと量の計算

$$\begin{aligned}
 \text{Driver Used Cost} &= \text{DriverQtyCalc} * \text{Driver Rate} \\
 \text{Driver Idle Cost} &= \text{Idle DriverQty} * \text{Driver Rate} \\
 \text{Driver Driven Cost} &= (\text{Driver Used Cost} + \text{Driver Idle Cost}) \text{ または } (\text{DrvDrvnQty} * \text{Driver Rate}) \\
 \text{Driver Cost} &= (\text{Driver Driven Cost} + \text{Driver Allocated Cost})
 \end{aligned}$$
一部のコストと量の簡単な計算

$$\begin{aligned}
 \text{TDQ} &= \text{IF TDQUE is not null THEN TDQUE ELSE UsedQty} \\
 \text{OutputQty} &= \text{IF OutputQtyUE is not null THEN OutputQtyUE ELSE UsedQty} \\
 \text{DrivableCost} &= \text{Cost} - \text{AllocatedCost} \\
 \text{DriverRate} &= \text{IF ExternalUnit THEN UnitCostEntered ELSE DrivableCost/TDQ} \\
 \text{UnitCost} &= \text{IF ExternalUnit THEN UnitCostEntered ELSE DrivableCost/OutputQty} \\
 \text{UnitCost} &= \text{IF OutputQtyUE is not null THEN DrivableCost/OutputQtyUE ELSE DrivableCost/UsedQty} \\
 \text{UnitRevenue} &= \text{Revenue/OutputQty} \\
 \text{UnitRevenue} &= \text{IF OutputQtyUE is not null THEN Revenue/OutputQtyUE ELSE Revenue/UsedQty} \\
 \text{UnitProfit} &= \text{Profit/OutputQty} \\
 \text{UnitProfit} &= \text{IF OutputQtyUE is not null THEN Profit/OutputQtyUE ELSE Profit/UsedQty}
 \end{aligned}$$
関連項目:

[“コストの種類” \(600 ページ\)](#)

コストエレメントプロパティ




“ダイアグラムの見方” (598 ページ)を参照してください。

関連項目:


“コストの種類” (600 ページ)



凡例

Received Cost =  = 受け取った内部コストエレメント、受け取った外部ユニットコストエレメント、受け取った割り当てコストエレメントの合計。

注: 受け取った割り当てコストエレメントは、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールから渡されます。

“[ダイアグラムの見方](#)” (598 ページ)を参照してください。

Entered Cost = \sum  = ユーザー入力コストエレメントの合計。

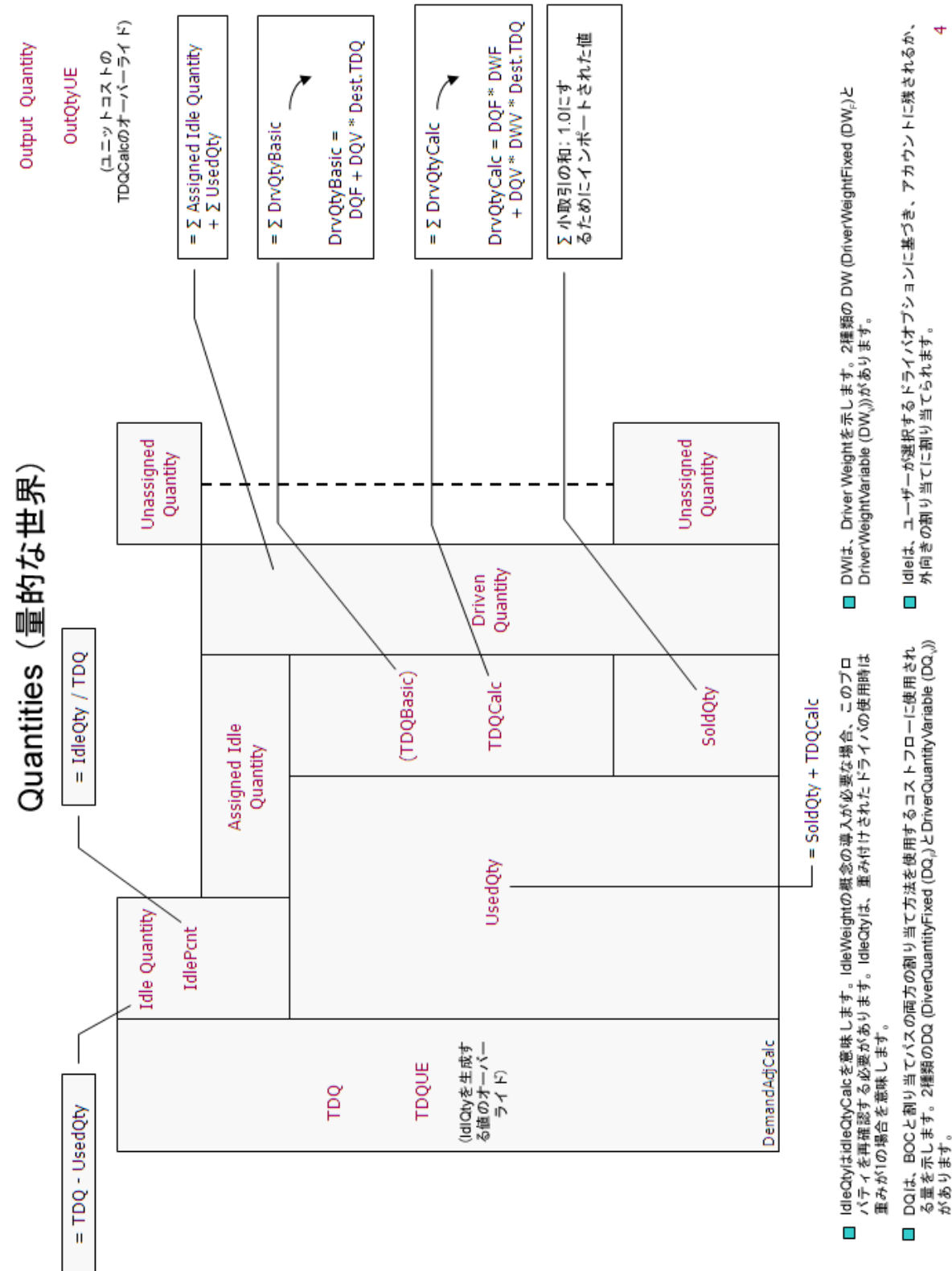
Cost =   = 受け取った内部コストエレメント、受け取った外部ユニットコストエレメント、受け取った割り当てコストエレメント、ユーザー入力コストエレメントの合計。

関連項目:

“[コストの種類](#)” (600 ページ)

量

量的な世界



“ダイアグラムの見方”(598 ページ)を参照してください。

割り当てパスの量

```
DrvQtyCalc = (DQF * DWF) + (DQV * DWV * Dest.TDQ)
DQBasic = DQF + DQV * Dest.TDQ
Idle Driver Quantity = Idle Driver Quantity UE
```

割り当てパスのコストと量の計算

```
Driver Used Cost = DriverQtyCalc * Driver Rate
Driver Idle Cost = Idle DriverQty * Driver Rate
Driver Driven Cost = (Driver Used Cost + Driver Idle Cost) または (DrvDrvnQty * Driver Rate)
Driver Cost = (Driver Driven Cost + Driver Allocated Cost)
```

割り当て元アカウントの量

```
UsedQty = (TDQCalc + SoldQty)
DrivenQty = ∑ Assigned Idle Quantity + ∑ Used Qty
IdleQty = (TDQUE - OutputQty) (TDQUE と OutputQtyUE は対応する量をオーバーライドします)
UnassignedQty = (OutputQty - UsedQty + UnassignedIdleQty)
If TDQUE > OutputQty then Positive Idle
If TDQUE < OutputQty/OutputQtyUE then Negative Idle
```

割り当て元アカウントのコストと量の計算

```
Driver Rate = DrivableCost/TDQ (または DrivableCost/TDQUE)
DrivableCost = Cost - AllocatedCost
Used Cost = UsedQty * Driver Rate
IdleCost = IdleQty * Driver Rate
IdlePercentage = IdleQty / TDQ
```

割り当てパスの未使用コスト量の計算

```
IdleDrvQty = IdleQtyUE
DrvDrvnQty = DrvQtyCalc + IdleDrvQty
DrvUsedCost = DrvQtyCalc * Driver Rate
DrvIdleCost = IdleDrvQty * Driver Rate
DrvDrvnCost = DrvDrvnQty * Driver Rate
```

$$\text{DrvDrvnCost} = (\text{DrvUsedCost} + \text{DrvIdleCost})$$
$$\text{DrvCost} = (\text{DrvDrvnCost} + \text{DrvAllocCost})$$

割り当て元の未使用コスト量の計算






$$\text{DrvRate} = \text{DrvbleCost} / \text{TDQ}$$
$$\text{IdleQty} = \text{TDQUE-UsedQty}$$
$$\text{IdlCost} = \text{IdleQty} * \text{DriverRate}$$
$$\text{Asgn IdlCost} = (\text{割り当て先アカウントの DrvIdleCost の合計})$$
$$\text{UnassignedCost} = (\text{IdleCost} - \text{AsgnIdlCost}) \text{または} (\text{Cost} - \text{Assigned Cost})$$
$$\text{AssignedCost} = (\text{DrivenCost} + \text{AllocCost})$$

関連項目:

[“コストの種類” \(600 ページ\)](#)

複合アカウントコストのプロパティ

複合アカウントコストのプロパティ

クロスモジュールコスト	内蔵BOC 割り当て	外蔵BOC 割り当て	割り当て	Received Idle Cost	Received Driven Cost	Received BOC Cost 	Received Reciprocal Cost	Received Cost 	Cost 	Driveable Cost (ドライバレポート = Driveable Cost / TDQ)	Idle Cost f(TDQUE)	Assigned Idle Cost	Driven Cost	Assigned Cost	Assigned Reciprocal Cost	Assigned Non-Reciprocal Cost						
																	Received Used Cost	Received Allocated Cost	Received Assignment Cost 	Received Non-Reciprocal Cost	Entered Cost \sum 	Allocated Cost (= \sum 外向きの Allocated Cost)

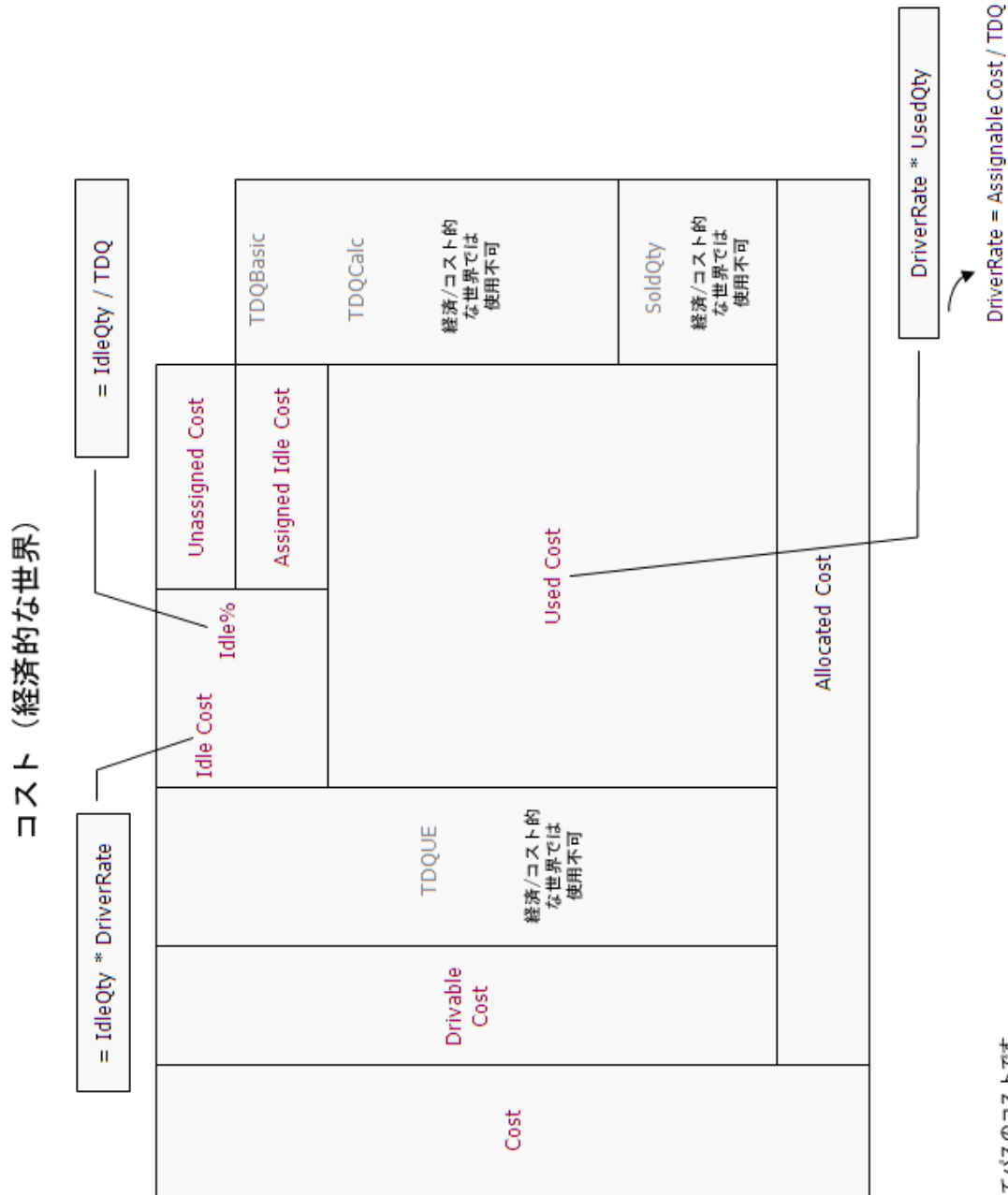
仮定：コスト割り当てに使用できる”割り当て”方法には、BOCまたは割り当てがあります。
Assigned Costs：アカウントからのコストフローに使用されるすべての割り当て方法を表します。アカウントからのBOCと割り当てのコストです。アカウントから見ると「どのコストを割り当ててるのか？」
Received Costs：アカウントへのコスト貢献に使用されるすべての割り当て方法を表します。入力されたコストは、割り当ての一部ではないため、使用されません。アカウントから見ると「どの”コスト”を受け取るのか？」

“[ダイアグラムの見方](#)” (598 ページ)を参照してください。

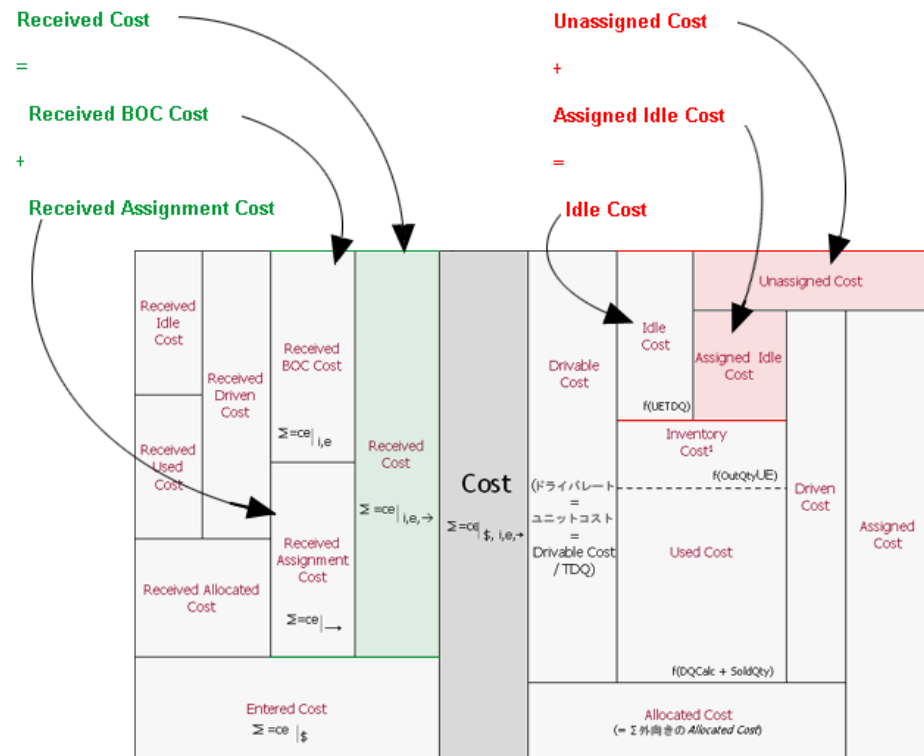
関連項目:

“[コストの種類](#)” (600 ページ)

コスト(経済的な世界)



“ダイアグラムの見方” (598 ページ)を参照してください。



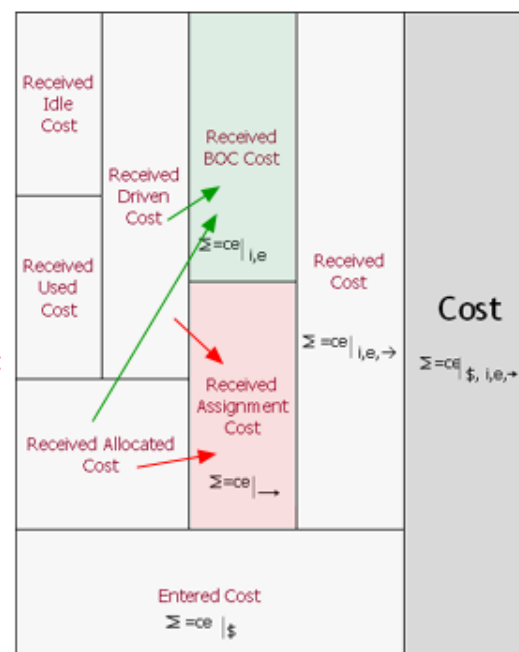
少し複雑な例

次に示す図では、次のことがわかります。

- **Received BOC Cost = Received Driven Cost の一部と Received Allocated Cost の一部の合計額。**
- **Received Assignment Cost = Received Driven Cost の一部と Received Allocated Cost の一部の合計額。**

Received BOC Cost
= 一部の
Received Driven Cost
+ 一部の
Received Allocated Cost

Received Assignment Cost
= 一部の
Received Driven Cost
+ 一部の
Received Allocated Cost



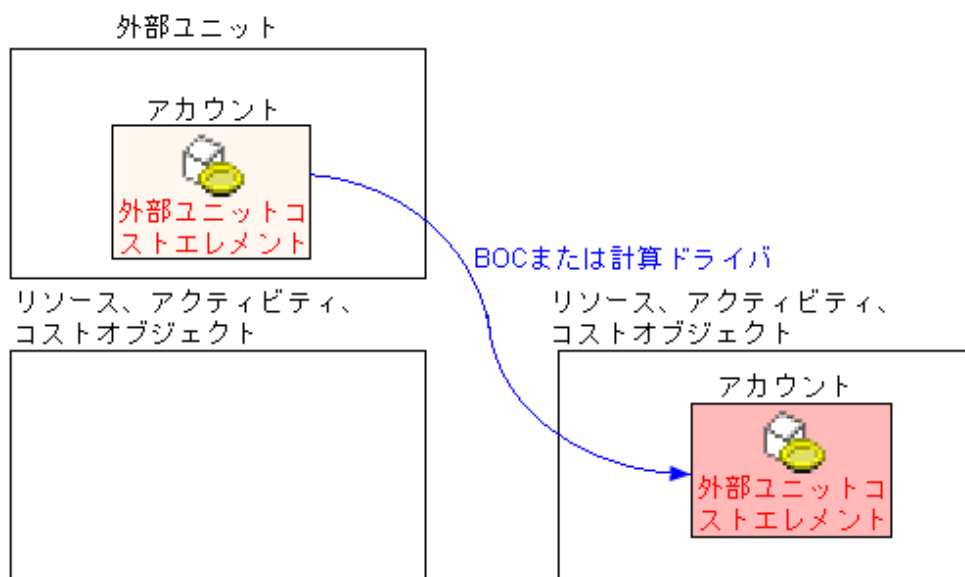
コストの種類

入力されたコストとアカウント間のコストフローの両方を示すダイアグラム。

- 入力されたコストは、アカウントに直接入力されたコストです。別のアカウントから渡されません。
- アカウント間のコストフローには、次の 3 種類があります。
 - 外部 BOC
 - 内部 BOC
 - 割り当て

外部 BOC

外部 BOC 割り当ては、外部ユニットのアカウントからリソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールのアカウントに渡されます。外部ユニットからの割り当てはビルオブコスト(BOC)ドライバまたは計算ドライバを使用します。



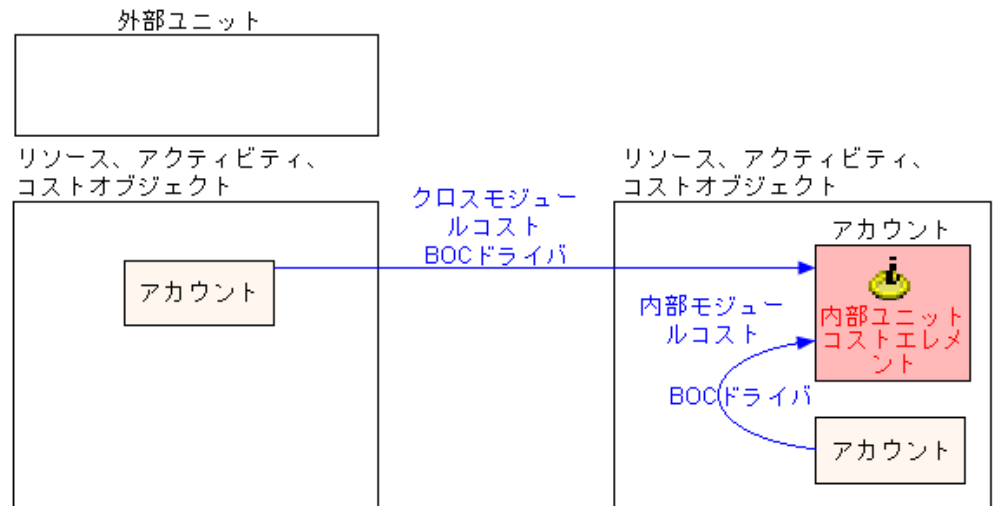
内部 BOC

内部 BOC 割り当ては、ビルオブコスト(BOC)ドライバを使用する割り当てです。リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールのアカウントから、同様にリソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールのアカウントに渡されます。

次の 2 種類のうちいずれかの方式で割り当てます。

- **クロスモジュール**(リソースとアクティビティ間、リソースとコストオブジェクト間、アクティビティとコストオブジェクト間)
- **内部モジュール**(リソース間、アクティビティ間、コストオブジェクト間)

"内部 BOC"の"内部"とは、外部ユニットからの割り当てではないという意味です。



割り当て

割り当ては、リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストユニットモジュールのアカウントから同様にリソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールのアカウントに渡されるコストフローです。ビルオブコスト (BOC) 以外のドライバを使用します。つまり、基本、計算、均等割り当て、パーセント、売上、重み付きのいずれかのドライバを使用します。

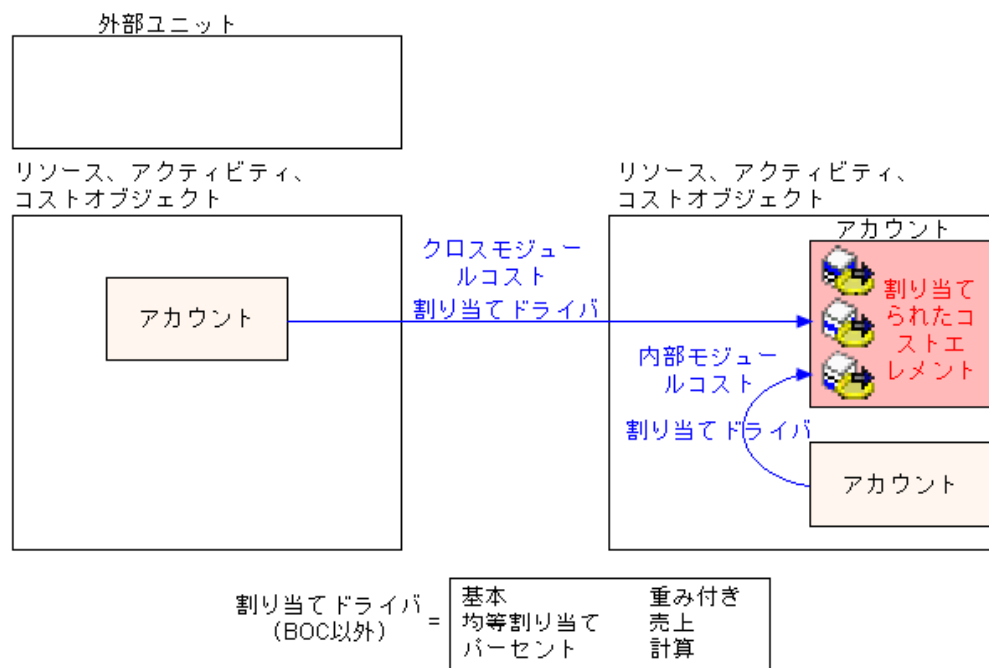
注: 同じ言葉が全般的な意味と特殊な意味で使用されます。

全般的な意味の"割り当て"は、任意のモジュールのアカウントから任意のモジュールの別のアカウントへのコストフローを指します。

特殊な意味の"割り当て"は、外部ユニット以外のアカウントから(同様に外部ユニット以外の)別のアカウントへのコストフローを指し、BOC 以外のドライバを使用します。

次の 2 種類のうちいずれかの方式で割り当てます。

- **クロスモジュール**(リソースとアクティビティ間、リソースとコストオブジェクト間、アクティビティとコストオブジェクト間)
- **内部モジュール**(リソース間、アクティビティ間、コストオブジェクト間)

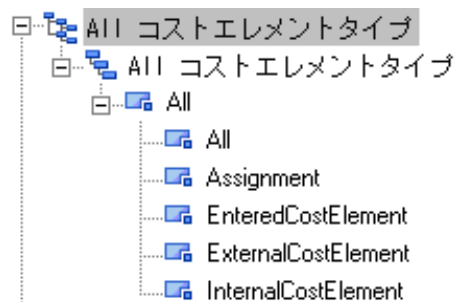


(ただし実際は、基本 = 重み付き = BOC です)

コストエレメントタイプ

シングルステージ貢献キューブでは、コストエレメントタイプ別にコストを表示できません。次のタイプを使用できます。

- 割り当て
- 入力コストエレメント
- 外部コストエレメント
- 内部コストエレメント



次の表に、各コストエレメントタイプのコストの起因を示します。

注: この表のコストエレメントのコストは、割り当て先から見たコストです。割り当て元から割り当てられたコストです。

コストエレメントタイプ	コストの起因
割り当て 	リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールのアカウントから基本、計算、均等割り当て、パーセント、売上、重み付きドライバを使用して割り当て

コストエレメントタイプ	コストの起因
入力コストエレメント 	ユーザー入力コスト
外部コストエレメント 	外部ユニットアカウントからのビルオブコストドライバまたは計算ドライバ
内部コストエレメント 	リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールのアカウントからビルオブコストドライバを使用して割り当て

関連項目:

[“コストエレメント” \(179 ページ\)](#)

59 章

プロパティのアルファベット順表示

Allocated Cost (AllocCost)	607
Assigned Cost (AsgnCost)	608
Assigned Idle Cost (AsgnIdleCost)	609
Assigned Idle Quantity (AsgnIdleQty)	609
Assigned Non Reciprocal Cost (AsgnNRecipCost)	610
Assigned Reciprocal Cost (AsgnRecipCost)	610
Calculate Error (CalcError)	611
Cost (Cost)	611
Dimension Level Name (DimLevelName)	612
Dimension Level Number (DimLevelNum)	612
Dimension Member Name (DimMemName)	613
Dimension Member Reference (DimMemRef)	613
Dimension Name (DimName)	614
Dimension Reference (DimRef)	614
Display Name (Display Name)	615
Display Reference (Display Reference)	615
Drivable Cost (DrvblCost)	616
Driven Cost (DrvnCost)	616
Driven Quantity (DrvnQty)	617
Driver Allocated Cost (DrvAllocCost)	617
Driver Cost (DrvCost)	618
Driver Driven Cost (DrvDrvnCost)	618
Driver Driven Quantity (DrvDrvnQty)	619
Driver Formula (DrvFormula)	620
Driver Idle Cost (DrvIdleCost)	620
Driver Name (DrvName)	621
Driver Percentage (DrvPcnt)	621
Driver Quantity Basic (DrvQtyBasic)	621

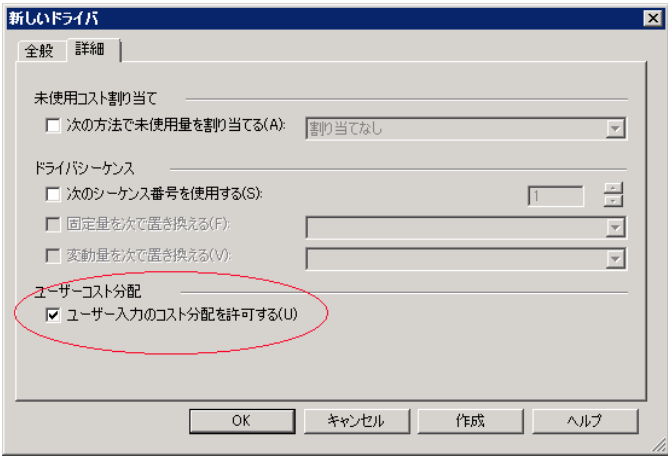
Driver Quantity Calculated (DrvQtyCalc)	622
Driver Quantity Fixed (DQF)	623
Driver Quantity Variable (DQV)	623
Driver Rate (DrvRate)	624
Driver Sequence Number (DrvSeq)	624
Driver Type (DrvType)	625
Driver Used Cost (DrvUsedCost)	625
Driver Weight Fixed (DWF)	626
Driver Weight Variable (DWV)	626
Entered Cost (EntCost)	627
Fixed Driver Quantity Override	627
Formula	628
Has Assignments (HasAsgn)	628
Has Attributes (HasAttr)	628
Has BOC (HasBOC)	629
Has Entered Cost (HasEntCost)	629
Has Idle Cost (HasIdleCost)	630
Has Notes (HasNotes)	630
Has Used Cost (HasUsedCost)	630
Idle Cost (IdleCost)	631
Idle Driver Quantity (IdleDrvQty)	632
Idle Driver Quantity UE (IdleQtyEU)	632
Idle Flow Method (IdleFlow)	633
Idle Percentage (IdlePcnt)	634
Idle Quantity (IdleQty)	634
Intersection Name (IntsetnName)	635
Intersection Reference (IntsetnRef)	635
Module Type (ModType)	636
Name (Name)	636
Output Quantity (OutQty)	637
Output Quantity UE (OutQtyUE)	637
Periodic Note (PerNote)	637
Profit (Profit)	638
Received Allocated Cost (RcvAllocCost)	638
Received Assignment Cost (RcvAsgnCost)	639
Received BOC Cost (RcvBOCCost)	640
Received Cost (RcvCost)	641

Received Driven Cost (RcvDrvnCost)	642
Received Idle Cost (RcvIdlCost)	642
Received Non Reciprocal Cost (RcvNRecipCost)	643
Received Reciprocal Cost (RcvRecipCost)	643
Received Used Cost (RcvUcost)	643
Reference (Reference)	644
Revenue (Revenue)	644
Sold Quantity (SoldQty)	645
Total Driver Quantity (TDQ)	645
Total Driver Quantity Basic (TDQBasic)	646
Total Driver Quantity Calculated (TDQCalc)	646
Total Driver Quantity UE (TDQUE)	647
Type (Type)	647
Unassigned Cost (UnAsgnCost)	648
Unassigned Quantity (UnAsgnQty)	648
Unique Driver Quantities (UniqDvrQty)	649
Unit Cost (UnitCost)	649
Unit Of Measure (UoM)	649
Unit Profit (UnitProfit)	650
Unit Revenue (UnitRevenue)	650
Use Fixed Quantities (UseFixQty)	651
Use Variable Quantities (UseVarQty)	651
Use Weighted Quantities (UseWeightedQty)	652
Used Cost (UsedCost)	652
Used Quantity (UsedQty)	653
User-Entered Cost Allocation	653
Variable Driver Quantity Override	654

Allocated Cost (AllocCost)

ユーザー分配方法に基づき、アカウント間で受け渡しされるコスト。このコストは、特定の割り当て先アカウントに直接分配されます。残りのコストは、ドライバ量を使用して割り当てられます。

このプロパティの値は、システムにより作成されます。この値は変更できません。すべてのユーザー入力のコスト分配の合計を表します。Driver Allocated Cost (DrvAllocCost)の値を設定して、ユーザー入力のコスト分配を入力します。ユーザー分配方法を有効にするには、新しいドライバウィンドウの**詳細タブのユーザー入力のコスト分配を許可する**チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ドライバの Driver Allocated Cost (DrvAllocCost)は保護されます。



$$\text{Drivable Cost} = \text{Cost} - \text{Allocated Cost}$$

$$\text{Driver Rate} = \text{Drivable Cost} / \text{TDQ}$$

表 59.1 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

[“ドライバの作成” \(311 ページ\)](#)

Assigned Cost (AsgnCost)

コストエレメントまたはアカウント間で受け渡しされるコスト。コストは、ドライバメソッドに基づきアカウント間で受け渡しされます。

Assigned Cost は、次の式に従って計算されます。

$$\text{Assigned Cost} = \text{Driven Cost} + \text{Allocated Cost}$$

表 59.2 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“コストの種類” \(600 ページ\)](#)
- [Assigned Reciprocal Cost \(610 ページ\)](#)
- [Received Cost \(641 ページ\)](#)

Assigned Idle Cost (AsgnIdleCost)

特に割り当て元アカウントの未使用フロー設定により発生した外向きの割り当てのコストの合計。

Assigned Idle Cost は、次の式に従って計算されます。

$\text{Asgn IdleCost} = (\text{割り当て先アカウントの DrvIdleCost の合計})$

表 59.3 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“コストの種類” \(600 ページ\)](#)
- [“未使用量” \(298 ページ\)](#)
- [“未使用フロー” \(405 ページ\)](#)

Assigned Idle Quantity (AsgnIdleQty)

アカウントの未使用フロー設定により外向きの割り当てにコストを発生させる、アカウントの未使用量。

表 59.4 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“未使用量” \(298 ページ\)](#)
- [“未使用フロー” \(405 ページ\)](#)

Assigned Non Reciprocal Cost (AsgnNRecipCost)

アカウントの外向きの割り当てにおいて、割り当て元アカウントと同じ相互配賦システムに含まれていない割り当て先アカウントへのコストの合計。

表 59.5 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

Assigned Reciprocal Cost (AsgnRecipCost)

相互配賦アカウント間で受け渡しされる、割り当てコスト。非相互配賦アカウントの場合、この値は NULL になります。

表 59.6 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“相互配賦原価計算” \(303 ページ\)](#)
- [Cost \(611 ページ\)](#)
- [Received Reciprocal Cost \(643 ページ\)](#)

Calculate Error (CalcError)

計算ドライバまたは計算属性値のエラーステータス。

このプロパティは、モジュールビュー内でロールアップされ、モジュールレベルの最優先エラーを表示します。このエラー情報は、計算エラーのデバッグ時に利用できます。

表 59.7 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって生成
レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

Cost (Cost)

コストエレメントまたはアカウントのコスト(計算値)。

Cost は、次の式に従って計算されます。

$$\text{Cost} = \text{EnteredCost} + \text{Received Cost}$$

(詳細:

$$\text{Cost} = \text{EnteredCost} + \text{ReceivedAssignmentCost} + \text{Received BOC cost})$$

表 59.8 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	入力されたコストエレメントに対してのみ、この値を変更できます。それ以外のこのプロパティ値はすべて、システムにより作成されます。これらの値は変更できません。
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

関連項目:

- [36 章, “計算” \(387 ページ\)](#)
- [Assigned Reciprocal Cost \(610 ページ\)](#)
- [Received Cost \(641 ページ\)](#)

Dimension Level Name (DimLevelName)

インターセクションが定義されたディメンションのレベル名。

表 59.9 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる変更可能(ただし、このプロパティはグリッドでは読み取り専用)。この値はグリッドでは変更できません。
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [Dimension Level Number \(DimLevelNumber\) \(612 ページ\)](#)

Dimension Level Number (DimLevelNum)

インターセクションが定義されたディメンションのディメンション階層の深さ。

表 59.10 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって生成
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	4 バイトの整数値
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [“Dimension Level Number \(DimLevelNum\)” \(612 ページ\)](#)
- [Dimension Level Name \(DimLevelName\) \(612 ページ\)](#)

Dimension Member Name (DimMemName)

アカウント(ディメンションのインターセクション)を定義するディメンションメンバ名。

表 59.11 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [Dimension Member Reference \(DimeMemberReference\) \(613 ページ\)](#)

Dimension Member Reference (DimMemRef)

アカウント(ディメンションのインターセクション)を定義するディメンションメンバの参照。

表 59.12 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [Dimension Member Name \(DimMemberName\) \(613 ページ\)](#)

Dimension Name (DimName)

インターセクションが定義されたディメンションの名前。

表 59.13 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [Dimension Reference \(DimReference\) \(614 ページ\)](#)

Dimension Reference (DimRef)

表 59.14 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

- [“メジャーおよびディメンション” \(127 ページ\)](#)
- [Dimension Name \(DimName\) \(614 ページ\)](#)

Display Name (Display Name)

表示アイテムの名前。

表 59.15 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって生成。ただし、Name は変更できます。
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

[Display Reference \(615 ページ\)](#)

Display Reference (Display Reference)

表示アイテムの参照。

表 59.16 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって生成。ただし、Reference は変更できます。
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

[Display Name \(615 ページ\)](#)

Drivable Cost (DrvblCost)

ユーザー分配コストを減算して残った、ドライバによる割り当て可能なアカウントコスト。

この値は変更できません。次の式に従ってシステムによって生成されます。

$$\text{DrivableCost} = \text{Cost} - \text{AllocatedCost}$$

および

$$\text{DrivableCost} = \text{UsedCost} + \text{IdleCost}$$

表 59.17 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

[“ステップ 9-リソースアカウントの DrvblCost” \(420 ページ\)](#)

Driven Cost (DrvnCost)

アカウントのドライバにより割り当て処理されたコストの額(Used Cost と Assigned Idle Cost の両方を含む)。

Driven Cost は、次の式に従って計算されます。

$$\text{Driven Cost} = \text{Used Cost} + \text{Assigned Idle Cost}$$

表 59.18 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“Used Cost \(UsedCost\)” \(652 ページ\)](#)
- [“Assigned Idle Cost \(AsgnIdleCost\)” \(609 ページ\)](#)

Driven Quantity (DrvQty)

アカウントの外向きの割り当てにおけるドライバ量の合計(Used Quantity と Assigned Idle Quantity の両方を含む)。

このプロパティの値は、システムにより作成されます。この値は変更できません。次の式に従って定義されます。

$$\text{DrivenQuantity} = \text{AssignedIdleQty} + \text{UsedQuantity}$$

表 59.19 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- “Assigned Idle Quantity (AsgnIdleQty)” (609 ページ)
- “Driver Quantity Calculated (DrvQtyCalc)” (622 ページ)

Driver Allocated Cost (DrvAllocCost)

割り当てパス上の、ユーザー入力の Allocated Cost 値。

Driver Allocated Cost の設定を有効にするには、新しいドライバウィンドウの詳細タブのユーザー入力のコスト分配を許可するチェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ドライバの Driver Allocated Cost は保護されます。

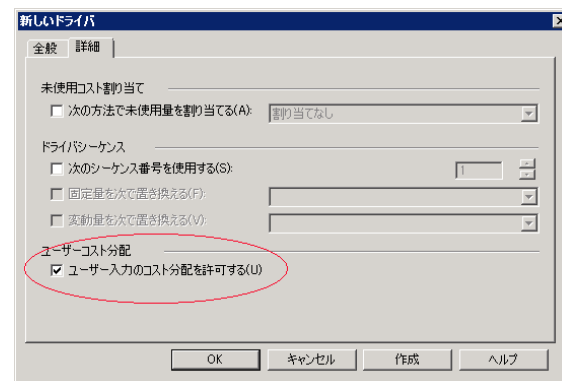


表 59.20 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザー入力
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

このプロパティをグリッドの列に追加する際、デフォルトの出力形式として通貨が使用されます。

関連項目:

[“ドライバの作成” \(311 ページ\)](#)

Driver Cost (DrvCost)

割り当てを介して、アカウント間で受け渡しされるコスト。

Driver Cost は、次の式に従って計算されます。

$\text{Driver Cost} = (\text{Driver Driven Cost} + \text{Driver Allocated Cost})$

表 59.21 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“重み付きドライバと固定ドライバ量、変動ドライバ量の使用” \(405 ページ\)](#)
- [“ステップ 12-アクティビティアカウントへのパスの DrvCost” \(423 ページ\)](#)
- [“ステップ 16-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvCost” \(427 ページ\)](#)
- [Cost \(611 ページ\)](#)

Driver Driven Cost (DrvDrvnCost)

割り当てパス上を受け渡しされる割り当てコスト(Used Cost と Assigned Idle Cost の両方を含む)。

Driver Driven Cost は、次の式に従って計算されます。

$$\text{Driver Driven Cost} = (\text{Driver Used Cost} + \text{Driver Idle Cost})$$

および

$$\text{Driver Driven Cost} = (\text{DrvDrvnQty} * \text{Driver Rate})$$

表 59.22 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [Cost \(611 ページ\)](#)
- [“ステップ 11-アクティビティアカウントへのパスの DrvDrvnCost” \(422 ページ\)](#)
- [“ステップ 15-コストオブジェクトアカウントへのパスの DrvDrvnCost” \(426 ページ\)](#)

Driver Driven Quantity (DrvDrvnQty)

割り当てパス上を受け渡しされる割り当て量(Used Quantity と Assigned Idle Quantity の両方を含む)。

Driver Driven Quantity は、次の式に従って計算されます。

$$\text{DrvDrvnQty} = \text{DrvQtyCalc} + \text{IdleDrvQty}$$

表 59.23 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

このプロパティをグリッドの列に追加する際、デフォルトの出力形式として数値が使用されます。

このプロパティの値は、システムにより作成されます。この値は変更できません。

Driver Formula (DrvFormula)

割り当て元アカウントのドライバに割り当てられている式。

表 59.24 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる変更可能。ただし、グリッドでは、このプロパティは読み取り専用です。この値はグリッドでは変更できません。ドライバプロパティダイアログでのみ変更できます。
レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	長いテキスト値
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は Microsoft SQL Server の TEXT または NTEXT データタイプに変換する必要があります。

関連項目:

- [“計算ドライバ” \(273 ページ\)](#)
- [Formula \(628 ページ\)](#)

Driver Idle Cost (DrvIdleCost)

割り当て元アカウントの未使用コスト。割り当てパス上で受け渡しされます。

Driver Idle Cost は、次の式に従って計算されます。

$$\text{Driver Idle Cost} = \text{Idle DriverQty} * \text{Driver Rate}$$

表 59.25 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [Driver Cost \(618 ページ\)](#)

- “未使用量” (298 ページ)
- “未使用フロー” (405 ページ)

Driver Name (DrvName)

Driver Name (DrvName) アカウントに関連付けられたドライバ名。

表 59.26 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	アカウントと外部ユニットに対してのみ、この値を変更できます。
レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

Driver Percentage (DrvPcnt)

割り当ての合計ドライバ量に対する比率(パーセント)。

表 59.27 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

このプロパティをグリッドの列に追加する際、デフォルトの出力形式として数値が使用されます。

このプロパティの値は、システムにより作成されます。この値は変更できません。

8 バイトの浮動小数点数です。

Driver Quantity Basic (DrvQtyBasic)

アカウント間で受け渡しする固定量と変動量の合計。

Driver Quantity Basic は、次の式に従って計算されます。

$$DQBasic = DQF + DQV * Dest.TDQ$$

表 59.28 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“ドライバの種類と比較” \(288 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Calculated \(622 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Fixed \(623 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Variable \(623 ページ\)](#)

Driver Quantity Calculated (DrvQtyCalc)

アカウント間で受け渡しされる量(計算値)。

このプロパティの値は、システムにより作成されます。この値は変更できません。次の式に従って計算されます。

$$DrvQtyCalc = (DQF \times DWF) + (DQV \times DWV \times Dest.TDQ)$$

表 59.29 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“ドライバの種類と比較” \(288 ページ\)](#)
- [38 章, “計算の詳細例” \(409 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Basic \(621 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Fixed \(623 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Variable \(623 ページ\)](#)

Driver Quantity Fixed (DQF)

アカウント間で受け渡しするユーザー入力の固定量。

表 59.30 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	固定ドライバ量が設定可能なドライバを使用する割り当てられたコストエレメントに対してのみ、この値を変更できます。
レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量” \(290 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Basic \(621 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Calculated \(622 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Variable \(623 ページ\)](#)

Driver Quantity Variable (DQV)

アカウント間で受け渡しするユーザー入力の変動量。

表 59.31 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	変動ドライバ量が設定可能なドライバを使用する割り当てられたコストエレメントに対してのみ、この値を変更できます。
レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量” \(290 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Basic \(621 ページ\)](#)
- [Driver Quantity Calculated \(622 ページ\)](#)

- [Driver Quantity Fixed \(623 ページ\)](#)

Driver Rate (DrvRate)

割り当てコストのユニット当たりの価格(計算値)。割り当てのドライバ量ユニット当たりのコスト(計算値)。次の式に従って計算されます。

$$\text{DriverRate} = \text{IF ExternalUnit THEN UnitCostEntered ELSE DrivableCost} / \text{TDQ}$$

および

$$\text{DrivableCost} = \text{Cost} - \text{AllocatedCost}$$

表 59.32 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- “ステップ 10-リソースアカウントの DrvRate” (421 ページ)
- “ステップ 14-アクティビティアカウントからの外向きドライバの DrvRate” (425 ページ)

Driver Sequence Number (DrvSeq)

割り当て元アカウントのドライバに関連付けられるシーケンス番号。

表 59.33 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	4 バイトの整数値
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

関連項目:

- “ドライバシーケンス” (295 ページ)

Driver Type (DrvType)

ドライバの種類には、基本、ビルオブコスト、計算、均等割り当て、パーセント、売上、重み付きがあります。デフォルトドライバは基本です。

表 59.34 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる変更可能。ただし、列レイアウトでは、このプロパティは読み取り専用です。
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

[26 章, “ドライバの種類” \(269 ページ\)](#)

Driver Used Cost (DrvUsedCost)

アカウントの外向きの割り当てにおいて、アカウントのドライバから発生したコストの合計。この合計には、Allocated Cost と Idle Cost は含まれません。

Driver Used Cost は、次の式に従って計算されます。

$$\text{Driver Used Cost} = \text{DriverQtyCalc} * \text{Driver Rate}$$

SoldQuantity がいない場合は、次の計算に従って計算されます。

$$\text{DriverUsedCost} = \text{DrivableCost} * \text{DQCalc} / \text{TDQCalc}$$

表 59.35 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

Driver Weight Fixed (DWF)

固定ドライバ量を調整する数値係数。デフォルトの重み付きは 1 です。

表 59.36 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	固定ドライバ量の重み付きが可能なドライバを使用する割り当てられたコストエレメントに対してのみ、この値を変更できます。
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量” \(290 ページ\)](#)
- [Driver Weight Variable \(626 ページ\)](#)

Driver Weight Variable (DWV)

変動ドライバ量を調整する数値係数。デフォルトの重み付きは 1 です。

表 59.37 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	変動ドライバ量の重み付きが可能なドライバを使用する割り当てられたコストエレメントに対してのみ、この値を変更できます。
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“固定ドライバ量、変動ドライバ量、重み付きドライバ量” \(290 ページ\)](#)
- [Driver Weight Fixed \(626 ページ\)](#)

Entered Cost (EntCost)

コストエレメントのユーザー入力コスト、またはアカウントのすべてのアカウント入力コストエレメントの合計(計算値)。

表 59.38 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

関連項目:

- [17 章, “コストエレメントの操作” \(179 ページ\)](#)
- [Cost \(611 ページ\)](#)

Fixed Driver Quantity Override

次のシーケンスパス以降の Driver Quantity Fixed の値を置換する、シーケンスドライバのプロパティ名。

表 59.39 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

- [“ドライバシーケンス” \(295 ページ\)](#)
- [Variable Driver Quantity Override \(654 ページ\)](#)

Formula

計算ドライバまたは計算属性の式。

表 59.40 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	長いテキストベースの値です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は Microsoft SQL Server の TEXT または NTEXT データタイプに変換する必要があります。

関連項目:

- [29 章, “式” \(323 ページ\)](#)
- [“計算ドライバ” \(273 ページ\)](#)
- [“計算属性” \(188 ページ\)](#)
- [Driver Formula \(620 ページ\)](#)

Has Assignments (HasAsgn)

アカウントが別のアカウントからコストを受け取るかどうかを示します。

表 59.41 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システム生成
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

Has Attributes (HasAttr)

アイテムに少なくとも 1 つの属性があるかどうかを示します。

表 59.42 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システム生成
レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

Has BOC (HasBOC)

アカウントが外部ユニットから少なくとも 1 つのビルオブコストを受け取るかどうかを示します。

表 59.43 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システム生成
レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

関連項目:

[“ビルオブコストドライバ” \(270 ページ\)](#)

Has Entered Cost (HasEntCost)

アカウントに少なくとも 1 つのユーザー入力のコストエレメントがあるかどうかを示します。

表 59.44 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システム生成
レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

関連項目:[17 章, “コストエレメントの操作” \(179 ページ\)](#)

Has Idle Cost (HasIdleCost)

アイテムにゼロでない未使用コスト、つまり、他のアカウントに受け渡さないコストがあるかどうかを示します。

表 59.45 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システム生成
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- “未使用量” (298 ページ)
- “未使用フロー” (405 ページ)

Has Notes (HasNotes)

アイテムに期間の説明(Periodic Note)があるかどうかを示します。

表 59.46 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システム生成
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

Has Used Cost (HasUsedCost)

アイテムにゼロでない使用コストがあるかどうかを示します。コストが他のアカウントに受け渡されます。

表 59.47 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

Idle Cost (IdleCost)

未使用コストは、すべての直接割り当てが行われた後の残りのコストです。アカウントから渡されていないコストとして計算されます。この計算式は、アカウントユニットコスト x 未使用量(未使用量 = ユーザー入力の合計ドライバ量 - アウトプット量)となります。より簡潔すると、次のようになります。

$$\text{Idle Cost} = \text{IdleQty} \times \text{Driver Rate}$$

および

$$\text{Idle Cost} = \text{AssignedIdleCost} \times \text{UnassignedCost}$$

および

$$\text{IdleCost} = \text{IdleQty} \times \text{Driver Rate}$$

この残りのコストは、指定した未使用コストフローメソッド(ドライバ、パーセント、ユーザー入力、均等のいずれか)を使用して割り当てられます。

表 59.48 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“未使用量” \(298 ページ\)](#)
- [“未使用フロー” \(405 ページ\)](#)
- [Cost \(611 ページ\)](#)
- [Idle Quantity \(634 ページ\)](#)
- [Idle Percentage \(634 ページ\)](#)

Idle Driver Quantity (IdlDrvQty)

特に割り当て元アカウントの未使用フロー設定に由来し、割り当てパス上にコストを発生させる量。

Idle Driver Quantity は、次の式に従って計算されます。

Idle Driver Quantity = Idle Driver Quantity UE

表 59.49 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“未使用量” \(298 ページ\)](#)
- [“未使用フロー” \(405 ページ\)](#)
- [Idle Driver Quantity UE \(632 ページ\)](#)
- [Idle Flow Method \(633 ページ\)](#)

Idle Driver Quantity UE (IdlQtyEU)

割り当てられたコストエレメントと内部コストエレメントの、ユーザーの任意入力による未使用ドライバ量の値。

割り当て元アカウントの未使用フロー設定に基づいて未使用コストを割り当てる際に、この値を使用します。

表 59.50 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

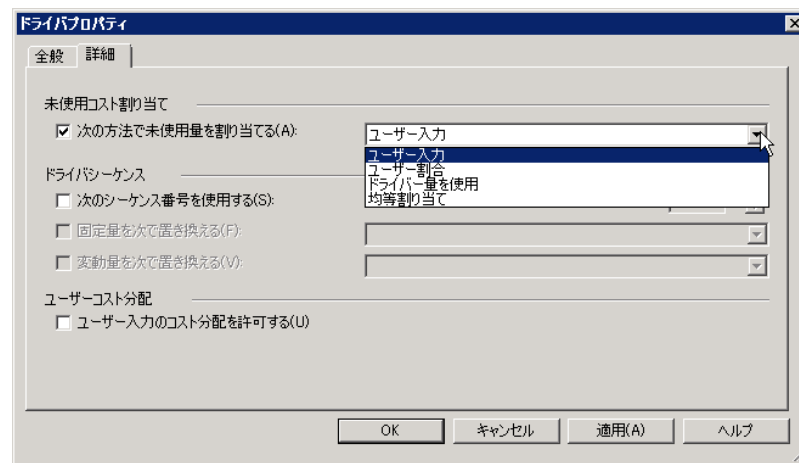
- [“未使用量” \(298 ページ\)](#)

- “未使用フロー” (405 ページ)
- Idle Driver Quantity (632 ページ)
- Idle Flow Method (633 ページ)

Idle Flow Method (IdleFlow)

割り当て元アカウントの外向きの割り当てにおいて、ドライバから未使用コストを計算する際に使用されるメソッド。

インターフェイス内での対話操作では、ユーザー入力、ユーザー割合、ドライバ量を使用、均等割り当ての値を使用できます。デフォルト値はユーザー入力です。Idle Flow Method は、ドライバのプロパティウィンドウの詳細タブのドロップダウンボックスで指定します。



モデルデータのインポート時は、割り当てなし、均等割り当て、ドライバ量、ユーザー入力、ユーザー割合の値を使用できます。デフォルト値は割り当てなしです。

表 59.51 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

- “未使用量” (298 ページ)
- “未使用フロー” (405 ページ)

- [“未使用フロー” \(405 ページ\)](#)

Idle Percentage (IdlPcnt)

アカウントから渡されていないアカウントコストのパーセントとして計算されます。未使用パーセントは、すべての直接割り当てが行われた後の残りのコストの割合です。この計算式は、 $100 \times (\text{ユーザー入力の合計ドライバ量} - \text{計算済み合計ドライバ量}) / \text{ユーザー入力の合計ドライバ量}$ となります。

Idle Percentage は、次の式に従って計算されます。

$$\text{IdlePercentage} = \text{IdleQty} / \text{TDQ}$$

表 59.52 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	パーセント
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	割り当て

関連項目:

- [“未使用量” \(298 ページ\)](#)
- [“未使用フロー” \(405 ページ\)](#)
- [Idle Cost \(631 ページ\)](#)
- [Idle Quantity \(634 ページ\)](#)

Idle Quantity (IdlQty)

アカウントから渡されていないアカウント量として計算されます。未使用量は、すべての直接割り当てが行われた後の残りの量です。この計算式は、 $(\text{ユーザー入力の合計ドライバ量} - \text{アウトプット量})$ となります。

$$\text{IdlQty} = \text{TDQUE} - \text{OutQty}$$

If TDQUE > OutputQty then Positive Idle

If TDQUE < OutputQty/OutputQtyUE then Negative Idle

表 59.53 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数

割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き
--------------------	-----

関連項目:

- [“未使用量” \(298 ページ\)](#)
- [“未使用フロー” \(405 ページ\)](#)
- [Idle Cost \(631 ページ\)](#)
- [Idle Percentage \(634 ページ\)](#)

Intersection Name (IntsctnName)

アイテムを作成するために交差するディメンションのすべての名前が連結されます。各ディメンション名は、特殊文字で区切られます。

表 59.54 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システム生成
レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

[Intersection Reference \(635 ページ\)](#)

Intersection Reference (IntsctnRef)

アイテムを作成するために交差するディメンションメンバのすべての参照が連結されます。各参照は、特殊文字で区切られます。

表 59.55 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システム生成
レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

[Intersection Name \(635 ページ\)](#)

Module Type (ModType)

モジュールの種類には、リソース、アクティビティ、コストオブジェクト、外部ユニット、利益率があります。(利益率の値は売上ドライバをサポートします。)

表 59.56 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって生成
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 バイトの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

Name (Name)

ユーザー入力のアイテム名またはデフォルトのアイテム名。

表 59.57 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能。システムにより作成される外部ユニットコストエレメント、内部コストエレメント、割り当てを除く、任意のアイテムに対してこの値を変更できます。
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

[Reference \(644 ページ\)](#)

Output Quantity (OutQty)

期間/シナリオ関連付けのアカウントの計算量、またはユーザー入力量(Output Quantity UE)。ユーザー入力量は、計算量をオーバーライドします。

この値は変更できません。次の式に従ってシステムによって生成されます。

$$\text{OutputQty} = \text{IF OutputQtyUE is not null THEN OutputQtyUE ELSE UsedQty}$$

表 59.58 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

Output Quantity UE(OutputQtyUE)

ユーザー入力のアウトプット量。

表 59.59 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

関連項目:

[Output Quantity \(637 ページ\)](#)

Periodic Note (PerNote)

アイテムに割り当てられた期間またはシナリオの情報。

表 59.60 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	32,000 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

関連項目:[Has Notes \(630 ページ\)](#)

Profit (Profit)

収益とコストから計算される差。

表 59.61 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

Received Allocated Cost (RcvAllocCost)

アカウント内のすべての分配コストエレメントのコスト(計算値)。アカウントが受け取る分配コストの合計です。

注: 分配コストエレメントを有効にするには、新しいドライバウィンドウの詳細タブのユーザー入力のコスト分配を許可するチェックボックスを選択します。

The screenshot shows the '新しいドライバ' (New Driver) dialog box with the '詳細' (Details) tab selected. In the 'ユーザーコスト分配' (User Cost Allocation) section, the checkbox 'ユーザー入力のコスト分配を許可する(U)' (Allow user input cost allocation) is checked and circled in red. Other sections include '未使用コスト割り当て' (Unused Cost Allocation) with a dropdown set to '割り当てなし' (None), and 'ドライバシーケンス' (Driver Sequence) with checkboxes for '次のシーケンス番号を使用する(S)' (Use next sequence number), '固定量を次で置き換える(F)' (Replace fixed quantity with), and '変動量を次で置き換える(V)' (Replace variable quantity with).

表 59.62 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

Received Assignment Cost (RcvAsgnCost)

アカウント内のすべての割り当てコストエレメントのコスト(計算値)。

割り当てコストは、BOC 以外のドライバを使用して割り当てられます。次の 2 つの条件を満たす必要があります。

- リソースモジュール、アクティビティモジュール、またはコストユニットモジュールの貢献アカウントである。
- ドライバが BOC 以外(基本、計算、均等割り当て、パーセント、売上、重み付きのいずれか)である。

Received Assignment Cost は、次の割り当てコストの合計です。

クロスモジュール割り当て

あるモジュール(リソース、アクティビティ、コストユニット)のアカウントから別のモジュールのアカウントへの割り当て

内部モジュール割り当て

あるモジュール(リソース、アクティビティ、コストユニット)のアカウントから同じモジュールのアカウントへの割り当て

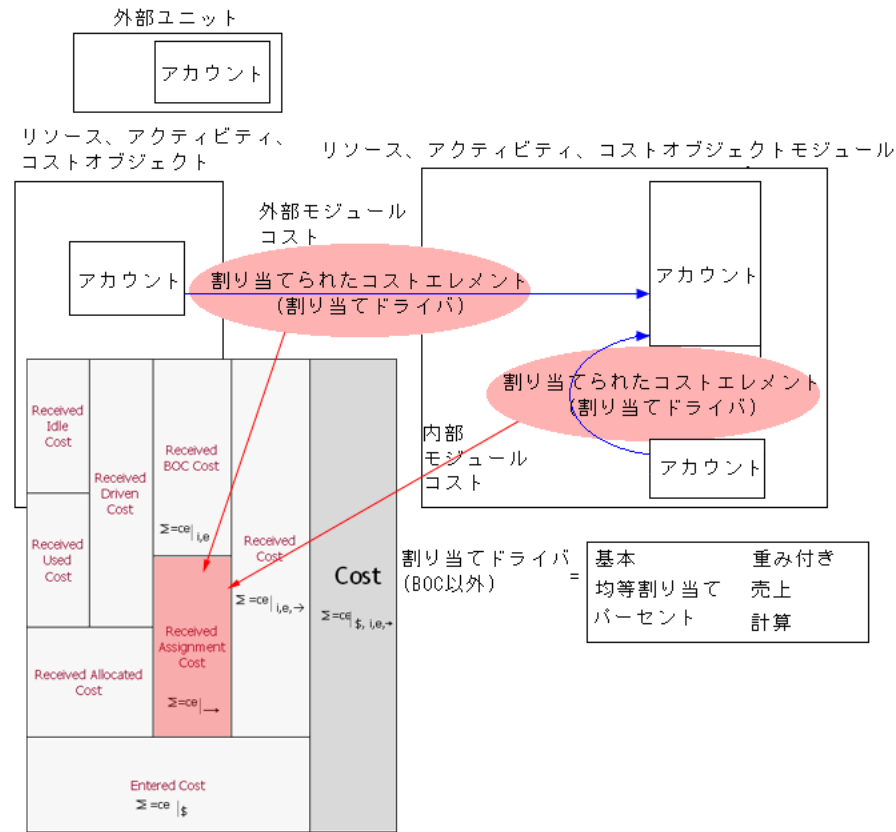


表 59.63 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

Received BOC Cost (RcvBOCCost)

アカウント内で、ビルオブコストドライバを使用するすべてのコストエレメントのコスト(計算値)。

アカウントのこのプロパティは、次のコストエレメントの合計です。

外部ユニットコストエレメント

外部ユニットのアカウントからそのアカウントへの BOC ドライバを使用した割り当て。

外部ユニットからの割り当てはすべてビルオブコスト(BOC)ドライバを使用します。

内部コストエレメント

リソースモジュール、アクティビティモジュール、コストオブジェクトモジュールのアカウントからそのアカウントへの BOC ドライバを使用した割り当て。次のどちらかの方式で割り当てます。

- クロスモジュール

あるモジュールのアカウントから別のモジュールのアカウントへの割り当て 内部モジュール
- 内部モジュール

あるモジュールのアカウントから同じモジュールのアカウントへの割り当て

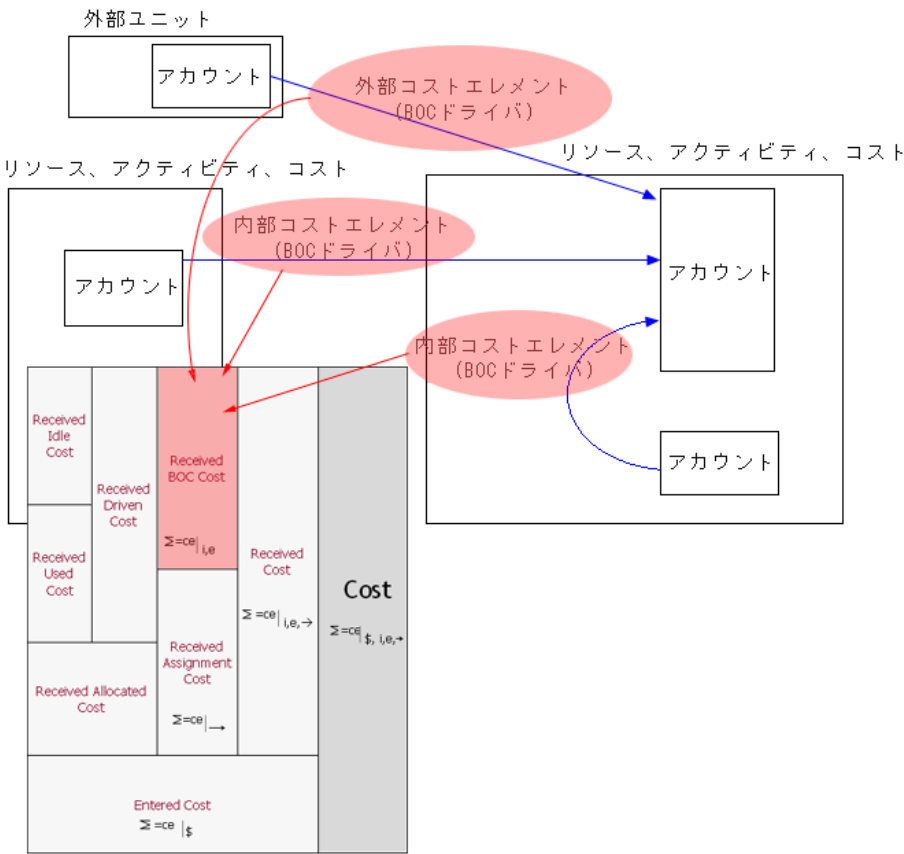


表 59.64 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

Received Cost (RcvCost)

アカウントがすべての割り当てから受け取るコスト(計算値)。
Received Cost は、次の式に従って計算されます。
 $Received\ Cost = (Received\ BOC\ Cost + Received\ Assignment\ Cost)$
および

$$\text{Received Cost} = (\text{Received Driven Cost} + \text{Received Allocated Cost})$$

表 59.65 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

Received Driven Cost (RcvDrvnCost)

ドライバ量を使用してアカウントに割り当てられるコストの合計。分配コスト額は含まれません。

表 59.66 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

Received Idle Cost (RcvIdlCost)

割り当て元アカウントの未使用フロー設定により、アカウントに割り当てられるコスト額。

この値はコストエレメントにのみ表示され、アカウントには表示されません。

表 59.67 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

Received Non Reciprocal Cost (RcvNRecipCost)

アカウントがすべての割り当てから受け取るコストとすべての相互配賦割り当てから受け取るコストとの差(計算値)。

表 59.68 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

関連項目:

[Received Reciprocal Cost \(643 ページ\)](#)

Received Reciprocal Cost (RcvRecipCost)

アカウントが、同じ相互配賦システムの他のアカウントから受け取るコスト(計算値)。

表 59.69 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

関連項目:

[Received Non Reciprocal Cost \(643 ページ\)](#)

Received Used Cost (RcvUcost)

未使用ではないドライバ量(Driver Quantity Calculated)により、アカウントに割り当てられるコスト額。

この値はコストエレメントにのみ表示され、アカウントには表示されません。

表 59.70 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

Reference (Reference)

アイテムを一意に識別するユーザー入力またはデフォルトのラベル。

表 59.71 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムにより作成される外部ユニットコストエレメント、内部コストエレメント、割り当てを除く、任意のアイテムに対してこの値を変更できます。
レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

[Name \(636 ページ\)](#)

Revenue (Revenue)

ユーザー入力の収益。

表 59.72 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

Sold Quantity (SoldQty)

ユーザー入力の売上ユニット数。

表 59.73 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	内向き

関連項目:

- [“売上ドライバ” \(276 ページ\)](#)
- [“ドライバの種類の比較” \(288 ページ\)](#)

Total Driver Quantity (TDQ)

アウトプット量(計算値)またはユーザー入力ドライバ量の合計(Total Driver Quantity UE (TDQUE)). ユーザー入力量は、計算量をオーバーライドします。

この値は変更できません。次の式に従ってシステムによって生成されます。

$$TDQ = \text{IF } TDQUE \text{ is not null THEN } TDQUE \text{ ELSE UsedQty}$$

表 59.74 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“ドライバの種類の比較” \(288 ページ\)](#)
- [“独立した TDQ” \(300 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity Basic \(TDQBasic\) \(646 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity Calculated \(TDQCalculated\) \(646 ページ\)](#)

Total Driver Quantity Basic (TDQBasic)

アカウントのすべての外向きの基本ドライバ量(Driver Quantity Basic)の合計量(計算値)。

表 59.75 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“ドライバの種類の比較” \(288 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity \(TDQ\) \(645 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity Calculated \(TDQCalculated\) \(646 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity UE \(TDQUE\) \(647 ページ\)](#)

Total Driver Quantity Calculated (TDQCalc)

アカウントのすべての外向きのドライバの計算量(Driver Quantity Calculated)の合計量(計算値)。

表 59.76 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“ドライバの種類の比較” \(288 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity \(TDQ\) \(645 ページ\)](#)
- [“Total Driver Quantity UE \(TDQUE\)” \(647 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity Basic \(TDQBasic\) \(646 ページ\)](#)

- [Total Driver Quantit UE \(TDQUE\) \(647 ページ\)](#)

Total Driver Quantity UE (TDQUE)

ユーザー入力ドライバ量の合計。

表 59.77 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ドライバの種類が均等割り当て、売上、パーセントのアカウントに対しては、この値は変更できません。
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [“ドライバの種類の比較” \(288 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity \(TDQ\) \(645 ページ\)](#)
- [“Total Driver Quantity UE \(TDQUE\)” \(647 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity Basic \(TDQBasic\) \(646 ページ\)](#)
- [Total Driver Quantity Calculated \(TDQCalculated\) \(646 ページ\)](#)

Type (Type)

アイテムの種類。

表 59.78 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	4 バイトの整数値
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

Unassigned Cost (UnAsgnCost)

アカウントから渡されていないコスト(計算値)。

Unassigned Cost は、次の式に従って計算されます。

$$\text{Unassigned Cost} = \text{Cost} - \text{Assigned Cost}$$

表 59.79 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [Assigned Cost \(608 ページ\)](#)
- [Unassigned Quantity \(648 ページ\)](#)

Unassigned Quantity (UnAsgnQty)

アカウントの外向きの割り当てにコストを発生させていないドライバ量ユニット数。

Unassigned Quantity は、次の式に従って計算されます。

$$\text{UnassignedQty} = (\text{OutputQty} - \text{UsedQty} + \text{UnassignedIdleQty})$$

表 59.80 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

- [Unassigned Cost \(648 ページ\)](#)

Unique Driver Quantities (UniqDvrQty)

ドライバ量が他のアカウントからの割り当てと共有されないかどうかを示します。

表 59.81 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

Unit Cost (UnitCost)

ユニットのコスト(計算値)。次の式に従って計算されます。

`UnitCost = IF ExternalUnit THEN UnitCostEntered ELSE DrivableCost/OutputQty`

および

`OutputQty = IF OutputQtyUE is not null THEN OutputQtyUE ELSE UsedQty`

結果:

`UnitCost = IF ExternalUnit THEN UnitCostEntered ELSE DrivableCost/UsedQty`

注:

`DrivableCost = Cost - AllocatedCost`

ユニットコストは、売上コストと外部ビルオブコストの割り当てに使用されます。

表 59.82 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

Unit Of Measure (UoM)

アカウントの出力に指定されているユーザー入力のメジャーの単位名。

表 59.83 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

Unit Profit (UnitProfit)

売上ユニットの利益(計算値)。

この値は変更できません。次の式に従って計算されます。

$\text{UnitProfit} = \text{Profit} / \text{OutputQty}$

および

$\text{OutputQty} = \text{IF OutputQtyUE is not null THEN OutputQtyUE ELSE UsedQty}$

結果:

$\text{UnitProfit} = \text{IF OutputQtyUE is not null THEN Profit/OutputQtyUE ELSE Profit/UsedQty}$

表 59.84 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

関連項目:

- [Unit Cost \(649 ページ\)](#)
- [Unit Revenue \(650 ページ\)](#)

Unit Revenue (UnitRevenue)

売上ユニットの収益(計算値)。

この値は変更できません。次の式に従って計算されます。

$\text{UnitRevenue} = \text{Revenue} / \text{OutputQty}$

および

OutputQty = IF OutputQtyUE is not null THEN OutputQtyUE ELSE UsedQty

結果:

UnitRevenue = IF OutputQtyUE is not null THEN Revenue/OutputQtyUE ELSE Revenue/UsedQty

表 59.85 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
列レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	アカウント

関連項目:

- [Unit Cost \(649 ページ\)](#)
- [Unit Profit \(650 ページ\)](#)

Use Fixed Quantities (UseFixQty)

割り当て元アカウントが固定量ドライバを使用する割り当てにおいて、Driver Quantity Fixed が編集可能であることを示します。

表 59.86 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

関連項目:

- [Use Variable Quantities \(651 ページ\)](#)
- [Use Weighted Quantities \(652 ページ\)](#)

Use Variable Quantities (UseVarQty)

割り当て元アカウントが変動量ドライバを使用する割り当てにおいて、Driver Quantity Variable が編集可能であることを示します。

表 59.87 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

関連項目:

- [Use Fixed Quantities \(651 ページ\)](#)
- [Use Weighted Quantities \(652 ページ\)](#)

Use Weighted Quantities (UseWeightedQty)

割り当て元アカウントが重み付き量ドライバを使用する割り当てにおいて、Driver Weight Fixed と Driver Weight Variable の値が編集可能かどうかを示します。

表 59.88 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる指定可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	ドライバ

関連項目:

- [Use Fixed Quantities \(651 ページ\)](#)
- [Use Variable Quantities \(651 ページ\)](#)

Used Cost (UsedCost)

アカウントの外向きのドライバ量と売上量に対する使用コスト(計算値)。

Used Cost は、次の式に従って計算されます。

$$\text{Used Cost} = \text{UsedQty} * \text{Driver Rate}$$

表 59.89 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	通貨
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

関連項目:

[Used Quantity \(653 ページ\)](#)

Used Quantity (UsedQty)

アカウントの外向きのドライバ量と売上量(計算値)。

Used Quantity は、次の式に従って計算されます。

$$\text{UsedQty} = (\text{TDQCalc} + \text{SoldQty})$$

表 59.90 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	システムによって計算
レイアウトのデフォルト出力形式:	数値
データの種類:	8 バイトの浮動小数点数
割り当てペインでのプロパティの種類:	外向き

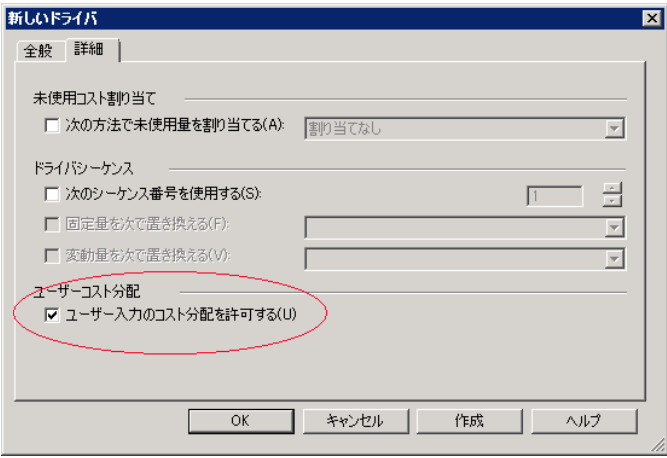
関連項目:

[Used Cost \(652 ページ\)](#)

User-Entered Cost Allocation

割り当て元アカウントがユーザー入力のコスト分配ドライバを使用する割り当てにおいて、ユーザー入力のコスト分配値(Driver Allocated Cost)が編集可能かどうかを示します。

このプロパティを有効にするには、新しいドライバウィンドウの詳細タブのユーザー入力のコスト分配を許可するチェックボックスを選択します。



このプロパティは、ドライバページの UECostAllocation に表示されます。

	DrvName	DrvType	UniqDvrQty	UseFixQty	UseVarQty	UseWeightedQty	UECostAllocation
日	ドライバ						

表 59.91 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる変更可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	チェックボックス
データの種類:	ブール値
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

Variable Driver Quantity Override

次のシーケンスパス以降の Driver Quantity Variable の値を置換する、シーケンスドライバのプロパティ名。

表 59.92 プロパティに関する全般情報

システム生成/ユーザー入力	ユーザーによる変更可能(ただし列レイアウト内は除く)
列レイアウトのデフォルト出力形式:	テキスト
データの種類:	64 文字までの英数字 Unicode です。
割り当てペインでのプロパティの種類:	N/A

モデルデータをインポートまたはエクスポートする場合、この値は CHAR、NCHAR、VARCHAR、NVARCHAR のいずれかに変換する必要があります。

関連項目:

- [“ドライバシーケンス” \(295 ページ\)](#)
- [Fixed Driver Quantity Override \(627 ページ\)](#)

キーワード

&

&関数(連結) [349](#)

A

ABC プロシジャ [467](#)

abs 関数 [345](#)

Allocated Cost (AllocCost) [607](#)

Assigned Cost (AsgnCost) [608](#)

Assigned Idle Cost (AsgnIdleCost) [609](#)

Assigned Idle Quantity (AsgnIdleQty) [609](#)

Assigned Non Reciprocal Cost

(AsgnNRecipCost) [610](#)

Assigned Reciprocal Cost

(AsgnRecipCost) [610](#)

C

Calculate Error (CalcError) [611](#)

Cost (Cost) [611](#)

D

degrees 関数 [345](#)

Dimension Level Name (DimLevelName)
[612](#)

Dimension Level Number
(DimLevelNum) [612](#)

Dimension Member Name
(DimMemName) [613](#)

Dimension Member Reference
(DimMemRef) [613](#)

Dimension Name (DimName) [614](#)

Dimension Reference (DimRef) [614](#)

Display Name (Display Name) [615](#)

Display Reference (Display Reference)
[615](#)

Drivable Cost (DrvblCost) [616](#)

Driven Cost (DrvnCost) [616](#)

Driven Quantity (DrvnQty) [617](#)

Driver Allocated Cost (DrvAllocCost)
[617](#)

Driver Cost (DrvCost) [618](#)

Driver Driven Cost (DrvDrvnCost) [618](#)

Driver Driven Quantity (DrvDrvnQty)
[619](#)

Driver Formula (DrvFormula) [620](#)

Driver Idle Cost (DrvIdleCost) [620](#)

Driver Percentage (DrvPcnt) [621](#)

Driver Quantity Basic (DrvQtyBasic) [621](#)

Driver Quantity Calculated (DrvQtyCalc)
[622](#)

Driver Quantity Fixed (DQF) [623](#)

Driver Quantity Variable (DQV) [623](#)

Driver Rate (DrvRate) [624](#)

Driver Sequence Number (DrvSeq) [624](#)

Driver Type (DrvType) [625](#)

Driver Used Cost (DrvUsedCost) [625](#)

Driver Weight Fixed (DWF) [626](#)

Driver Weight Variable (DWV) [626](#)

E

Entered Cost (EntCost) [627](#)

exp 関数 [346](#)

F

find 関数 [349](#)

Fixed Driver Quantity Override [627](#)

Formula [628](#)

H

Has Assignments (HasAsgn) [628](#)

Has Attributes (HasAttr) [628](#)

Has BOC (HasBOC) [629](#)

Has Entered Cost (HasEntCost) [629](#)

Has Idle Cost (HasIdleCost) [630](#)

Has Notes (HasNotes) [630](#)

Has Used Cost (HasUsedCost) [630](#)

HasAttribute 関数 341

I

Idle Cost (IdlCost) 631
 Idle Driver Quantity (IdlDrvQty) 632
 Idle Driver Quantity UE (IdlQtyEU) 632
 Idle Flow Method (IdleFlow) 633
 Idle Percentage (IdlPcnt) 634
 Idle Quantity (IdlQty) 634
 If 関数 342
 Information Map 513, 515
 Intersection Name (IntsctnName) 635
 Intersection Reference (IntsctnRef) 635
 IsChildOf 関数 342
 IsClose 関数 343
 IsNull 関数 344

J

JAWS Graphics Labeler 45

L

left 関数 350
 len 関数 350

M

Match 関数 344
 max 関数 346
 Metadata Server オプション 515
 Metadata の登録ダイアログボックス 515
 Metadata の登録(Information Map の作成) 515
 mid 関数 350
 min 関数 346
 Module Type (ModType) 636

N

Name (Name) 636

O

OLAP
 OLAP ウィンドウの表示設定の変更 456
 OLAP ビューの作成 456
 OLAP ビューをビューが開かれた状態から開く 457
 OLAP ビューをビューが開かれていない状態から開く 456
 OLAP モード 447
 SAS OLAP Analyzer の使用 455
 Output Quantity (OutQty) 637

Output Quantity UE(OutQtyUE) 637

P

Parcel Express Tutorial (運送業チュートリアル) 8
 Periodic Note (PerNote) 637
 pi 関数 346
 power 関数 347
 Profit (Profit) 638
 Profitability Management
 概要 519
 ビヘイビアのパブリッシュ 519

Q

quotient 関数 347

R

radians 関数 347
 Received Allocated Cost (RcvAllocCost) 638
 Received Assignment Cost (RcvAsgnCost) 639
 Received BOC Cost (RcvBOCCost) 640
 Received Cost (RcvCost) 641
 Received Driven Cost (RcvDrvnCost) 642
 Received Idle Cost (RcvIdlCost) 642
 Received Non Reciprocal Cost (RcvNRecipCost) 643
 Received Reciprocal Cost (RcvRecipCost) 643
 Received Used Cost (RcvUcost) 643
 Reference (Reference) 644
 Revenue (Revenue) 644
 right 関数 351
 round 関数 347

S

SAS OLAP Analyzer
 キューブオプション 375
 制約 452
 全般情報 455
 SAS Profitability Management
 概要 519
 ビヘイビアのパブリッシュ 519
 SAS Strategy Management 523
 パフォーマンス メジャーのパブリッシュダイアログボックス 533
 パフォーマンスメジャー 532
 SASHome 55
 sassw.config 55
 sign 関数 348

Sold Quantity (SoldQty) 645
 SQL Server Analysis Services 378
 sqrt 関数 348
 Strategy Management 523
 パフォーマンス メジャーのパブリッシュ
 ダイアログボックス 533
 パフォーマンスメジャー 532
 str 関数 351

T

TDQ, 独立した TDQ 300
 Total Driver Quantity (TDQ) 645
 Total Driver Quantity Basic (TDQBasic)
 646
 Total Driver Quantity Calculated
 (TDQCalc) 646
 Total Driver Quantity UE (TDQUE) 647
 trim 関数 351
 trunc 関数 348
 Tutorial (チュートリアル), Parcel Express
 (運送業) 8
 Type (Type) 647

U

Unassigned Cost (UnAsgnCost) 648
 Unassigned Quantity (UnAsgnQty) 648
 Unique Driver Quantities (UniqDvrQty)
 649
 Unit Cost (UnitCost) 649
 Unit Of Measure (UoM) 649
 Unit Profit (UnitProfit) 650
 Unit Revenue (UnitRevenue) 650
 Use Fixed Quantities (UseFixQty) 651
 Use Variable Quantities (UseVarQty) 651
 Use Weighted Quantities
 (UseWeightedQty) 652
 Used Cost (UsedCost) 652
 Used Quantity (UsedQty) 653
 User-Entered Cost Allocation 653

V

value 関数 351
 Variable Driver Quantity Override 654

あ

アイコン 34
 アカウント
 アカウント検索クエリの保存 166
 アカウントへ移動 168
 モジュールビューでのすべてのレベル
 の展開 168

割り当て元アカウントと割り当て先ア
 カウントの表示 320
 アカウントマップ 513
 インターフェイスのカスタマイズ 575
 インポート
 OLAP ビュー 501
 キューブ設定 487
 モデル 471, 472
 列のレイアウト 489
 エクスポート
 OLAP ビュー 502
 キューブ設定 487
 モデル 476
 列のレイアウト 489
 レポート 566

か

ガイドライン
 アカウントの作成 17
 アクティビティモジュールの作成 5
 外部ユニットモジュールの作成 8
 コストオブジェクトモジュールの作成 7
 モジュールの作成 14
 モデル構造の作成 11
 リソースモジュールの作成 4
 割り当ての作成 19
 活動基準原価計算 3
 関数 325
 関数, 数値
 abs 345
 degrees 345
 exp 346
 max 346
 min 346
 pi 346
 power 347
 quotient 347
 radians 347
 round 347
 sign 348
 sqrt 348
 trunc 348
 関数, ブール値
 HasAttribute 341
 if 342
 IsChildOf 342
 IsClose 343
 IsNull 344
 Match 344
 関数, 文字列
 & (連結) 349
 find 349
 left 350
 len 350
 mid 350

- right 351
- str 351
- trim 351
- value 351
- 期間
 - 期間/シナリオ関連付けの作成 118
 - 期間/シナリオ関連付けのパブリッシュ 121
 - 期間/シナリオデータのコピー 120
 - 期間の作成 103
 - 期間レベル名の管理 104
 - 現在の期間/シナリオ関連付けの変更 120
- キューブ
 - インクリメンタルキューブ作成 435
 - 期間データのみインポート 435
 - キューブの権限の管理 440
 - キューブの内部名の表示 439
 - キューブへの数値属性の挿入 438
 - キューブまたはファクトテーブルの削除 440
 - 全般情報 431
- キューブ設定
 - 6.3 互換のマルチステージ貢献キューブのオプション 374
 - SAS OLAP Analyzer のオプション 375
 - SQL Server Analysis Services のオプション 378
 - カスタムマルチステージ貢献キューブのオプション 372
 - キューブに含めるディメンションメンバの選択 381
 - 作成 369
 - 数値属性の選択 378
 - 全般オプション 370
- 権限 49
 - グループ権限 50
 - 所有者の変更 51
- 貢献クエリ
 - PROC ABC ステートメントの取得 467
 - アクティビティモジュール経由 464
 - 全般情報 461
 - ドリルダウン 466
 - リソースからアクティビティモジュールへ 465
 - リソースからコストオブジェクトへ 463
- 貢献ワークスペース
 - PROC ABC ステートメントの取得 467
 - アクティビティモジュール経由 464
 - 全般情報 461
 - ドリルダウン 466
 - リソースからアクティビティモジュールへ 465
 - リソースからコストオブジェクトへ 463
- 更新 57
- コストエレメント, 作成
 - アカウント作成時 180
 - モジュールページ 181
- コストエレメント, 種類
 - 外部ユニット 180
 - 内部ユニット 180
 - 入力 179
 - 割り当て 180
- コストの計算, 例
 - 重み付きドライバと固定ドライバ量、変動ドライバ量の使用 405
 - 重み付きドライバ量と固定ドライバ量の使用 404
 - 重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用 399
 - 詳細例 409
 - 非重み付きドライバ量と変動ドライバ量の使用 392
 - 未使用フロー 405
- コストの計算(計算) 387
 - 独立した TDQ 300
- さ
 - サーバータスクのキャンセル 58
- 式
 - 演算子の優先順位 337
 - 関数 325
 - 計算機能の拡張 331
 - 式内で使用可能なプロパティ 353
 - 式のコンテキスト 326
 - 式の数値属性 334
 - 全般情報 324
 - トラブルシューティング 335
- シナリオ
 - シナリオの作成 111
 - シナリオレベル名の管理 113
- ショートカット 29
- ショートカットキー 32
- 所有者, 変更 51
- セッション, 複数 58
- 関連レポート 549
- 相互配賦原価計算 303
- 属性, 種類
 - 計算 188
 - 数値 187
 - ステージ 189
 - タグ(ブール値) 188
 - ディメンション, ディメンションメンバ 186
 - テキスト 189
- 属性, 操作
 - アカウントからの削除 197
 - アカウントへのステージ属性の追加 196
 - アカウントへの追加 195
 - 値の指定 195

属性が指定されたアカウントの表示 197
 属性の作成 191
 属性フォルダの作成 194
 属性, ディメンションメンバ
 アカウントに適用 215
 全般説明 199
 ディメンションメンバからの属性の削除 213
 ディメンションメンバへの属性の割り当て 209

た

ダイアグラム, プロパティ
 コスト(経済的な世界) 597
 コストエレメントプロパティ 589
 相互配賦システム-アカウントプロパティ 591
 非相互配賦システム 587
 複合アカウントコストのプロパティ 595
 量 592

通貨

 為替レート 360
 為替レート表のコピー 362
 通貨の追加 361
 はじめに 359
 複数の通貨の設定 360
 データの保存 56
 ディメンション 128
 ディメンションおよびディメンションメンバ 127
 ディメンションメンバの作成 132
 ディメンションメンバの並べ替え 134
 ディメンションメンバ 129
 ディメンションレベル 128
 ドライバ, 種類
 売上 276
 重み付き 278
 基本 270
 均等割り当て 275
 計算 273
 ドライバの種類の比較 288
 パーセント 276
 ビルオブコスト 270
 ルールベース 280
 ドライバ, 全般情報
 一意の量と一意でない(共有)量 293
 固定, 変動, 重み付きドライバ量 290
 シーケンス 295
 相互配賦原価計算 303
 ドライバのガイドライン 19
 未使用量 298
 ユーザー入力のコスト分配 290
 ドライバ, 操作

アカウントのアイテムのプロパティを使用したドライバの関連付け 317
 重み付きドライバの重みの指定 314
 デフォルトドライバの指定 315
 ドライバの作成 311
 モジュールのグリッドでのドライバの関連付け 319
 割り当て先アカウントの表示 319
 割り当ての作成 316
 割り当て元アカウントと割り当て先アカウントの表示 320
 割り当て元アカウントの表示 319
 ドライバシーケンス 295

な

ナビゲーションペイン 24

は

パフォーマンス メジャーのパブリッシュデータログボックス 533
 パブリッシュ
 Information Map 513
 パフォーマンスメジャー(SAS Strategy Management) 533
 ビヘイビア(SAS Profitability Management) 519
 ビヘイビア(SAS Profitability Management) 519
 ファクトテーブル
 削除 440
 全般情報 432
 複数のセッション 58
 プロパティ
 アカウント 257
 外向き 254
 ドライバ 256
 内向き 255
 プロパティの種類の表 258
 割り当て 252
 プロパティダイアグラム
 コスト(経済的な世界) 597
 コストエレメントプロパティ 589
 コストの種類 600
 相互配賦システム-アカウントプロパティ 591
 ダイアグラムの見方 598
 非相互配賦システム 587
 複合アカウントコストのプロパティ 595
 量 592
 分析ワークスペース 445

ま

命名規則

- アカウント参照 86
- 外部ユニット 84
- 外部ユニット参照 86
- 期間 84
- 期間参照 86
- 期間レベル 85
- 共通 81
- シナリオ 85
- シナリオ参照 86
- シナリオレベル 85
- ステージ 85
- 属性 82
- 属性参照 86
- ディメンション 82
- ディメンション参照 86
- ディメンションメンバ 83
- ディメンションメンバ参照 86
- ディメンションレベル 82
- ドライバ 84
- 入力コストエレメント 84
- 入力コストエレメント参照 87
- モジュール 84
- ワークスペースアイテム 86
- モデル
 - インポート 471
 - モデルが開かれた状態からモデルを開く 75
 - モデルの作成 69
 - モデルモード 67
- モデルワークスペース 67
- よ
 - ユーザーオプション 575
- ら
 - 列のレイアウト
 - 他のモジュールへの列のレイアウトのコピー 244
 - 列の形式設定 235
 - 列の削除 234
 - 列の追加 232
 - 列の並べ替え 234
 - 列のレイアウトへのプロパティの追加 251
 - 列のレイアウト, 操作
 - 列の形式設定 234
 - レポート
 - エクスポート 566
 - パブリッシュ 571
 - レポートが開かれた状態からレポートを開く 565
 - レポートが開かれていない状態からレポートを開く 565
 - レポート設定の削除 572
 - レポート設定の変更 566
 - レポート設定の保存 566
 - レポートテンプレート 545
 - レポートの作成 561
 - レポートモード 540
 - ログオン 55
- わ
 - ワークスペースマネージャ 27, 30
 - 割り当て
 - アカウントへのドライバの関連付け 266
 - 割り当ての作成 316
 - 割り当てパス 263
 - 割り当てペイン 264
 - 割り当てペイン
 - 列のレイアウトへのプロパティの追加 251
 - 割り当て先アカウントの表示 319
 - 割り当て元アカウントと割り当て先アカウントの表示 320
 - 割り当て元アカウントの表示 319
 - 割り当てマップ 513
 - 割り当て用にアカウントを追加するダイアログボックス 266